

鹿児島県立埋蔵文化センター発掘調査報告書 60

JYOGAO

城ヶ庄遺跡 I

東九州自動車道基調(久留IC~久々島IC間)に沿う埋蔵文化発掘調査報告書 II
旧石器時代編

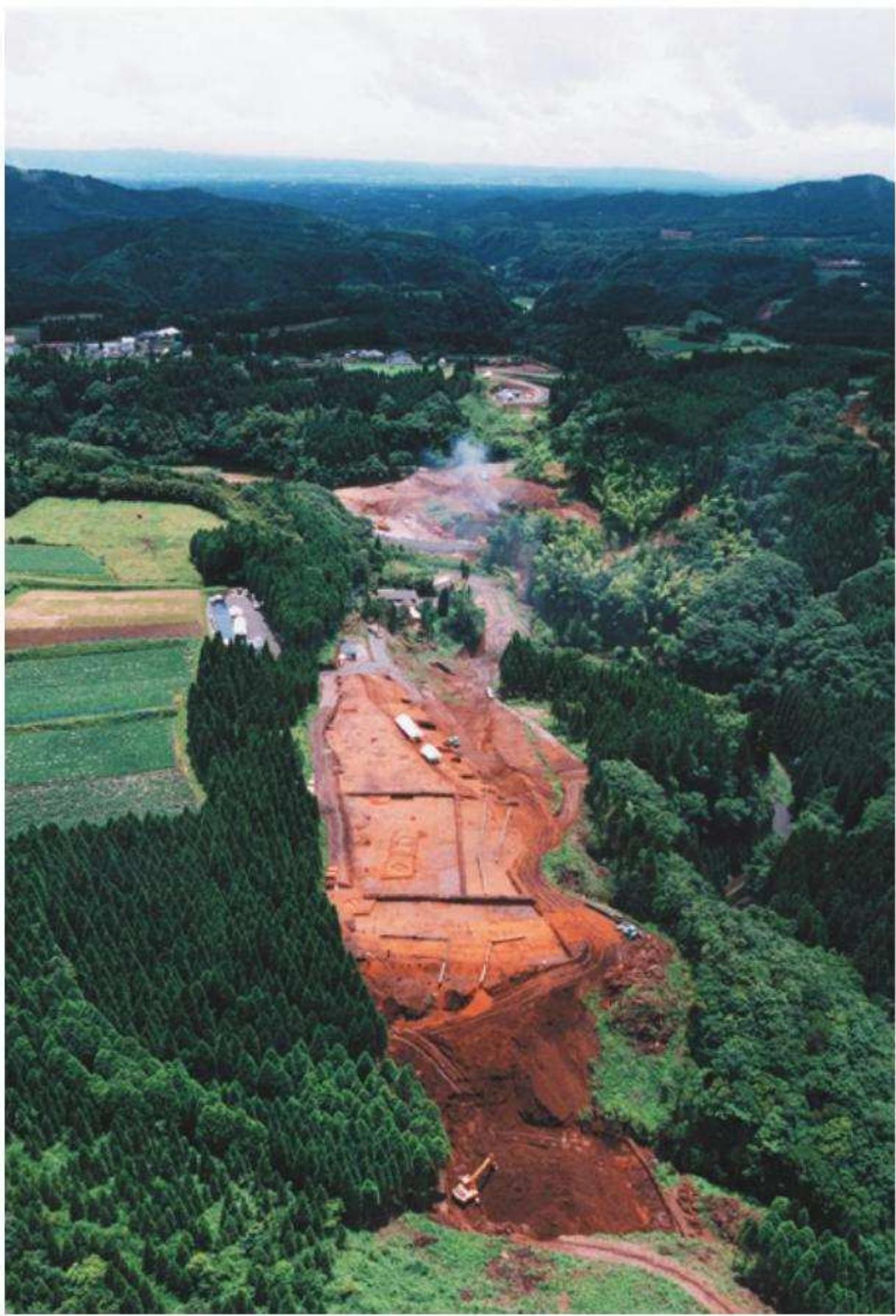
2003年3月

鹿児島県立埋蔵文化センター

(紙)

(合紙)

(合紙)



(印 紙)



(紙)



(紙)



(紙)

序 文

鹿児島県教育委員会では、東九州自動車道（大口IC～隼人IC間）の建設に伴い、平成8年度から埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

この報告書は、平成9年から平成11年にかけて発掘調査を行った、「城ヶ尾遺跡」の発掘調査報告書です。

城ヶ尾遺跡では、古器時代、縄文時代早期を中心とする遺構、遺物が出土し、多くの成果を収めました。特に縄文時代早期の遺物には、状況や、古器時代の豪群、ブロックのあり方は当地の生活を解明するうえで貴重な資料として注目されます。

本書は、東九州に住んだ彼らたちの歴史の一端を明らかにする貴重なデータを提供するものと存えております。マイクロの保護や学術研究のための資料として活用していただければ幸いです。

終わりに、調査にあたりまして御協力いただいた各道路公社・九州支社・鹿児島県警察署や関係者のみなならびに当時の皆様に心から感謝申し上げます。

平成15年3月

鹿児島県立埋蔵文化センター

所長　　大　二　明　文

序

- 1 この報告書は、東九州自動車道福岡IC～佐賀IC間に設けられた「城ヶ丘遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、佐賀道路公社九州支社が鹿児島県埋蔵文化財所の受託事業として、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 本報告書で用いたレベル数値はすべて海抜高である。
- 4 本報告書の遺物番号は各章または各箇ごとの通し番号とし、頭を、手、腰の番号と一致する。
- 5 発掘調査において福岡教育委員会の協力を得た。
- 6 発掘調査における実習および写真撮影は、調査担当者が行った。
- 7 遺構実測の一部は(株)君蔵マガジンサポートシステム、(株)エーテックに委託した。
- 8 遺構実測の一部は(株)エーテック、(株)九州マガジン研究所に委託し、その監修については長野研一郎。
- 9 本報告書の制作・整理事業にはデジタル技術を導入し、多層面の作成および編集に係るデータ整理は佐藤と有量が行った。
- 10 本報告書の編集は鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い、監修、有量が担当した。なお、各項目の執筆担当は以下の通りである。

第Ⅰ章 有量

第Ⅱ章 有量

第Ⅲ章

第1箇～第4箇

- 1 長野研一郎
- 2 有量
- 3 長野研一郎

第5箇

- 1 長野研一郎
- 2 長野研一郎

第Ⅳ章

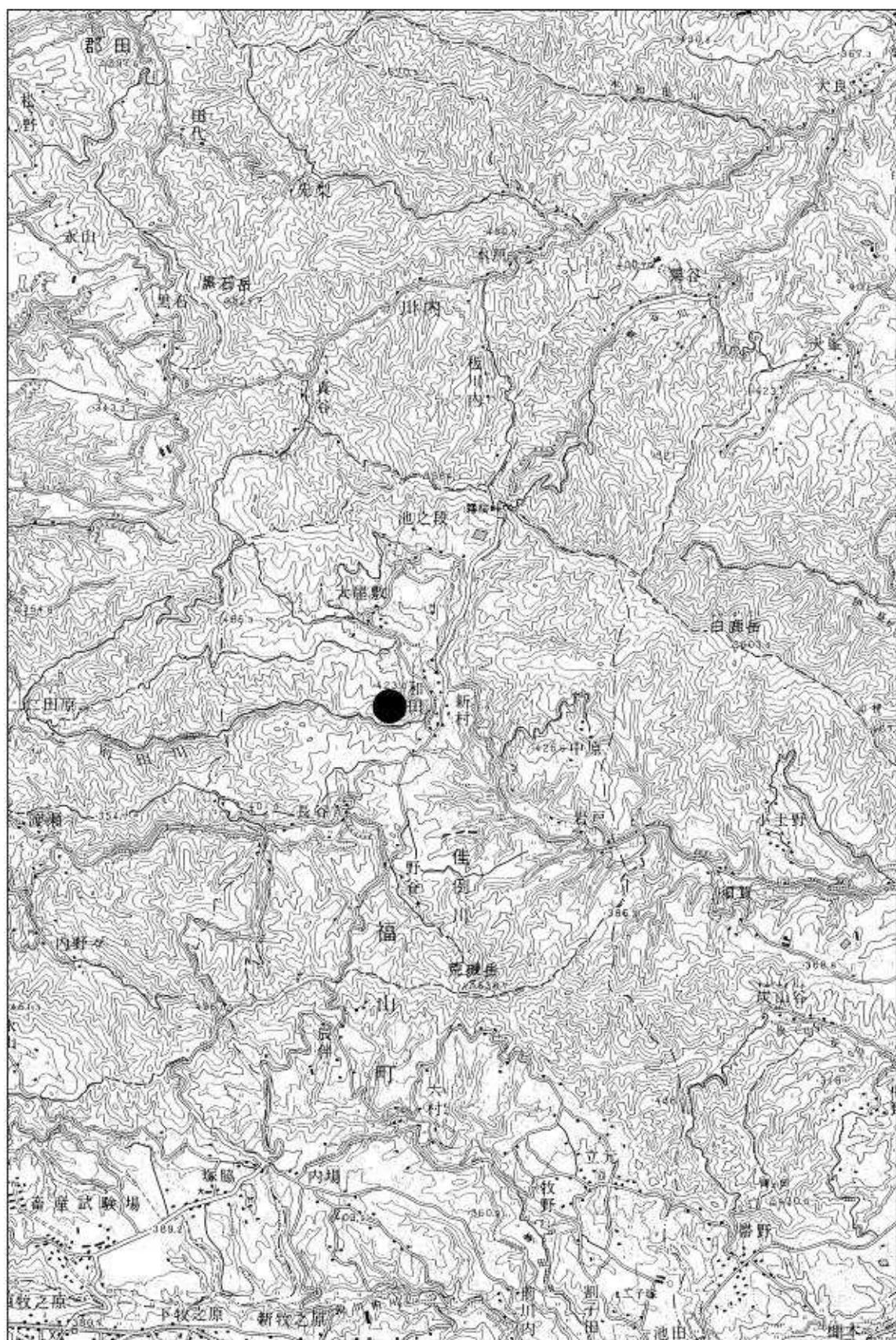
- 第1箇 長野研一郎
 - 第2箇 有量
 - 第3箇 横山伸也、丸崎進一郎、
長野研一郎
 - 第4箇 有量
- 第V章 有量
- 付録(1) 永瀬功治
- 第VI章 有量

言

- 10 退所に関する写真撮影は鶴見誠志、桜永修一、梅玉治二郎が行った。
- 11 弓ヶ丘遺跡に前代の伊豫市立、戸代潔定については(株)君蔵研究所に委託し、主査の植村正義が分析、(株)君蔵研究所の岩田信之が学年分析は(株)パリノ・サーヴェイに委託し、その分析結果報告書を付録に掲載した。
- 12 埋蔵遺物の縮尺は、主査については1/3、主器については1/1を基本とする。しかし、複数器等大型のものについてはこの限りではない。また、遺構については1/20を基本としたが、これについても大型の遺構についてはこの限りではない。各々、寸法に示したスケールを参考とされたい。
- 13 本報告書に掲載した日は退所、また、写真は鹿児島県立埋蔵文化財センターで撮影し、活用する。なお、本報告書に使用したデータの一部は鹿児島県立埋蔵文化財研究システムおよび君蔵マガジン情報データベース(<http://www.jomon-no-mori.jp>)で公開する予定である。

報 告 書 炒 錄

ふりがな	じょうがおいせき							
書名	城ヶ尾遺跡							
副書名	東京都立歴史道(大宮IC~多摩IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	II							
シリーズ名	成田市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	60							
編著者名	有馬洋一・高橋みどり・飯島伸吾・東輝雄一郎・長野和也							
編集機関	成田市立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4461 成田市佐分利二之里1175-1 TEL 0995-48-5811							
発行日	2003年3月31日							
ふりがな 所々遺跡名	ふりがな 所々名	コード		緯	経	測量期図	測量面積 (m ²)	測量起火
じょうがね 城ヶ尾	かごしまけん 成田市 あいらぐん 市 ふくやまちようかわがわ 梅ヶ野台 例川	古町村	遺跡番号	30° 42' 55"	130° 52' 49"	確認済み 19971001 19971021 未調査 19980506 19990331 19990506 19990709	9,100	東京都立歴史道 (大宮 IC~多摩 IC間) に伴う埋 蔵文化財 発掘調 査
所々遺跡名	種別	古な時代	古な遺構		古な遺物			特記事項
城ヶ尾	古墳	刀石器 楕円形創鉋 弓鉋 箭鉋 矛頭 石鏃	三重 二重 二重 二重 二重 二重 二重	鐵器 集落 二重環濠遺構 箭頭 矛頭 石鏃	三 複数 集落 箭頭 矛頭 石鏃	三 複数 箭頭 矛頭 石鏃	三 複数 箭頭 矛頭 石鏃	



遺跡の位置図

S = 1/50000

本 文 目 次

I 旧石器時代編

第Ⅰ章	舊石器時代の概要
第1節	遺跡にさるまでの経緯
第2節	遺跡の組織
第3節	発掘調査の概要と結果
第Ⅱ章	遺跡の性質と構造
第1節	先史的構造
第2節	歴史的構造
第3節	遺跡の階層
第Ⅲ章	アーチカルの調査
第1節	第Ⅰ～Ⅳ層の調査
1	遺跡の方法と概念
2	遺構
3	遺物
第2節	第Ⅱ～Ⅳ層の調査
1	遺跡の方法と概念
2	遺構
3	遺物
第3節	第Ⅲ～Ⅳ層の調査
1	遺跡の方法と概念
2	遺構
3	遺物
第4節	第Ⅳ～Ⅴ層の調査
1	遺跡の方法と概念
2	遺構
3	遺物
第5節	第Ⅴ～Ⅵ層の調査
1	遺跡の方法と概念
2	遺構

II 繩文・古墳時代編

第Ⅳ章	縄文時代の調査
第1節	遺跡の方法と概念
第2節	縄文時代の遺構
1	VII層の遺構
2	VI層の遺構
3	V層の遺構
4	V層の遺構
5	IV層の遺構
第3節	縄文時代の遺物
1	I類式器 単式式器
2	II類式器 A式式器
3	III類式器 B式式器
4	IV類式器 C式式器
5	V類式器 D式式器
6	VI類式器 E式式器
7	VII類式器 F式式器
8	VIII類式器 G式式器
9	IX類式器 H式式器
10	X類式器 I式式器
11	新野原縄文文化および其時代について
12	XI類式器 J式式器
13	XII類式器 K式式器
14	XIII類式器 L式式器
15	XIV類式器 M式式器
16	XV類式器 N式式器
第4章	縄文時代の遺器
1	VII層上部式器
2	VI～V層上部式器
3	V層下部式器
4	IV層下部式器
5	当頃の型式器
第Ⅴ章	古墳時代の調査
第1節	遺跡の方法と概念
第2節	古墳時代の遺構と遺物
第3節	古墳時代の遺物
付録	三ツ塚古墳の断面図
	桂ヶ丘風夢古墳の各段に亘るしたる全断面について
	桂ヶ丘風夢古墳の断面図の復元図
	桂ヶ丘風夢古墳の各段の次回形断面と代表図
	桂ヶ丘風夢の立派な土塁構造について
第VI章	まとめ

挿 図 目 次

第17回	構造部品	8
第27回	進歩と後退の歩み	9
第37回	建設部門と調査会とびグリッド配管	10
第47回	核燃料棒炉心部	11
第57回	上層断面炉心部(1)	11
第67回	上層断面炉心部(2)	12
第77回	上層断面炉心部(3)	13
第87回	上層断面炉心部(4)	14
第97回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す	16
第107回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(2)	17
第117回	第1マニホールドユニット配管(1)	18
第127回	第1マニホールドユニット配管(2)	19
第137回	第1マニホールドユニット配管(3)	20
第147回	第1マニホールドユニット第1エリア直角配管	20
第157回	第1マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	21
第167回	第1マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	22
第177回	第1マニホールドユニット第2エリア直角配管	23
第187回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(1)	24
第197回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(2)	25
第207回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(3)	26
第217回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(4)	27
第227回	第1マニホールドユニット第3エリア直角配管	28
第237回	第1マニホールドユニット第3エリアE1にモルタル注入	29
第247回	第1マニホールド接合状況	30
第257回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す	31
第267回	第1マニホールドユニット配管(1)	32
第277回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(1)	33
第287回	第1マニホールドユニット配管(2)	33
第297回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(2)	34
第307回	第1マニホールドユニット配管(3)	34
第317回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(3)	35
第327回	第1マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(4)	36
第337回	第1マニホールドユニット配管(4)	38
第347回	第1マニホールドユニット配管(5)	39
第357回	第1マニホールドユニット第1エリア直角配管	40
第367回	第1マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入	40
第377回	第1マニホールドユニット第2エリア直角配管	41
第387回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(1)	42
第397回	第1マニホールドユニット第2エリアE1にモルタル注入(2)	43
第407回	第1マニホールドユニット第3エリア直角配管	44
第417回	第1マニホールドユニット第3エリアE1にモルタル注入	45
第427回	第1マニホールドユニット第3エリアE1にモルタル注入(1)	46
第437回	第1マニホールドユニット第3エリアE1にモルタル注入(2)	47
第447回	第1マニホールドユニット第4エリア直角配管	48
第457回	第1マニホールドユニット第4エリアE1にモルタル注入	49
第467回	第1マニホールドユニット第4エリア直角配管	50
第477回	第1マニホールドユニット第4エリアE1にモルタル注入(2)	50
第487回	第1マニホールドユニット第5エリア直角配管	51
第497回	第1マニホールドユニット第5エリアE1にモルタル注入	51
第507回	第1マニホールドユニット第6エリア直角配管	52
第517回	第1マニホールドユニット第6エリアE1にモルタル注入	53
第527回	第1マニホールドユニット第6エリア直角配管	54
第537回	第1マニホールドユニット第7エリア直角配管	55
第547回	第1マニホールドユニット第7エリアE1にモルタル注入(1)	56
第557回	第1マニホールドユニット第7エリアE1にモルタル注入(2)	57
第567回	第1マニホールドユニット第8エリア直角配管	58
第577回	第1マニホールドユニット第8エリアE1にモルタル注入(1)	59
第587回	第1マニホールドユニット第8エリアE1にモルタル注入(2)	60
第597回	第1マニホールドユニット第8エリアE1にモルタル注入(3)	61
第607回	第1マニホールドユニット第9エリア直角配管	62
第617回	第1マニホールドユニット第9エリアE1にモルタル注入(1)	63
第627回	第1マニホールドユニット第9エリアE1にモルタル注入(2)	64
第637回	第1マニホールドユニット第9エリアE1にモルタル注入(3)	65
第647回	第1マニホールドユニット第10エリア直角配管	67
第657回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	68
第667回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	69
第677回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(3)	70
第687回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(4)	71
第697回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(5)	72
第707回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(6)	73
第717回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(7)	74
第727回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(8)	75
第737回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	77
第747回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	78
第757回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	79
第767回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(3)	80
第777回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(4)	81
第787回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(5)	82
第797回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	84
第807回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	85
第817回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入	86
第827回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	87
第837回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入	87
第847回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	88
第857回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	89
第867回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	90
第877回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	91
第887回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	92
第897回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	93
第907回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	94
第917回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(3)	95
第927回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(5)	96
第937回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(6)	97
第947回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	98
第957回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	100
第967回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(1)	101
第977回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	102
第987回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	103
第997回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	104
第1007回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入	105
第1017回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	106
第1027回	第2マニホールドユニット外エリアE1にモルタル注入	107
第1037回	第2マニホールドユニットモルタル注入	107
第1047回	第2マニホールド接合頭部(1)	109
第1057回	第2マニホールド接合頭部(1)	111
第1067回	第2マニホールド接合頭部(2)	112
第1077回	第2マニホールド接合頭部(3)	113
第1087回	第2マニホールド接合頭部(2)	115
第1097回	第2マニホールド接合頭部(4)	116
第1107回	第2マニホールド接合頭部(5)	117
第1117回	第2マニホールド接合頭部(6)	118
第1127回	第2マニホールド接合頭部(7)	119
第1137回	第2マニホールド接合頭部(8)	120
第1147回	第2マニホールド接合頭部(9)	121
第1157回	第2マニホールド接合頭部(10)	122
第1167回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す	123
第1177回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(1)	124
第1187回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(2)	125
第1197回	第2マニホールドユニット配管	125
第1207回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(3)	126
第1217回	第2マニホールドユニット配管	127
第1227回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(4)	128
第1237回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(5)	130
第1247回	第2マニホールドユニット配管をとび道橋に移す(6)	130
第1257回	第2マニホールドユニット第1エリア直角配管	131
第1267回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入	132
第1277回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(2)	133
第1287回	第2マニホールドユニット第1エリアE1にモルタル注入(3)	134

第129ナ	第III矢印版第2ユニット第2エリア最初Dに矢状先端 135	第196ナ	第IV矢印版第2ユニット最後Dに矢状先端(2) 202
第130ナ	第III矢印版第2ユニット第2エリアDに矢状先端 135	第197ナ	第IV矢印版第2ユニット(2) 204
第131ナ	第III矢印版第3ユニット第3エリア最初Dに矢状先端 136	第198ナ	第IV矢印版第1ブロック進路Dに矢状先端 205
第132ナ	第III矢印版第3ユニット第3エリアDに矢状先端(1) 137	第199ナ	第IV矢印版第1ブロックDに矢状先端(1) 205
第133ナ	第III矢印版第3ユニット第3エリアDに矢状先端(2) 138	第200ナ	第IV矢印版第1ブロックDに矢状先端(2) 206
第134ナ	第III矢印版第4ユニット第4エリア最初Dに矢状先端 139	第201ナ	第IV矢印版第2ブロック進路Dに矢状先端 207
第135ナ	第III矢印版第4ユニット第4エリアDに矢状先端 140	第202ナ	第IV矢印版第2ブロックDに矢状先端 207
第136ナ	第III矢印版第5ユニット第5エリアDに矢状先端 141	第203ナ	第IV矢印版第3ブロック進路Dに矢状先端 207
第137ナ	第III矢印版第5ユニット第5エリア最初Dに矢状先端 142	第204ナ	第IV矢印版第3ブロックDに矢状先端 208
第138ナ	第III矢印版第5ユニット第6エリア最初Dに矢状先端 143	第205ナ	第IV矢印版第4ブロック進路Dに矢状先端 210
第139ナ	第III矢印版第5ユニット第6エリアDに矢状先端(1) 144	第206ナ	第IV矢印版第4ブロックDに矢状先端 211
第140ナ	第III矢印版第5ユニット第6エリアDに矢状先端(2) 145	第207ナ	第IV矢印版第5ブロック進路Dに矢状先端 213
第141ナ	第III矢印版第5ユニット第6エリアDに矢状先端(3) 146	第208ナ	第IV矢印版第5ブロックDに矢状先端(1) 214
第142ナ	第III矢印版第5ユニット第6エリアDに矢状先端(4) 147	第209ナ	第IV矢印版第5ブロックDに矢状先端(2) 215
第143ナ	第III矢印版第5ユニット第7エリア最初Dに矢状先端 148	第210ナ	第IV矢印版第5ブロックDに矢状先端(3) 216
第144ナ	第III矢印版第5ユニット第7エリアDに矢状先端(1) 149	第211ナ	第IV矢印版第5ブロックDに矢状先端(4) 217
第145ナ	第III矢印版第5ユニット第7エリアDに矢状先端(2) 150	第212ナ	第IV矢印版第5ブロックDに矢状先端(5) 218
第146ナ	第III矢印版第5ユニット第8エリア最初Dに矢状先端 151	第213ナ	第IV矢印版第1エリア進路Dに矢状先端 220
第147ナ	第III矢印版第5ユニット第8エリアDに矢状先端 151	第214ナ	第IV矢印版第1エリアDに矢状先端(1) 221
第148ナ	第III矢印版第5ユニットエリア最初Dに矢状先端 152	第215ナ	第IV矢印版第1エリアDに矢状先端(2) 222
第149ナ	第III矢印版第6ユニット第9エリア最初Dに矢状先端 153	第216ナ	第IV矢印版エリア外ブロック外Dに矢状先端(1) 224
第150ナ	第III矢印版第6ユニット第9エリアDに矢状先端 154	第217ナ	第IV矢印版エリア外ブロック外Dに矢状先端(2) 225
第151ナ	第III矢印版第6ユニット第10エリア最初Dに矢状先端 155	第218ナ	第IV矢印版エリア外ブロック外Dに矢状先端(3) 226
第152ナ	第III矢印版第6ユニット第10エリアDに矢状先端 156	第219ナ	第IV矢印版エリア外ブロック外Dに矢状先端(4) 227
第153ナ	第III矢印版第6ユニット第11エリア最初Dに矢状先端 157	第220ナ	第IV矢印版複合進路矢頭 229
第154ナ	第III矢印版第6ユニット第11エリアDに矢状先端 157	第221ナ	第IV矢印版複合矢状先端 229
第155ナ	第III矢印版第6ユニット第12エリア最初Dに矢状先端 158	第222ナ	第V矢印版ユニット配当Dに矢横構造 230
第156ナ	第III矢印版第6ユニット第12エリアDに矢状先端 158	第223ナ	第V矢印版A沖Dに矢頭 231
第157ナ	第III矢印版第6ユニットエリア最初Dに矢状先端 158	第224ナ	第V矢印版A沖Dに矢頭(2) 232
第158ナ	第III矢印版第7ユニット第13エリア最初Dに矢状先端 159	第225ナ	第V矢印版第1ブロックDに矢状先端 233
第159ナ	第III矢印版第7ユニット第13エリアDに矢状先端 160	第226ナ	第V矢印版第1ブロック進路Dに矢状先端 234
第160ナ	第III矢印版第8ユニット第14エリア最初Dに矢状先端 161	第227ナ	第V矢印版B沖Dにブロック外Dに矢頭 235
第161ナ	第III矢印版第8ユニット第14エリアDに矢状先端(1) 162	第228ナ	第V矢印版B沖Dにブロック外Dに矢頭(2) 236
第162ナ	第III矢印版第8ユニット第14エリアDに矢状先端(2) 163	第229ナ	第V矢印版B沖Dにブロック外Dに矢頭(3) 237
第163ナ	第III矢印版第8ユニット第14エリアDに矢状先端(3) 164	第230ナ	第V矢印版B沖Dにブロック外Dに矢頭(4) 238
第164ナ	第III矢印版第8ユニット第14エリアDに矢状先端(4) 165	第231ナ	第V矢印版C沖Dに矢頭第1エリア進路Dに矢頭 239
第165ナ	第III矢印版第8ユニット第15エリア最初Dに矢状先端 167	第232ナ	第V矢印版C沖Dに矢頭(1) 240
第166ナ	第III矢印版第8ユニット第15エリアDに矢状先端(1) 168	第233ナ	第V矢印版C沖Dに矢頭(2) 241
第167ナ	第III矢印版第8ユニット第15エリアDに矢状先端(2) 169		
第168ナ	第III矢印版第8ユニット第15エリアDに矢状先端(3) 170		
第169ナ	第III矢印版第8ユニット第15エリアDに矢状先端(4) 171		
第170ナ	第III矢印版第8ユニットエリア最初Dに矢状先端 173		
第171ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリア最初Dに矢状先端 174		
第172ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(1) 175		
第173ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(2) 176		
第174ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(3) 177		
第175ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(4) 178		
第176ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(5) 179		
第177ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(6) 180		
第178ナ	第III矢印版第9ユニット第16エリアDに矢状先端(7) 181		
第179ナ	第III矢印版第9ユニット第17エリア最初Dに矢状先端 183		
第180ナ	第III矢印版第9ユニット第17エリアDに矢状先端 184		
第181ナ	第III矢印版第10ユニット第18エリア最初Dに矢状先端 185		
第182ナ	第III矢印版第10ユニット第18エリアDに矢状先端 185		
第183ナ	第III矢印版ユニット外エリア外Dに矢状先端(1) 187		
第184ナ	第III矢印版ユニット外エリア外Dに矢状先端(2) 188		
第185ナ	第III矢印版ユニット外エリア外Dに矢状先端(3) 189		
第186ナ	第III矢印版ユニット外エリア外Dに矢状先端(4) 190		
第187ナ	第III矢印版ユニット外エリア外Dに矢状先端(5) 191		
第188ナ	第III矢印版白Dに矢頭矢頭 192		
第189ナ	第III矢印版複合進路矢頭 193		
第190ナ	第III矢印版複合進路矢頭(1) 194		
第191ナ	第III矢印版複合進路矢頭(2) 195		
第192ナ	第III矢印版複合進路矢頭(3) 196		
第193ナ	第IV矢印版ユニット配当Dに矢横構造 198		
第194ナ	第IV矢印版複合配当Dに矢横集束Dに矢頭 199		
第195ナ	第IV矢印版進路矢頭 201		

表 目 次

第1号 進歩地図(1)	6
第2号 進歩地図(2)	7
第3号 第Iセクション第1ユニット第1エリア(1)を監視する	22
第4号 第Iセクション第1ユニット第2エリア(1)を監視する	28
第5号 第Iセクション第1ユニット第3エリア(1)を監視する	29
第6号 第IIセクション第1ユニット第1エリア(1)を監視する	40
第7号 第IIセクション第1ユニット第2エリア(1)を監視する	45
第8号 第IIセクション第1ユニット第3エリア(1)を監視する	48
第9号 第IIセクション第1ユニット第4エリア(1)を監視する	50
第10号 第IIセクション第5エリア(1)を監視する	51
第11号 第IIセクション第6エリア(1)を監視する	53
第12号 第IIセクション第7エリア(1)を監視する	54
第13号 第IIセクション第8エリア(1)を監視する	58
第14号 第IIセクション第9エリア(1)を監視する	62
第15号 第IIセクション第10エリア(1)を監視する	66
第16号 第IIセクション第11エリア(1)を監視する(1)	76
第17号 第IIセクション第11エリア(1)を監視する(2)	77
第18号 第IIセクション第12エリア(1)を監視する	83
第19号 第IIセクション第13エリア(1)を監視する	84
第20号 第IIセクション第14エリア(1)を監視する	86
第21号 第IIセクション第15エリア(1)を監視する	88
第22号 第IIセクション第16エリア(1)を監視する	90
第23号 第IIセクション第17エリア(1)を監視する(1)	98
第24号 第IIセクション第17エリア(1)を監視する(2)	100
第25号 第IIセクション第18エリア(1)を監視する(1)	104
第26号 第IIセクション第18エリア(1)を監视する(2)	105
第27号 第IIセクション第19エリア(1)を監視する	106
第28号 第IIセクション第20エリア(1)を監視する	106
第29号 第IIセクションユニット外エリア(1)を監視する	107
第30号 第IIIセクション(1)を監視する	107
第31号 第IIIセクション第1ユニット第1エリア(1)を監視する	135
第32号 第IIIセクション第2ユニット第2エリア(1)を監視する	135
第33号 第IIIセクション第3ユニット第3エリア(1)を監視する	138
第34号 第IIIセクション第4ユニット第4エリア(1)を監視する	140
第35号 第IIIセクション第5ユニット第5エリア(1)を監視する	142
第36号 第IIIセクション第6ユニット第6エリア(1)を監視する	148
第37号 第IIIセクション第7ユニット第7エリア(1)を監視する	150
第38号 第IIIセクション第8ユニット第8エリア(1)を監視する	151
第39号 第IIIセクション第9ユニット第9エリア(1)を監視する	152
第40号 第IIIセクション第10ユニット第10エリア(1)を監視する	154
第41号 第IIIセクション第11ユニット第11エリア(1)を監視する	156
第42号 第IIIセクション第12ユニット第12エリア(1)を監視する	157
第43号 第IIIセクション第13ユニット第13エリア(1)を監視する	158
第44号 第IIIセクション第14ユニット第14エリア(1)を監視する	158
第45号 第IIIセクション第15ユニット第15エリア(1)を監視する	160
第46号 第IIIセクション第16ユニット第16エリア(1)を監視する	166
第47号 第IIIセクション第17ユニット第17エリア(1)を監視する	172
第48号 第IIIセクション第18ユニット第18エリア(1)を監視する	173
第49号 第IIIセクション第19ユニット第19エリア(1)を監視する(1)	182
第50号 第IIIセクション第20ユニット第20エリア(1)を監視する(2)	183
第51号 第IIIセクション第21ユニット第21エリア(1)を監視する	184
第52号 第IIIセクション第22ユニット第22エリア(1)を監視する	186
第53号 第IIIセクションユニット外エリア(1)を監視する(1)	189
第54号 第IIIセクションユニット外エリア(1)を監视する(2)	192
第55号 第IIIセクション(2)を監視する	192
第56号 第IVセクション第1ブロック(1)を監視する	206
第57号 第IVセクション第2ブロック(1)を監視する	207
第58号 第IVセクション第3ブロック(1)を監視する(1)	209
第59号 第IVセクション第3ブロック(2)を監視する(2)	210
第60号 第IVセクション第4ブロック(1)を監視する	212
第61号 第IVセクション第5ブロック(1)を監視する(1)	219
第62号 第IVセクション第5ブロック(2)を監視する(2)	220
第63号 第IVセクション第6ブロック(1)を監視する	223
第64号 第IVセクション第6ブロック(2)を監視する	228

第1章 発端開設の経過

第1節 声評にかるまでの経過

リモ道路公団と州文を底尻高二重里跨所は、又ナ州生
直通(六言 IC～六言 IC間)の実験を計画し、更変空域の
沿蔵マド財の有無について、底尻高県教育委員会に問
合した。

これを受け、底尻高県教育委員会、リモ道路公団
と州文を底尻高二重里跨所、底尻高県沿蔵マド財セン
ターとの間で協議を行い、二重子定空域の沿蔵マド財
の分布調査を行うこととした。分布調査は平成6年10月
と平成7年5月に実施した。

その後、二重子定空域内に13か所の道跡歌和歌や
歌詞の必要な歌が存在することが印申した。そこで、
以後協議を行い、平成8年4月から日連署の条件が
整った空域を対象として、順次確認調査を実施すること
となつた。今後調査の確認調査は、平成9年10月1日から
10月21日の期間実施した。

確認調査の結果、古墳時代から江戸時代までの多段
にわたる複合遺跡であることが印申した。調査結果に基づき
追跡の取り扱いについて協議をすねた結果、発掘調
査を行い記録保存とすることとなり、約9,100m²を対象
とした調査を実施することとなつた。

本調査は、平成10年度、11年度の2か年間実施し、平
成10年5月6日～平成11年3月31日(実働196日間)、平
成11年5月6日～平成11年7月9日(実働44日間)の期間
で行った。

第2節 声評の組織

平成9年度 確認調査

主査者：リモ道路公団と州文を底尻高二重里跨所

調査者：底尻高県教育委員会

企画・調整：底尻高県教育局マド財課

調査責任者

次長実績課長 花崎 進
ヨビマド財主事実績課長 戸崎 陽洋
課長補佐美第一 調査係長 新丸 亮一
ヨビマド財主事美第二 調査係長 三浦 次郎

調査担当者

マド財歌和歌 香川 実一
マド財歌詞 武藤 陽介

主査担当者

主査：中島 敏裕
副査：政倉 実弘
監査ひとみ

平成10年度 声評

主査者：リモ道路公団と州文を底尻高二重里跨所

調査者：底尻高県教育委員会

企画・調整：底尻高県教育局マド財課

調査責任者

次長実績課長 花崎 進
ヨビマド財主事実績課長 戸崎 陽洋
課長補佐美第一 調査係長 新丸 亮一
ヨビマド財主事美第二 調査係長 三浦 次郎

調査担当者

マド財歌和歌 香川 実一
マド財歌詞 武藤 陽介
藤野 美久
小崎 克之
柳井 陽嗣
上原 真

主査担当者

主査：中島 敏裕
副査：政倉 実弘
監査：吉川

平成11年度 声評

主査者：リモ道路公団と州文を底尻高二重里跨所

調査者：底尻高県教育委員会

企画・調整：底尻高県教育局マド財課

調査責任者

次長実績課長 花崎 進
ヨビマド財主事実績課長 戸崎 陽洋
課長補佐美第一 調査係長 新丸 亮一
ヨビマド財主事美第二 調査係長 三浦 次郎
ヨビマド財主事 長野 勉一

調査担当者

マド財歌和歌 香川 実一
マド財歌詞 武藤 陽介
宇都 浩一
有川 実一

主査担当者

主査：中島 敏裕
副査：政倉 実弘
監査：吉川

平成12年度 報告書作成

重慶主担当 リク道公事文書文部省高工事重修所

作成主担当 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文部財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 ガト 明文

作成企画者

次長兼総務課長 黒木 文子

企画文部財政室長 新井 真一

課長補佐

企画文部財政室長第二課副係長 黒木 久志

企画文部財政室

企画文部財政室 第二課副係長 長野 勉

作成担当者

企画文部財政室 第二課副係長 ガト 明文

重修担当者

総務係長 有村 重

企画文部財政室 第二課副係長 東二 和己

企画文部財政室 第二課副係長 清川 信子

平成13年度 報告書作成

重慶主担当 リク道公事文書文部省高工事重修所

作成主担当 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文部財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 ガト 明文

作成企画者

次長兼総務課長 黒木 文子

企画文部財政室長 新井 真一

課長補佐

企画文部財政室長第二課副係長 黒木 久志

企画文部財政室

企画文部財政室 第二課副係長 長野 勉

作成担当者

企画文部財政室 第二課副係長 長野 勉

重修担当者

企画文部財政室 第二課副係長 ガト 明文

企画文部財政室 第二課副係長 東二 和己

平成14年度 報告書作成

重慶主担当 リク道公事文書文部省高工事重修所

作成主担当 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文部財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 ガト 明文

作成企画者

次長兼総務課長 ワタ 美雄

企画課長 新井 真一

調査課長補佐

企画文部財政室長第二課副係長 黒木 久志

企画文部財政室

企画文部財政室 第二課副係長 ガト 明文

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企

企</

わたる△調査では、計測路線センター点、STA. No. 90点とSTA. No. 90+20点を結んだ線を基準軸とし、10m間隔のマーカー(グリッド)を設置して調査を実施した。グリッドは東から西へ1, 2, 3…、北から南へA, B, C…、と並ぶこととし、グリッドはA-1号というようにアルファベットと数字を組み合わせた呼称とした。

調査の経過については、△記録をもってかえる。

9月度 調査記録

10月1日～10月21日

手走り、トレントレンチ(1T～3T)、墨りつけ、追跡取り上げ、追跡写真(集団写真)、二層断面写真、写真撮影、まとめし。

9月度 大調査

5月6日～5月28日

機械操作

B, C, D-4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、II層からVa層墨りつけ、追跡取り上げ。

D-5, 6号、追跡検討状況写真撮影、墨りつけ。

Vb層上部コンタクト作成。

C-7号、確認トレントレンチ、墨りつけ。

C-4, 5, 6号、△道時代巨岩壁墨りつけ。

6月1日～6月30日

A, B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、Via層～VII層墨りつけ、追跡取り上げ。

C, D, E-2, 3, 4, 5, 6, 7号、Va層～VII層墨りつけ。

B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、IX層上部コンタクト作成。

△道時代巨岩壁1号～3号墨りつけ、写真撮影、実測、集団写真状況写真撮影。ラジコンヘリによる空撮写真撮影。

7月1日～7月29日

B, C, D, E-2, 3, 4, 5, 6, 7号、Via層～IV層墨りつけ、追跡取り上げ。

F, G, H, I-8, 9, 10, 11号、VI層墨りつけ。

集団写真状況写真撮影、実測。△道検討状況写真撮影、実測。窓ノ伊式二器深鉆、串形二器日本状況写真撮影。

河川更地元△現地指導(7月8日)

上村海雄△現地指導(7月9日)

吉野中学校発掘実験学習。

8月3日～8月27日

B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、IX層～XIII層墨りつけ、追跡取り上げ。

B, C, D-2, 3, 4, 5, 6, 7号、Via層～VII層墨りつけ、追跡取り上げ。

集団写真状況写真撮影。集団写真状況写真撮影。△道墨りつけ、検討状況写真撮影。串形二器日本状況写真撮影。

財部町教育委員会発掘実験学習。

9月1日～9月29日

F-2, 3, 4号、VII層～IX層墨りつけ、Via層～VII層追跡

取り上げ。

A, B, C, D-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、XI層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。

C, D, E-18, 19, 20, 21, 22, 23, 24号、IV層～VI層墨りつけ、追跡日本状況写真撮影、追跡取り上げ。

E, F, G-4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、Va層～VI層墨りつけ。

A, B, C, D-11, 12号、二層断面写真。

二層墨りつけ、検討状況写真撮影。△道時代巨岩壁検討状況写真撮影、墨りつけ。

10月1日～10月30日

G-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14号、VI層墨りつけ。

D, E, F-16, 17, 18, 19, 20号、V層～VII層墨りつけ、追跡取り上げ。

C, D, E-20, 21, 22, 23, 24号、V層～VIII層墨りつけ、追跡取り上げ。

E, F, G-14, 15号、V層～VI層墨りつけ。

二層墨りつけ、実測。△道二器二層墨りつけ、実測。集団写真状況写真撮影。△道時代巨岩壁墨りつけ、検討状況写真撮影。ラジコンヘリによる空撮写真撮影。

11月4日～11月30日

D, E, F-16, 17, 18号、VII層～IX層墨りつけ、△道確認トレンチ墨りつけ、追跡取り上げ。

E, F, G-11, 12, 13, 14, 15号、VI層～VIII層墨りつけ、追跡取り上げ。IX層上部コンタクト作成。

G-13, 14, 15号、VI層～X層墨りつけ、追跡取り上げ。

D, E-22, 23, 24号、IV層～VII層墨りつけ、△道確認トレンチ墨りつけ、追跡取り上げ。

H, I, J-14, 15号、VI層～VIII層墨りつけ。

C, D-21, 22, 23号、X層～XII層墨りつけ、△道確認トレンチ墨りつけ、追跡取り上げ。

F, G, H-9, 10, 11号、X層、XI層墨りつけ。

△道時代巨岩壁墨りつけ。集団写真状況写真撮影、実測。

織笠暗元△現地指導(11月19, 20日)

12月1日～12月25日

E, F, G-12, 13, 14, 15号、XI層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。

E, F-15, 16, 17号、VI層～VII層墨りつけ、追跡取り上げ。X層上部コンタクト作成。

E-2, 3, 4, 5号、X層～XIII層墨りつけ。

D, E, F-2, 3号、IV層～VI層墨りつけ。

C, D-11, 12号、二層断面写真。△道二層、検討状況写真撮影、実測。硬壁、集団写真状況写真撮影。

1月5日～1月29日

F-2, 3, 4, 5号、V層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。

G-2, 3号、V層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。

H-2号、V層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。

F, G, H-13, 14, 15, 16号、XI層～XIV層墨りつけ、追跡取り上げ。XIV層上部コンタクト作成。

E, F-15, 16, 17^回, X脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。XIV脛上モコンタナ作成。

F, G-8, 9, 10, 11^回, VI脛～VII脛垂り下げ。

G, H, I, J-14, 15^回, X脛～XIII脛垂り下げ, 運勢入り上げ。

二足垂り下げ。実測。震群、足部二足検査状況写真撮影。実測。集計検査状況写真撮影。

2月12～2月26^日

F, G, H-8, 9, 10, 11, 12^回, VII脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。IX脛上モコンタナ作成。

H, I-14^回, XI脛～XIII脛垂り下げ, 運勢入り上げ。

G, H, I, J-13, 14, 15^回, VI脛～XII脛垂り下げ, 運勢入り上げ。XIV脛上モコンタナ作成。

G, H-9, 10^回, IX脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。

集計。震群検査状況写真撮影。実測。二足実測。

3月12～3月24^日

F, G, H-9, 10, 11, 12^回, X脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。XIV脛上モコンタナ作成。

G, H-14, 15^回, XI脛～XIV脛垂り下げ。

E-3, 4, 5^回, X, XI脛垂り下げ。

G, H-11, 12^回, VI脛～X脛垂り下げ。

B, C, D, E-3, 4, 5, 6, 7^回, XII脛～XIV脛垂り下げ。二足垂り下げ。検査状況写真撮影。実測。

B, C, D-2, 3^回, IX脛～XII脛垂り下げ。

G, H-11^回, 二足垂り下げ。

震群検査状況写真撮影。実測。四足器時代二足検査状況写真撮影。

現場至峰所後片付け

昭和11年度 大連

5月6日～5月28^日

発掘機械準備

B, C, D, E-2, 3, 4^回, X脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。XIV脛上モコンタナ作成。

C, D, E-4, 5, 6, 7^回, X脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。

B, C, D, E-8^回実測二足垂り下げ。

震群検査状況写真撮影。

6月1日～6月30^日

B, C, D, E-4, 5, 6, 7^回, X脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。運勢自己状況写真撮影。XIV脛上モコンタナ作成。

B, C, D, E-8^回実測二足垂り下げ。

震群検査状況写真撮影。実測。流紋岩ブロック自己状況写真撮影。四足器時代二足科学分析土壤サンプリング。走行入り。

7月1日～7月9^日

B, C, D-3, 4, 5, 6, 7^回, XII脛～XIV脛垂り下げ, 運勢入り上げ。運勢自己状況写真撮影。

B, C-4, 5, 6, 7^回, 二足確認トレンチ垂り下げ。

B, C, D-5, 6, 7^回, XIV脛上モコンタナ作成。

震群、四足器時代二足検査状況写真撮影。実測。土壠所後片付け。プレハブ撤去。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

猪ヶ丘遺跡は、鹿児島県姶良郡川辺町伊川ノ谷木野字猪ヶ丘に所在する。猪ヶ丘遺跡の所轄する猪ヶ丘町は鹿児島鶴見農部のやや北側に位置し、鹿児島鶴見の北側半分を占める姶良カルデラの東北側にあたる。又は曾於郡財部町、大口町、中は志内町、曾於郡都城町、大口は志内町に接し、北側は鹿児島鶴見に接している。鶴島東部から東に走る鹿臘山脈は西ひびき、北岳山、猪ヶ丘町大曾木野の若狭岳などを形成し、さらに東へ延びて鹿臘山で最高峰となる。牧之原盆地の北端へ広がる綾頬鉢シラス台地は曾於のナリ野を形成し、鹿児島鶴見と志布志湖を結ぶ。大淀川駅との合流点をなしている。大曾木野に源を発する崩田川は、北に流へし檜枝川と合流し鹿児島鶴見に注ぐ。また北にちかって流れる横内川は大淀川と合流して北洋へ注ぐ。南東方向に流れる亘伊川は巻川となり志布志湖に注ぐ。志大なる志内野をせめぎして町北部の海岸部田野は非常に多く、湊川、熊谷川、磯崎川などの河川が渓谷をなして鹿児島鶴見に注ぐ。

遺跡は、海抜300~400mの生力山麓の断層上に海岸部に沿る狹窄な海岸低地のつ湯地区、その北に位置する下陵低地・丘陵地の上湯地区に2つ型できる。またその後の上でもこの2種別は印象で、下り勾急18.7度で岸壁の高さが小さい海浜低地後ろのつ湯地区に對し、上湯地区では下り勾急15度で、冬場は40度を記録する事が40%ほどを数える。

猪ヶ丘遺跡が所在する猪ヶ丘町を猪ヶ丘町の北部に位置し、北に志内村、又に北岳村、南に若狭岳といった山々をもつて北に走まれた丸山地から東南東に延長する谷地・下陵部に位置している。猪ヶ丘遺跡は、この分水嶺北部の志内野へと緩やかに傾斜する谷地を崩田川が侵食し形成した沖積段丘上に位置する。

《参考文献》

- 1 猪ヶ丘町役場『猪ヶ丘郷土誌』1979年
- 2 茂門仁、塚田公彦『鹿児島県民誌』1995年

第2節 歴史的環境

猪ヶ丘遺跡の所轄する猪ヶ丘町は、高麗本邦整備事業等に伴う確認調査や一部で土耕作などが行われていたが、本格的な発掘調査は、末次州立歴史遺跡調査団がその起りとなった。本遺跡も末次州立歴史遺跡調査団による発掘調査の一環で、水磯、伝義之元、中原和也、遺跡若で調査を行っている。さらに、これに翌年する村松二重若で遺跡が発掘され、新たな発見を増長しつつある状況である。

第3節 時代

中原和也遺跡では、ナイフ形石器や骨頭の遺構、遺物が確認されている。遺構としては先根上に丸丸立ちに並んだ22基の墓壙が検出され、遺物としてはXVII世紀を主とする縦縫としたナイフ形石器や骨頭の分形石器、分形縫石器、サビ形ナイフ、XIII世紀に生息した骨頭を拾つナイフ形石器や骨頭のサビ形ナイフ、分形縫石器、三枚ナイフ、三枚尖頭器が出土した。水磯遺跡でも同じくナイフ形石器や骨頭の遺物が出土している。

第4節 時代

伝義之元遺跡では縦縫時代骨頭を主体とした遺構、遺物が確認されている。遺構としては、墓数が多く歌をする形態を示すタイプを含む20基の墓が検出された。また、単頭の落し穴状遺構が5基検出された。遺物としてはチャコ式土器、リ棒式土器、空ノ仲式土器、石鏟、石鋸、スクレイバー、磨石、石斧等の石器が出土している。空ノ仲式土器についてはP-IIを除んで3世から幾年かの空ノ仲式土器、上位から下位までの空ノ仲式土器が出土している。

中原和也遺跡では遺構として車輪鉄の落し穴状遺構2基、牛頭の落し穴状遺構1基、集落2基が検出されている。遺物としては加賀式土器、吉野式土器、チャコ式土器ほか多種の土器が出土している。

また大森若ではあるが、水磯遺跡からも縦縫時代と考えられる落し穴状遺構が多数検出されている。

第5節 時代

遺跡近辺ではほとんど見跡がない。中原和也遺跡、伝義之元遺跡では遺跡時代、ナセウの古道、溝状遺構が検出されている。

馬頭部まで上げてみると指津沖の猪ヶ丘遺跡で平安時代の指津栏塙跡が5基、遺構として土手留跡、甕、土器、土器、土器若が出土している。藤原源氏の遺跡ではアモボラ(1471年)にバックされた土器が検出されている。

《参考文献》

- 1 猪ヶ丘町役場『猪ヶ丘郷土誌』1979年
- 2 猪ヶ丘町教育委員会『新豚野遺跡・猪ヶ丘遺跡・藤原源氏の遺跡』1992年
- 3 猪ヶ丘町教育委員会『猪ヶ丘遺跡』1994年
- 4 猪ヶ丘町教育委員会『藤原源氏の遺跡』1997年
- 5 鹿児島県立岩倉マテセンター『ナリカ遺跡・伝義之元遺跡・中原和也遺跡』2002年

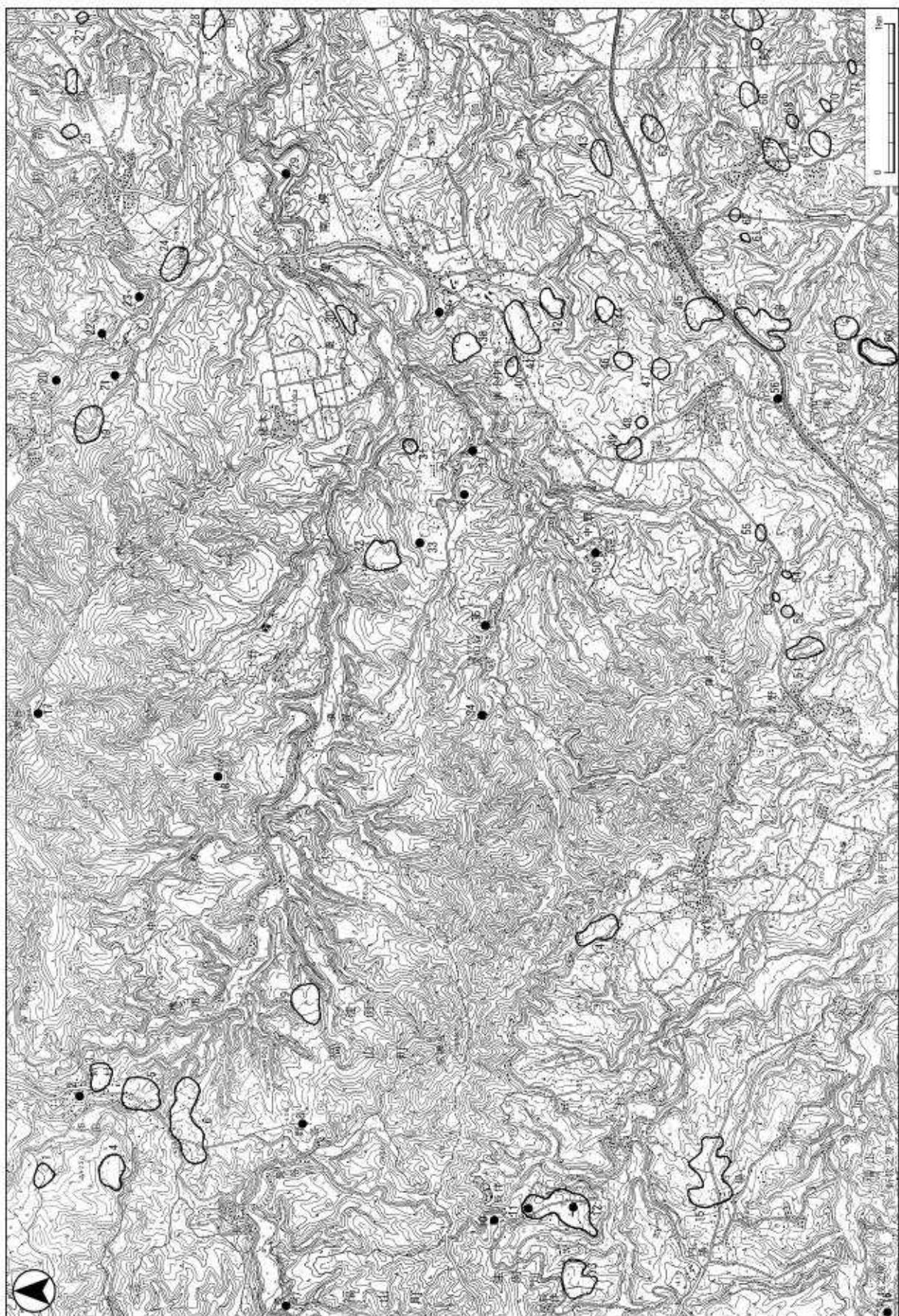
第1表 遺跡地名表(1)

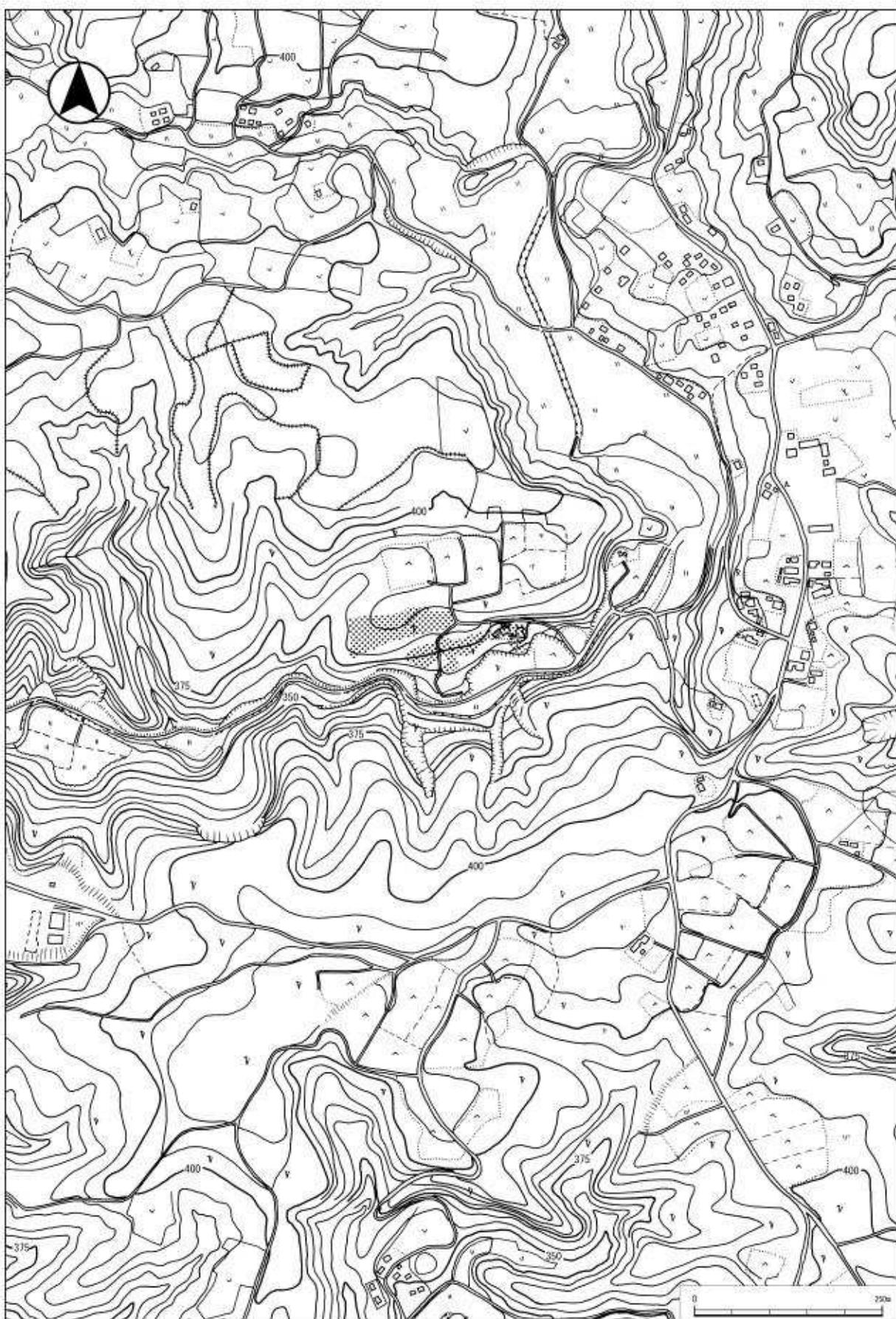
番号	遺跡名	所在地	発掘年	時代	遺物等	調査
1	小坂元A	梅ヶ丘町 市道木野口・小坂元		縄・古・弥	三器・成川式・三望器	
2	新村	# # 新村	合計	縄(4)	石器式	
3	草原	# # 草原	合計	縄・古・弥	三器・成川式・三望器	
4	城ヶ尾	# # 城ヶ尾	台地	旧・縄・古	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式	本報告書
5	草原和9	# # 草原和9	合計	4・縄(月)	ナイフ形石器・環型文	H14.3 調査
6	猿養之元	# # 猿養之元	合計	縄・古	家ノ神式・成川式	H14.3 調査
7	長谷	# # 長谷	合計	草	大型石斧	
8	野谷飛	# # 野谷飛		古・弥	成川式・三望器	
9	永磯	# # 永磯	合計	4・縄・弥	追加器・手ぬ二式・三望器	H15.3 調査
10	長住	梅ヶ丘町 音羽川 長住	合計	草	三器	
11	東ノ馬場	# # 東ノ馬場		縄	三器	
12	首ヶ9	# # 首ヶ9		縄	三器	
13	赤松塚	# # 赤松塚		縄	三器	
14	下細塚	# # 下細塚		縄	三望器	
15	上森	# # 上森	合計	縄(4・後)	四角式・着底二層式・堆積式	H10 調査
16	芦塚原	# # 芦塚原			須恵器	
17	2.朝霞弔	豊前町 中保 2.朝霞弔				
18	花立越原	# # 花立越原				
19	昌原	# # 昌原	合計	縄(4)・弥	環型文・滑製石斧・三望器	
20	松原	# # 松原	合計	弥	手足三望器	
21	飞原	# # 飞原	合計	弥	三望器	
22	柳原	# # 柳原	合計	縄(前~後)	轡式・奈良式・四角式・堆積式・石斧	
23	6.毛髪ケ谷	# # 毛髪ケ谷	合計	縄		
24	西原	# # 西原	合計	縄(4)・弥	環型文・三望器	
25	6.毛髪原	# # 毛髪原	合計	弥	三望器	
26	曾根	# # 曾根	合計	弥	三望器	
27	御品追B	# # 御品追	合計	弥		
28	2代ノ上	# # 2代ノ上	合計	縄・弥	三望器・須恵器	
29	久保谷	# # 久保谷	合計	弥	三望器	
30	人代二	# # 人代二	合計	縄(4・後)・弥	单形式・三望器	
31	高瀬沢	# # 高瀬沢	合計	縄(4)	单形式・手ぬ二式	H15.3 調査
32	高瀬	# # 高瀬	合計	古代	三望器・須恵器	H11~12 調査
33	大迫A	# # 大迫	合計	縄(4・单)	轡式・2.里	
34	南二谷	# # 南二谷	合計	縄・弥	石斧・三望器	
36	大迫B	# # 大迫	合計	弥	三望器	
37	月季原	# # 月季原	合計	縄(4・单)	环型文・家ノ神B式・チャート	
35	前	# # 前	合計	縄(後)・弥	堆積式・三望器	

第2表 遺跡地名表(2)

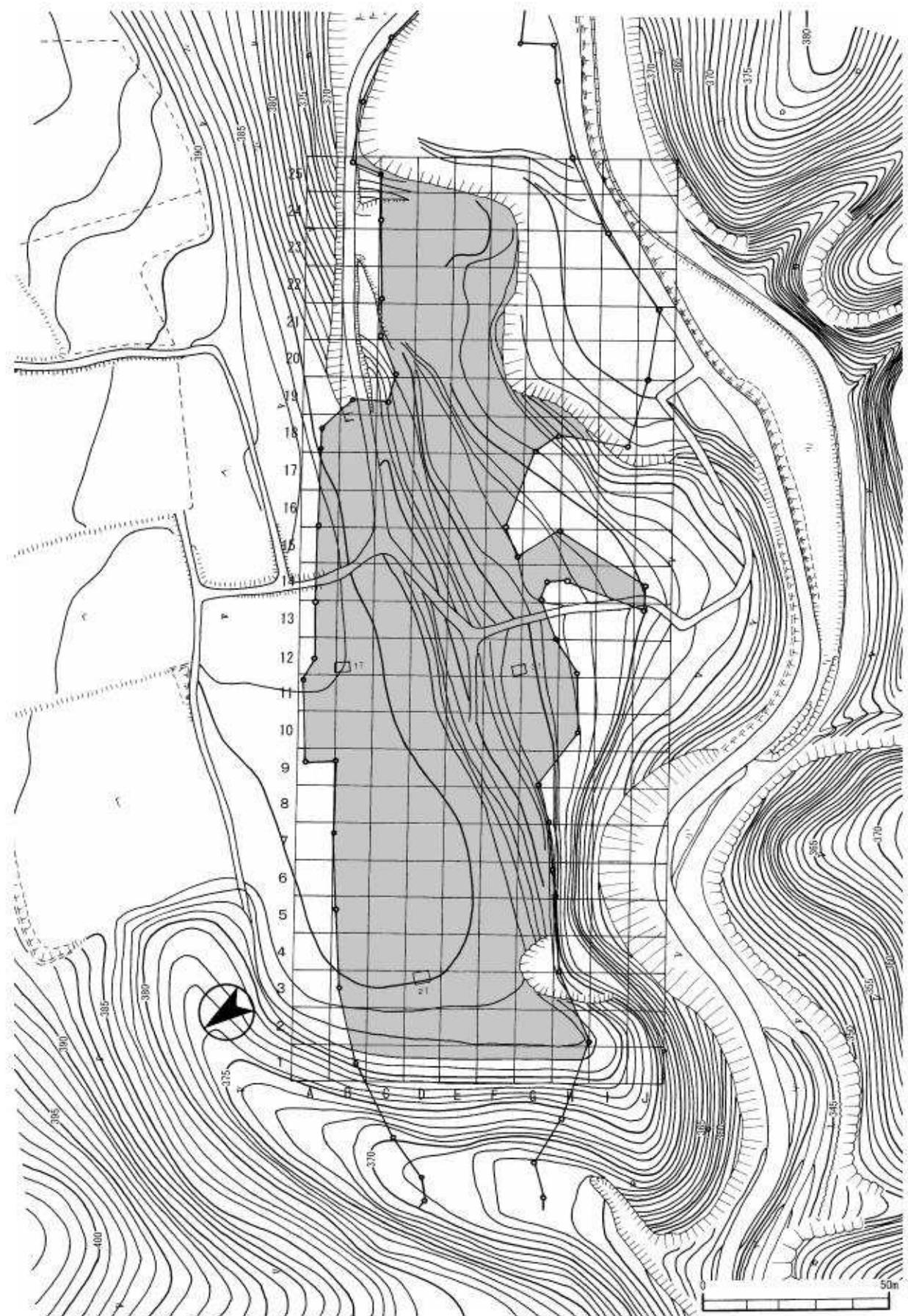
番号	遺跡名	所在場所	分類	時代	遺物等	備考
38	大養賓	〃 〃 大養賓	分類	II・III・IV	三輪式頭器、五輪式・三輪器	H11 調査
39	星之	〃 〃 星之	分類	IV(余戸)	三輪器、須恵器	
40	古川2号	〃 〃 古川2号	分類	III(瓦)・IV	馬鹿頭甲子器、三輪器	S61 調査
41	長屋(新井町)	〃 〃 長屋	分類	III・IV	三輪、三葉、三字器、須恵器、三管	S61 調査
42	鴨居	〃 〃 鴨居	分類	III(瓦)・IV	家ノ辺式、三輪器、須恵器	H12 調査
43	日平2号	〃 〃 日平2号	分類	IV	三輪器、須恵器	
44	大2号	〃 〃 大2号	分類	III(瓦)・IV	三輪式、馬川式、三輪器	H14.3 調査
45	五號	〃 〃 五號	分類	II・III・IV	ナイフ形器、六字式、三輪器、鐵鋸	H11～12 調査
46	車2号	〃 〃 車2号	分類	III(瓦)・IV	馬鹿頭甲子器、三輪器	
47	車1号	〃 〃 車1号	分類	IV	三輪器	
48	芭蕉ヶ辻2	〃 〃 芭蕉ヶ辻	分類	III(瓦)・IV	三輪、鐵鋸、三輪器	
49	芭蕉ヶ辻1	〃 〃 芭蕉ヶ辻	分類	III(瓦)・IV	三輪器、三輪器	
50	中2号	〃 〃 中2号	分類	IV	三輪器、須恵器	
51	長2号	〃 〃 長2号	分類	III(瓦)・IV	三輪、三輪器	
52	焼2号	〃 〃 焼2号	分類	III(瓦)・IV	三輪、三輪器	
53	荷風2号	〃 〃 荷風	分類	IV	三輪器	
54	人頭	〃 〃 人頭	分類	III(瓦)・IV	三輪、三輪器	
55	荷風1号	〃 〃 荷風	分類	IV	三輪器	
56	野2号	〃 〃 野2号	分類	III(瓦)・IV	三輪、三輪器、牛足三輪器	
57	梅木A	大曾根町 梅木	分類	II・III・IV	ナイフ形器、鶴丸式、三輪器	H9～13 調査
58	梅木B	〃 〃 梅木	分類	II・III・IV	家ノ辺式、深溝式、三輪器、瓦唇邊模	H12～13 調査
59	窓口2号	〃 〃 窓口2号	分類	III(瓦)・IV	三輪、三葉、三字器	H13 調査
60	窓口1号	〃 〃 窓口1号	分類	III(瓦)	三輪	H13 調査
61	通2号・川路	〃 深川町 通2号・川路	分類	III(瓦)・IV	陶器	S59 調査
62	東名2号	〃 〃 東名2号	分類	III(瓦)・IV	三輪	S59 調査
63	中2号	〃 〃 中2号	分類	III(瓦)・IV	三輪器	S61 調査
64	梅木青C	〃 〃 梅木青	分類	III(瓦)・IV	三輪器	S61 調査
65	梅木青B	〃 〃 梅木青	分類	III(瓦)・IV	三輪器	S61 調査
66	梅木青A	〃 〃 梅木青	分類	III(瓦)・IV	三輪器	S61 調査
67	山故	〃 〃 山故	分類			
68	飞ノ宿	〃 〃 飞ノ宿	分類	III(瓦)・IV	3管式、三輪器	
69	西校道	〃 〃 西校道	分類	III(瓦)・IV	三輪器	S61 調査
70	東故	〃 〃 東故	分類	IV	三輪器、須恵器	S60 調査
71	三毛深渡り2号	〃 〃 三毛深渡り2号	分類	III(瓦)	三形四型文	S60 調査

第1図 周辺遺跡地図





第2図 遺跡と周辺の地形

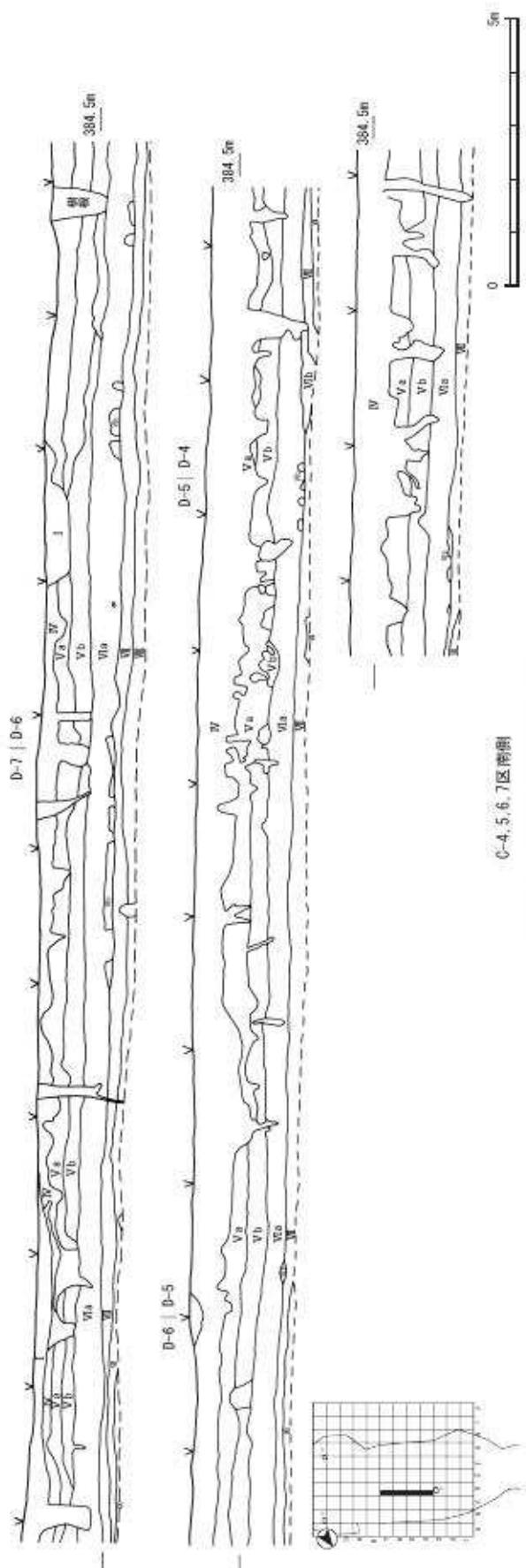


第3図 周辺地形と調査区及びグリッド配置図

第3章 遺跡の層位

- I層 喜び倉^ニ 現存^ニ
- II層 甲生倉堅^ニ P-3。アモボラ。丸印1471戸
先の塔島の墳古^ト。一部に残存。
- III層 黒^ニ 塔島^ニ 古墳時代の遺物^ト含^ミ層。
- IV層 黒^ニ 塔島^ニ 沈没^ミ砂質^ト。砂質^ト。約4,200
年前の表層^ト砂^トの墳古^ト。
- 島^トした上部で古墳時代、下部に鐵^トや時代重
複の遺物^トが付^シし、下部に堅^ミのピークが見
られる。
- Va層 喜び倉^ニ Vb層の堅^ミ。
- 鐵^トや時代前期の遺物^ト含^ミ層。
- Vb層 甲^ニ 塔島^ニ K-Ah 運輸アカホヤ^ト灰^ト。
約6300~6400戸 前の先^ニカルデラの墳古^ト。
- VIa層 喜び倉堅^ミ混^ミ塔島^ニ灰^ト。
- 鐵^トや時代中期の遺物^ト含^ミ層。
- VIb層 喜び倉堅^ミ層 P-11。
- 約7400戸 前の塔島の墳古^ト。
- VII層 甲^ニ 塔島^ニ 鐵^トや時代中期の遺物^ト含^ミ層。
- VIII層 黒^ニ 塔島^ニ 鐵^トや時代中期の遺物^ト含^ミ層。
- IX層 甲生倉^ニ灰^ト P-14。薩摩^ト灰^ト。
- 約11000戸 前の塔島の墳古^ト。
- X層 黒^ニ 塔島^ニ 鐵^トや車輪^トの遺物^ト含^ミ層。
- X I層 喜び倉堅^ミローム。
- ワ^ニ器^ト時代遺物^ト含^ミ層。
- X II層 伏^ニ塔島現^ミローム I
- ワ^ニ器^ト時代遺物^ト含^ミ層。
- X III層 喜び^ニ塔島現^ミローム II
- ワ^ニ器^ト時代遺物^ト含^ミ層。
- X IV層 伏^ニ塔島現^ミローム
- 三^ト層上部をび^ト部分
- 近に、少^トの瓦^トバミ^ト
スが点^トする。
- ワ^ニ器^ト時代遺物^ト含^ミ層。
- X V層 塔島現^ミローム
- X VI層 甲^ニ 塔島堅^ミ沙質^ト
シラスの二^ト次堆積^ト?
- X VII層 伏^ニ 塔島堅^ミ沙質^ト
シラスの二^ト次堆積^ト?
- X VIII層 色^ト堅^ミ甲^ニ 塔島^ニ砂質^ト
甲^ニ 塔島の大き^トな堅^ミの
混^ミがみられる。
- シラス層。約25,000~
28,000戸 前の先^ニカル
デラの墳古^ト。
- ※ P=バミス=堅^ミ。
塔島の墳古^トに新しいものから
順に番号^ト付^シしている。

第4図 城ヶ尾遺跡標準土層図

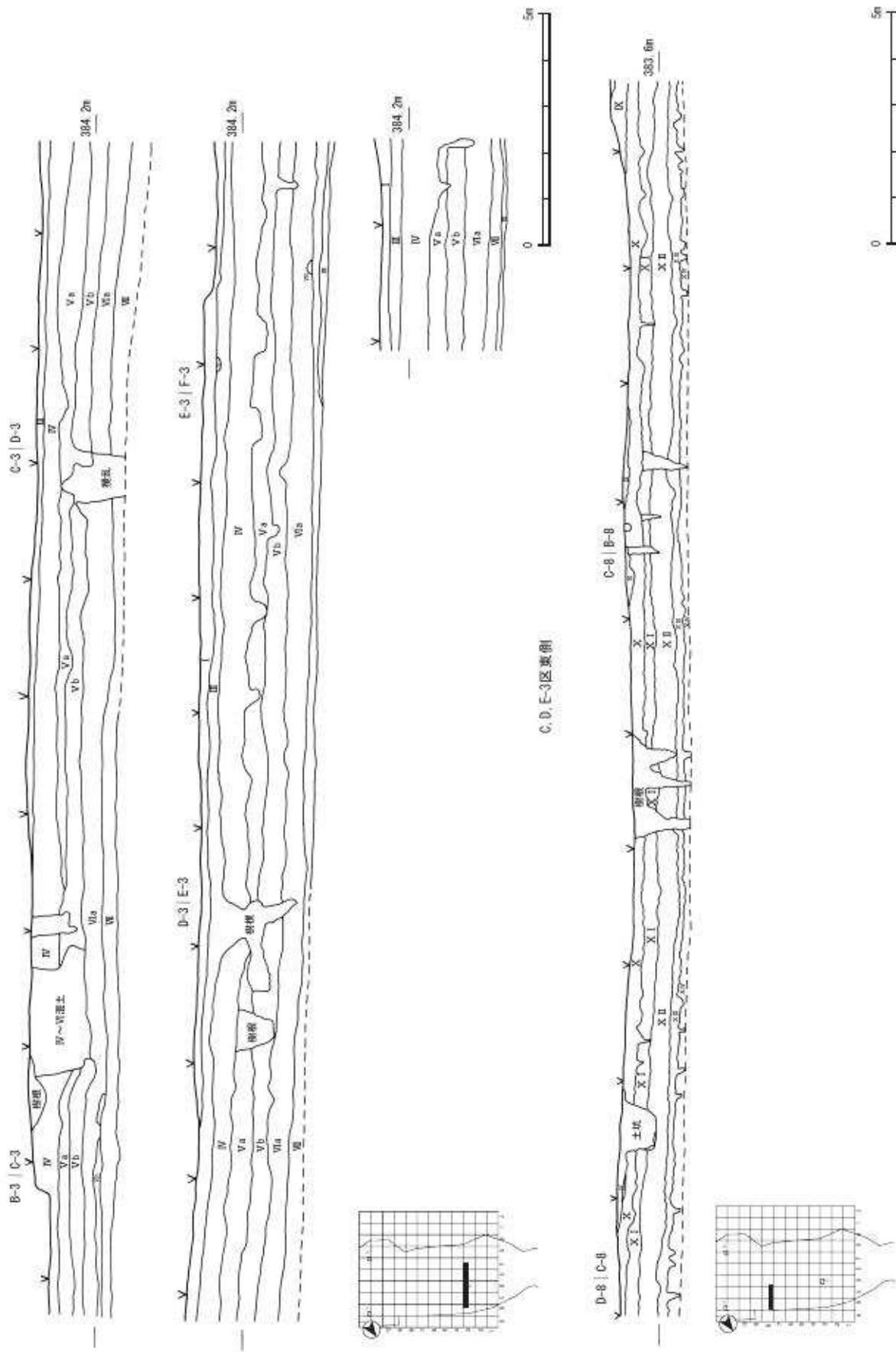


第5図 土層断面実測図(1)

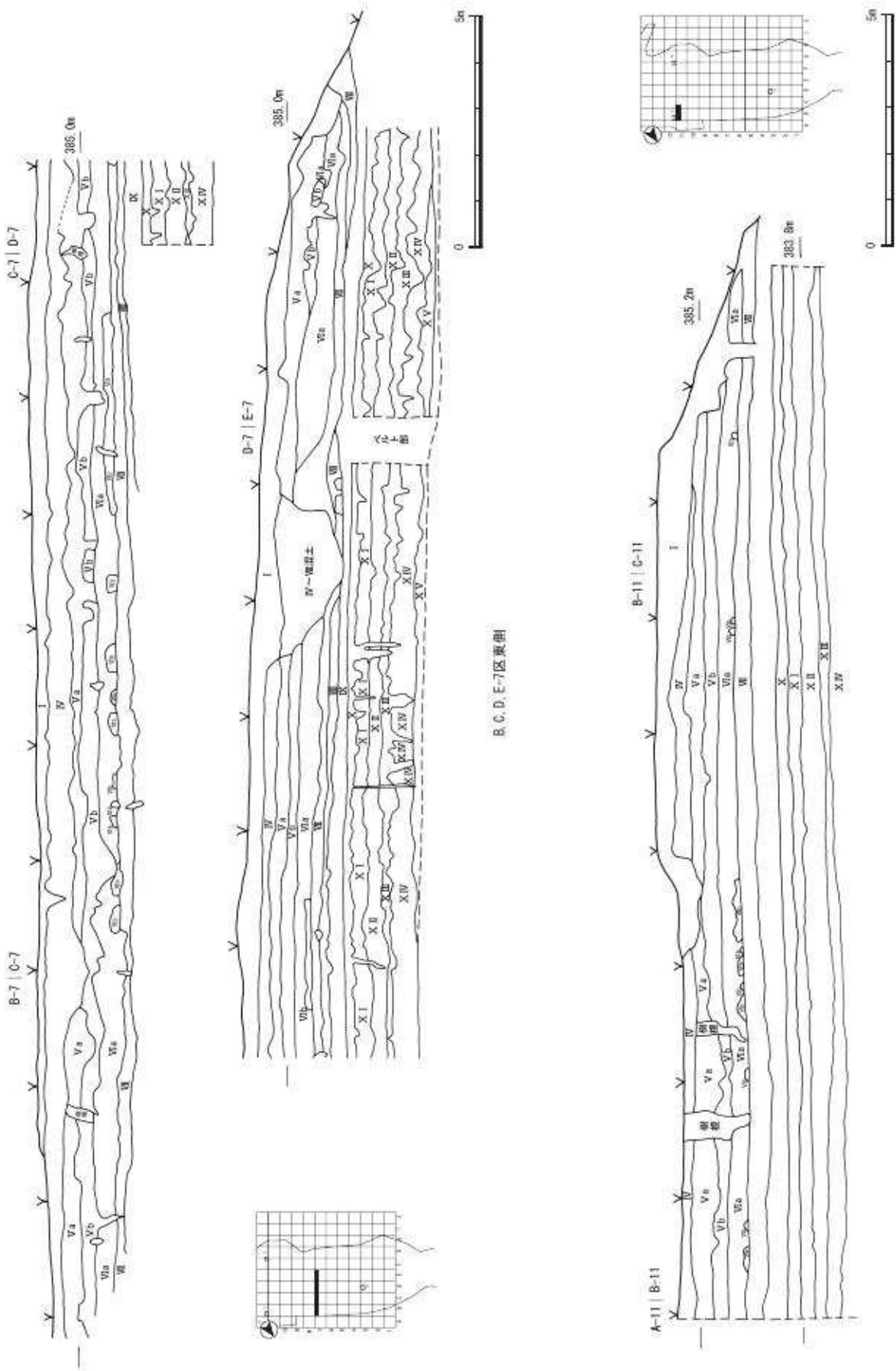
C-4, 5, 6, 7区南側

第6図 土層断面実測図(2)

B,C,D-E区西側

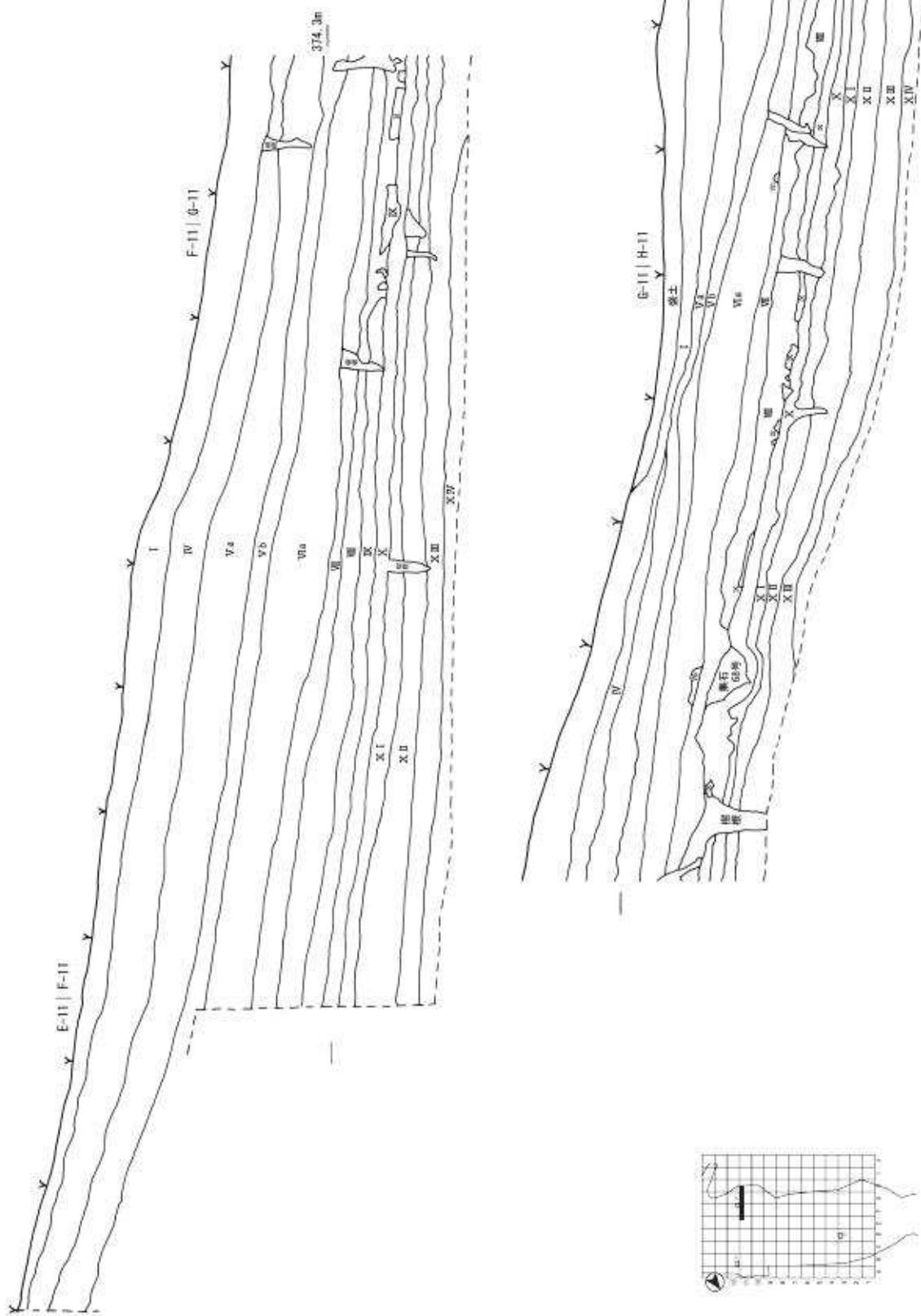


第7图 土层断面实测图(3)



30
0

E, F, G, H-11区東側
第8圖 土層断面実測図(4)



第三章 ヨロ品時代の研究

ヨロ品時代に該定する器群は、XV層からX層の間に亘りし、総数16,000点に達している。また、それらの器群はブロックを形成して分布することから、ブロックを事実上地盤に算めることとした。

遺構については、3第1基と複数31基を検討した。

3第1基はXIV層で検討したが、遺構中の埋立状況を検討した結果、上位のXII層該定の遺構との判断に達した。なお、審査については、第3節2に記載した。

31基の複数は、XIV層からX.I層の間で検討している。それぞれの複数の所蔵については、検討の確認、遺構との埋立位置等を検討し所蔵層に身に集約した。また、これらの複数に對しては、複数を構成する複数の集団や分布状況、範囲に差異がみられることから3類に整理した。

複数I類：複数分布範囲は比較的狭いが、複数がまとまるもの

複数II類：複数分布範囲は比較的広いが、複数がまとまるもの

複数III類：独立し、複数の複数にまとまりの無いもの

次に、ヨロ品時代の遺構、遺物を含む沖合は、東北方向に延びた上位のサ型地と、そのヨロ品端部から大きくなっている傾斜地からなる。沖合地形の關係上、上位のサ型地(色)をA.4m、9mから15mの間の傾斜地をB.4m、さらにその東側に位置する沖合をC.4mと呼ぶ。

ブロック密度においては、遺物集団を区域ごとに見え、サ型地が認定できる最も高いをブロックと呼ぶ。次に、ブロックのうち複数個をより多く検討した結果、ブロックの集団に一定のまとまりを検討することができた。しかしではこのまとまりがおおむね5m～10mの範囲で認識できるが、この範囲を便宜的に「エリア」と呼称することにする。さらに、遺物集団を広い範囲で検討すると、ブロック、エリアの集合が確認される。今後では、このエリアの集合を「ユニット」と呼称することにする。

今後まで取り扱った器種は、ナイフ形器、三枚尖頭器、錐状器、スクリーパー、尖頭状器、二次加工のある鉢片、微細鉢底のある鉢片、楔形器、石核、鉢片、プランティングチップ、チップ、ハンマーストーン、鉢石核、鉢石、磨石、石器である。

さらに、ナイフ形器について、Y型形、Y形器の記分を加え、Y横切面の部位によりY部切口、部切口、Y切口、Y切口、Y切口、Y切口と呼んでいる。スクリーパーについては、Y部の観察により研磨器、刮器の区分もある。

微細鉢底のある鉢片は、從来見日痕のある鉢片と呼ばれたものと見意である。鉢片の周縁に微細な鉢底があることを観察されるものをもとにしたものが、後述

筆の認定に恒久を期す観点から名稱を付けて取り扱うこととした。

三枚尖頭器については、検討の過程でいくつかのが複数群を認めた。これについては、まとめて検討を行うことにする。

ヨロ品は主事的指做によっておおむね次のように分類した。なお、葛原ふるいにおいてはそれぞれ略号を使用し、記号にはヨロ品ごとに付与するふるいを行った。

黒曜石I類(OB1[●])

下糸物を多く含み、漆黒で光を全く透さないものを包括した。鹿児島県薩摩郡川内町、日暮郡山内町西郷、日高郡山内町などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石II類(OB2A[●], OB2B[●], OB2C[●])

わずかに透明感があり、下糸物を多く含むものを包括した。鹿児島県の三角、ナリ古の里、ヨシ木、伊佐郡根占町長谷、鹿児島県球磨郡球磨村の山脈などで採取できる黒曜石に類似する。本單位にバリエーションが多いため、さらに細分した。

黒曜石II-A類：山倉～鳴門ビール瓶様の色調を呈する黒曜石で、山倉の下糸物を含む。

透明度には傾向があるが、透明感のあるものでは流虫が観察されるものがある。ナリ古は近の里、ヨシ木などで採取される黒曜石のほか、根占町長谷で採取される黒曜石に類似するものがかなり含まれている。

黒曜石II-B類：山みがかった山倉の色調を呈するもので、山倉の下糸物を多く含む。山倉の始微から黒曜石II-A類のうち山みが込んだグループとも考えられるが、本單位に著しい差異が認められたため、区分を設けた。

黒曜石II-C類：山みがかった山倉～ビール瓶様の色調を呈する黒曜石で、透明の下糸物を多く含む。黒曜石II-A類やII-B類でみられる山倉の下糸物はあまり含まない。鹿児島県三角で採取できる黒曜石に類似する一群である。

黒曜石III類(OB3[●])

山倉～船倉の透明感があって下糸物をほとんど含まない黒曜石を包括した。おおむね宇崎えびの内の桑ノ木桂郡、ナリ古ニヤ木などで採取できる黒曜石に類似するものであるが、山みの原因が赤鉄と鉛鉄が一致しないものも含まれている。

黒曜石IV類(OB4[●])

山倉で下糸物を含まない山原の黒曜石を包括した。山原は山原山の山原山に類似する。

其・署品 V種(0B5[●])

其・灰陶で下鉢物を少量含む其・署品を栽培した。長崎県佐世良町の井戸田町などで採取できる其・署品に類似する。

其・署品 VI種(0B6[●])

其・灰陶で下鉢物を少量含むものを栽培した。長崎県佐世良町などで採取できる其・署品に類似する。

其・署品 VII種(0B7[●])

下鉢物をほとんど含まない、薄い灰陶へオリーブ色を呈する其・署品である。今遷跡ではほとんど見当していないが、香川県高松市の大内川流域で採取できる其・署品に類似する。

其・署品 VIII種(0B8[●])

下鉢物をほとんど含まない、灰陶へ灰陶の其・署品を栽培する。今遷跡の筑島で採取できる其・署品に類似する。

安・省(AN[●])

今遷跡では無葉品質の安・省を栽培する。サスカイトに類似するものと、上記より並で採取できる張羅原安・省が含まれる。

ギヨクズイ(CC[●])

熱水範囲等で発達する土壌へ灰陶の其・署品と鉢形瓶を栽培した。

チャート(CH[●])

淡緑色へ土壌の筋理が見当つものと、土壌へ灰陶の筋が付ける其・署品のものがある。

火晶(CR[●])

灰陶透甲の柱状のものが多い。

豆省(SH[●])

筋理を多く持つする淡緑色豆省や白灰陶の豆省。尖鋸のない豆省の豆省を栽培している。時間的な特約から豆省型の豆省までは行えなかつたが、おおむね淡緑色の筋理を多く持つする豆省が主体を占めている。

砂省(SS[●])

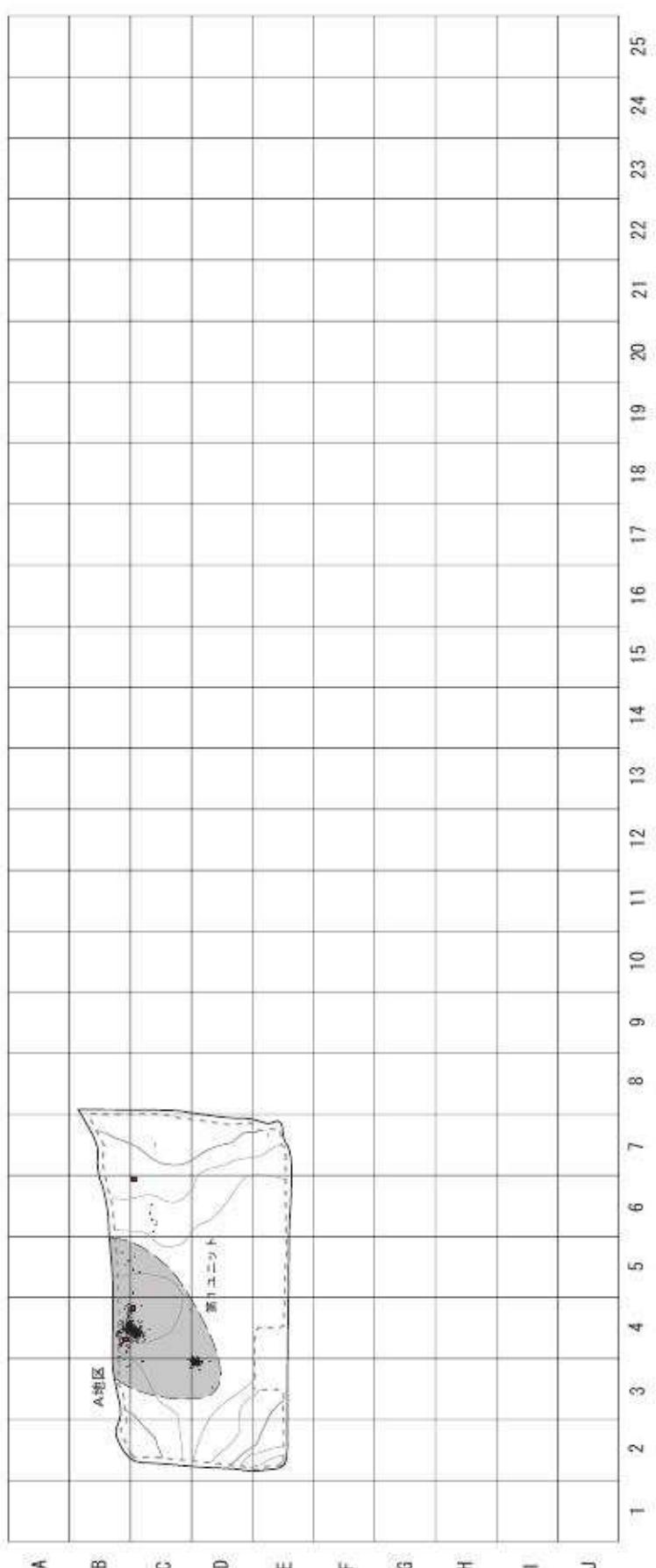
今遷跡では少般的緻密な砂省がわずかながら鉢片も器に利用されているほか、磨き/擦り、磨き/擦り型に豆省型の豆省が認められる。豆省型は行わなかつた。

磨き安・省(PA)

灰陶範囲を含む、火晶のあまり発達しない少成省を栽培して栽培した。今遷跡では、磨き/擦り、ハンマーストーンに積極的な利用が認められるほか、ト型の鉢片を採取して器類に利用されている。

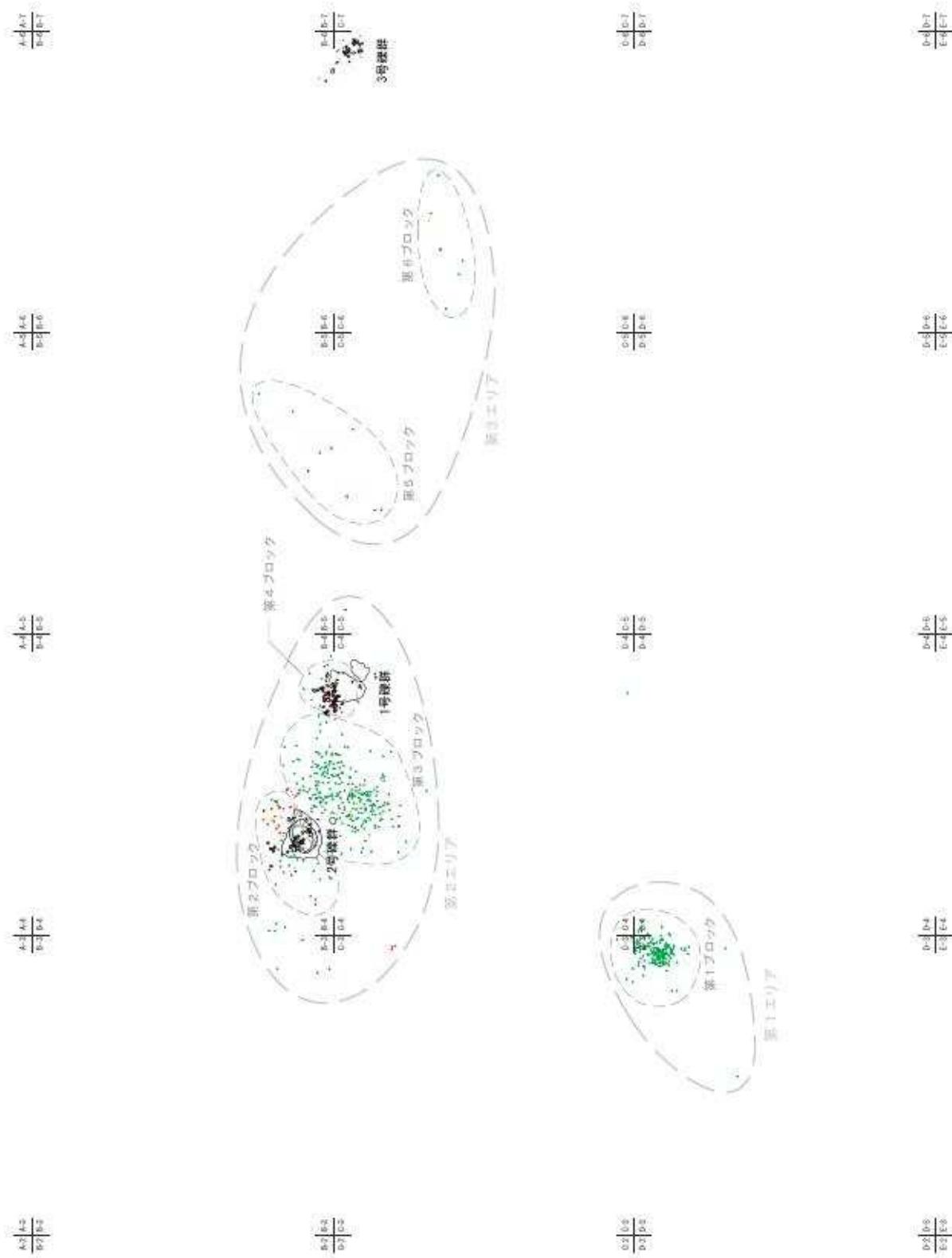
丸屋省(PG)

今遷跡では、火晶が発達する土壌の丸屋省が利用されている。ほとんどが磨き/擦りに使用されている。



第9図 第I文化層ユニット配置図及び遺構位置図

第10図 第1文化層構造配置図及び遺物集中区検出状況





第11図 第I文化層遺構実測図(1)

第1第I文化層の調査

1 調査の方法と概要

第1文化層は、発掘調査においてXV層、XIV層E1として取り扱ったもので、遺物集団の上部関係や石器集成、レベル石を検証した結果、二つの文化層のうち外輪であるとの結論に達した。そのため、本遺跡最下位の層として一括して取り扱うこととした。

事前調査では、確定した部分ではXIV層の上部でP-15、一部ではP-17の埋没冠源のオレンジ色が点在することを確認している。

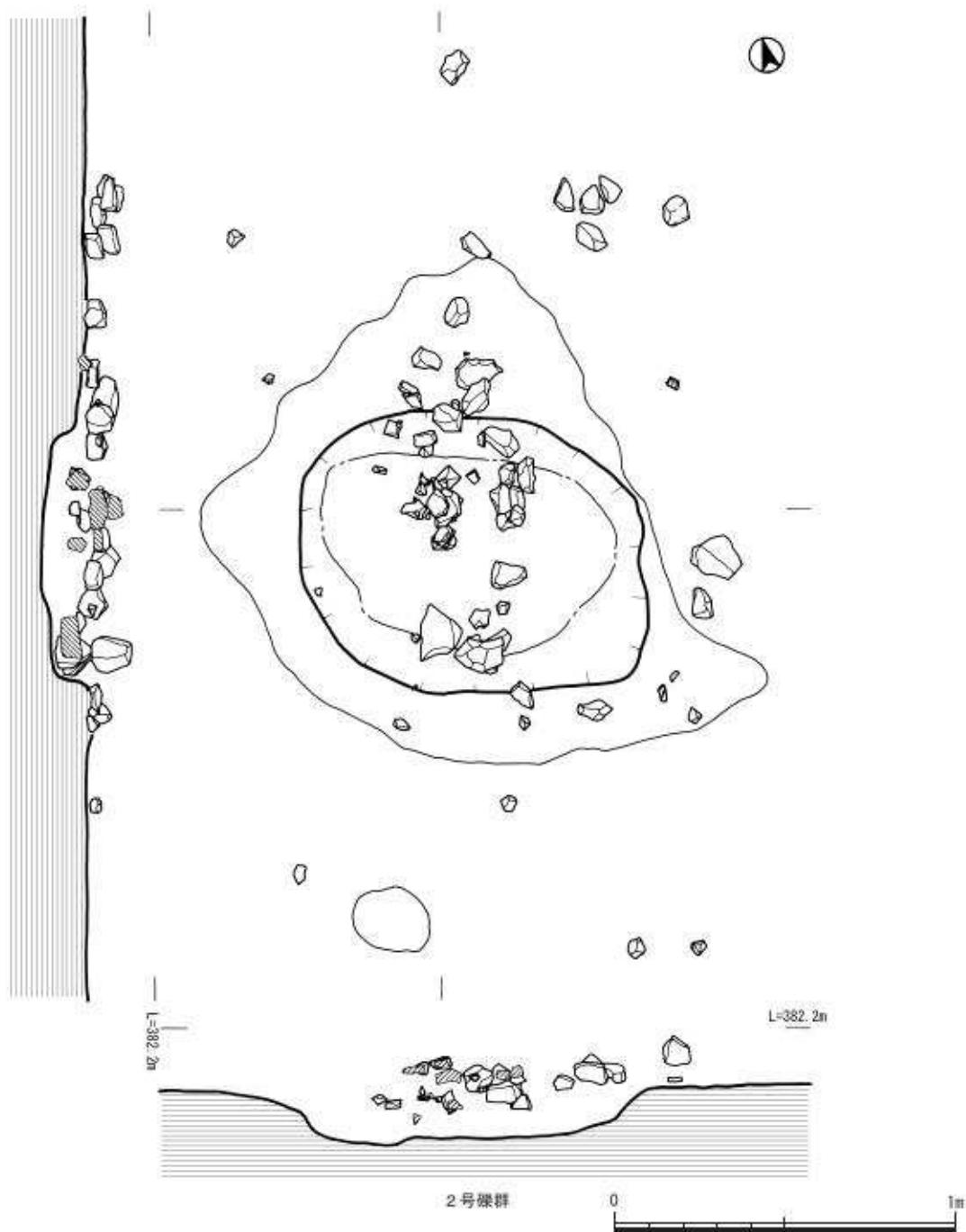
遺構、遺物の分布はA地区に限られ、調査区の

B,C,D-3,4,5,6でE1にしている。

退内分布は狭い範囲に限定され、退内と退外に密接な関係が認められる。調査範囲においていくつかの遺物集団を検出することができたが、この遺物集団について、さらに調査区外へのびる可能性が高い。

第1文化層の遺物集団の検出状況及び遺構配置を第10表に示した。

また、第1文化層のE1遺物については検査作業を行っている。壁際部の解説上を除くことはできなかったが、第1ブロックで複数個の遺物を検出する良好な資料が得られている。検査状況は第24表に示した。



第12図 第I文化層遺構実測図(2)

2 進塙

磧群

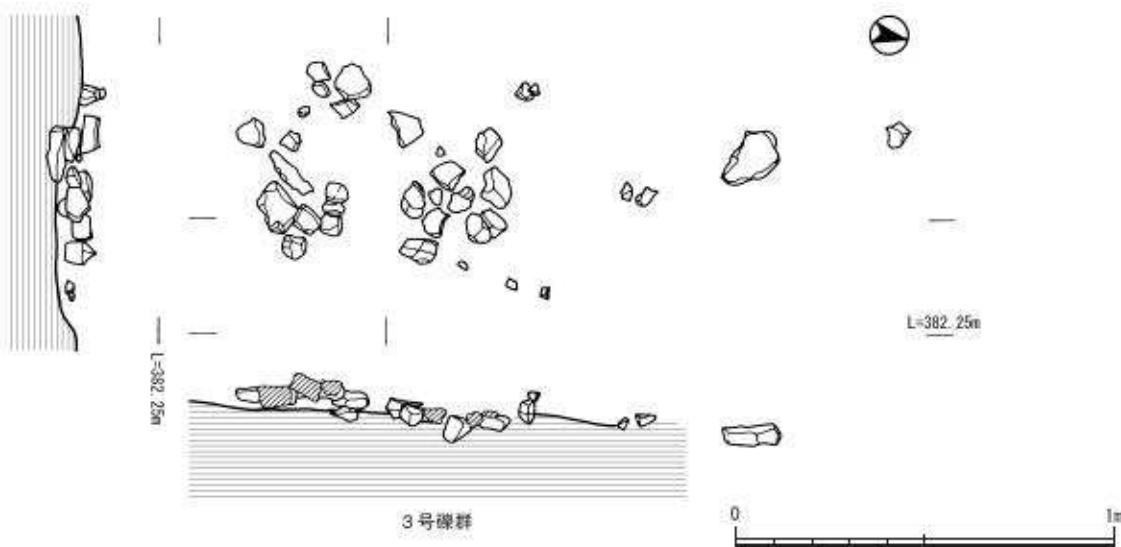
第I文化層(XV層, XIV層)では3点の磧群を検出した。進塙の分布は中段怎標部からやや表に立ったA段位の乱層を除きにのみみられる。1号磧群と2号磧群は塙境する状況で検出し、およそ20mほど離れて3号磧群を検出した。

1号磧群(第II類)

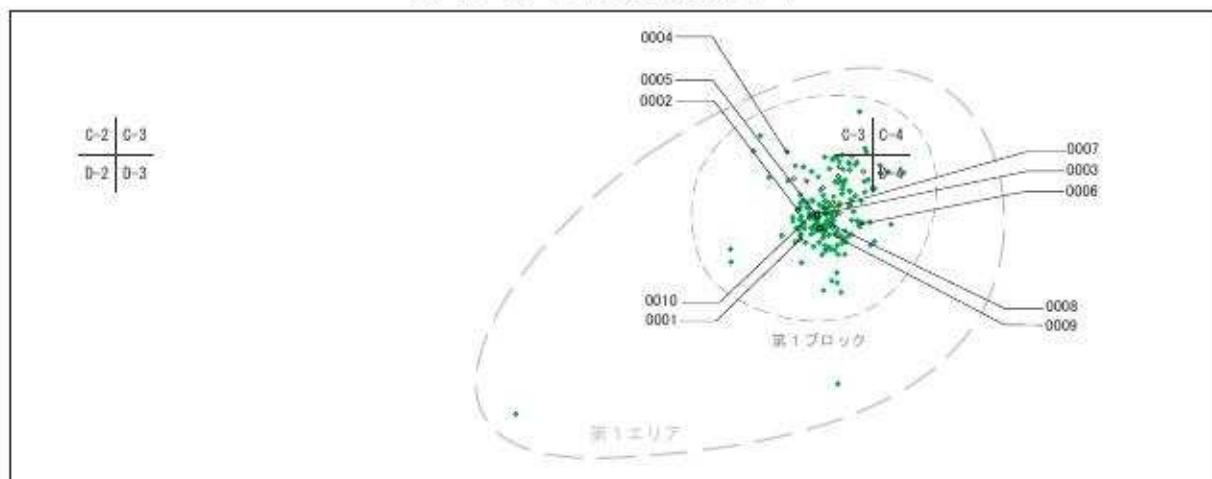
B, C-4区で検出した。砂岩を使用し、10cm前後のサ型の磧が多い。磧形状は円窓であるが摩滅している。サには然成りしたような小磧もみられるが、磧のホレは顕著でない。特で5cm程度の若コの巻り込みがみられる。磧集サ部から南北側に削り出されたしがりがみられる。

この残い巻り込み手からは進塙は見していないが、巻り込みライン外の磧群は第2エリア第4ブロック群の進塙とすなる。

(磧群II類)



第13図 第I文化層遺構実測図(3)



第14図 第I文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図

2号縄群(第12番)

B-4空で検出した。砂岩を皮出しし、10~15cm程度の少々粒の大きな礫が多い。變形状は戸變であるが降滲している。リには熟成したような少々變もみられるが、變のリは強者ではない。變の長軸約100cm、短軸約80cm、深さ約15cmの埋り込みが確認でき、そこをリに所附物がむがりをみせる。

變群は、第2エリア第2ブロックの遺物と重複する。
(變群II類)

3号縄群(第13番)

C-6空で検出した。砂岩等の變を皮出しし、少々粒の大きな變が多い。リには熟成したような少々變もみられるが、變のリは強者ではない。砾まで3cm程度の若コの埋り込みがみられる。

第3エリアの外に位置し、變群の周辺では遺物は確認されていない。

(變群II類)

3 遺物

遺物の目録はA.1空に限られ、遺物はB.C.D-3,4,5空をリに分布する。遺物分布はさらに渾水空外へ飛躍する可能性が無いが、現時点ではこの範囲を第1ユニットとしてとらえておきたい。

具体的なエリア事などと、詳細な第1マウントの目録状況は第9空と第10空に示した。

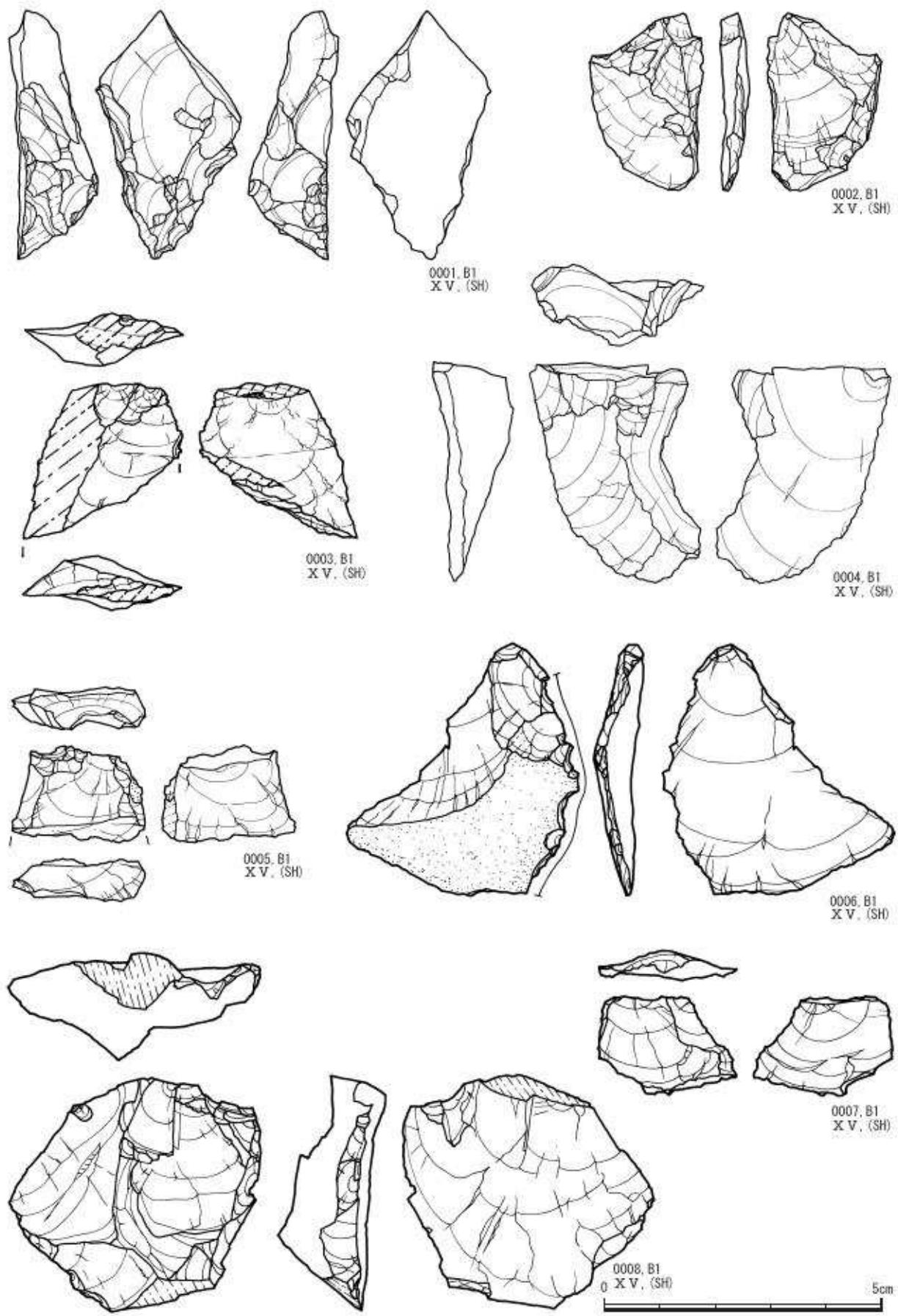
第1マウントのユニットは、ブロックを含む第1エリア(1ブロック)、第2エリア(3ブロック)、第3エリア(2ブロック)で構成している。

第1エリア(第14, 第15, 16番)

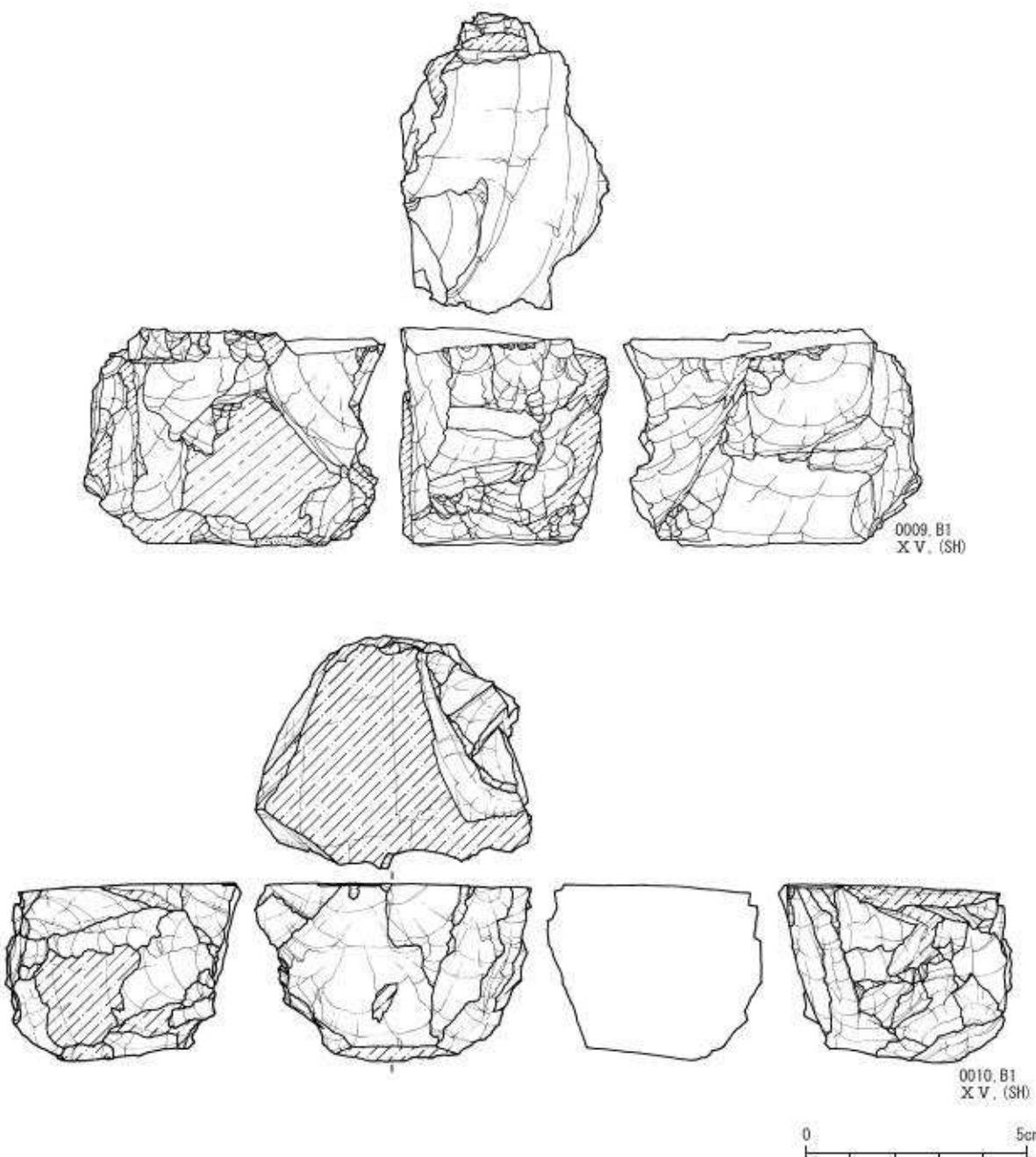
D-3,4空の流界付近にあり、更者のみで構成する。

甲殻なる器はナイフ形器が1点で(0001)、微細刺離片を有つ刺片(0006)と2核2点(0009, 0010)の内、刺片、折断刺片2点(0003, 0005)、プランディングチップ(0007)が付いている。

ナイフ形器の陶土は陶器に付着し、リヌキで表示



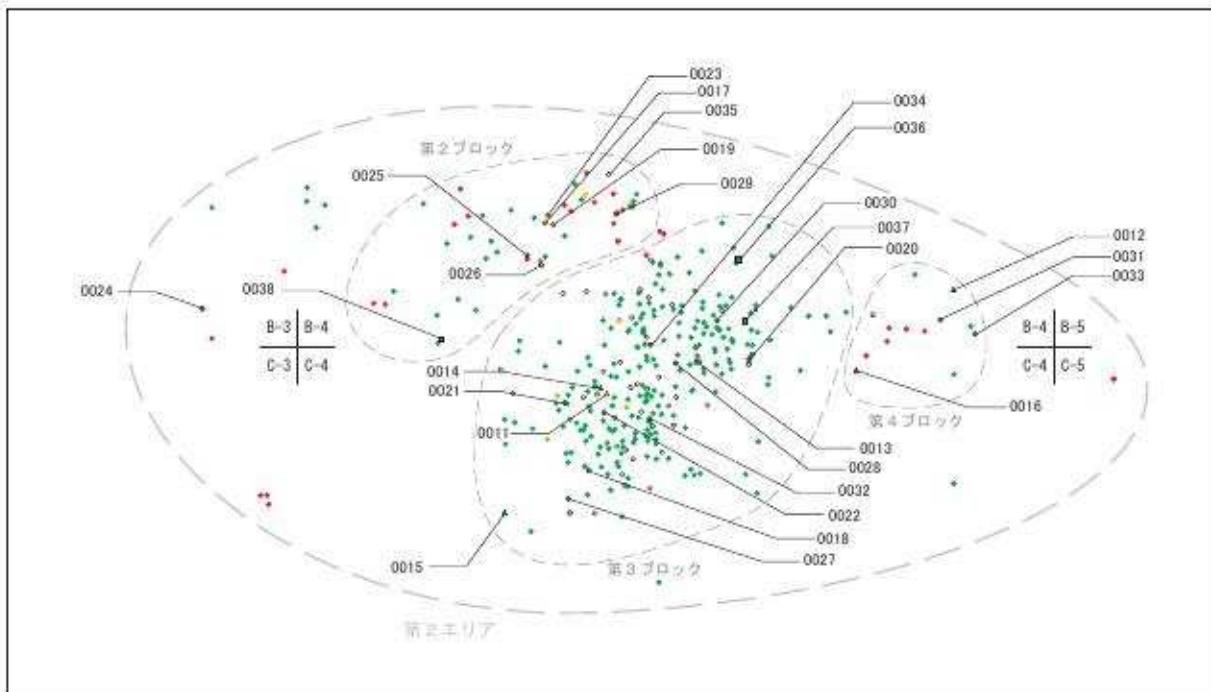
第15図 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)



第16図 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)

第3表 第I文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	カタログ No	接合 No
15	0001	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A1	B1	SH	-	44.6	26.3	14.0	11.56	24971	XV	D-3	-
	0002	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	32.1	20.7	5.1	2.85	25106	XV	D-3	-
	0003	剥片	折断剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	(28.2)	(28.8)	(9.1)	(4.78)	24990	XV	D-3	-
	0004	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	39.5	30.9	15.1	10.39	25090	XV	C-3	-
	0005	剥片	折断剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	(17.6)	(24.0)	(7.3)	(3.24)	24973	XV	D-3	145
	0006	剥片	微細剝離痕のある剥片	-	I	U1	A1	B1	SH	-	45.6	42.0	8.7	7.80	24953	XV	D-3	133
	0007	チップ	プランティングチップ	-	I	U1	A1	B1	SH	-	17.9	25.1	5.5	1.50	25093	XV	D-3	-
	0008	剥片	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	42.3	45.5	16.7	21.28	24983	XV	D-3	119
16	0009	石核	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	49.4	47.3	67.5	200.82	24987	XV	D-3	153
	0010	石核	-	-	I	U1	A1	B1	SH	-	40.5	62.5	52.5	162.87	24977	XV	D-3	119



第17図 第I文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図

した。も認識^レ落部は先行した^レ磨きをそのまま括かし、^レの状況からも器本体の^レ認識に^レ渡した^レ円形のナイフ形^レ器と判断している。^レ渡し^レは、^レに磨きから行っているが、^レも数々認められる。0007についてはその形状からプランディングチップと判断しているが、^レしている^レ器の形状と整合しない誤認も残る。0005は、折断^レ片の^レ能^レが残る。石核0009は^レ能^レ、0010は^レ磨きを^レとし、作業^レの観察からは、^レの^レ片が^レ磨^レされた^レ能^レが残る。

第1ブロックでは多数の^レ磨きを^レ核を^レ選抜しているため、^レ磨きでのダメージが影響し、^レ長^レ片^レ若^レの^レ安定的な^レは^レ鞋^レであったと思われる。

第2エリア(第17タ, 第18~21タ)

B, C-4タの^レ内部境界にある。

第2ブロックは^レ磨き^レ材が見者で、^レいて^レ磨^レ II-A類、ギョクズイが^レわる。第3ブロックは^レ磨き^レとし、^レ磨^レ II-A類、ギョクズイ、チャートが数点ずつ^レ渡^レする。第4ブロックは^レ磨^レ II-A類と^レ者で構成する。

ナイフ形^レ器5点(0011~0015)、ハンマーストーン1点(0035)、石核3点(0036~0038)の^レ、^レ片・プランディングチップ(0018, 0019, 0021)を確認している。

ナイフ形^レ器の0011以外は、^レ認識に^レ渡した^レ円形^レ器で、0012は^レ、^レの3点は^レを成している。0011はその^レ、0017の折断^レ片と接合することが追加^レで明らかになっている。0011の^レと0017の^レも^レ能^レとが接合し、0011が^レ行して^レ磨^レされている。なお、0011のナイフ形^レ器は^レ端部を鏡く作り^レした^レ認識^レ

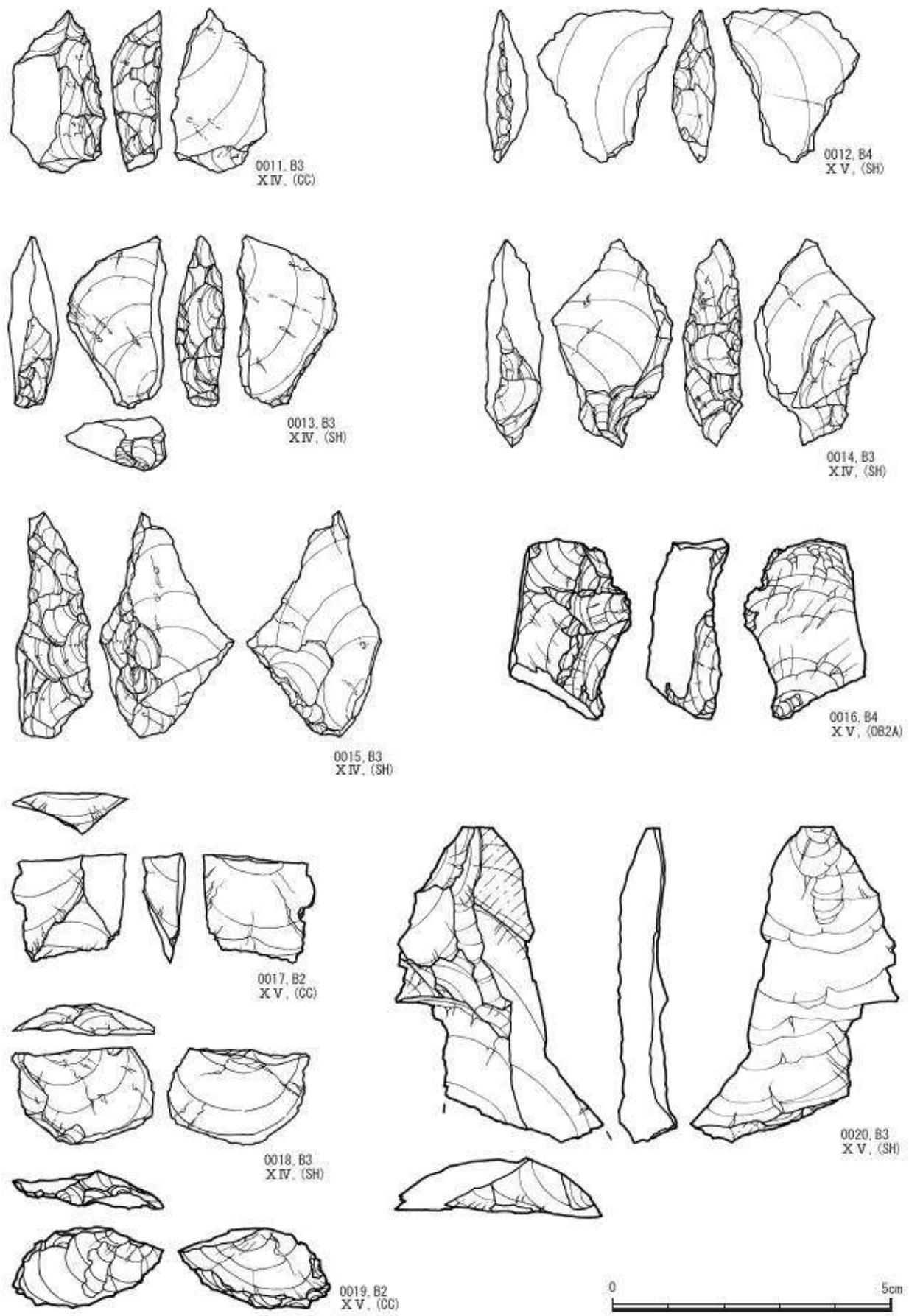
に属する。0012の^レ認識は^レから^レ渡しを生^レし、先端^レは^レにより^レ壊^レしている。0013の^レ渡し^レは^レから^レなり、^レから^レの^レ細かい^レ磨^レが^レなる。また、^レにも^レから^レも^レ渡し^レが^レえられる。0014はその^レプランディングチップと接合することが確認されている。今^レは^レ金ながら^レふできていないが、接合している資料は^レ認識から^レ部にかけての^レプランディングチップである。これを観察すると^レ部を^レ形成する^レ磨^レを、^レから^レする^レ作業(プランディング)を^レ度^レ繰り返していることがわかる。接合後も^レ以上の^レ作業が認められる。また、^レ片^レを^レ大きく^レしながら^レ器製作を行^レ製品化した様^レも^レみとれる。0015の^レ渡し^レは^レから^レ金に行^レ、^レの^レ上部には^レ磨^レも見られ、^レ器の^レ厚さを減じた意^レが感じられる。^レ車^レの^レ部には^レ磨^レらしき痕跡も残る。

0016は^レ磨^レ II-A類を^レした^レもので、^レふした^レ認識^レが^レの^レスクレイパーに^レ用^レされた^レと思われる。0034の^レ片^レの^レ部は、^レ磨^レのダメージで^レ落した^レ能^レがある。

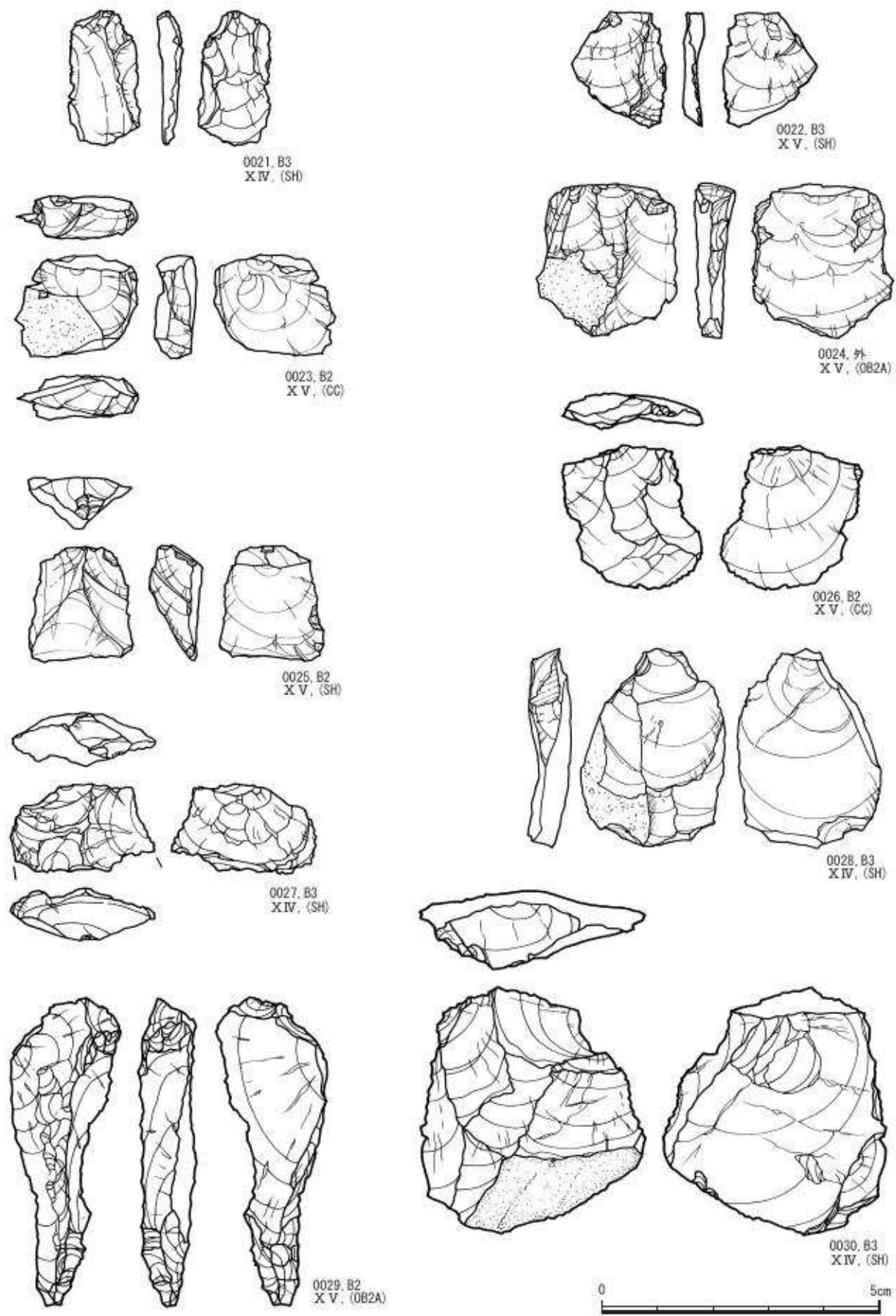
0035のハンマーストーンは^レ大きく^レ壊^レしているが、^レ能^レが^レ甲^レに^レ素^レできる。0031, 0033の^レ点^レも^レ壊^レしているが、^レも^レア^レシ^レントによる^レ部である。

石核0037の^レは^レ能^レであるが、^レ磨^レの^レ能^レもある。

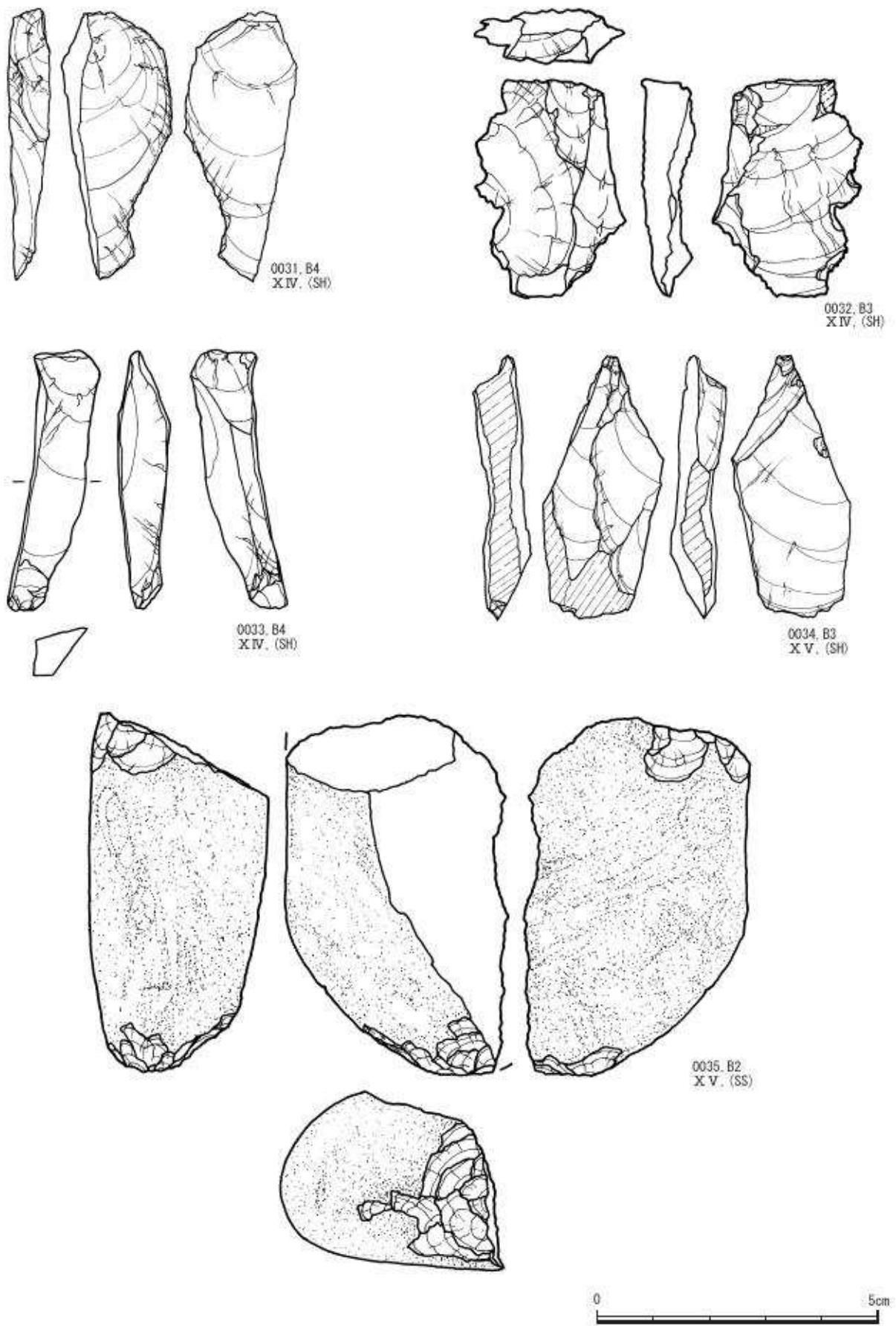
石核の^レ磨^レや^レされた^レ片^レの観察からは、^レ長^レ片^レを^レ安^レ的^レに^レ育^レすることは^レ鞋^レだった感^レがある。^レ日^レで^レきた^レな^レは^レ第3ブロックにあり、^レ者^レを^レいた^レ製作^レ的^レ色彩^レが^レ強^レく感じられる。



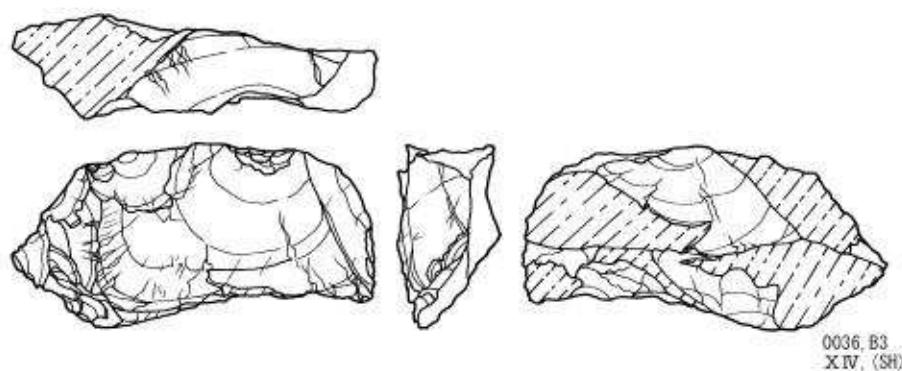
第18図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)



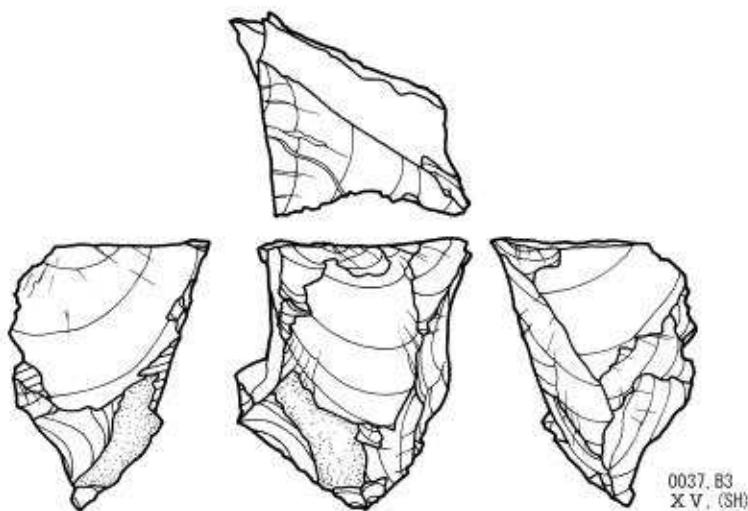
第19図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)



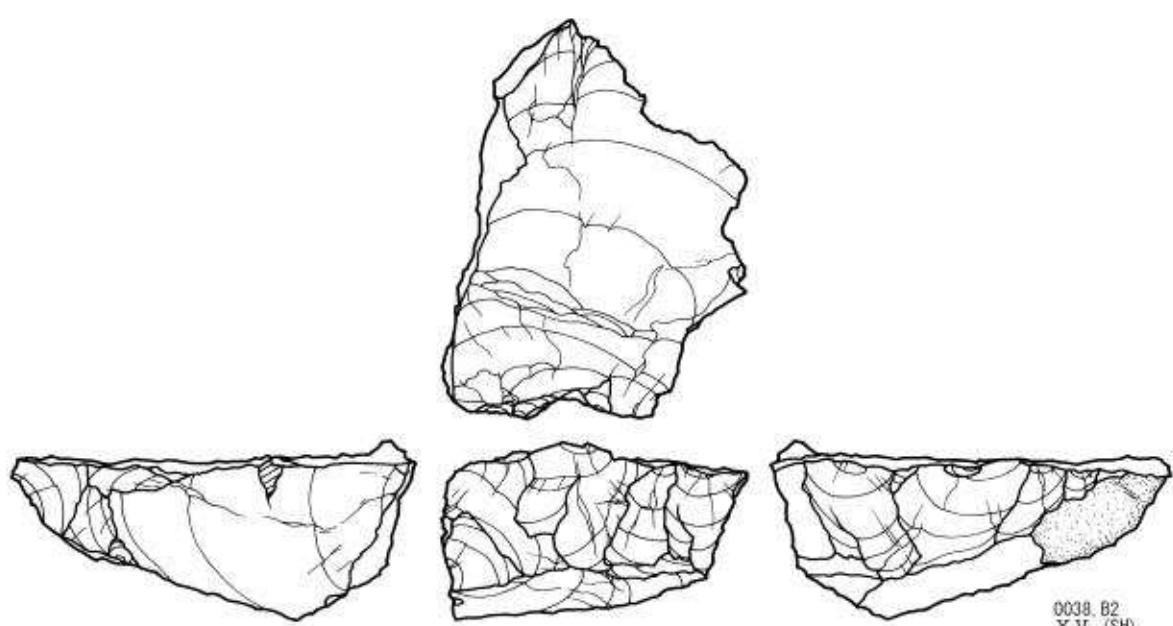
第20図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)



0036, B3
XIV. (SH)



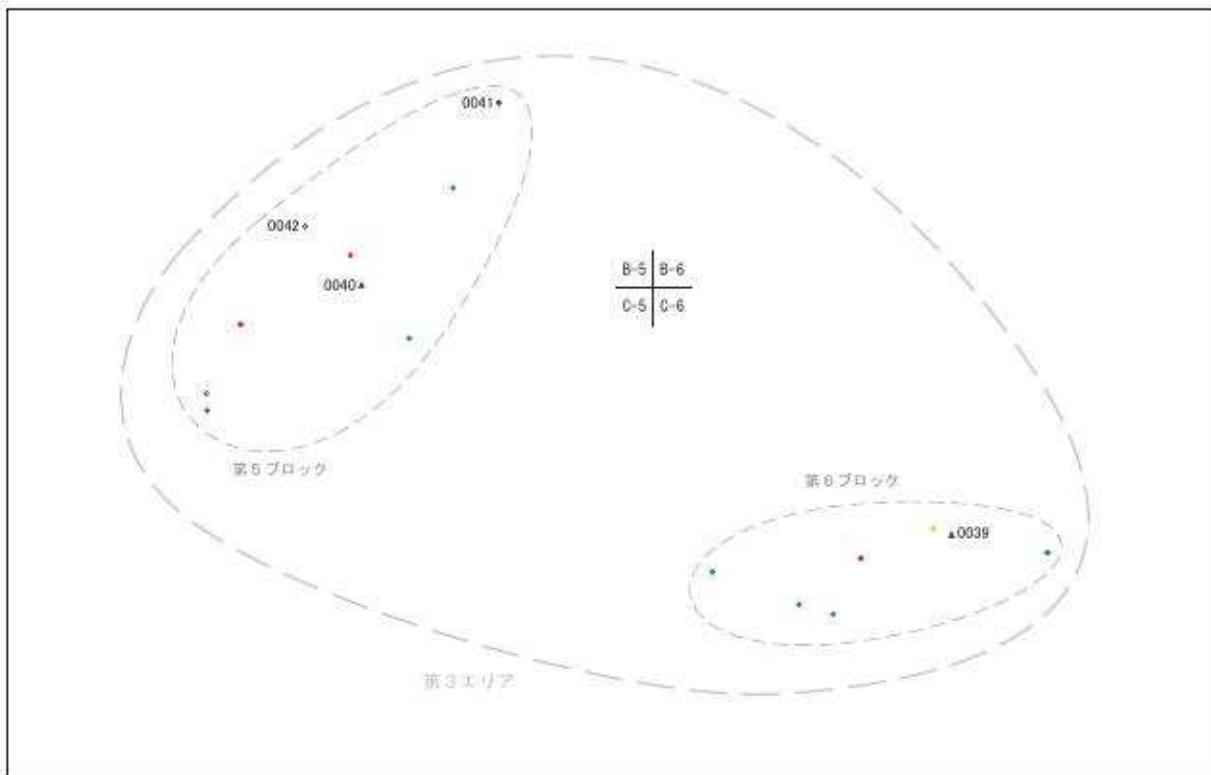
0037, B3
XV. (SH)



0038, B2
XV. (SH)



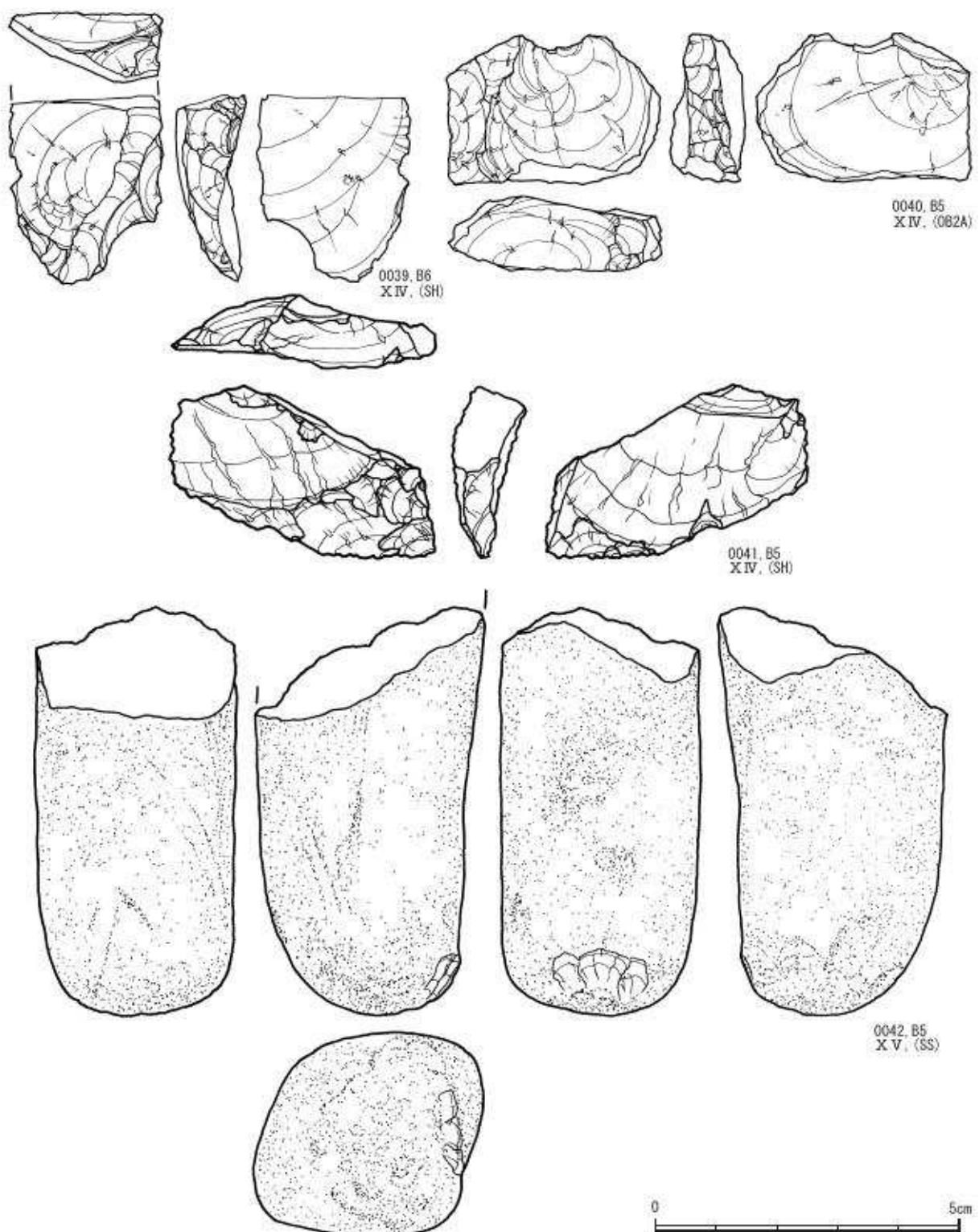
第21図 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(4)



第22図 第I文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図

第4表 第I文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表

標図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	コガ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	別名	接合 No.
18	0011	石器	ナイフ形石器	-	I	U1	A2	B3	CC	-	29.1	17.2	8.8	4.14	23423	XIV	C-4	152
	0012	石器	ナイフ形石器	台形石器	I	U1	A2	B4	SH	-	27.4	24.4	7.7	3.56	24996	XV	B-4	-
	0013	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	31.0	18.0	9.0	4.53	24691	XIV	C-4	-
	0014	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	37.2	21.8	9.7	6.79	24854	XIV	C-4	164
	0015	石器	ナイフ形石器	切出形	I	U1	A2	B3	SH	-	40.4	24.2	12.7	8.78	24720	XIV	C-4	-
	0016	石器	二次加工痕のある剥片	-	I	U1	A2	B4	OB2	A	32.4	22.1	13.0	8.91	25069	XV	C-4	-
	0017	剥片	折断剥片	-	I	U1	A2	B2	CC	-	19.5	20.6	7.2	2.35	25056	XV	B-4	152
	0018	チップ	プランティングチップ	-	I	U1	A2	B3	SH	-	17.7	25.6	6.0	2.78	23436	XIV	C-4	149
	0019	チップ	プランティングチップ	-	I	U1	A2	B2	CC	-	14.8	27.3	5.2	1.52	25034	XV	B-4	-
	0020	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	(56.5)	(37.4)	(10.9)	(10.60)	25017	XV	C-4	-
19	0021	チップ	プランティングチップ	-	I	U1	A2	B3	SH	-	24.3	13.1	3.5	0.90	24857	XIV	C-4	-
	0022	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	21.1	17.1	3.0	0.88	24930	XV	C-4	-
	0023	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	CC	-	18.5	22.2	6.8	2.91	25112	XV	B-4	-
	0024	剥片	-	-	I	U1	A2	外	OB2	A	27.4	25.4	6.6	4.03	25080	XV	B-3	-
	0025	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	SH	-	20.9	18.8	9.2	2.66	25008	XV	B-4	140
	0026	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	CC	-	26.0	25.3	6.0	2.55	25033	XV	B-4	-
	0027	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	(16.2)	(26.1)	(9.7)	(3.45)	23434	XIV	C-4	-
	0028	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	35.5	26.1	7.2	6.29	24693	XIV	C-4	-
	0029	剥片	-	-	I	U1	A2	B2	OB2	A	55.5	20.0	9.0	7.30	25037	XV	B-4	-
	0030	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	44.5	40.6	12.8	21.23	24830	XIV	B-4	141
20	0031	剥片	-	-	I	U1	A2	B4	SH	-	47.4	19.9	7.8	6.48	23363	XIV	B-4	115
	0032	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	38.8	26.9	9.0	6.93	23405	XIV	C-4	-
	0033	剥片	-	-	I	U1	A2	B4	SH	-	46.1	17.4	7.7	4.17	23361	XIV	B-4	115
	0034	剥片	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	46.6	21.5	8.0	7.25	24908	XV	B-4	-
	0035	石器	ハンマー	-	I	U1	A2	B2	SS	-	(64.2)	(40.0)	(31.0)	(95.27)	25004	XV	B-4	-
21	0036	石核	残核	-	I	U1	A2	B3	SH	-	24.5	48.0	14.0	13.11	23389	XIV	B-4	-
	0037	石核	-	-	I	U1	A2	B3	SH	-	36.0	31.4	26.0	18.96	25042	XV	B-4	-
	0038	石核	-	-	I	U1	A2	B2	SH	-	23.7	40.6	53.0	45.16	25059	XV	B-4	140



第23図 第I文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図

第5表 第I文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
23	0039	石器	ナイフ形石器	-	I	U1	A3	B6	SH	-	(30.9)	(25.4)	(11.0)	(7.51)	23972	XIV	C-6	-
	0040	石器	スクレイパー	搔器	I	U1	A3	B5	062	A	24.8	35.2	12.0	10.96	24632	XIV	B-5	-
	0041	剥片	-	-	I	U1	A3	B5	SH	-	28.6	43.8	11.7	9.13	23965	XIV	B-5	-
	0042	石器	ハンマー	-	I	U1	A3	B5	SS	-	(67.2)	(38.0)	(32.4)	(119.29)	25074	XV	B-5	-

第3エリア(第22ヶ、第23ヶ)

B-C-5, 6ヶに散在する19点を対象とした。

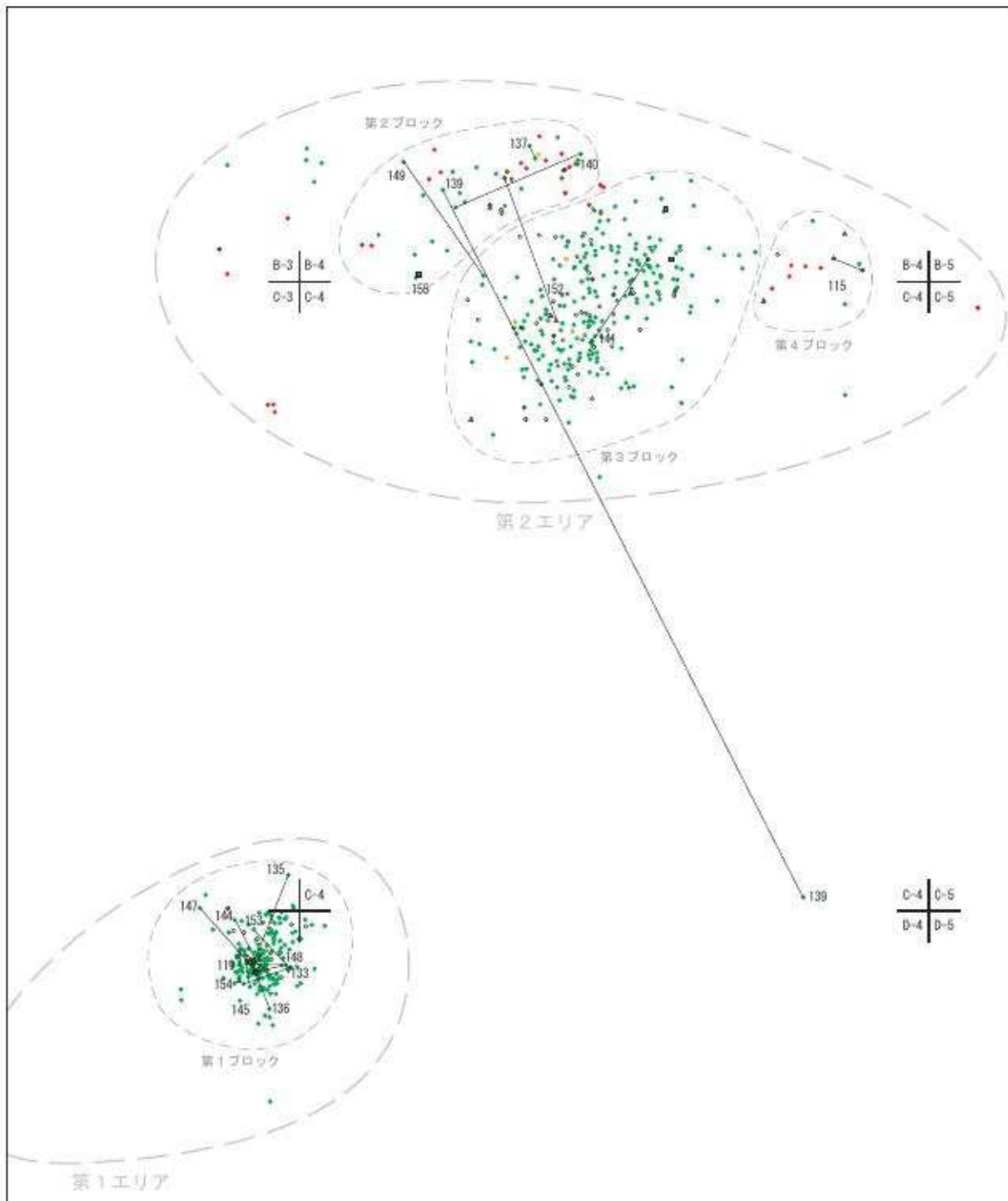
第5ブロックは黒曜石II-A類、瓦器、砂器、第6ブロックは瓦器、ギョクズイ、黒曜石II-A類で各材を構成する。

0039は入出道の瓦器もあるが、瓦頂形状の切口が残ることから、瓦端部を下く様長刃片の一把彫ナイフ形器と判断できる。

0040は瓦器、黒曜石II-A類を折断し、右側面に骨器穴

の跡を残している。

0042のハンマーストーンは砂器を用い、瓦端部を上に長い刃の痕跡が残る。



第2章 第II文化層の調査

1 調査の方法と概要

第II文化層は、発達度非常にXIII層として取り上げられた遺構、遺物を主体として構成する。その後壁作業において、遺物分布の検討を行う過程でXIII層からXII層への遺物の浮き上がりがみとめられたため、複合状況となるごとの遺物集団傾向を考慮してXII層の遺物の一部を第II文化層に所属するものとして取り扱った。

遺物の分布傾向については、A地区においてはB-C-5号からB-C-12号の矢張りにはほぼ西側的に分布する傾向が読みとれる。さらにB-C-9, 10号を境に分布が大きく2か所に分かれることから、それぞれをユニットで塔り、毛器を第1ユニット、刃器を第2ユニットとした。また、それぞれのユニットは1~5か所のエリアに分けでき、第1ユニットを5つのエリア(第1エリア~第5エリア)に、第2ユニットは1つのエリア(第6エリア)に区分している。さらに、各エリアは一つあるいは複数のブロックで構成される。

B地区においては、G-8号からG-15号附近にかけて遺物が濃密に集中し、この区域を西にしながら東方にかけて斜面状の狭い谷を形成している。

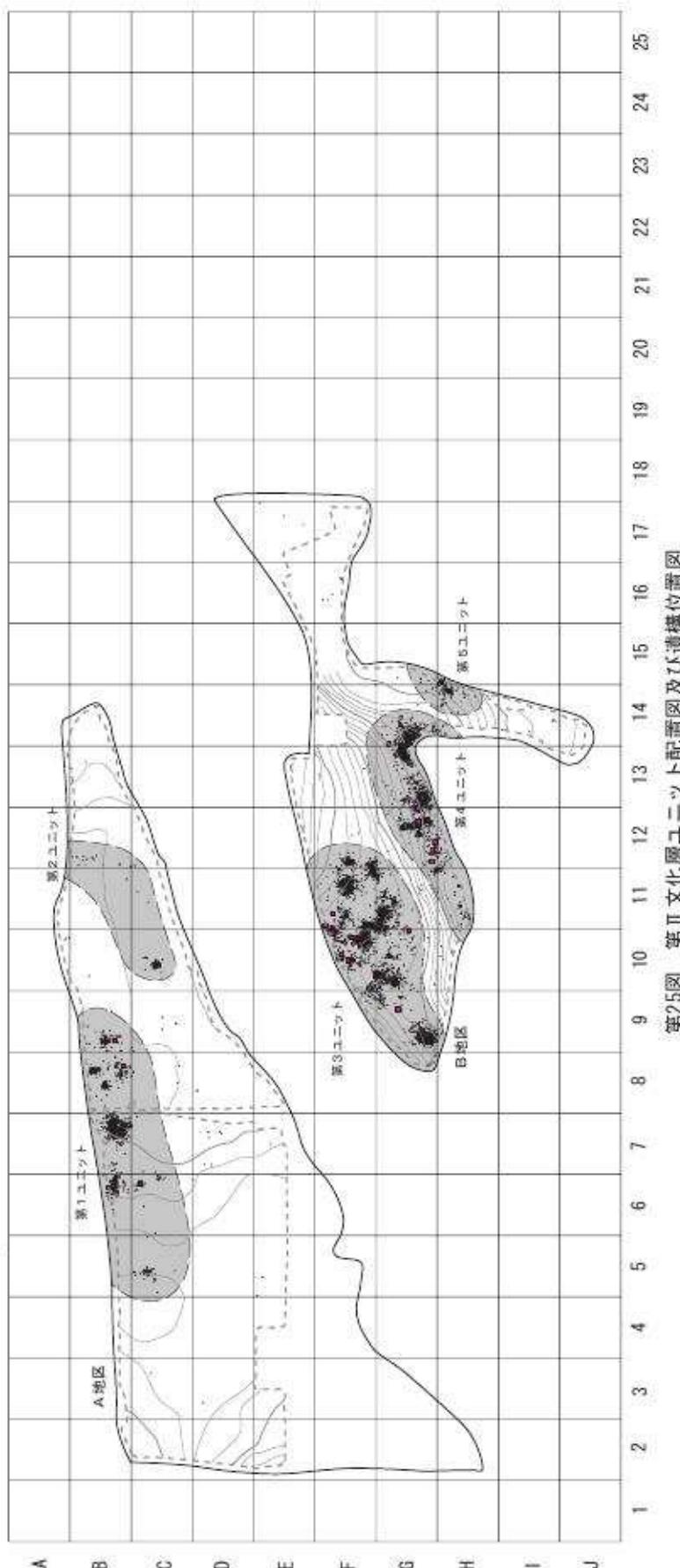
この斜面状の谷底のうち、上段に農耕する遺物集団を第3ユニット、下段部分の遺物集団を第4ユニットとして認定した。B地区においてはさらに、第4ユニットと一帯の畠界を跨ってG-H-14, 15号の境界付近にも遺物集団が認められる。この遺物集団は調査区域へさらに農耕する可能性が考えられるため、谷底を考慮して第5ユニットとして記述した。

2 遺構

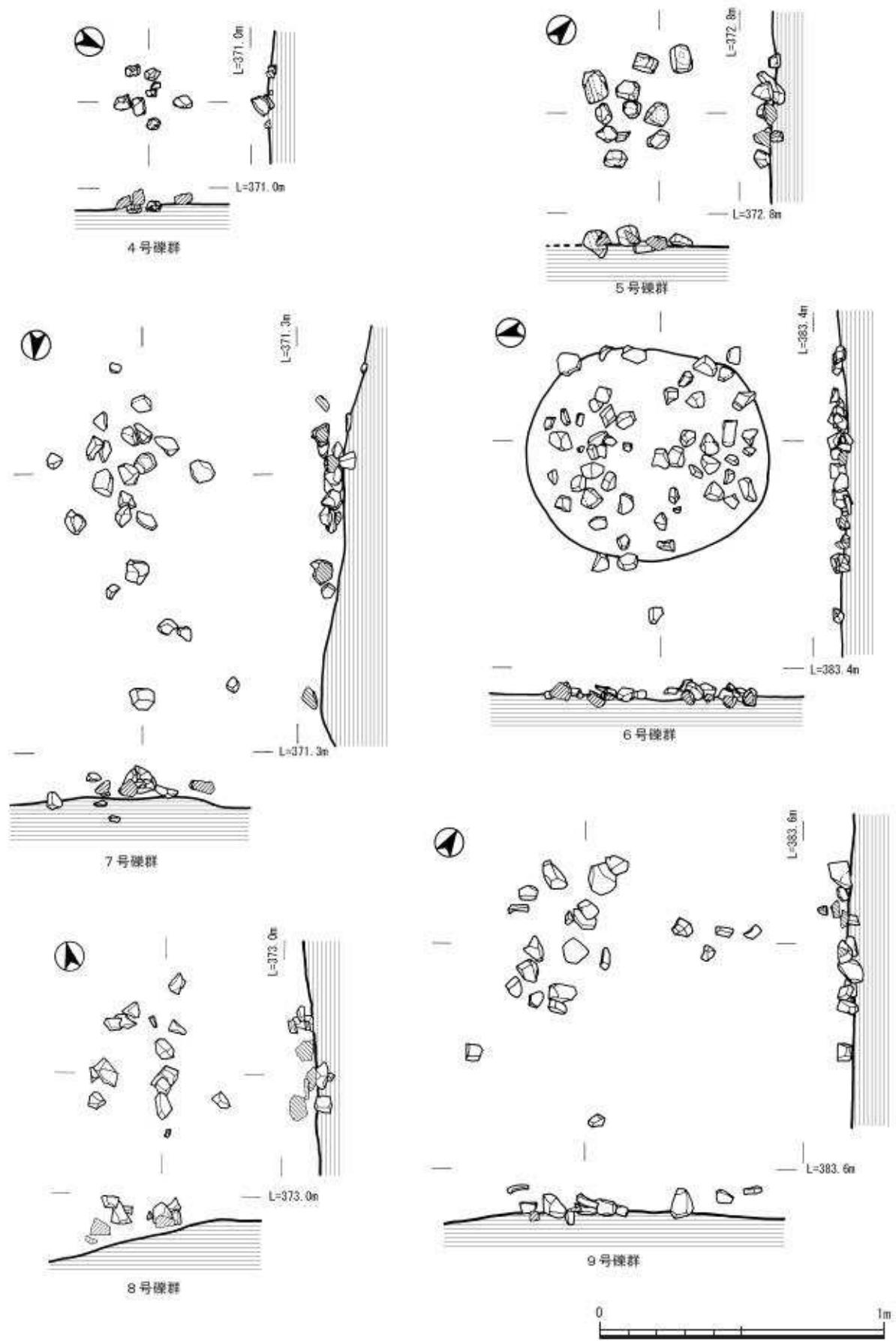
第II文化層では、A地区において3基、B地区において15基の計18基の窓跡を検出した。遺構はA地区においては車輪走跡からやや直線的だった、それには分布する。B地区においては若後に走跡が増える小規模の土壙にあたる部分と、そこからやや車輪に直線的な部分に遺構の集中部がみられる。

4号窓跡(第26号)

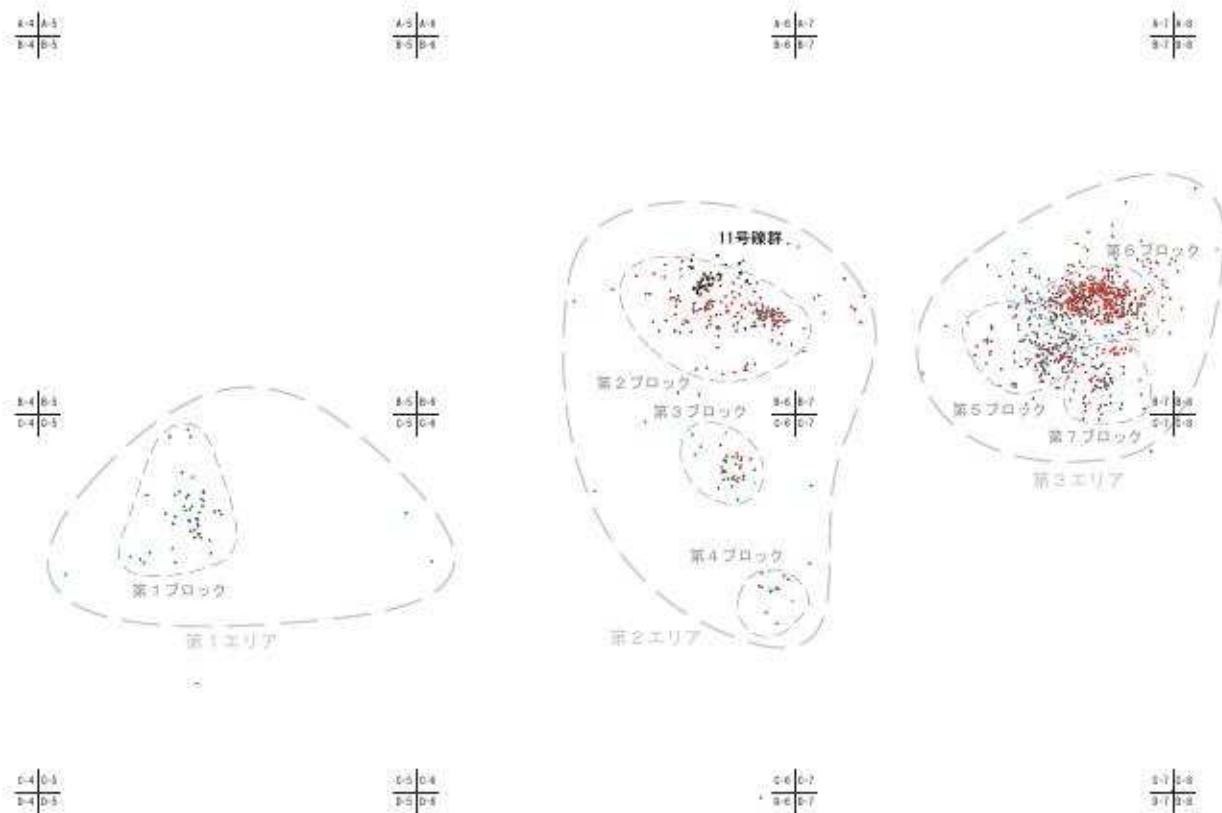
G-12号で検出した。小型の砂岩を使用している。窓の一部には被覆によるルートと、熟取巣がみられる。掘り込み岩は確認していない。



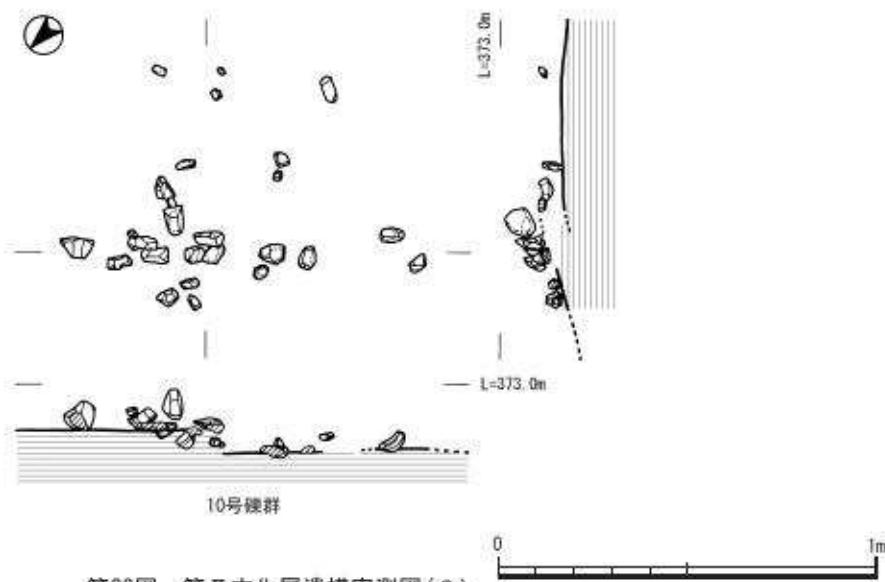
第25図 第II文化層ユニット配置図及び遺構位置図



第26図 第Ⅱ文化層造構実測図(1)



第27図 第Ⅱ文化層構造配置図及び遺物集中区検出状況(1)



第28図 第Ⅱ文化層構造実測図(2)

縫群は、15号縫群、21号縫群と同一の第13エリア内にある。なお、縫群と道外の分布に直接的な重複関係はない。

(縫群Ⅰ類)

5号縫群(第26号)

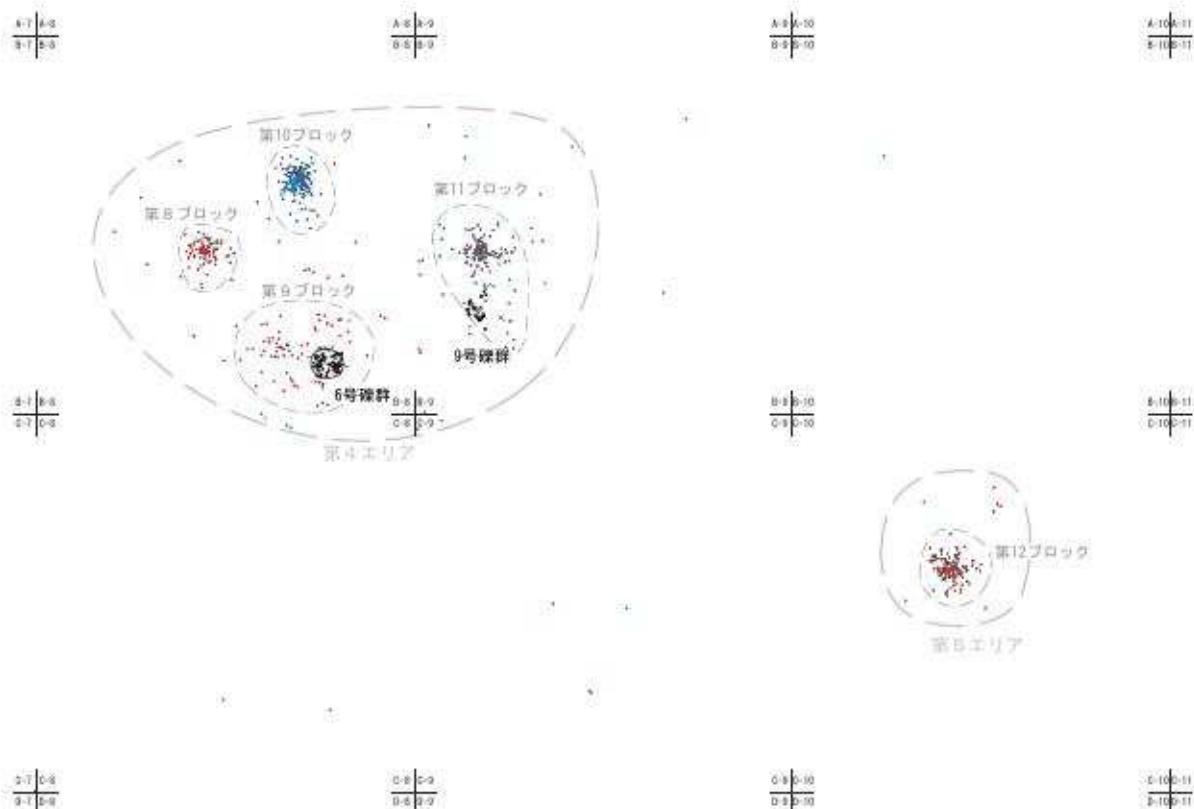
6-11まで検出し、第10エリアに含まれる。安^シ岩を使用しており、一部瓦岩、砂岩が混ざる。10cm前後の中縫

が多いが、大半は摩滅している。一部は板熱によりかぶっている。なお、埋り込み岩は、殆ど確認していない。

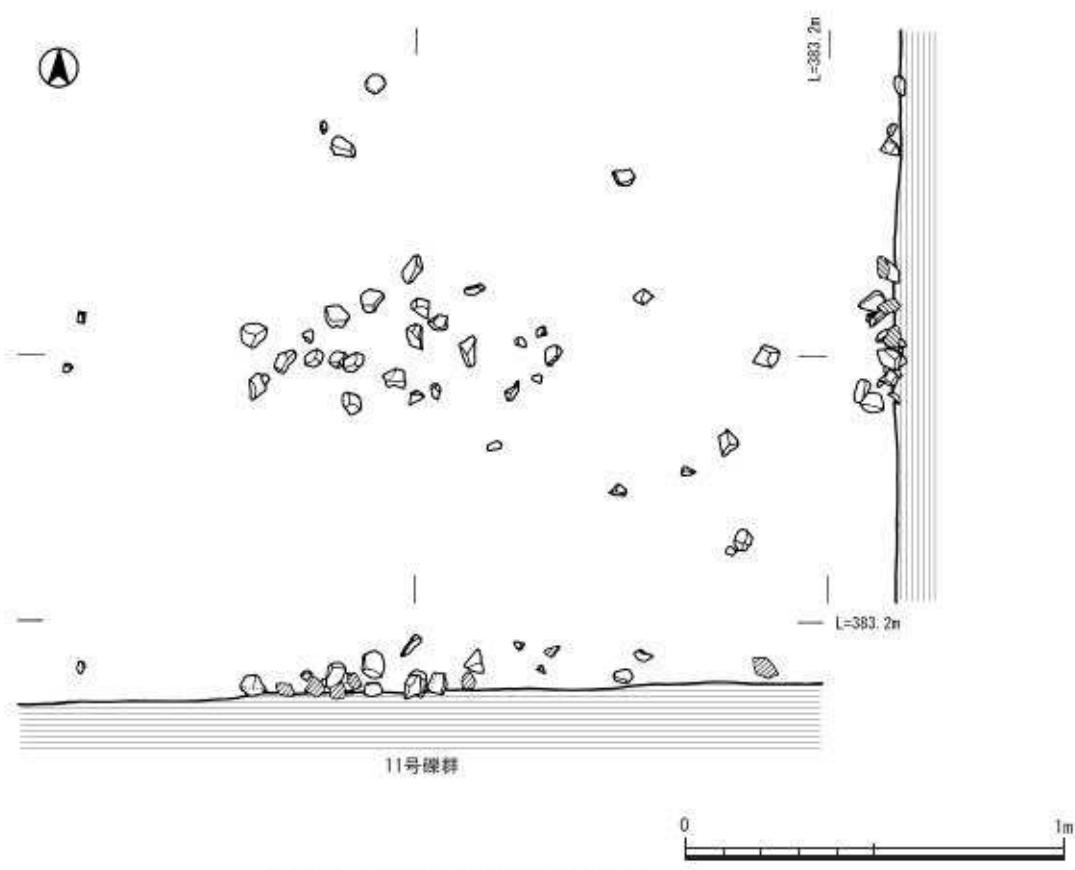
(縫群Ⅰ類)

6号縫群(第26号)

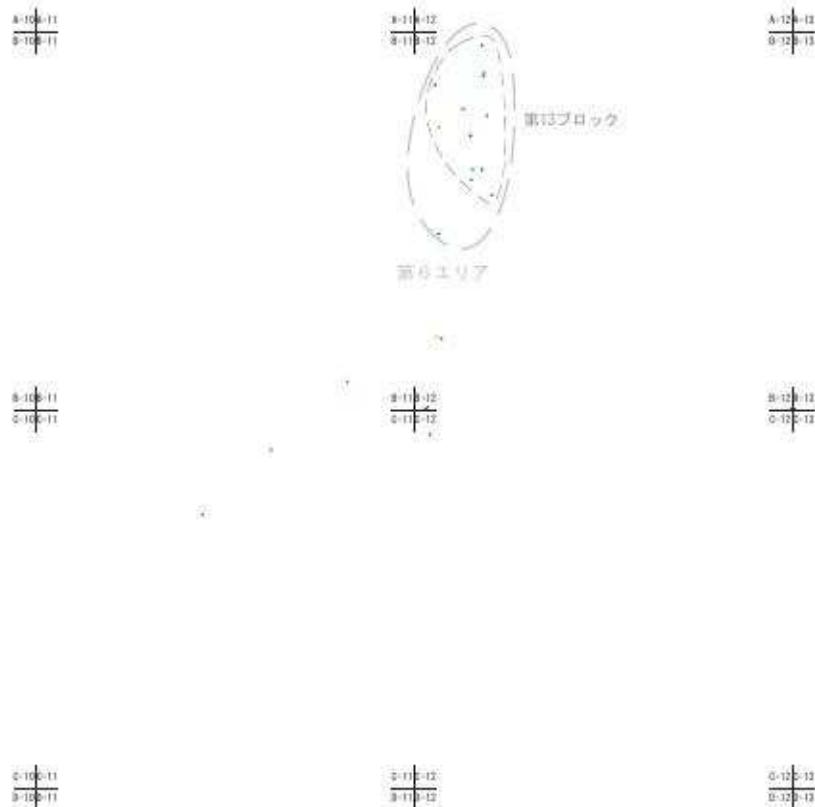
B-8まで検出し、第4エリア第9ブロックと重複する。安^シ岩を使用し、一部砂岩、粘板岩が混ざる。10cm以下の小型の縫が多い。縫形状は中縫であるが摩滅している。



第29図 第Ⅱ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)



第30図 第Ⅱ文化層遺構実測図(3)



第31図 第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)

礫は全般的に板熱により崩壊している。中央部に長径約85cm、短径約75cm、深さ約3cmのU字型の窓みがみられ、内部の砂が温ざる状態で残っている。
(礫群Ⅱ類)

7号礫群(第26号)
G-12まで検出し、第15エリア第48ブロックとすなる。摩擦した色變を被りし、板熱により崩壊したU型の窓が多い。礫群と関連する墨り込み石は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

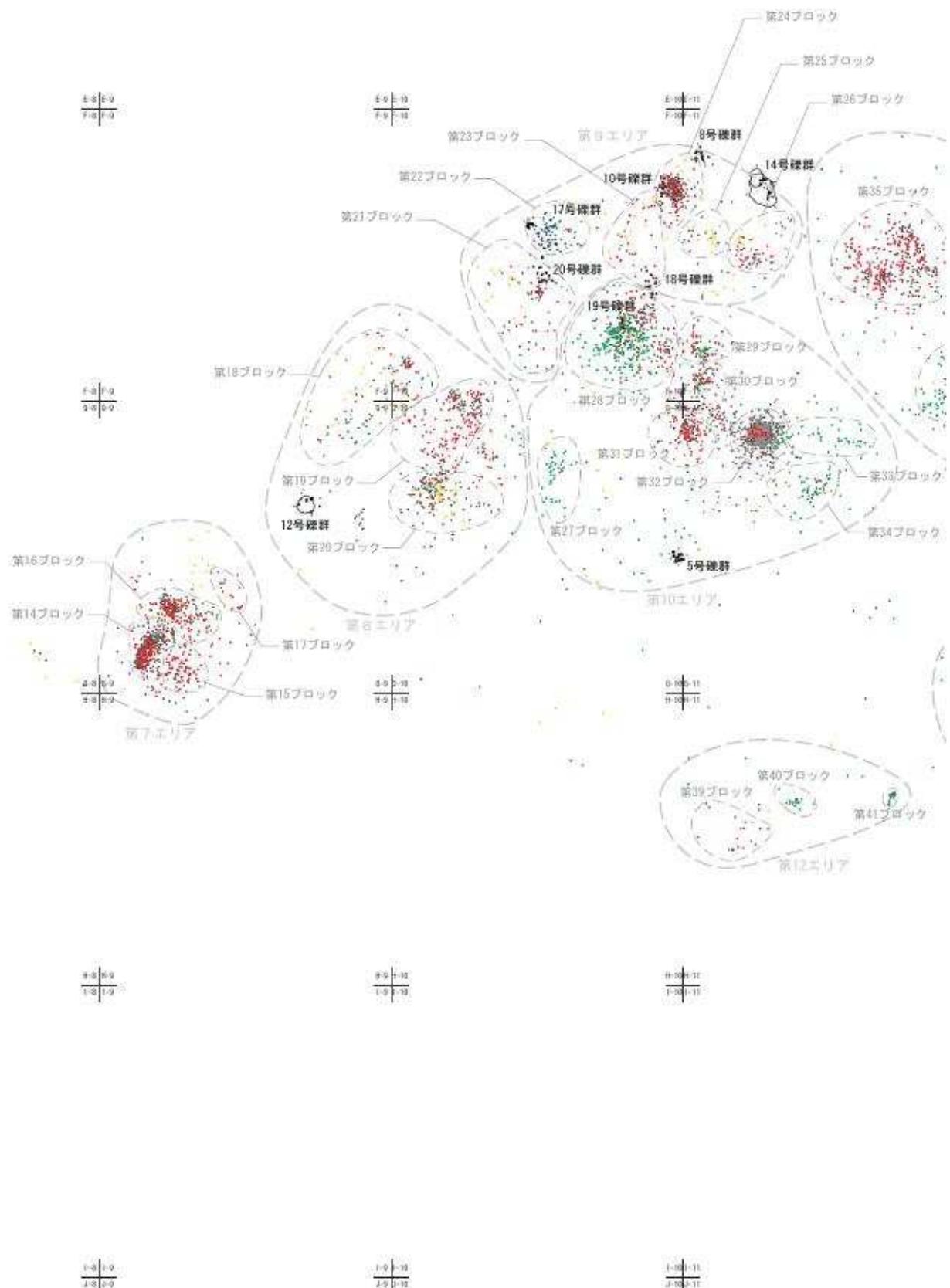
8号礫群(第26号)
F-11まで検出し、第9エリア第24ブロックと接する部分にある。安息岩を被りし、小型の窓が多い。ほとんどの窓は板熱により崩壊がみられる。やや中性質に板熱をもって窓が残る。墨り込みを確認するに至っていない。
(礫群Ⅲ類)

9号礫群(第26号)
B-9まで検出し、第4エリア第11ブロック付近にある。安息岩を被りして、一部粘土岩が温ざる。U型の窓を被りしている。窓は板熱により崩壊がみられ、若コの外殻もみられる。墨り込み等の確認は無い。
(礫群Ⅲ類)

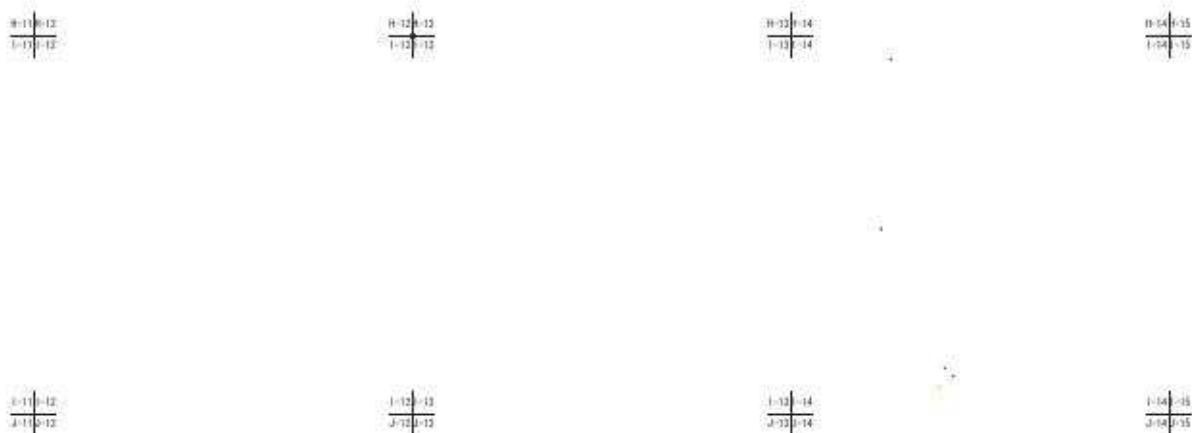
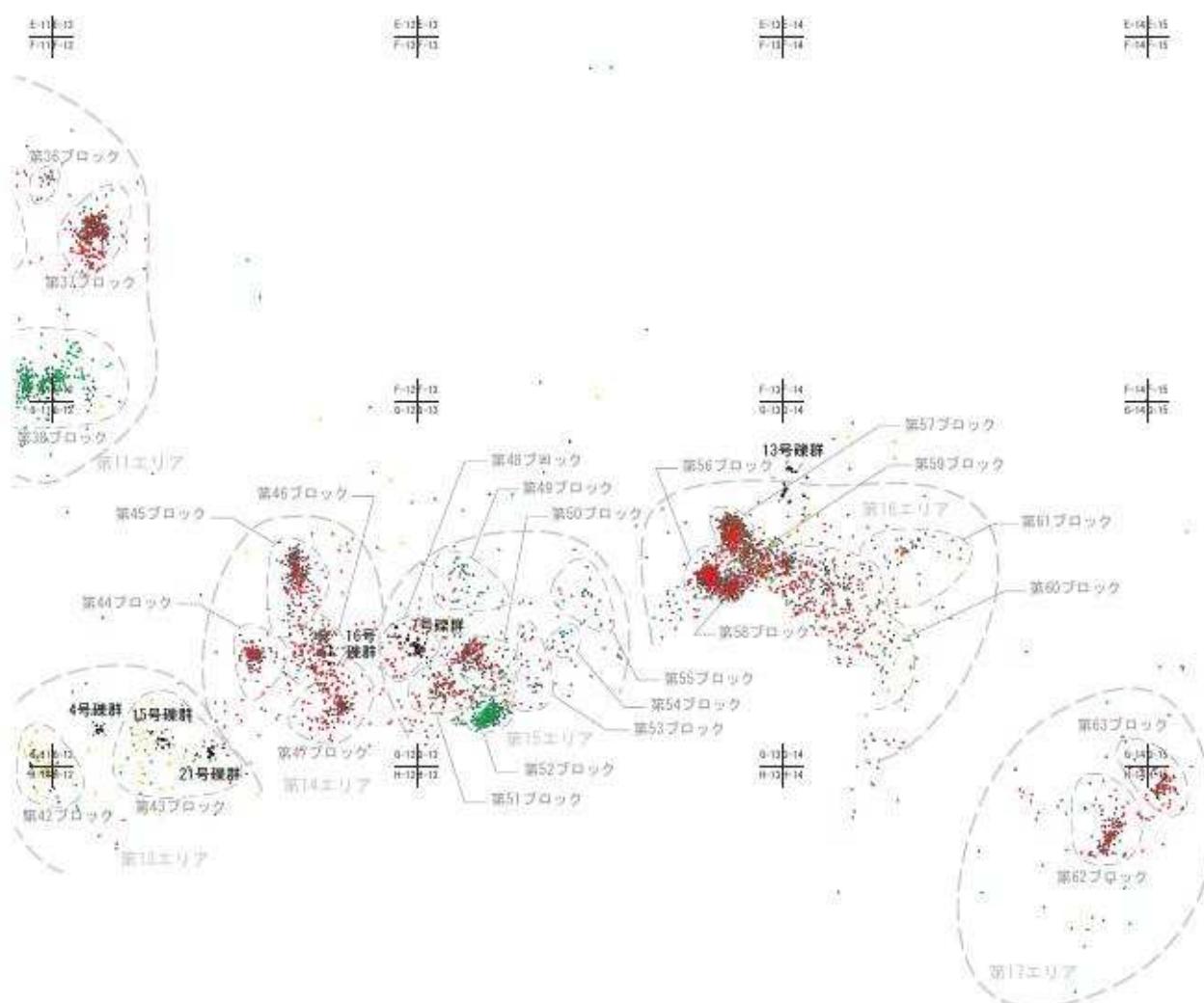
10号礫群(第28号)
F-10まで検出し、第9エリア第24ブロックとすなる。小型の窓を被りしている。窓の一部は板熱により崩壊している。やや板熱をもって窓が残る。墨り込み石は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

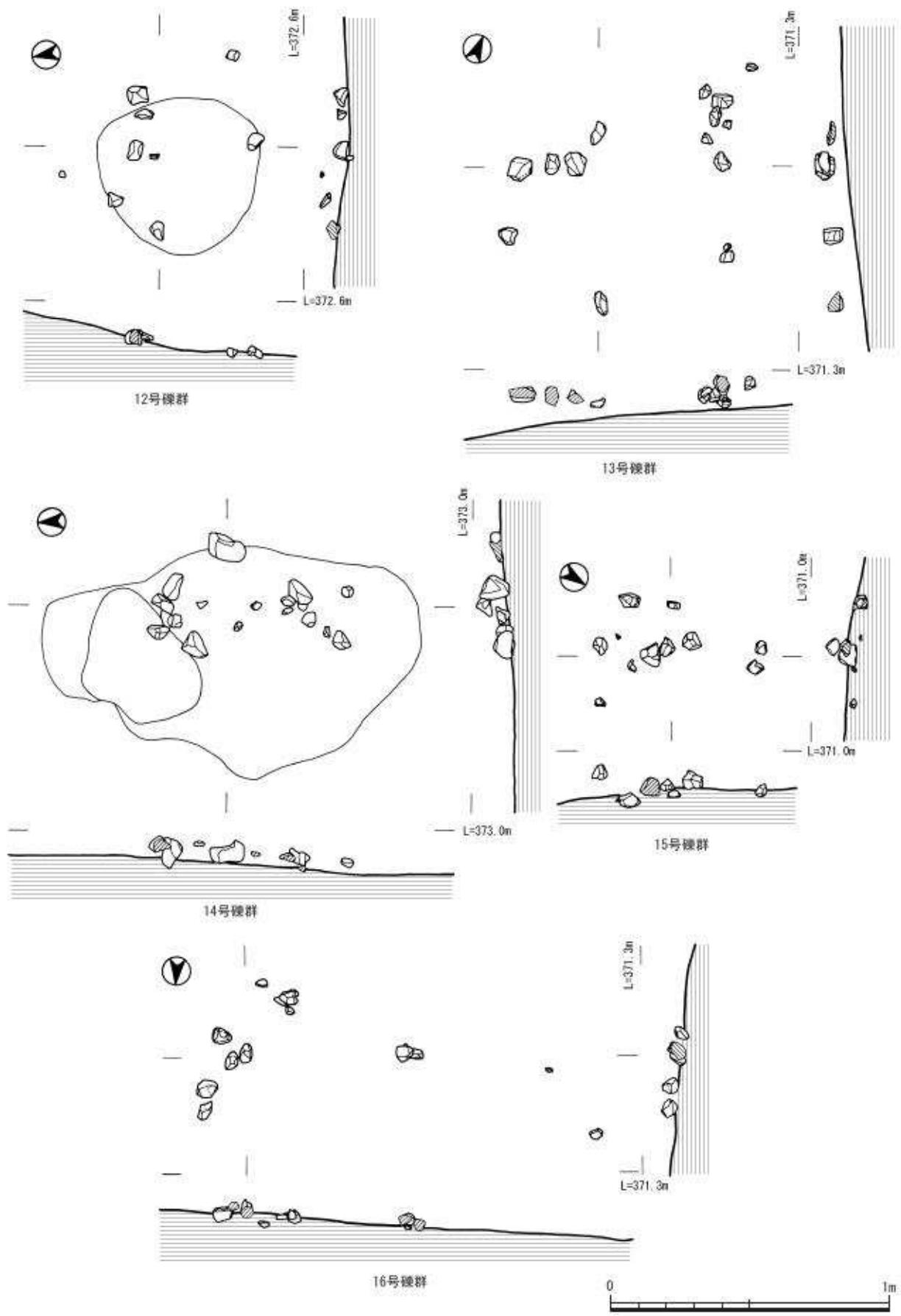
11号礫群(第30号)
B-6まで検出し、第2エリア第2ブロックとすなる。砂岩を被りし、小型の窓が多い。一部の窓には板熱による崩壊と板熱がみられる。板熱窓はやや浮遊した状態を示す。墨り込み石は確認していない。
(礫群Ⅲ類)

12号礫群(第33号)
G-9まで検出し、第8エリアに含まれる。安息岩、砂岩を被りし、小型の窓が多い。窓は板熱により崩壊している。特に安息岩の板熱の度合いが大きくなれて崩れやすくなっている。周辺に粘土岩の分布がみられるが、焼成を検出するには至っていない。やや中性質に板熱をもって窓が残る。検査するに至っていないが、窓の残存状況からU字型の墨り込みがなされた可能性がある。
(礫群Ⅲ類)

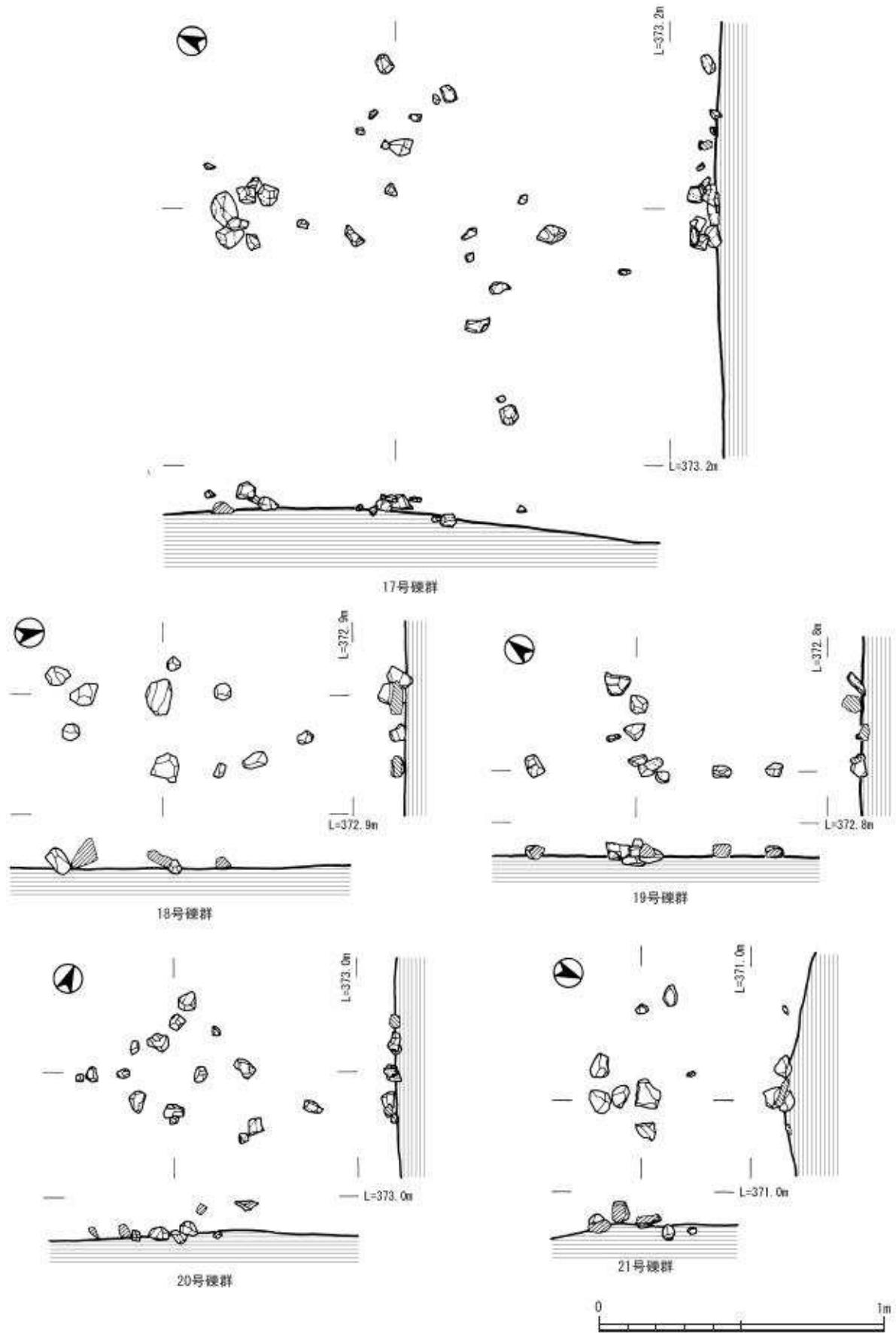


第32図 第II文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)





第33図 第II文化層遺構実測図(4)



第34図 第II文化層遺構実測図(5)

13号礫群(第33タ)

G-14ゾで検出し、第16エリアと接する位置にある。全般的に硬質のル片を復元している。礫の粒数は多くないが、リ型の礫が多く、小型の礫が少く、分布域が分かれている傾向にある。一部の礫には板熱によるル片がみられる。磨り込み跡は確認していない。

(礫群Ⅲ類)

14号礫群(第33タ)

F-11ゾで検出し、第9エリアに接する。砂岩を復元し、岩コアや岩片が混ざる。リ型の礫が多く、一部熱風化した小礫が混ざる。礫の分布はトキく2ヶ所に分かれる。一部の礫のまとまりは板熱によりル片化している。さらにより前に、角状物類の集団がみられ、そこから中間に角状物類の散らばりがみられる。わずかに中間に傾斜して礫が残る。

(礫群Ⅲ類)

15号礫群(第33タ)

G-12ゾで検出し第13エリア第43ブロック内にあり、同ブロックには21号礫群もある。砂岩を復元し、小型の礫が多い。リ型でも大きな部類の礫には、板熱によるル片化がみられる。板熱により熱風化した小礫も混ざる。豊富な21号礫群とル片が類似する。

(礫群Ⅲ類)

16号礫群(第33タ)

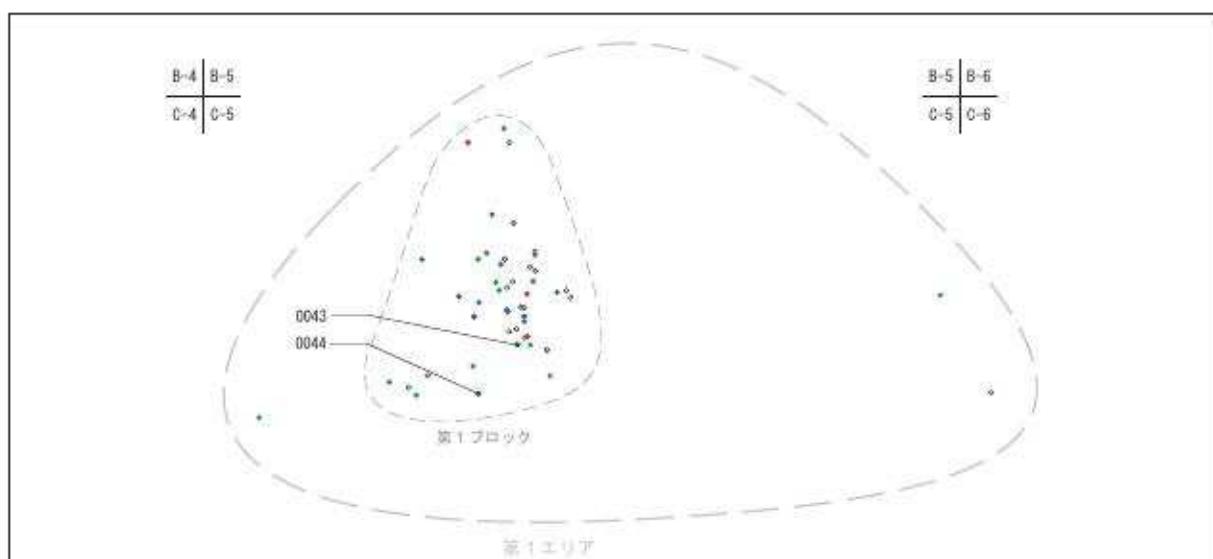
G-12ゾで検出し、第14エリア第46ブロック内にある。岩コアや岩片が混ざる。リ型の礫が多く、一部熱風化した小礫が混ざる。礫の分布はトキく2ヶ所に分かれる。リ型の礫のまとまりは板熱によりル片化している。わずかに中間に傾斜して礫が残る。

(礫群Ⅲ類)

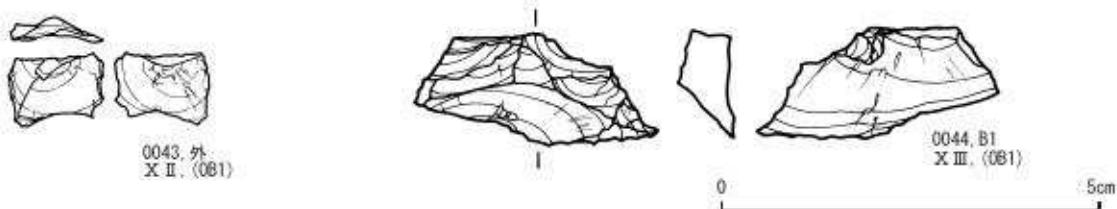
17号礫群(第34タ)

F-10ゾで検出し、第9エリア第22ブロック内の端に位置する。リ型の砂岩を復元し、岩コアや岩片が混ざる。リム部分にわずかに角状物類がみられるが、礫に板熱の様子はほとんど見られない。

(礫群Ⅲ類)



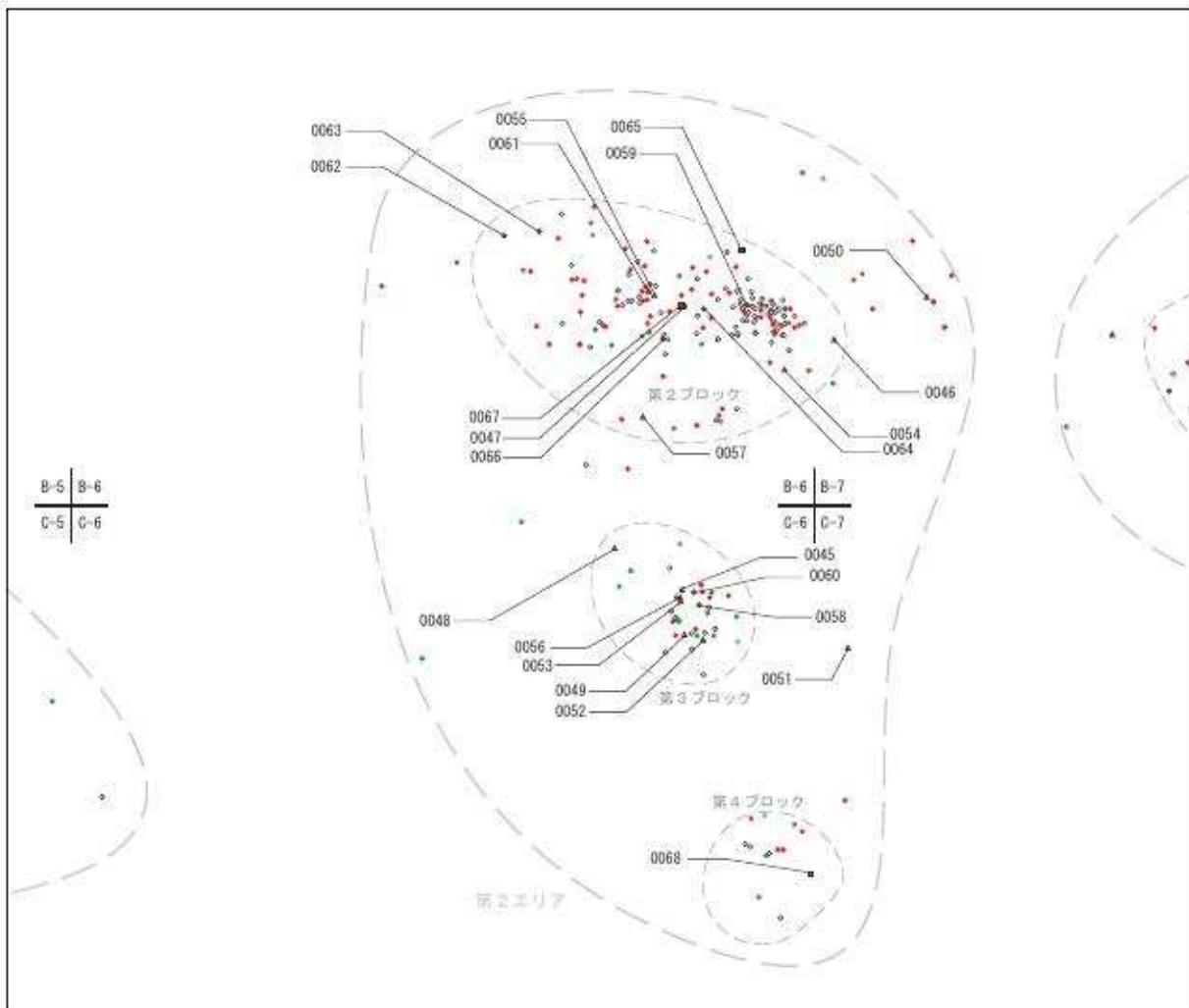
第35図 第II文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図



第36図 第II文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図

第6表 第II文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	コロカ	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	割合	接合No
36	0043	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A1	外	081	-	9.8	12.7	2.4	0.26	23794	X II	C-5	-
	0044	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A1	B1	081	-	14.9	32.3	7.0	2.25	23804	X III	C-5	-



第37図 第II文化層第1ユニット第2エリア遺物出土状況図

18号機群(第34ヶ)

F-10空で検出し、第9エリア第23ブロックの東端にある。砂岩を剥戻し、ト型窓から小型窓が混在する。一部の窓は板熱により崩壊している。窓群のえりありにわずかに崩壊跡がみられる。

(窓群Ⅲ類)

19号機群(第34ヶ)

F-10空で検出し、第10エリア第28ブロック上にあり、18号機群と近い位置にある。少成岩系の窓を剥戻し、小型の窓が多い。窓形状は戸窓であるが脊張している。ほとんどの窓は板熱により崩壊している。

(窓群Ⅲ類)

20号機群(第34ヶ)

F-10空で検出し、第9エリア第21ブロックの東端にある。砂岩と安山岩を見出し、小型の窓が多い。オルガ洞の窓は板熱により崩壊がみられる。崩壊跡がもわずかにみられる。

(窓群Ⅲ類)

21号機群(第34ヶ)

G-12空で検出し、第13エリア第43ブロック上にあり、4ブロックには15号機群がある。砂岩を剥戻し、ト型の窓が多い。窓は全般的に板熱により崩壊、変形がみられる。一部熱取扱による小窓も混ざる。

(窓群Ⅲ類)

3 遺物

第II文化層ではXIII層からE-10で検出した遺物を中心に入り始めた。

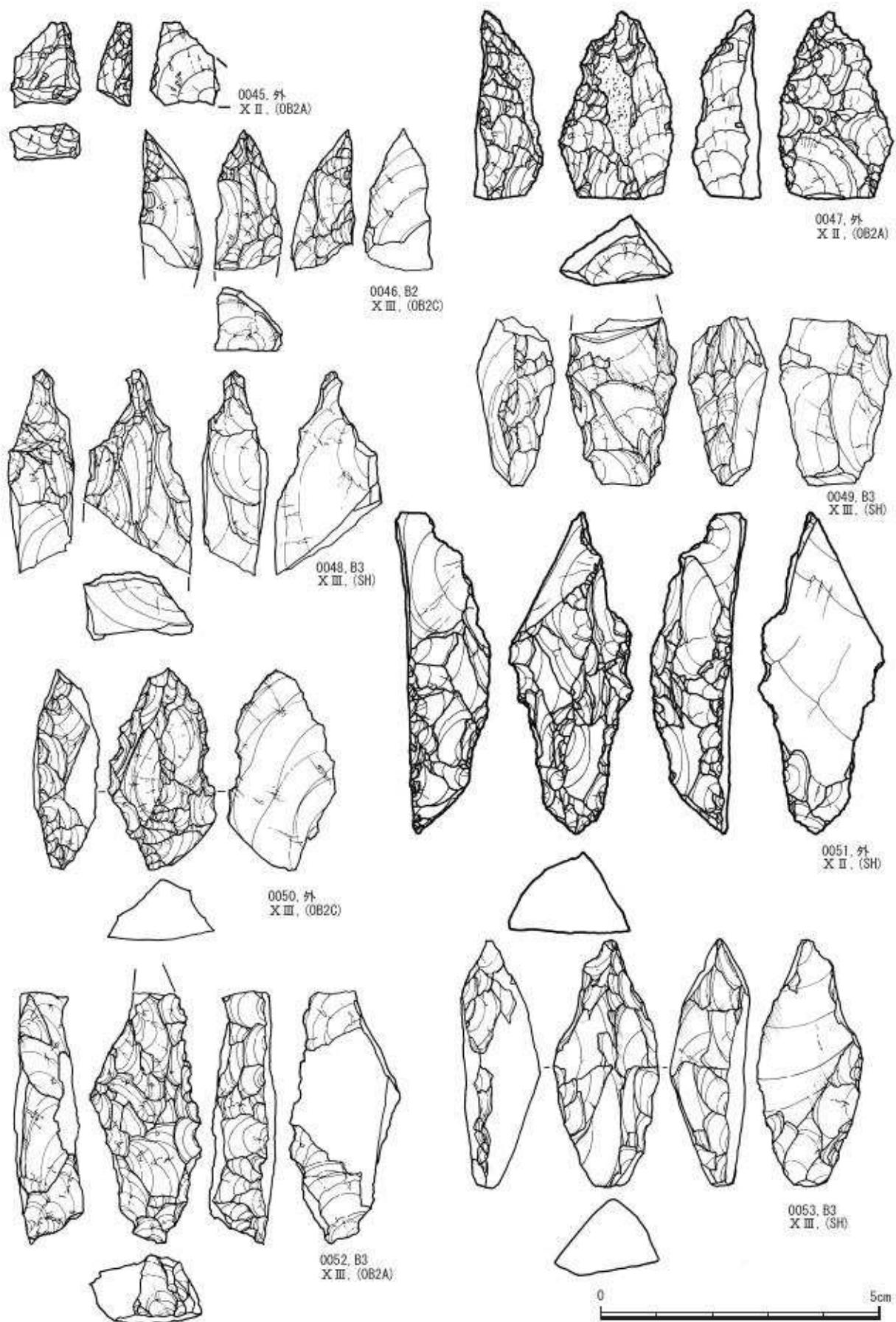
第II文化層のユニット配置とE-10段階の概要は、第25空を参照されたい。

第1ユニット

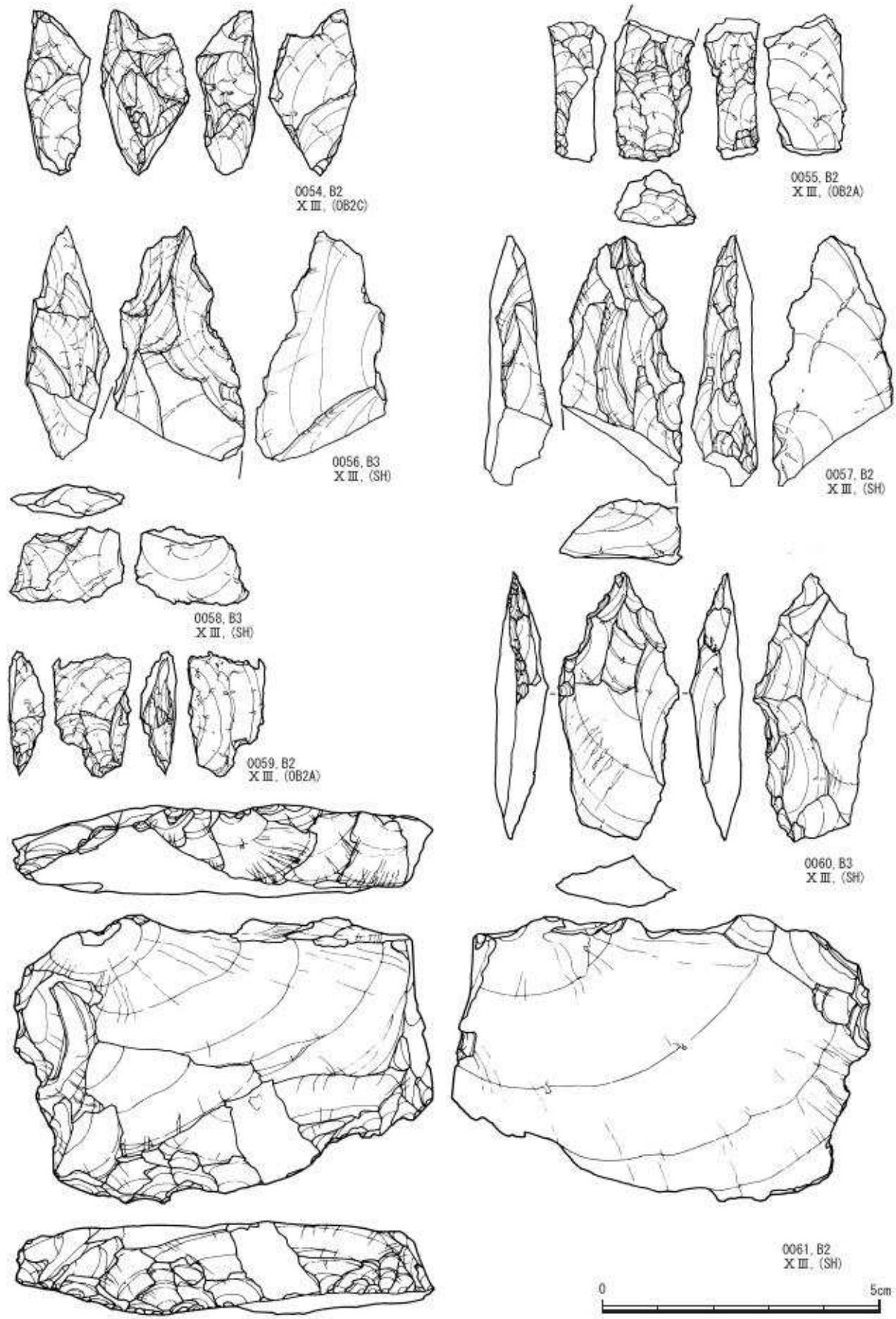
第1エリア(第35ヶ、第36ヶ)

C-5空にあり、黒曜石I類、黒曜石II-A類、安山岩、石器の4種のもので構成する。

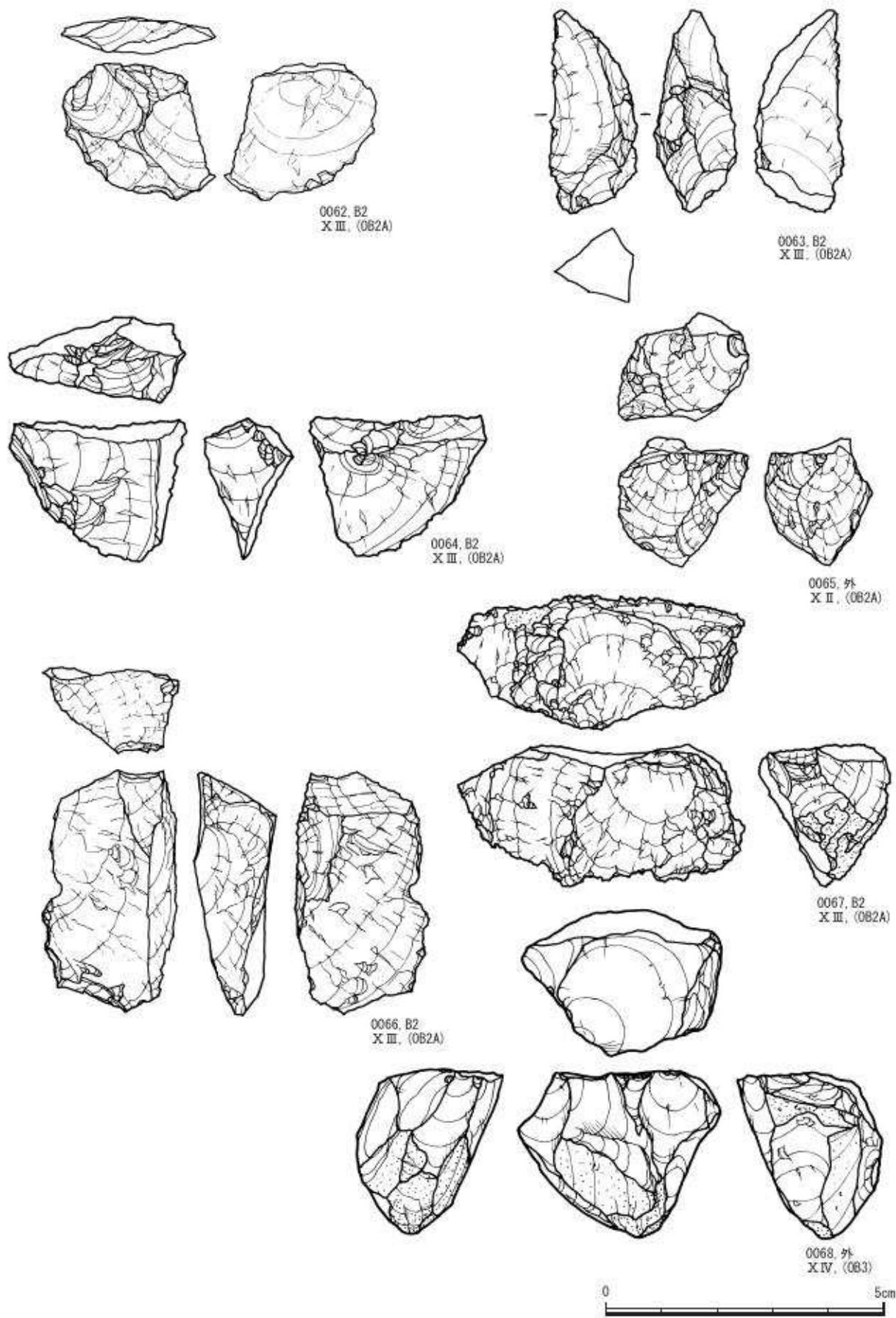
主にプランティングチップ(0043, 0044)やチップからなり、ト型の石器は確認されない。



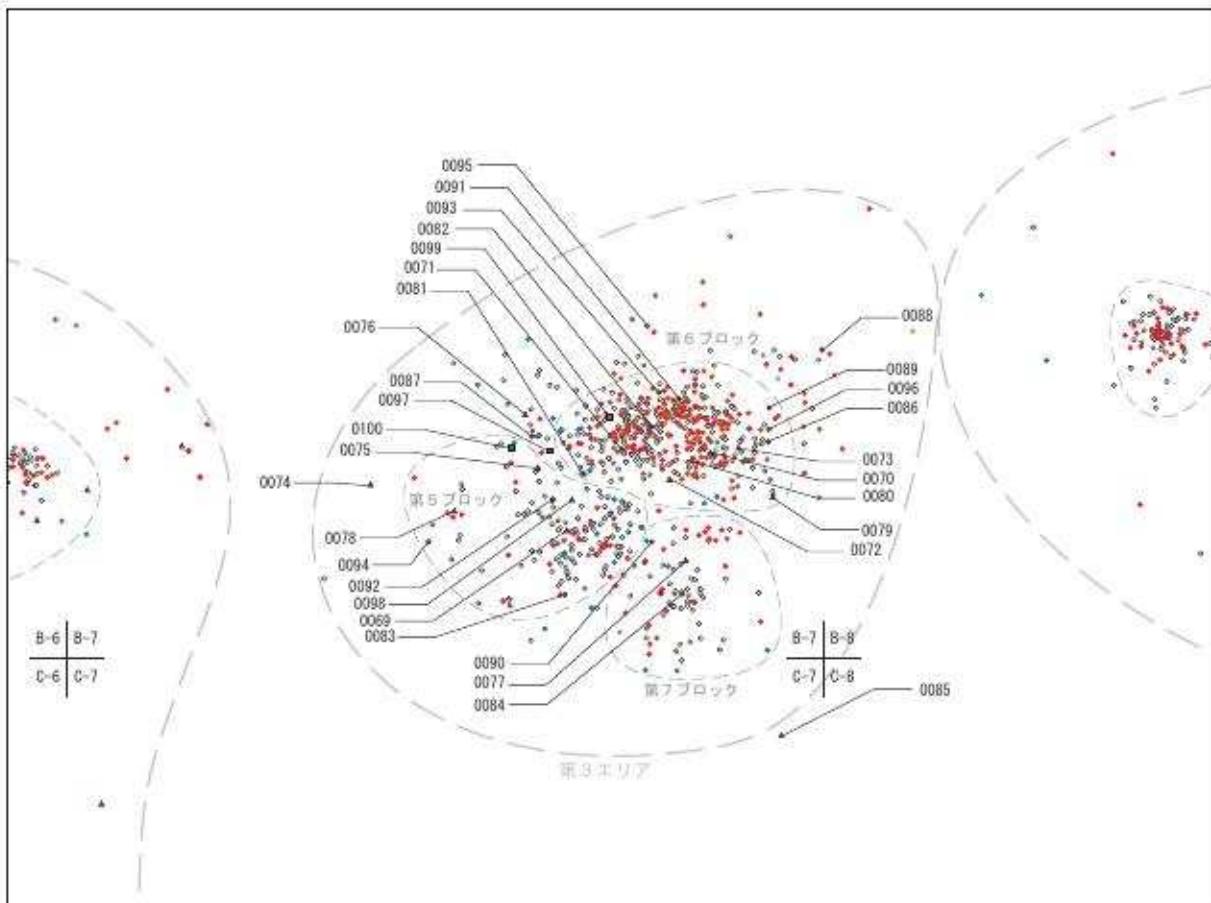
第38図 第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(1)



第39図 第Ⅱ文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(2)



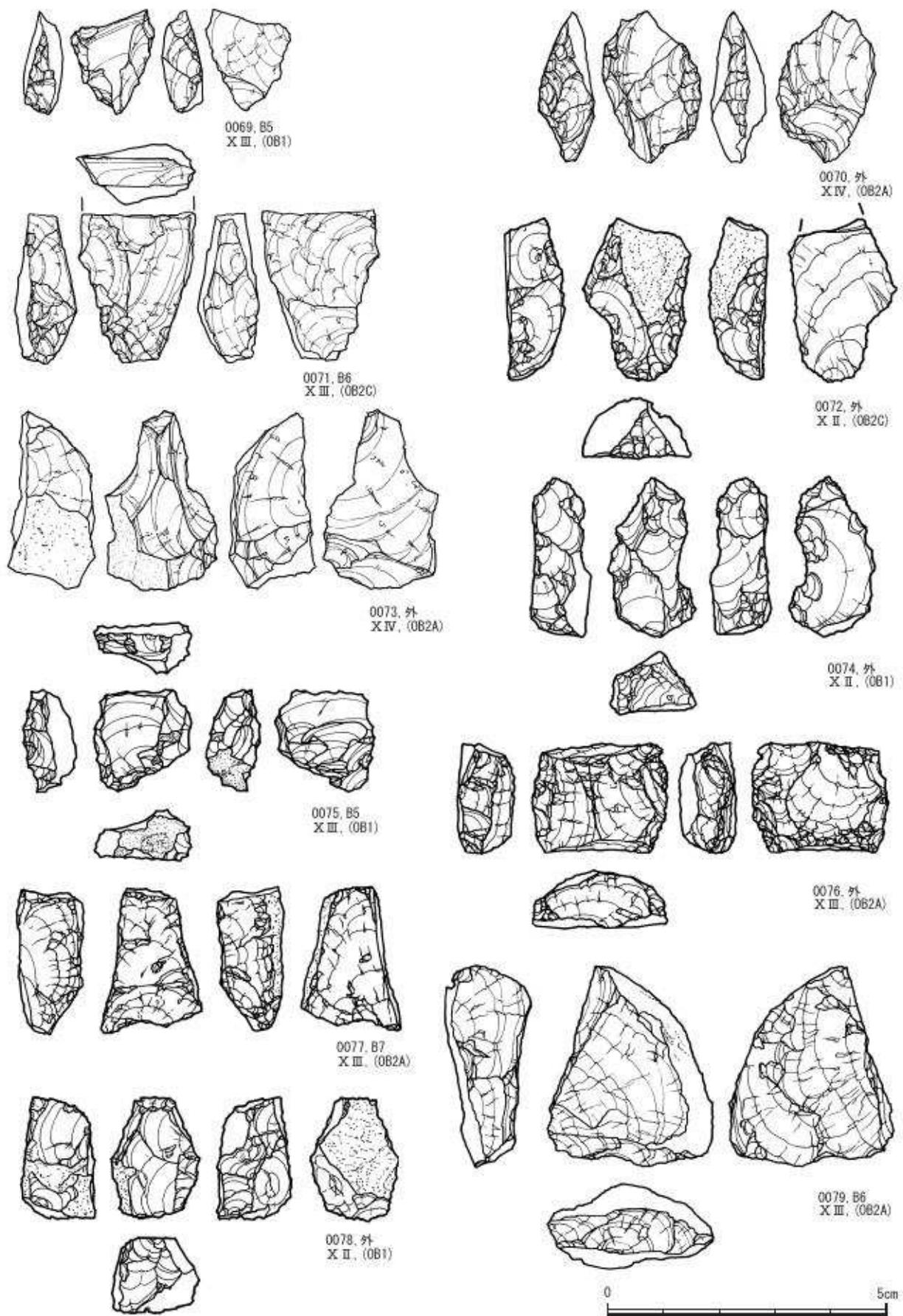
第40図 第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器実測図(3)



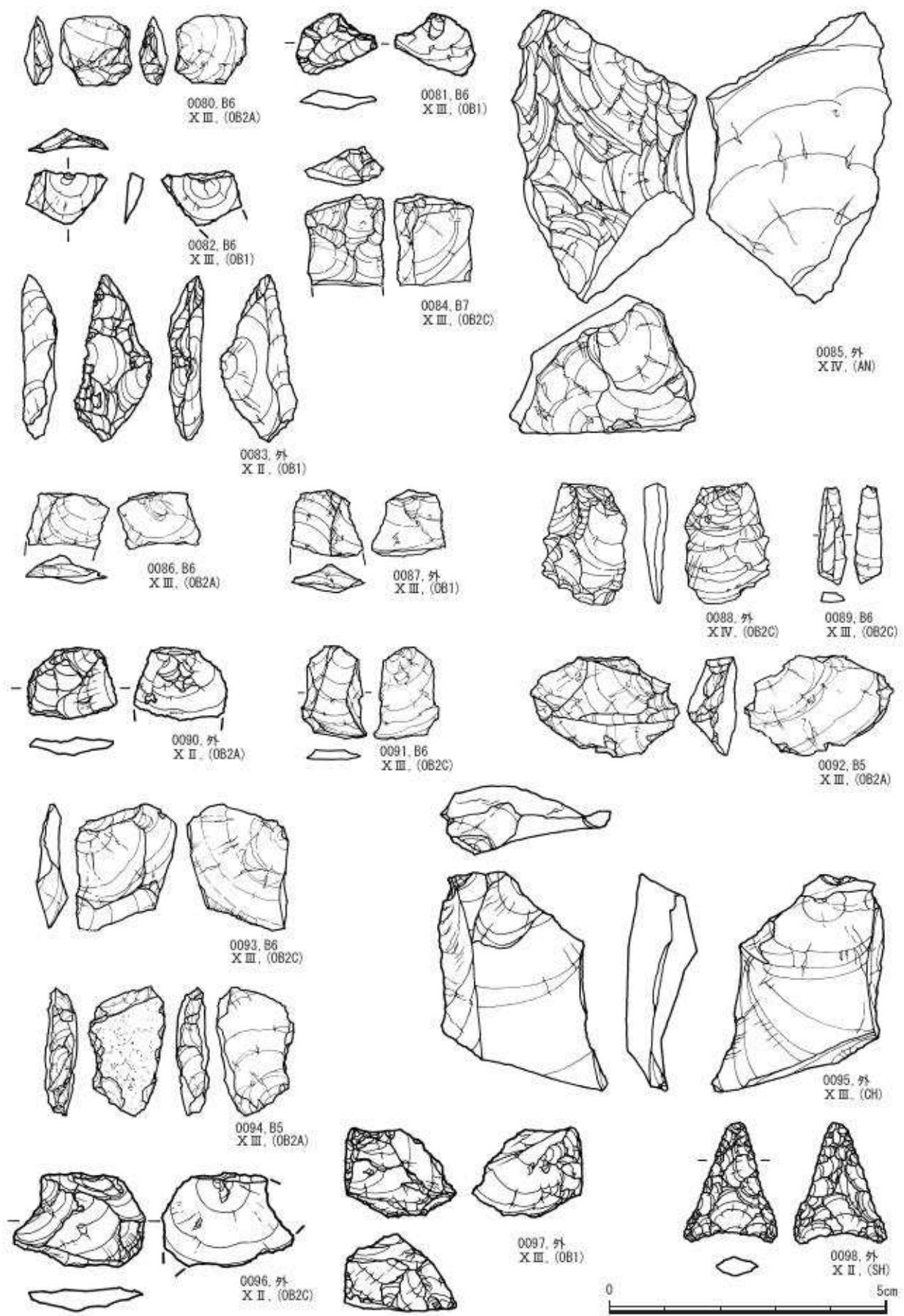
第41図 第II文化層第1ユニット第3エリア遺物出土状況図

第7表 第II文化層第1ユニット第2エリア出土石器観察表

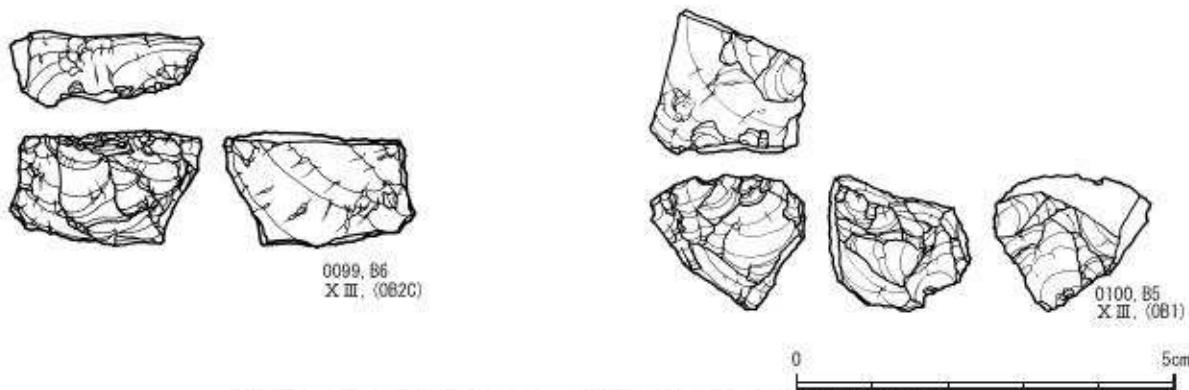
括弧 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	リガフ	接合 No
38	0045	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A2	外	0B2	A	(15.5)	(12.7)	(6.0)	(0.98)	23760	X II	C-6	-
	0046	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B2	0B2	C	(25.2)	(12.2)	(12.0)	(2.09)	24257	X III	B-7	-
	0047	石器	尖頭状石器	-	II	U1	A2	外	0B2	A	33.7	20.7	14.4	6.31	23574	X II	B-6	-
	0048	石器	離状石器	-	II	U1	A2	B3	SH	-	(36.7)	(19.5)	(12.0)	(6.09)	24317	X III	C-6	-
	0049	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B3	SH	-	(30.3)	(20.0)	(14.1)	(8.03)	24466	X III	C-6	-
	0050	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	外	0B2	C	36.2	19.5	12.1	6.60	24255	X III	B-7	-
	0051	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	外	SH	-	57.7	22.4	17.5	14.50	23489	X II	C-7	-
	0052	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B3	0B2	A	(44.8)	(20.0)	(12.5)	(9.77)	24319	X III	C-6	56
	0053	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B3	SH	-	44.3	19.1	12.5	8.97	24312	X III	C-6	-
39	0054	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A2	B2	0B2	C	29.6	16.1	11.0	4.12	24023	X III	B-6	-
	0055	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	(25.3)	(14.6)	(8.8)	(3.59)	24295	X III	B-6	-
	0056	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B3	SH	-	(42.1)	(23.8)	(15.0)	(8.61)	23528	X III	C-6	60
	0057	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A2	B2	SH	-	(44.8)	(22.5)	(10.4)	(8.79)	24302	X III	B-6	-
	0058	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A2	B3	SH	-	13.7	20.7	6.0	1.33	24460	X III	C-6	60
	0059	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	22.1	14.3	6.5	1.69	24018	X III	B-6	-
	0060	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A2	B3	SH	-	47.9	21.9	9.4	6.18	24459	X III	C-6	-
	0061	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	II	U1	A2	B2	SH	-	51.9	75.4	15.1	73.70	24453	X III	B-6	-
40	0062	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	24.5	27.6	6.2	3.35	24455	X III	B-6	-
	0063	剥片	-	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	36.5	16.0	15.2	5.92	24454	X III	B-6	49
	0064	剥片	-	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	25.6	32.0	14.7	7.33	24446	X III	B-6	-
	0065	石核	-	-	II	U1	A2	外	0B2	A	23.4	23.5	18.9	7.41	23582	X II	B-6	-
	0066	剥片	-	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	43.5	24.3	14.2	10.82	23999	X III	B-6	-
	0067	石核	-	-	II	U1	A2	B2	0B2	A	25.7	51.4	24.0	23.40	24289	X III	B-6	48
	0068	石核	-	-	II	U1	A2	外	0B3	-	30.1	36.6	26.1	24.21	24900	X IV	C-6	-



第42図 第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(1)



第43図 第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(2)



第44図 第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器実測図(3)

第2エリア(第37ヶ、第38~40ヶ)

B.C-6.7ヶ。に分布し、3つのブロックからなる。第2ブロックは黒曜岩II-A類を主に黒曜岩I類、第3ブロックは黒曜岩II-A類とI類で主にI類、第4ブロックは黒曜岩II-A類を主に黒曜岩I類の比率で構成する。

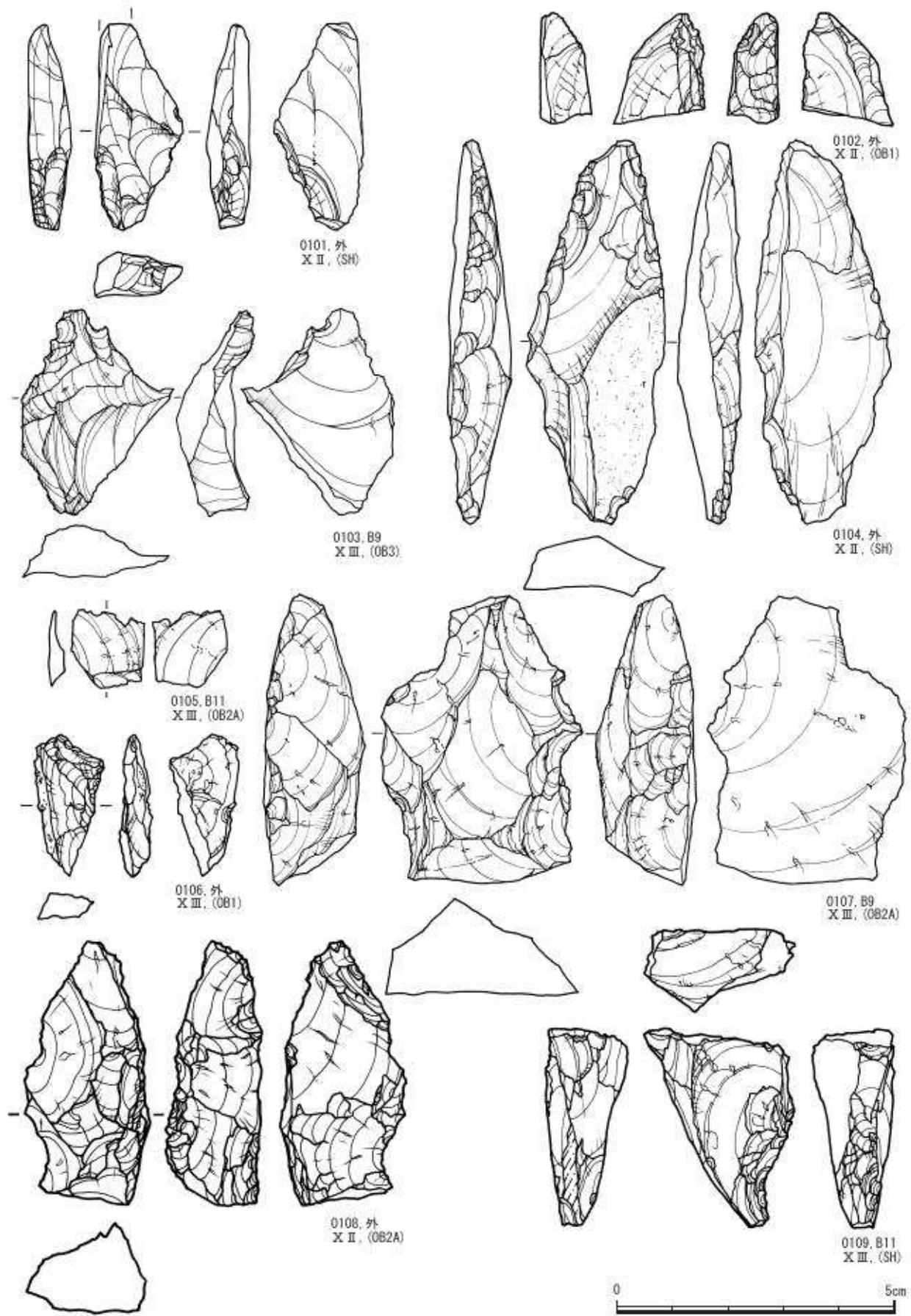
器種構成としては、ナイフ形石器1点(0045)、尖頭状石器(0047)1点、三稜尖頭器8点(0046, 0049)

~0053, 0056, 0057)、錐状石器1点(0048)、二本刃のある剥片3点(0054, 0055, 0061)、石核3点(0065, 0067, 0068)を地出できる。

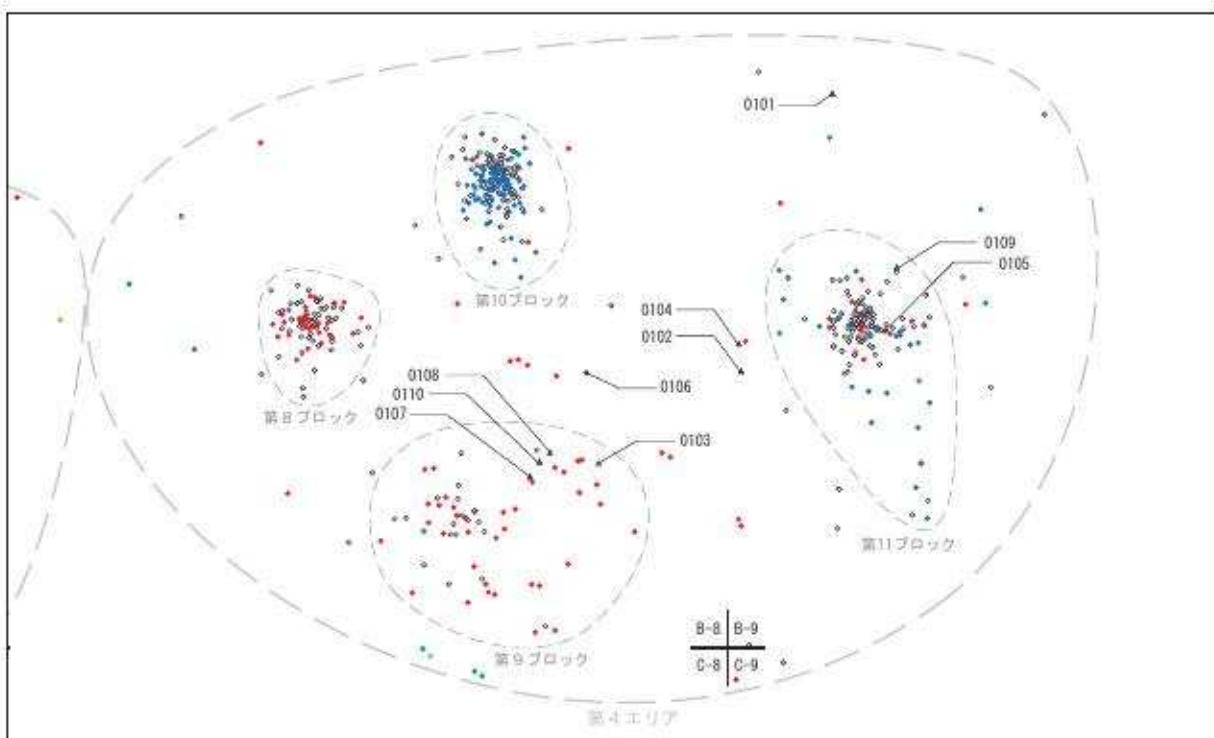
ナイフ形石器の0045は先端部破壊品で、もはや刃からアレルシカ正在进行している。0047はもはや刃からアレルシカ正在进行。0047はもはや刃からアレルシカ正在进行。先端部の形状から意識が違うことと尖頭器状の仕上げが見えできることから尖頭状石器として取り扱った。

第8表 第II文化層第1ユニット第3エリア出土石器観察表

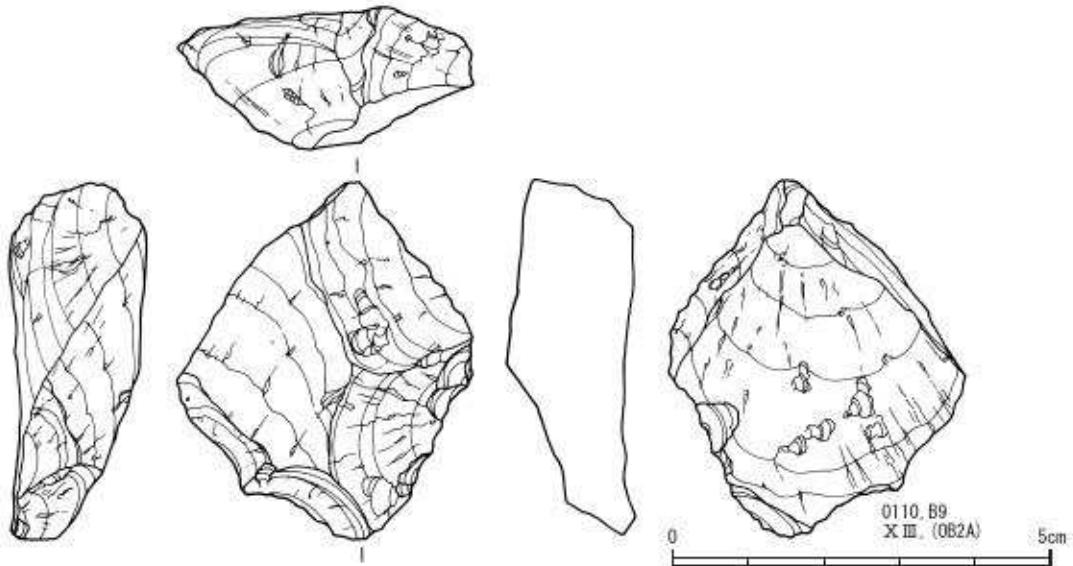
擇番 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット U1	イリット B6	ロット OB1	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 XIII	判別 B-7	接合 No
42	0069	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A3	B6	OB1	-	18.9	15.1	7.7	1.36	24507	XIII	B-7	-
	0070	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A3	外	OB2	A	27.3	17.8	10.2	3.62	24813	XIV	B-7	-
	0071	石器	ナイフ形石器	ナイフ?	II	U1	A3	B6	OB2	C	(27.1)	(21.0)	(11.0)	(5.62)	24380	XIII	B-7	-
	0072	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A3	外	OB2	C	(29.2)	(19.6)	(10.5)	(4.52)	23653	XII	B-7	130
	0073	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A3	外	OB2	A	32.0	20.2	15.5	7.47	24809	XIV	B-7	-
	0074	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U1	A3	外	OB1	-	28.7	16.0	11.6	4.16	23611	XII	B-7	-
	0075	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	II	U1	A3	B6	OB1	-	18.4	17.7	9.5	2.50	23943	XIII	B-7	-
	0076	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U1	A3	外	OB2	A	19.7	24.5	10.3	5.17	23941	XIII	B-7	-
	0077	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイバー	II	U1	A3	B7	OB2	A	25.9	18.3	12.0	5.65	23853	XIII	B-7	-
	0078	石器	二次加工痕のある剥片	残核	II	U1	A3	外	OB1	-	22.0	16.2	13.3	4.89	23615	XII	B-7	-
43	0079	石器	スクレイバー	-	II	U1	A3	B6	OB2	A	36.0	29.8	15.8	12.94	23814	XIII	B-7	-
	0080	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	B6	OB2	A	12.5	13.0	5.2	0.68	24082	XIII	B-7	-
	0081	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	B6	OB1	-	11.1	14.7	3.8	0.38	24616	XIII	B-7	-
	0082	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	B6	OB1	-	(10.0)	(14.8)	(3.3)	(0.26)	24603	XIII	B-7	-
	0083	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	外	OB1	-	30.2	14.2	6.6	1.73	23625	XII	B-7	-
	0084	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	B7	OB2	C	(16.6)	(14.4)	(7.2)	(1.40)	24510	XIII	B-7	-
	0085	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A3	外	AN	-	52.8	33.4	25.0	38.81	24945	XIV	C-7	-
	0086	剥片	折断剥片	-	II	U1	A3	B6	OB2	A	(10.3)	(15.0)	(5.6)	(0.47)	23819	XIII	B-7	-
	0087	剥片	折断剥片	-	II	U1	A3	外	OB1	-	(12.2)	(13.1)	(4.9)	(0.69)	24161	XIII	B-7	-
	0088	剥片	-	-	II	U1	A3	外	OB2	C	21.8	15.3	5.0	1.04	24946	XIV	B-7	-
44	0089	チップ	-	-	II	U1	A3	B6	OB2	C	17.6	5.4	2.2	0.19	24061	XIII	B-7	-
	0090	剥片	-	-	II	U1	A3	外	OB2	A	(13.1)	(16.4)	(3.3)	(0.72)	23862	XII	B-7	-
	0091	剥片	-	-	II	U1	A3	B6	OB2	C	16.8	11.9	2.0	0.41	24484	XIII	B-7	-
	0092	剥片	-	-	II	U1	A3	B5	OB2	A	18.0	27.0	9.0	3.28	24401	XIII	B-7	-
	0093	チップ	プランティングチップ	-	II	U1	A3	B6	OB2	C	22.7	18.3	5.5	1.72	24106	XIII	B-7	-
	0094	剥片	-	-	II	U1	A3	B5	OB2	A	23.5	14.0	6.1	1.89	24177	XIII	B-7	-
	0095	剥片	折断剥片	-	II	U1	A3	外	CH	-	39.6	30.7	12.6	10.80	23833	XIII	B-7	-
	0096	剥片	-	-	II	U1	A3	外	OB2	C	(17.2)	(24.0)	(4.6)	(1.57)	23670	XII	B-7	-
44	0097	石核	残核	-	II	U1	A3	外	OB1	-	16.3	20.2	14.1	4.17	23932	XIII	B-7	-
	0098	石器	石鎚	-	II	U1	A3	外	SH	-	21.8	17.0	3.0	0.79	23678	XII	B-7	-
44	0099	石核	残核	-	II	U1	A3	B6	OB2	C	15.5	25.5	10.3	3.56	24389	XIII	B-7	-
	0100	石核	-	-	II	U1	A3	B5	OB1	-	18.0	20.6	19.0	4.88	24163	XIII	B-7	-



第45図 第II文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(1)



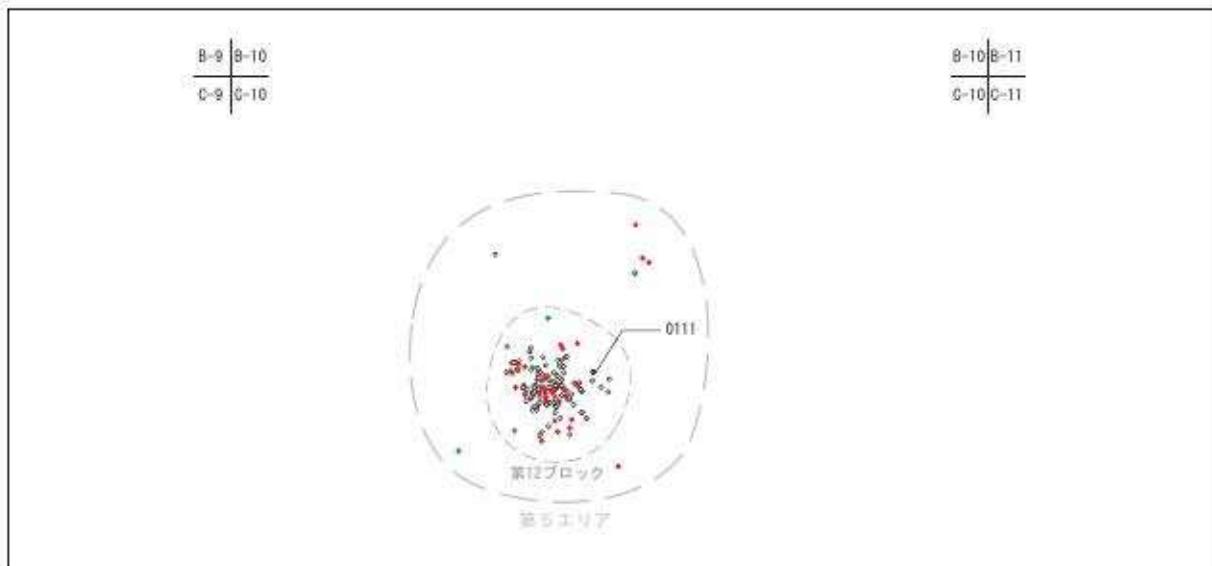
第46図 第II文化層第1ユニット第4エリア遺物出土状況図



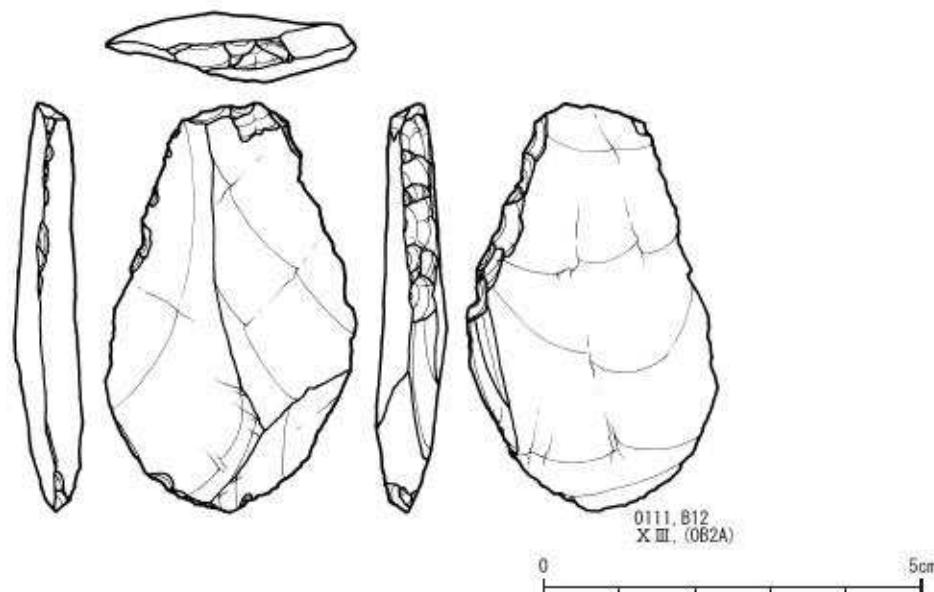
第47図 第II文化層第1ユニット第4エリア出土石器実測図(2)

第9表 第II文化層第1ユニット第4エリア出土石器観察表

插図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	判別 No.	接合 No.
45	0101	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A4	外	SH	-	(37.2)	(16.1)	(7.3)	(4.14)	6141	X II	B-9	-
	0102	石器	ナイフ形石器	-	II	U1	A4	外	OB1	-	19.7	16.7	8.7	2.34	5910	X II	B-9	-
	0103	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A4	B9	OB3	-	36.9	27.5	13.5	6.64	6418	X III	B-8	-
	0104	石器	尖頭状石器	-	II	U1	A4	外	SH	-	69.0	25.0	10.8	16.03	5909	X II	B-9	-
	0105	剥片	折断剥片	-	II	U1	A4	B11	OB2	A	14.1	13.3	3.0	0.52	6178	X III	B-9	-
	0106	剥片	プランティングチップ	-	II	U1	A4	外	OB1	-	25.6	12.8	5.2	1.36	6285	X III	B-8	-
	0107	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A4	B9	OB2	A	51.8	36.3	17.8	29.07	6411	X III	B-8	-
	0108	石器	三稜尖頭器	-	II	U1	A4	外	OB2	A	47.6	23.0	15.4	15.18	6424	X II	B-8	-
	0109	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A4	B11	SH	-	35.8	27.2	15.1	9.48	6159	X III	B-9	-
47	0110	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U1	A4	B9	OB2	A	47.2	39.2	17.5	25.55	6422	X III	B-8	-



第48図 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア遺物出土状況図



第49図 第Ⅱ文化層第2ユニット第5エリア出土石器実測図

三種尖頭器の0053の鋼鐵刃口はもはげ藏に集めし。ちび鐵の形状を大きく変えていない。先端部は意識的な上上がりが見られ、奥の头部調整は「審」と言える。0046は純粹な上上がりの先端部、0056、0057も先端部と判断したが、調整刃口がこちらに偏る傾向が認められる。

0050の身上からの講坐封體は、多少とも最終段階で失墜し、下器の厚みを減じる傾向と見られる。なお、下器自身は完成品とみられる。0051は、上端部や側面の木彫體は身上からの講坐封體で、特に下端部周辺の身上封體は下器の厚みを減じている。器種の判断は、下端周辺の身上封體とさらに腹に講坐も認められることから、三身上

第10章 第II 文化層第2ユニット第5トリア出土石器

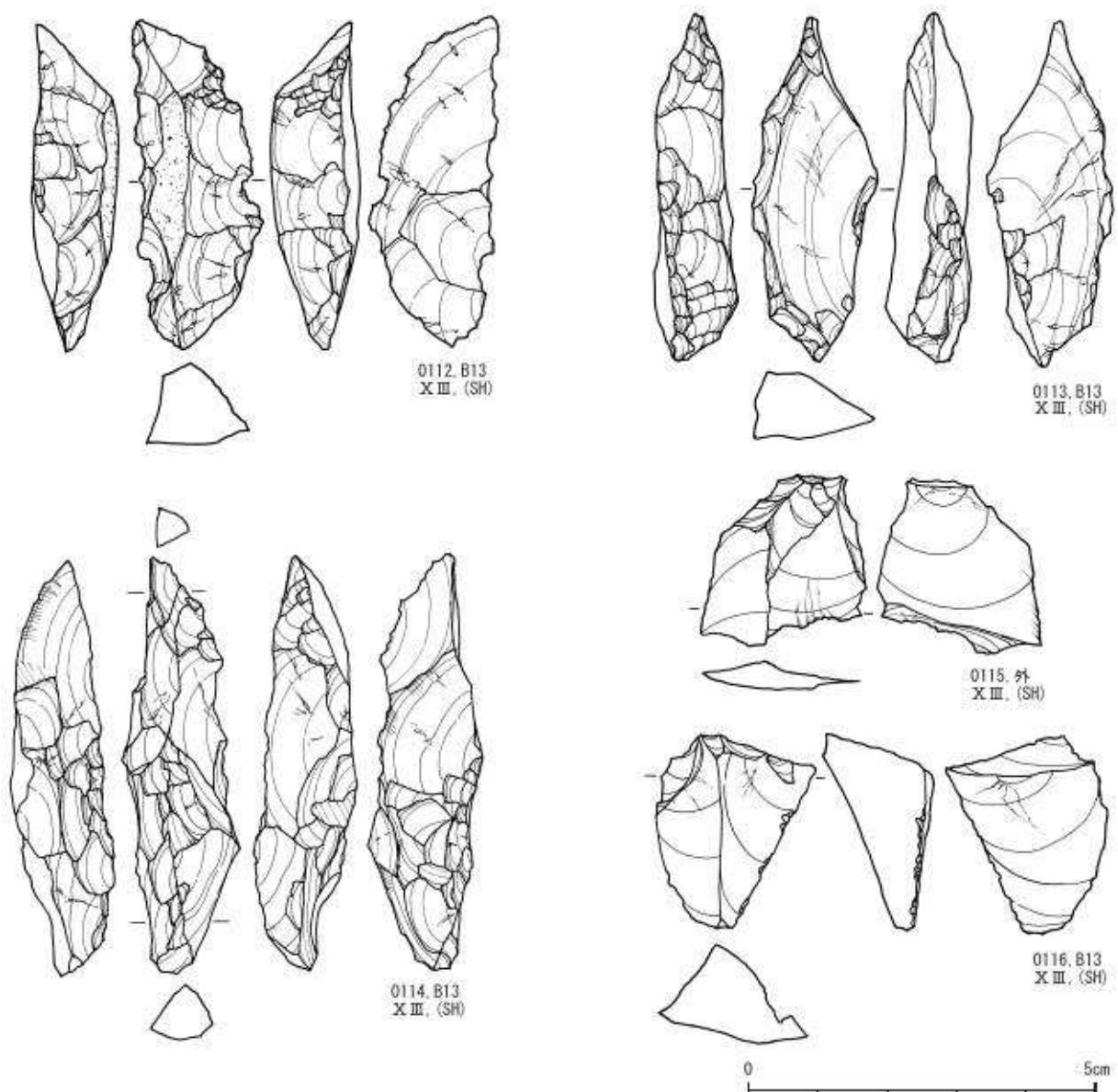
尖頭器とした。0052の♀乳部付近の筋と皮膚も同様に厚みを減している。0049は若魚に♀♂を始め、三枚尖頭器の本部と判斷したもので、即ちカコ。本部厚さカコが求められる。

0048の先端部は厚さからの剥離と若きからの微細な剥離で、始に壊滅されることから、錐状器と判断した。二本柱のある封片の0061は封片の4/5に干渉した痕が認められるが、その用途についてはスクレーパー棒の想定をしている。なお、 $\frac{1}{2}$ 端までの均等部は剥離である。

0060については、三枚尖頭器あるいはそれに類する尖

第10表 第II文化層第2ユニット第5エリア出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	セクション	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	判別	接合No
49	0111	剥片	-	-	II	U2	A5	B12	082	A	54.2	33.4	7.5	12.04	6081	XIII	C-10	-



第50図 第II文化層第2ユニット第6エリア出土石器実測図

頭状石器のプランティングチップと判断している。丘陵とした0065は残片に近い状態とみられる。0065も含め0067と0068の丘陵からは、随帯的移動が行われたことが読みとれる。

この第2エリアのオーブルは黒曜岩II-A類で、黒曜岩II-A類を素材とした石器製作が行われていたと判断できる。一方、製品に塑しては、工具を用いる比率が高く、製品の堆積が想定される。

第3エリア(第41号、第42~44号)

B-7, 8号に分布し、黒曜岩を主体とする3ブロックが認められる。これらの材料を土中に、特に集中する部分を第3ブロックとし、その3ブロックは既に改変するものを含め、第3エリアとした。

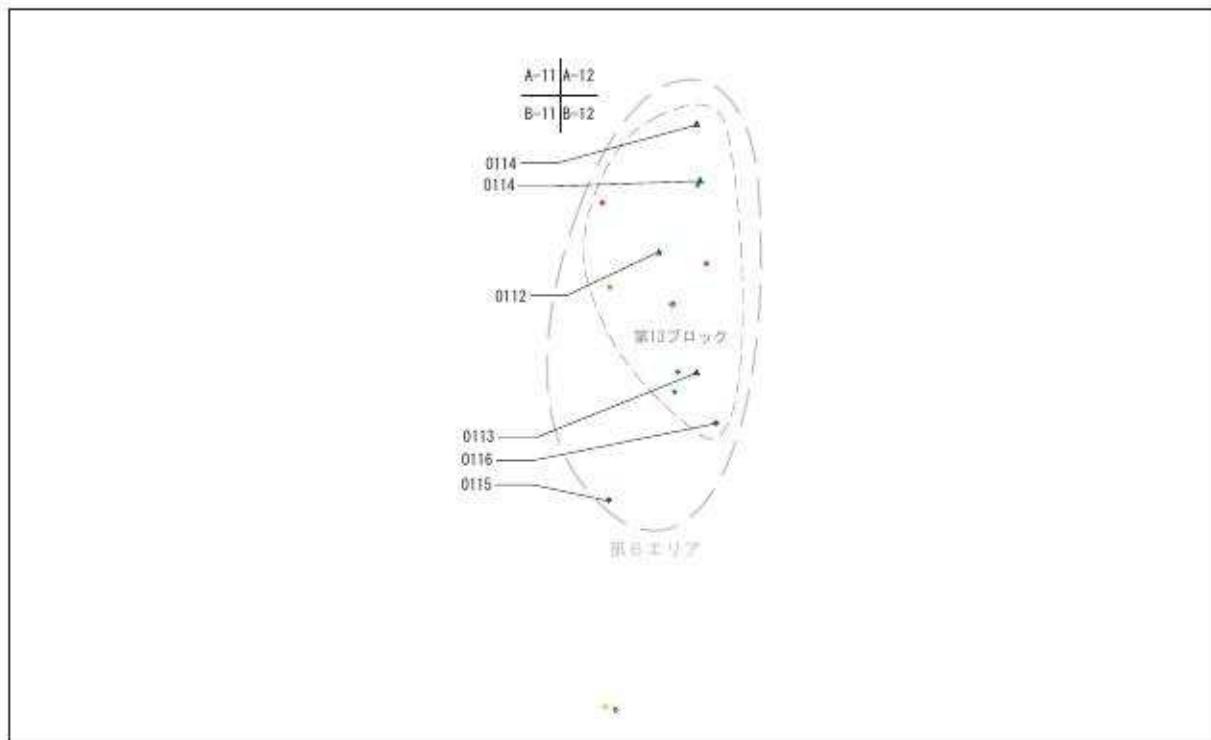
第5ブロックは黒曜岩II-A類と黒曜岩I類、第6ブ

ロックは黒曜岩II-C類を主体に黒曜岩II-A類、黒曜岩I類、黒曜岩II-B類、黒曜岩III類、更者で、第7ブロックは黒曜岩II-A類を主体に黒曜岩I類と黒曜岩II-C類が3点ずつがわる。

4点のナイフ形石器(0069~0072)と3枚尖頭器1点(0073)、二本丸のある丸片6点(0074~0078, 0085)、スクレイバー1点(0079)と5枚1点(0098)等を確認できる。

ナイフ形石器の0069は扇の扇いだ片を素材に、右側面にアレルシカニを行ない、左部を直角に上げている。0070では、右側面と左側面の3方にアレルシカニが認められる。0071の左側面のアレルシカニは甲跡であるが、右側面は左側面の甲跡もある。

二本丸のある丸片の0075の腹面は打痕の跡子が、右側面には甲跡なアレルシカニが認められ、左端部が下落し



第51図 第II文化層第2ユニット第6エリア遺物出土状況図

たと想定されるが、下落想定車に微細な剥離痕が観察できることからヨリヤドと判断している。0076の刃部も陰部が実行され、元端部が下落したと判断した。

三棱尖頭器の0073は、製作の早い段階で取壊したとみられる。本当に、素朴未片の複数に繋がる刃部を秘めている。

0079は刃端部に二次加工が施され、スクレイバー的要素がある。また、0074は刃部の陰部を行い、三棱尖頭器の取壊品ないしは剥離部がスクレイバー状の刃部として機能した可能性もある。

0100は小型の刃部とみられるが、0097, 0099は残片と判断した。いずれにしても、小型の刃片を求めていたはずであるが、該当する器は存在できない。0086, 0087は折断剥片と見られ、小型刃の均一があつたことは推測できる。0083は三棱尖頭器製作に伴うもので、後上からの調整によるプランティングチップである。その他の、プランティングチップと判断できるものに、0080, 0081, 0082, 0083, 0093がある。なお、0098の刃部は、上脇からの転写と判断している。

第3エリアではチャート系の0095以外は黒曜石を使用し、さらに、中間層を複数したナイフ形器が確認

する頻度が増加できる。

プランティングチップやチップが集りし、0083のプランティングチップの存在からも三棱尖頭器等の製作を行った可能性が高い。

第4エリア(第46タ, 第45タ)

B-8, 9タに分布し、4つのブロックで構成する。第8, 第9ブロックは黒曜石II-A類主材、第10ブロックは黒曜石I類、第11ブロックは黒曜石II-A類と黒曜石I類に主材が混在する。

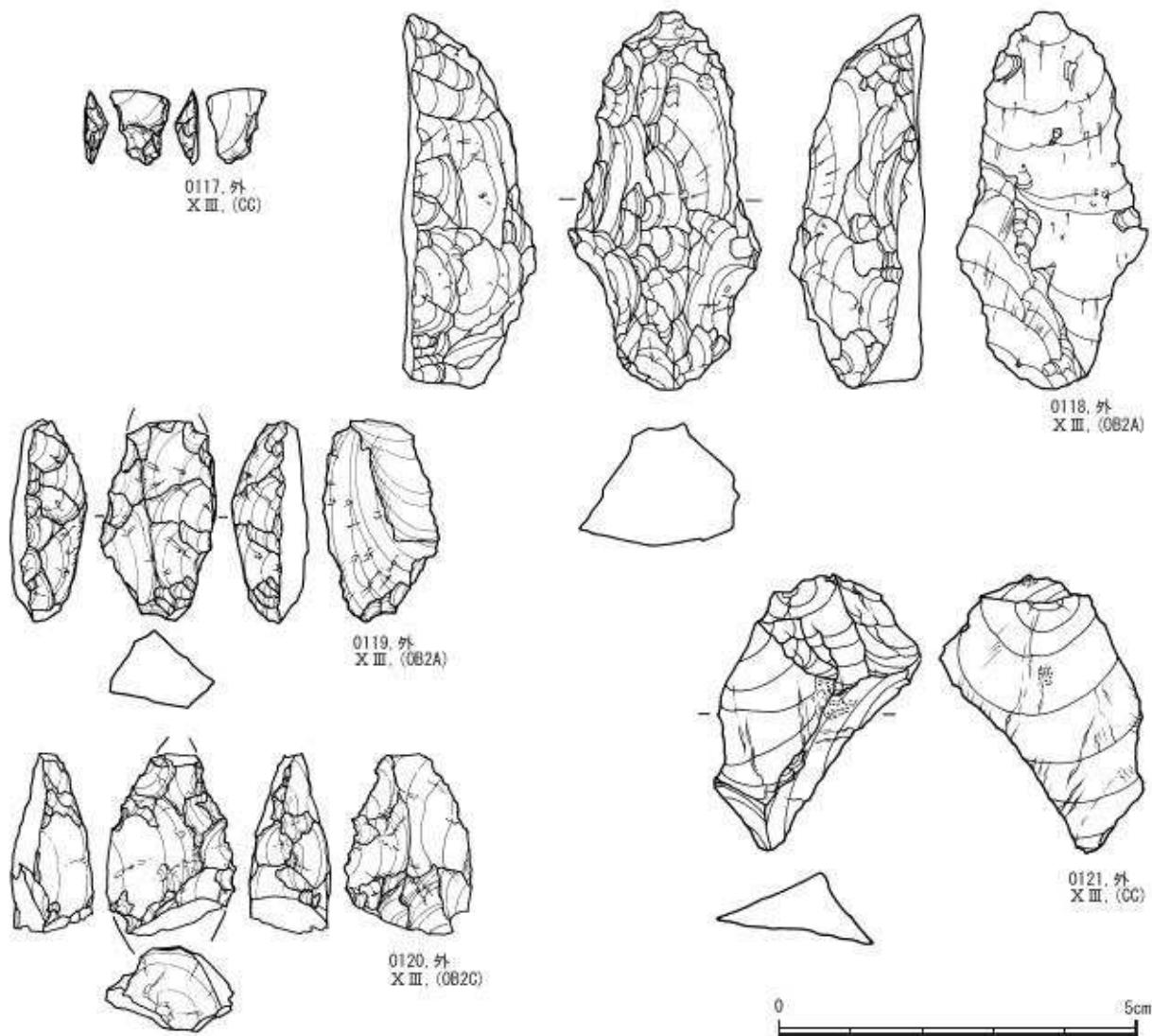
器種構成は、ナイフ形器2点(0101, 0102), 三棱尖頭器2点(0107, 0108), 尖頭状器1点(0104), 二次加工のある刃片3点(0103, 0109, 0110)が確認できる。

ナイフ形器の0101は縦長刃片素材を用い、刃部周辺にのみ加工が施されている。また、刃部の刃部の陰部も認められる。0102はナイフ形器の元端部と想定でき、刃部端に複数なアレルギーが認められる。刃部の観察からは、剥離刃片を素材とした可能性もうかがえる。

尖頭状器の0104は軽量な刃片を素材とし、刃部の刃端は剥離から、刃部端では刃部からと通じてからの剥離跡がみられる。

第11表 第II文化層第2ユニット第6エリア出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	カット	石材	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	カット	接合No
50	0112	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	A6	B13	SH	-	47.5	19.1	11.6	9.26	5854	X III	B-12	-	
	0113	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	A6	B13	SH	-	49.7	18.3	12.0	7.64	5860	X III	B-12	-	
	0114	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	A6	B13	SH	-	59.7	17.2	13.1	11.44	270.21	X III	B-12	-	
	0115	剥片	折断剥片	-	II	U2	A6	外	SH	-	24.7	23.8	5.0	2.68	5863	X III	B-12	-	
	0116	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U2	A6	B13	SH	-	28.1	23.0	16.0	4.28	5862	X III	B-12	-	



第52図 第II文化層第2ユニットエリア外出土石器実測図

三棱尖頭器の0107は斜面端での後変と見られ、また、刃溝道の可動性もある。0108は斜面からの剥離が難を経たもので、ふげの剥離溝も確認できる。なお、0107は極めて分厚い刃片であることから、三棱尖頭器の系譜刃片の可能性もある。

二冰河のある刃片はいずれも月牙が明らかにできないうが、0109は核工具、0110は刮削器次のスクレイバーの機能が奪えられる。

0106は薄きないし斜面からのプランティングチップで、三棱尖頭器の製作と深く関わると判断している。

第7ブロックからは工具は見当していないが、0106の

プランティングチップは1-2枚であり、工具製作が行われたことは充分理解できる。

第5エリア(第48タ, 第49タ)

C-10ゾーン部にあり、黒曜岩II-A類の集積する第12ブロックとその周辺の散在域を対象とした。

チップが主なるブロックで、刃片1点を示した。

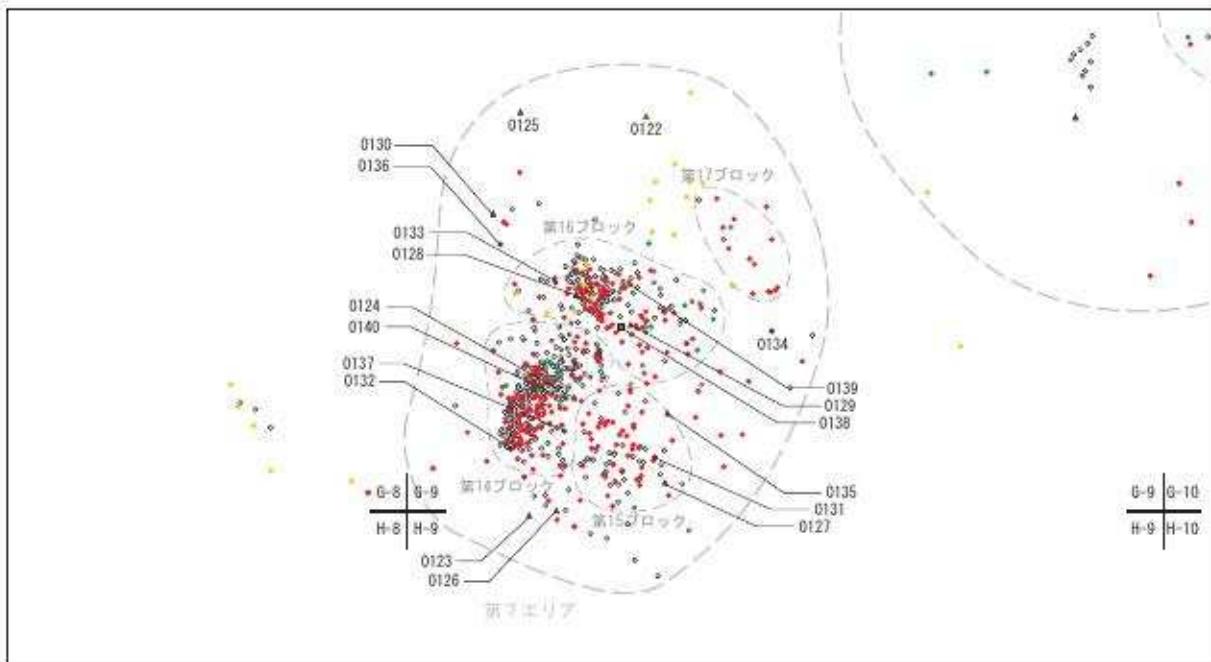
第2ユニット

第6エリア(第51タ, 第50タ)

B-12ゾーンにあり、工具を主に黒曜岩II-A類、黒曜岩

第12表 第II文化層第2ユニットエリア外出土石器観察表

捕獲 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット U1/U2	外 内	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位 XIII/XII	列下 A-10/B-9	接合 No.
52	0117	石器	ナイフ形石器	台形石器	II	U2	外	CC	-	10.3	8.6	3.0	0.22	6034	XIII	A-10	-
	0118	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	外	OB2	A	52.9	27.0	18.5	19.71	6128	XIII	B-9	-
	0119	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	外	OB2	A	(27.9)	(16.4)	(10.6)	(4.05)	6201	XIII	C-9	-
	0120	石器	三棱尖頭器	-	II	U2	外	OB2	C	(25.3)	(18.2)	(11.4)	(4.22)	23310	XIII	D-7	-
	0121	剥片	-	-	II	U2	外	CC	-	38.7	29.0	9.2	6.47	5841	XIII	B-13	-



第53図 第II文化層第3ユニット第7エリア遺物出土状況図

I類、ギョクズイが1点ずつ混在する状況で発見している第13ブロックを第6エリアとした。

3点の三棱尖頭器(0112, 0113, 0114)と折断刃片(0115)、微細な鉄器のある刃片(0116)を確認できる。

三棱尖頭器とした0112の刃部にツヨヌリ跡が一撃先られ、刃部斜面の凹凸性がある。背面側に鋸歯を残し、刃部はノ字状に彫る。0113の刃端部は完全な済整加工が認められ、また、もたげ端部の刃部が素材刃片表面に平行することなどから器種認定した。0114は刃身で刃の無い刃片を連続し、刃部全体にツヨヌリ跡が平行で整形を加えている。0113はちぢみに溝があるが、3点とも横長で横長の刃片を素材としている。

第6エリアで確認できる器は、全て瓦器を使用したものである。エリア内には瓦器のII-A類も存在するが、瓦器で瓦器製作の痕跡を示す材料は確認できない。このことから、瓦器に関してはエリア内での瓦器製作は行ったとは考えられず、むしろ拾い込まれたと判断したい。

第2ユニットエリア(第52号)

ナイフ形刃器(0117)と三棱尖頭器3点(0118~0120)の器がある。

ナイフ形刃器の0117はやびれ間に「寧ろア漫しか」を描かれた小形の刃形器で、折断技法による素材選択が考えられる。

三棱尖頭器の0118は刃部が強調され、刃部からの済整加工を主に刃部からも行い、刃部の刃部刃部はハサウエーで撃されることからその厚みを減じる目的で判断できる。0119は刃端部、0120は端部と刃部が交換する。3点とも刃部の刃部斜面、刃部の整形が確認できる。

第3ユニット

第3ユニットは、G-9区からF-12区に亘り南北約40m、東西幅20mの複合形状に亘り、傍岩の怎原鉱山に最も近い部分に位置する。また、ユニット内は5つのエリア(第7~第11エリア)で構成される。

第7エリア(第53号、第54, 55号)

第7エリアはG-9区に分布し、其のⅡ-A類を主体として構成する4つのブロックからなる。

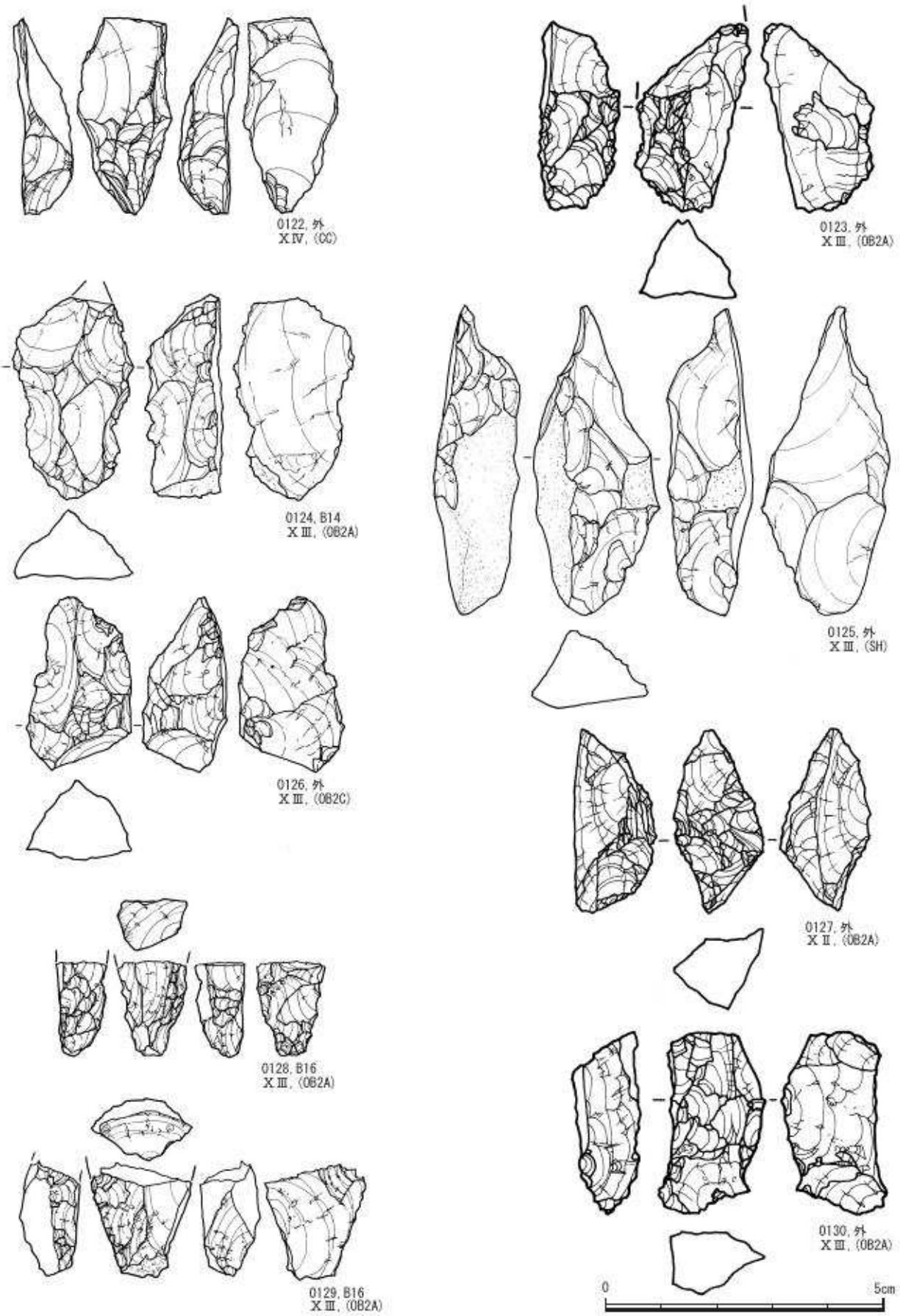
器の器種構成は、ナイフ形刃器1点(0122)、三棱尖頭器4点(0123~0126)、二次加工のある刃片5点(0127~0130, 0139)からなり、刃部刃片とプランティングチップ、多量のチップを確認している。

ナイフ形刃器は下逆形刃片を使用し、やびれ間にア漫しかを描かれた形態となる。

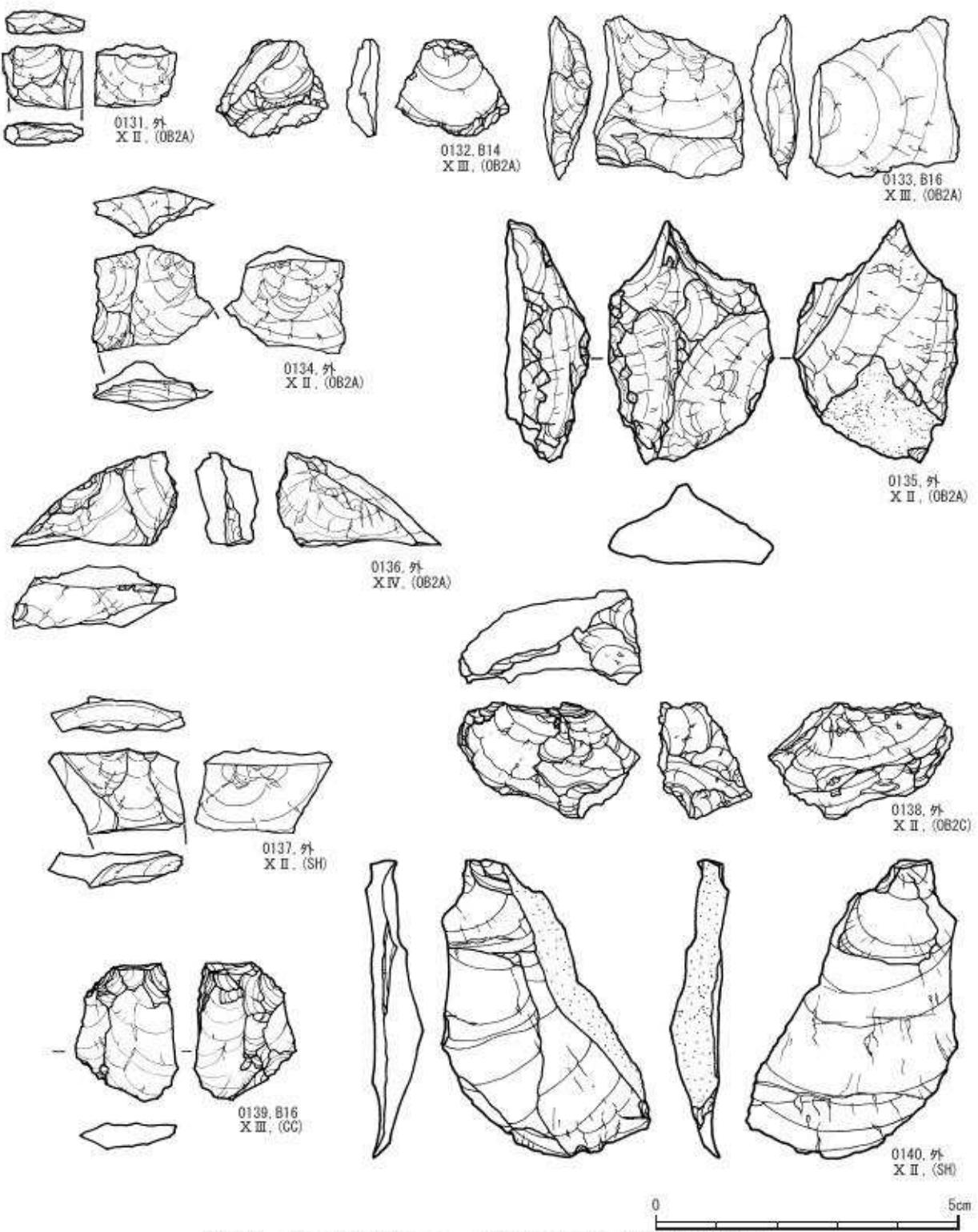
0125の三棱尖頭器はブロックに含まれないので、分離した素材の刃部をそのまま用い、やびれはかなりの部分で残っている。刃部に加えて刃部からの整形刃片を行い、刃部の刃部斜面も認められる。0124は第14ブロックに属し、0124は刃端部、0126は刃部が破壊したものと判断した。また、刃部の刃部からは、刃部を横長刃片を素材としたことがわかる。済整加工からは、横ねじりの模擬を二角形に整形する慣習が伺われる。やびれの加工が実行し、やびれでは済整加工と判断できそうな刃部を観察できる。0124の器種認定は、刃部の刃部刃部に依づいている。

0127~0130, 0139の二次加工のある刃片のうち、刃片の二次加工状況から0128はナイフ形刃器、0129, 0127は三棱尖頭器の製作に関わる資料と判断される。

0135は刃端部が刃部からの2箇所の刃撃で鏡面に作り出



第54図 第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(1)



第55図 第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器実測図(2)

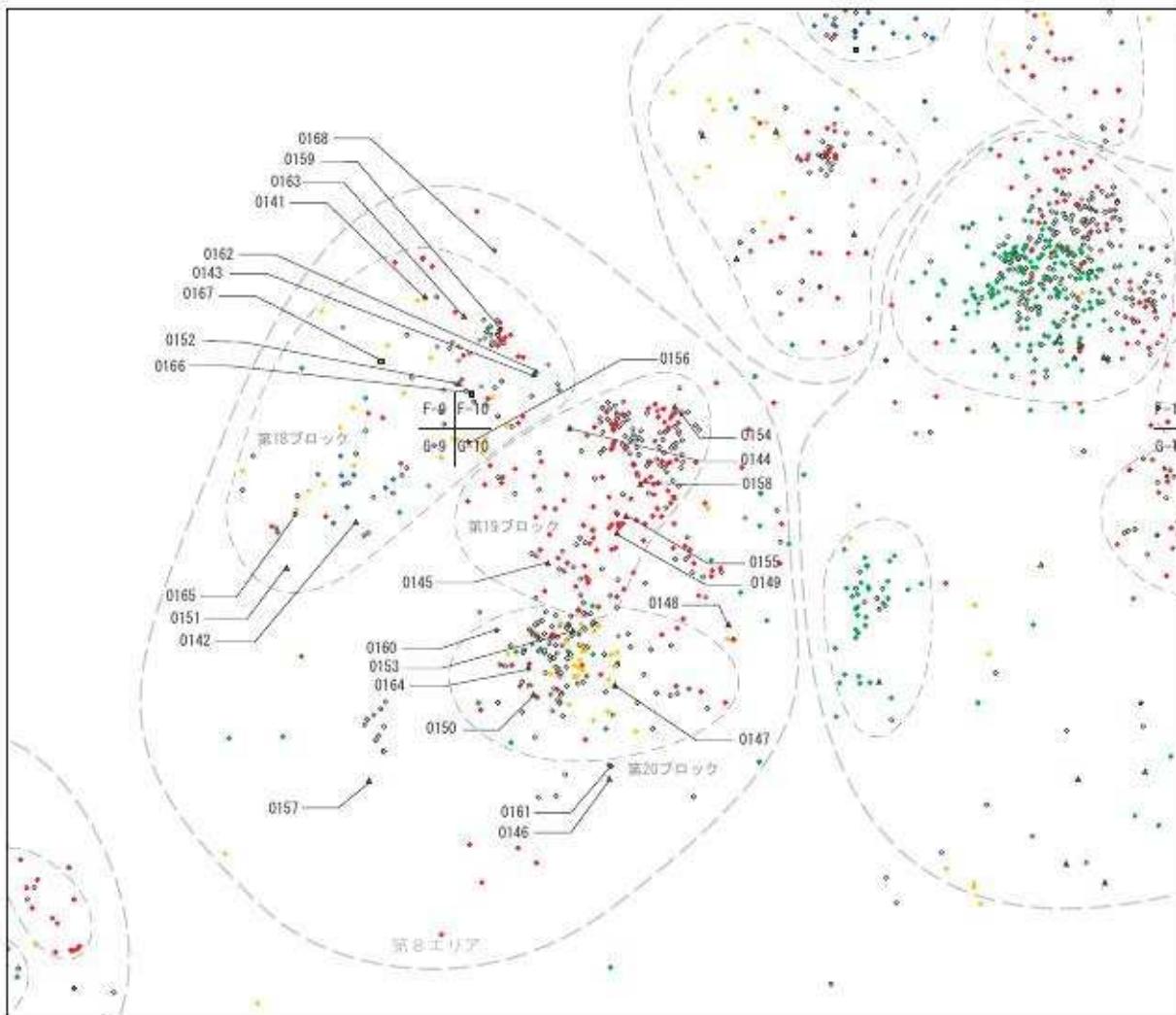
されており、挫滅器と判断した。

その点、第7エリアではギョクズイが使用された痕跡も認められる。ブロックトルヒブロック型の块合が確認できており、また、三棱尖頭器の破壊品やプランティングチップやチップも発見することから、三棱尖頭器の製作エリアの可能性を有く示している。

第8エリア(第56号、第57~59号)

第8エリアはF-9, 10室からG-9, 10室に亘り、3か所の遺物集団(ブロック)からなる。

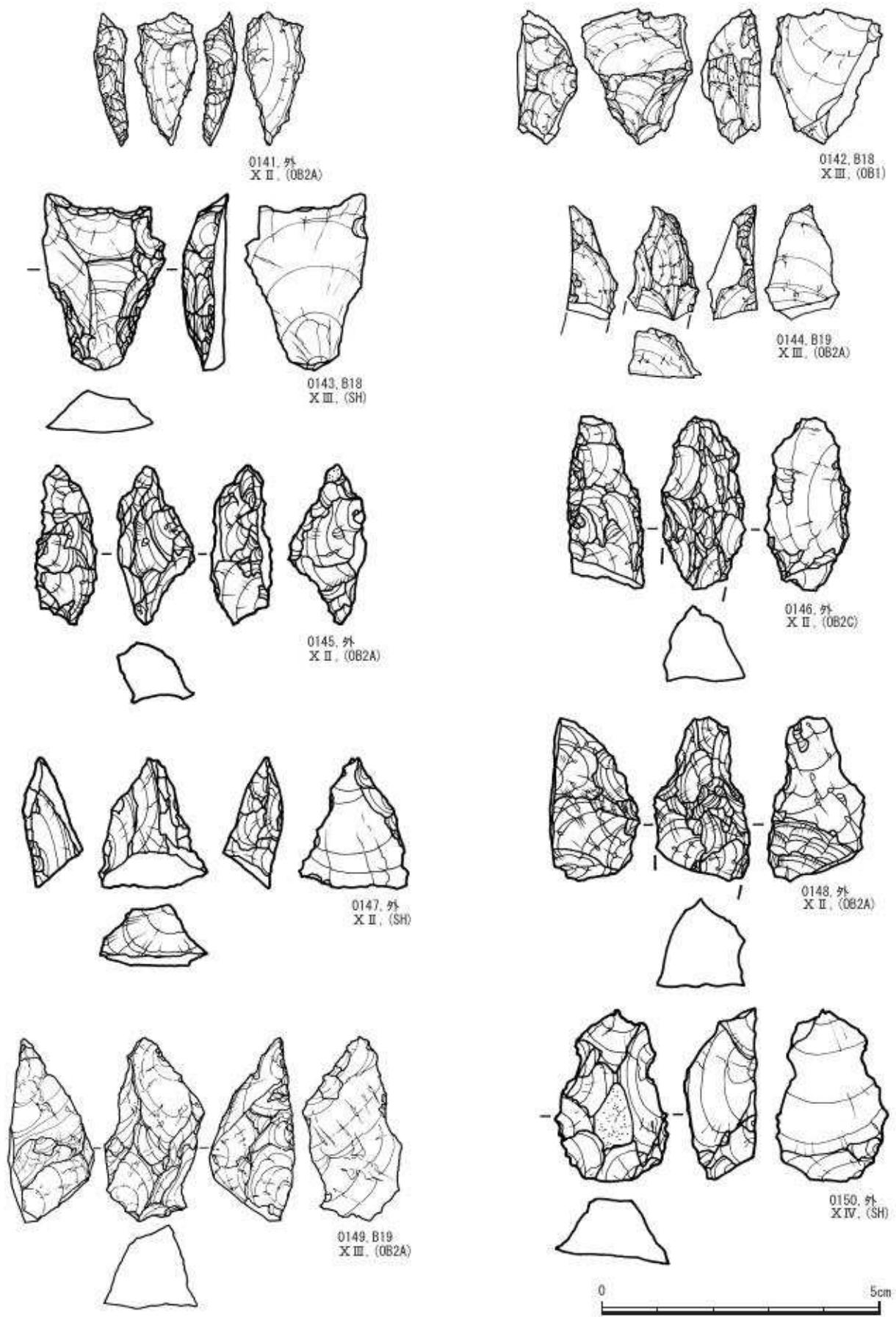
第18ブロックはやや歌合であるが其ノI類、其ノII-A類、其ノII-B類、其ノIII類、ギョクズイ、其ノの6種類のうちで、第19ブロックは其ノII-A類



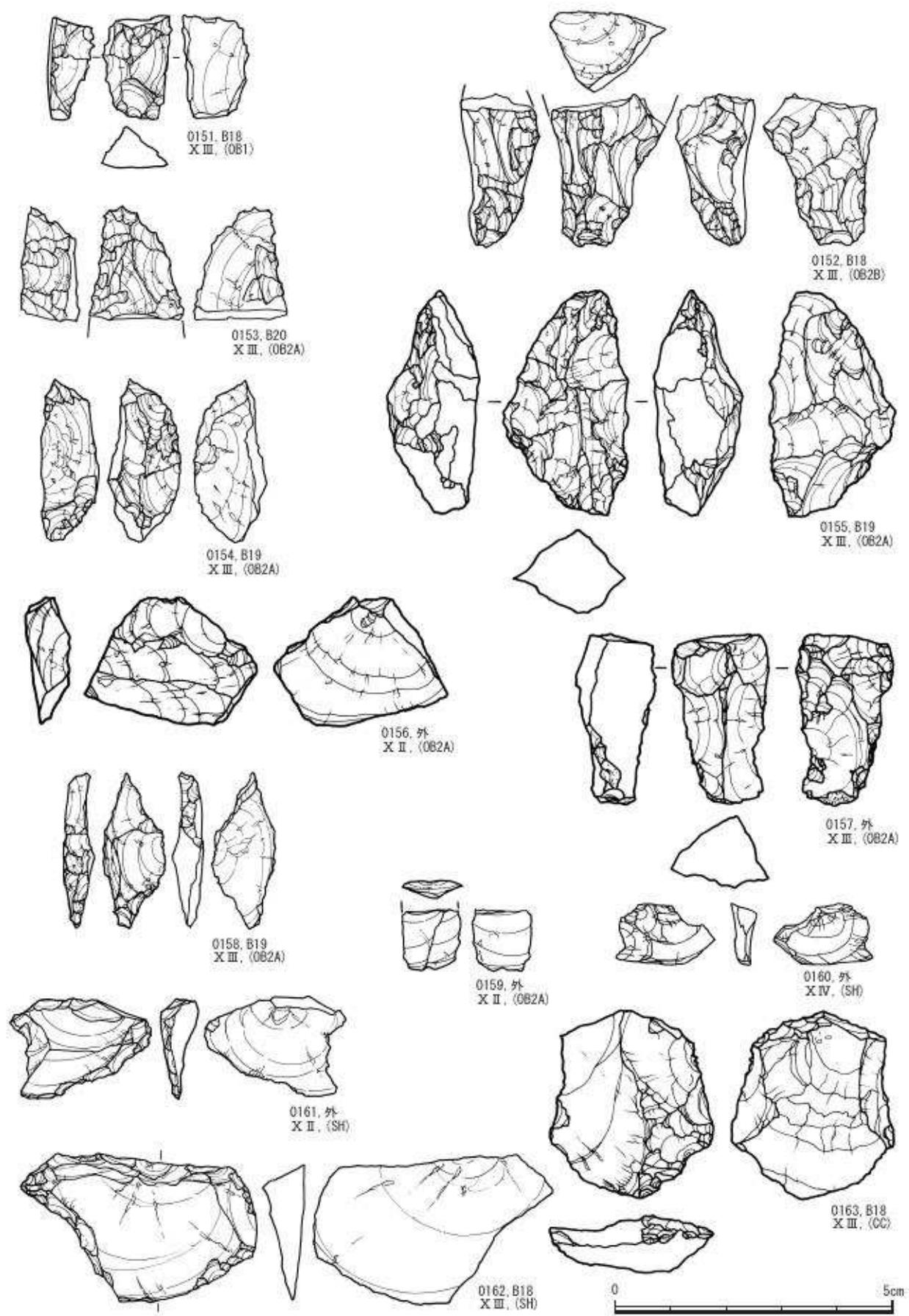
第56図 第II文化層第3ユニット第8エリア遺物出土状況図

第13表 第II文化層第3ユニット第7エリア出土石器観察表

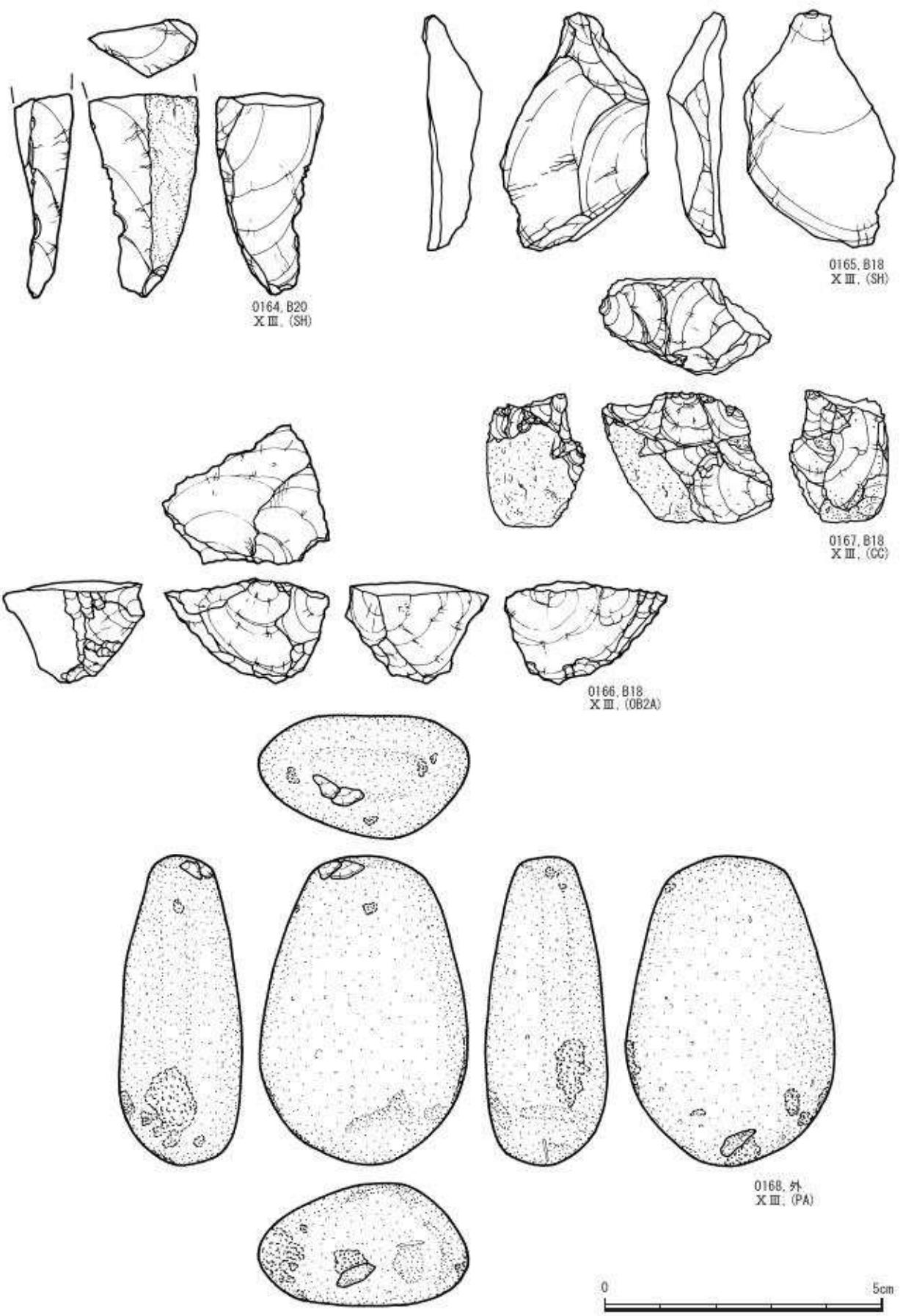
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No	
54	0122	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A7	外	CC	-	35.4	17.1	10.7	5.00	21907	XIV	G-9	-
	0123	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A7	外	OB2	A	(33.9)	(21.0)	(14.6)	(6.68)	17062	XIII	H-9	-
	0124	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A7	B14	OB2	A	(36.3)	(21.8)	(14.0)	(9.23)	17272	XIII	G-9	28
	0125	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A7	外	SH	-	55.6	22.9	15.7	14.47	19180	XIII	G-9	-
	0126	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A7	外	OB2	C	31.2	19.0	15.1	6.99	17587	XIII	G-9	-
	0127	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U3	A7	外	OB2	A	33.1	16.5	15.0	5.36	16841	XII	G-9	-
	0128	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	II	U3	A7	B16	OB2	A	(17.1)	(12.5)	(9.3)	(1.92)	17532	XIII	G-9	-
	0129	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	II	U3	A7	B16	OB2	A	(20.6)	(18.2)	(11.0)	(3.35)	17300	XIII	G-9	-
	0130	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A7	外	OB2	A	32.7	19.5	12.5	6.30	17418	XIII	G-9	-
55	0131	剥片	折断剥片	-	II	U3	A7	外	OB2	A	(10.9)	(13.2)	(4.0)	(0.57)	16836	XII	G-9	-
	0132	チップ	プランティングチップ	-	II	U3	A7	B14	OB2	A	16.0	18.6	5.7	1.01	17202	XIII	G-9	-
	0133	剥片	折断剥片	-	II	U3	A7	B16	OB2	A	26.8	24.9	8.3	4.07	17534	XIII	G-9	-
	0134	剥片	折断剥片	-	II	U3	A7	外	OB2	A	(17.7)	(20.2)	(8.6)	(1.99)	16960	XII	G-9	-
	0135	石器	錐状石器	-	II	U3	A7	外	OB2	A	40.2	27.5	14.5	11.44	16834	XII	G-9	-
	0136	剥片	-	-	II	U3	A7	外	OB2	A	15.8	27.4	10.7	2.61	21902	XIV	G-9	-
	0137	剥片	折断剥片	-	II	U3	A7	外	SH	-	(14.2)	(22.5)	(5.8)	(1.70)	16971	XII	G-9	-
	0138	石核	-	-	II	U3	A7	外	OB2	C	19.3	30.1	15.5	6.03	16854	XII	G-9	-
	0139	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	II	U3	A7	B16	CC	-	22.8	16.9	5.6	1.90	17039	XIII	G-9	-
	0140	剥片	-	-	II	U3	A7	外	SH	-	49.0	34.7	10.0	8.87	16858	XII	G-9	-



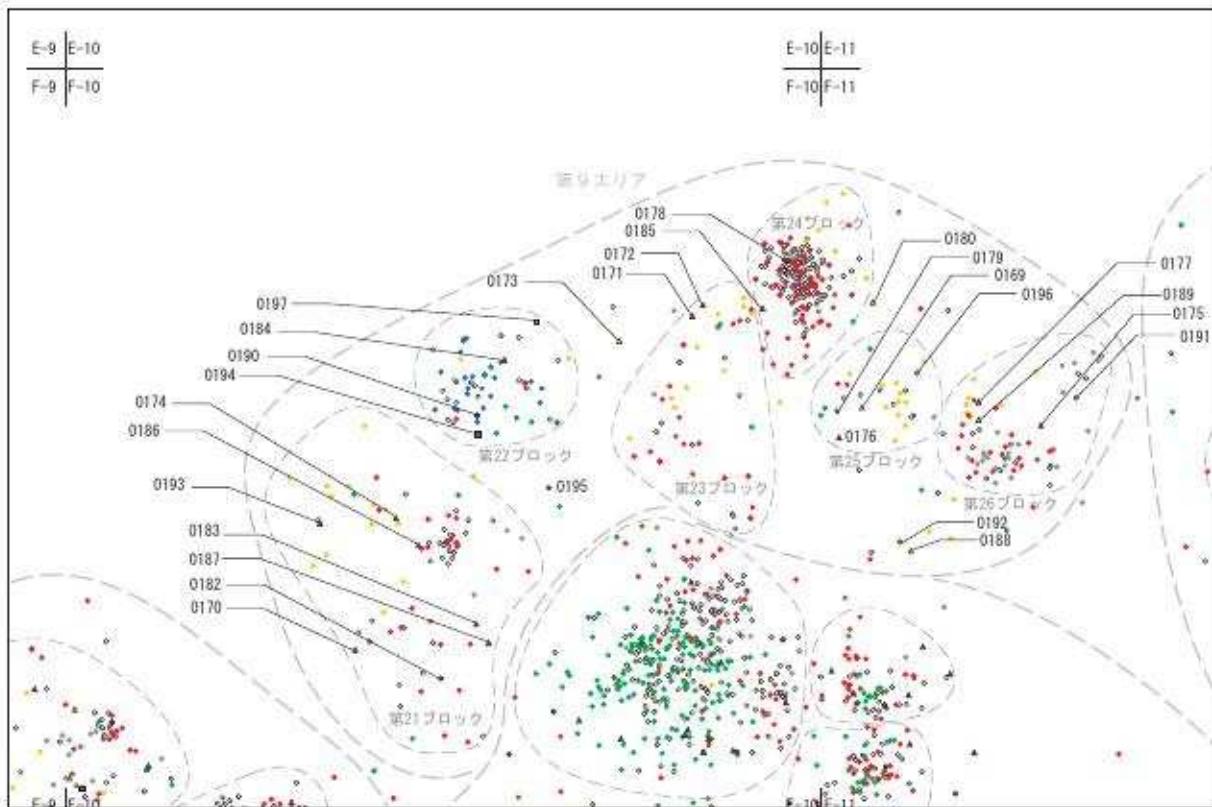
第57図 第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(1)



第58図 第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(2)



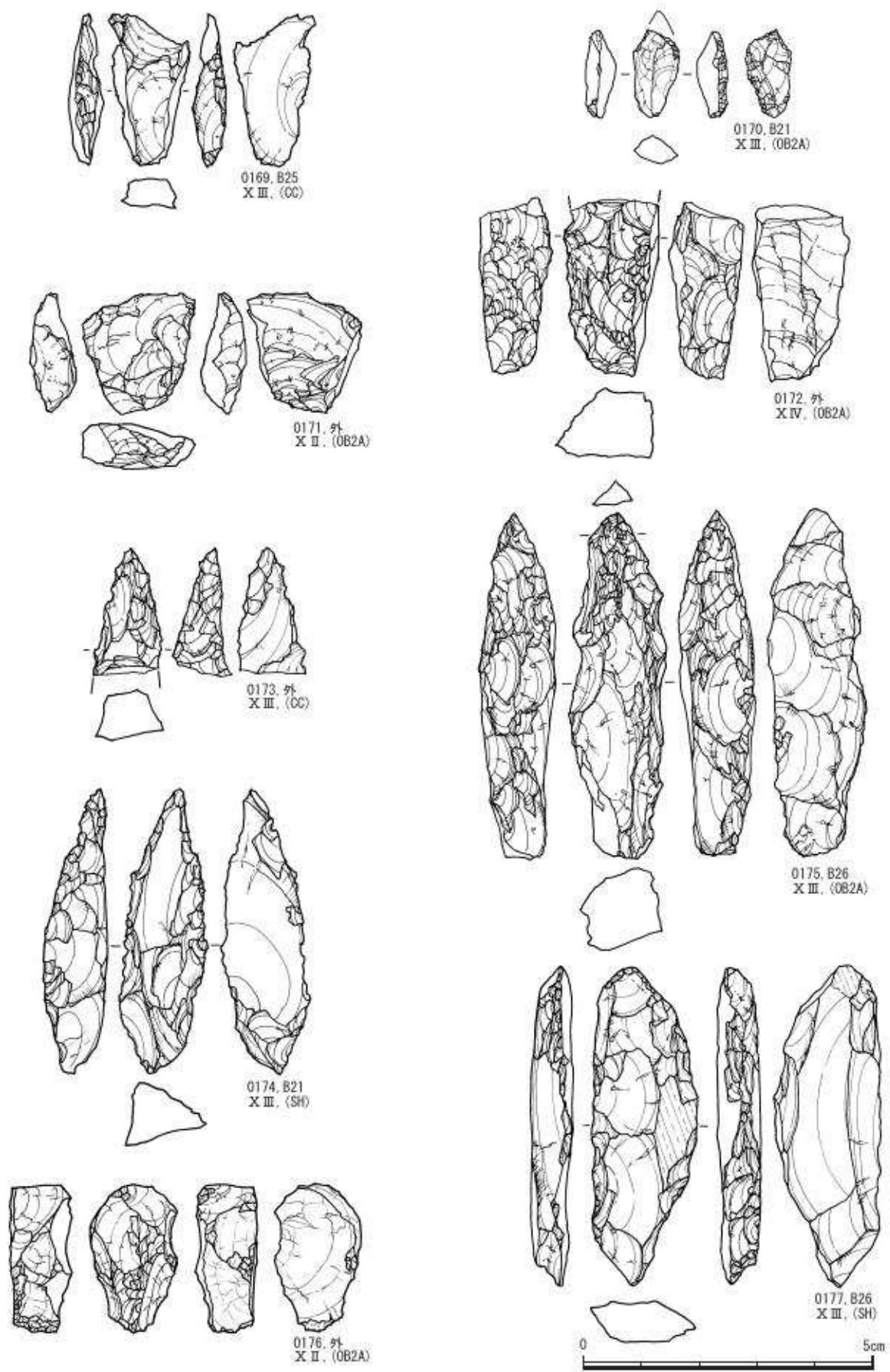
第59図 第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器実測図(3)



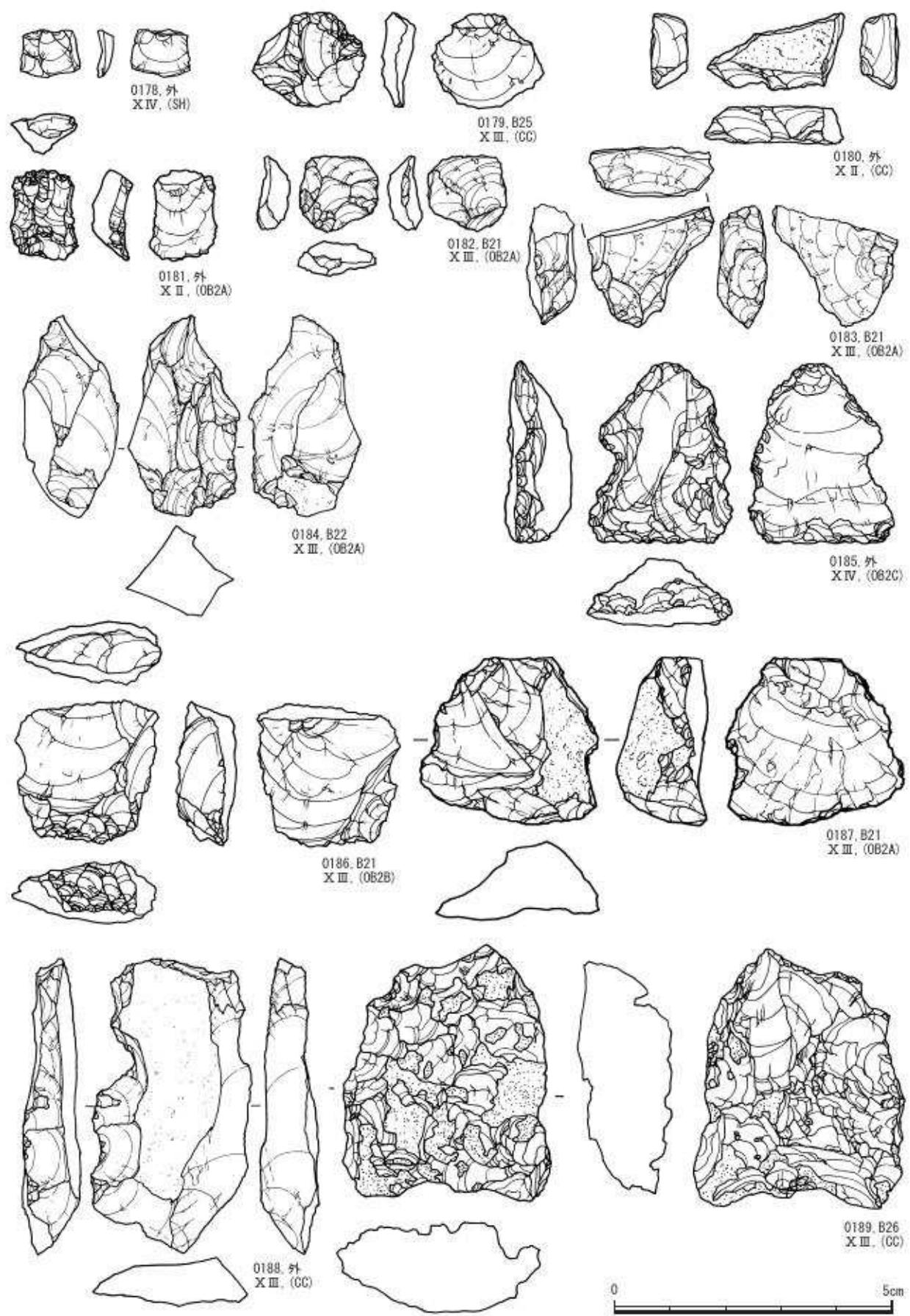
第60図 第II文化層第3ユニット第9エリア遺物出土状況図

第14表 第II文化層第3ユニット第8エリア出土石器観察表

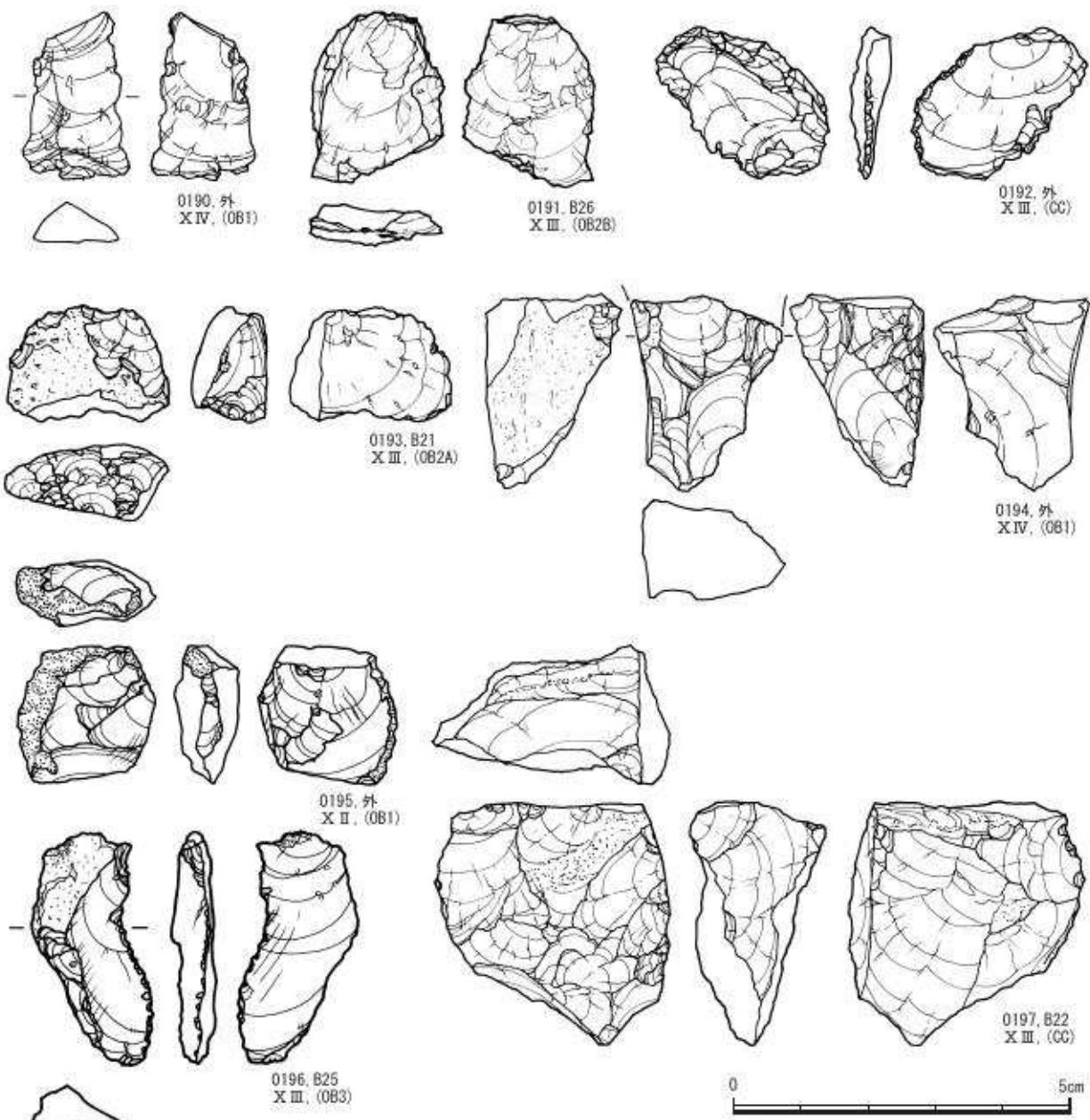
擇図 No	圖 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エリア	プロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	カラーフ	接合 No	
57	0141	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	23.8	11.3	6.5	1.51	16925	X II	F-9	-
	0142	石器	ナイフ形石器	台形石器	II	U3	A8	B18	OB1	-	24.3	20.0	11.0	4.35	19195	X III	G-9	-
	0143	石器	ナイフ形石器	台形核石器	II	U3	A8	B18	SH	-	31.7	22.3	7.6	4.97	20466	X III	F-10	-
	0144	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U3	A8	B19	OB2	A	(20.5)	(13.0)	(9.1)	(1.60)	18179	X III	F-10	-
	0145	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	28.6	14.2	11.5	3.12	17491	X II	G-10	-
	0146	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	C	(31.1)	(15.3)	(14.3)	(5.72)	18051	X II	G-10	-
	0147	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	SH	-	23.5	19.9	11.0	2.89	17494	X II	G-10	-
	0148	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	OB2	A	(29.5)	(17.6)	(16.5)	(6.57)	17483	X II	G-10	81
	0149	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	33.1	18.1	15.7	6.21	18643	X III	G-10	94
	0150	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	外	SH	-	31.0	20.7	13.2	7.35	21795	X IV	G-10	-
58	0151	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B18	OB1	-	18.8	12.7	8.8	1.72	20459	X III	G-9	-
	0152	石器	三稜尖頭器	基部背面加工	II	U3	A8	B18	OB2	B	(27.5)	(20.7)	(14.1)	(5.62)	19162	X III	F-10	-
	0153	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B20	OB2	A	(20.7)	(17.1)	(10.8)	(3.64)	19228	X III	G-10	-
	0154	石器	二次加工痕のある剥片	部分加工	II	U3	A8	B19	OB2	A	29.3	13.2	10.4	3.37	18604	X III	F-10	94
	0155	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	40.5	22.7	16.9	10.36	18646	X III	G-10	-
	0156	剥片	折断剥片	-	II	U3	A8	外	OB2	A	23.1	31.2	8.2	3.97	21237	X II	G-10	-
	0157	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	II	U3	A8	外	OB2	A	30.9	17.7	14.7	5.72	18689	X III	G-9	-
	0158	石器	プランディングチップ	-	II	U3	A8	B19	OB2	A	28.1	11.4	5.8	1.11	18210	X III	G-10	-
	0159	剥片	折断剥片	-	II	U3	A8	外	OB2	A	(11.1)	(10.6)	(3.2)	(0.33)	18004	X II	F-10	-
	0160	チップ	プランディングチップ	-	II	U3	A8	外	SH	-	11.0	17.9	4.7	0.55	21792	X IV	G-10	-
59	0161	チップ	プランディングチップ	-	II	U3	A8	外	SH	-	18.2	25.5	7.0	1.64	17434	X II	G-10	-
	0162	石器	スクレイバー	削器	II	U3	A8	B18	SH	-	26.7	42.5	9.1	7.32	18677	X III	F-10	-
	0163	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A8	B18	CC	-	33.8	29.7	10.5	8.21	19167	X III	F-10	-
	0164	剥片	-	-	II	U3	A8	B20	SH	-	(36.6)	(20.0)	(10.6)	(4.98)	18150	X III	G-10	-
	0165	剥片	-	-	II	U3	A8	B18	SH	-	43.1	27.0	10.9	8.72	19649	X III	G-9	-
0166	石核	-	-	II	U3	A8	B18	OB2	A	19.2	29.8	25.5	9.52	19163	X III	F-10	-	
0167	石核	-	-	II	U3	A8	B18	CC	-	23.8	30.9	17.6	12.06	19174	X III	F-9	-	
0168	石器	ハンマー	-	II	U3	A8	外	PA	-	55.7	37.7	22.2	64.63	19665	X III	F-10	-	



第61図 第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(1)



第62図 第Ⅱ文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(2)



第63図 第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器実測図(3)

に、更若とギョクズイが1点ずつの3種類の器で、第20ブロックはギョクズイを主体に、更若とII-A類、更若が混在する構成がみられる。

器種は、ナイフ形器3点(0141～0143)、三棱尖頭器11点(0144～0153, 0155)、スクレイバー1点(0162)、三本刃のある刮片3点(0154, 0157, 0163)、刮片2点(0166, 0167)とハンマーストーン1点(0168)、プランティングチップ3点(0158, 0160, 0161)で構成される。

ナイフ形器のうち、0141は模表刮片の刃部と薄部を凹側面とし、刃面に「渡し」したもので、平行形に、0142は刮片表裏面の移動するも残から取り出した厚い平行形刮片を示す。その刃部と背面に「渡し」を行った形状に、0143も本様の刮片表裏によるもので、刮片の凹側面に厚き刃部からの「渡し」を行い、V字形様器の形状

に上げている。

0146はぶぶが欠落しているが、形状及び整形部位、特に、身上部の尖端若く複数頭器の始端がよく残されている。0150は付頭端での後退と細断している。0148はV字道の可能性もあり、その場合ぶぶに該当する。0144, 0147, 0153はV字道及び側面の表裏状況から三棱尖頭器の先端部、0152は複数刃を残つぶ部に該当し、0155はお厚い模表刮片を使目し、かえて複数刃を用いることから、模頭器はV字道を示している。

0162はほぼ全域に複数刃のV字部が残ることから單器と判断した。

三本刃のある刮片の外で、0163は單器様の用途が示される。0154と0157は三棱尖頭器の製作に關する残片の一部と判断している。

互換とした2点(0166, 0167)はいずれも少しだけ、エリアトに残された器種とは互換の關係は無いだせない。

0168のハンマーストーンは、馬鹿な形状で頭部や下端部をカムに留められた複数の複数が多用されている。

三棱尖頭器の主なる者が多く、0158は頭部からのブランディングチップであることも想定されることから、第8エリアも三棱尖頭器を主として製作した可能性を示している。

第9エリア(第60番、第61~63番)

第9エリアと第10エリアは残した状態で検出されているが、ブロックを形成する複数の器が異なることと器の構造を見いだせることから区分している。

F-10, F-11に付属り、6か所のブロックからなる。第21ブロックは黒曜石II-A類とギョクズイに黒曜石II-B類や瓦器の6種類、第22ブロックは黒曜石I類3体の瓦器、第23ブロックは黒曜石II-A類とギョクズイがほぼ半数に黒曜石II-B類、黒曜石II-C類、瓦器の5種類、第24ブロックは黒曜石II-A類3体にギョクズイ2種類、第25ブロックはギョクズイ3体に散点の黒曜石II-A類と瓦器で構成され、第26ブロックは黒曜石II-B類と黒曜石II-A類の2種類をカムにギョクズイ、瓦器で構成する。

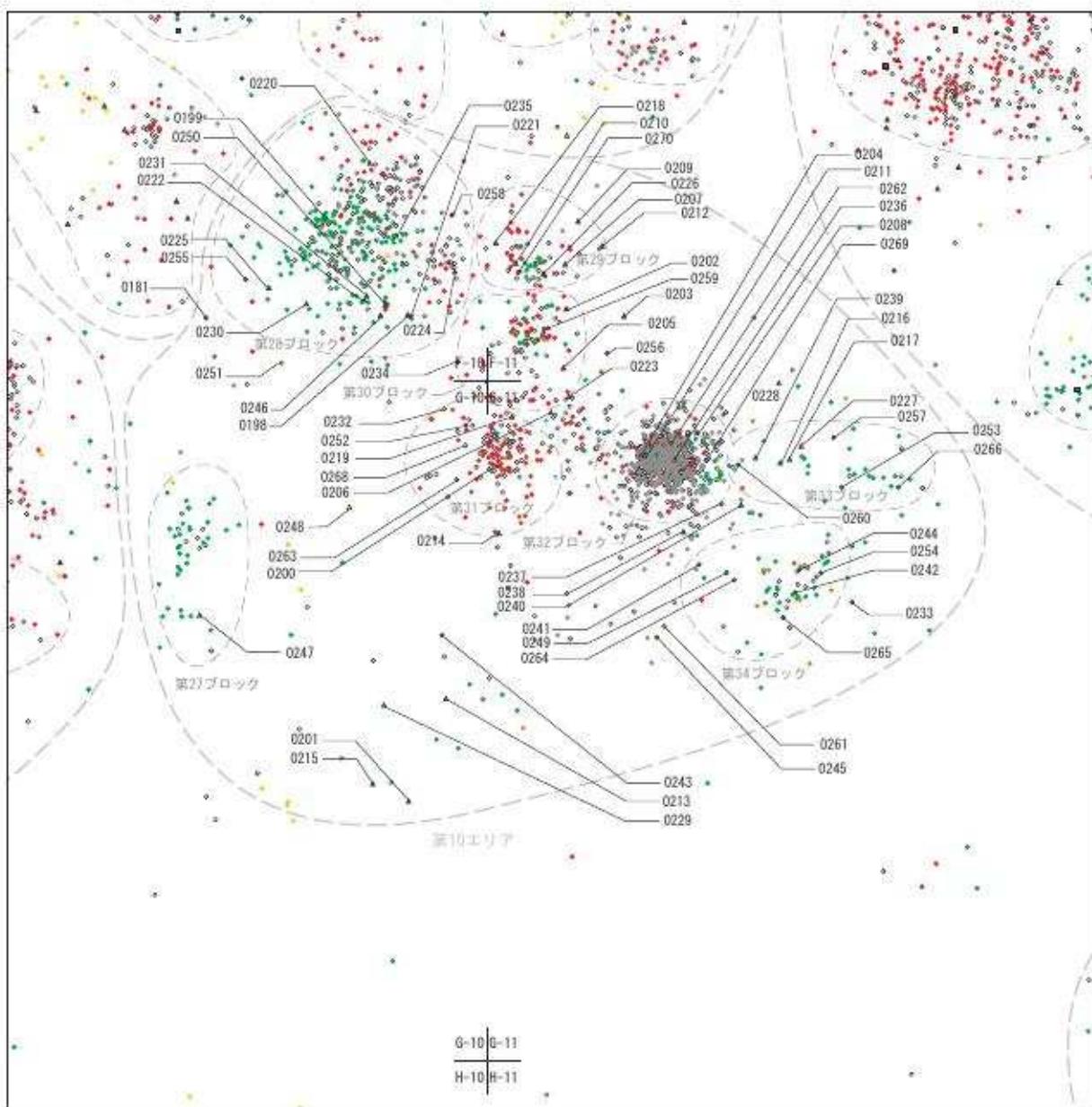
第15表 第II文化層第3ユニット第9エリア出土石器観察表

擇別No	圓No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリヤ	ローブ	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	判別	接合No
61	0169	石器	ナイフ形石器	台形石器?	II	U3	A9	B25	CC	-	26.0	14.2	6.0	1.55	18562	XIII	F-11	-
	0170	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	(15.0)	(7.9)	(5.5)	(0.46)	17699	XIII	F-10	-
	0171	石器	ナイフ形石器	台形石器	II	U3	A9	外	OB2	A	21.0	19.5	8.2	2.83	16922	XII	F-10	-
	0172	石器	三棱尖頭器	-	II	U3	A9	外	OB2	A	(30.6)	(16.6)	(12.8)	(6.65)	19271	XIV	F-10	-
	0173	石器	三棱尖頭器	先端部	II	U3	A9	外	CC	-	(22.0)	(12.0)	(10.2)	(1.68)	18584	XIII	F-10	-
	0174	石器	三棱尖頭器	-	II	U3	A9	B21	SH	-	49.0	15.5	11.5	7.34	20569	XIII	F-10	-
	0175	石器	三棱尖頭器	-	II	U3	A9	B26	OB2	A	59.5	17.1	13.3	12.61	18542	XIII	F-11	-
	0176	石器	三棱尖頭器	-	II	U3	A9	外	OB2	A	25.7	15.2	11.0	3.99	16803	XII	F-11	-
	0177	石器	尖頭状石器	-	II	U3	A9	B26	SH	-	54.8	18.6	7.2	9.04	18549	XIII	F-11	-
62	0178	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A9	外	SH	-	8.6	10.9	3.0	0.22	21980	XIV	F-10	-
	0179	チップ	ブランディングチップ	-	II	U3	A9	B25	CC	-	17.2	20.5	6.2	1.32	18564	XIII	F-11	-
	0180	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	外	CC	-	14.0	24.8	7.0	2.49	17750	XII	F-11	-
	0181	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A9	外	OB2	A	16.4	12.4	7.8	1.05	21241	XII	F-10	-
	0182	剥片	-	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	13.9	14.3	6.1	0.99	18602	XIII	F-10	-
	0183	石器	二次加工痕のある剥片	基部加工	II	U3	A9	B21	OB2	A	(21.7)	(22.8)	(9.2)	(3.71)	19676	XIII	F-10	-
	0184	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	B22	OB2	A	36.1	20.2	17.5	8.62	18589	XIII	F-10	-
	0185	石器	スクレイバー	挟入石器	II	U3	A9	外	OB2	C	32.6	26.0	12.3	7.89	19279	XIV	F-10	-
	0186	石器	スクレイバー	-	II	U3	A9	B21	OB2	B	26.0	25.9	11.0	6.57	19130	XIII	F-10	-
	0187	石器	スクレイバー	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	30.2	32.1	16.5	11.55	19260	XIII	F-10	-
63	0188	石器	スクレイバー	-	II	U3	A9	外	CC	-	52.9	29.0	10.5	13.55	19720	XIII	F-11	-
	0189	石器	スクレイバー	-	II	U3	A9	B26	CC	-	46.3	37.6	18.9	34.60	17753	XIII	F-11	-
	0190	剥片	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	25.0	16.0	6.5	1.94	21939	XIV	F-10	-
	0191	剥片	-	-	II	U3	A9	B26	OB2	B	25.4	19.8	6.2	2.63	17756	XIII	F-11	3
	0192	剥片	-	-	II	U3	A9	外	CC	-	22.4	25.8	6.0	1.97	19369	XIII	F-11	-
	0193	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A9	B21	OB2	A	17.5	24.2	11.5	4.48	20575	XIII	F-10	-
	0194	石核	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	(29.0)	(22.5)	(20.5)	(9.04)	21938	XIV	F-10	-
64	0195	剥片	-	-	II	U3	A9	外	OB1	-	20.3	20.7	9.8	3.57	17337	XII	F-10	-
	0196	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A9	B25	OB3	-	34.5	18.3	6.8	2.72	18559	XIII	F-11	-
	0197	石核	-	-	II	U3	A9	B22	CC	-	36.0	35.1	20.0	19.98	18587	XIII	F-10	-

器種は、ナイフ形石器3点(0169~0171)、三棱尖頭器5点(0172~0176)、尖頭状石器1点(0177)、二方刃のある剥片4点(0180, 0183, 0184, 0193)、スクレイバー5点(0185~0189)、微細剥離痕のある剥片2点(0181, 0196)からなる。

0169のナイフ形石器は、横ぎ剥片の刃部とその端部に刃渡し加工を行った刃渡し加工で、素材の形状から斧頭を成す。0170は下芯型の小型剥片を用い、0171は底面とともに刃渡し加工を行った刃渡し加工をそのまま和田し刃渡し加工に準じる。

0177の尖頭状石器については背面部の一部に筋理を残す横長剥片を用い、剥片の側面に刃渡しが認められ、上部の刃部が刃をカムに仕掛けた形態である。刃部が刃をカムに仕掛けた形態である。なお、曳きの刃部は底部から上に延びる。0175は三棱尖頭器の先端部、0174, 0175はその全容を残す資料である。2点ともに降子の横長剥片を使用し、特に、0174は横長剥片の形状も認められる。底部は剥片の形状を大きく変化させ、刃部を刃渡しに仕立てた形態がある。なお、曳きの刃部は底部から上に延びる。0175は十分長い横長剥片を用いたもので、底部の刃部は全滅でみられる。先端部には細かい刃部が見られ、刃部から底部にかけてはカリカルの剥離が認められる。この剥離



第64図 第II文化層第3ユニット第10エリア遺物出土状況図

の貝殻は、明らかに厚みを減じる目的であったと思われる。市貝殻は鉛角皮で整形され、薄きにも数少の整形貝殻が認められる。0172と0176は三稜尖頭器の基部に想定される。

5点のスクレイパーのうち、0185は刃端部の刃部と背面に刃部をもち、0186, 0187は刃片の端部に刃端部を有す。0189は刃片の刃端部と刃核を軸付している。0188は刃器的機能を想定したが、刃器の可能性もある。

ニホンカモのある刃片のうち、0184は三稜尖頭器の製作に関連しそうである。0183は刃器的可能性も考えられるが判断しづらい。

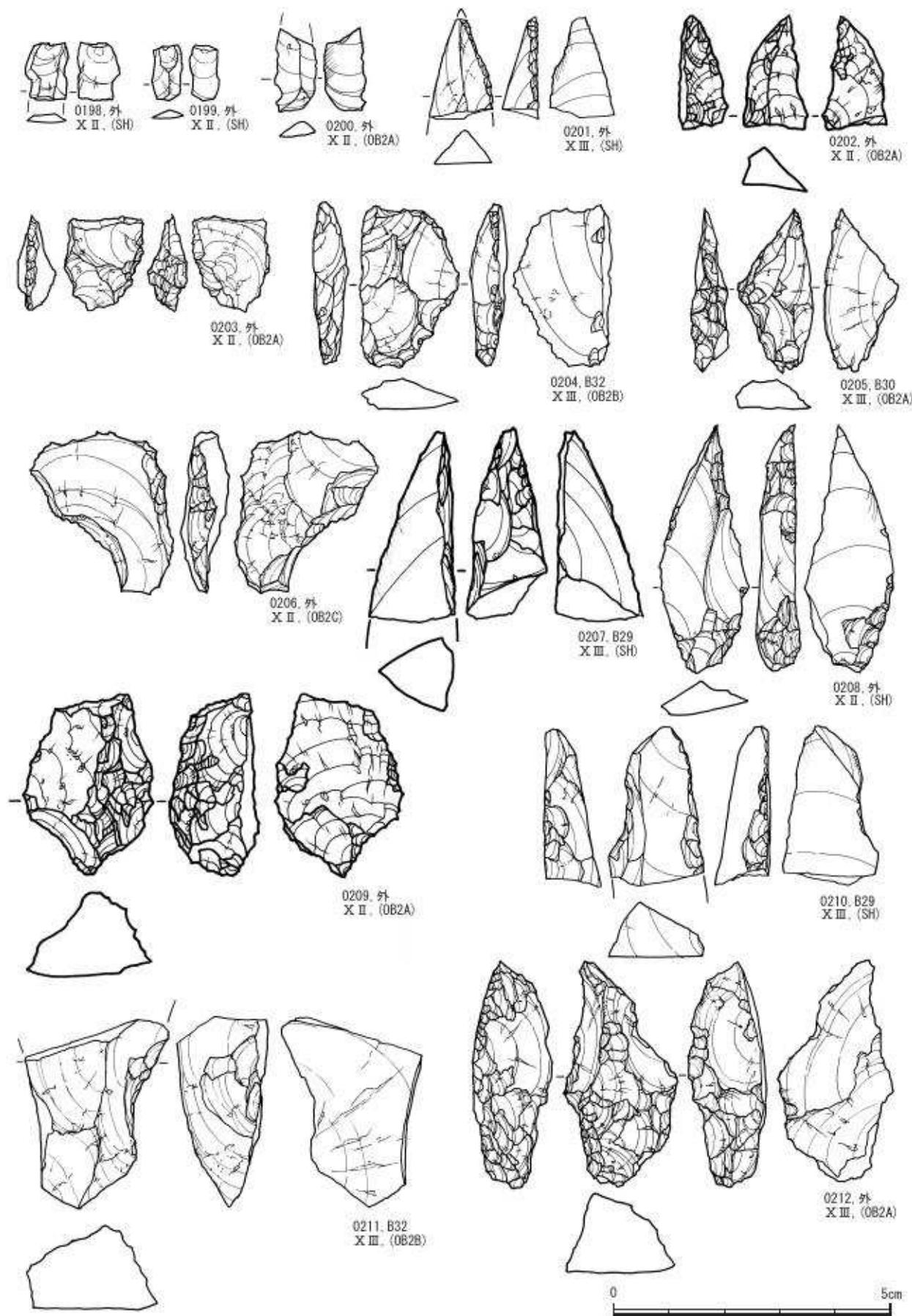
三稜尖頭器の完成度が高い割合にプランティングチップやチップの総数が少なく、比率が低めである。

2点の石核からは、打点移動が頻繁にあったことが読みとれる。

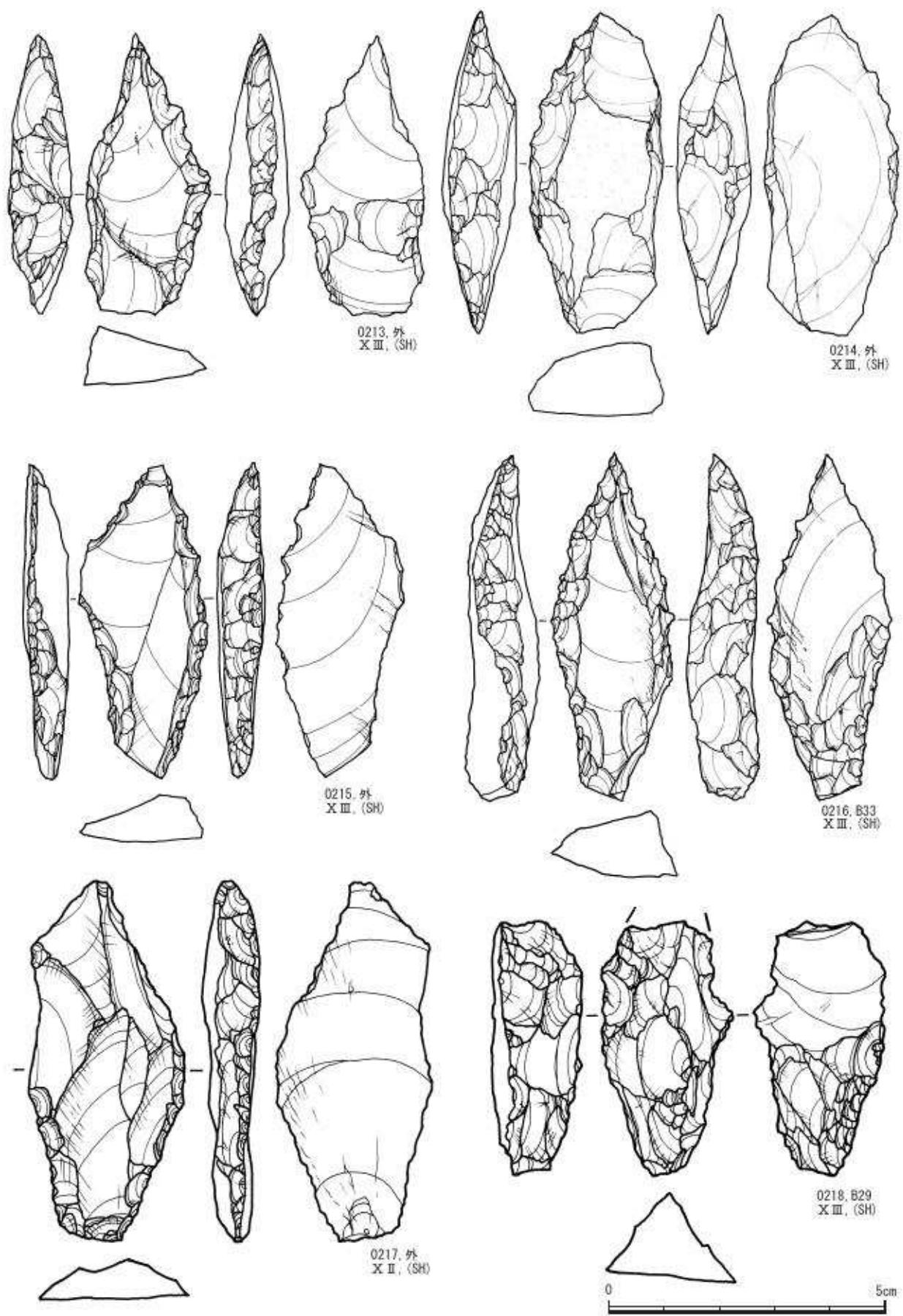
第10エリア(第64図、第65~72図)

第10エリアは第3ユニットの中央部に位置し、8か所のブロックからなる。第27ブロックと第33ブロックは里山の里山Ⅱ-Aで、第28ブロック、第29ブロック、第30ブロックも里山Ⅱ-Aとしながらそれに里山Ⅱ-A領が加わる状況が読みとれる。一方、第31ブロックは里山Ⅱ-A領が、第32ブロックは里山Ⅱ-B領を主体に里山Ⅱ-A領と少々の里山Ⅱ-C領やギョクズイ、里山Ⅱ-C領が加わる状況が読みとれ、第34ブロックは里山Ⅱ-C領に砂岩と里山Ⅱ-A領・里山Ⅱ-B領が加わる。

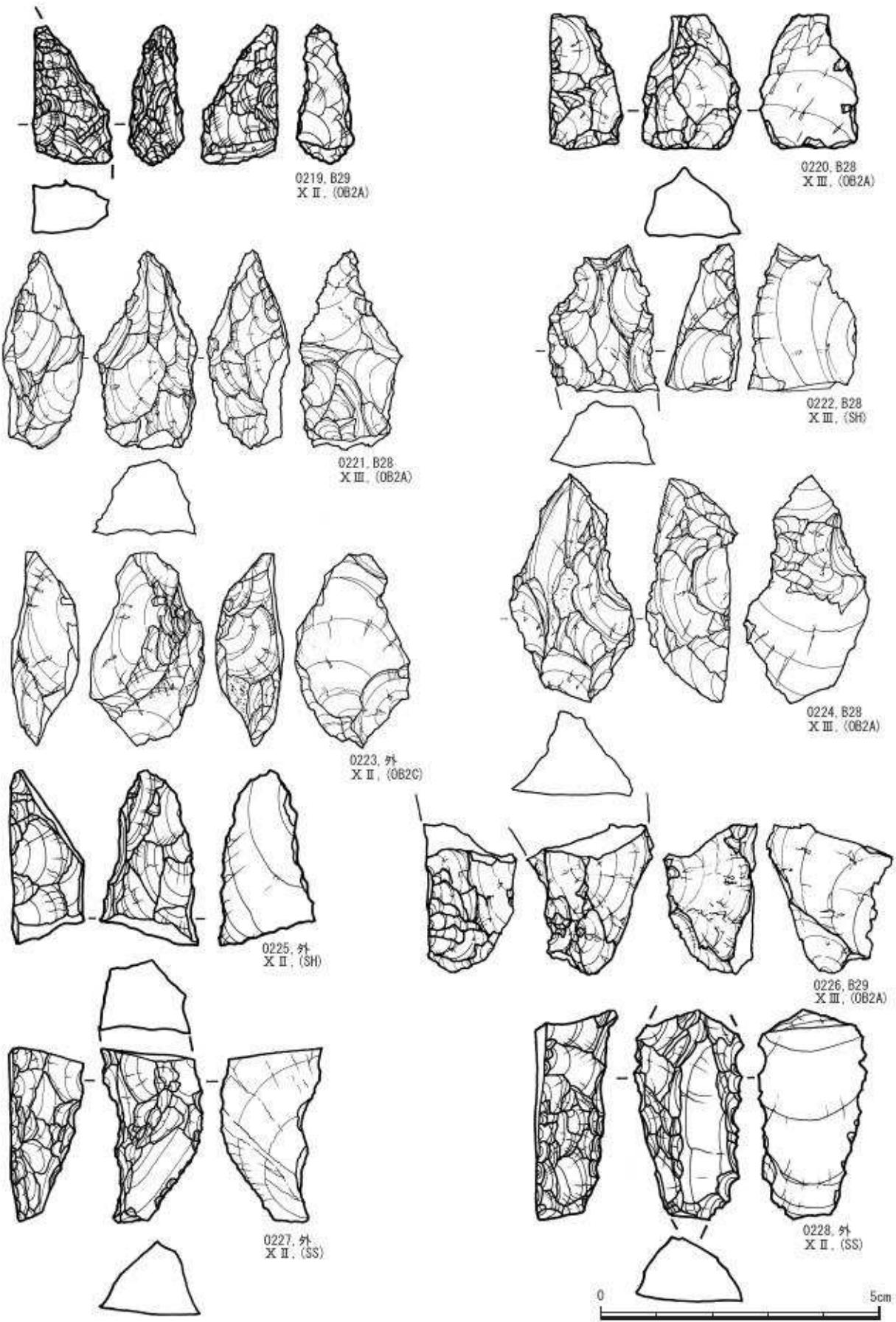
器種構成は、網走3点(0198~0200)、ナイフ形



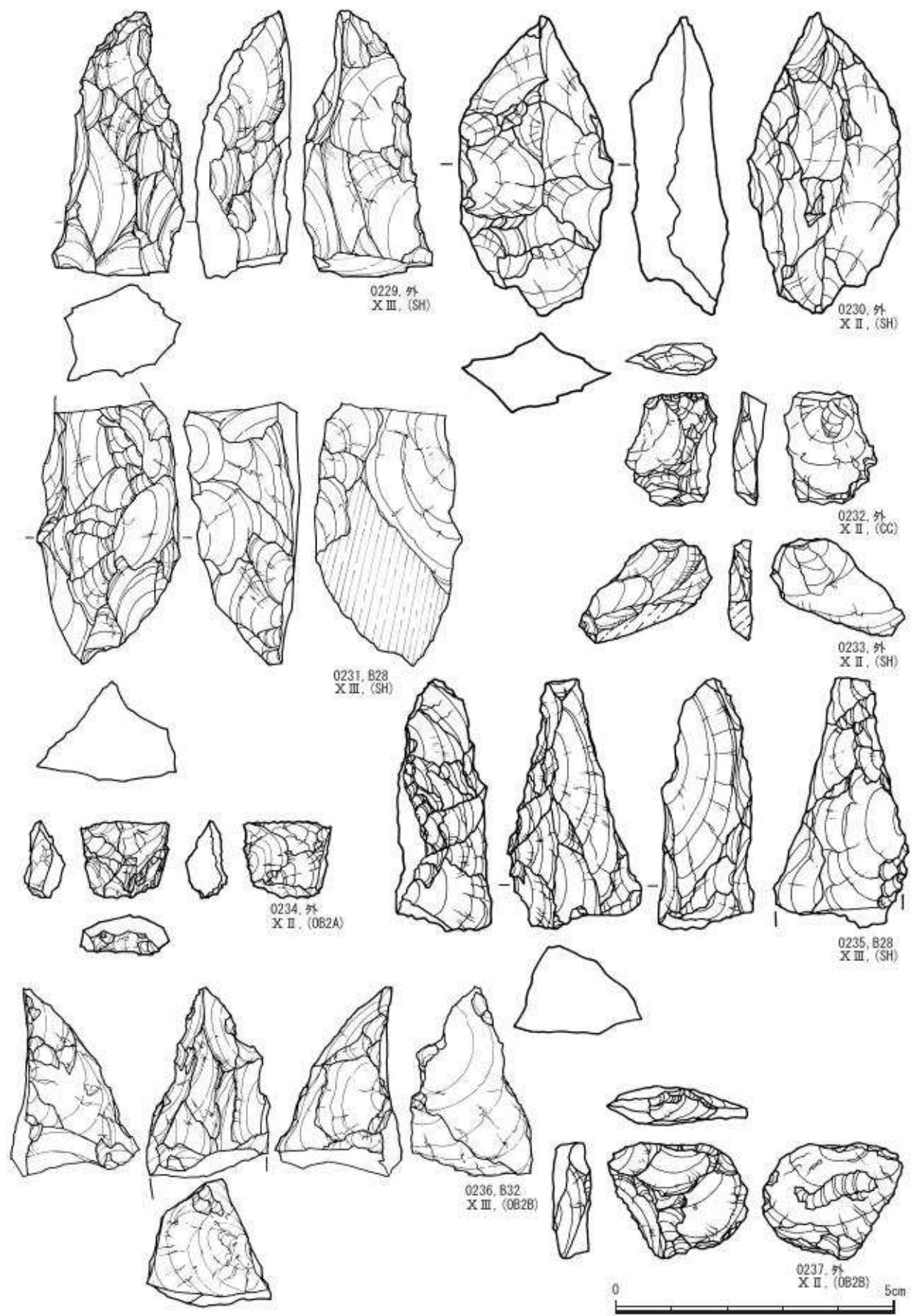
第65図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(1)



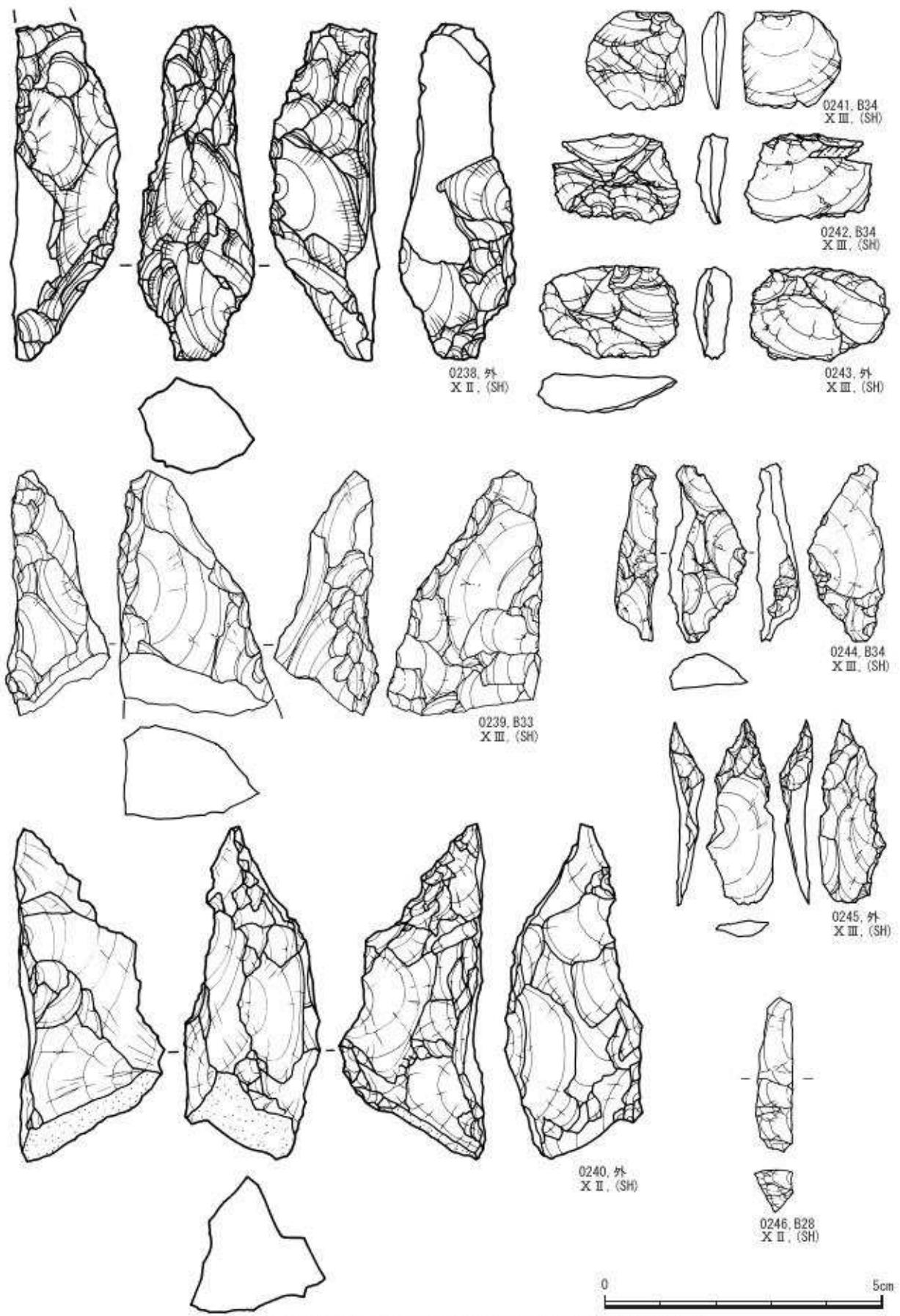
第66図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(2)



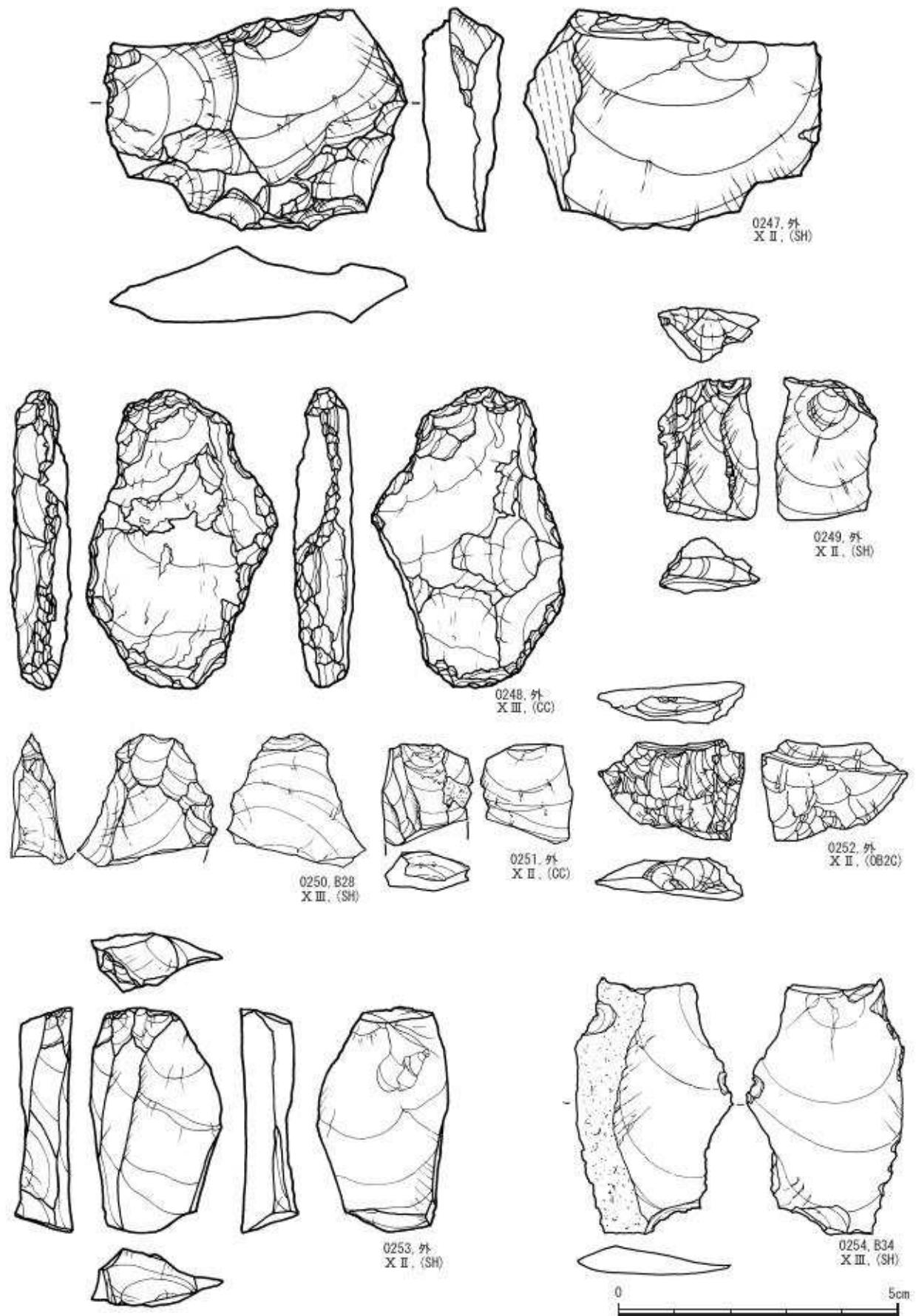
第67図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(3)



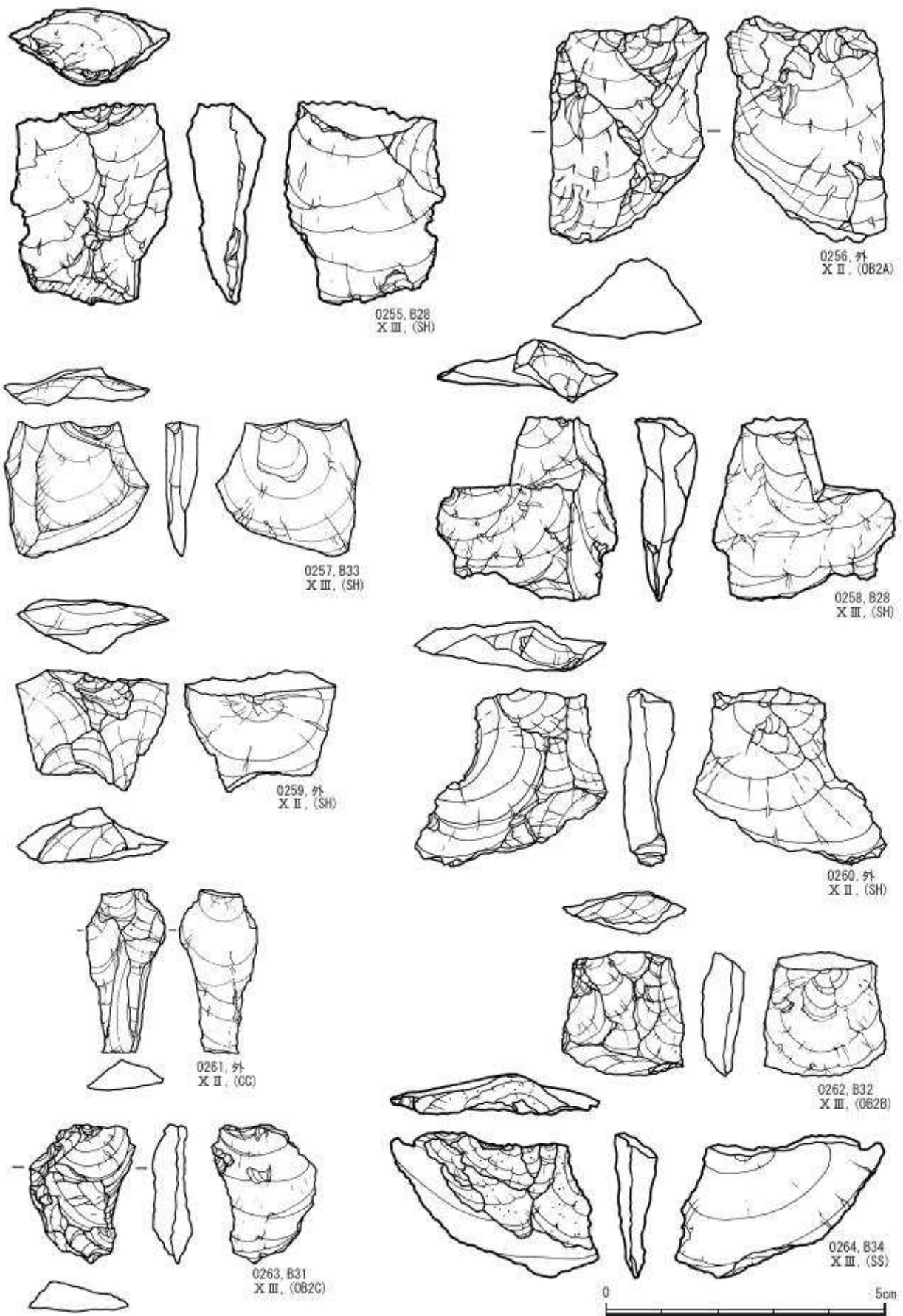
第68図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(4)



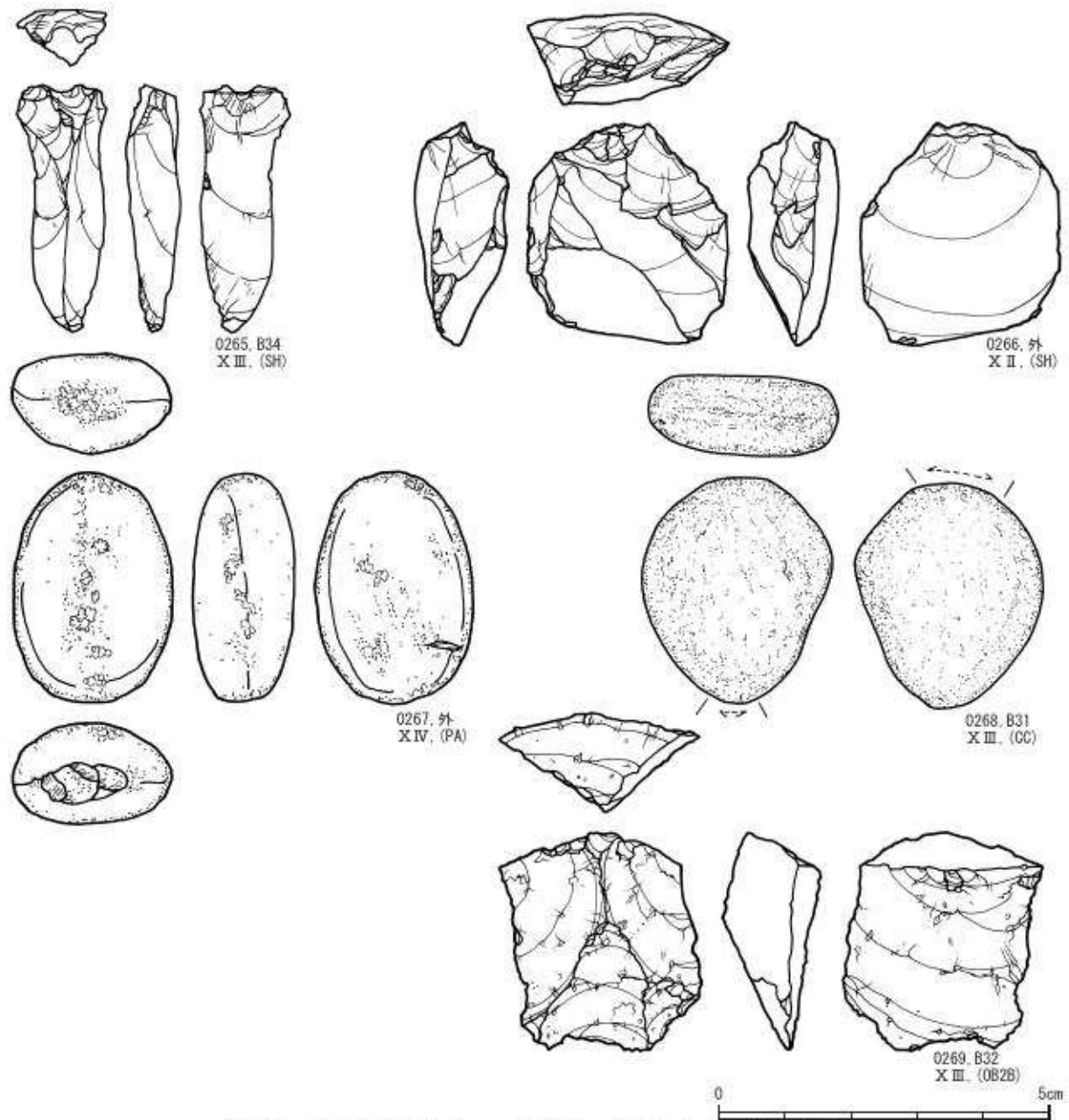
第69図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(5)



第70図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(6)



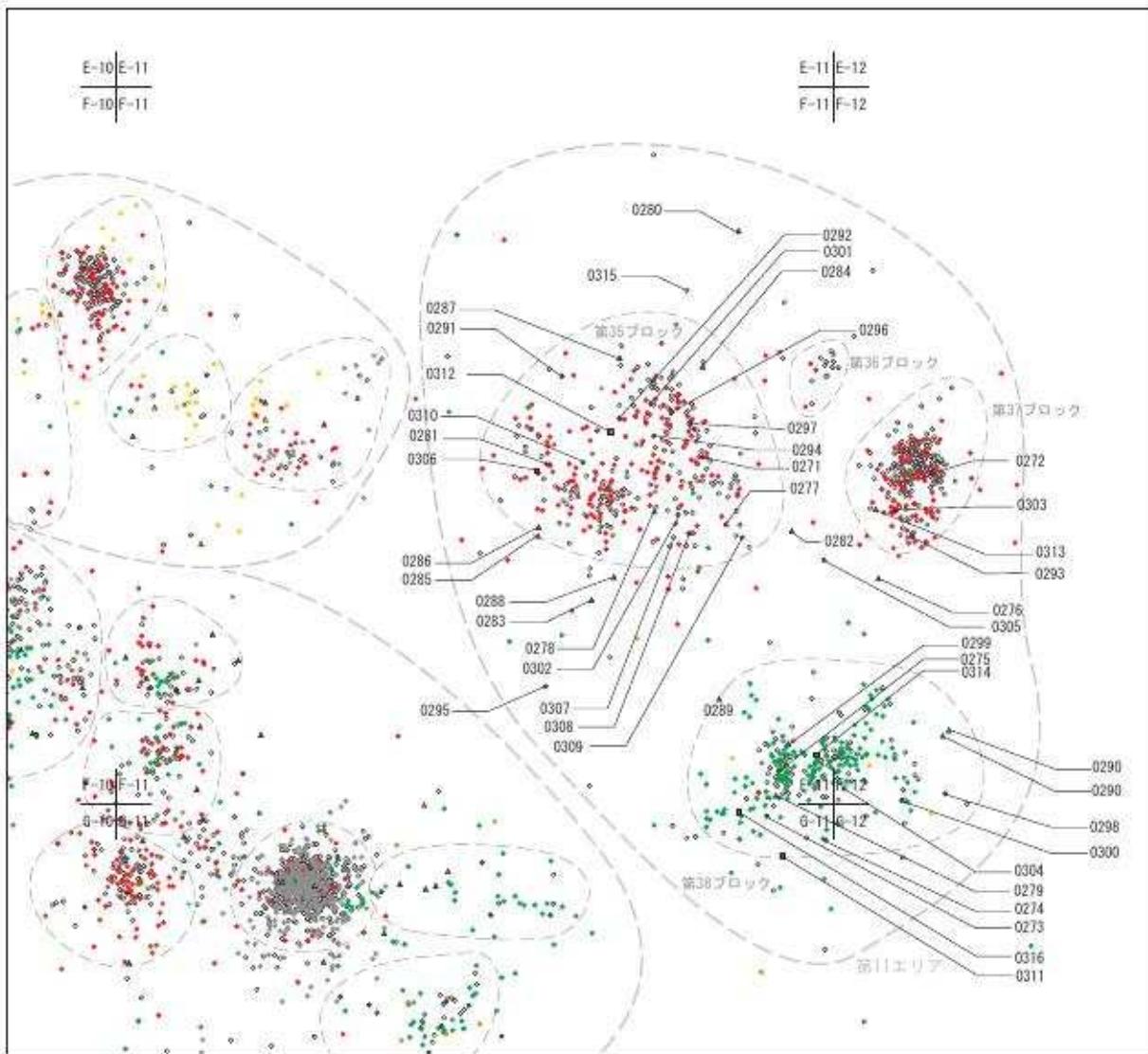
第71図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(7)



第72図 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器実測図(8)

第16表 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(1)

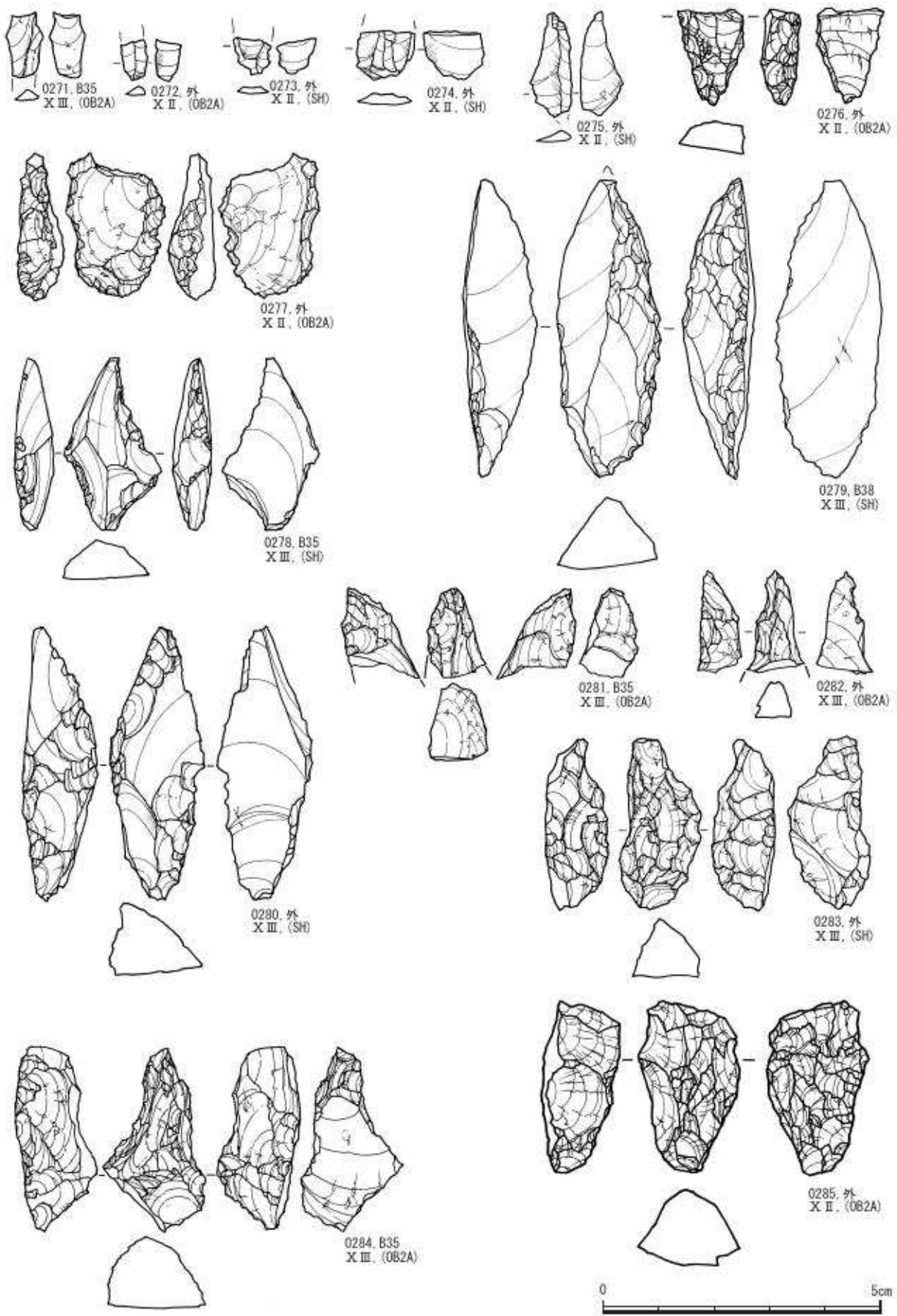
擇園 No	圓 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	Ⅱ	U3	A10	外	SH	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 F	接合 No
65	0198	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(10.3)	(7.9)	(1.8)	(0.13)	19956	X II	F-10	-		
	0199	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	10.0	5.7	1.8	0.07	20013	X II	F-10	-		
	0200	剥片	細石刃	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	(15.1)	(7.7)	(2.9)	(0.22)	20847	X II	G-11	-		
	0201	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(18.1)	(11.7)	(6.6)	(0.91)	20708	X III	G-10	-		
	0202	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	20.8	12.0	9.1	1.31	18906	X II	F-11	-		
	0203	石器	ナイフ形石器	台形石器	Ⅲ	U3	A10	外	OB2	A	16.9	14.4	7.0	1.27	18903	X II	F-11	-		
	0204	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	29.3	18.1	6.7	3.06	21684	X III	G-11	-		
	0205	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B30	OB2	A	29.7	13.8	7.0	1.78	22815	X III	F-11	-		
	0206	石器	ナイフ形石器	台形様石器	Ⅲ	U3	A10	外	OB2	C	29.2	26.0	8.8	4.33	21377	X II	G-11	-		
	0207	石器	ナイフ形石器	一側縁加工	Ⅲ	U3	A10	B29	SH	-	(34.4)	(15.8)	(14.5)	(4.88)	19734	X III	F-11	-		
	0208	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	44.8	16.3	8.1	4.08	20724	X II	G-11	-		
66	0209	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	32.7	23.8	16.6	8.63	18933	X II	F-11	-		
	0210	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	SH	-	(28.7)	(17.3)	(10.2)	(4.01)	20105	X III	F-11	99		
	0211	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	(34.2)	(26.0)	(16.9)	(10.50)	22274	X III	G-11	-		
	0212	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	OB2	A	40.6	20.8	14.3	8.66	19745	X III	F-11	-		
	0213	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	50.9	22.8	12.0	10.94	21585	X III	G-10	-		
	0214	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	57.6	24.3	13.3	19.22	22155	X III	G-11	-		
	0215	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	56.7	23.5	8.5	10.30	20264	X III	G-10	-		
	0216	石器	三棱尖頭器	基部背面加工	Ⅲ	U3	A10	B33	SH	-	63.0	22.5	13.5	14.94	21197	X III	G-11	-		
	0217	石器	ナイフ形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	65.1	28.5	10.9	15.49	20346	X II	G-11	-		
	0218	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B29	SH	-	(46.3)	(24.0)	(16.6)	(15.63)	22519	X III	F-11	-		
67	0219	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	(25.3)	14.2	(10.4)	(2.87)	20356	X II	G-11	-		
	0220	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B28	OB2	A	24.3	17.8	13.4	5.14	21307	X III	F-10	35		
	0221	石器	三棱尖頭器	基部背面加工	Ⅲ	U3	A10	B28	OB2	A	35.4	18.7	14.5	7.46	21273	X III	F-10	-		
	0222	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(26.5)	(20.1)	(13.5)	(6.41)	21269	X III	F-10	-		
	0223	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器	Ⅲ	U3	A10	外	OB2	C	34.4	20.7	12.5	6.58	20352	X II	G-11	-		
	0224	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	OB2	A	40.8	22.5	16.3	9.77	21277	X III	F-10	-		
	0225	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	31.6	18.0	13.9	5.77	20323	X II	F-10	-		
	0226	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器	Ⅲ	U3	A10	B29	OB2	A	(27.1)	(22.9)	(16.5)	(7.19)	20454	X III	F-11	-		
	0227	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SS	-	(31.3)	(18.6)	(13.7)	(5.97)	20709	X II	G-11	126		
	0228	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SS	-	(37.8)	(20.0)	(15.0)	(9.86)	20124	X II	G-11	126		
68	0229	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	47.4	23.8	17.3	21.71	21584	X III	G-10	-		
	0230	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	53.9	27.8	17.7	18.64	20324	X II	F-10	-		
	0231	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(47.3)	(25.7)	(21.2)	(23.32)	21766	X III	F-10	-		
	0232	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	20.4	16.6	6.0	1.51	20398	X II	G-10	-		
	0233	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	18.6	24.0	4.5	1.24	18476	X II	G-11	-		
	0234	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	A	14.0	16.1	7.5	1.29	20008	X II	F-10	-		
	0235	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	44.9	24.3	17.4	15.16	20613	X III	F-10	-		
	0236	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B32	OB2	B	(34.1)	(22.3)	(23.3)	(10.59)	22937	X III	G-11	-		
	0237	剥片	-	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	B	20.8	25.3	7.0	2.97	20171	X II	G-11	-		
	0238	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	(60.4)	(21.3)	(20.0)	(20.53)	21093	X II	G-11	-		
69	0239	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	B33	SH	-	(44.1)	(28.1)	(19.0)	(17.28)	21196	X III	G-11	97		
	0240	石器	三棱尖頭器	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	60.1	24.7	27.5	28.91	21620	X II	G-11	97		
	0241	チップ	プランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	17.7	18.1	4.2	1.16	21470	X III	G-11	-		
	0242	チップ	プランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	16.1	23.1	6.0	1.27	20889	X III	G-11	-		
	0243	チップ	プランティングチップ	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	16.9	25.1	7.0	2.38	21588	X III	G-10	-		
	0244	チップ	プランティングチップ	基部加工	Ⅱ	U3	A10	B34	SH	-	32.1	14.2	8.0	2.43	20881	X III	G-11	-		
	0245	チップ	プランティングチップ	基部加工	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	33.2	12.5	6.3	1.29	20906	X III	G-11	-		
	0246	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	28	6.8	7.8	1.07	20333	X II	F-10	-		
70	0247	石器	スクレイバー	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	39.5	54.2	14.5	27.25	21041	X II	G-10	-		
	0248	石器	模形石器	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	53.5	34.4	11.0	20.07	21553	X III	G-10	-		
	0249	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	SH	-	25.5	18.2	10.0	3.70	20178	X II	G-11	-		
	0250	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅱ	U3	A10	B28	SH	-	(23.7)	(25.1)	(10.0)	(5.43)	20590	X III	F-10	-		
	0251	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	CC	-	(18.3)	(16.3)	(7.2)	(1.88)	20344	X II	F-10	-		
	0252	剥片	折断剥片	-	Ⅱ	U3	A10	外	OB2	C	18.2	26.1	6.8	3.25	21013	X II	G-10	-		



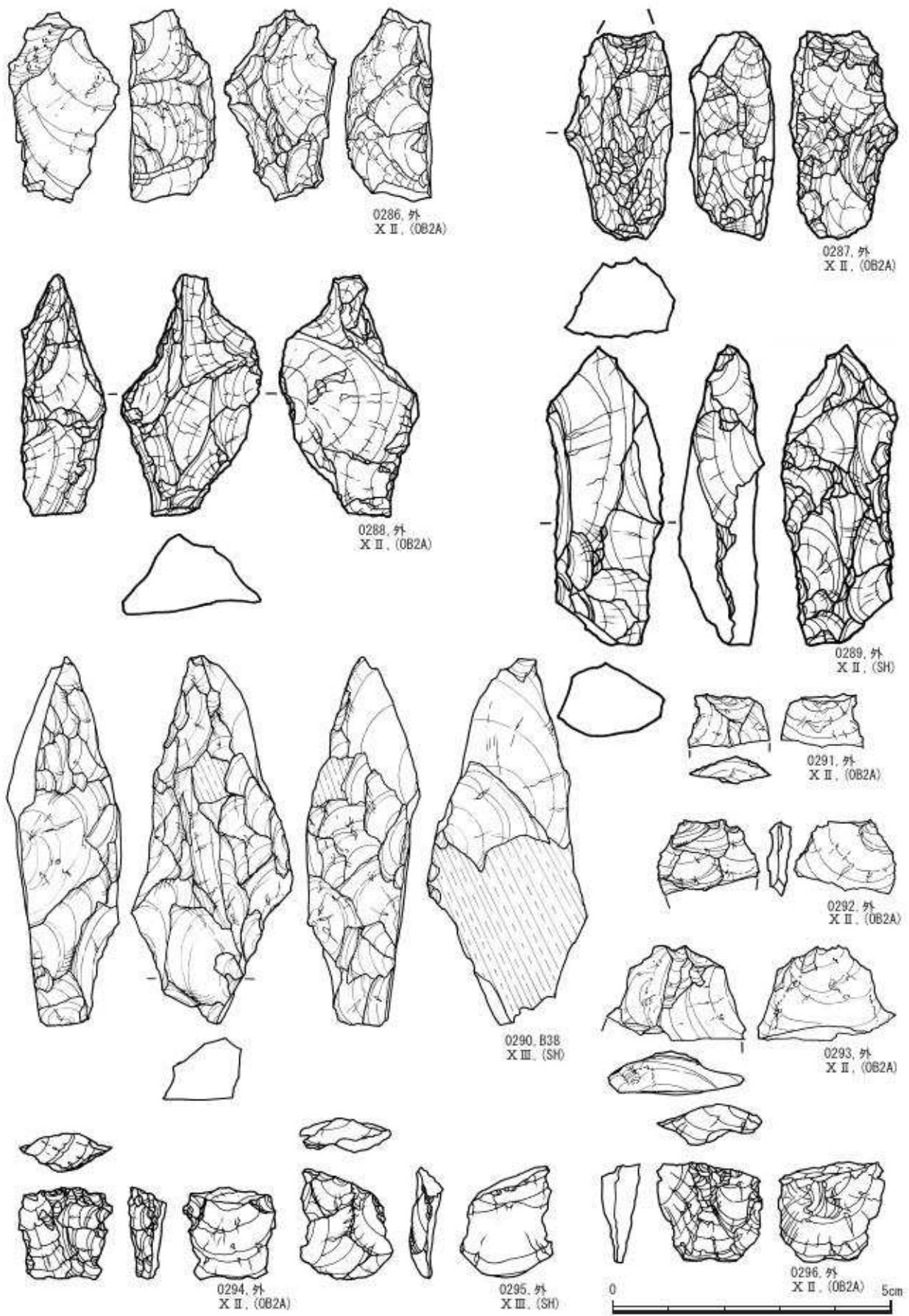
第73図 第II文化層第3ユニット第11エリア遺物出土状況図

第17表 第II文化層第3ユニット第10エリア出土石器観察表(2)

標図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	ユニット	エリア	形状	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
70	0253	剥片	折断剥片	-	II	U3	A10	外	SH	-	40.4	23.9	10.5	9.60	18470	X II	G-11	108
	0254	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A10	B34	SH	-	45.9	28.5	8.1	7.56	20875	X III	G-11	-
	0255	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A10	B28	SH	-	36.4	28.8	14.0	10.48	21242	X III	F-10	-
	0256	剥片	-	-	II	U3	A10	外	B82	A	40.6	28.6	15.2	13.76	18905	X II	F-11	-
	0257	剥片	-	-	II	U3	A10	B33	SH	-	24.5	25.9	6.0	2.41	18901	X III	G-11	-
	0258	剥片	-	-	II	U3	A10	B28	SH	-	32.9	32.6	11.2	5.98	21288	X III	F-10	-
	0259	剥片	-	-	II	U3	A10	外	SH	-	21.7	27.2	10.0	4.09	18910	X II	F-11	-
	0260	剥片	-	-	II	U3	A10	外	SH	-	31.9	34.5	9.0	5.89	20953	X II	G-11	-
	0261	剥片	-	-	II	U3	A10	外	CC	-	29.1	14.3	5.5	1.94	20871	X II	G-11	-
	0262	剥片	-	-	II	U3	A10	B32	B82	B	22.4	22.0	7.6	3.23	22329	X III	G-11	-
71	0263	剥片	-	-	II	U3	A10	B31	B82	C	25.0	19.2	7.0	2.36	20396	X III	G-10	-
	0264	剥片	-	-	II	U3	A10	B34	SS	-	26.3	37.4	8.0	4.80	21213	X III	G-11	-
	0265	剥片	-	-	II	U3	A10	B34	SH	-	37.2	13.7	7.9	3.06	21218	X III	G-11	-
	0266	剥片	-	-	II	U3	A10	外	SH	-	33.3	30.6	14.0	13.12	18462	X II	G-11	98
	0267	石器	ハンマー	-	II	U3	A10	外	PA	-	34.9	24.3	15.1	16.48	22907	X IV	G-11	-
72	0268	石器	ハンマー	-	II	U3	A10	B31	CC	-	34.3	28.9	12.5	18.06	22054	X III	G-10	-
	0269	剥片	-	-	II	U3	A10	B32	B82	B	33.1	30.8	15.0	8.85	21627	X III	G-11	-



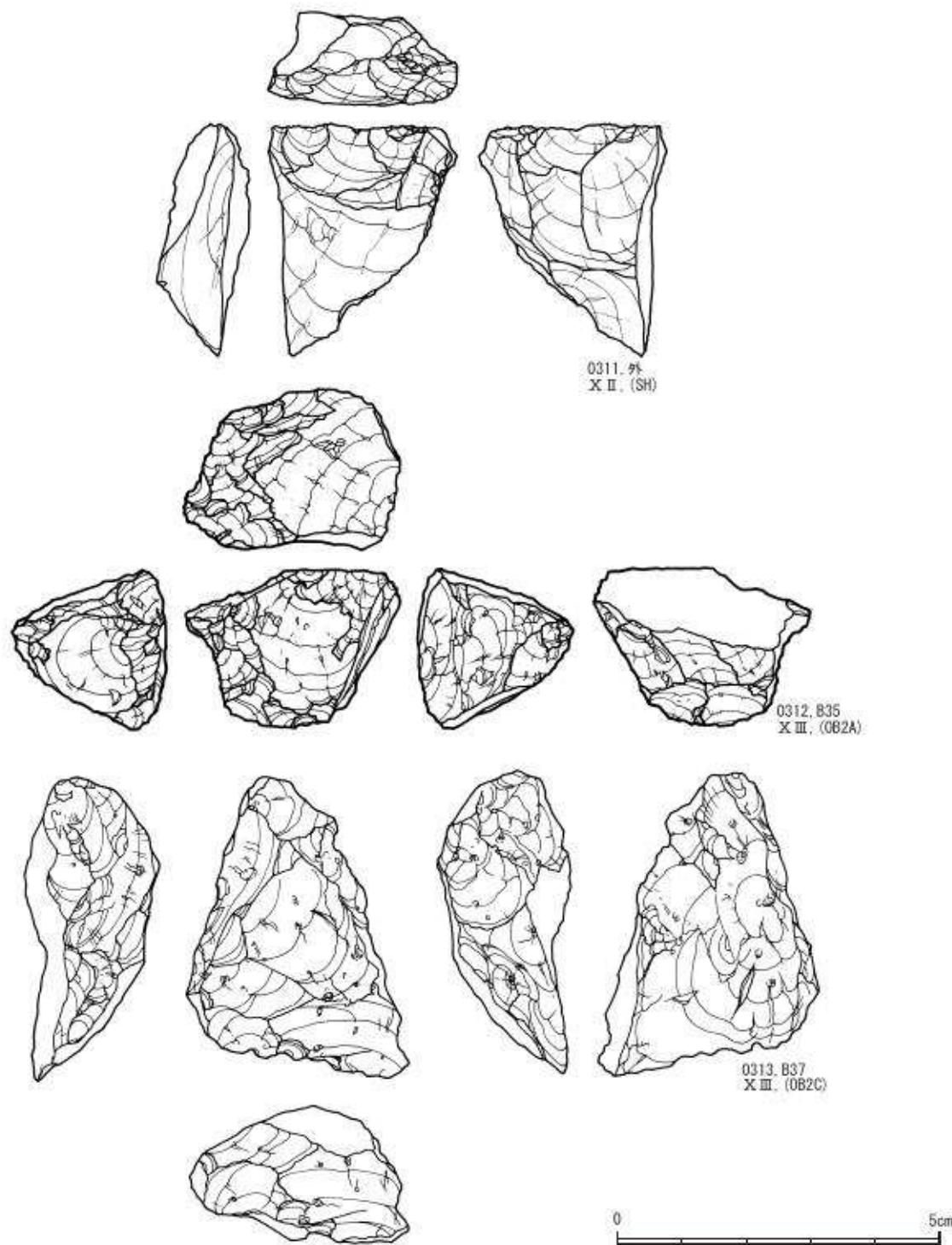
第74図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(1)



第75図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(2)



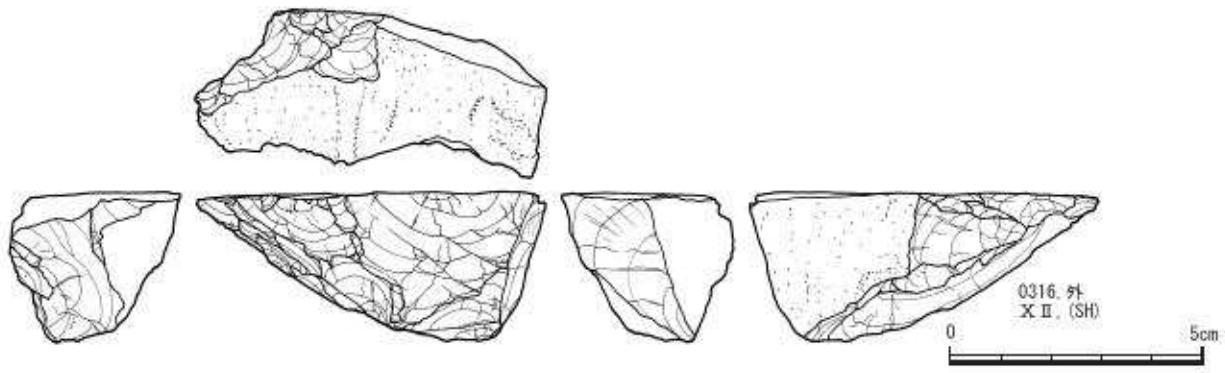
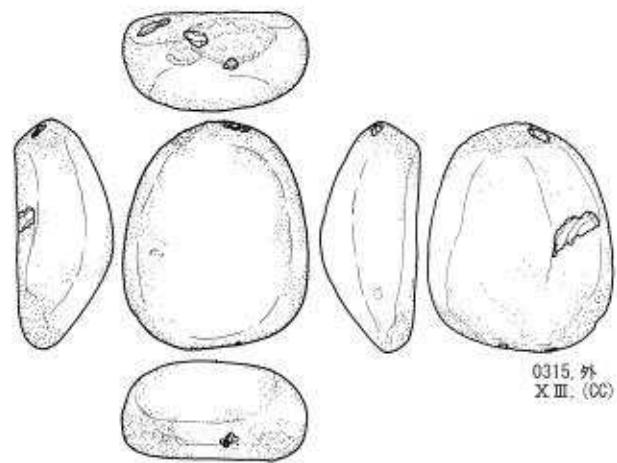
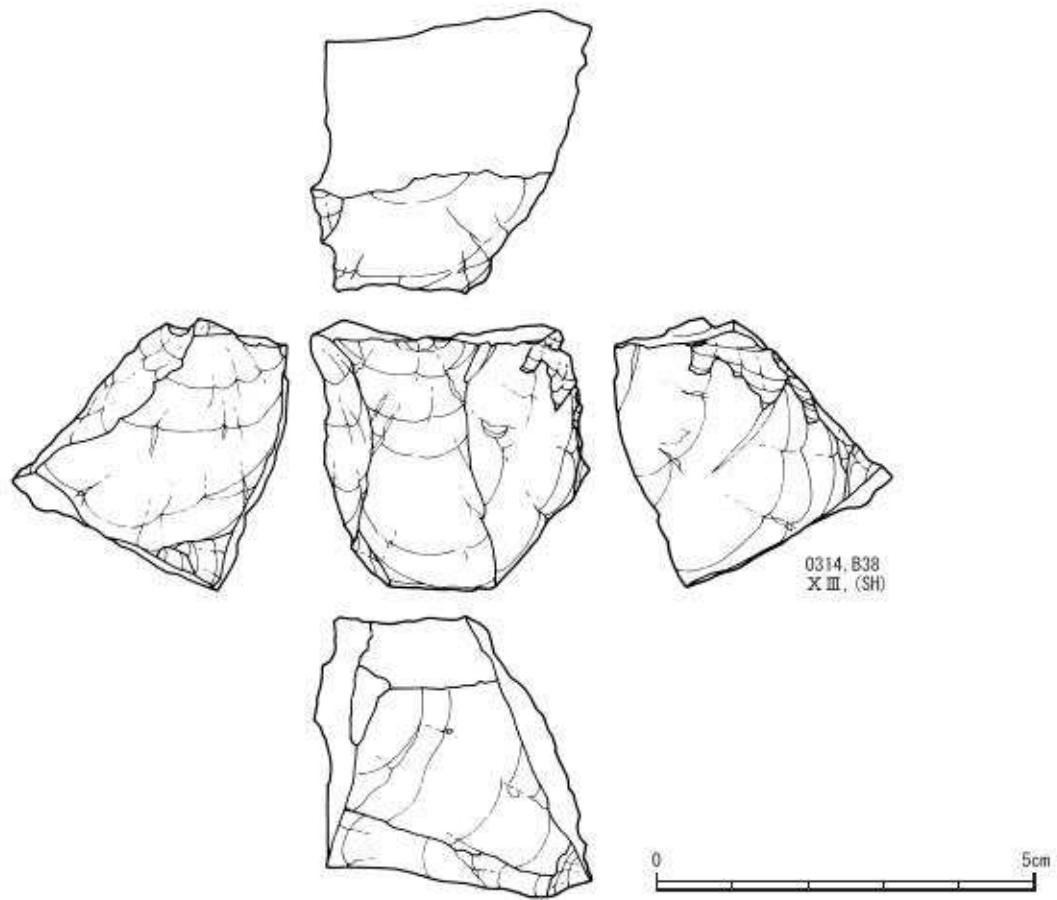
第76図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(3)



第77図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(4)

器12点(0201, 0203~0210, 0214, 0215, 0217), 二次加工のある疊片7点(0202, 0211, 0220, 0223, 0226, 0246, 0250), 三棱尖頭器19点(0212, 0213, 0216, 0218, 0219, 0221, 0222, 0224, 0225, 0227~0231, 0235, 0236, 0238~0240), スクレイバー1点(0247), 穩形器1点(0248), 微細疊片のある疊片2点(0254, 0255), ハンマーストーン2点(0267, 0268)が確認できる。また、疊片のうち(0249, 0251~0253)の4点は、折断疊片と観察できる。

0201のナイフ形器は先端部に埋立し、も貫縫に近かいア漫しが確認できる。丸削な系疊片を選択したと思われる。0207も先端部で、より深にア漫しがある。系疊片は累積疊片の可能性が高く、怎れ皮の下部を成している。0205は丸削のち頭の一部に貫縫にア漫しが集まる。0203, 0204, 0206は下凹形疊片のや貫縫を主に庵からア漫しがある。0208は疊片の移動した絶長疊片を復元したものである。0209は疊片の移動した絶長疊片を復元したものである。



第78図 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器実測図(5)

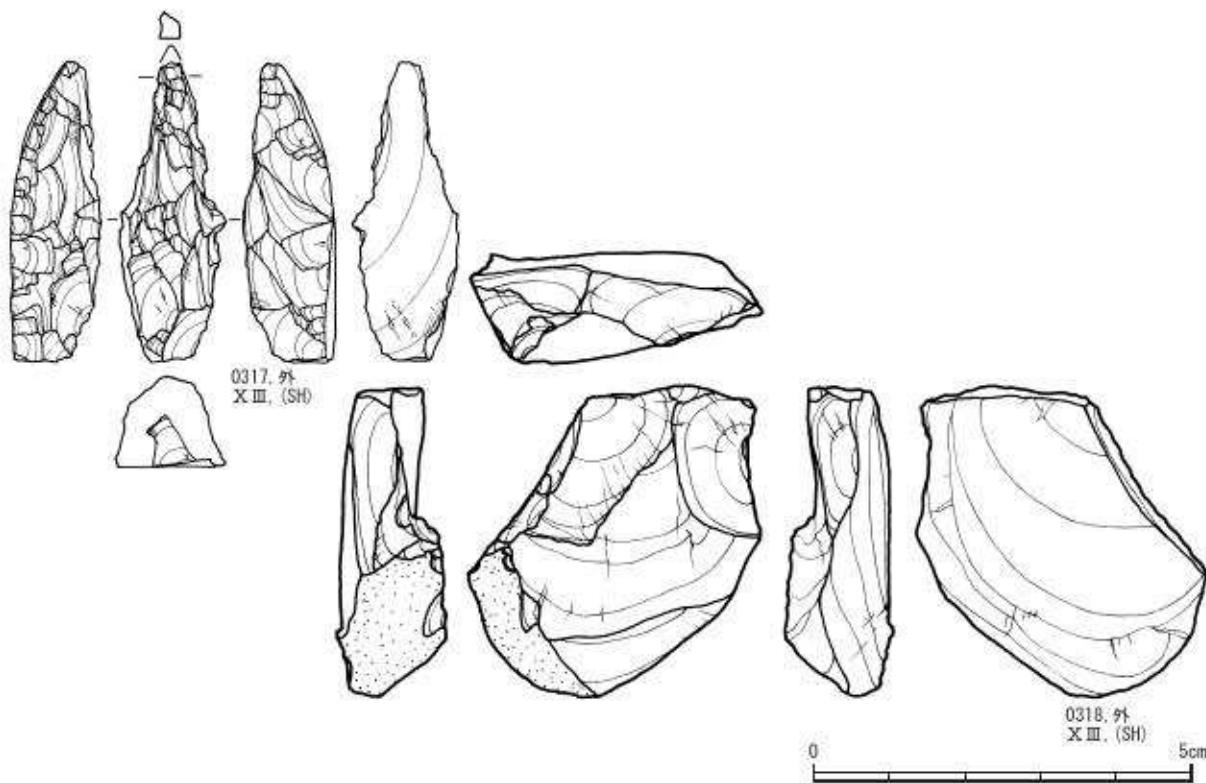
ので、先端と先端部側面にアバシカニが見られ、薄さにもとづく。0215は細長い縦長刃片をもつた二面削りナイフ形石器で、二面斜に鋸戻度の少ないアバシカニがみられる。なお、刃部にみられる小切跡はアコボレと認識できる。0214の刃部には裏皮きが残され、分厚い横長刃片の刃部に薄さからアバシカニを行い、刃部側は薄さからの整形刃部をそのまま活かし、先端部が刃部となる。系状刃片の特徴をそのまま残し、刃部側は薄く残

される。0217もまた薄さの移動する刃片を使出し、二面削りにアバシカニがみられる。

三枚尖頭器は19点とした。0213は先端にナイフ形石器とした0215と近似した刃片をもつ、アバシカニにより鋸戻し尖頭部を作り出している。多様なことは0216でも認められ、扁平な系状の側面は薄さからの甲狀アバシカニで鋸戻し尖頭部を作り出している。また、先端部と分厚な系状の刃部の薄さカニが認められる。0221、0224、0238の3点以

第18表 第II文化層第3ユニット第11エリア出土石器観察表

採集No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユーフ	エリア	ガウク	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	カラグ	接合No
74	0271	剥片	細石刃	-	II	U3	A11	B35	OB2	A	(11.8)	(6.8)	(2.1)	(0.12)	18821	X III	F-11	-
	0272	剥片	細石刃	-	II	U3	A11	外	OB2	A	(7.5)	(5.0)	(1.6)	(0.05)	9604	X II	F-12	-
	0273	剥片	細石刃	-	II	U3	A11	外	SH	-	(6.8)	(6.8)	(1.4)	(0.04)	18448	X II	G-11	-
	0274	剥片	細石刃	-	II	U3	A11	外	SH	-	(9.0)	(10.6)	(2.0)	(0.13)	22757	X II	G-11	-
	0275	剥片	細石刃	-	II	U3	A11	外	SH	-	(18.9)	(7.7)	(2.1)	(0.18)	19540	X II	F-11	-
	0276	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	17.5	12.0	7.5	1.25	9408	X II	F-12	-
	0277	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	25.9	18.0	8.6	2.86	18417	X II	F-11	-
	0278	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A11	B35	SH	-	33.1	18.0	7.4	2.56	19491	X III	F-11	-
	0279	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A11	B38	SH	-	(53.4)	18.9	(13.5)	(12.11)	19548	X III	F-11	-
	0280	石器	ナイフ形石器	-	II	U3	A11	外	SH	-	49.0	17.2	13.7	8.50	23121	X III	F-11	-
	0281	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U3	A11	B35	OB2	A	(16.1)	(10.7)	(14.1)	(1.44)	19418	X III	F-11	-
	0282	石器	三稜尖頭器	先端部	II	U3	A11	外	OB2	A	(18.5)	(10.5)	(8.0)	(0.98)	19518	X III	F-11	-
	0283	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	外	SH	-	31.0	15.0	11.7	4.58	18886	X III	F-11	-
	0284	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	B35	OB2	A	33.0	18.6	15.0	5.80	22515	X III	F-11	-
	0285	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	31.1	18.6	14.5	6.46	18405	X II	F-11	87
75	0286	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	34.1	20.2	15.7	9.46	18404	X II	F-11	-
	0287	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	(37.6)	(19.6)	(15.5)	(11.09)	16917	X II	F-11	-
	0288	石器	錐状石器	-	II	U3	A11	外	OB2	A	43.4	25.5	15.7	12.07	18877	X II	F-11	-
	0289	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	外	SH	-	53.6	21.2	15.5	14.93	18431	X II	F-11	107
	0290	石器	三稜尖頭器	-	II	U3	A11	B38	SH	-	66.1	29.1	21.0	29.62	266267	X III	F-12	-
	0291	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	外	OB2	A	(9.8)	(14.7)	(5.0)	(0.70)	18966	X II	F-11	-
	0292	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	外	OB2	A	(13.6)	(18.4)	(4.4)	(0.71)	16915	X II	F-11	-
	0293	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	外	OB2	A	(17.1)	(25.1)	(8.0)	(2.53)	9480	X II	F-12	-
	0294	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	外	OB2	A	16.6	17.0	6.8	1.35	16745	X II	F-11	-
	0295	剥片	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	19.8	16.8	6.2	1.23	19534	X III	F-11	-
76	0296	剥片	-	-	II	U3	A11	外	OB2	A	17.9	19.0	7.0	1.63	16902	X II	F-11	-
	0297	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	B35	OB2	A	17.7	17.6	5.8	1.38	19443	X III	F-11	-
	0298	チップ	プランティングチップ	-	II	U3	A11	B38	SH	-	20.3	21.1	3.8	1.06	268	X III	F-12	-
	0299	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A11	B38	SH	-	40.3	10.5	9.0	2.62	19826	X III	F-11	-
	0300	チップ	プランティングチップ	-	II	U3	A11	B38	SH	-	(15.0)	(25.7)	(5.5)	(0.95)	10574	X III	F-12	-
	0301	剥片	折断剥片	-	II	U3	A11	外	OB2	C	(24.9)	(23.5)	(11.0)	(4.44)	16909	X II	F-11	-
	0302	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U3	A11	外	SH	-	34.4	19.0	7.0	3.34	18383	X II	F-11	-
	0303	石器	二次加工痕のある剥片	部分加工	II	U3	A11	B37	OB2	A	24.9	19.8	9.0	3.58	10552	X III	F-12	-
	0304	剥片	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	20.3	21.2	7.5	1.61	22763	X II	F-12	-
	0305	剥片	-	-	II	U3	A11	外	OB2	A	18.4	21.5	5.0	1.25	22730	X II	F-11	-
77	0306	石核	残核	-	II	U3	A11	B35	OB2	A	(10.5)	(14.9)	(11.0)	(1.22)	18872	X III	F-11	-
	0307	石器	ハンマー	-	II	U3	A11	B35	SH	-	21.4	9.2	10.5	2.35	20084	X III	F-11	-
	0308	剥片	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	29.3	21.6	5.0	2.74	18415	X II	F-11	-
	0309	剥片	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	45.8	21.0	15.6	11.65	18881	X II	F-11	-
	0310	剥片	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	50.6	27.3	13.0	11.58	18869	X II	F-11	-
78	0311	石核	残核	-	II	U3	A11	外	SH	-	36.2	29.3	14.5	12.27	18455	X II	G-11	-
	0312	石核	-	-	II	U3	A11	B35	OB2	A	24.8	33.4	24.5	15.03	16798	X III	F-11	-
	0313	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U3	A11	B37	OB2	C	46.6	34.5	21.0	22.21	9774	X III	F-12	-
78	0314	石核	-	-	II	U3	A11	B38	SH	-	35.9	36.9	36.5	40.99	22737	X III	F-11	-
	0315	石器	ハンマー	-	II	U3	A11	外	CC	-	45.0	36.7	18.7	45.50	21091	X III	F-11	-
	0316	石核	-	-	II	U3	A11	外	SH	-	29.9	69.3	33.8	57.64	19555	X II	G-11	-



第79図 第II文化層第3ユニットエリア外出土石器実測図

体はほとんどが乍塊品ないしは製作途上と判断される。0221では、先端部を調節に微細な調整刃部が、また、基部の曳き刃部も認められることから完成品と判断できそうである。0218は複数枚離や1枚な基部の曳き調整部もみられるが、先端部の尖端の形状は明らかでない。なお、基部の曳き刃部は、器底を減少する目的とみられる。また、曳きの細かい調整刃部、基部の曳き刃部からは、基部意匠が察く感じられる。0229～0231、0239、0240は製作途上での乍塊あるいは成形と判断できるとともに、曳きへの調整刃部の痕跡が付いてる。

二次刃部のある刃片とした0220、0223、0226は三枚尖頭器製作とみられる。なお、0223は、三枚尖頭器の基部刃片に近いのかもしれない。

0248は、その整形成形や形状から楔形刃器として取り扱った。0247は厚手の刃片の先端部に二枚刃部を付けていたもので、スクレイバーの機能が考えられる。プランディングチップの0241～0243については、三枚尖頭器製作時の曳き刃部と判断し、0244、0245は基部の曳き刃部の可動性が考えられる。

2点のハンマーストーンはいずれも小型で、0267は上部曳き刃部と調節、0268は上部の刃端に敲打痕やハンマーストーン特有の痕跡が残る。

この第10エリアが分布範囲も広く、工具遺物も最も充実している。

第1に造りしたいのが刃部を復元した細長い縦長刃片素材のモルタルである。製品は確認されているがその一方、そのモルタルの芯残や刃片、モルタル製作に匹敵するプランディングチップはほとんど見いだせない。

次に、厚手の刃片を素材とした黒曜石及び碧玉の三枚尖頭器は、大製品や破壊品が多く残されることから、エリア内で製作が行われたことを示している。したがって、第10エリアでは、エリア内でのモルタル製作行為とそれにより作り出された製品と、エリア外で製作した細長い縦長刃片から作り出され落ち込まれた可能性の高い製品が存在することとなる。

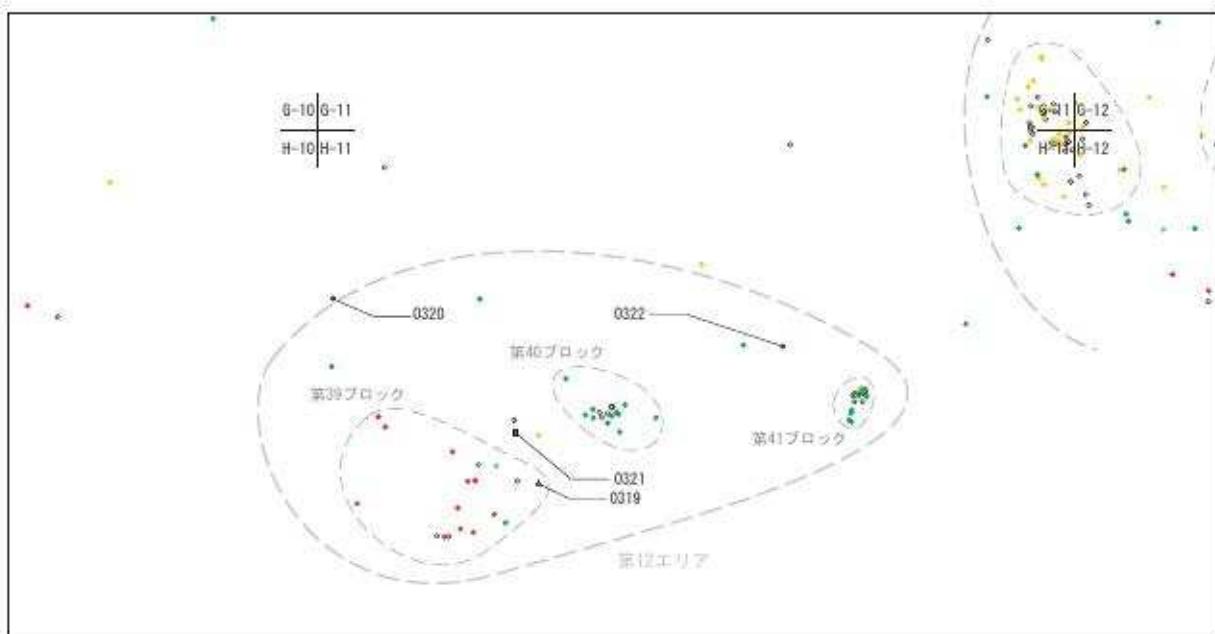
第IIエリア(第73図、第74～78図)

第11エリアはF、G-11、12号に分布し、4か所のブロックからなる。第35ブロックは黒曜石II-A類3点、第36ブロックは黒曜石II-A類3点のうち、第37ブロックは黒曜石II-A類4点に黒曜石II-C類若が少量混じるモルタル、第38ブロックは更なるモルタルで形成される。

器種は、紀セラ5点(0271～0275)、ナイフ形モルタル5点(0276～0280)、三枚尖頭器9点(0281～0290)、溝状モルタル

第19表 第II文化層第3ユニットエリア外出土石器観察表

捕獲No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	形状	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	グリッド	接合No
-	0317	石器	三枚尖頭器	-	II	U3	外	外	SH	-	(39.5)	(14.3)	(12.1)	(3.98)	9828	XIII	F-12	-
-	0318	石核	-	-	II	U3	外	外	SH	-	41.3	38.9	15.0	22.38	9829	XIII	F-12	-



第80図 第II文化層第4ユニット第12エリア遺物出土状況図

1点(0288), 二冰刃のある丸片3点(0299, 0303, 0313), 五枚5点(0306, 0311, 0312, 0314, 0316), ハンマーストーン2点(0307, 0315)の内、折断丸片、微細丸鉢の丸片等で構成される。

ナイフ形器の0276は破壊しているが、刃部と埋断で、0277は丸片の刃縫合と刃端部の3箇所にア漫しかじを行ない、分岐様に仕上げている。0278は刃縫合を除去し、横丸ぎ丸片の形状を大きく変えずにア漫しを行っている。0279は丸片の輪歯を活かし、丸片の断面三角形の1きをア漫しかじし、残りからの2きも認められる。シャープな刃をア部とし、刃部は、鋸歯を意識したかが感じられる。0280も傾向の丸片を見ているが、ア部の先端部は頂部からからのダメージで破壊している。

0281, 0282は二極尖頭器の先端部、0284, 0286はア部と逆の刃部の可動性もある。0283は小型であるが頭部の状態から完成品であろう。0287は先端部が破壊した後、破壊部から丸みを以てア化した痕跡が確認される。0289は刃部の頭部より奥側への切欠きが認められる。0290はアとして頭部からの切欠きが行われ、残りからの切欠きは認められない。

二冰刃のある丸片0299は残の長い頭部の丸片にア漫し状の切欠きを行っている。0313はア溝道で、刃縫合にア漫しかじを施す分岐の形状を持つ。

5枚の丸片のうち0306は残片、これらの5枚からは丸鉢のみが移動していることが観察できる。0312, 0314は刃部を、0316は頭部をそのまま紹介している。その内、微細丸鉢を含む0302、折断丸片0291～0294, 0297, 0301等が確認できる。

0307のハンマーストーンは小型の棒状で、上部は破壊している。内側に穴ができないのが、刃端部に特有の破壊痕が残される。0315は頭部なり刃部を以て、また上部

の刃端が復旧されている。

ここ第11エリアでもプランディングチップや刃片等が存在することから、器製作に関わっていたと思われる。また、第10エリアとの区分については、第33ブロック第34ブロックとの間に刃縫合が見いだせることから判断したが、第10エリアで始めていたり、第11エリアのナイフ形器も存在することから、年代も相対的に遅れるべきもある。

エリア12(第79番)

第3ユニットのエリア内の遺物として、0317の三極尖頭器と0318の5枚を示した。

0317はわずかに先端部が破壊しているが、頭縫合び身の頭部も1点に行っている。0318の5枚は頭部を4分割した可動性を示している。

第4ユニット

第4ユニットは、G-H-11区からH-15区に最大長40m、最大幅20mの埠頭形状に分布し、中央部分は埠頭空域外に連なる。このユニットは、埠頭空域の東部を東西に分離し、さらに、5つのエリア(第12～第16エリア)で構成される。

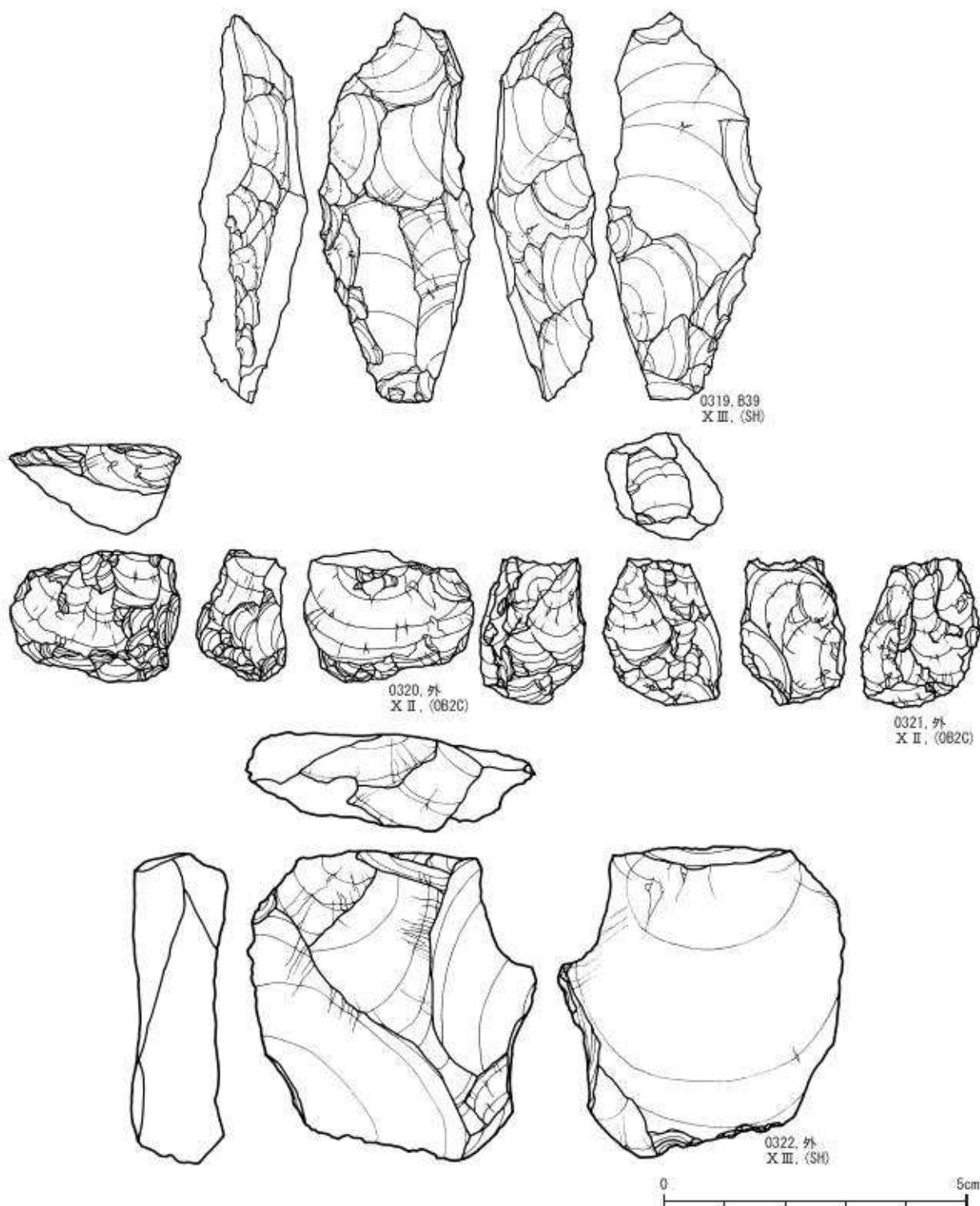
この付近には大量的な遺物が集められておりしている。

第12エリア(第80, 第81番)

第12エリアはH-11区に分布し、遺物の集積は南北と比べて多くはないが、3か所のブロックからなる。

ブロックを構成する丸片は第39ブロックでは黒曜石II-A類、黒曜石II-C類、黒曜石III類、又者、第40ブロック、第41ブロックは丸片となる。

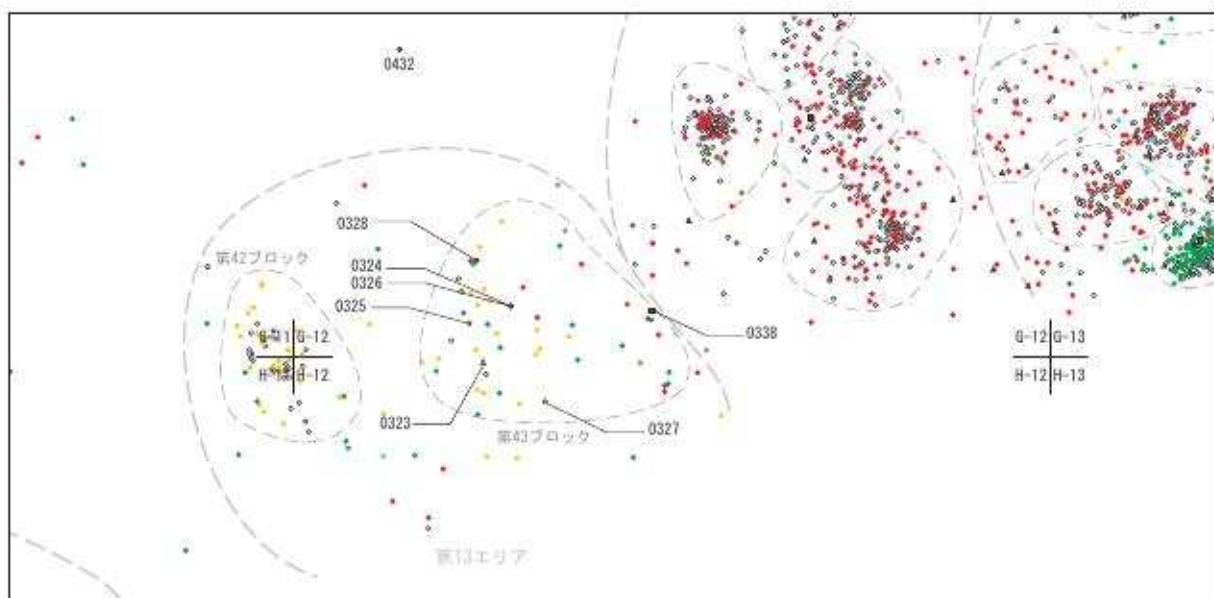
遺物は第39ブロックからナイフ形器1点(0319)が確認



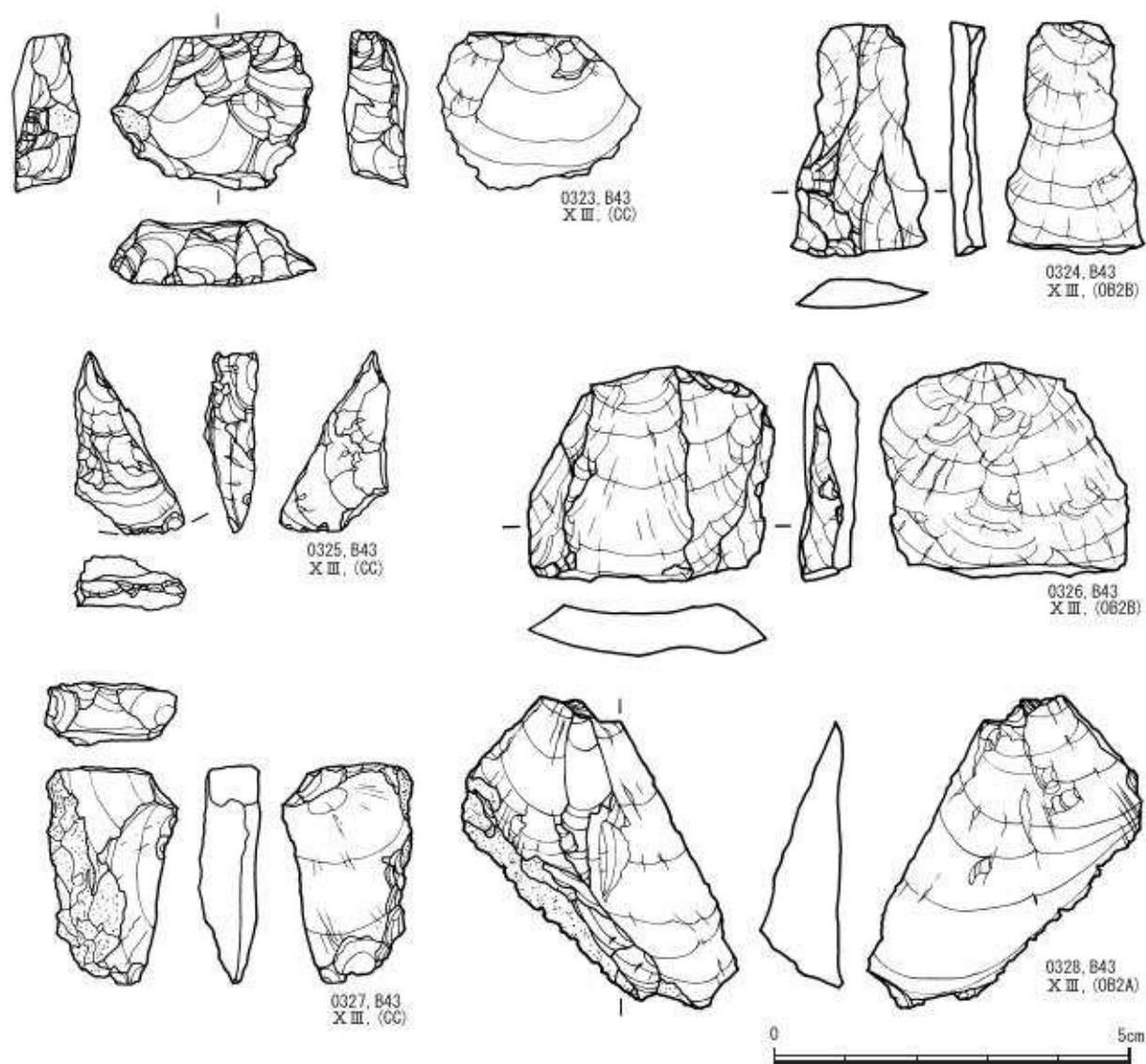
第81図 第II文化層第4ユニット第12エリア出土石器実測図

第20表 第II文化層第4ユニット第12エリア出土石器観察表

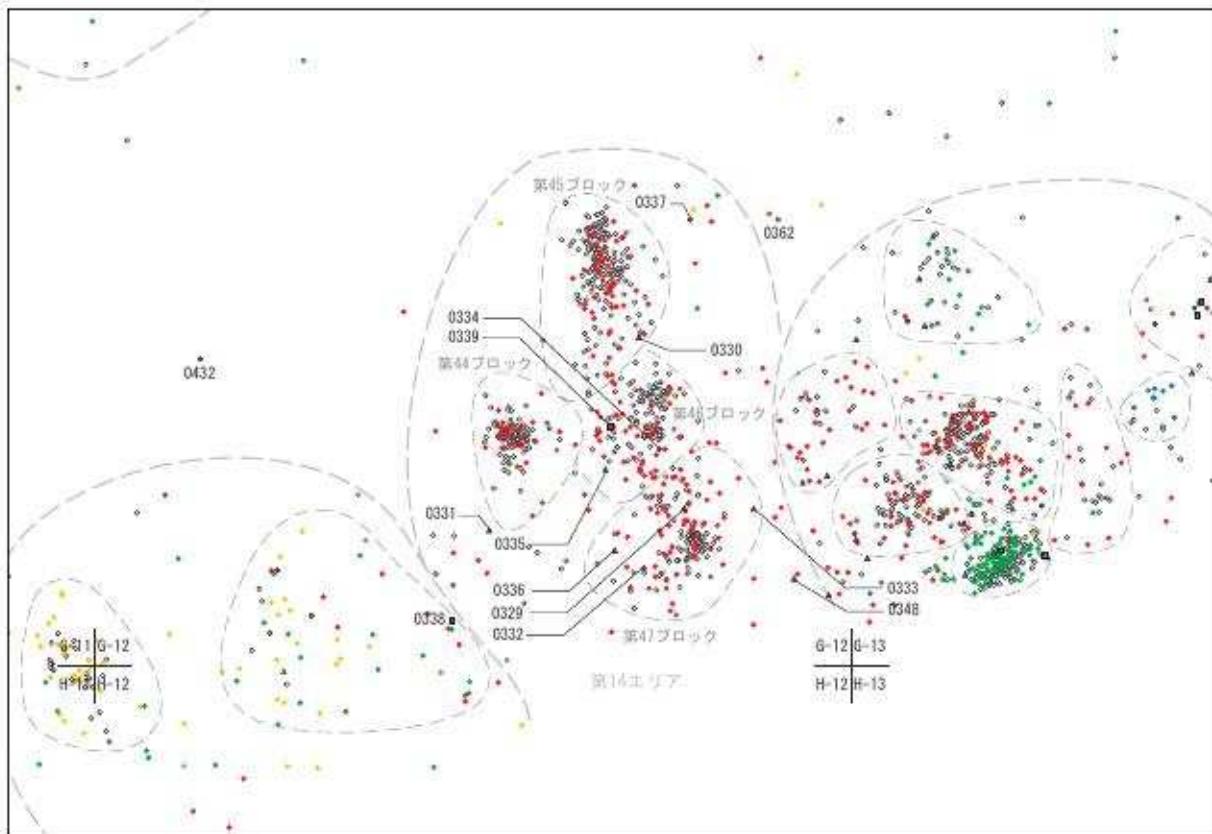
掲図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ヒット	エラ	ロツ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	列付 No.	接合 No.
81	0319	石器	ナイフ形石器	基部背面加工	II	U4	A12	B39	SH	-	64.2	25.8	18.0	22.35	23073	X III	H-11	-
	0320	剥片	-	-	II	U4	A12	外	OB2	C	21.8	28.1	15.0	6.67	23057	X II	H-11	-
	0321	石核	-	-	II	U4	A12	外	OB2	C	24.4	19.7	17.5	7.94	21599	X II	H-11	-
	0322	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A12	外	SH	-	51.1	47.7	16.8	34.58	21079	X III	H-11	-



第82図 第II文化層第4ユニット第13エリア遺物出土状況図



第83図 第II文化層第4ユニット第13エリア出土石器実測図



第84図 第II文化層第4ユニット第14エリア遺物出土状況図

記されている。柔軟刃片は分厚い縦長刃片で、もはや全領域とをもはや内部までに、奥をもみからア剥しきこを行い、先端部をア部としている。ア部の奥をかこはけの跡の跡をもねたものである。なお、先端部は下墻とみられる。

0320「」はブロック4からの出土地で、0321は石核、0322の刃片のア端部には微細な剥離痕が見られ、二次的に使用されている。

チップも存在することから、石器製作を行ったと判断される。

第13エリア(第82号、第83号)

第12エリアとは追跡の分布しない單らかなコ莎が存在し、一方、第14エリアとは接しているが、復元可能な焼造を塗地にエリア区分を行った。なお、第42ブロックではギョクズイサム、第43ブロックではミサキサムII-A類、ギョクズイ、ミサキがほぼ並んで構成する。

第21表 第II文化層第4ユニット第13エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	197	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列番 No	接合 No
83	0323	石器	スクレイバー	擦器	II	U4	A13	B43	CC	-	22.2	28.5	9.5	6.51	9865	X III	H-12	-
	0324	剥片	折断剥片	-	II	U4	A13	B43	OB2	B	32.7	19.4	5.1	2.26	9858	X III	G-12	-
	0325	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A13	B43	CC	-	(25.7)	(15.6)	(7.7)	(2.04)	9854	X III	G-12	-
	0326	剥片	折断剥片	-	II	U4	A13	B43	OB2	B	30.3	34.7	8.6	8.72	9858	X III	G-12	-
	0327	剥片	-	-	II	U4	A13	B43	CC	-	30.8	18.6	9.0	4.72	9868	X III	H-12	-
	0328	剥片	-	-	II	U4	A13	B43	OB2	A	44.1	39.1	13.2	12.74	10494	X III	G-12	-

重複した器種としては0323のスクレイバー1点で、刃片のア端部に芦役の大きいや部、もはやに芦役の小さいア部を添付している。擦器と削器を芦役した感がある。0325のア端部には微細な剥離痕が残る。0324、0326は折断刃片、0327、0328は刃片である。

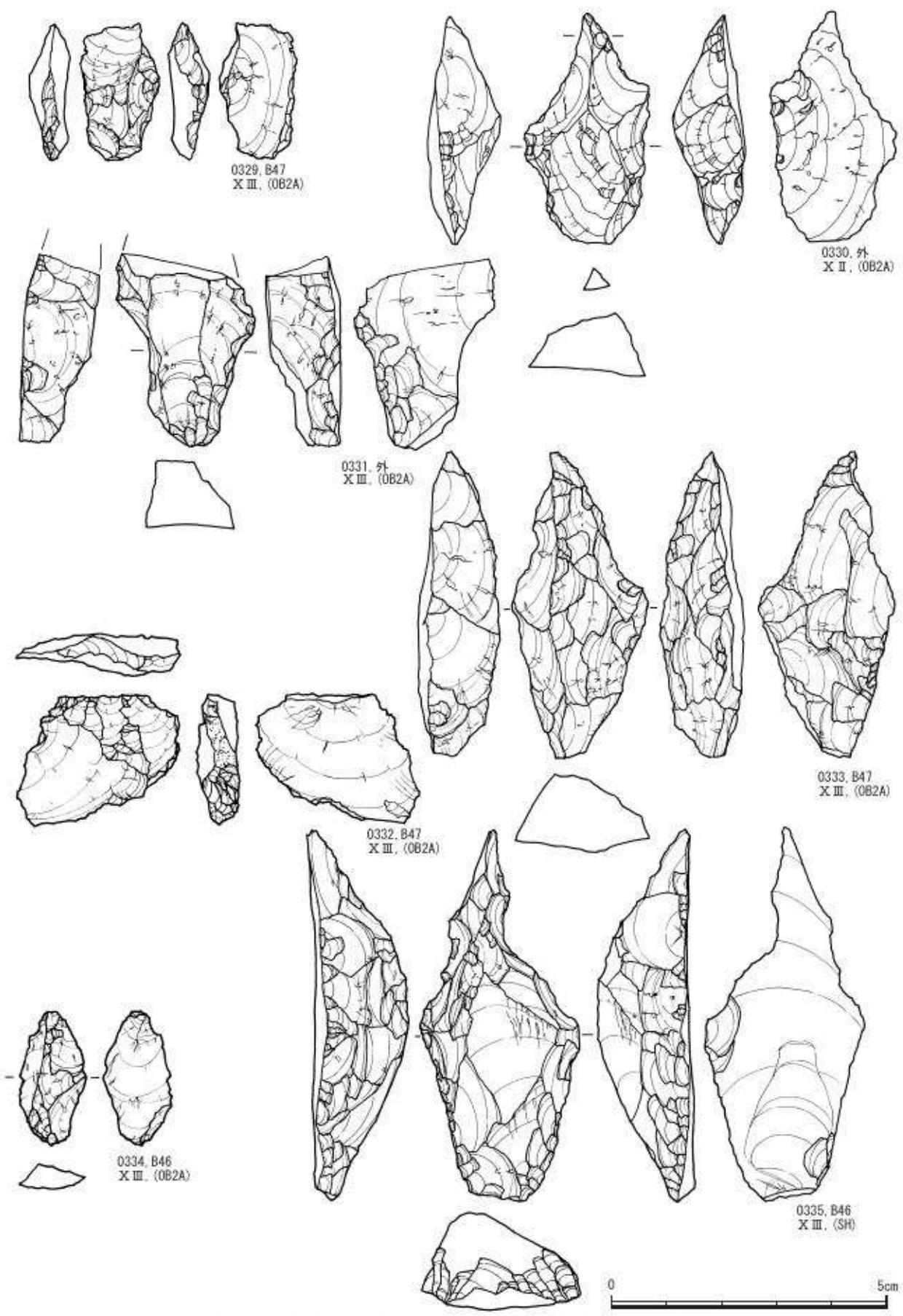
チップが付属であることから、石器製作に関するエリアである可能性が高い。

第14エリア(第84号、第85、86号)

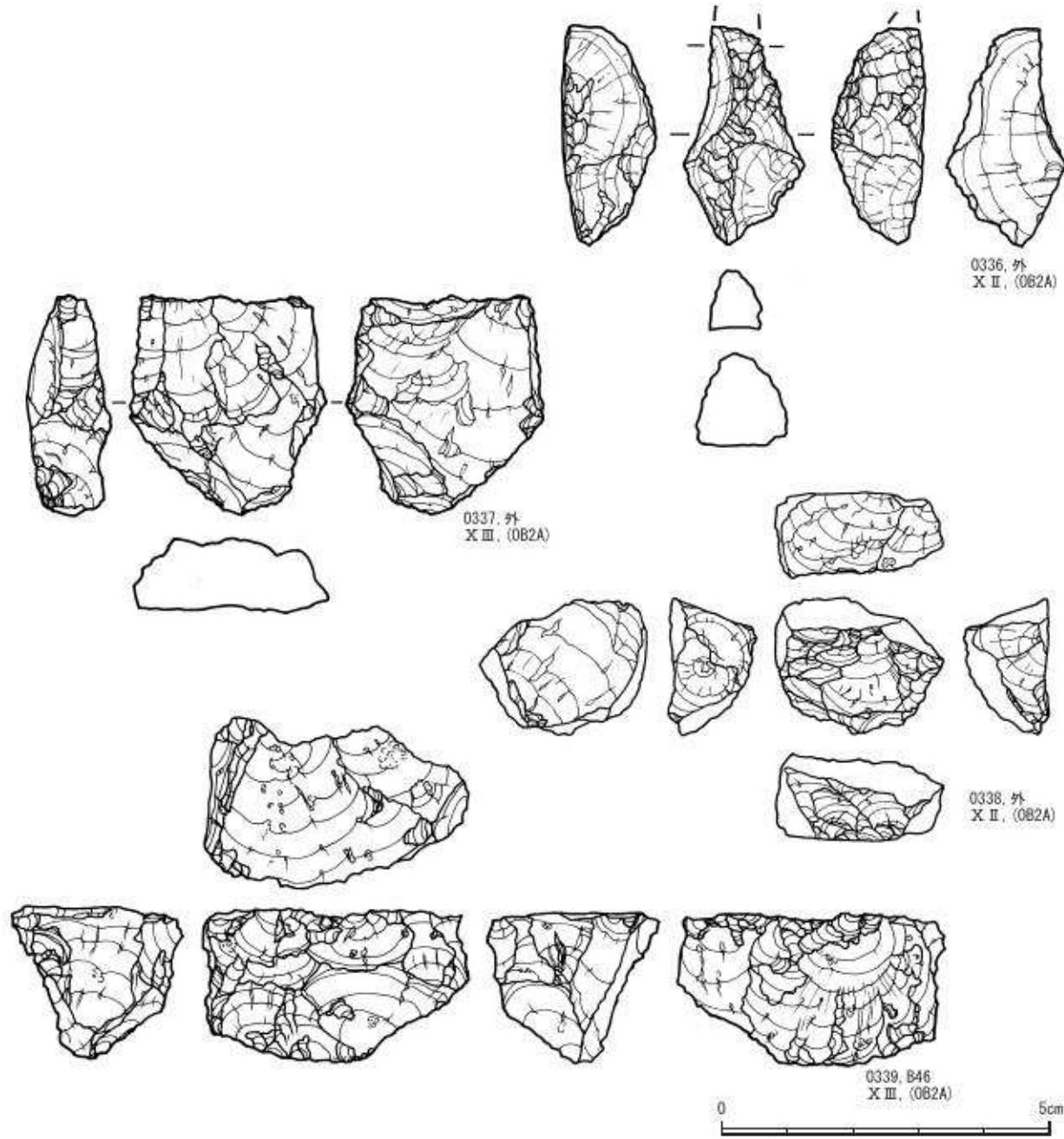
第4ユニットのリム部に位置し、G-12区に廣開し、4か所のブロックを構成している。

ブロックは全て、其の上にII-A類のリムで構成する。

石器の器種は、ナイフ形石器1点(0329)、三枚尖頭器3点(0333, 0335, 0336)、錐状石器1点(0330)、刃片尖頭器1点(0331)、石核2点(0338, 0339)と微細剥離痕のある刃片(0334)である。



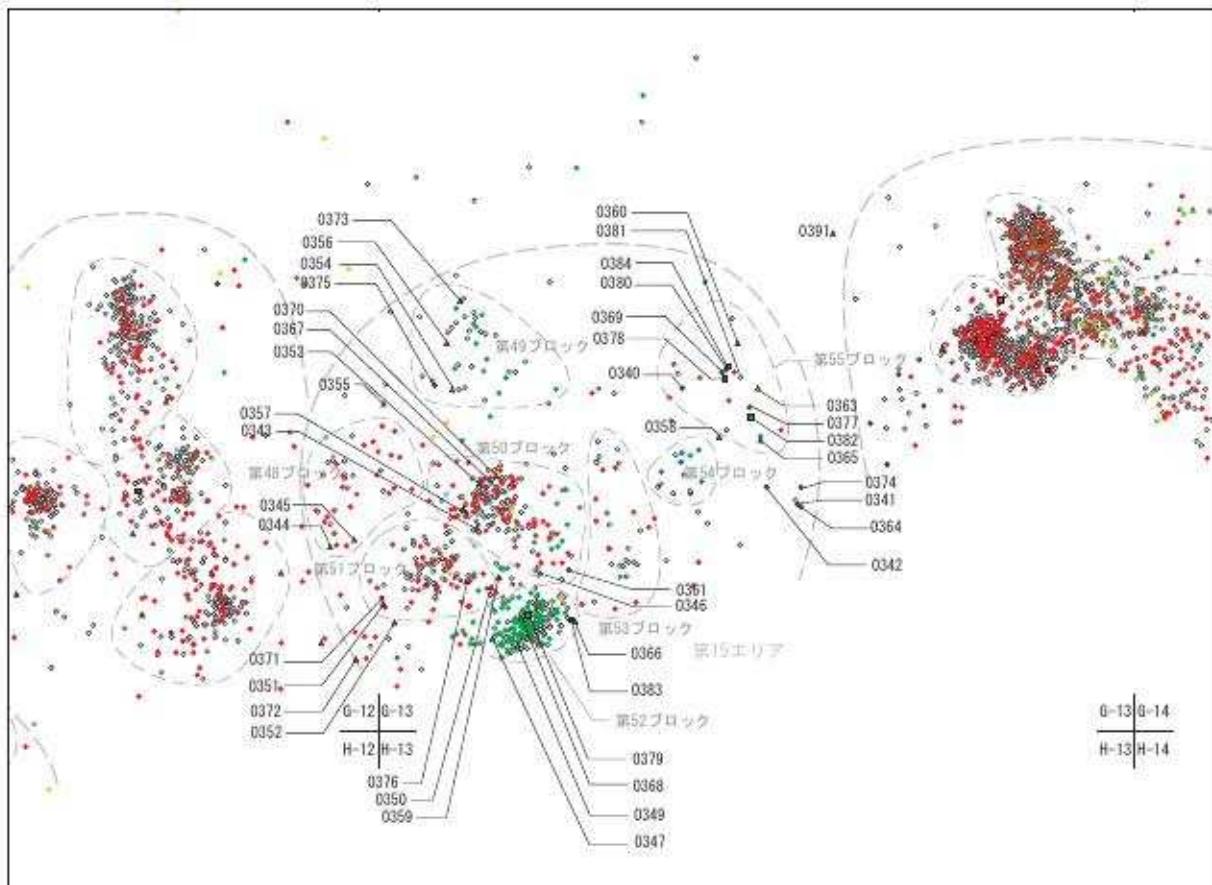
第85図 第II文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(1)



第86図 第II文化層第4ユニット第14エリア出土石器実測図(2)

第22表 第II文化層第4ユニット第14エリア出土石器観察表

擲図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エリヤ	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No	
85	0329	石器	ナイフ形石器	台形石器?	II	U4	A14	B47	OB2	A	24.9	14.6	7.5	2.00	10268	X III	G-12	-
	0330	石器	錐状石器	-	II	U4	A14	外	OB2	A	41.8	23.0	13.2	7.44	9195	X II	G-12	-
	0331	石器	剥片尖頭器	-	II	U4	A14	外	OB2	A	(35.1)	25.4	(14.0)	(9.59)	10911	X III	G-12	-
	0332	剥片	-	-	II	U4	A14	B47	OB2	A	23.6	29.9	8.0	4.31	10236	X III	G-12	-
	0333	石器	三棱尖頭器	基部背面加工	II	U4	A14	B47	OB2	A	55.5	25.0	15.0	14.08	10977	X III	G-12	-
	0334	剥片	-	-	II	U4	A14	B46	OB2	A	24.3	12.3	5.1	1.03	11314	X III	G-12	-
86	0335	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A14	B46	SH	-	67.4	29.2	18.5	23.17	10909	X III	G-12	-
	0336	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A14	外	OB2	A	(33.3)	18.7	(14.8)	(6.37)	9303	X II	G-12	-
	0337	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A14	外	OB2	A	33.6	30.2	13.0	11.35	10796	X III	G-12	62
	0338	石核	残核	-	II	U4	A14	外	OB2	A	21.0	25.8	13.5	6.90	10210	X II	G-12	-
	0339	石核	-	-	II	U4	A14	B46	OB2	A	23.5	40.6	26.5	20.46	11323	X III	G-12	-



第87図 第II文化層第4ユニット第15エリア遺物出土状況図

0329のナイフ形器については、刃部と底面に溝壓痕が付することから、刃形器と判断した。0331は丸片尖頭器としているが、見出されが類別の少ない丸片を用いていること、また、丸片尖頭器の特徴であるふ部の丸みが付いていないことなどから認定には課題も残る。

三枚尖頭器0336の先端部は欠落し、0333は完成品と判断できる。2点とも残上からの調整跡、ふ部の凹凸加工は安定している。0335については序子の丸片を用い、刃部に溝壓痕が印象にあり、残上からの調整跡も認められることから判断している。0330の複数の器は、丸片部が一列の丸孔で終わる、微細な調整跡がみられることから判断しているが、基本的に三枚尖頭器の製作手法と変わらない。

微細刃部がある丸片0334の先端部、刃部には刃部な刃こぼれが残される。

5点の2点のうち、0338は残残、0339は逆巻き着で4cm程しか残り、E-Iでしている器が5cmを越すものも存在することと食い違いが見える。切り替わりが繰り返されたことが、読みとれる。

第15エリア(第87図、第88~94図)

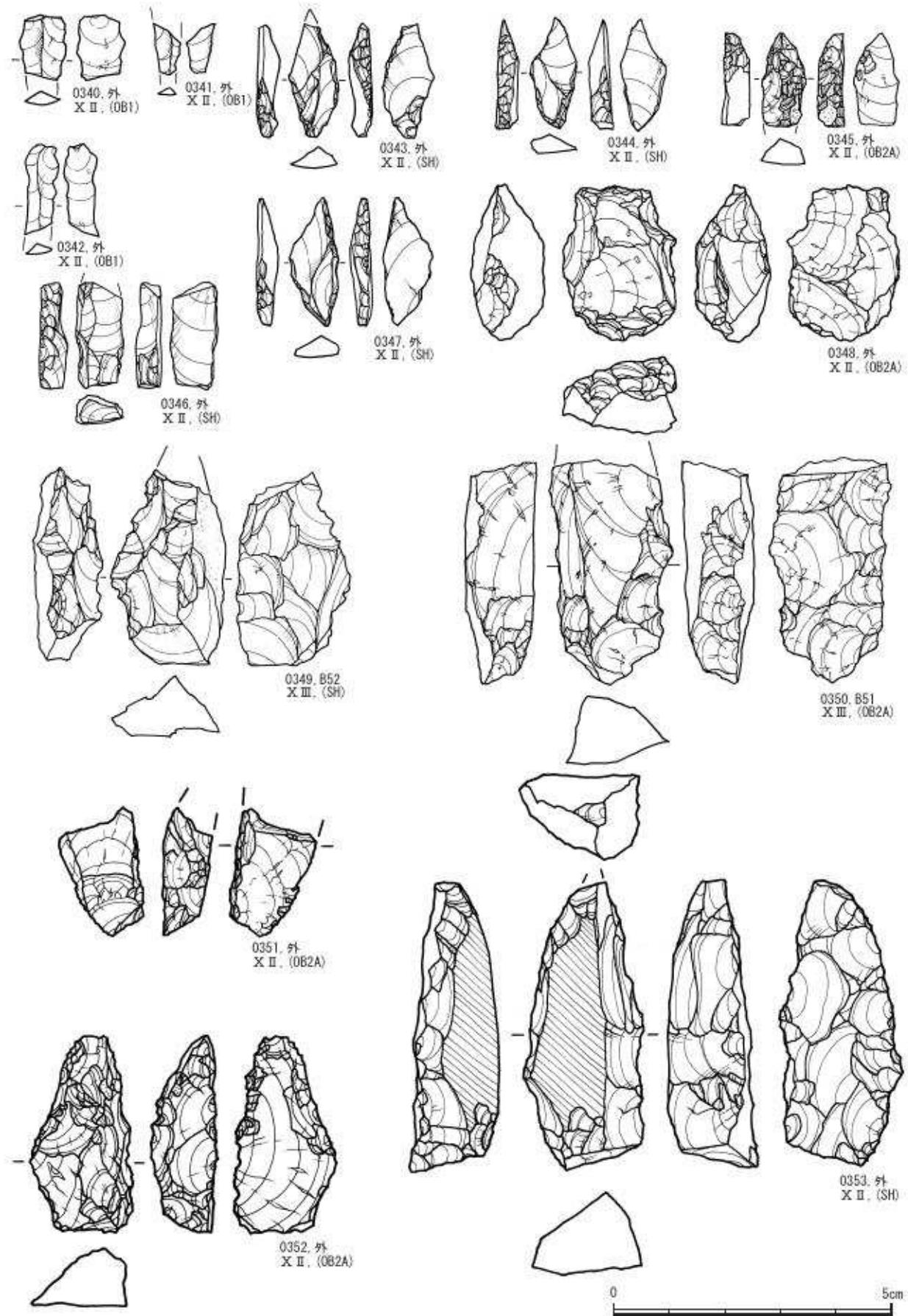
G-12, 13で北側に位置し、東側は渾水帯からはずれるため直線的な分布傾向を示している。遺物密集部をさらに広域に取扱うが、見出されが8か所のブロックに設定した。

第48~51, 53ブロックの見出されは丸片Ⅱ-A類、第49, 52ブロックでの見出されは丸片Ⅲ類、第54ブロックでは丸片Ⅰ類、第55ブロックでは丸片Ⅱ類、丸片Ⅲ類、丸片Ⅳ類が使用されている。

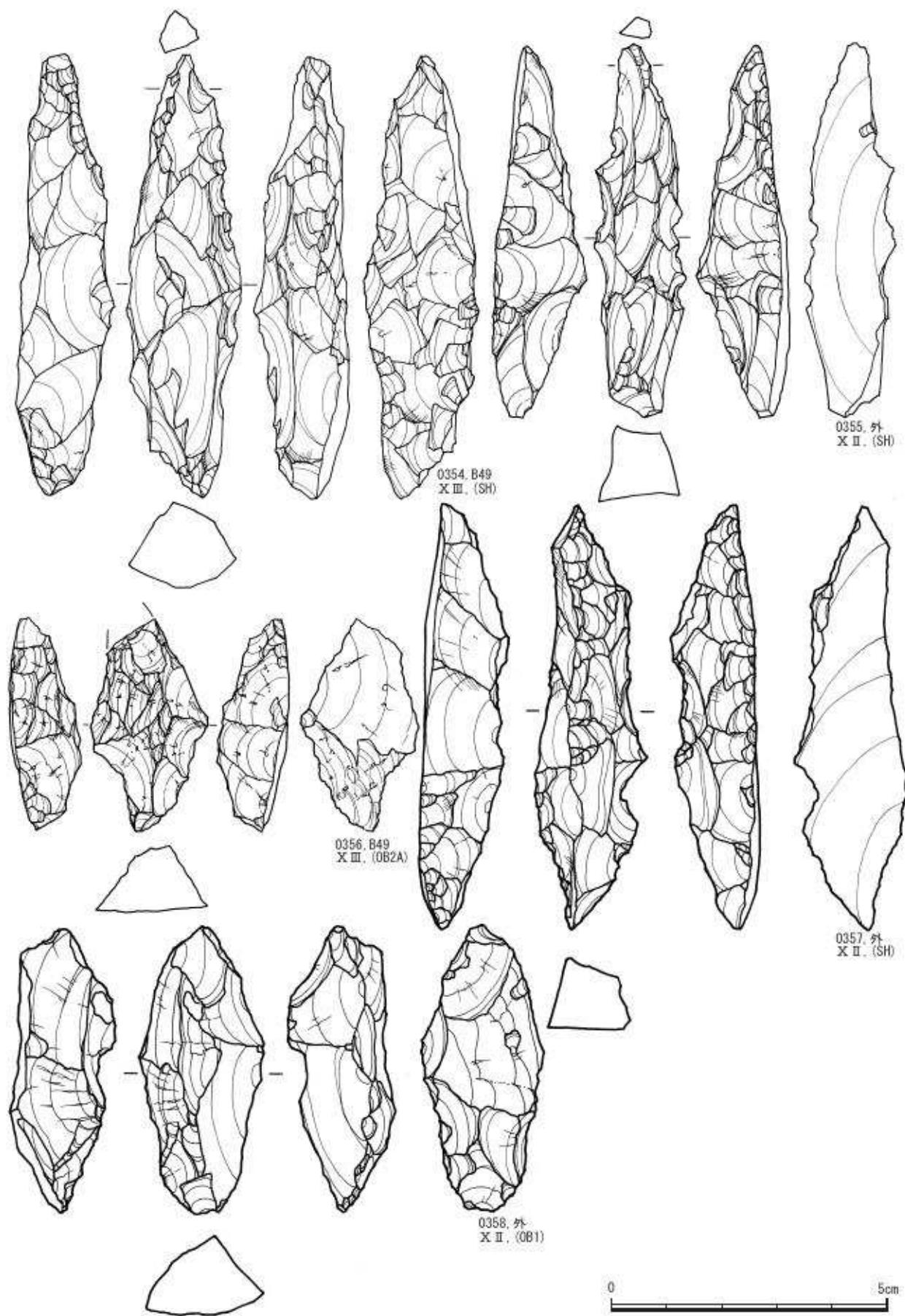
各器の器種は、丸片Ⅲ点(0340~0342)、ナイフ形器9点(0343~0351)、三枚尖頭器9点(0352~0358, 0360, 0363)、二枚刃のある丸片5点(0365, 0368, 0370, 0373, 0376)、スクレイバー3点(0359, 0366, 0372)、石核4点(0378, 0379, 0382, 0383)、プランク1点(0384)、ハンマーストーン2点(0380, 0381)で構成する。

0343, 0344, 0347の3点は二枚刃の大型ナイフ形器で、主に丸片、素地丸片の形状、刃渡し加工の仕事まで詳しく検討している。0345も小型で丸片部を丸に調整されている。0346は丸片と判断し、0348は刃部と底面の3面に刃渡しが見られるが、刃部をなす。0349と0350は丸片に刃渡しが見られ、丸片部を下くと判断した。0351は丸片に想せしている。

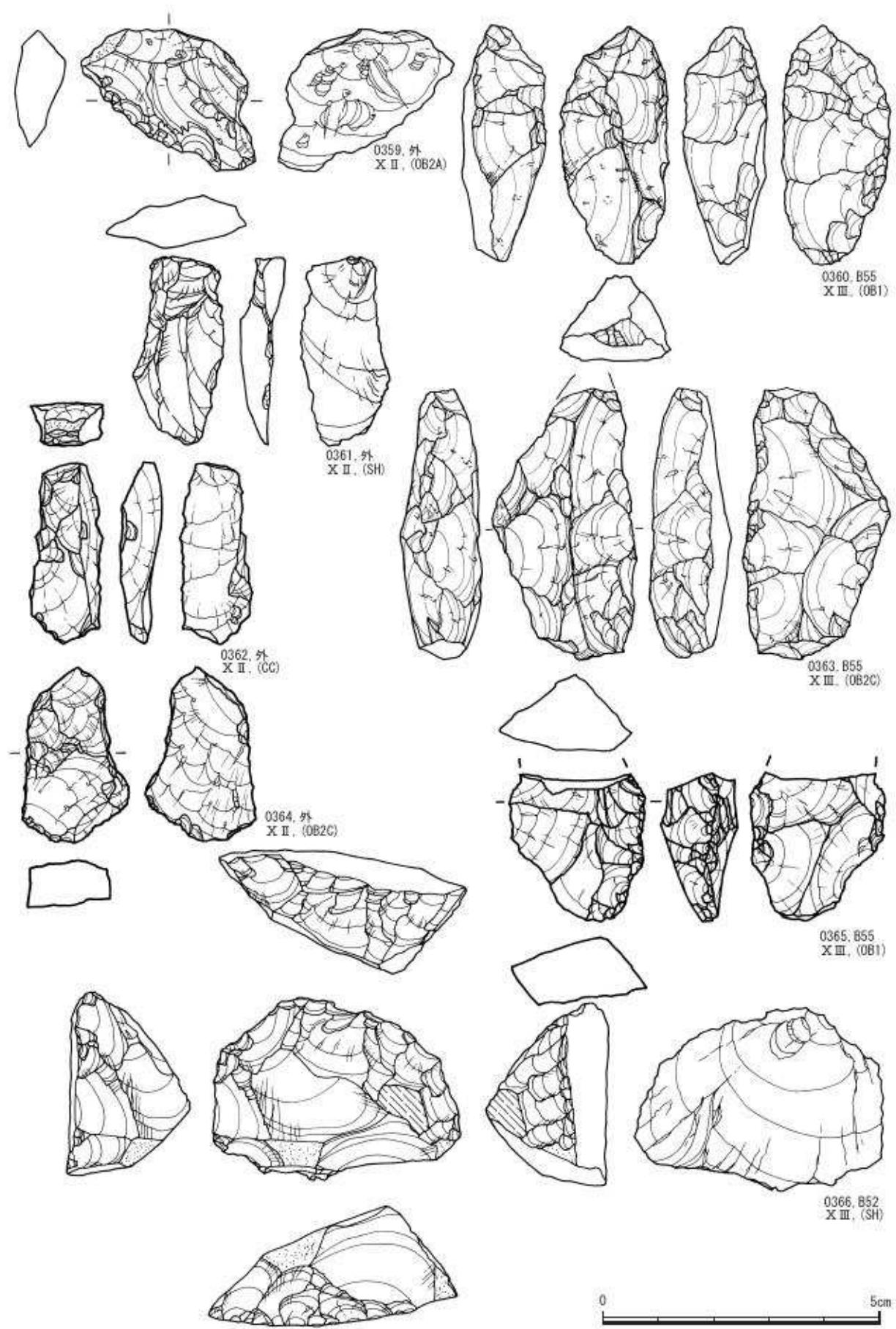
9点の三枚尖頭器を確認しているが、でも、0354, 0355, 0357の3点の内は始鏡的である。いずれも



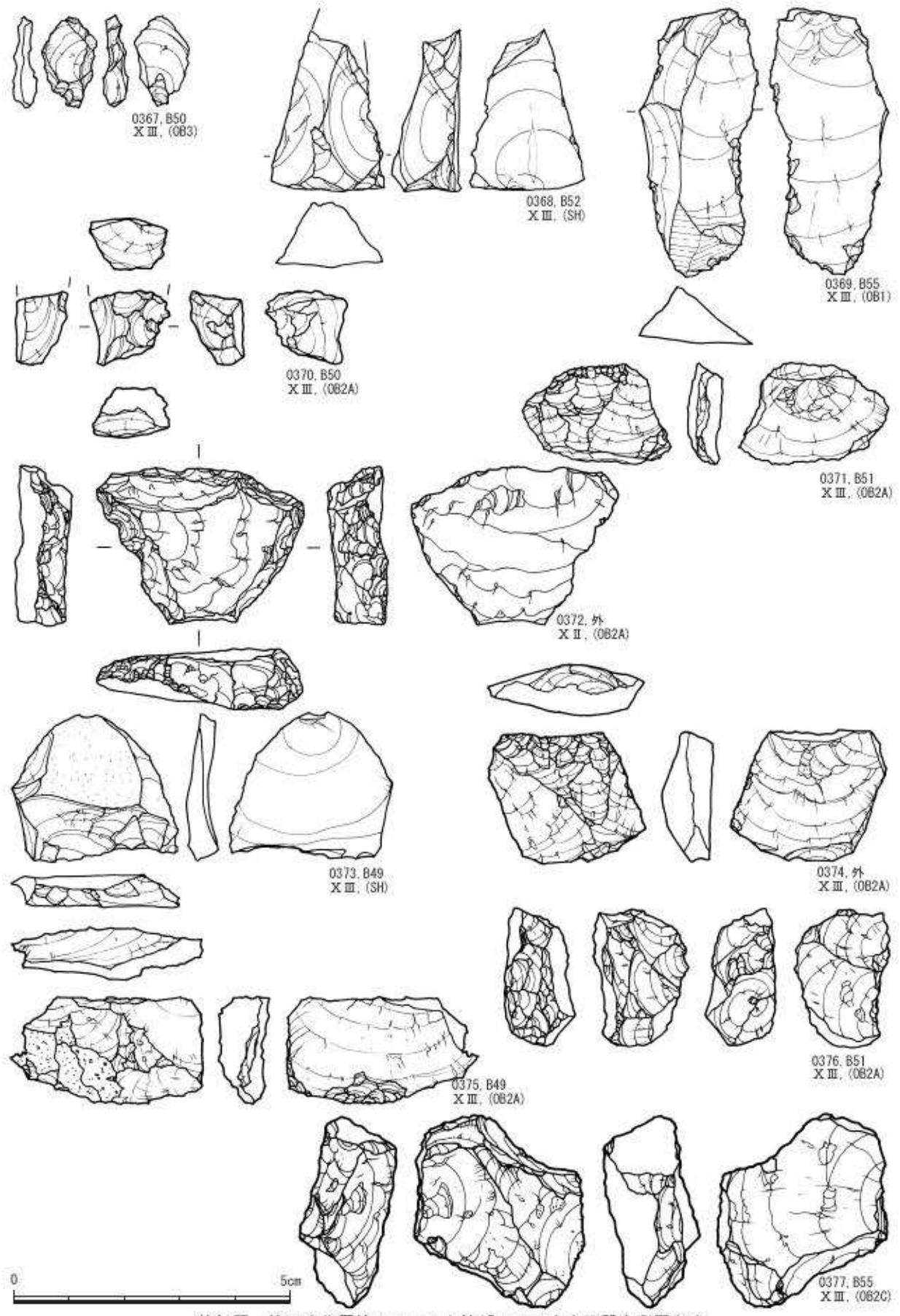
第88図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(1)



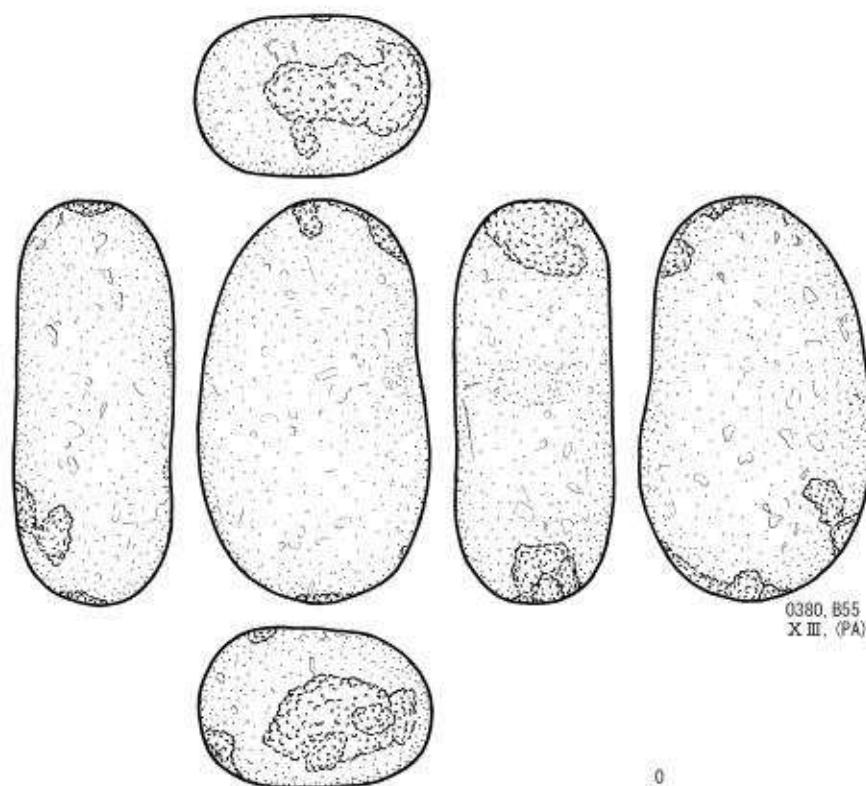
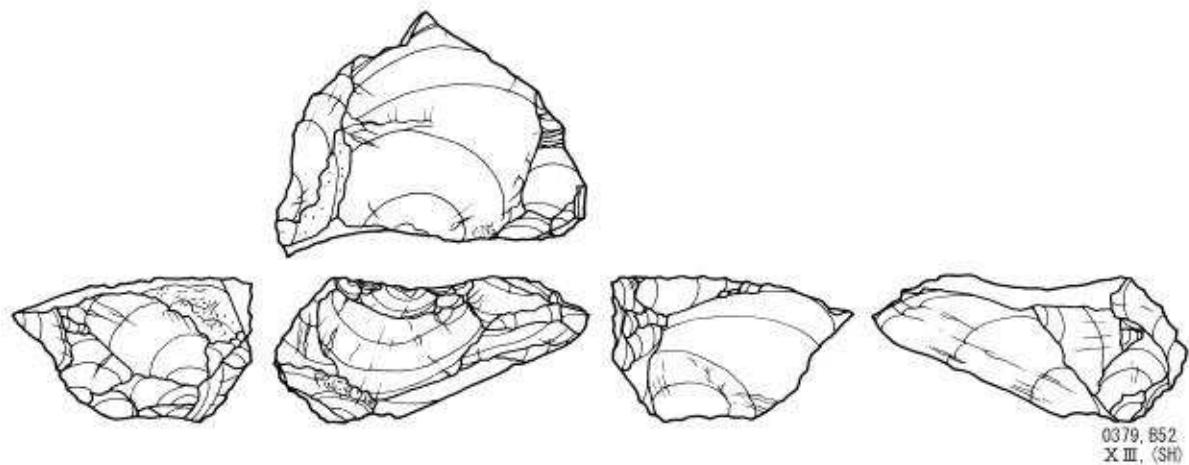
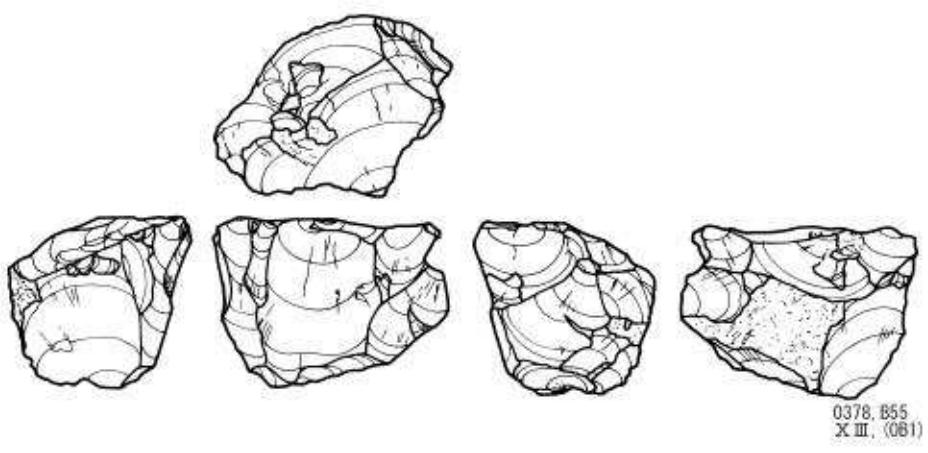
第89図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(2)



第90図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(3)

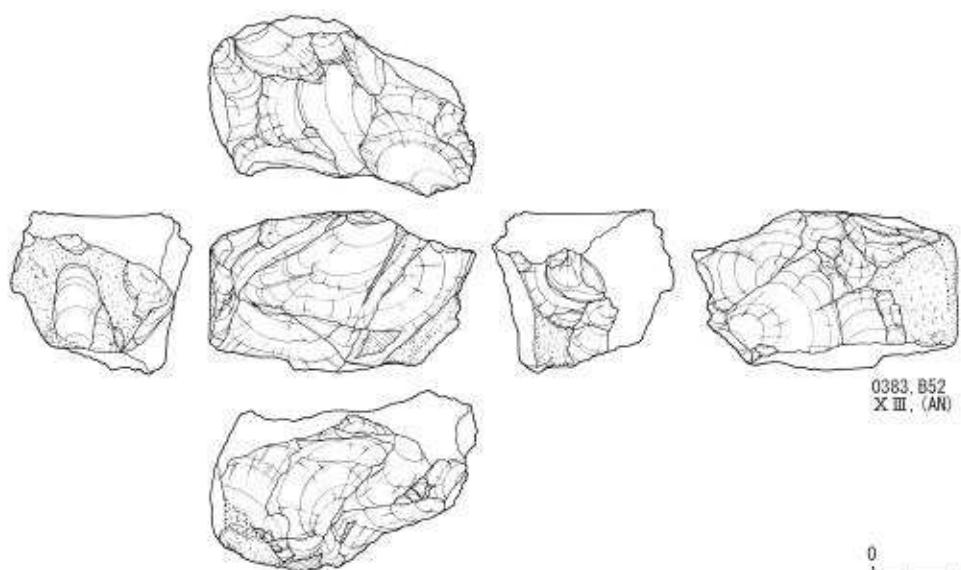
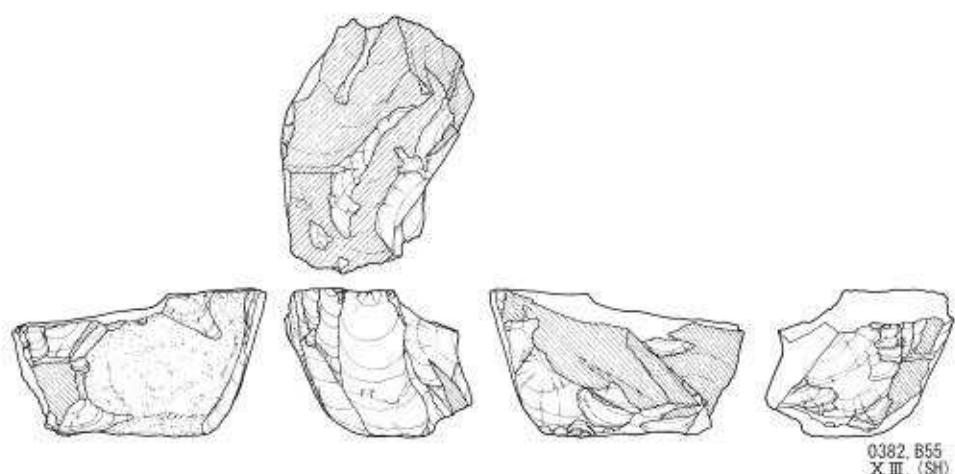
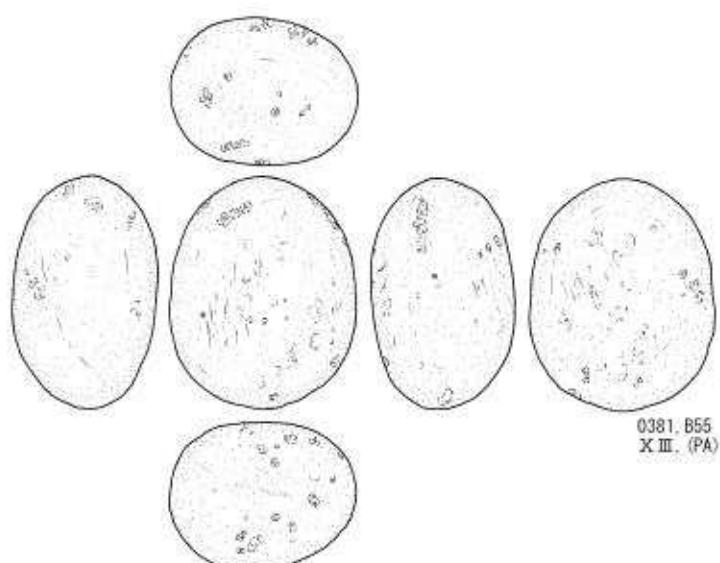


第91図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(4)



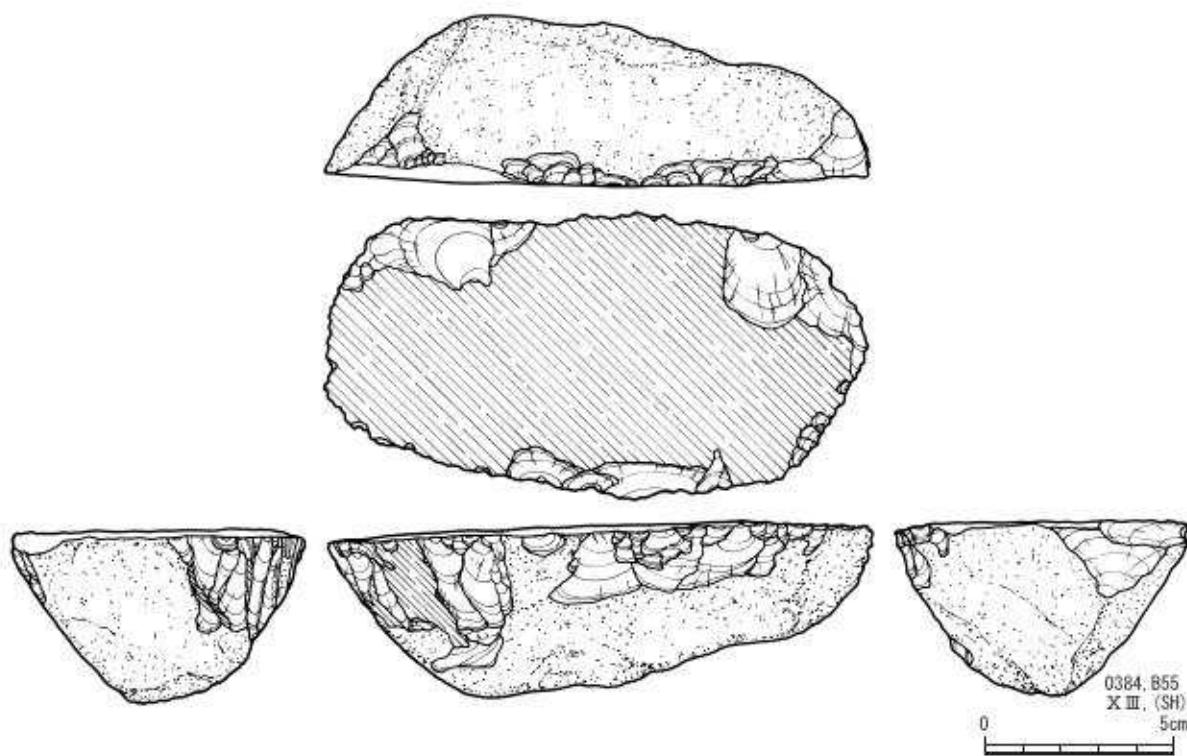
0 5cm

第92図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(5)



0 5cm

第93図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(6)



第94図 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器実測図(7)

第23表 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(1)

擇國 No	圖 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エア	コウ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	別表 No	接合 No	
88	0340	剥片	細石刃	-	II	U4	A15	外	081	-	(11.8)	8.5	(3.3)	(0.31)	9990	X II	G-13	-
	0341	剥片	細石刃	-	II	U4	A15	外	081	-	(9.3)	(5.0)	(1.0)	(0.03)	9964	X II	G-13	-
	0342	剥片	細石刃	-	II	U4	A15	外	081	-	(16.2)	6.2	(2.1)	(0.14)	9966	X II	G-13	-
	0343	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	SH	-	(20.3)	9.1	(4.0)	(0.64)	9221	X II	G-13	-
	0344	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	SH	-	20.2	8.3	4.5	0.57	9199	X II	G-12	-
	0345	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	082	A	16.9	8.1	5.2	0.65	9198	X II	G-12	-
	0346	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	SH	-	(19.0)	(8.8)	(5.0)	(0.90)	9277	X II	G-13	-
	0347	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	SH	-	23.0	9.0	4.0	0.54	9214	X II	G-13	-
	0348	石器	ナイフ形石器	台形様石器	II	U4	A15	外	082	A	27.9	20.5	13.5	7.19	10198	X II	G-12	-
	0349	石器	ナイフ形石器	背面加工	II	U4	A15	B52	SH	-	(35.1)	20.8	(13.0)	(8.38)	12276	X III	G-13	-
	0350	石器	ナイフ形石器	背面加工	II	U4	A15	B51	082	A	(40.3)	22.3	(13.0)	(11.58)	11475	X III	G-13	-
	0351	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A15	外	082	A	(23.2)	(15.4)	(9.0)	(1.97)	9219	X II	G-13	-
89	0352	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A15	外	082	A	35.5	18.9	13.5	6.30	9220	X II	G-13	-
	0353	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A15	外	SH	-	(51.9)	22.2	(16.5)	(16.79)	9231	X II	G-13	-
	0354	石器	三棱尖頭器	背面加工	II	U4	A15	B49	SH	-	80.0	21.0	18.0	24.07	10036	X III	G-13	-
	0355	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A15	外	SH	-	67.5	16.8	16.3	13.68	12637	X II	G-13	-
	0356	石器	三棱尖頭器	基部背面加工	II	U4	A15	B49	082	A	(38.5)	21.5	(13.0)	(6.93)	10020	X III	G-13	-
90	0357	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A15	外	SH	-	76.9	20.9	16.0	17.73	9228	X II	G-13	-
	0358	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A15	外	081	-	52.1	23.0	19.0	16.49	9271	X II	G-13	-
	0359	石器	スクレイバー	削器	II	U4	A15	外	082	A	25.7	31.8	10.4	5.87	10140	X II	G-13	-
	0360	石器	三棱尖頭器	背面加工	II	U4	A15	B55	081	-	42.8	19.9	15.2	11.58	9994	X III	G-13	-
	0361	剥片	-	-	II	U4	A15	外	SH	-	33.9	16.5	8.2	2.81	9224	X II	G-13	-
	0362	剥片	-	-	II	U4	A15	外	CC	-	32.9	13.5	7.8	2.81	9570	X II	G-12	-
91	0363	石器	三棱尖頭器	背面加工	II	U4	A15	B55	082	C	(48.8)	26.2	(15.0)	(14.39)	12795	X III	G-13	-
	0364	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	外	082	C	31.7	19.5	8.3	4.26	9965	X II	G-13	-
	0365	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U4	A15	B55	081	-	(26.8)	(24.8)	(14.0)	(7.44)	12856	X III	G-13	63
	0366	石器	スクレイバー	搔器	II	U4	A15	B52	SH	-	33.0	44.8	22.2	29.34	10683	X III	G-13	-
	0367	チップ	プランティングチップ	-	II	U4	A15	B50	083	-	16.4	10.1	4.7	0.51	10404	X III	G-13	-
	0368	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器?	II	U4	A15	B52	SH	-	(29.1)	20.6	(12.5)	(6.50)	10699	X III	G-13	-

增長の傾きで、厚手の刃片を素材とし、頭尖的に細身、長身の形状に仕上げている。さらに、鉛錠は斜面度で撃撃することから鉛錐状を成している。

0354の鉛錠形状は怎度進行し、後上部は身に沿い全滅に及ぶ。その身上部はほぼ垂直に傾きながら行われ、明らかに分厚い器の減少を目的としている。先端部には微細な鉛錠も観察できる。また、曳き力もほぼ全滅に至る鉛錠がみんでいる。0355と0357は曳き力をそのまま活かし、0354と似じりめて器の身上部を垂直に行っている。0353の曳きは筋書きを活かし、曳きは垂直鉛錠が全滅に及ぶ。0358、0360、0363の曳き力は一部鉛錠を残す。

二冰力のある刃片の0365、0368、0370、0376は、その形状及び車輪力の始微から三枚尖頭器製作に関わるものと判断できる。

0366のスクレイバーはいわゆる發器に属し、ほぼ全滅に曳きから斜面度のア部力が整然とみられる。曳きに残る表面度から、車輪を全部した刃片を素材としたとみられる。0372も怎度のア部を残す。

0378、0379、0383の矢張からは斜面度を繰り返しながら下定形刃片が、0382からは船長刃片が残されているが、作業度高が想い。0384のブランクは筋書きで示した垂直度を保有し、刃片長は14cmである。

2点のハンマーストーンはブランクと同一の第55ブロックからの片である。

鉛錠アについては、二冰のマジカルからの転写と判断したい。

第16エリア(第95点、第96~98点)

第16エリアはG-13、14点のサルベでアマの発見にあり、6か所のブロックからなる。中丸みもが済みとなることから、エリアの3分の2程の外觀とみられる。第56、第58ブロックでは黒曜石II-A類、第57ブロックは黒曜石II-C類を主に黒曜石II-A類、第59ブロックでは黒曜石II-A類、黒曜石II-C類、チャートが近似した状況で見いられている。第60ブロックでは黒曜石II-A類を主に黒曜石II-C類、チャートが混じるI類、黒曜石II-B類、黒曜石III類、ギョクズイ、ミネが少數混在している。第61ブロックでは、黒曜石II-C類と黒曜石II-A類、チャートが混在する。

器種は、鉛錠ア6点(0385~0390)、ナイフ形器10点(0391~0394、0396~0401)、三枚尖頭器7点(0402、0404~0409)、スクレイバー1点(0420)、二冰力のある刃片4点(0395、0403、0410、0413)、矢張2点(0421、0422)等がある。

鉛錠アの0389は全長を残し、頭部が残る。

ナイフ形器で送りされるのが0398と0401で、この2点は漁具トロボによる翼状刃片を素材とした車輪型ナイフ形器(=鉛錠アナイフ形器)に該当する。また、復用刃片もチャートと鉛錠アであり、0396、0399、0400でも

車輪刃片を復用している。

0391ではふ部と一貫線、0392ではふ部と元輪部、0393ではふ部にア波しきがみられる。3点とも車輪刃片の形状を大きく変えていない。

三枚尖頭器の0404は元輪部を鋸く作り出し、微細な鉛錠も車輪に行っている。0408は元輪部を失うが身上部を繰り返し、曳きにア波鉛錠を確認できる。0405は車輪刃片の始微をそのまま活かしたと見られ、分厚い車輪刃片を用いたことがわかる。0406、0407はふ部と見られ、身上部を繰り返したことが印象である。0409は三枚尖頭器として残ったが、三枚尖頭器の車輪刃片を丸く曲げて製作の資料とも考えられる。

二冰力のある刃片の0395、0403はその始微から三枚尖頭器の元輪部、0410、0413も関連するものとみられる。

0420のスクレイバーはいわゆる發器に属し、曳きからのア波しきがみられる。

第16エリアの始微は、黒曜石さわぎの器製作と車輪型ナイフ形器の存在である。車輪型ナイフ形器に復用された刃片チャートは、製品以外に発見されていない。従って、チャート製品は製品としてエリシアに持ち込まれた可能性が極めて高い。

第5ユニット

Bゾーンの車輪にあたり、アマは済みを域外に逃げることとなる。ユニットナに1エリア(第17エリア)を設定している。

第17エリア(第99点、第100点)

第17エリアはG-14、15に属する。エリシアには2つのブロックが確認できる。第62ブロックは黒曜石II-A類、第63ブロックは黒曜石II-A類に数点の黒曜石II-C類を含む刃片がみられる。

器種は、ナイフ形器1点(0423)、三枚尖頭器4点(0424~0427)、二冰力のある刃片1点(0431)が認められる。

0423のナイフ形器はブロック外から出たし、ア波しきの鉛錠アをなす小型ナイフ形器で、アE形である。ア波しきは基本的に、曳きから行う。

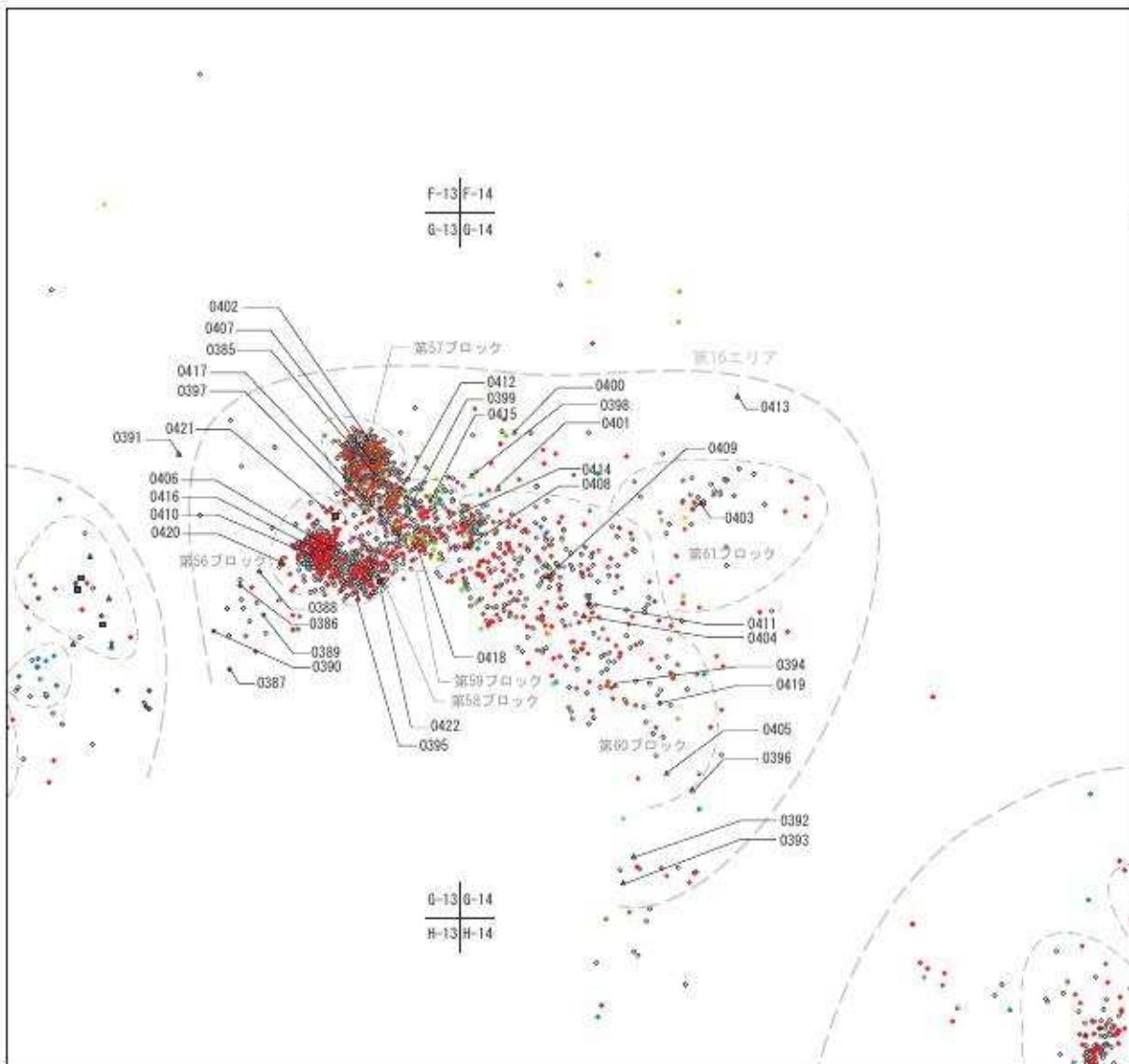
0426の三枚尖頭器は破壊しているが、ふ部と判断できる。0424、0425は曳き力もばらうもので、0427はア波の跡はまだしているが、サルベがノ字状に残る。

0430の舟子横山の刃片は、三枚尖頭器の車輪刃片もうかがえる。

第4ユニットエリシア(第101点)

G-13点から0432の折断刃片と0433のハンマーストーン1点がみられる。

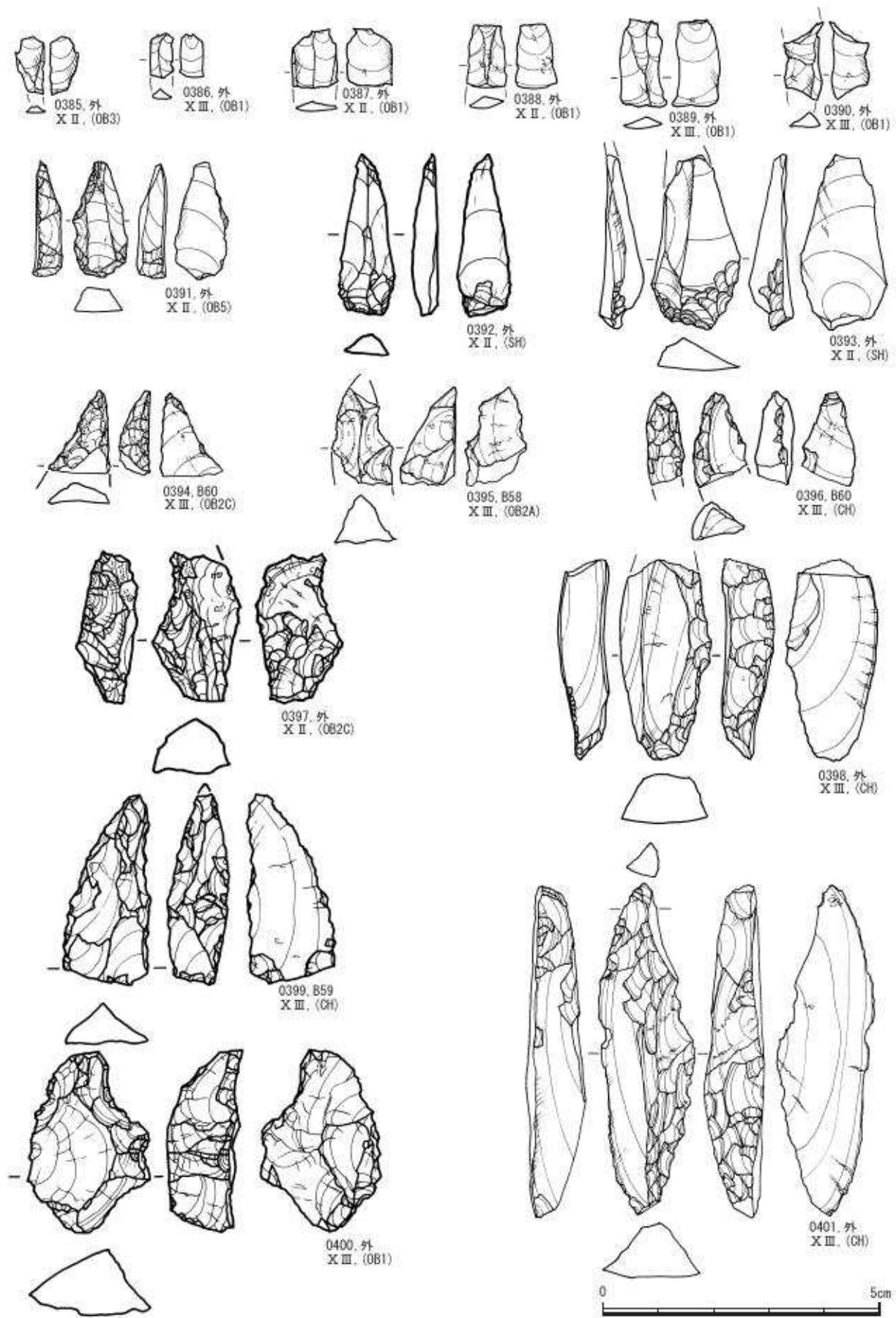
ハンマーストーンは棒状で、頭部に鉛錠ア、ハンド部と鉛錠の接觸に沿うの取扱痕が残る。



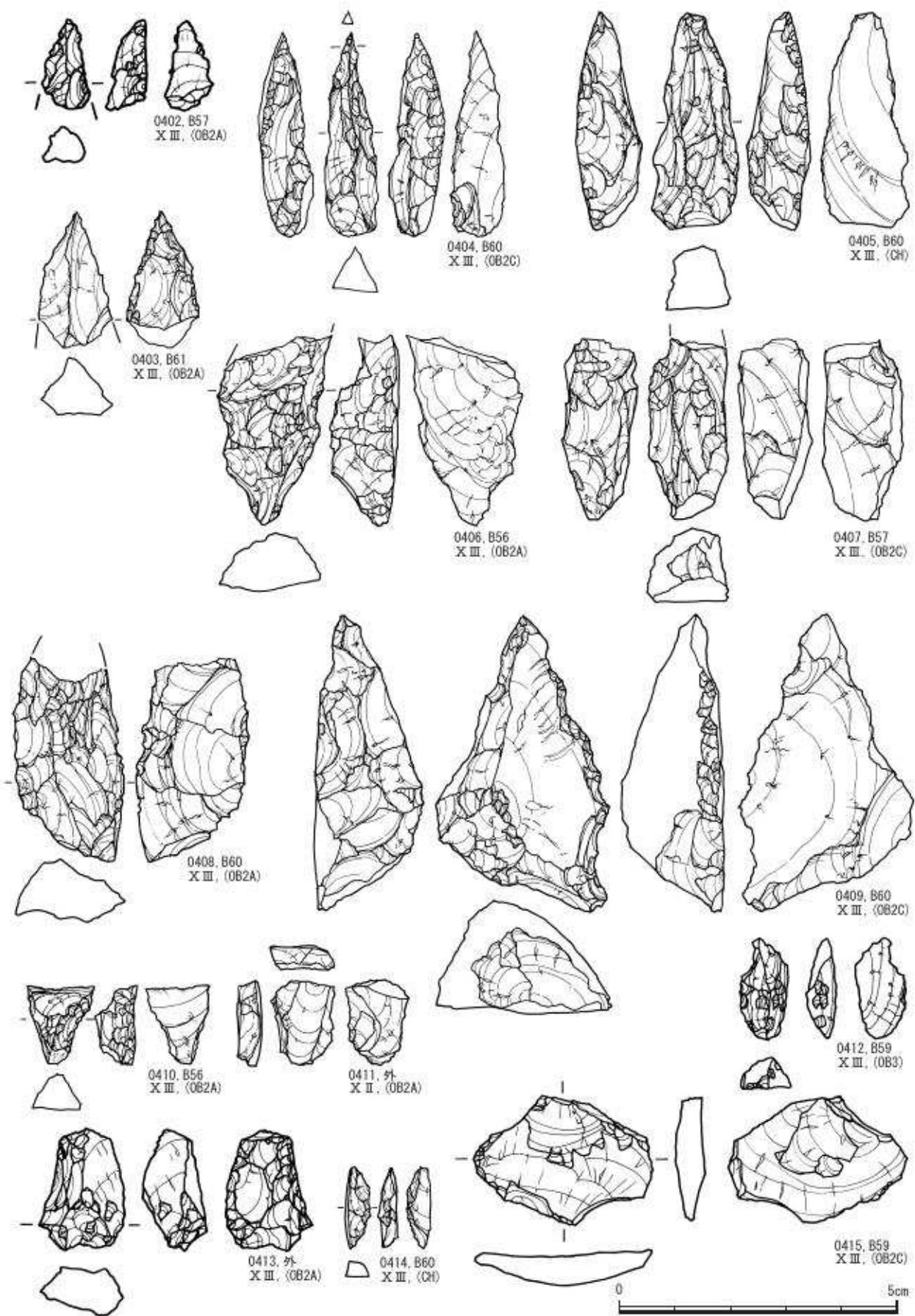
第95図 第II文化層第4ユニット第16エリア遺物出土状況図

第24表 第II文化層第4ユニット第15エリア出土石器観察表(2)

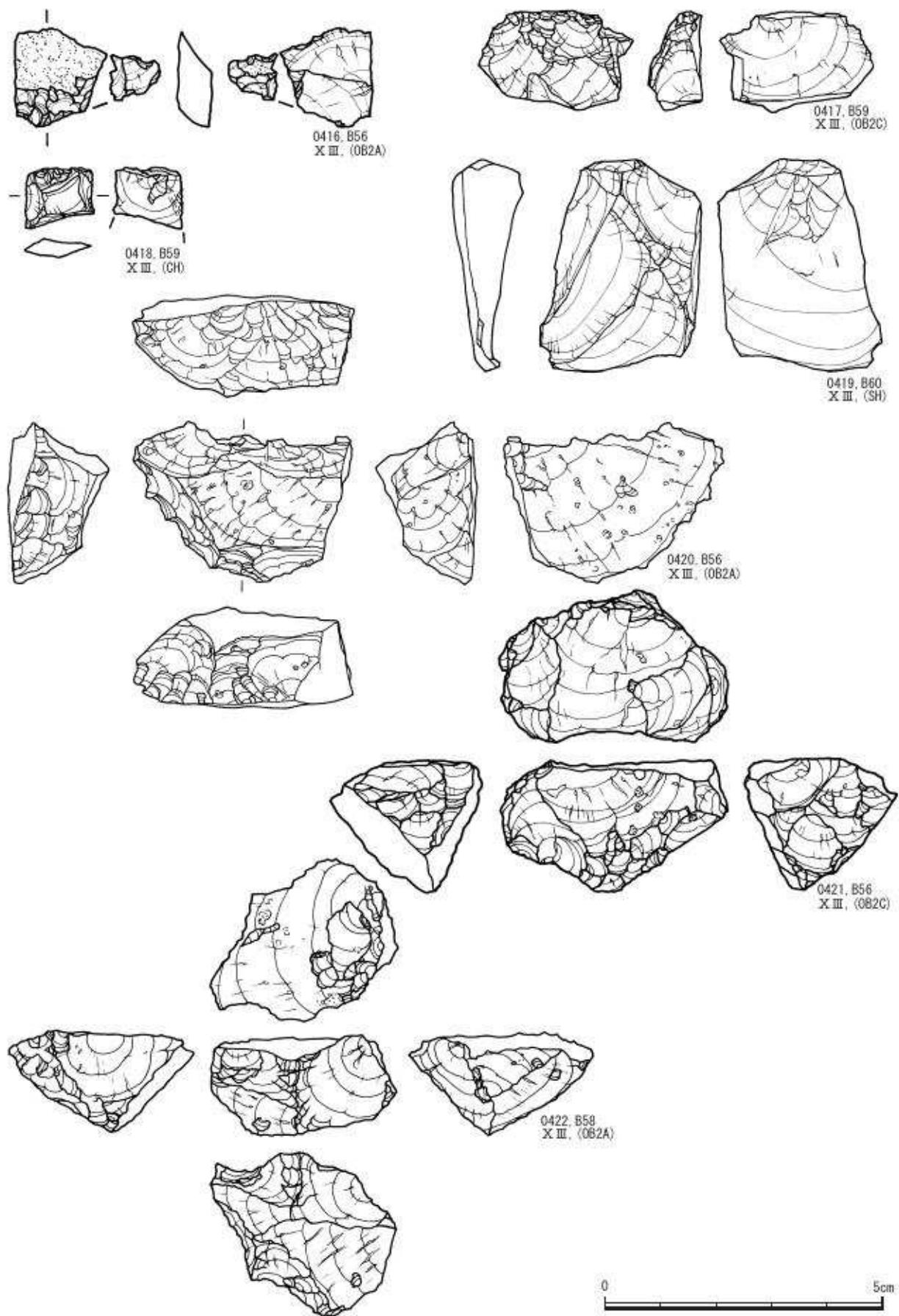
擇図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 No	判別 No	接合 No
91	0369	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B55	081	-	48.6	21.7	10.8	8.25	9993	X III	G-13	-
	0370	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器?	II	U4	A15	B50	082	A	(13.8)	(14.6)	(9.7)	(1.64)	10751	X III	G-13	-
	0371	剥片	-	-	II	U4	A15	B51	082	A	18.1	27.1	6.6	2.68	10189	X III	G-13	-
	0372	石器	スクレイバー	擦器	II	U4	A15	外	082	A	28.4	37.7	11.0	9.42	16100	X II	G-12	80
	0373	石器	二次加工痕のある剥片	削器	II	U4	A15	B49	SH	-	26.7	30.2	6.2	4.19	10358	X III	G-13	-
	0374	剥片	-	-	II	U4	A15	外	082	A	23.9	28.6	9.5	5.29	10667	X III	G-13	-
	0375	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B49	082	A	19.4	35.1	9.3	5.16	10032	X III	G-13	-
	0376	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	II	U4	A15	B51	082	A	24.7	17.5	13.0	5.19	10431	X III	G-13	-
92	0377	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	II	U4	A15	B55	082	C	34.8	31.1	17.8	13.96	12796	X III	G-13	-
	0378	石核	-	-	II	U4	A15	B55	081	-	22.6	31.3	23.0	13.45	10367	X III	G-13	-
	0379	石核	-	-	II	U4	A15	B52	SH	-	19.5	41.8	32.0	22.11	10698	X III	G-13	-
93	0380	石器	ハンマー	-	II	U4	A15	B55	PA	-	53.5	30.9	21.0	52.67	11848	X III	G-13	-
	0381	石器	ハンマー	-	II	U4	A15	B55	PA	-	61.5	49.5	37.6	158.01	11849	X III	G-13	-
	0382	石核	-	-	II	U4	A15	B55	SH	-	39.5	49.7	70.2	143.11	12797	X III	G-13	-
94	0383	石核	-	-	II	U4	A15	B52	AN	-	42.7	70.4	48.0	163.03	11528	X III	G-13	-
	0384	石核	石核	プランク	II	U4	A15	B55	SH	-	47.3	143.9	76.0	512.00	10366	X III	G-13	-



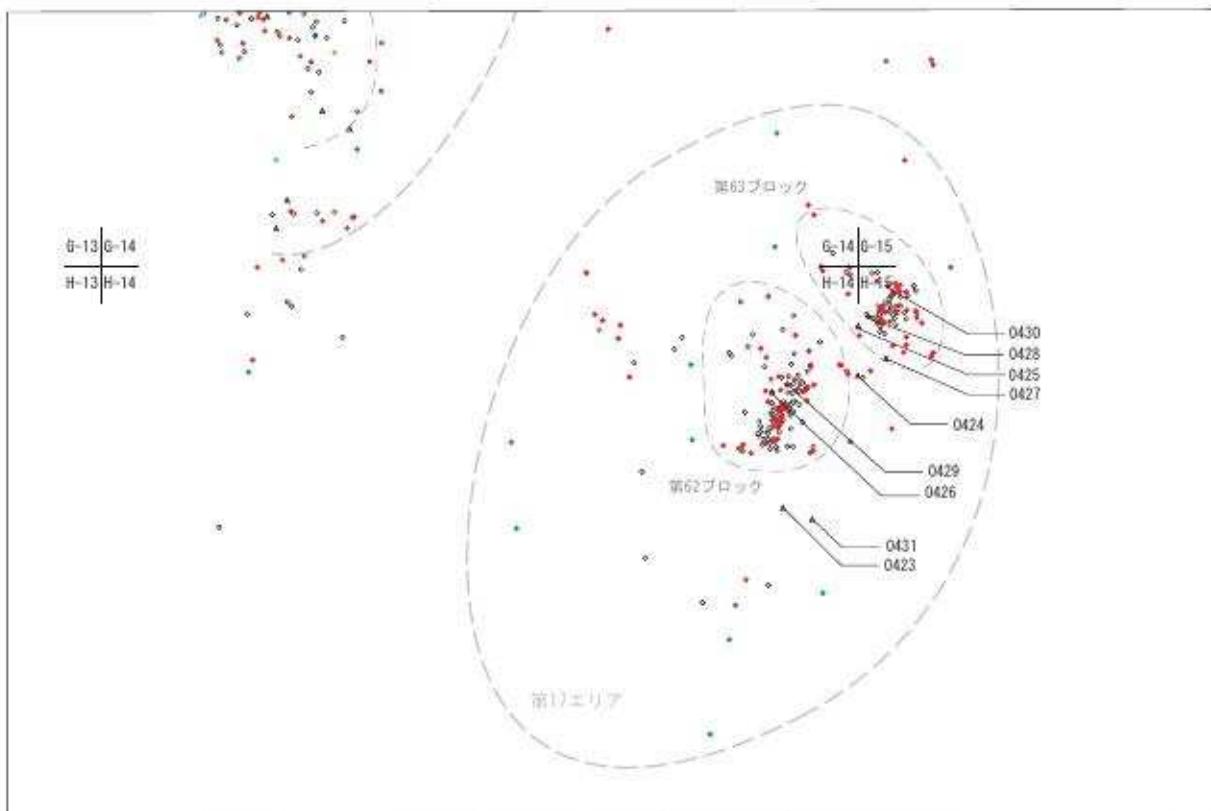
第96図 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(1)



第97図 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(2)



第98図 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器実測図(3)



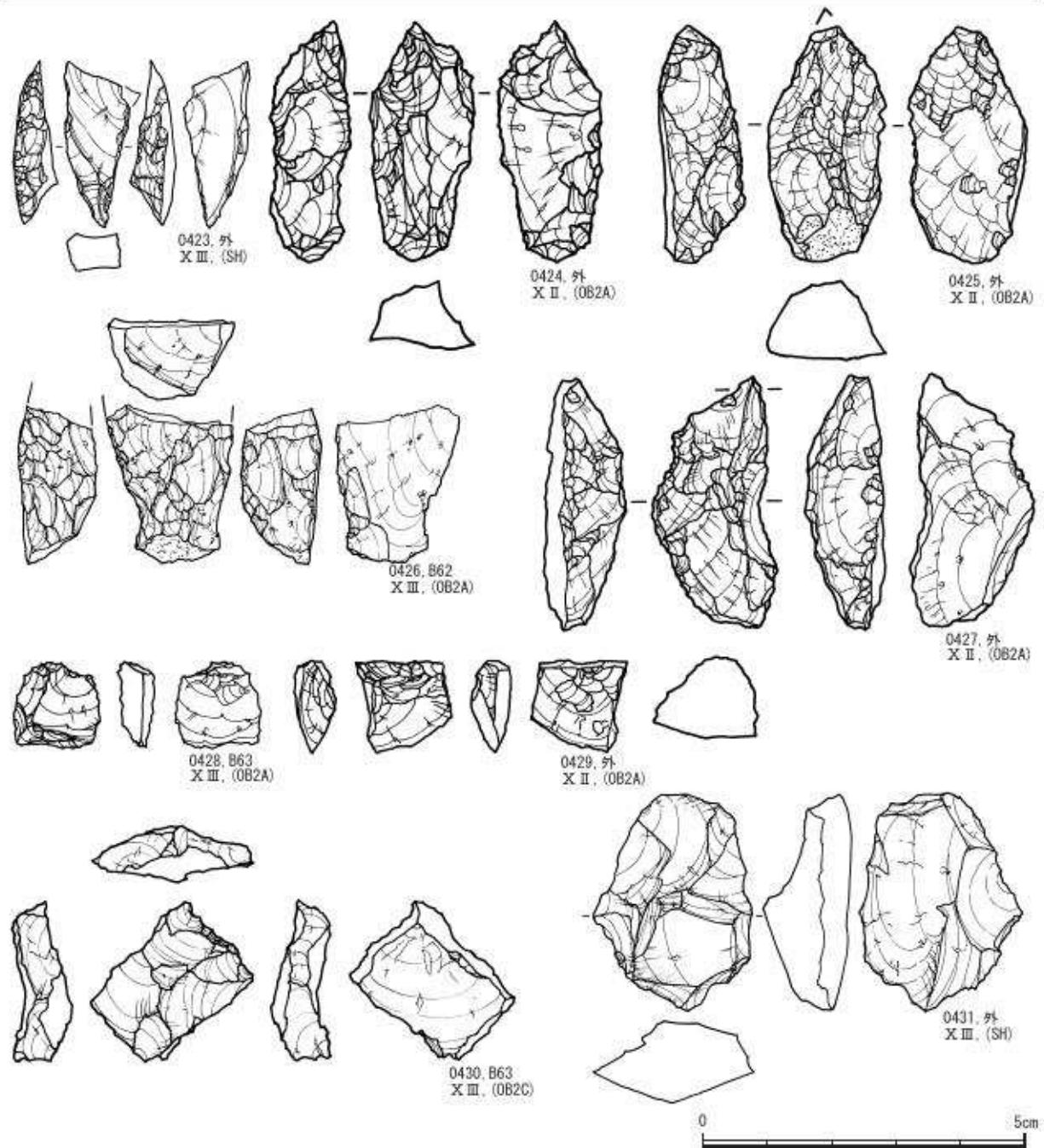
第99図 第II文化層第4ユニット第17エリア遺物出土状況図

第25表 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(1)

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	コア	コツ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判明 No	接合 No
96	0385	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB3	-	(10.5)	(5.4)	(1.1)	(0.04)	10348	X II	G-13	-
	0386	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(8.2)	(4.4)	(1.3)	(0.04)	9958	X III	G-13	-
	0387	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(10.7)	(8.4)	(2.0)	(0.15)	9961	X II	G-13	-
	0388	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(11.3)	(7.3)	(2.0)	(0.14)	9287	X II	G-13	-
	0389	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	15.9	8.6	2.2	0.21	9949	X III	G-13	-
	0390	剥片	細石刃	-	II	U4	A16	外	OB1	-	(14.1)	(7.3)	(3.1)	(0.19)	9960	X III	G-13	-
	0391	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB5	-	20.9	10.0	5.6	0.92	9970	X II	G-13	-
	0392	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	SH	-	29.1	10.5	5.1	0.94	18808	X II	G-14	-
	0393	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	SH	-	(31.7)	15.8	(8.0)	(2.52)	18256	X II	G-14	-
	0394	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	(15.1)	(11.2)	(5.8)	(8.64)	19086	X III	G-14	-
	0395	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器?	II	U4	A16	B58	OB2	A	(17.6)	(11.2)	(10.0)	(1.24)	13290	X III	G-13	-
	0396	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B60	CH	-	(17.2)	(9.9)	(7.0)	(0.87)	18804	X III	G-14	-
	0397	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB2	C	(27.1)	16.1	(11.2)	(3.97)	9929	X II	G-13	-
	0398	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	CH	-	(36.1)	16.6	(9.6)	(5.90)	14091	X III	G-14	-
	0399	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	B59	CH	-	34.4	16.0	11.4	5.31	13165	X III	G-13	-
	0400	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	OB1	-	32.9	22.3	14.0	7.20	13886	X III	G-14	67
	0401	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A16	外	CH	-	59.7	17.5	11.0	8.64	14090	X III	G-14	-
97	0402	石器	三棱尖頭器	先端部	II	U4	A16	B57	OB2	A	(16.3)	(9.0)	(8.3)	(0.70)	12789	X III	G-13	-
	0403	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器?	II	U4	A16	B61	OB2	A	(24.6)	(13.0)	(10.4)	(1.91)	13874	X III	G-14	64
	0404	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	36.6	9.8	10.0	2.51	19049	X III	G-14	-
	0405	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A16	B60	CH	-	39.0	15.8	12.0	6.38	19100	X III	G-14	-
	0406	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A16	B56	OB2	A	(34.1)	(20.7)	(12.8)	(6.80)	13000	X III	G-13	-
	0407	石器	三棱尖頭器	三棱尖頭器?	II	U4	A16	B57	OB2	C	(32.7)	14.5	(13.8)	(6.38)	12894	X III	G-13	-
	0408	石器	三棱尖頭器	背面加工	II	U4	A16	B60	OB2	A	(36.7)	20.3	(13.1)	(8.25)	14529	X III	G-14	-
	0409	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A16	B60	OB2	C	53.3	31.3	20.0	20.53	19592	X III	G-14	-
	0410	石器	二次加工痕のある剥片	台形石器?	II	U4	A16	B56	OB2	A	14.3	12.2	7.5	0.85	13714	X III	G-13	-
	0411	剥片	-	-	II	U4	A16	外	OB2	A	15.1	11.6	4.8	0.75	19048	X II	G-14	-

第26表 第II文化層第4ユニット第16エリア出土石器観察表(2)

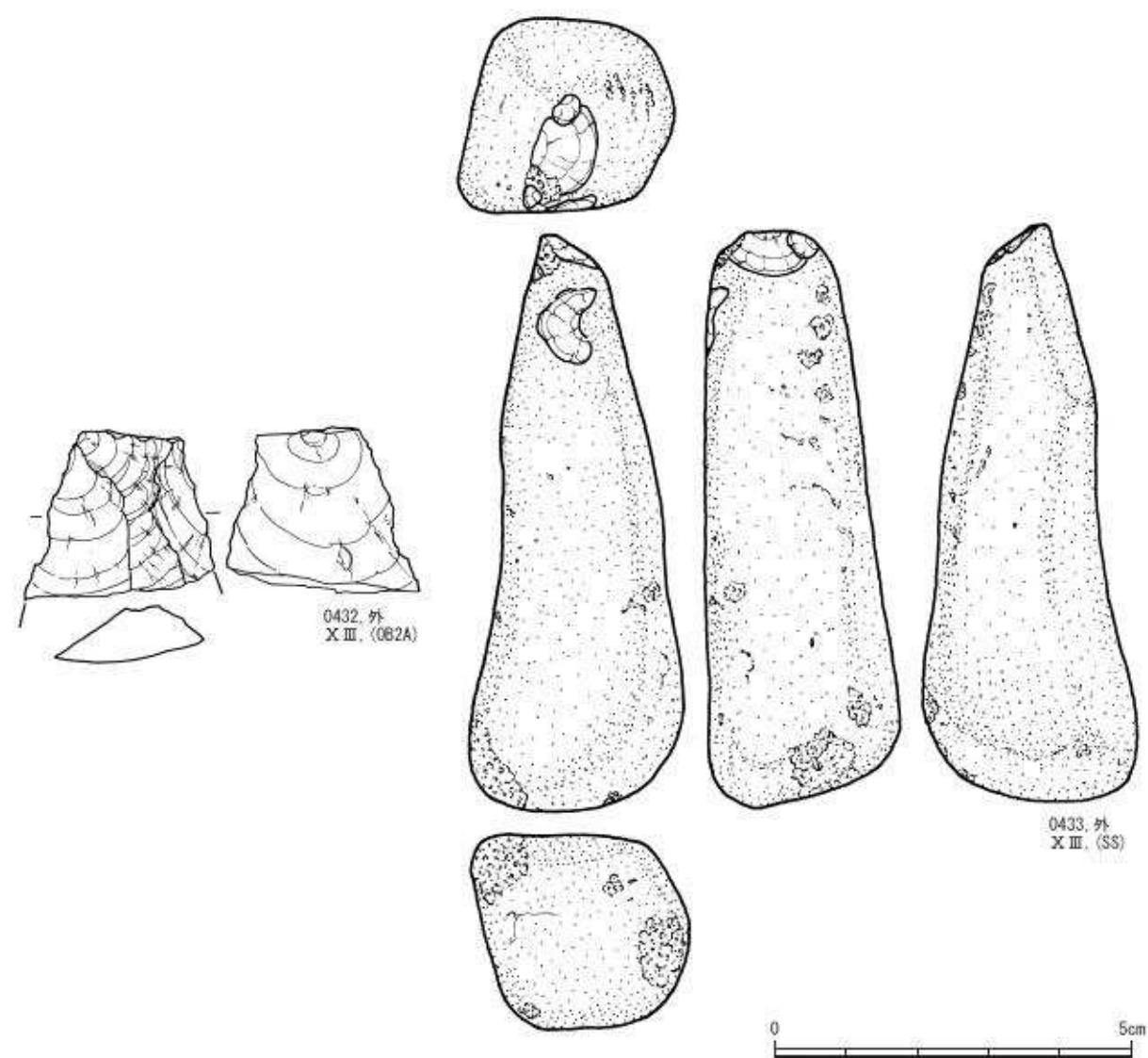
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	リーフ No	接合 No
97	0412	チップ	—	—	II	U4	A16	B59	OB3	—	18.3	8.9	5.5	0.54	11876	X III	G-13	—
	0413	石器	二次加工痕のある剥片	三棱尖頭器?	II	U4	A16	外	OB2	A	22.2	15.7	12.0	2.70	13777	X III	G-14	64
	0414	チップ	プランティングチップ	—	II	U4	A16	B60	CH	—	14.9	4.8	4.0	0.20	14526	X III	G-14	—
	0415	剥片	微細剥離痕のある剥片	—	II	U4	A16	B59	OB2	C	23.3	32.4	6.0	3.57	12489	X III	G-13	—
98	0416	剥片	—	—	II	U4	A16	B56	OB2	A	18.0	(26.4)	(7.0)	(1.84)	13904	X III	G-13	—
	0417	剥片	—	—	II	U4	A16	B59	OB2	C	18.1	27.9	10.0	3.95	11638	X III	G-13	—
	0418	剥片	折断剥片	—	II	U4	A16	B59	CH	—	(10.9)	(12.7)	(3.3)	(0.32)	14146	X III	G-13	—
	0419	剥片	—	—	II	U4	A16	B60	SH	—	38.3	29.2	13.0	10.72	19096	X III	G-14	—
	0420	石器	スクレイバー	擦器	II	U4	A16	B56	OB2	A	29.0	39.4	18.3	18.06	12638	X III	G-13	—
	0421	石核	—	—	II	U4	A16	B58	OB2	C	23.9	41.1	27.8	19.98	11857	X III	G-13	—
	0422	石核	—	—	II	U4	A16	B58	OB2	A	18.3	33.6	29.2	13.55	12470	X III	G-13	112



第100図 第II文化層第4ユニット第17エリア出土石器実測図

第27表 第Ⅱ文化層第4ユニット第17エリア出土石器観察表

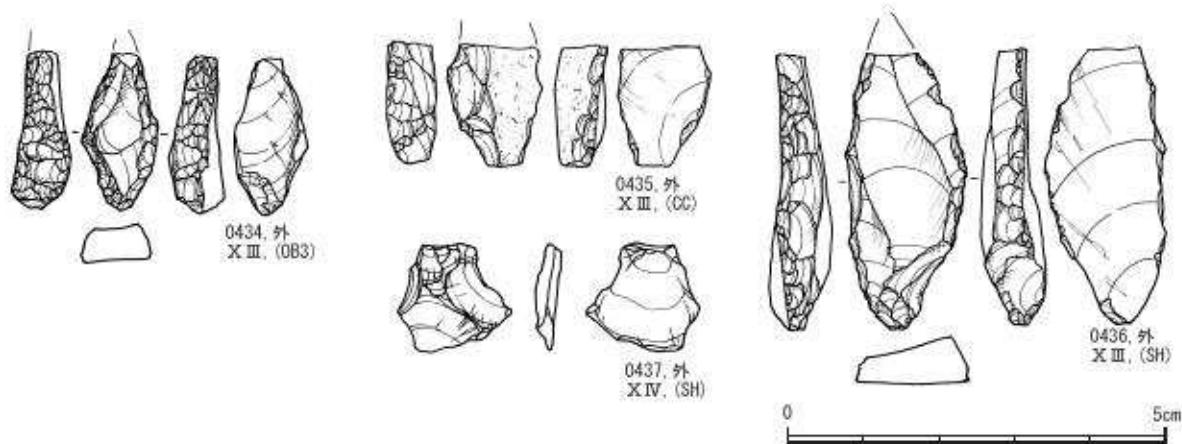
插図 No	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
100	0423	石器	ナイフ形石器	-	II	U4	A17	外	SH	-	(26.0)	(10.5)	(7.0)	(1.32)	15829	X III	H-14	-
	0424	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A17	外	OB2	A	37.0	16.5	12.5	6.54	15974	X II	H-15	-
	0425	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A17	外	OB2	A	(36.7)	(18.6)	(13.5)	(7.80)	15927	X II	H-15	-
	0426	石器	三棱尖頭器	基部	II	U4	A17	B62	OB2	A	(24.5)	(19.7)	(12.5)	(4.74)	16996	X III	H-14	59
	0427	石器	三棱尖頭器	-	II	U4	A17	外	OB2	A	39.1	19.8	13.0	7.63	15926	X II	H-15	-
	0428	チップ	プランティングチップ	-	II	U4	A17	B63	OB2	A	13.4	13.7	6.0	0.73	16323	X III	H-15	-
	0429	チップ	-	-	II	U4	A17	外	OB2	A	14.2	15.1	6.8	1.06	16993	X II	H-14	-
	0430	剥片	-	-	II	U4	A17	B63	OB2	C	24.9	25.3	9.5	3.19	16701	X III	H-15	-
	0431	石器	二次加工痕のある剥片	-	II	U4	A17	外	SH	-	33.6	24.7	14.0	8.92	15935	X III	H-14	-



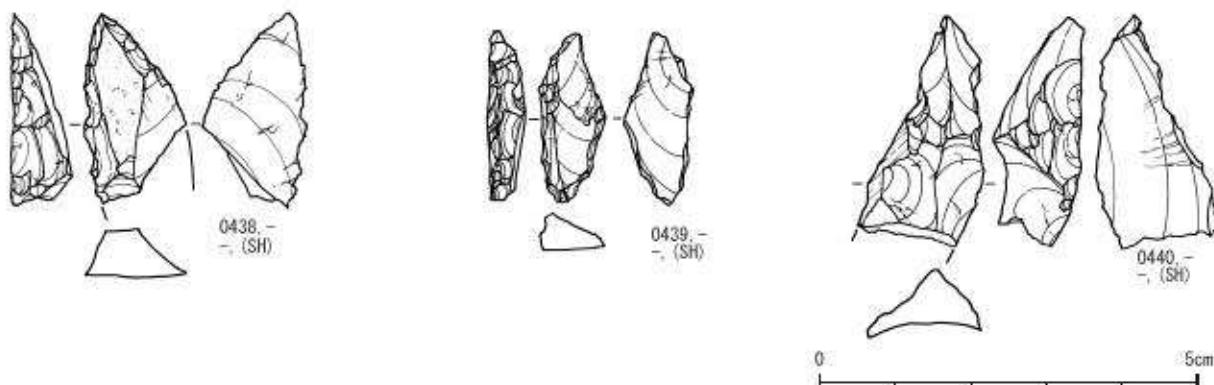
第101図 第Ⅱ文化層第4ユニットエリア外出土石器実測図

第28表 第Ⅱ文化層第4ユニットエリア外出土石器観察表

插図 No	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
101	0432	剥片	折断剥片	-	II	U4	外	外	OB2	A	(23.9)	(26.5)	(7.8)	(4.34)	9835	X III	G-12	-
	0433	石器	ハンマー	-	II	U4	外	外	SS	-	81.0	30.4	28.0	76.31	10792	X III	G-13	-



第102図 第II文化層ユニット外エリア外出土石器実測図



第103図 第II文化層出土位置不明石器実測図

第II文化層ユニット外エリアA(第102図)

ナイフ形石器3点(0434~0436)、プランティングチップ1点(0437)を確認できる。

0434はやや厚手の剥片を用いた小型ナイフ形石器で、全周にわたって刃溝がみられる。0435は先端部を下落するが、やはり小型に属する。0436は、計量的に取り出された細長剥片系の均整のとれた二面刃型ナイフ形石器である。

0437のプランティングチップの形状は、0436とナイフ形石器と同じ、更右である。

第29表 第II文化層ユニット外エリア外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニーク エリア	ロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	リード	接合 No
102	0434	石器	ナイフ形石器	-	II	外	外	OB3	-	(21.0)	(10.3)	(7.8)	(1.40)	15275	XIII	F-16	-
	0435	石器	ナイフ形石器	-	II	外	外	CC	-	(16.0)	(12.5)	(6.9)	(1.57)	16584	XIII	I-14	-
	0436	石器	ナイフ形石器	-	II	外	外	SH	-	(36.8)	(16.0)	(8.5)	(4.86)	10591	XIII	F-13	-
	0437	チップ	プランティングチップ	-	II	外	外	SH	-	14.3	15.1	3.8	0.49	21973	XIV	-	-

第30表 第II文化層出土位置不明石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニーク エリア	ロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	リード	接合 No	
103	0438	石器	ナイフ形石器	-	II	-	-	-	SH	-	(25.0)	(13.6)	(8.4)	(2.20)	一括	-	-	-
	0439	石器	ナイフ形石器	-	II	-	-	-	SH	-	22.3	9.0	8.0	0.91	一括	-	-	-
	0440	石器	ナイフ形石器	-	II	-	-	-	SH	-	(30.5)	(16.8)	(12.2)	(4.17)	一括	-	-	-

参考資料(第104ヶ, 第107ヶ)

複合作業で認めた第IIマニブについて、複数作業の進行した点を記載した。

参考No. 48(第104ヶ)

黒曜石 II-A類 [第2エリア第2ブロック]

3点の複合で、右块と左片の複合である。

2枚の左片、24004と24448は「左片」として対触されている。その後、左片の刃先に刃撃し、2倍に複合した可能性が高い。左片24289の刃先を最終対触として示したが、左側複合した左片(24004, 24448)が最終左片となる。したがって、刃先移動を行い、刃先転移(左側の対触)を行ったと解釈できる。

参考No. 56(第104ヶ)

黒曜石 II-A類 [第2エリア第3ブロック]

2点の複合で、三枚尖頭器(24319, 第39ヶ0052)とプランディングチップ(24321)の複合である。

2点の複合資料から、三枚尖頭器の製作工程を復元すると次のようになる。①プランディングチップ24321の左側面に、奥から3ヶの刃先の調整対触が残される。この先行したプランディングは、もはやこのプランディング作業と並行して行った可能性が高い。②若き左部の刃先から刃撃による24321の跡み、この作業により、三枚尖頭器が小型化する。③24321跡み後、対触24319(0052)に奥から2ヶのプランディングを行い、最終が完成する。④その後、24319の左側面の身上対触を生ずし、完成する。

参考No. 60(第106ヶ)

黒曜石 [第2エリア第3ブロック]

2点の複合で、二本刃の左片(23528, 第39ヶ0056)とプランディングチップ(24460, 第39ヶ0058)の複合である。

二本刃の左片の左側面に刃撃し、プランディングは左端部から後退しながら、奥から行ったことが分かる。

参考No. 23(第106ヶ)

黒曜石 [第10エリア第27ブロック]

複合としては2点の複合である。対触の先行した(21774, 21770)、後退した(21555, 21772)の複合である。それぞれの左片は、左片対触の際、筋理に沿ったアクションで対触している。

参考No. 27(第107ヶ)

黒曜石 [第10エリア第28ブロック]

3点の複合で、トピ型な複合左片(19262, 21748)と先行して対触した(22545)の複合である。

19262と21748は、折断の可能性が高い。また、22545

も丸り下した左片を折断している可能性がある。刃先位置が約90度移動している。

参考No. 98(第107ヶ)

黒曜石 [第10エリア第33ブロック]

2点の複合で、左片(18462, 第72ヶ0266)と右片18898の複合である。

左片18462が先行して対触され、18898が後退する。なお、刃先は示していない。

参考No. 109(第109ヶ)

黒曜石 [第10エリア第34ブロック、ブロック外]

3点の複合で、34ブロック左2点、ブロック外1点の複合である。

3点の資料は折断左片であり、頭部(20184)と尾部(20389, 21465)に相当する。背部の跡みは、折断刃撃時のアクシデントである。

参考No. 18(第109ヶ)

黒曜石 [第11エリア第38ブロック]

チップ2点(19809, 20429)の複合である。

左側で、19809が先行して対触される。

参考No. 37(第109ヶ)

黒曜石 II-B類

[第11エリア第35ブロック、ブロック外]

2点の複合で、左片(18833)と右片(19523)の複合である。

参考No. 87(第110ヶ)

黒曜石 II-A類 [第11エリア第35ブロック]

2点の複合で、三枚尖頭器の头部(18405, 第74ヶ0285)と尾部(18867)左側の複合である。

奥からも左側に行っている。头部から尾部にかけては身上対触もみられる。左側部の头部からもはるかに奥の左側部直近に左側が観察される。

参考No. 1(第110ヶ)

黒曜石 II-A類 [第7エリア第14, 15ブロック]

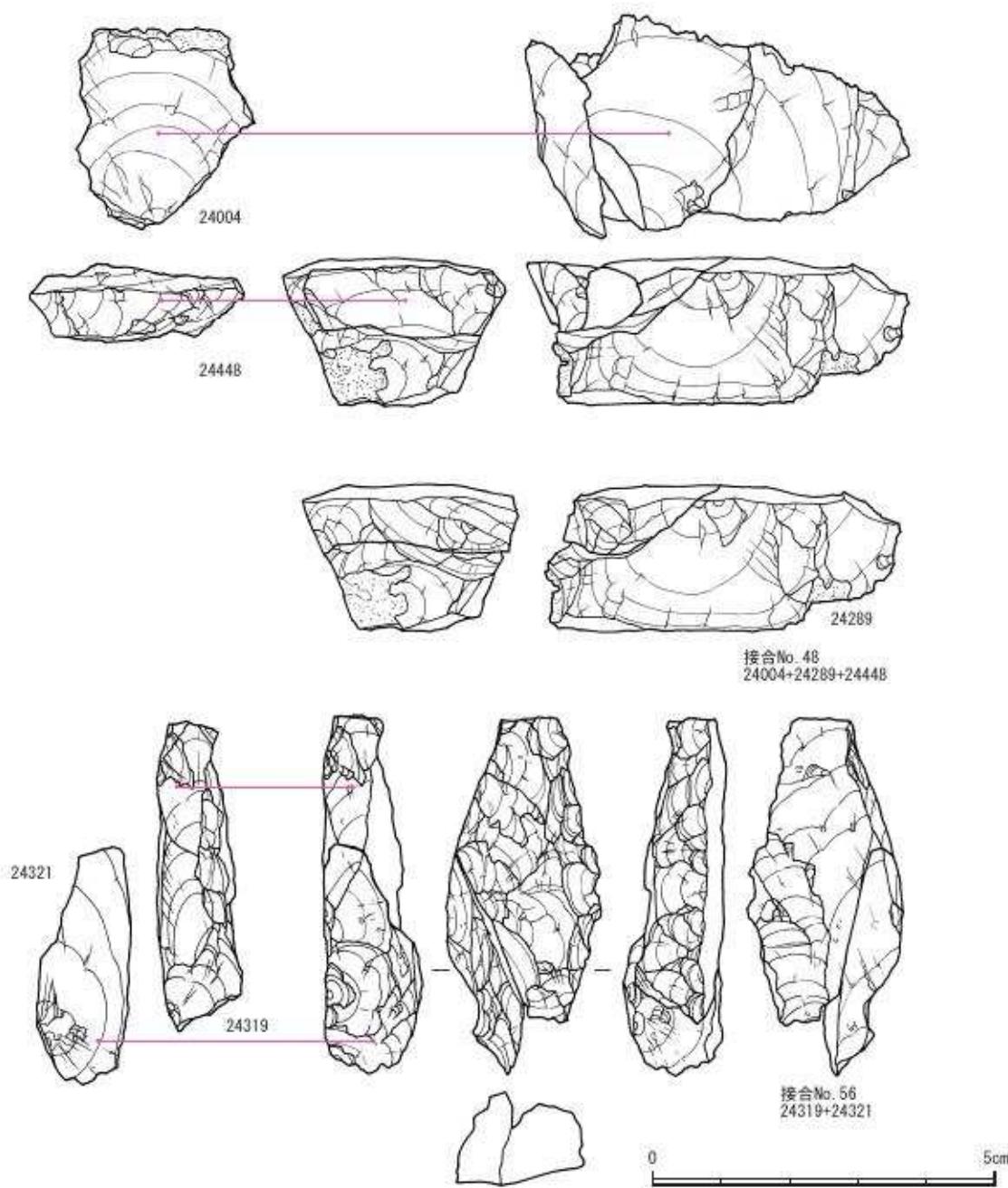
的確に表現できていないが、4点の複合である。

左片(19182)と右片(17282), 左片(17271+17197)の複合で、17282が先行して対触されている。17271+17197は成長左片として取り扱われた後、奥から折断した可能性がある。

参考No. 7(第110ヶ)

黒曜石 II-A類 [第7エリア第16ブロック]

2点のチップあるいはプランディングチップの複合で、左側から対触し、17440が先行する。



第104図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(1)

堆積No. 28(第111号)

第Ⅱ-A領 [第7エリア第14ブロック]
3点の場合は、三枚尖頭器(17272, 第54号0124)とプランティングチップ2点(17948, 17650)の場合はある。
17948は奥行きからのプランティングで、17650は身上剥離によるプランティングチップである。

堆積No. 9(第111号)

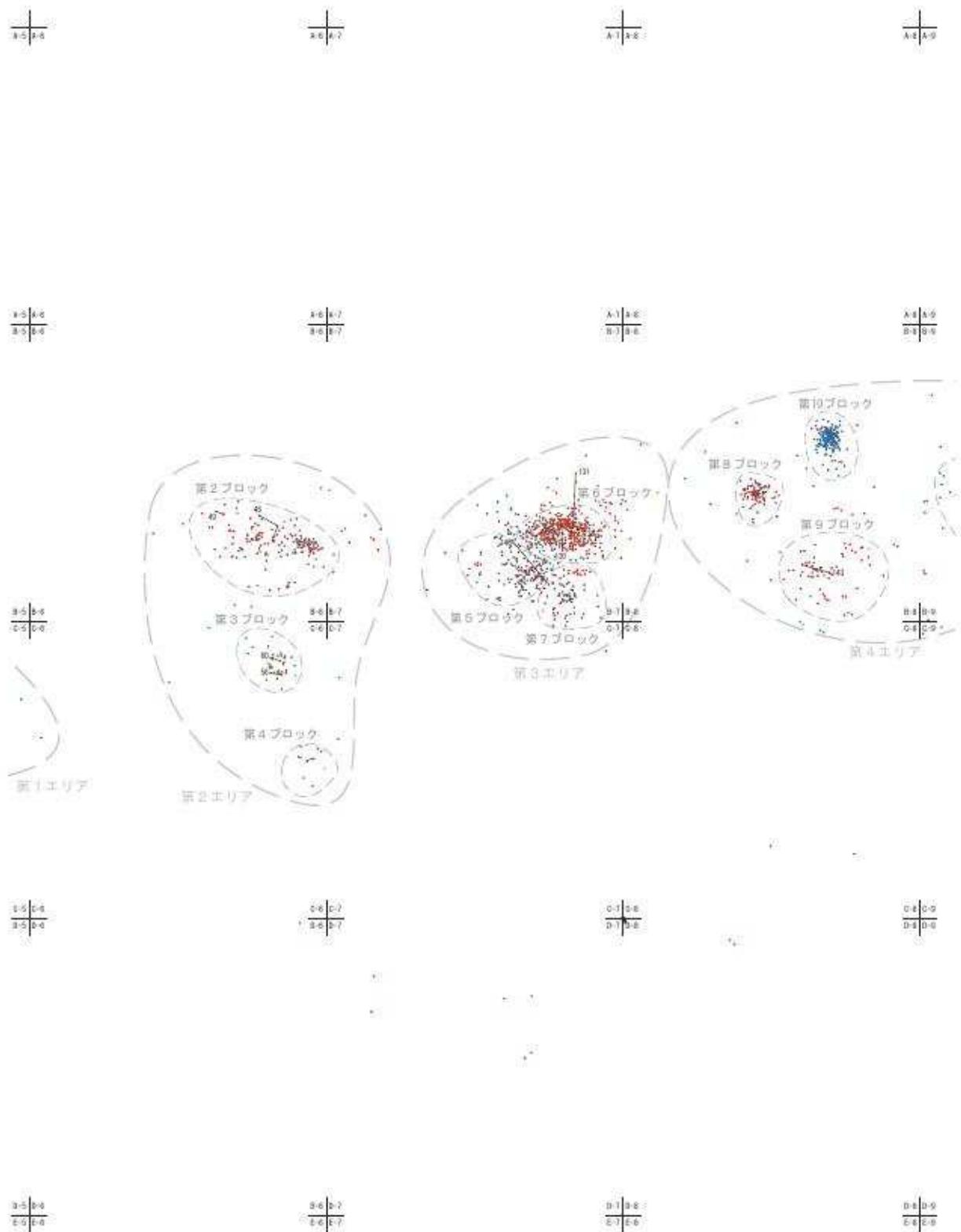
ギョクズイ [第8エリア第18ブロック]
4点の場合は、19178+19647+19185型にもか点が残されるが、取り出した丸片の形状はトビ形である。19183は済整丸片とみられる。

堆積No. 15(第111号)

ミネル
[第8エリア第18ブロック, 第9エリア第21ブロック]
エリア間ブロック間の2点の場合は、6枚(19252)と丸片(18001)の場合はある。
6枚の丸片は2つの筋書きを、丸片は裏面をそのまま描かしている。したがって、丸片18001の丸片にも裏面が残される。

堆積No. 30(第112号)

ギョクズイ [第8エリア第18ブロック]
2点の場合は、その形状から2点ともプランティング



第105図 第II文化層石器接合状況図(1)

8-11-10
8-11-10

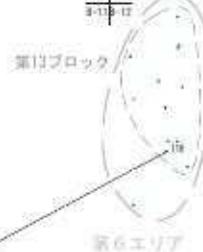
8-11-11
8-11-11

8-11-12
8-11-12

8-11-10
8-11-10

8-11-11
8-11-11

8-11-12
8-11-12



8-11-10
8-11-10

8-11-11
8-11-11

8-11-12
8-11-12



第5エリア

8-11-10
8-11-10

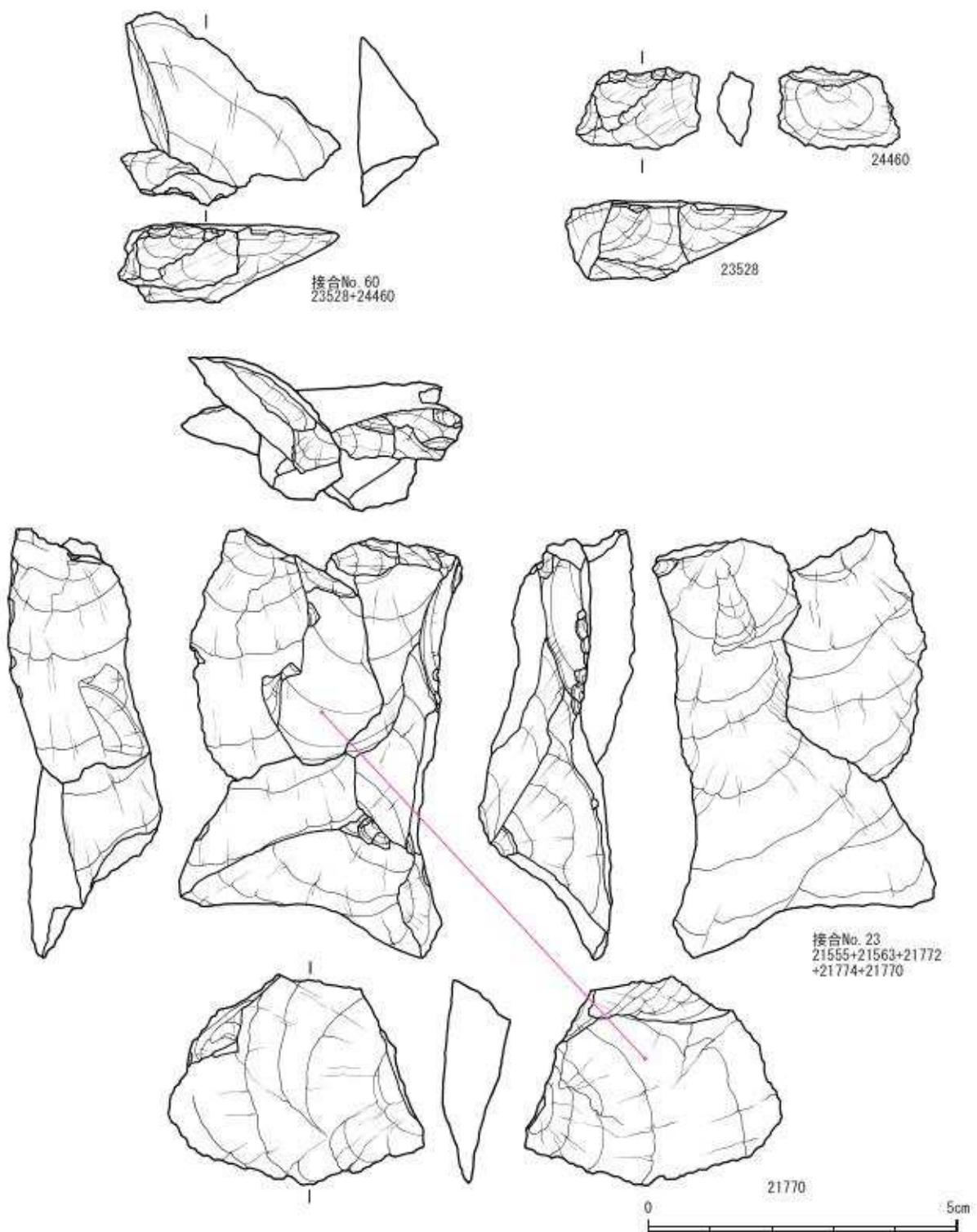
8-11-11
8-11-11

8-11-12
8-11-12

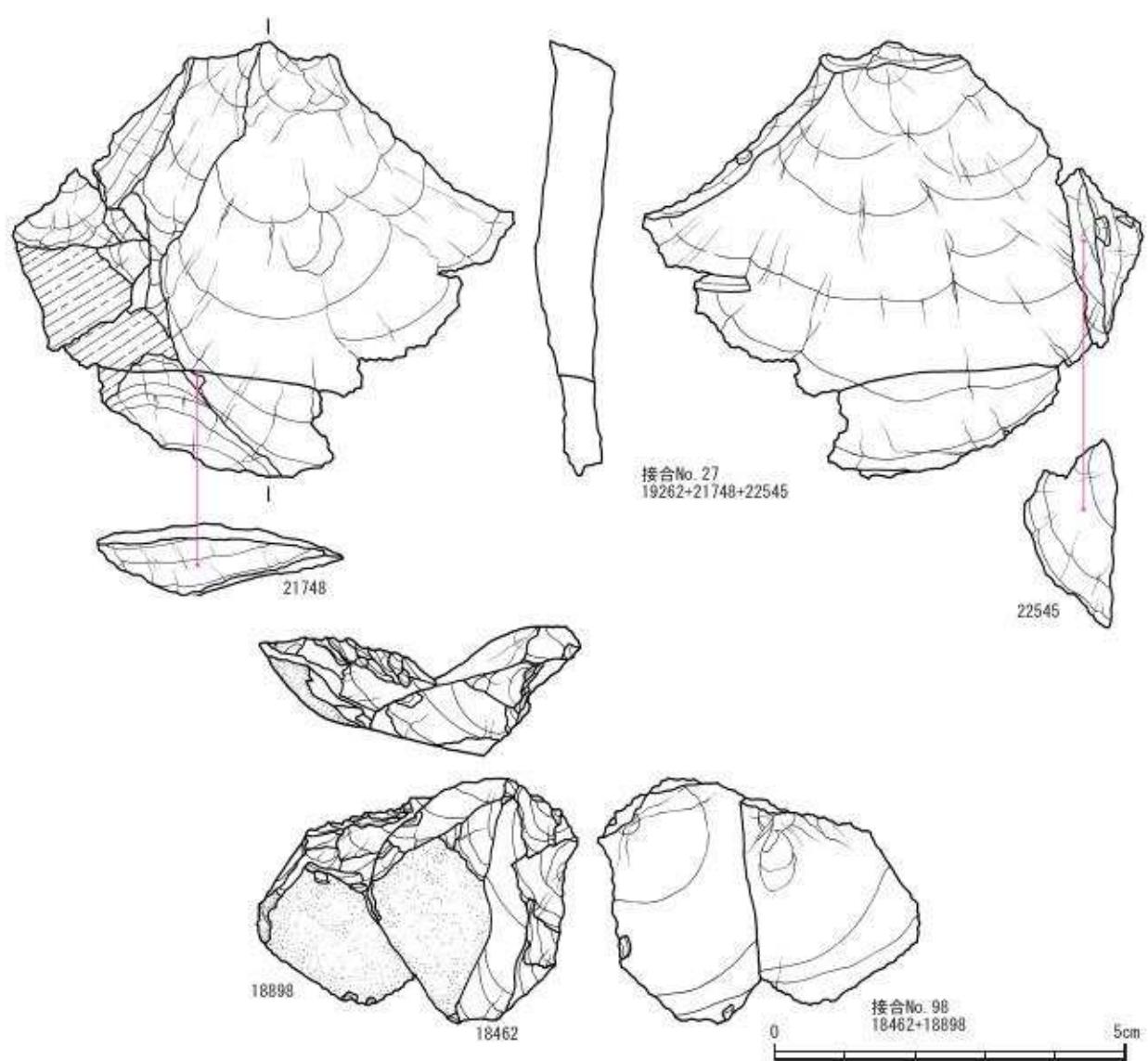
8-11-10
8-11-10

8-11-11
8-11-11

8-11-12
8-11-12



第106図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(2)



第107図 第II文化層接合遺物実測図(3)

チップの付着性がある。

20462に先行して20460がまがされ、切点位置はほぼ同一である。

堆合No. 81(第112番)

月曜日 II-A類 [第8エリアブロック]

2点の接合で、三棱尖頭器の元端部(17483, 第57番0148)と先端部(17486)の接合である。

2点の切点は、陶器にあり、陶器先端部の調整用触點部のヒンジクラフチャーによるアクシデント付離の付着性が強い。

堆合No. 16(112番)

月曜日 [第9エリア第25ブロック]

2点の接合で、調整用片あるいはプランディングチップの接合である。18978に先行して18566が剥離され、切点位置は同一である。

堆合No. 35(第112番)

月曜日 II-A類

[第9エリア第23ブロック, 第10エリア第28ブロック] エリア間ブロック間の2点の接合で、三棱尖頭器(21307, 第67番0220)と元端部(18583)の接合である。

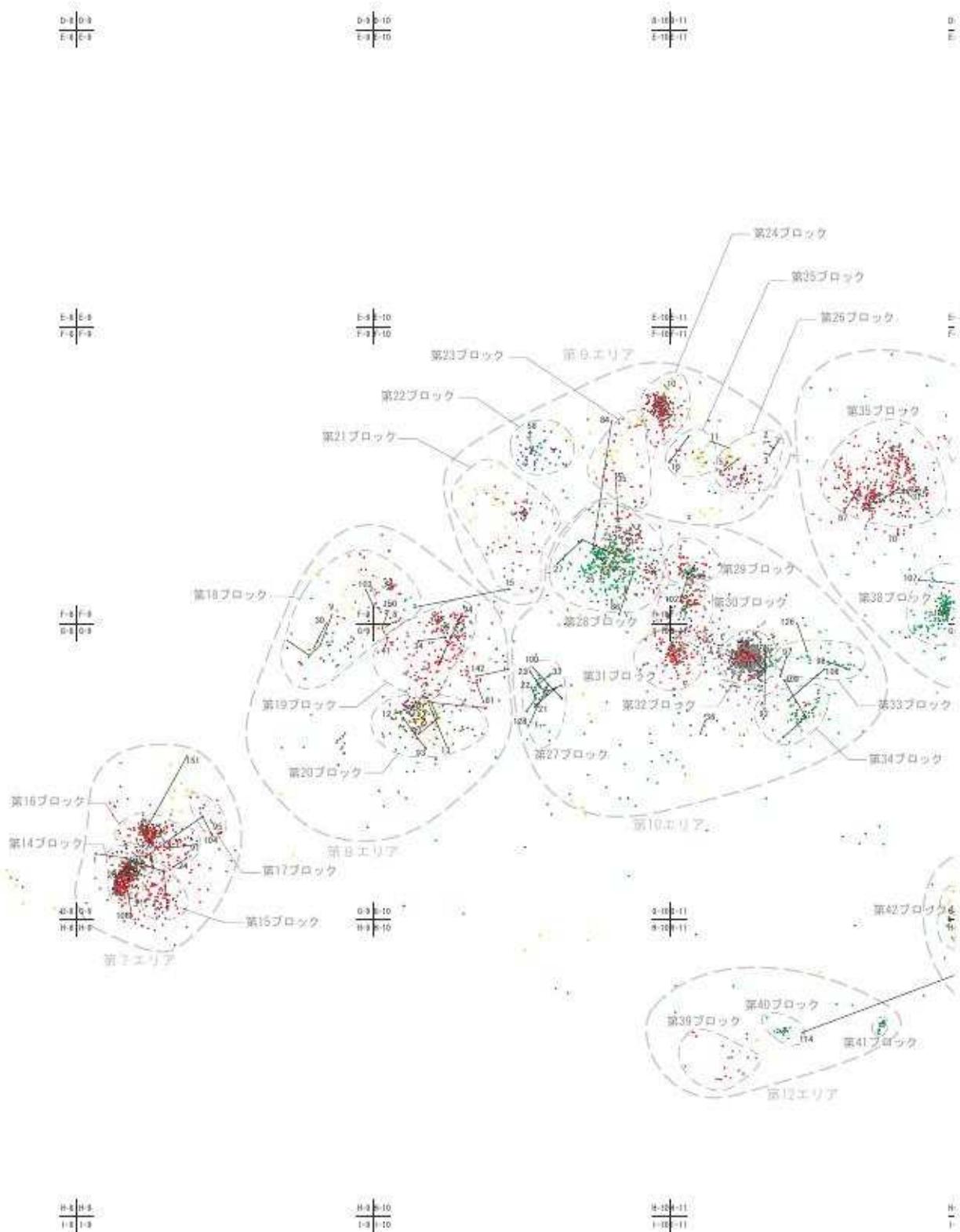
形状とび調整用片の状態から三棱尖頭器としては、完成品と見られ、もはや端部に切点が観察できるが、破壊の跡は明らかでない。

堆合No. 32(第113番)

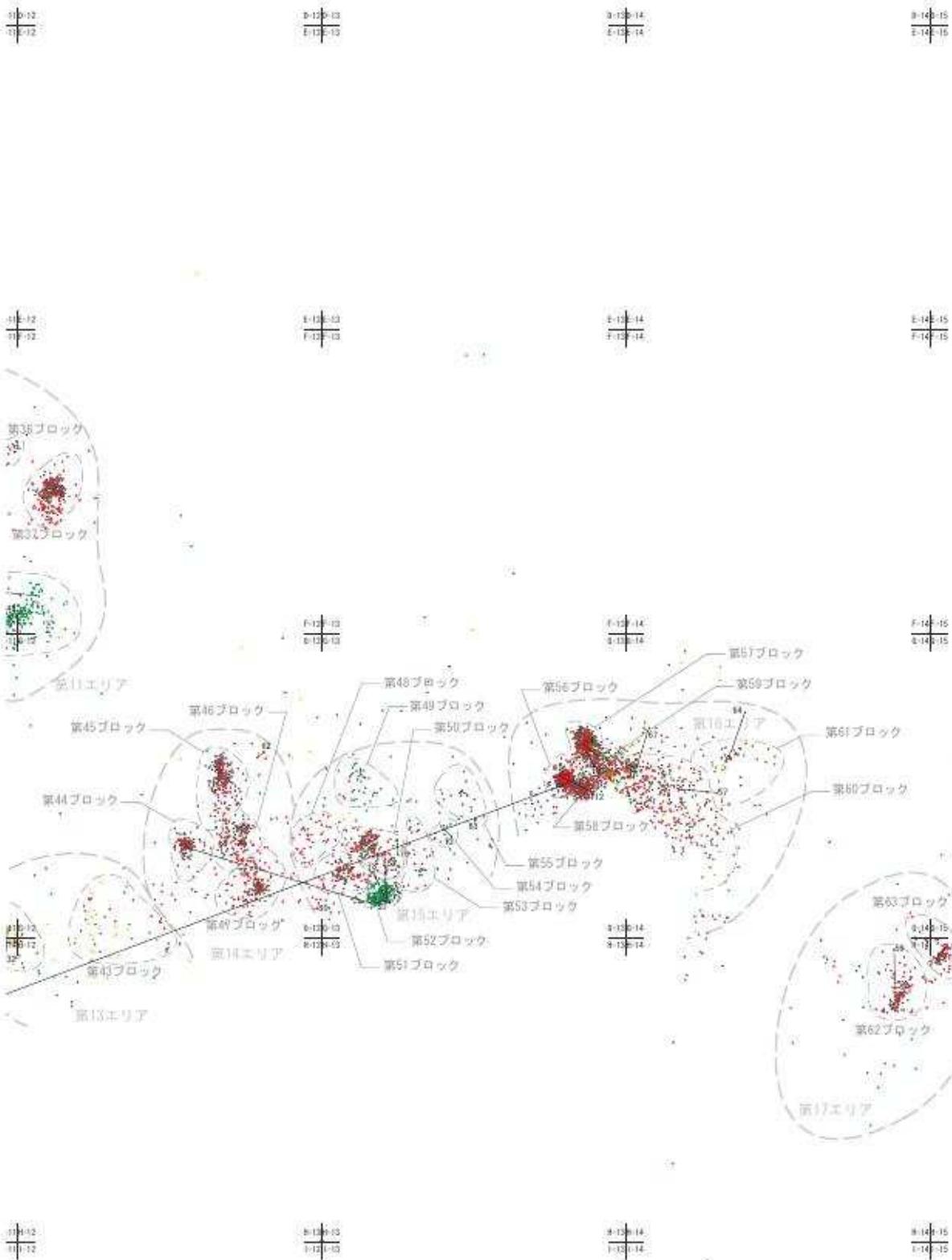
ギョクズイ [第13エリア第42ブロック]

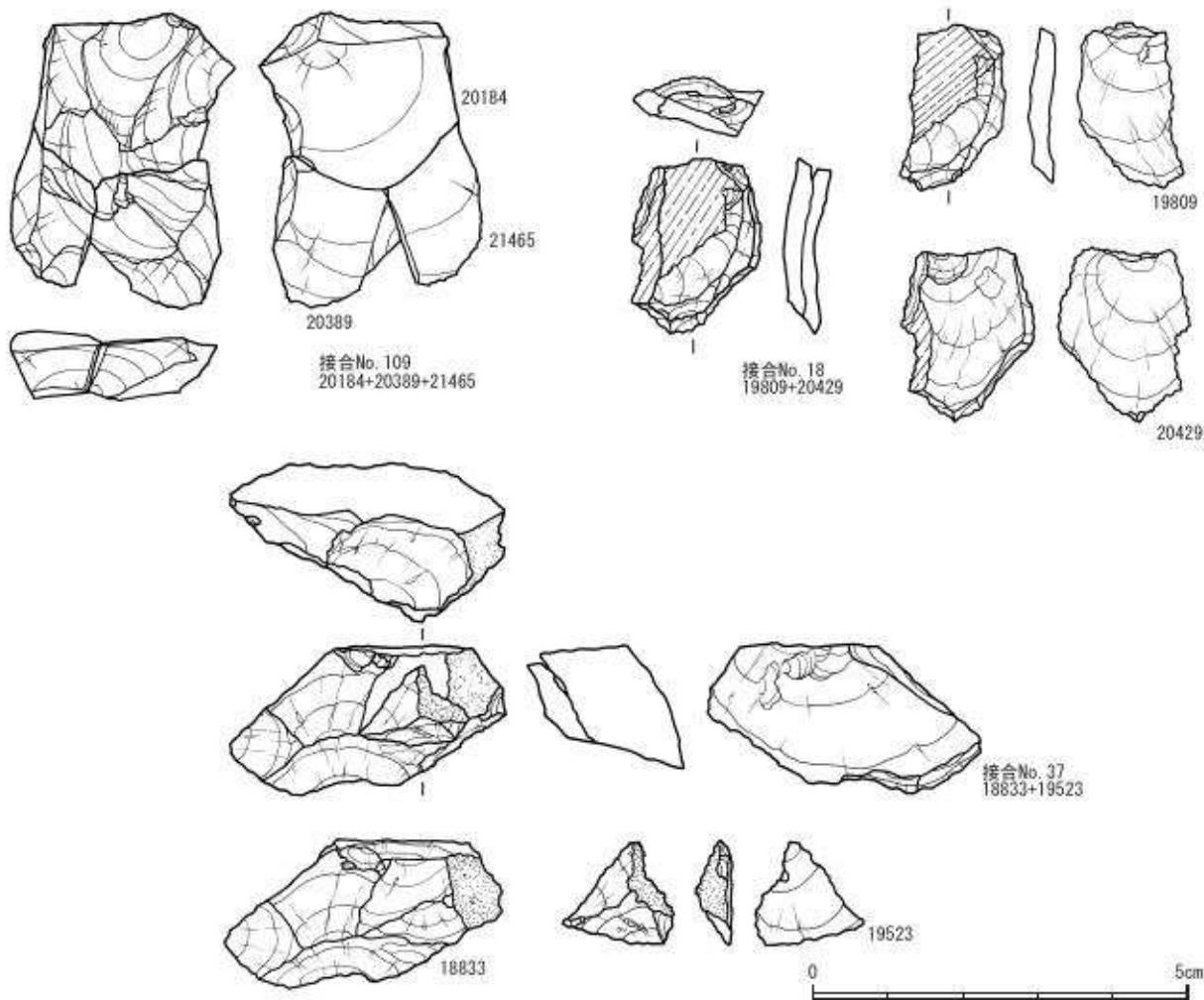
2点の接合で、調整用片あるいはプランディングチップの接合である。

21085に先行して、23093が剥離されている。



第108図 第II文化層石器接合状況図(2)





第109図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(4)

堆合No. 71(第113号)

黒曜石 II-A類 [第14エリア第45ブロック]
2点の場合は、磨きからの「複数の刃」がみられる。
10305は表面を一部残すが、10846の場合は磨きからの刃部が残る。

堆合No. 46(第113号)

黒曜石 [第15エリア第52ブロック]
2点(12369+10701)の場合は、折断片の可能性がある。

堆合No. 63(第114号)

黒曜石 1块 [第15エリア第55ブロック]
2点の場合は、「刃」のある刃片(12856, 第90号0365)と(12855)の場合は、
刃部に磨拭跡が残されることから、刃部頭器を意識した可能性が高い。磨きの痕跡部に刃部がみられるが、痕跡の深さは明らかでない。

堆合No. 80(第114号)

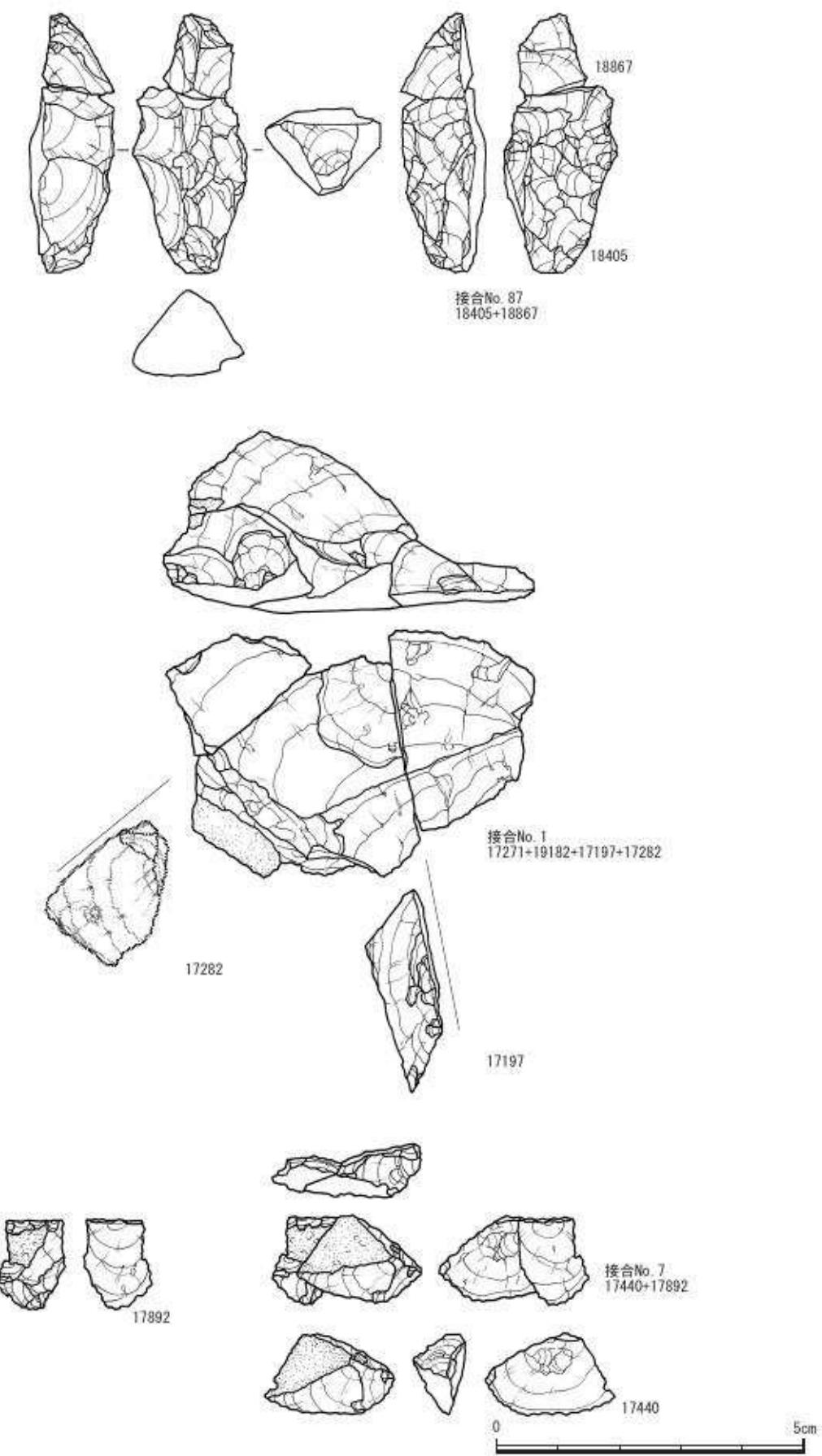
黒曜石 II-A類 [第15エリアブロック外]
2点の場合は、スクレイバー(16100, 第91号0372)と(16099)の場合は、16100については刃にスクレイバーと器種認定したが、16099の刃端部の刃部は刃から離脱すると複数の刃部がある。刃部の磨きに特徴的な痕跡がみられる。

堆合No. 57(第114号)

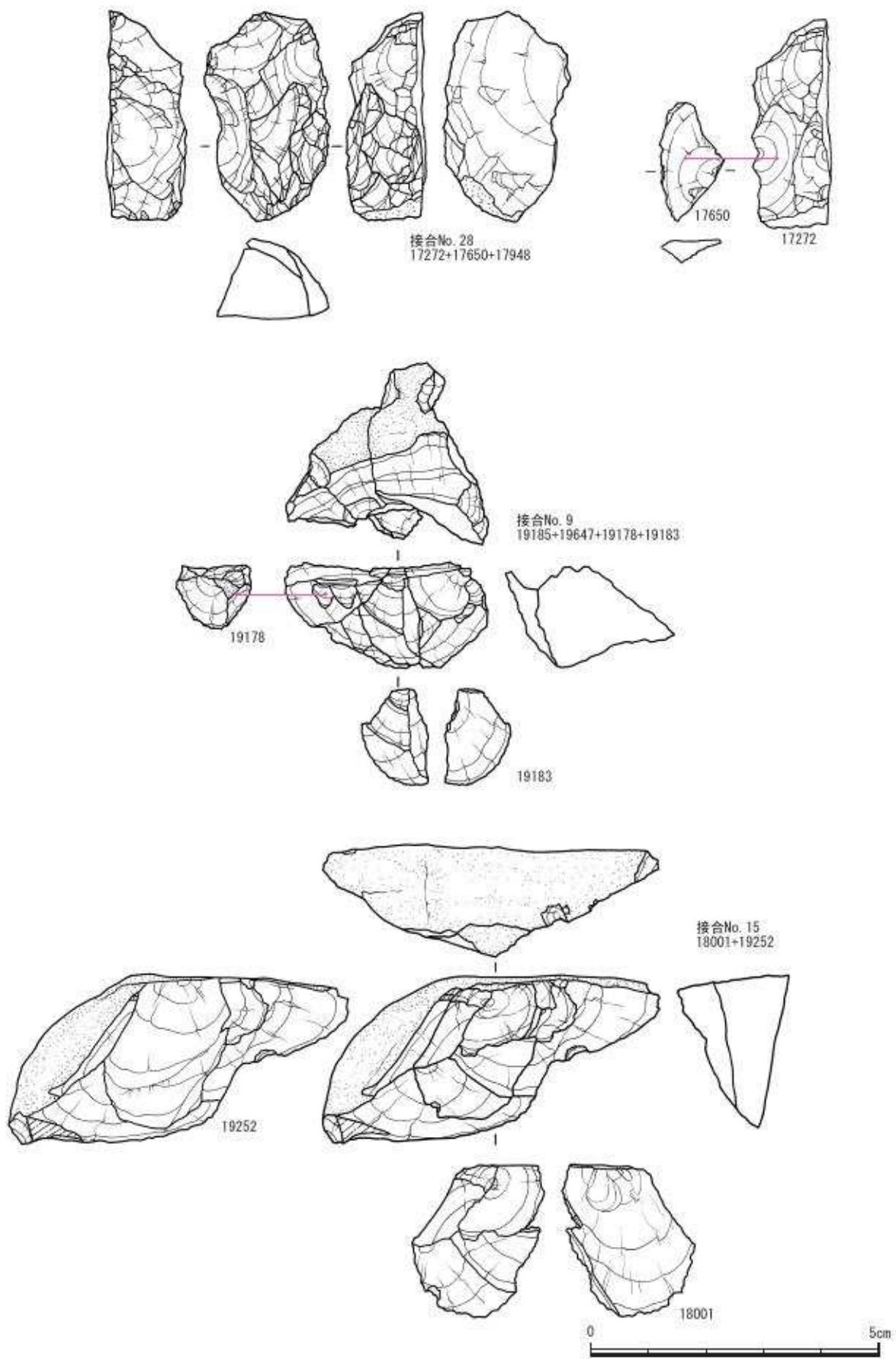
黒曜石 II-A類 [第16エリア第60ブロック]
2点の場合は、刃片(18737)と磨拭刃片(18726)の場合は、

堆合No. 61(第115号)

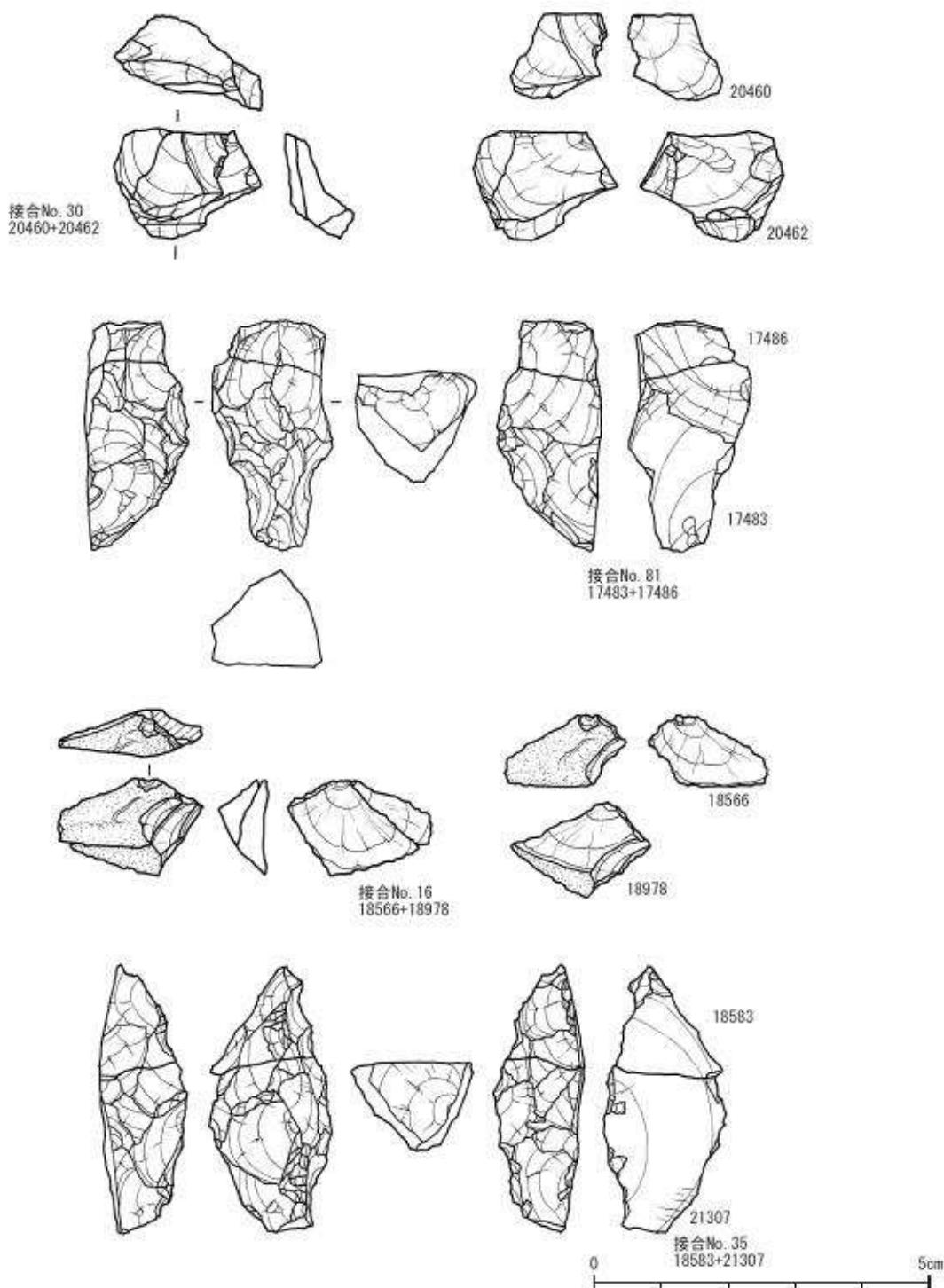
黒曜石 II-A類 [第16エリア第56ブロック]
2点の場合は、刃片(13431)と刃片(13456)の場合は、
2点とも刃部に磨拭跡を残すことから、刃部頭器の可能性も考えられる。刃部から堆積すると、刃部頭器から取り出されたとみられる。



第110図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(5)



第111図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(6)



第112図 第II文化層接合遺物実測図(7)

接合No. 64(第115号)

第Ⅱ-A類[第16エリア第61ブロック、ブロック外]

三 短尖頭器の頭部(13874、第97号)と基部(13777)の接合である。

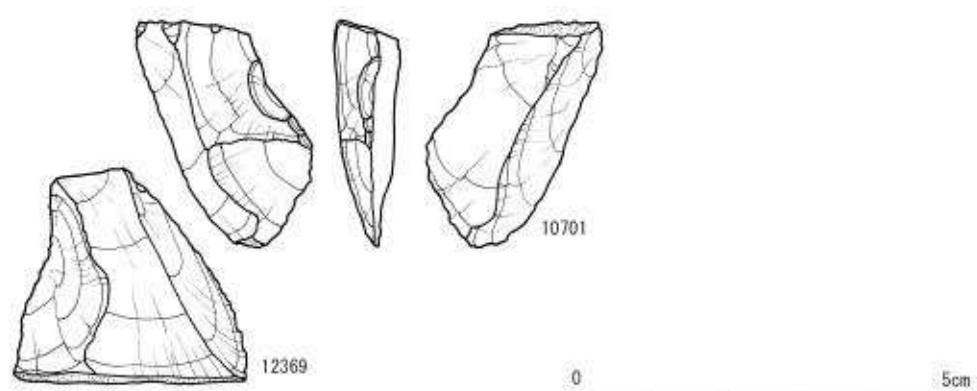
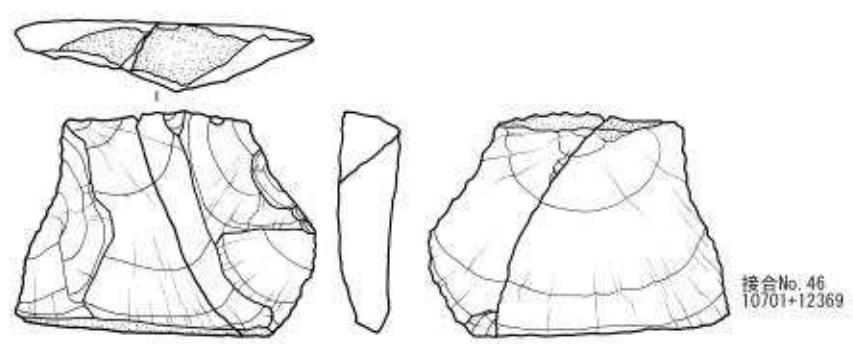
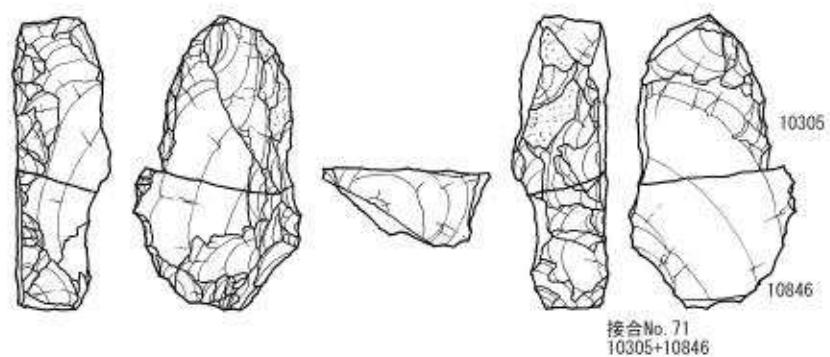
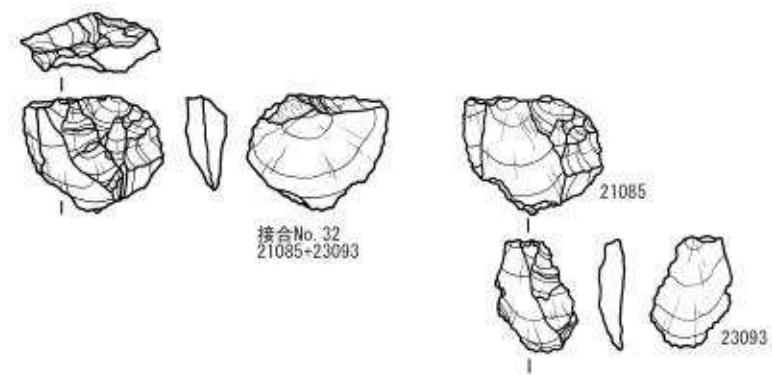
0403については二本丸のあるま片で接合し、三 短尖頭器の可能性もあるとの判断をしていた。接合時に、下地物焼付が数点観察されることから、これらが基部の要素となった可能性が高い。

接合No. 67(第115号)

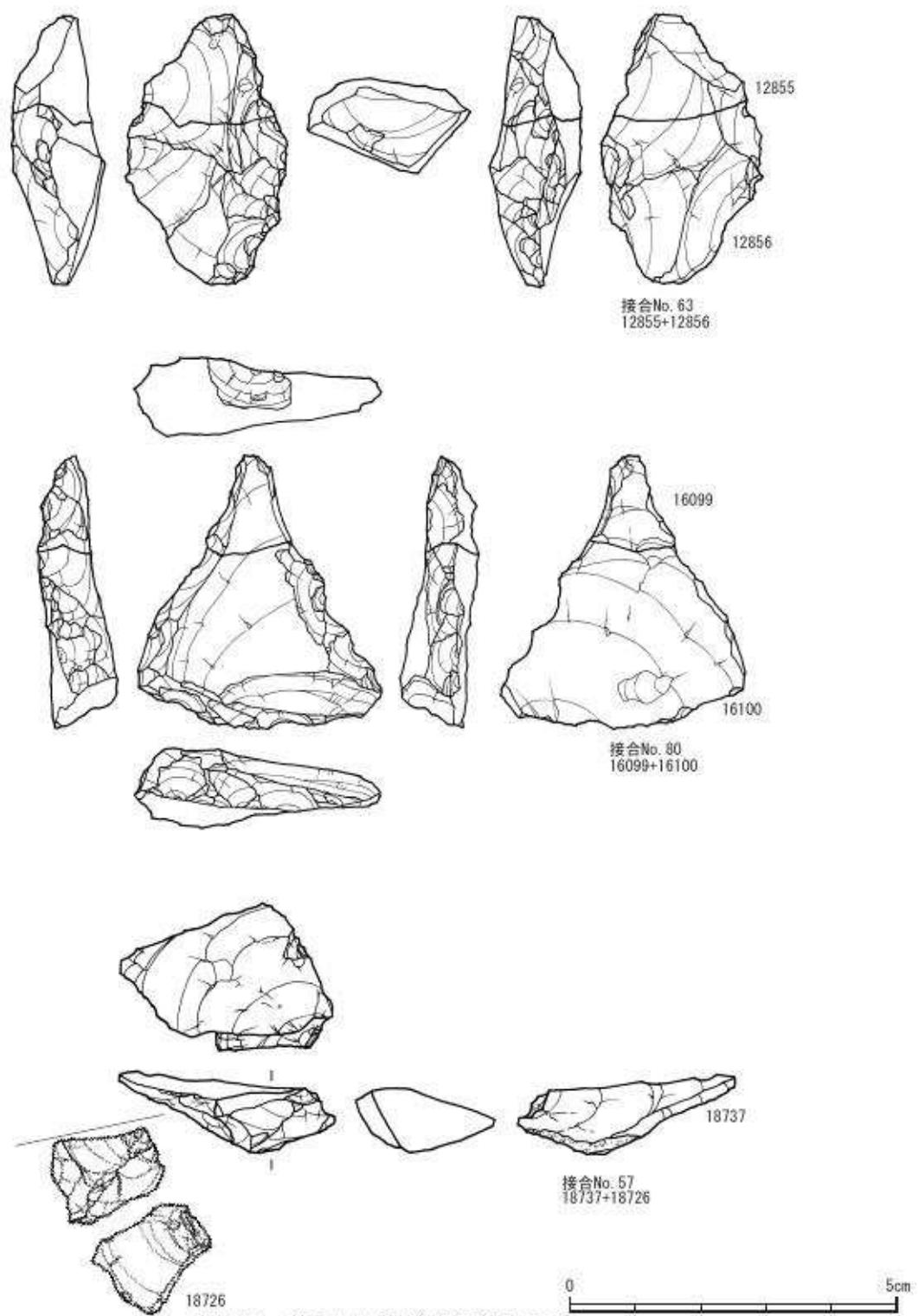
第Ⅰ類[第16エリア第60ブロック、ブロック外]

ナイフ形器とした(13886、第96号)とプランディングチップ(14159)の接合である。

ナイフ形器のを骨蔵に力撃し、若き頃の時に骨頭を作り出すとともに骨部の厚みを減少している。



第113図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(8)



第114図 第II文化層接合遺物実測図(9)

接着No. 59(第115号)

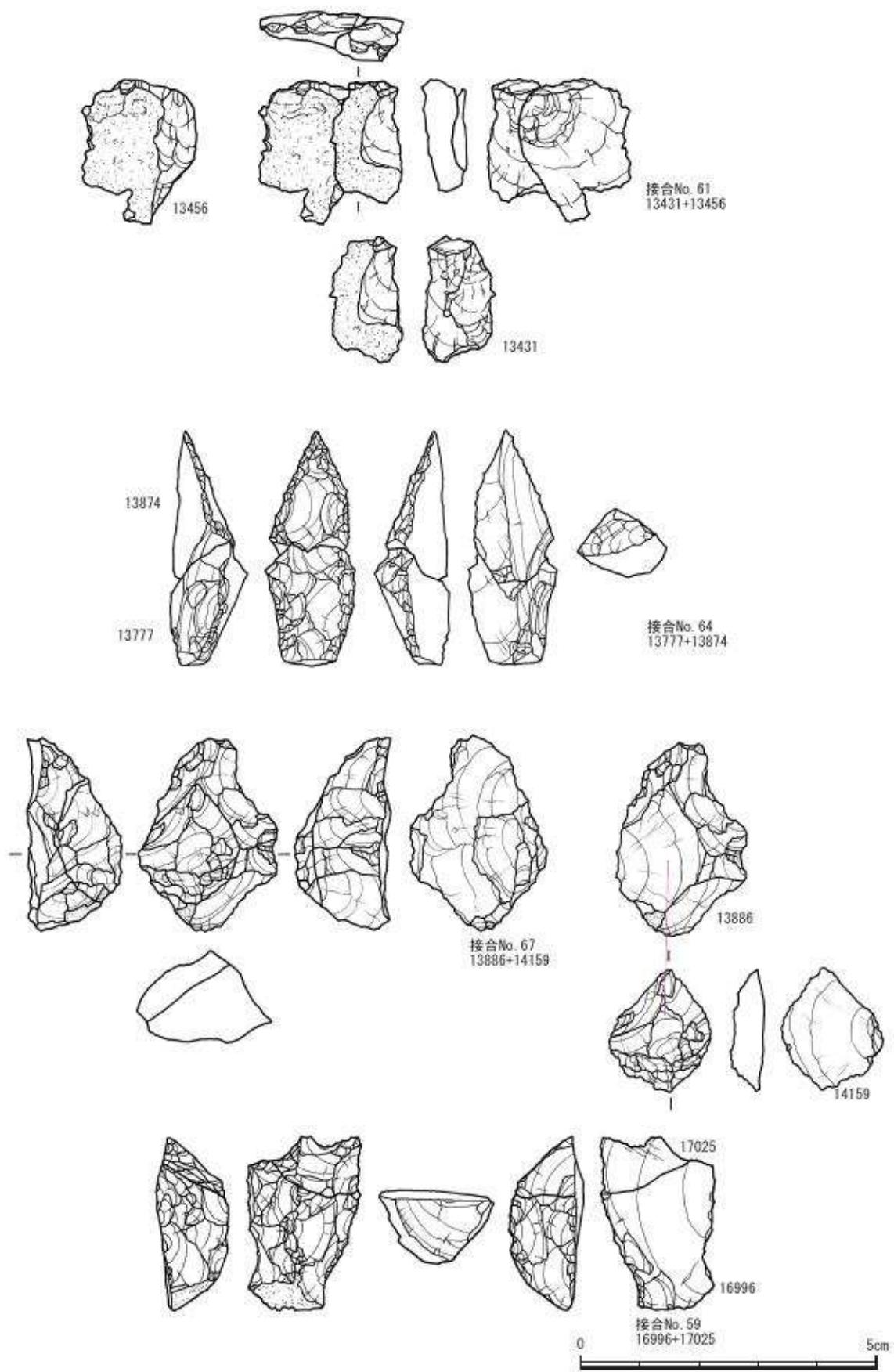
器あるいは壺形或ひ器の可能性もある。

Ⅱ-A領 [第17エリア第62ブロック]

三菱尖頭器の基部とした(16996, 第100号 0426)と二本
刃のある刃片(17025)の接着である。

接着復元の形状からは、三菱尖頭器とは認定しがたい。

刃部に2カ所の深いまき痕が付わることから、珠玉



第115図 第Ⅱ文化層接合遺物実測図(10)

第3章 第III文化層の調査

1 調査の方法と概要

第III文化層は、発堀遺跡においてXII層としてあり上げた遺構、遺物を主体に構成する。

ただし、XII層目に遺物のうちXIII層の浮き上がりと判断した遺物は第II文化層でありやったので、結果的に第III文化層は、他の層の遺物集団とはさながらに複数のXII層内の遺物集団群を形成することになる。

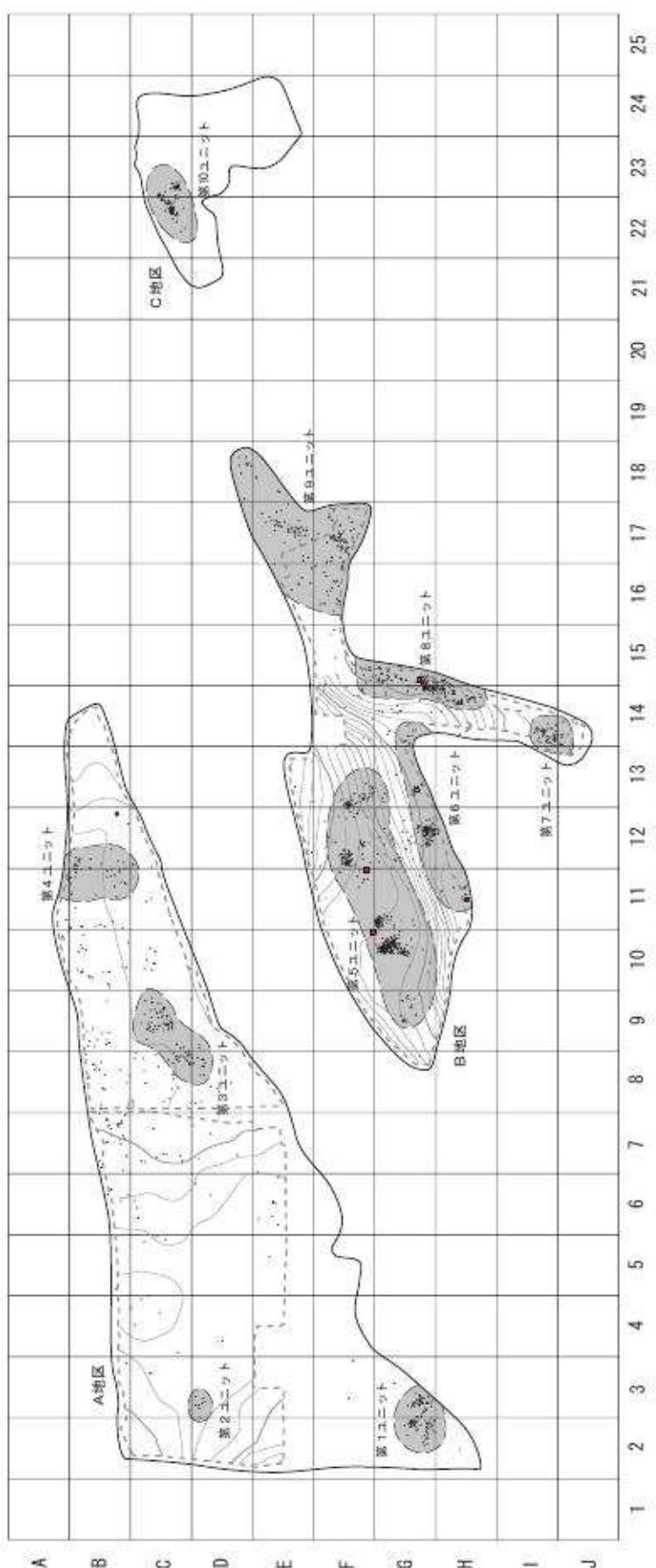
遺物分布の傾向は、A地区においては、一般的広い範囲に分散して点在する傾向を示す。ブロック認定においては、ノット的遺物が集団するまとまりをブロックとして抽出し、それぞれ複数箇所でエリア設定およびユニット設定を行った。A地区においては、第1ユニットから第4ユニットを認定した。

一方、B地区は、主に怎様類の傍岩山をもち、重複に階段状に傾斜しながら堆積を形成する地形であり、遺物集団はスポット的なまとまりを示しながら広い範囲に点在する。

遺物集団についてはブロック認定後エリア設定を行い、地形を考慮しながら第5ユニットから第9ユニットまでを設定した。

なお、B地区第6ユニット、第7ユニット、第8ユニットについては、遺物分布が調査区域全体へ廣範する可能性が高い。

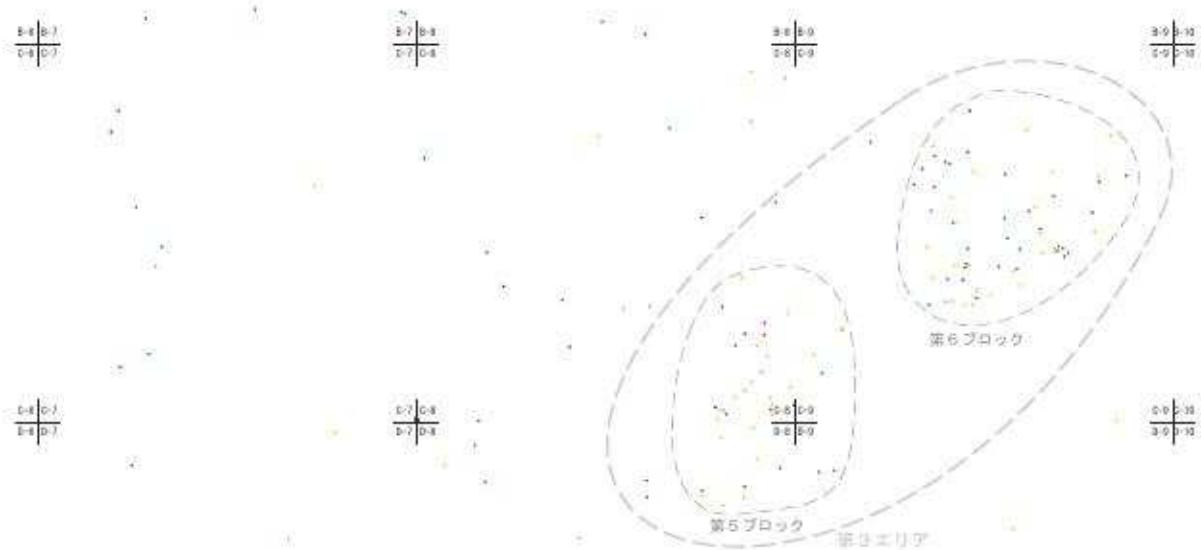
C地区は、最も早くで確認された遺物集団で、C,D-22,23等にあり第10ユニットを形成する。調査範囲が限られているため詳しい状況は分からぬが、調査区域においては複数のブロックが確認できる。



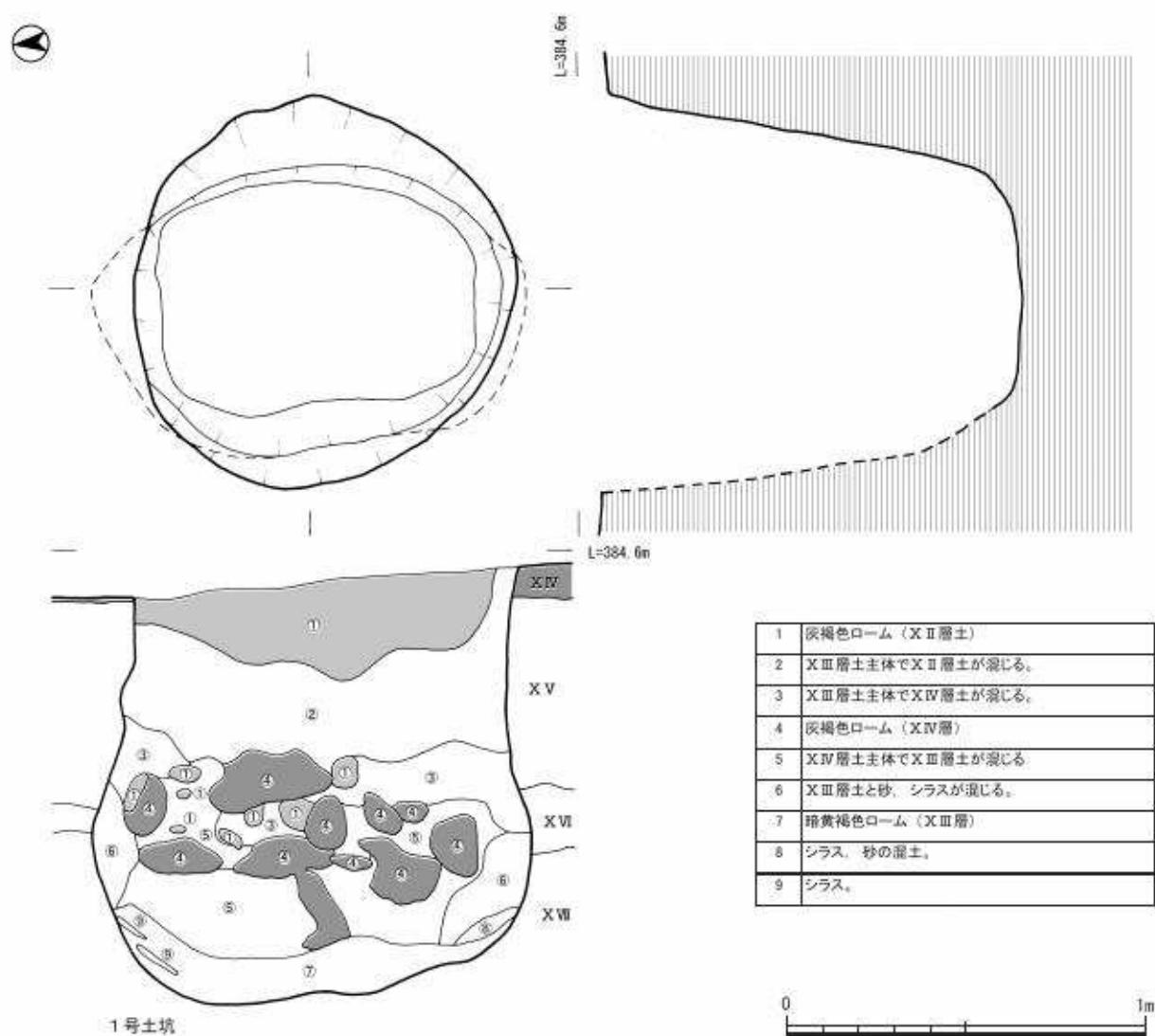
第116図 第III文化層ユニット配置図及び遺構位置図



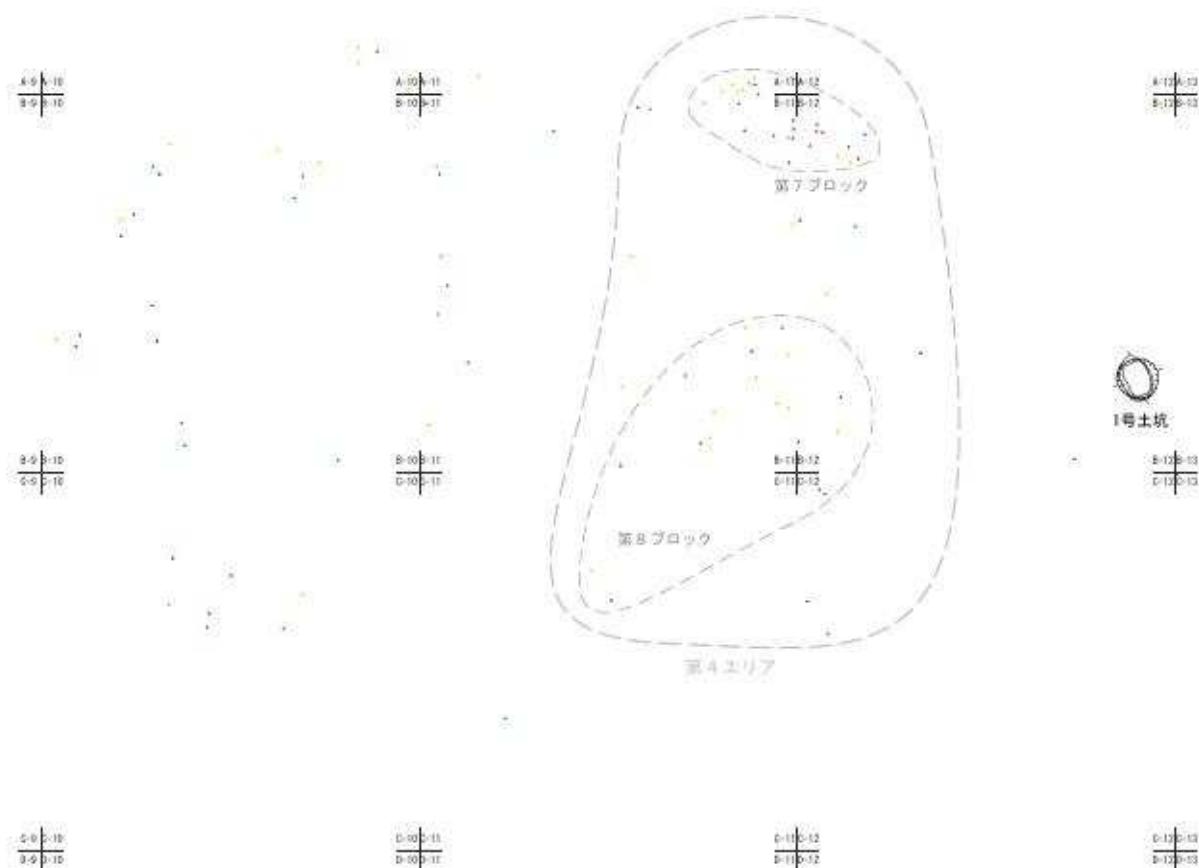
第117図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)



第118図 第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)



第119図 第III文化層遺構実測図(1)



第120図 第III文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(3)

2 進展

土爭

第IIIやIV層(XII層)ではB-12まで1本、土争を検出した。A-14を除くの怎候気を奪で検出され、唐手からの追跡はほとんどみられなかった。

1号土争(第119回)

B-12まで、XIV層ではほぼL形の土争プランをした後1.12m、検出から深さ1.24mを費す土争を検出した。堀り込みは成作井によると思われる砂礫層を堀り抜きシラスまで達している。堀り込み壁手部はXVI層、XV層付近でやや崩壊し、袋状を呈している。

退居土の壁には、床面直上に略差場合ロームすなわち、木退跡XIII層(7)が先行し、その上位にXIV層土争にXIII層が混じる(5)の流しつぶ積が確認される。次に、土争の上位には、XIV層の土争(4)とXII層の土争(1)が堆積し、その後、(3)、(2)が流し、最終層の(1)が流すすることとなる。

この土争で注目されるのが、土争の上位にある土堆積(ブロック、20~30cm)である。土堆の残存状況からは、土争の堀りつけ作業で堀り出された土争が、ゆらかの隙間でヨリヨリ土争の内孔部の一色を充満したと想えることもできる。また、(7)、(5)の土争が先行し堆積し、その後、

土争が堆積することから、堀りつけ作業と土堆の充填の間に、(7)、(5)が流すだけの時間差が生じることとなる。しかし、(1)、(4)の土堆が堆積土に近い状態にあることから推測すると、その間は短期間であったと考えざるを得ない。

土争製作時期については、検出までの最終辺土がXII層の灰褐色であることから、XII層に限りなく近いと判断している。

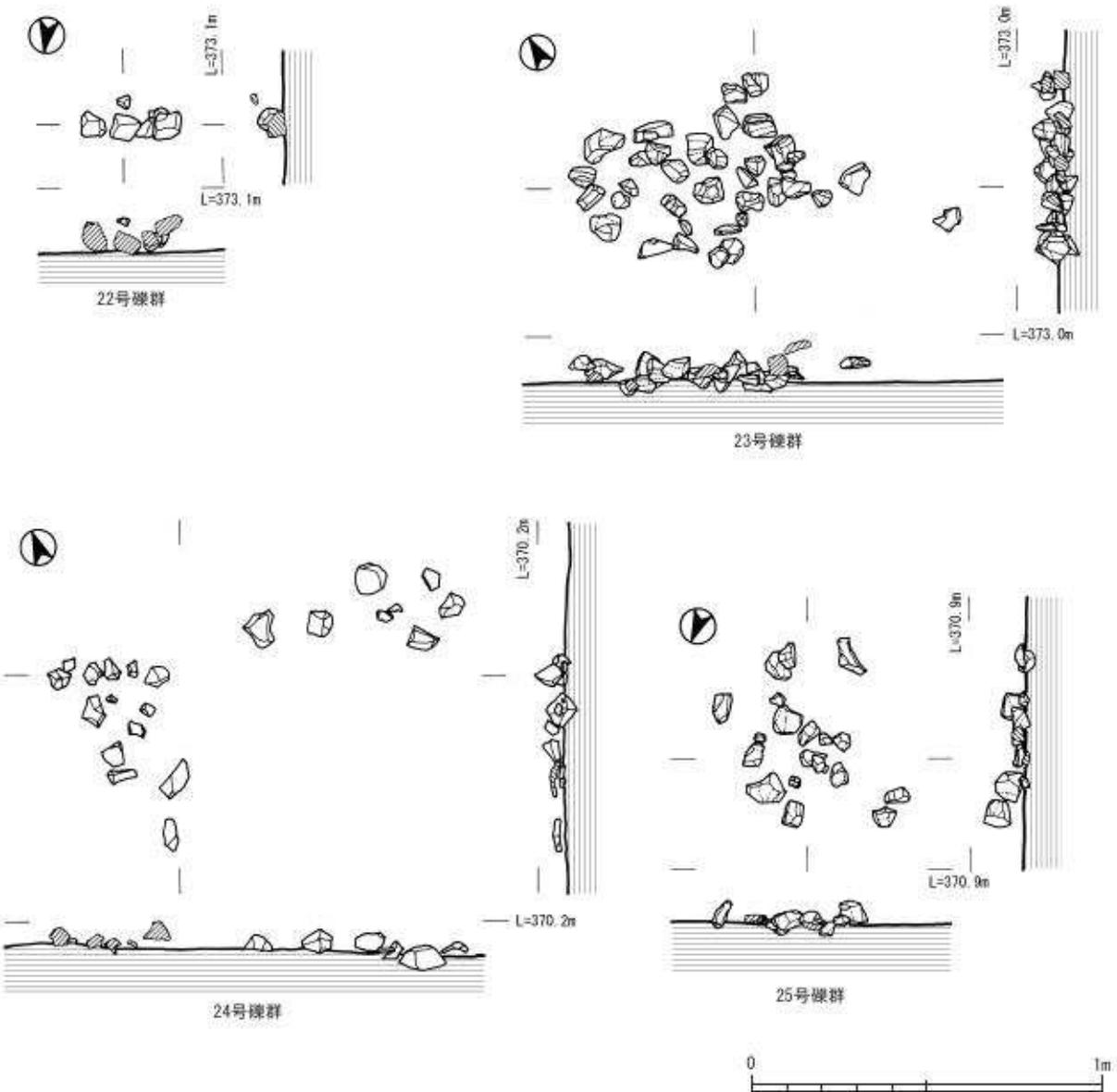
土争の性格を判断するため、辺土の地質学的性質分析とリン分析を行った。リン酸については検出できなかった。当該地盤では、土争底部付近、最上位の褐色からススキ底付近で電離酸性が認められ、底部付近にはススキ底の地質遺伝が多く存在した可能性が増加されている。

土争の可能性としては、落しづた、貯蔵穴、墓穴等が考えられる。土争の性格を判断する上で最も課題となるのが、土堆の存在である。この土堆が、通行的あるいは自然崩落的に退居の土程を充満したとしても、その行為は、退居場所後の早い段階であったはずである。

詳記な土堆状況は(第119回)に示した。

磚様

第IIIやIV層(XII層)では4本の窓檻を検出した。退居はB-12までにのみ分布し、それぞれが10~30cmの間隔を



第121図 第Ⅲ文化層遺構実測図(2)

もって配布する。岩段に怎様が呼ぶる「サコモ」の部分にあたる部分に2点と、そこからやや東側に立った部分に1点、離れてその東側に1点を検出した。

22号櫛群(第121図)

F-10で検出した。サコモ系の櫛を使出し、小型の櫛が多い。櫛形状は芦葉である。櫛は板熱によりくびれしている。

(櫛群Ⅰ類)

23号櫛群(第121図)

F-11で検出した。砂岩を使出し、サコモが混ざる。サ型の櫛が多く、多くは熱破壊している。少数ほどの櫛は板熱によりくびれしている。

(櫛群Ⅱ類)

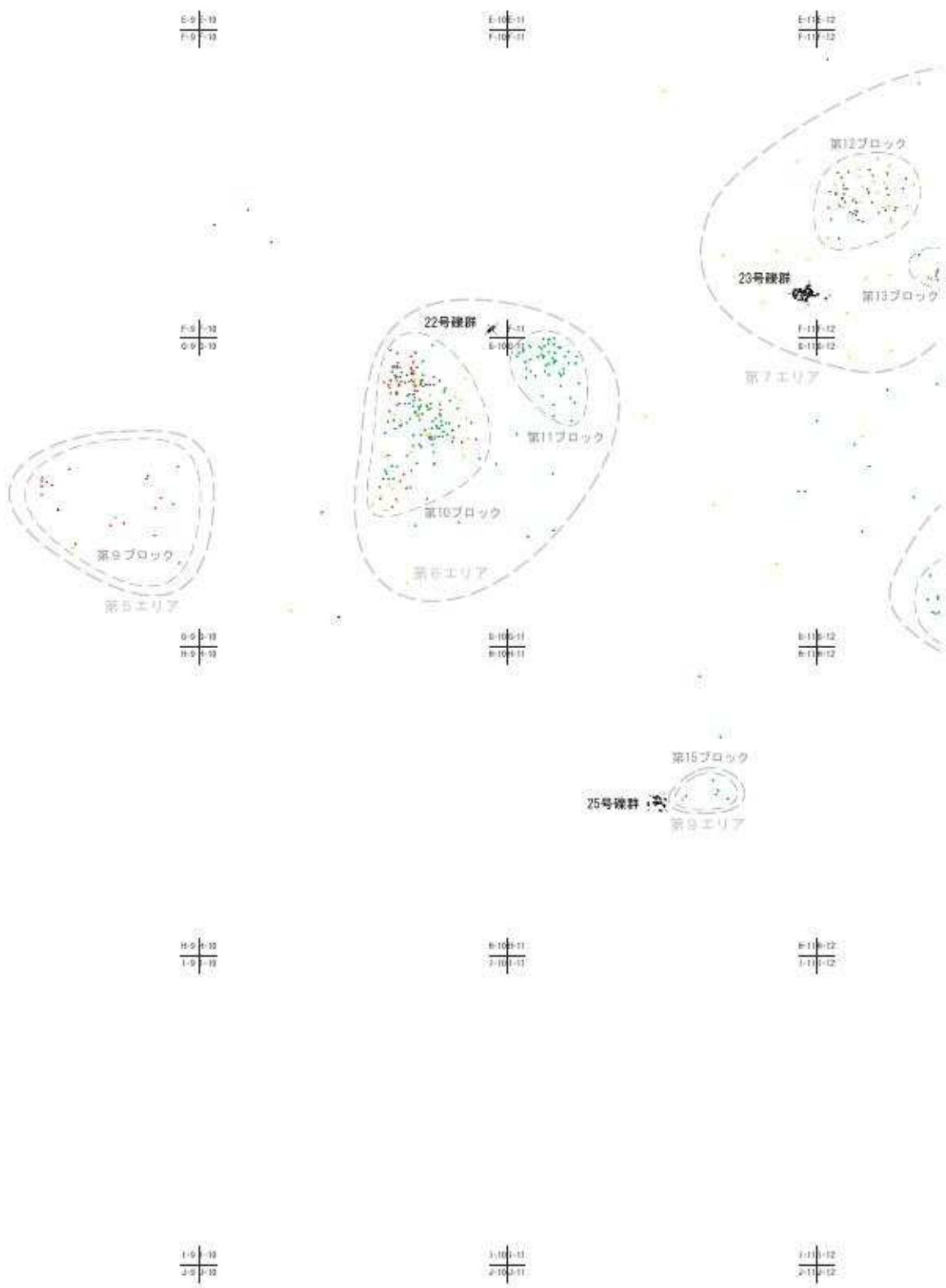
24号櫛群(第121図)

G-15で検出した。サコモとサ型の砂岩を使出す。小型の櫛があり、サ型の櫛が残存りにやや分布を呈する。わずかに板熱によるくびれがみられる。(櫛群Ⅲ類)

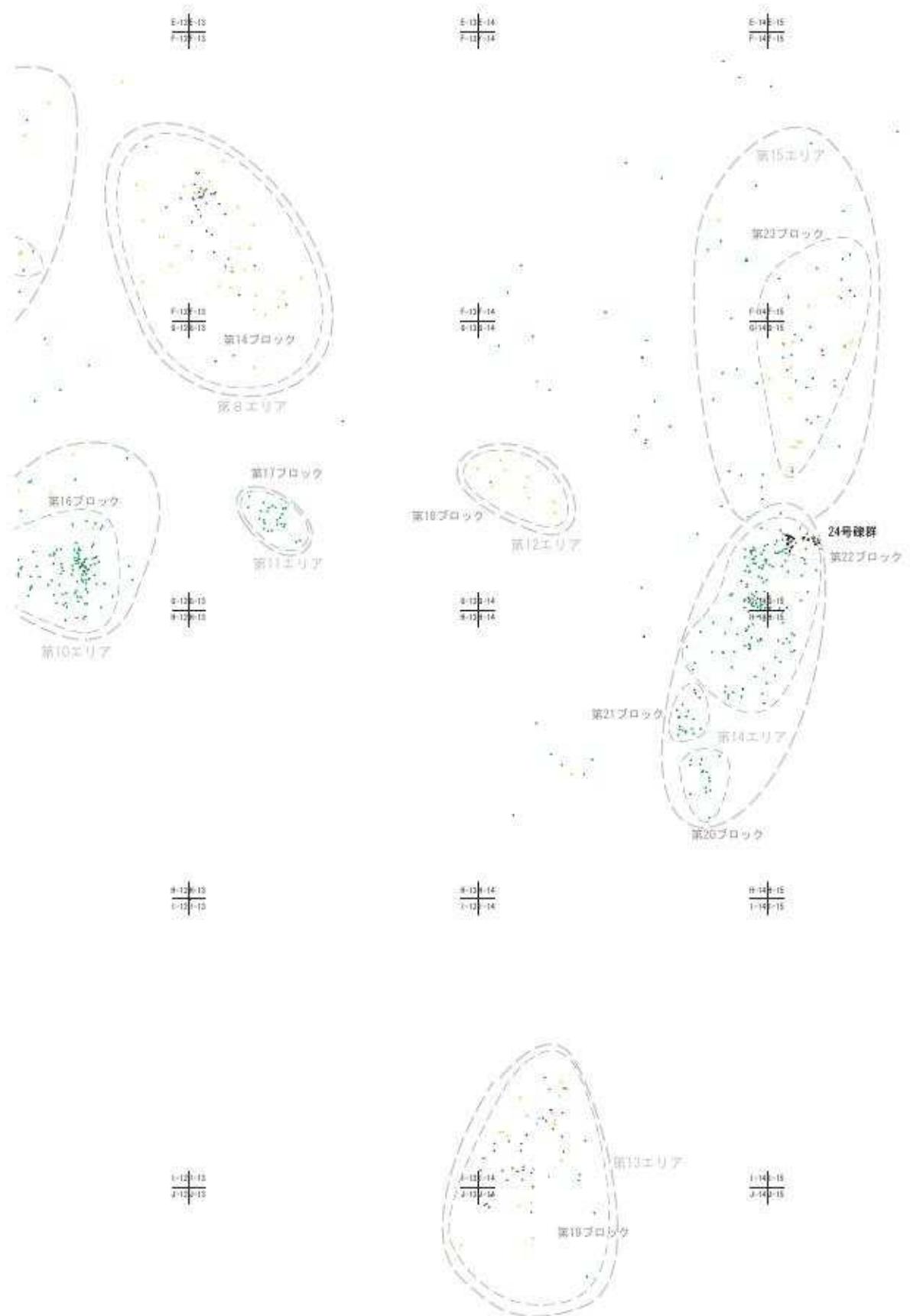
25号櫛群(第121図)

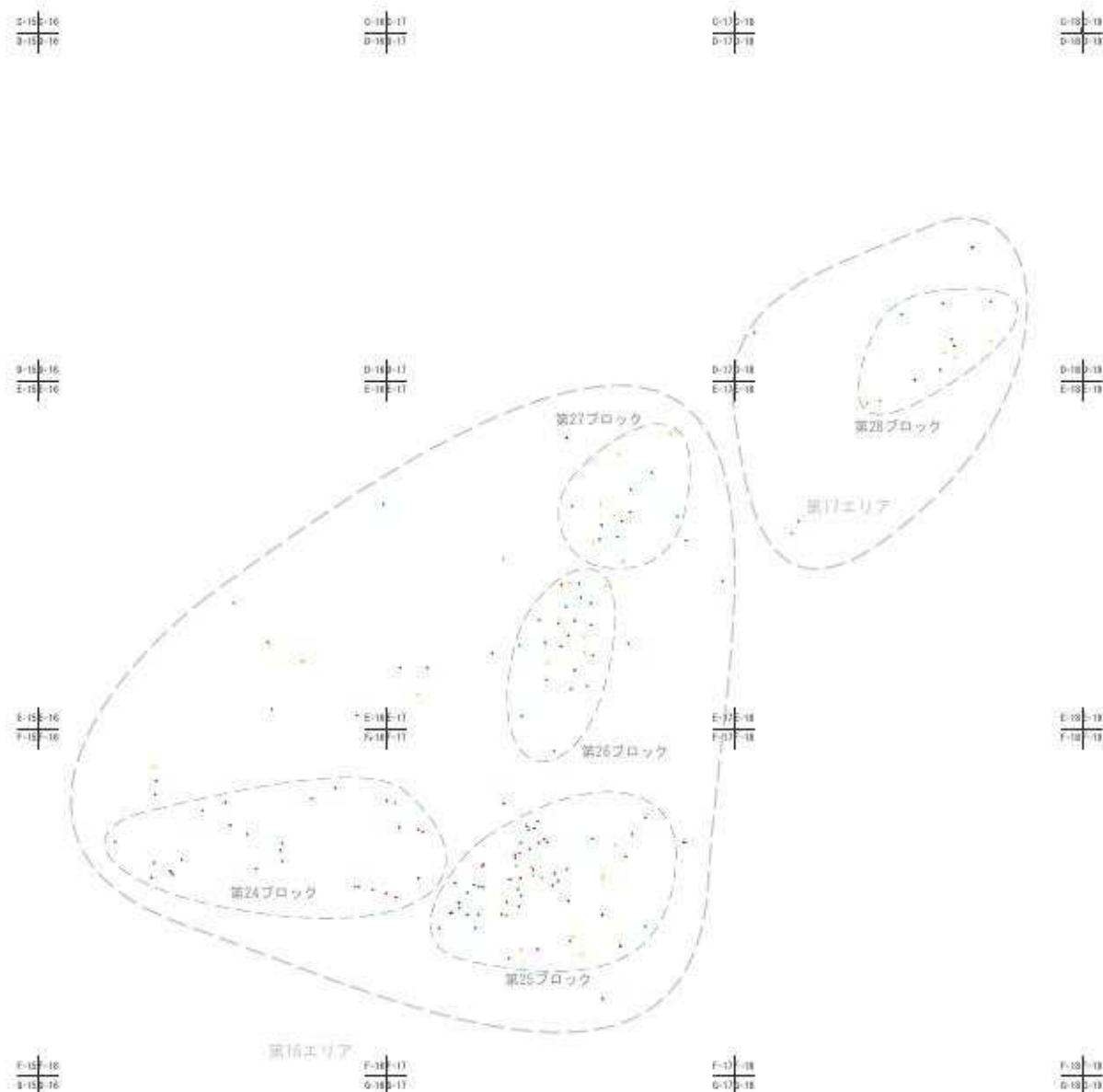
H-11で検出した。サコモを使出し、サコモが混ざる。小型の櫛が多い。櫛形状は芦葉であるが摩滅している。一部の櫛は板熱によりくびれがみられ、熱破壊しているものもみられる。

(櫛群Ⅲ類)



第122図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(4)

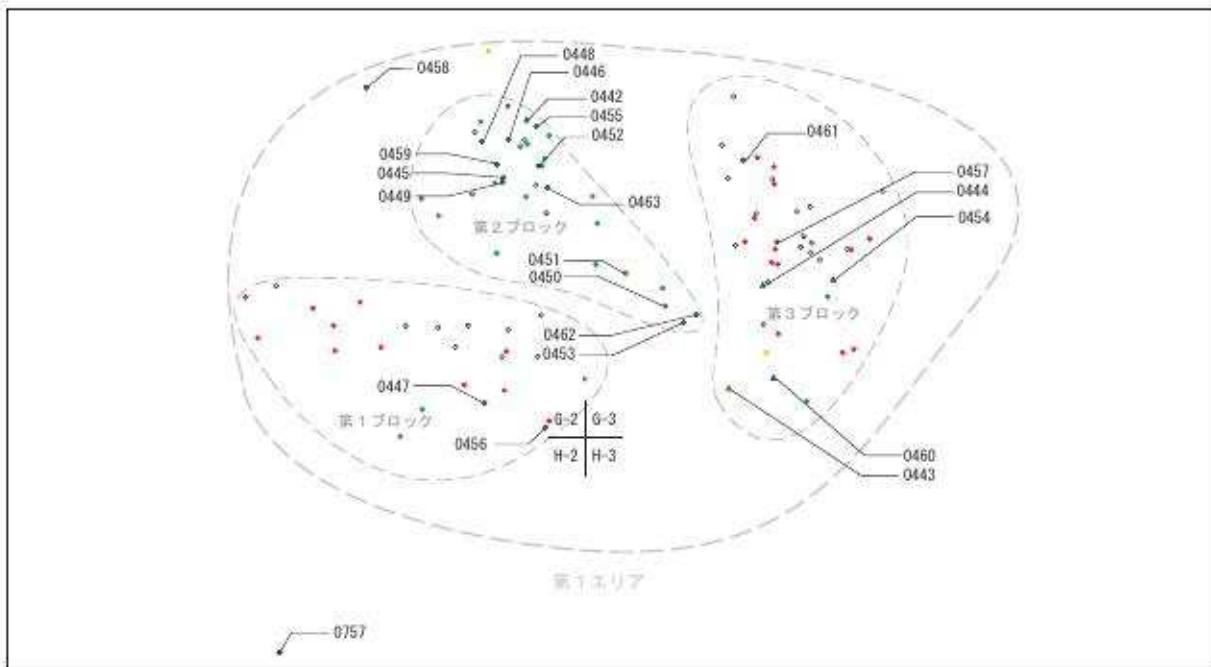




第123図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(5)



第124図 第Ⅲ文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(6)



第125図 第III文化層第1ユニット第1エリア遺物出土状況図

3 遺物

第1ユニット

第1エリアを第1ユニットと認定した。

第1エリア(第125図、第126~128図)

G-2, 3に分布するものを、第1エリアとし、さらに、遺物の集積状況から3つのブロックに区分し、第1ブロック、第2ブロック、第3ブロックとした。

第1ブロックは黒褐色II-A類を主体に数点の黄褐色、第2ブロックは黄褐色を主体とする、ギョクズイ、第3ブロックは黒褐色II-A類とギョクズイ、黄褐色で構成する。

器種は、ナイフ形器3点(0442, 0443, 0444)、楔形器1点(0454)、スクレイバー1点(0460)の他、微細鉈痕のある刃片(0462, 0463)と刃片が確認できる。

0442のナイフ形器は、小型の下定型刃片の黄褐色に鉈痕を有し、先端部は尖り、刃片の形状を大きく変えていない。0443は刃片状の形状を持つナイフ形器で、先端部は下傾するが黄褐色はやや黄からやや青な鉈痕

しがれがみられる。0444も同様で、特に黄褐色は黄褐色からのやや青な鉈痕が認められ、刃部の一部を下くが鋭い刃先を持つ。

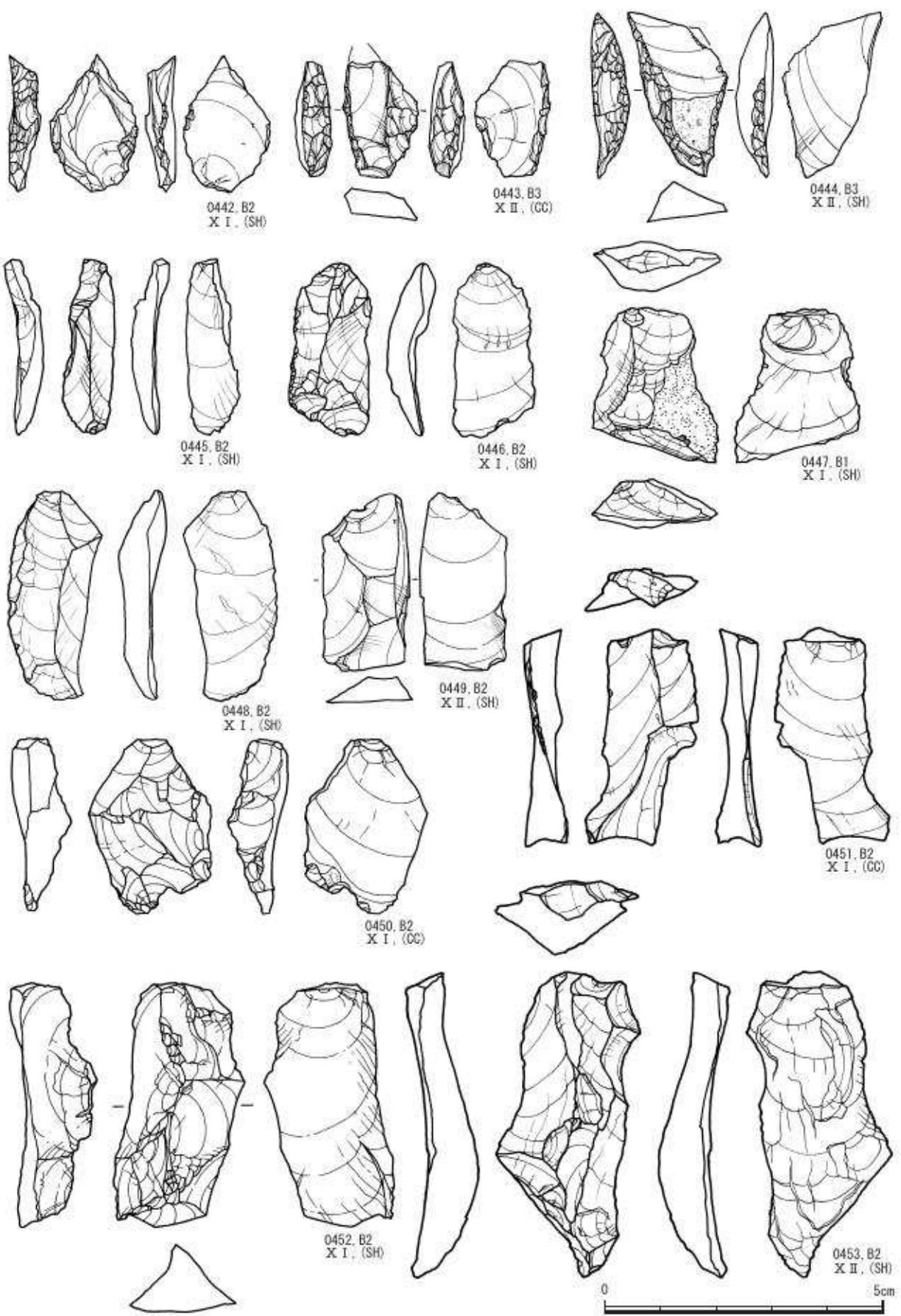
0463は刃端部に鉈痕を残す刃片に微細鉈痕が認められる。刃片は多形で、縦長刃片と不定形横長刃片が併存した感がある。0452は、多点鉈痕の刃部の鉈型刃片の可能性がある。

楔形器とした0454は、刃部に整形鉈痕が数点有される。

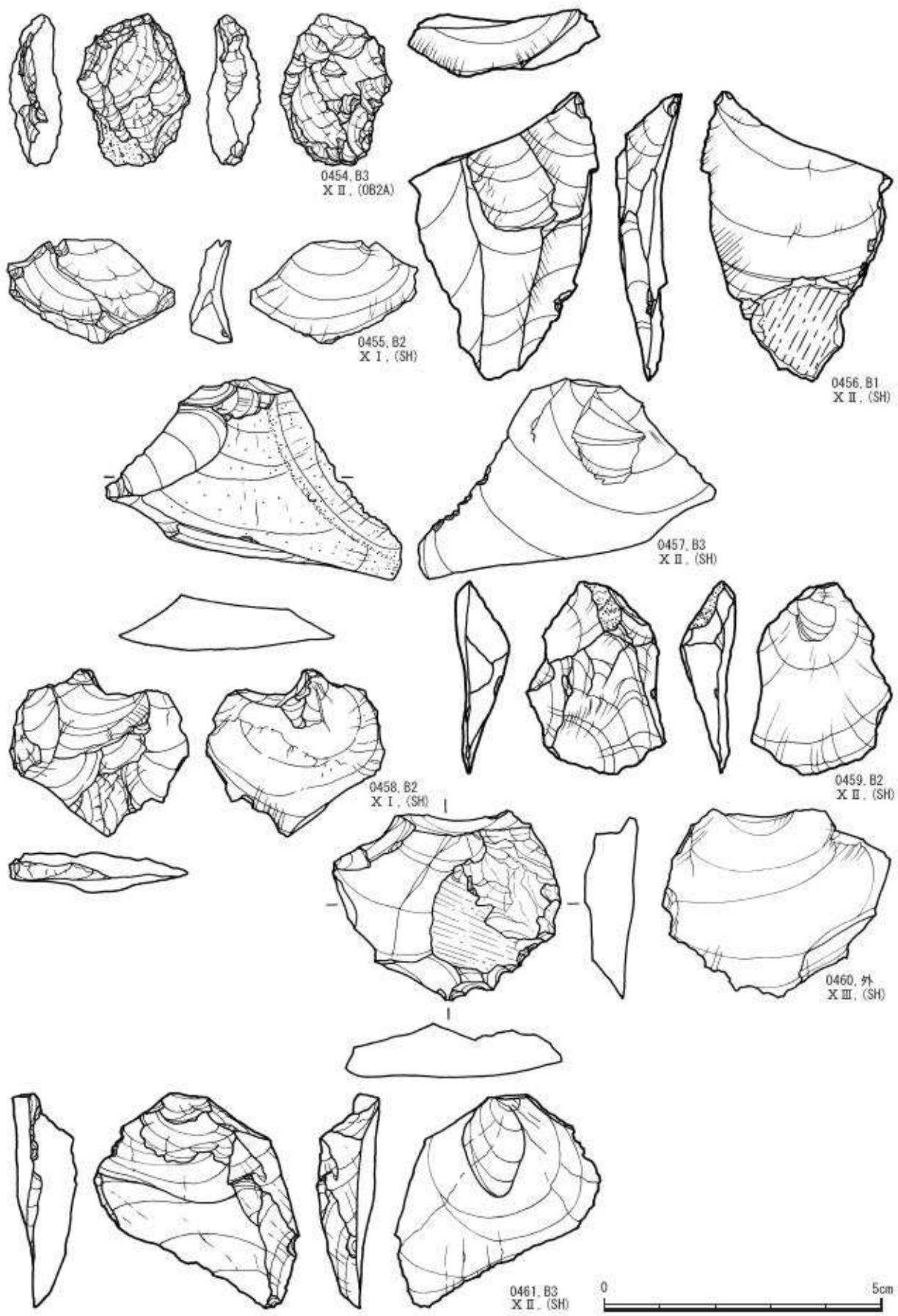
0460のスクレイバーは、刃片全体から左側に單刃状の刃部が残される。

0462と0463の刃端部には微細な鉈痕が認められる。ナイフ形器の構成で、刃片の形状からは多形な刃片の鉈技術の存在がうかがえる。

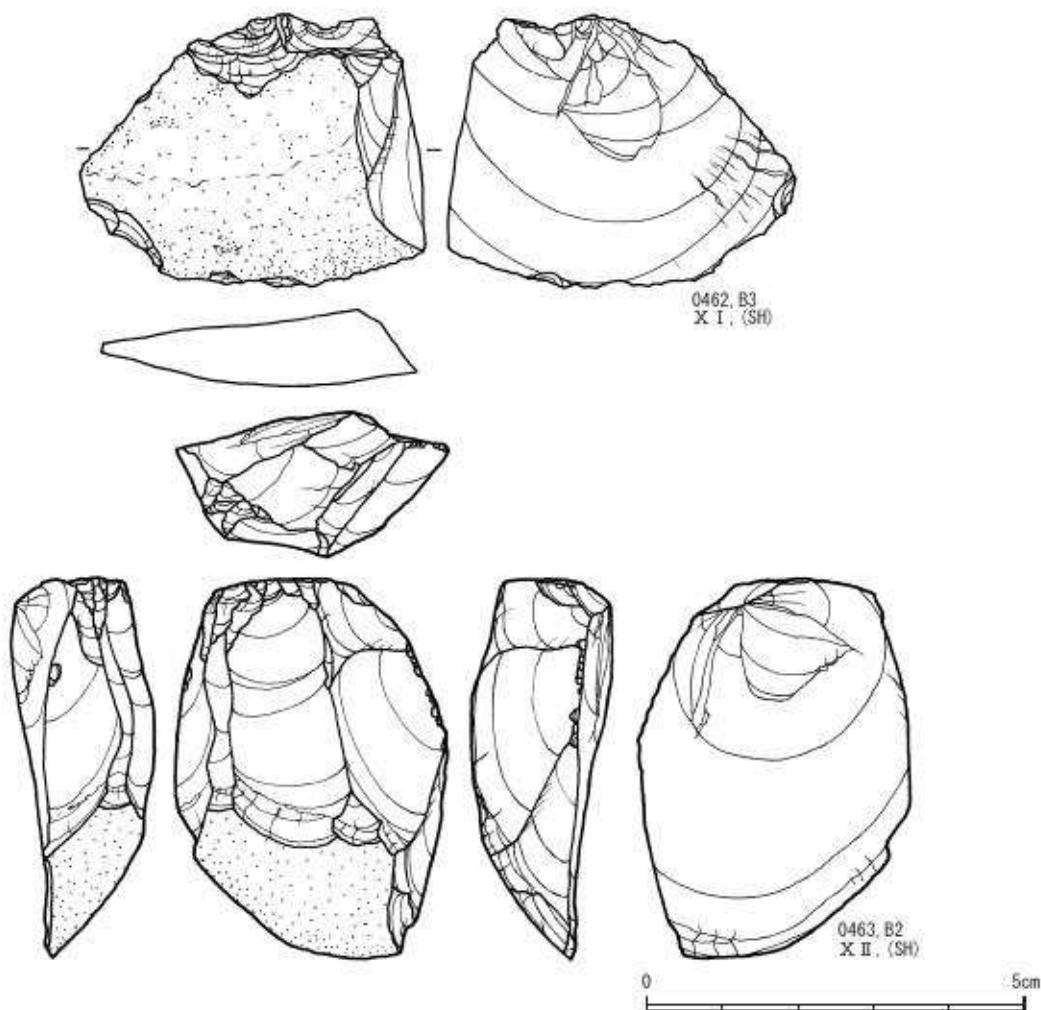
0445, 0448, 0463の3点はほぼ同時期、複合することが想定している。



第126図 第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(1)



第127図 第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(2)



第128図 第III文化層第1ユニット第1エリア出土石器実測図(3)

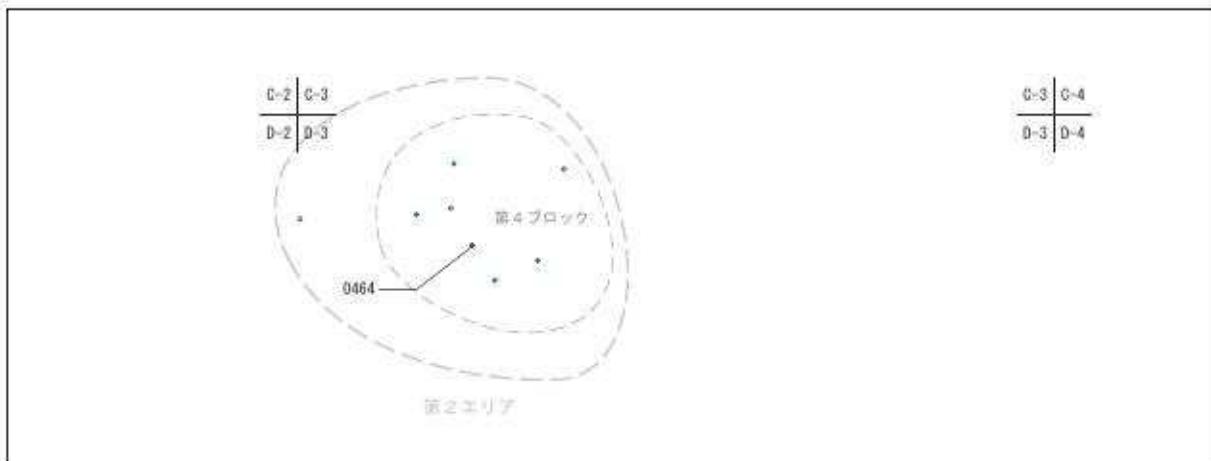
第2ユニット

第2エリアを第2ユニットと認定した。

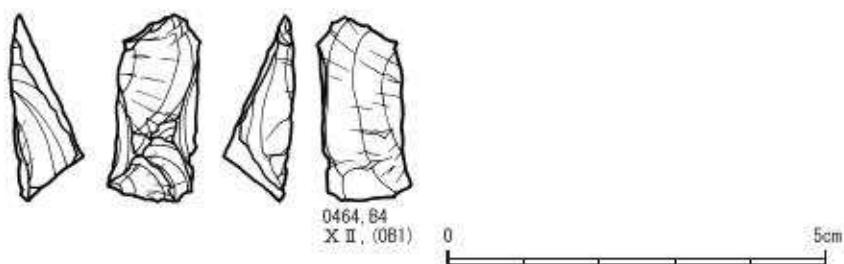
第2エリア(第129図、第130図)

D-3空に集りし、黒褐色I類を用いた5点の遺物が確認できる。

0464の1点を示した。下述形質片の頂部と端部を切断している。



第129図 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア遺物出土状況図



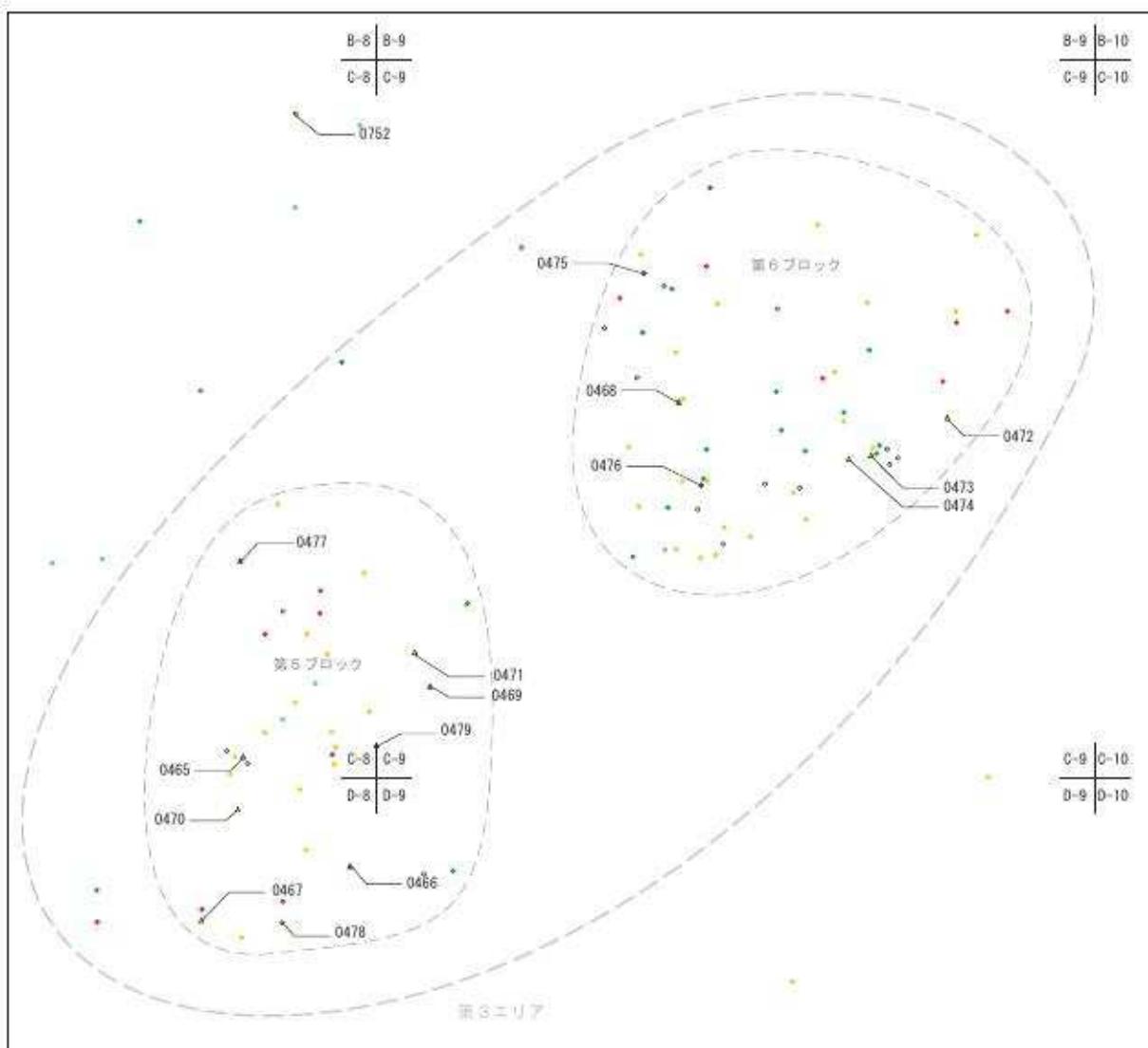
第130図 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器実測図

第31表 第Ⅲ文化層第1ユニット第1エリア出土石器観察表

擲図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層 ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 番号	接合 No	
126	0442	石器	ナイフ形石器	-	III	U1	A1	B2	SH	-	24.5	15.9	5.5	1.61	15526	X I	G-2	-
	0443	石器	ナイフ形石器	-	III	U1	A1	B3	CC	-	(21.0)	(13.7)	(5.8)	(1.64)	15652	X II	G-3	-
	0444	石器	ナイフ形石器	-	III	U1	A1	B3	SH	-	29.5	18.0	7.0	2.10	15615	X II	G-3	-
	0445	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	31.3	9.7	7.1	1.16	15551	X I	G-2	-
	0446	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	30.9	15.1	8.5	2.40	15533	X I	G-2	124
	0447	剥片	-	-	III	U1	A1	B1	SH	-	27.8	22.7	9.0	3.48	15585	X I	G-2	-
	0448	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	37.6	17.0	9.0	3.37	15537	X I	G-2	124
	0449	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	31.6	15.8	4.2	2.72	15553	X II	G-2	-
	0450	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	CC	-	31.3	22.2	11.2	5.07	15649	X I	G-3	-
	0451	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	CC	-	38.9	20.5	8.2	2.93	15646	X I	G-3	-
	0452	剥片	調整剥片	-	III	U1	A1	B2	SH	-	43.8	23.8	15.9	10.67	15593	X I	G-2	-
127	0453	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	54.7	26.1	13.0	7.68	15651	X II	G-3	-
	0454	石器	楔形石器	-	III	U1	A1	B3	OB2	A	27.5	20.5	10.0	4.82	15629	X II	G-3	-
	0455	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	18.6	30.3	8.0	2.34	15524	X I	G-2	-
	0456	剥片	折断剥片	-	III	U1	A1	B1	SH	-	51.9	34.2	12.0	11.46	15589	X II	G-2	-
	0457	剥片	-	-	III	U1	A1	B3	SH	-	36.5	53.3	11.0	15.58	15635	X II	G-3	-
	0458	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	30.1	32.4	7.5	5.27	15543	X I	G-2	-
	0459	剥片	-	-	III	U1	A1	B2	SH	-	34.7	25.4	10.1	5.97	15654	X II	G-2	125
	0460	石器	スクレイバー	-	III	U1	A1	外	SH	-	34.3	41.2	10.0	12.26	15621	X III	G-3	123
128	0461	剥片	-	-	III	U1	A1	B3	SH	-	38.7	37.1	11.5	9.46	15605	X II	G-3	-
	0462	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U1	A1	B3	SH	-	36.2	45.9	11.5	18.75	15650	X I	G-3	-
	0463	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U1	A1	B2	SH	-	50.2	36.3	19.0	34.10	15655	X II	G-2	124

第32表 第Ⅲ文化層第2ユニット第2エリア出土石器観察表

擲図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層 ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 番号	接合 No	
130	0464	剥片	-	-	III	U2	A2	B4	OB1	-	24.8	12.6	9.5	2.08	23190	X II	D-3	-



第131図 第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア遺物出土状況図

第3ユニット

第3エリア(第131図、第132、133図)

C-D-8号からC-9号に張り出し、第5ブロックと第6ブロックを形成する。

第5ブロック、第6ブロックともにギョクズイを主に、²Ⅱ-A類、³Ⅲ類、⁴Ⅴ類が混じる形で構成する。

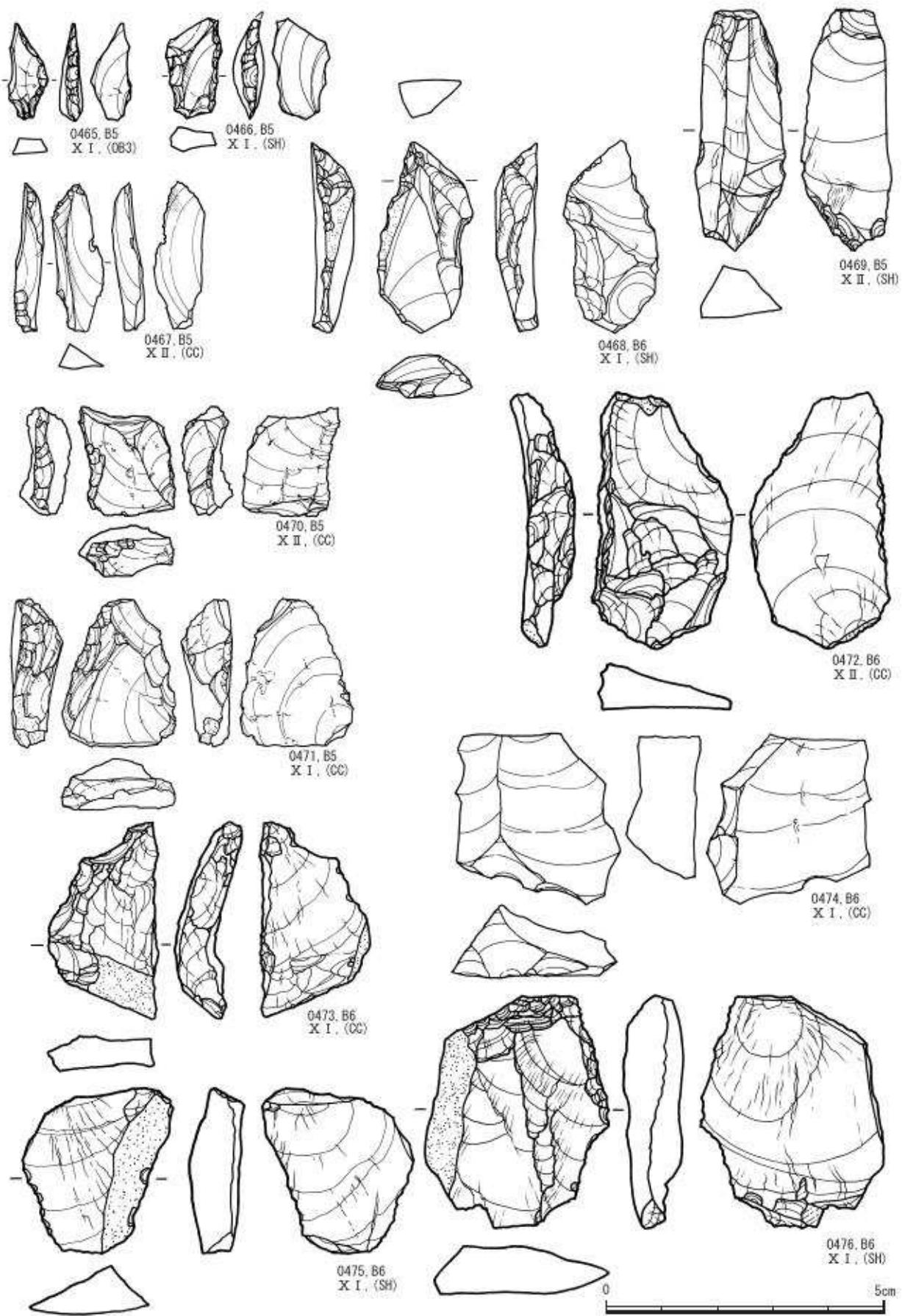
器種は、ナイフ形器5点(0465～0468、0472)、²次切のある刃片5点(0469～0471、0473、0477)と微細刃片のある刃片(0476)と刃片を確認している。

ナイフ形器の0465は小型横長刃片の刃部をア渡しした²鋸歯刃²、0466は市販品と並んでア渡しした刃²形、0467はトサ形刃片の一部にア渡しした部分²、0468はア渡しに窄なア渡し部分²が集まる部分²で、市販品は刃部に調整刃部が付けられ、ア部は鉋刃に残る。0472もア渡し部分²はア渡しに集まる。したがって、赤刃片を刃部に和田していると言える。

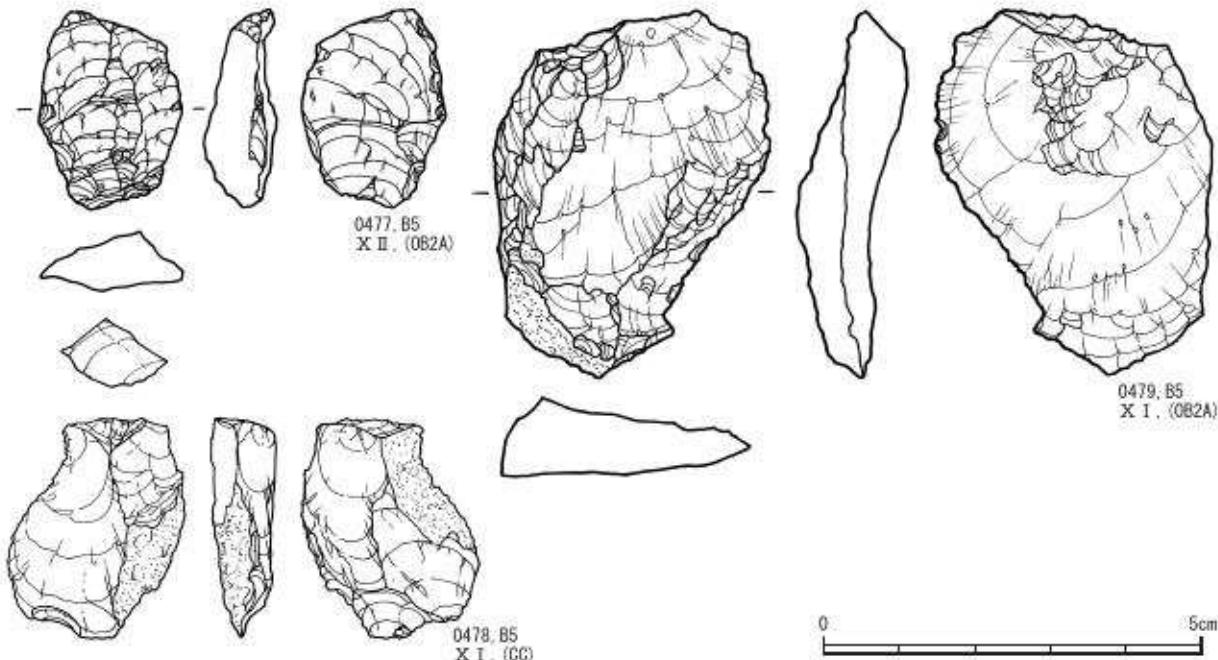
ニホリ²のある刃片の0470は単器体、0471は尖頭状器あるいはナイフ形器のぶ部が想定される。

0476はも市販品に微細な刃部が確認できる。

ナイフ形器の形状から、小型²と赤刃片の2つみな使い方が想定される。



第132図 第Ⅲ文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(1)



第133図 第III文化層第3ユニット第3エリア出土石器実測図(2)

第4ユニット

第4エリアを第4ユニットと認定した。

0483は折断刃片に微細な剥離痕が認められる。

0486の縦長刃片は、直刃部打凸部核から取り出されている。

ここでも、ナイフ形石器の小型化の傾向が指摘できる。

第4エリア(第134図、第135図)

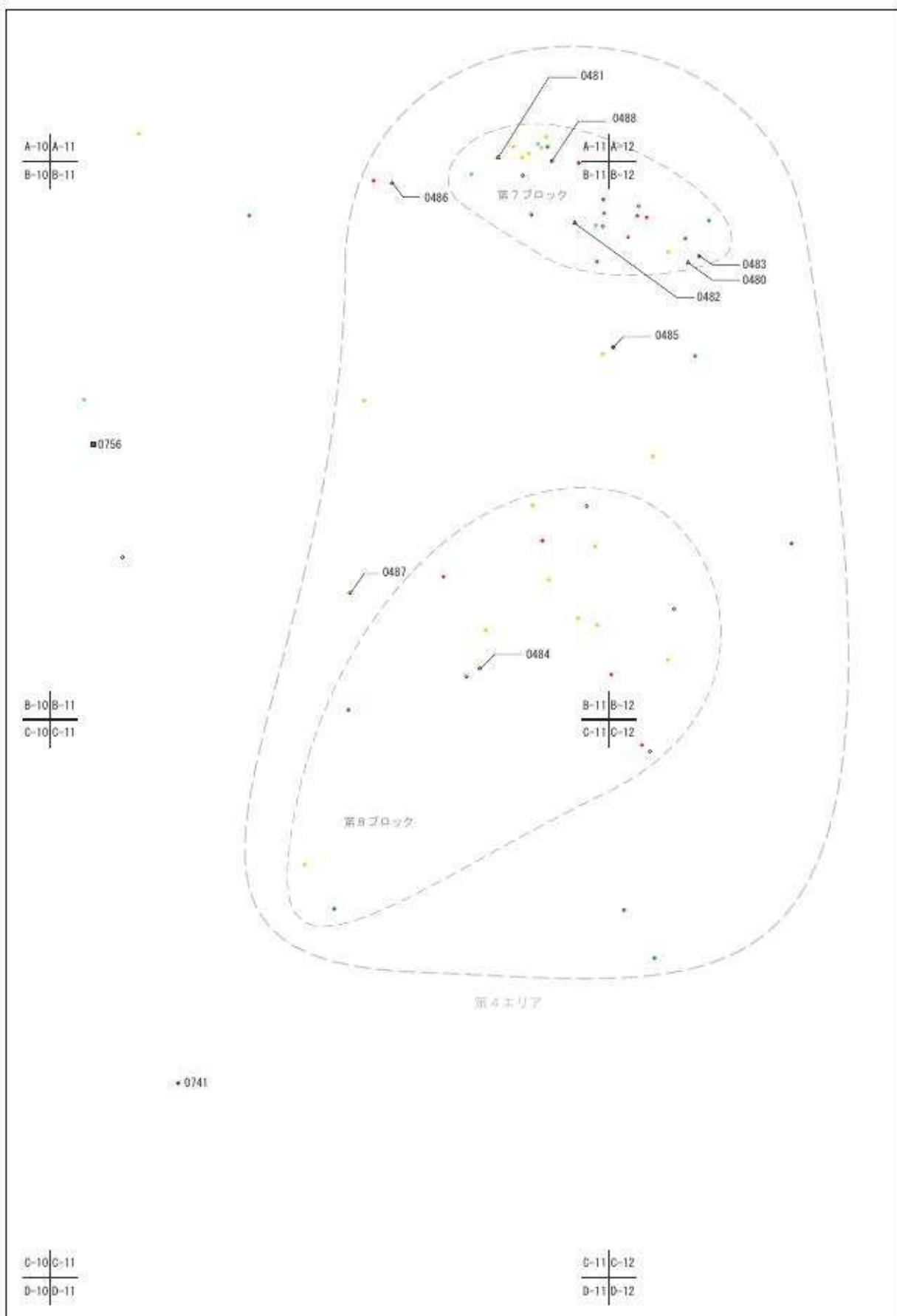
B-11, 12を1つとし、第7ブロックと第8ブロックを形成する。第7ブロックはギョクズイを主体にもち、黒曜石II-A種、黒曜石II-C種があり、第8ブロックはギョクズイに少数の黒曜石II-A種若が混在する構成がみられる。

ナイフ形石器3点(0480～0482)と刃片、微細剥離痕のある刃片(0483)がある。

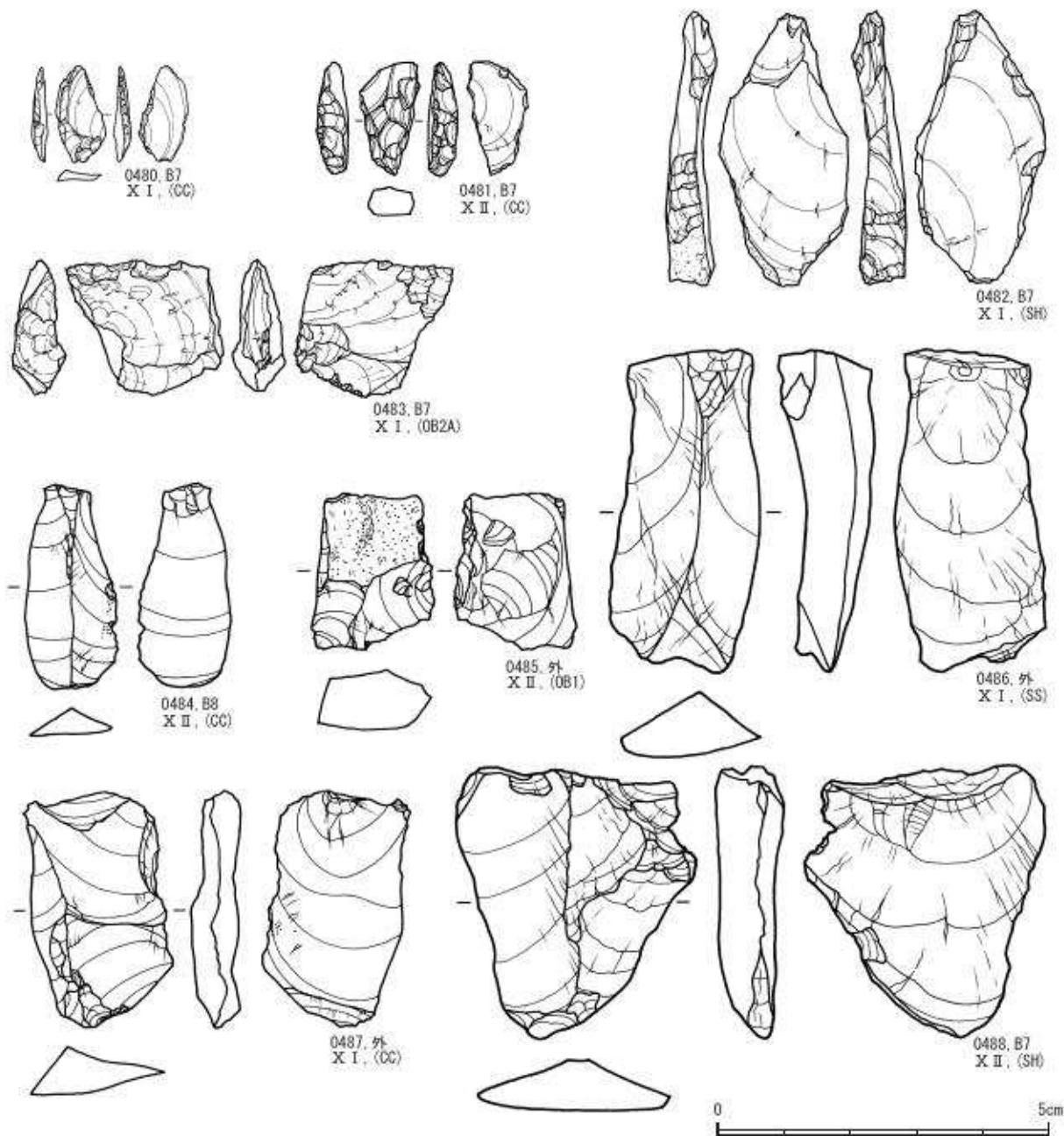
ナイフ形石器の0480は横刃ぎの小型刃片の刃先側の一部にアラシ加工を施し、0481は刃先側にアラシ加工を持つ小型の切削形、0482は横刃ぎ刃片を使刀し、刃先側と対する端部の一部にアラシ加工がみられる。

第33表 第III文化層第3ユニット第3エリア出土石器観察表

掲図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	U3	U7	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列番	接合 No
132	0465	石器	ナイフ形石器	-	III	U3	A3	B5	083	-	18	7.2	4.2	0.47	6475	X I	C-8	-
	0466	石器	ナイフ形石器	-	III	U3	A3	B5	SH	-	18.3	10.3	6.0	0.89	6481	X I	D-8	-
	0467	石器	ナイフ形石器	-	III	U3	A3	B5	CC	-	26.7	9.5	5.9	0.76	6487	X II	D-8	-
	0468	石器	ナイフ形石器	-	III	U3	A3	B6	SH	-	34.4	17.2	8.0	3.38	5984	X I	C-9	-
	0469	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	III	U3	A3	B5	SH	-	43.3	16.4	9.5	7.47	6211	X II	C-9	-
	0470	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	III	U3	A3	B5	CC	-	19.8	17.6	9.2	2.63	6478	X II	D-8	-
	0471	石器	二次加工痕のある剥片	尖頭状石器?	III	U3	A3	B5	CC	-	26.6	20.5	9.2	4.42	6210	X I	C-9	-
	0472	石器	ナイフ形石器	-	III	U3	A3	B6	CC	-	46.4	25.6	12.0	8.10	5961	X II	C-9	-
	0473	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U3	A3	B6	CC	-	35.6	20.1	12.2	5.28	5965	X I	C-9	-
	0474	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U3	A3	B6	CC	-	30.5	30	13.2	10.09	5973	X I	C-9	-
133	0475	剥片	-	-	III	U3	A3	B6	SH	-	30.0	27.3	10.1	5.56	5943	X I	C-9	-
	0476	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U3	A3	B6	SH	-	41.9	33.3	11.1	14.13	5991	X I	C-9	-
	0477	石器	二次加工痕のある剥片	ナイフ形石器?	III	U3	A3	B5	082	A	26.3	19.1	10.0	3.44	6450	X II	C-8	-
	0478	剥片	-	-	III	U3	A3	B5	CC	-	29.2	23.5	8.9	4.61	6482	X I	D-8	-
	0479	剥片	-	-	III	U3	A3	B5	082	A	48.6	36.8	15.0	14.80	6464	X I	C-8	-



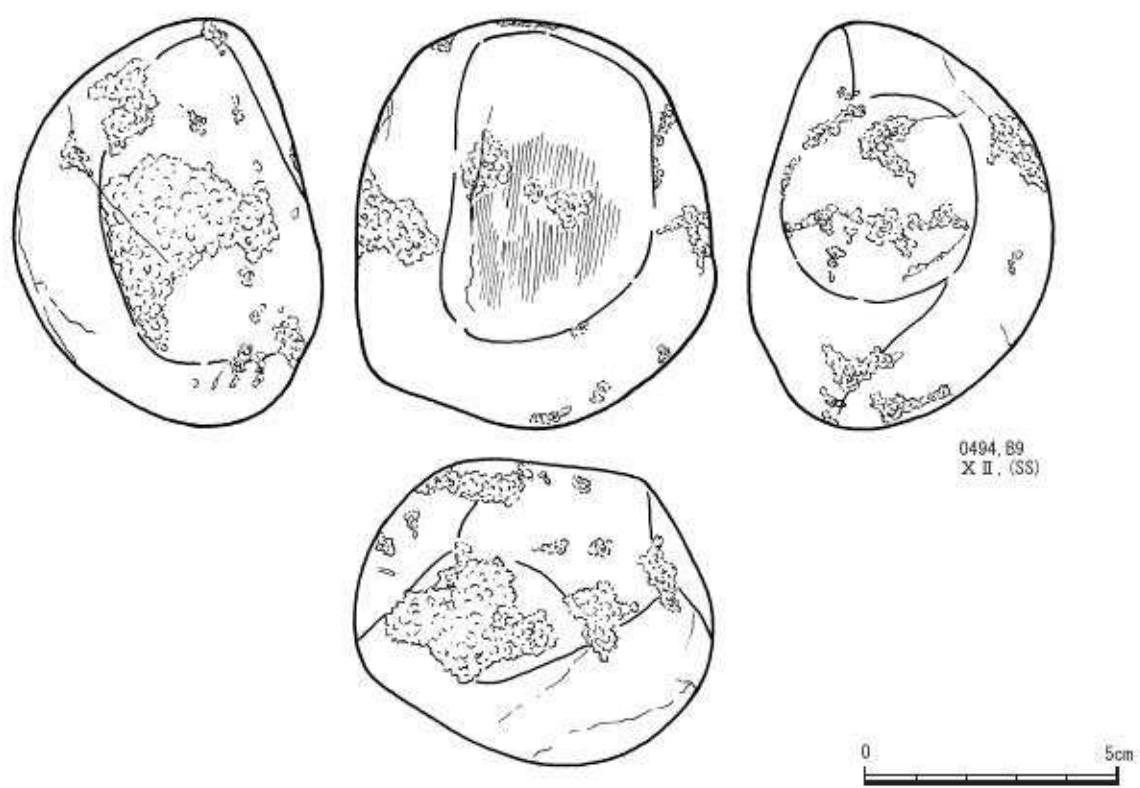
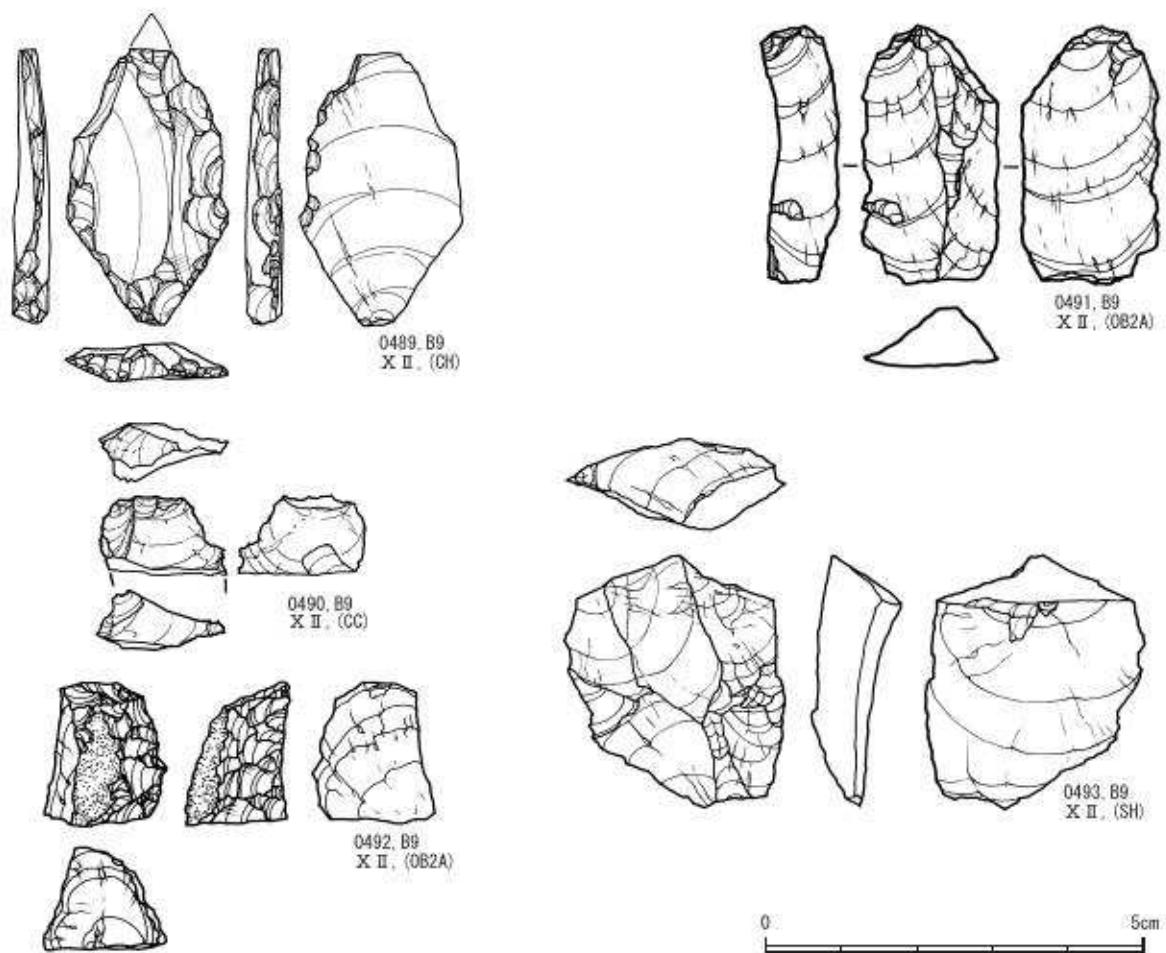
第134図 第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア遺物出土状況図



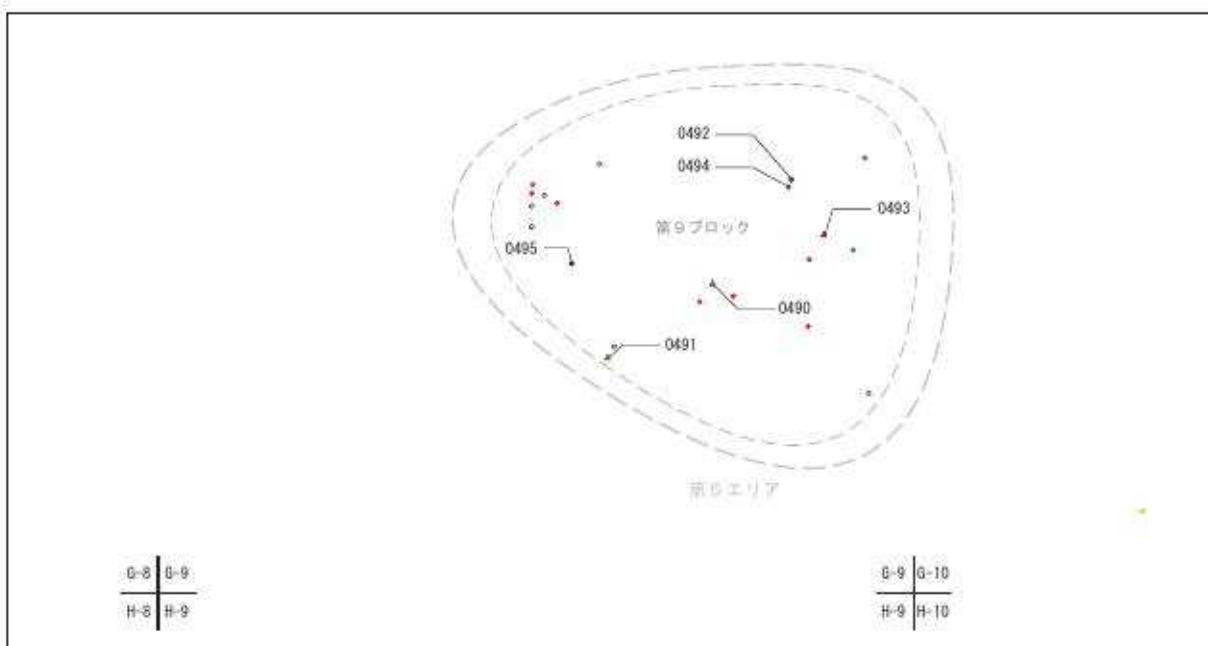
第135図 第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア出土石器実測図

第34表 第Ⅲ文化層第4ユニット第4エリア出土石器観察表

挿図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 ユニット	工具	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	年代 F	接合 No.
135	0480	石器	ナイフ形石器	-	III	U4 A4 B7	CC	-	14.5	7.7	3.0	0.48	233	X I	B-12	-
	0481	石器	ナイフ形石器	-	III	U4 A4 B7	CC	-	17.0	9.3	4.8	0.72	5881	X II	A-11	-
	0482	石器	ナイフ形石器	-	III	U4 A4 B7	SH	-	40.9	19.6	8.1	5.35	5891	X I	B-11	-
	0483	剥片	折断剥片	微細剥離痕	III	U4 A4 B7	OB2 A	OB2	20.4	23.9	8.1	2.97	232	X I	B-12	-
	0484	剥片	-	-	III	U4 A4 B8	CC	-	30.7	14.3	4.8	1.65	6007	X II	B-11	-
	0485	剥片	折断剥片	-	III	U4 A4 外	OB1	-	23.8	18.7	9.8	3.68	5898	X II	B-12	-
	0486	剥片	-	-	III	U4 A4 外	SS	-	48.9	22.9	14.8	12.14	5807	X I	B-11	-
	0487	剥片	-	-	III	U4 A4 外	CC	-	35.6	22.7	7.8	4.32	6005	X I	B-11	-
	0488	剥片	-	-	III	U4 A4 B7	SH	-	41.0	36.4	10.9	11.24	5875	X II	A-11	-



第136図 第III文化層第5ユニット第5エリア出土石器実測図



第137図 第III文化層第5ユニット第5エリア遺物出土状況図

第5ユニット

G-9点からF, G-13点に範囲40m, 10m縁で区割する。これら範囲内に、第5から第8までの4つのエリアを設けし、それぞれブロックを定めた。

第5エリア(第137図、第136図)

G-9点にあり、第9ブロックを構成する。其のうちII-A類に至る2点ギョクズイ1点、チャート1点、砂岩1点が加わる。

ナイフ形石器2点(0489, 0490)、スクレイバー1点(0493)とハンマーストーンと磨きを施した(0495)、剥片が確認できる。

0489は刀形剥片の刃部に損傷した小型のツバ形

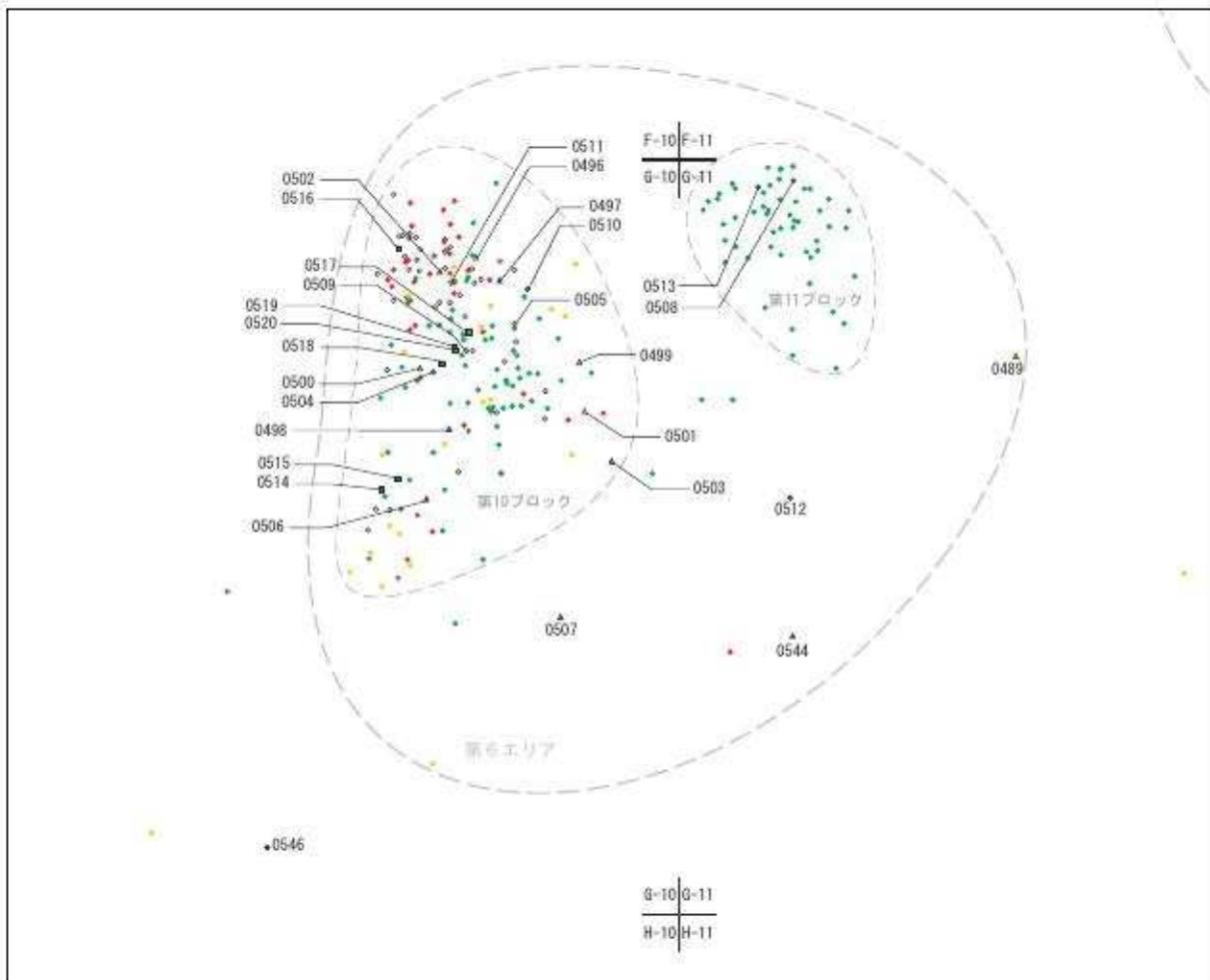
ナイフ形石器で、0490は刀形剥片から取り出された刃部の刃部以外の部分に刃部に沿って剥離が見られ、木葉形状の凹凸がありをなす。

0491は折断剥片とみられる。0493は骨器底の刃部を残す。

0495は刃部の側面と刃端部に輪打痕を残す。刃部の刃部に摩耗跡が観察でき、輪打と摩耗の複合化を施したものと判断できる。

第35表 第III文化層第5ユニット第5エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	Ⅱ-A	加工	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド No	接合 No
136	0489	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A5	B9	CH	-	(36.5)	(21.4)	(5.0)	(3.47)	16976	X II	G-9	-
	0490	石器	折断剥片	-	III	U5	A5	B9	CC	-	(10.6)	(16.9)	(7.5)	(1.18)	16974	X II	G-9	-
	0491	剥片	-	-	III	U5	A5	B9	082	A	34.3	18.3	10.9	5.21	17498	X II	G-9	-
	0492	石器	スクレイバー	-	III	U5	A5	B9	082	A	19.0	16.3	13.5	3.46	17177	X II	G-9	-
	0493	剥片	-	-	III	U5	A5	B9	SH	-	33.5	29.2	12.0	7.96	17175	X II	G-9	-
	0494	石器	磨石/敲石	-	III	U5	A5	B9	SS	-	81.3	71.7	60.0	450.00	16916	X II	G-9	-



第138図 第III文化層第5ユニット第6エリア遺物出土状況図

第6エリア(第138図、第139~142図)

G-10, 11区にあり、2つのブロックを有す。

第10ブロックは刃部を主にギョクズイと異端Ⅱ-A類が構成する。第11ブロックは刃部を主に構成する。

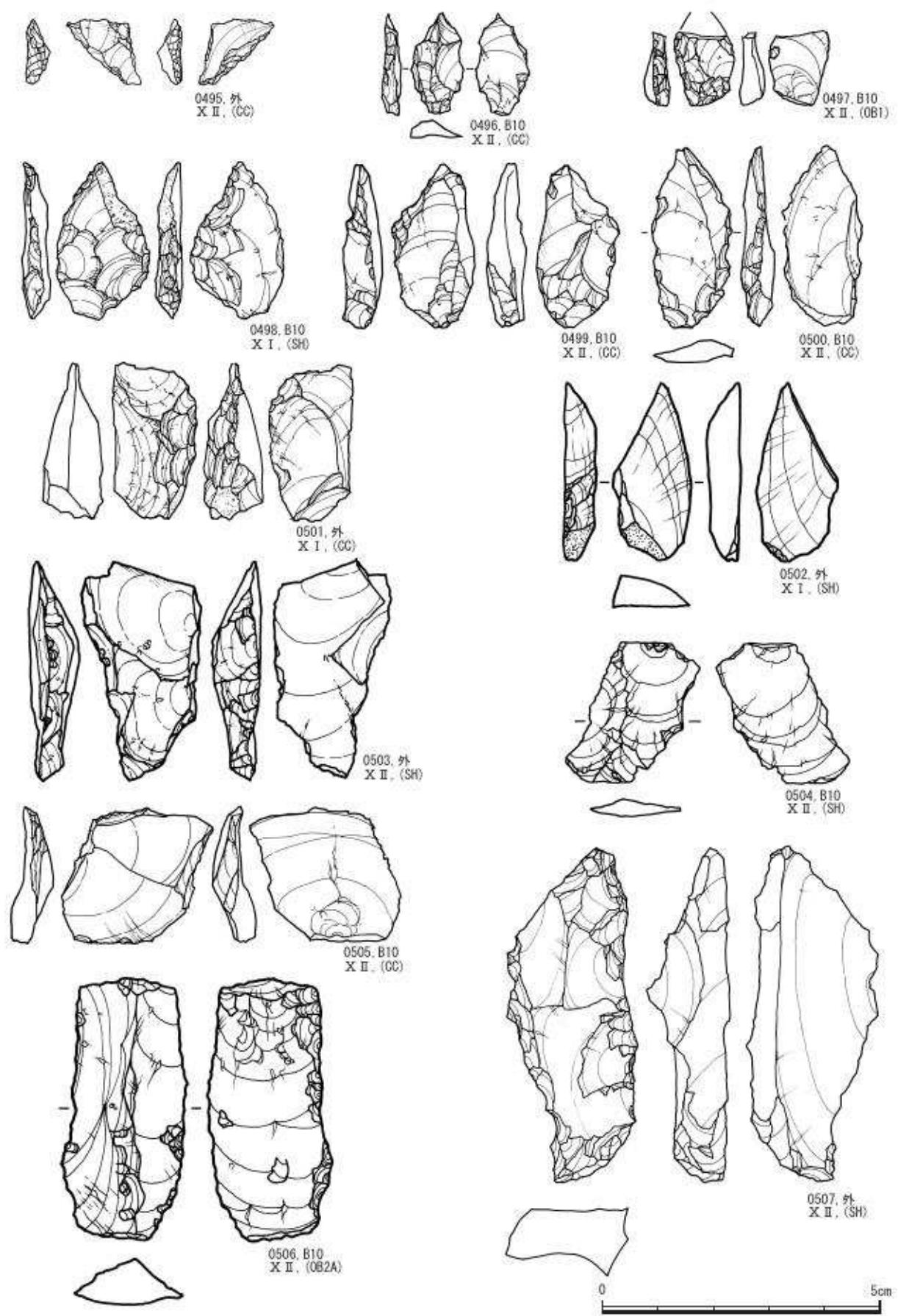
器種は、ナイフ形石器8点(0496~0503), スクレイバー1点(0506), ニホンカミのあるま片1点(0507), 石核7点(0514~0520)等が確認できる。

ナイフ形石器の0496, 0497は刃部と側面に刃剥し跡を有する型ナイフ。0498~0500は刃部の背面部が認められる部分かみ。0501は素がま片の背面を活かして側面かみ。0503は側面に刃剥しを行い、刃形様に加工している。なお、刃剥しは全て薄手からである。0502は部分かみのナイフ形石器である。

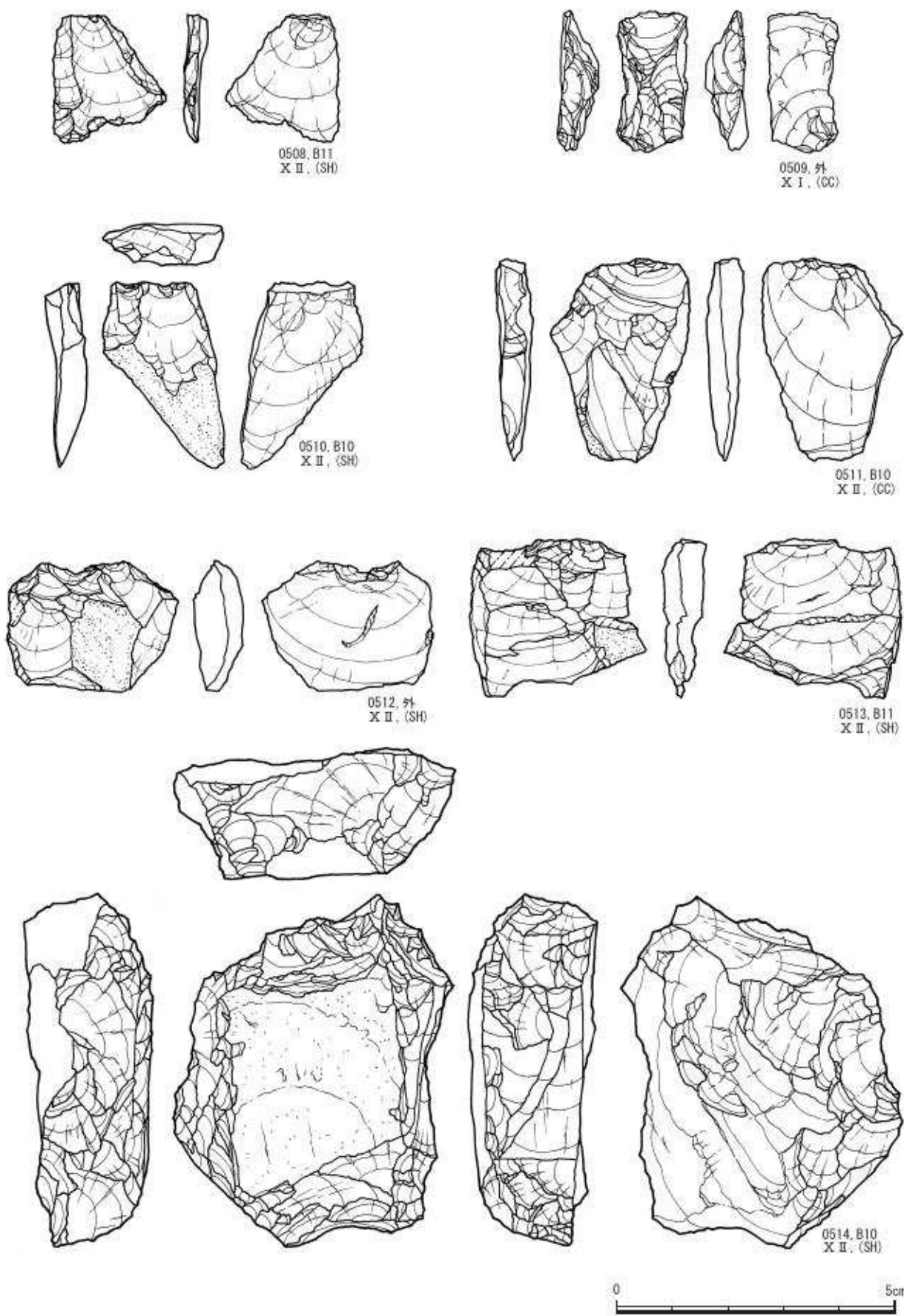
0498, 0502は板状ぎれ片、0499, 0500, 0503は打痕移動部から取り出されている。

0507は二本刃のあるま片で刃剥し、側面かみを有することと先端部の刃剥しが強調されることから、尖頭状石器とした。0506は用途が限定されるとの判断から、スクレイバーとした。

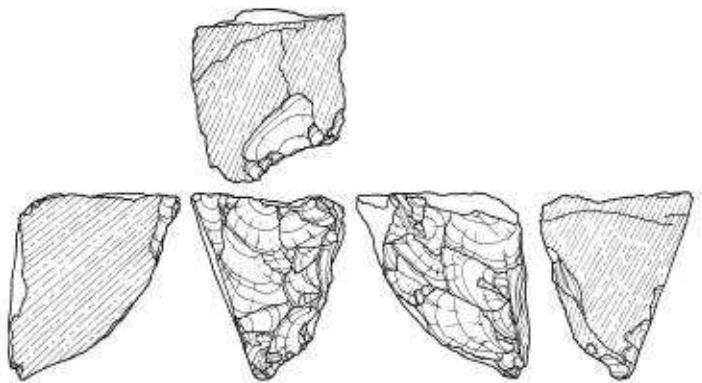
石核の8点は、全て筋理が多数ある刃部を見ている。そのため、縱長ぎれ片の刃剥しは多かったとみられる。そのことは、刃剥したぎれ片の形状からもうかがえる。石核の形態は基本的にリメ触れ打削で、横剥きを用いたものが多い。



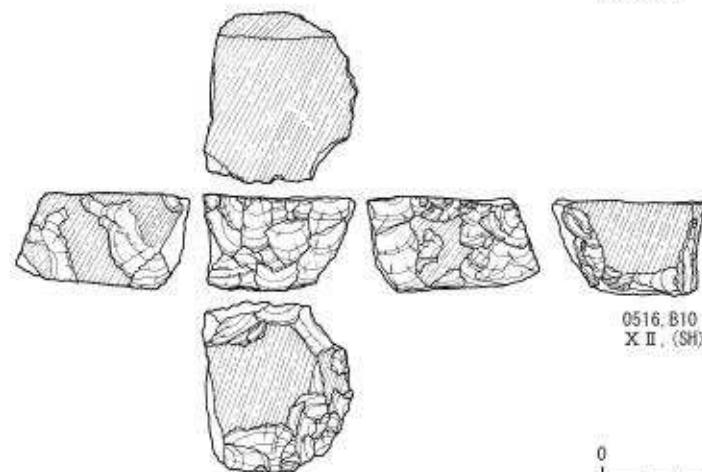
第139図 第III文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(1)



第140図 第III文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(2)

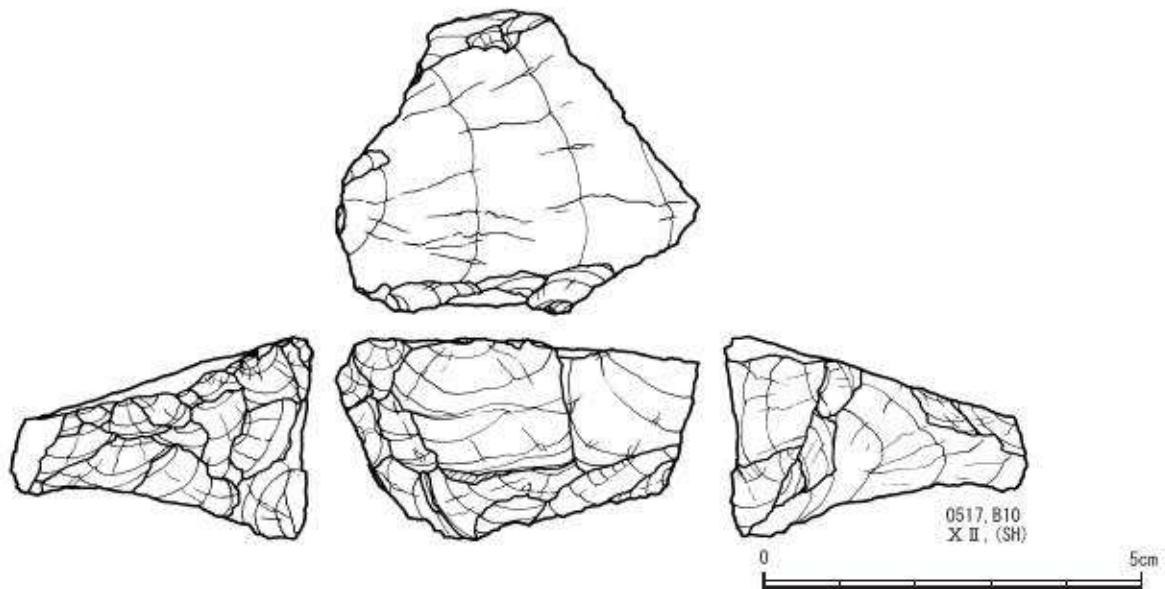


0515, B10
X II, (SH)



0516, B10
X II, (SH)

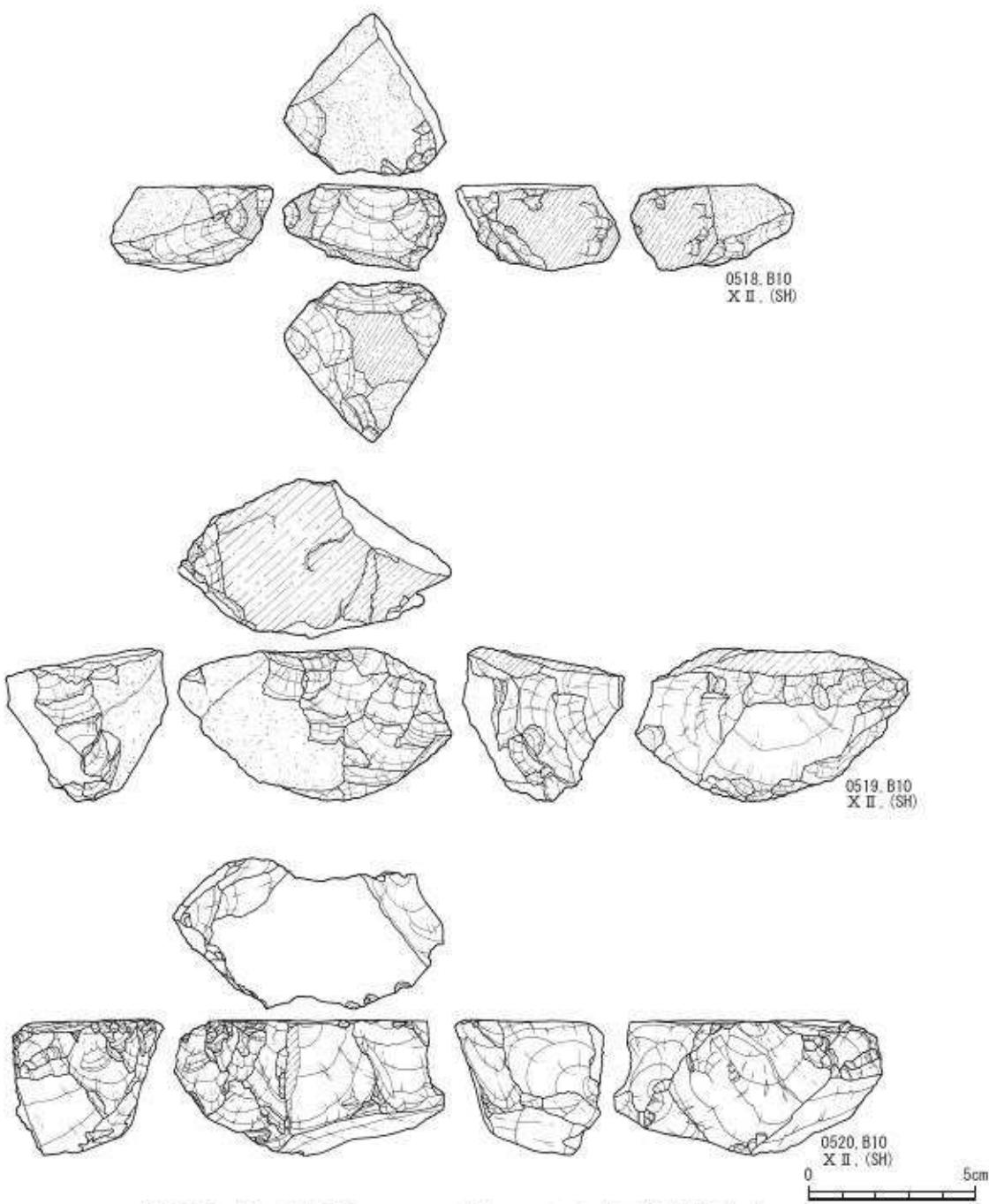
0 5cm



0517, B10
X II, (SH)

0 5cm

第141図 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(3)



第142図 第III文化層第5ユニット第6エリア出土石器実測図(4)

第7エリア(第143番、第144、145番)

F-11, 12区にあり、2つのブロックを有す。

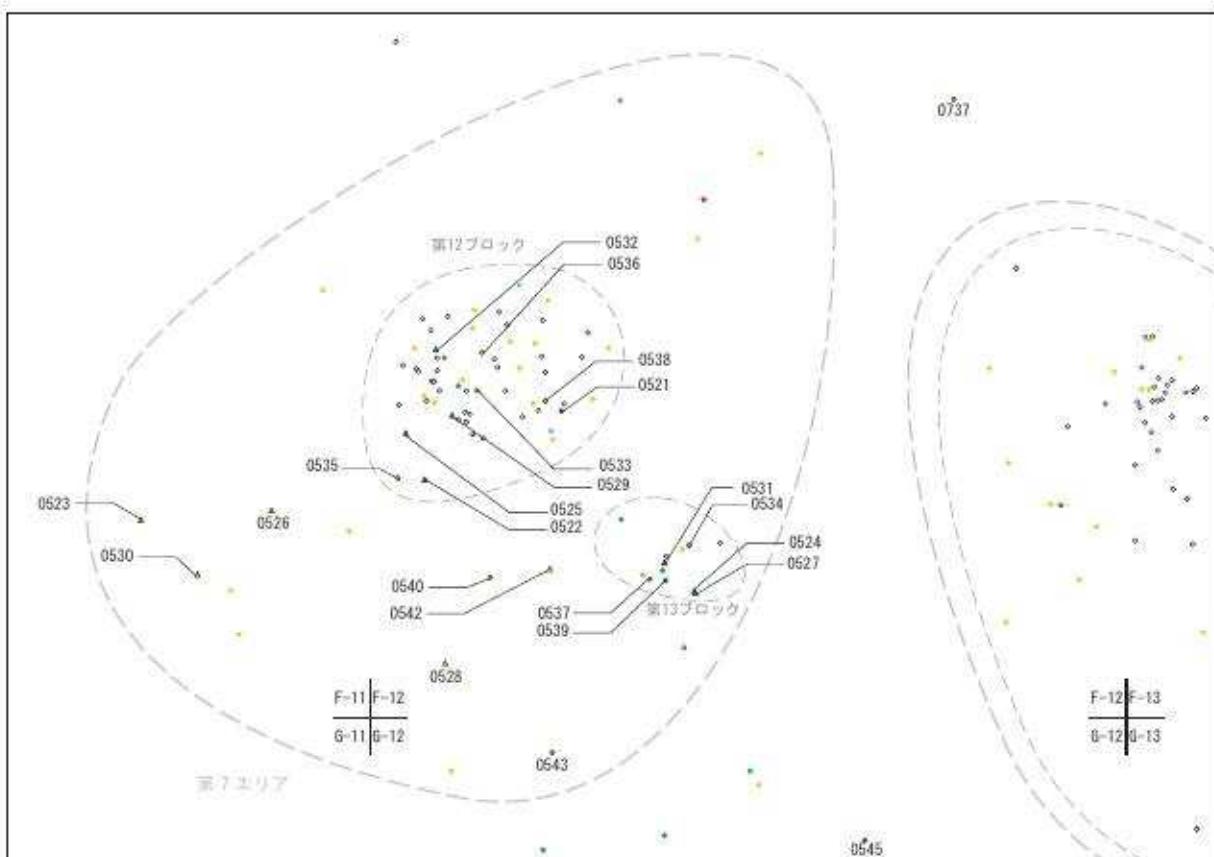
第12ブロックは乳頭Ⅱ-A類とギョクズイを主体に、少數のリガ、乳頭Ⅲ類がいる。第13ブロックは乳頭Ⅱ-A類、ギョクズイ、チャート、リガが数点で構成される。

器種構成は、鉈を21点(0521)、ナイフ形器8点(0522～0529)、二本刃のある丸片3点(0530～0532)と帶刃丸片のある丸片若干件にしている。

ナイフ形器の0522は小型の丸片の形状を大きく変えることなくそのまま利用したもので、先端部が近くにアバ

シカニが集りする。0524, 0525も丸片の形状をそのまま活かしている。なお、アバシカニは、ふくらみの一部にみられる。0523は刃部側をア部とし、先端部とふくらみに、0529は歯や三角形の丸片の特徴を活かしたもので、ア部は鋸い。一方、アバシカニは腹側は鋸戸度に、ふくらみは夷きにもみられる。0526はふくらみと腹側、0528はふくらみをツバの部分かニ。0527は欠落しているが良質の赤鉄を和田している。

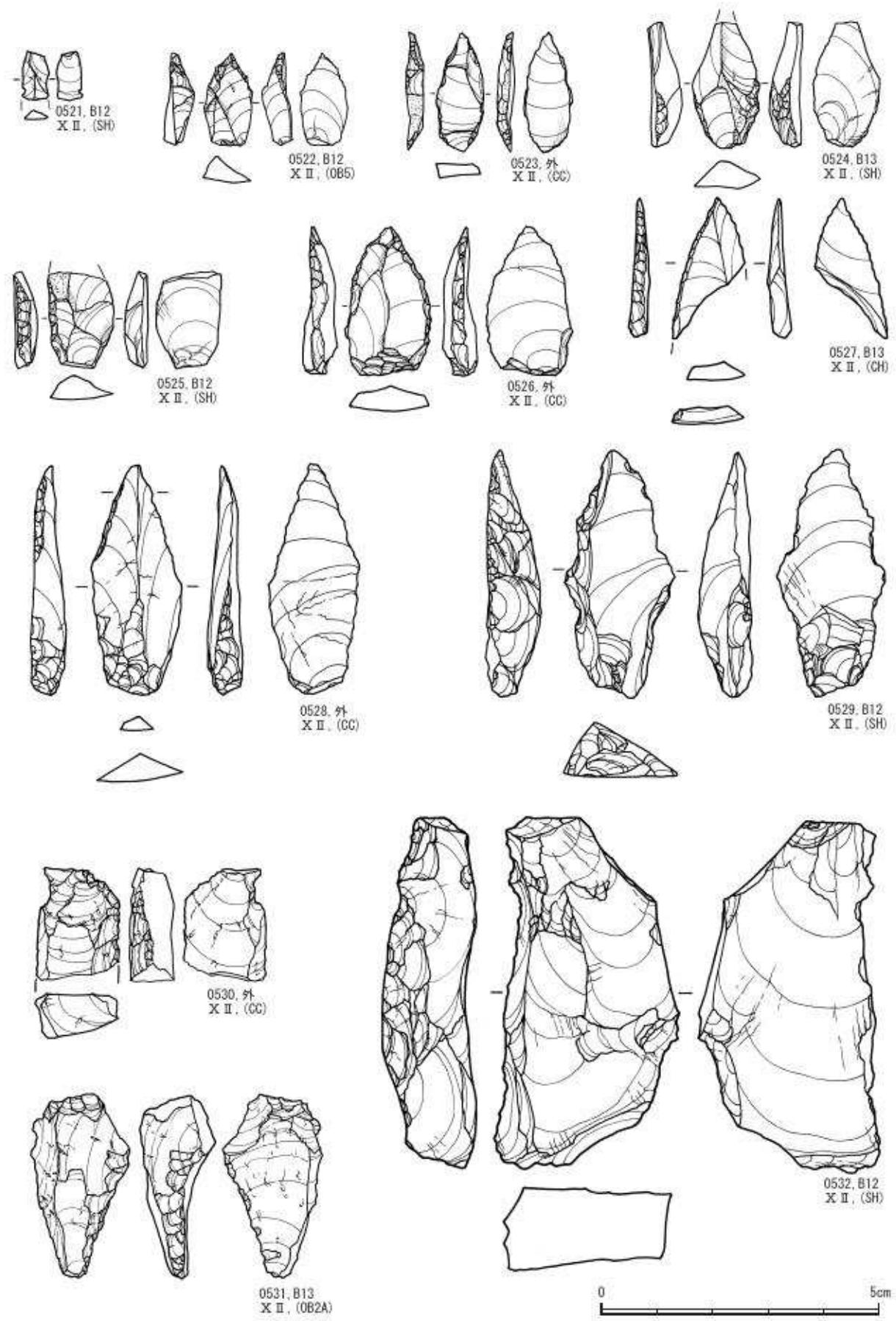
二本刃のある丸片の0532は縦長丸片の腹側にアバシカニの跡がみられるが、その用途は明らかでない。



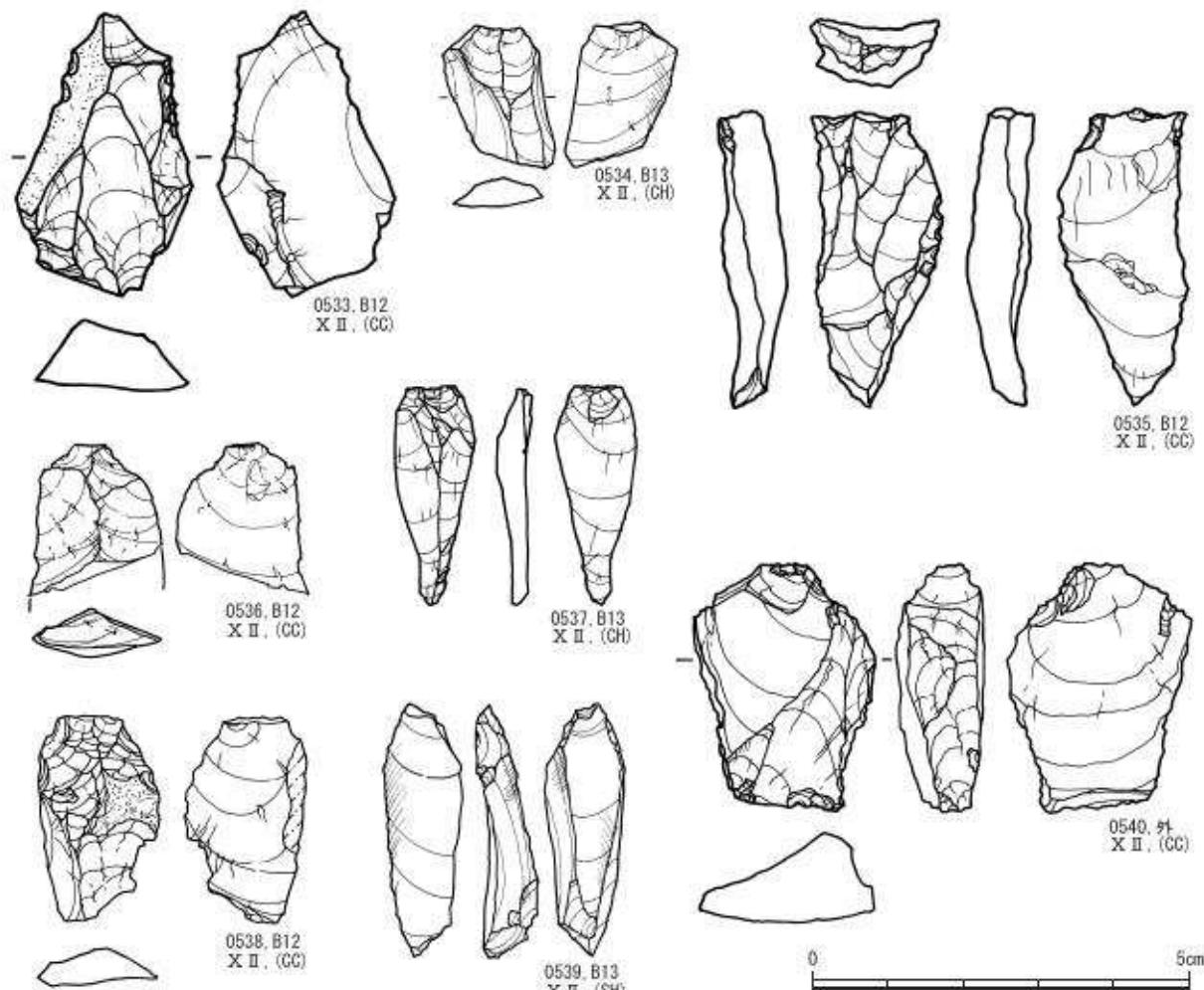
第143図 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア遺物出土状況図

第36表 第Ⅲ文化層第5ユニット第6エリア出土石器観察表

掲番 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	ⅣA	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列番 No	接合 No	
139	0495	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	11.8	13.5	4.5	0.32	20176	X II	G-11	-
	0496	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	18.2	9.7	3.9	0.56	20214	X II	G-10	-
	0497	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	OB1	-	(13.4)	(11.0)	(4.2)	(0.57)	20006	X II	G-10	-
	0498	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	28.3	17.0	5.1	1.90	19896	X I	G-10	-
	0499	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	29.3	15.2	7.3	2.37	20221	X II	G-10	105
	0500	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	32.6	14.6	6.2	2.26	20249	X II	G-10	-
	0501	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	28.2	15.3	11.0	3.55	19877	X I	G-10	-
	0502	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	32.2	14.5	6.2	2.23	19914	X I	G-10	-
	0503	石器	ナイフ形石器	台形様石器	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	39.4	21.9	9.0	6.51	20694	X II	G-10	-
	0504	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	25.3	24.1	3.2	1.29	20248	X II	G-10	-
140	0505	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	24.4	27.4	8.0	3.13	21048	X II	G-10	-
	0506	石器	スクレイバー	削器	Ⅲ	U5	A6	B10	OB2	A	47.4	23.1	9.1	9.64	21049	X II	G-10	-
	0507	石器	二次加工痕のある剥片	尖頭状石器	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	60.1	23.6	15.1	13.19	20707	X II	G-10	-
	0508	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B11	SH	-	23.0	20.5	4.3	1.26	20821	X II	G-11	-
	0509	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	外	CC	-	25.4	12.9	8.0	2.35	19905	X I	G-10	-
141	0510	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	33.5	21.9	8.0	4.11	20218	X II	G-10	-
	0511	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	CC	-	36.6	25.1	7.0	5.48	20239	X II	G-10	-
	0512	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	外	SH	-	23.5	30.9	9.2	5.99	20198	X II	G-11	-
	0513	剥片	-	-	Ⅲ	U5	A6	B11	SH	-	28.2	31.6	8.1	5.59	20826	X II	G-11	-
142	0514	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	63.2	50.5	23.2	79.96	20257	X II	G-10	-
	0515	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	49.2	40.7	46.0	83.78	20408	X II	G-10	-
	0516	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	25.9	40.3	46.0	62.60	20644	X II	G-10	129
	0517	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	26.9	47.9	40.0	37.23	20235	X II	G-10	-
	0518	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	26.1	48.8	48.0	54.51	20247	X II	G-10	129
143	0519	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	45.8	81.8	47.4	147.74	20236	X II	G-10	-
	0520	石核	-	-	Ⅲ	U5	A6	B10	SH	-	40.6	80.8	45.0	159.17	20404	X II	G-10	-



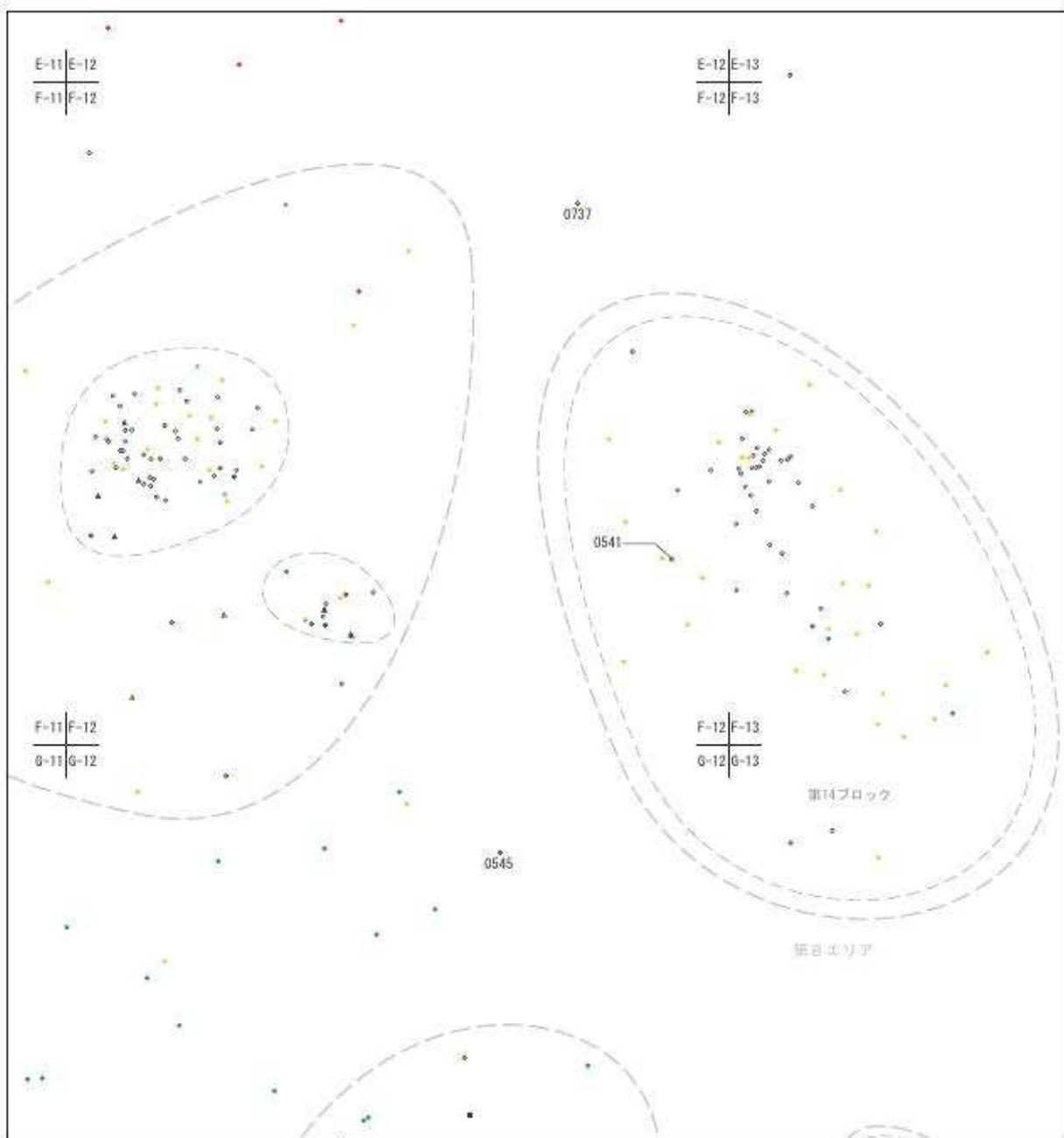
第144図 第III文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(1)



第145図 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器実測図(2)

第37表 第Ⅲ文化層第5ユニット第7エリア出土石器観察表

標識 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット エリア	ロック	石材 LT	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 F	接合 No	
144	0521	剥片	細石刃	-	III	U5	A7	B12	SH	-	(8.9)	(4.9)	(1.5)	(0.06)	9436	X II	F-12	-
	0522	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	B12	OB5	-	16.7	8.9	5.8	0.50	9409	X II	F-12	-
	0523	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	外	CC	-	21.4	8.7	3.2	0.61	18424	X II	F-11	-
	0524	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	B13	SH	-	(22.7)	(12.2)	(6.2)	(1.32)	9451	X II	F-12	-
	0525	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	B12	SH	-	(17.7)	(12.0)	(4.2)	(0.96)	8768	X II	F-12	-
	0526	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	外	CC	-	26.8	15.6	6.5	2.39	17788	X II	F-11	-
	0527	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	B13	CH	-	(25.3)	(13.4)	(5.0)	(0.56)	9481	X II	F-12	-
	0528	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	外	CC	-	41.4	16.6	6.8	3.59	9457	X II	F-12	-
	0529	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	A7	B12	SH	-	44.5	20.1	10.0	5.68	9487	X II	F-12	-
	0530	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U5	A7	外	CC	-	(20.2)	(15.1)	(8.0)	(2.75)	18429	X II	F-11	-
145	0531	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U5	A7	B13	OB2 A	33.1	17.9	14.0	4.84	9452	X II	F-12	-	
	0532	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U5	A7	B12	SH	-	63.5	33.6	17.8	38.25	9601	X II	F-12	-
	0533	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U5	A7	B12	CC	-	37.7	23.8	10.0	7.29	9418	X II	F-12	-
	0534	剥片	-	-	III	U5	A7	B13	CH	-	19.2	15.1	4.2	1.23	9449	X II	F-12	-
	0535	剥片	-	-	III	U5	A7	B12	CC	-	39.3	17.7	9.2	4.22	9407	X II	F-12	-
	0536	剥片	折断剥片	-	III	U5	A7	B12	CC	-	(20.2)	(17.9)	(6.2)	(1.42)	9595	X II	F-12	-
	0537	剥片	-	-	III	U5	A7	B13	CH	-	29.0	10.9	5.0	0.85	9454	X II	F-12	-
	0538	剥片	-	-	III	U5	A7	B12	CC	-	27.3	16.2	7.0	2.39	9431	X II	F-12	-
	0539	剥片	-	-	III	U5	A7	B13	SH	-	33.5	10.8	8.1	2.19	9620	X II	F-12	-
	0540	剥片	-	-	III	U5	A7	外	CC	-	33.1	24.2	12.0	8.71	254	X II	F-12	-



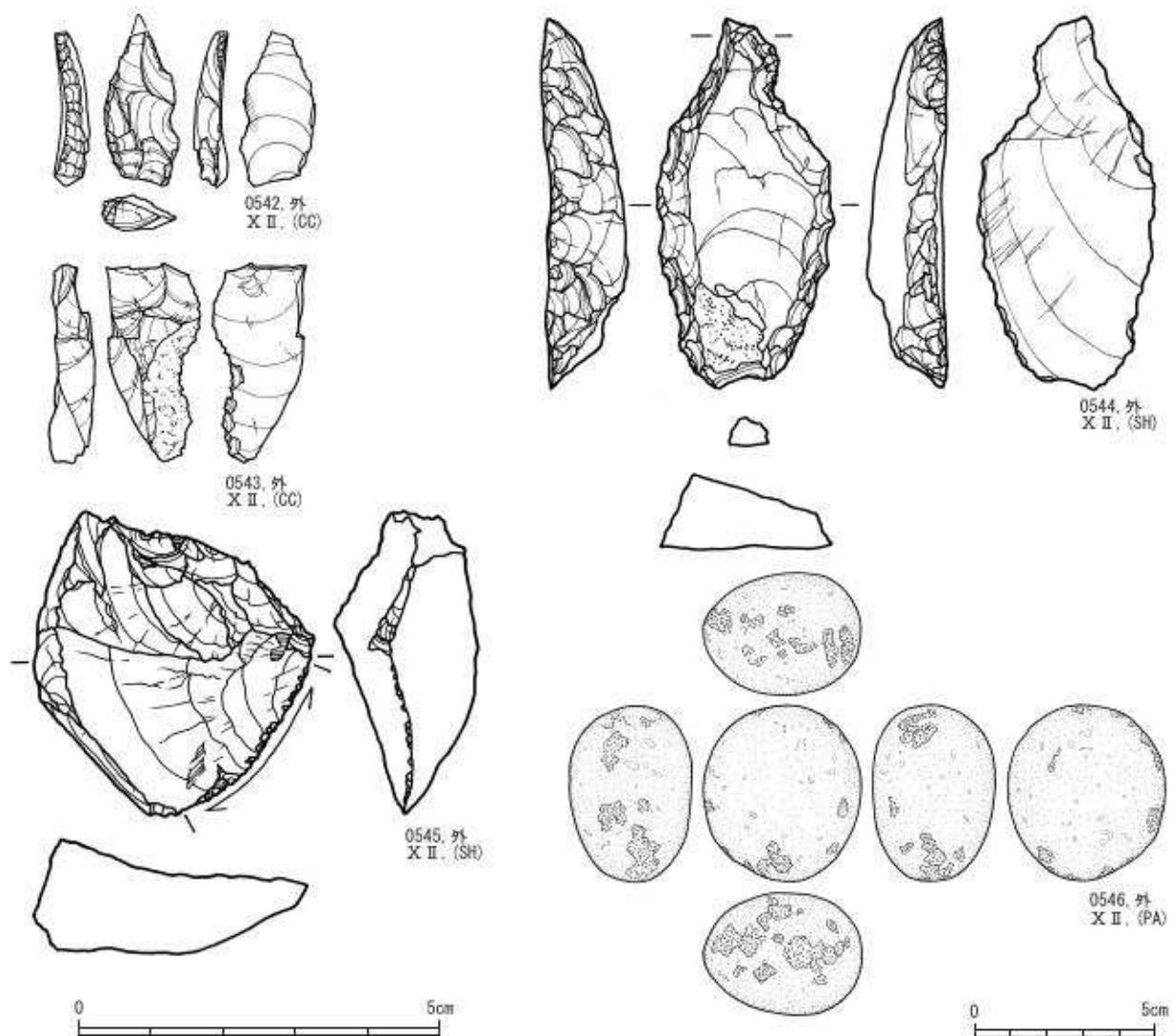
第146図 第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア遺物出土状況図



第147図 第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア出土石器実測図

第38表 第Ⅲ文化層第5ユニット第8エリア出土石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	Ⅱ	Ⅲ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 ブロック	接合 No	
147	0541	剥片	-	-	III	U5	A8	B14	CC	-	(19.9)	(12.8)	(4.0)	(0.92)	9508	X II F-12	-



第148図 第III文化層第5ユニットエリア外出土石器実測図

0530, 0531にも二枚刃があり、一先ナイフ形の器の刃渡し状である。

記号は、片器種との関係についてはやや疑問の残るものと判断している。

第8エリア(第146番、第147番)

第5ユニットの丸端に位置し、F-12, 13にあり、第14ブロックを構成する。

第14ブロックはギョクズイの集団で、まろが2次混じる。

示したのは0541の丸片1点で、拡大した写真がある。

エリアX(第148番)

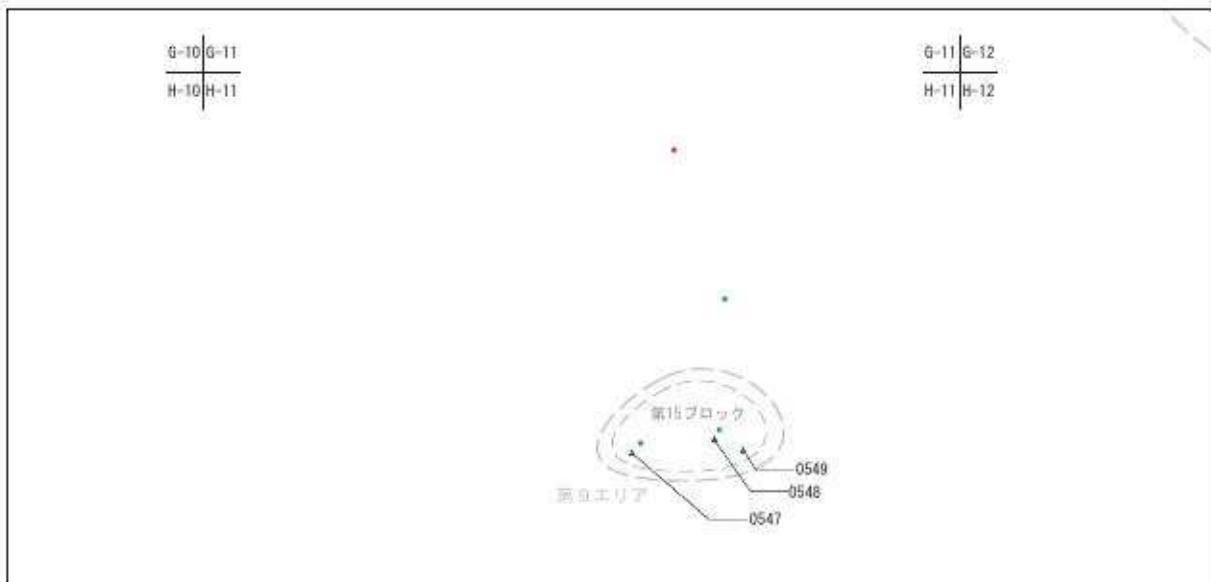
0542は二枚刃のナイフ形の器、0544は横長丸片を素材としたもので、全体に複雑な刃渡し状を有するもので、用途は尖頭器も想定できるが、丸端部の形状から剥離器と判断した。

0546のハンマーストーンは円錐と誤認を被りしている。

0543と0545は既述に印象的な微細剥離痕が認められる。

第39表 第III文化層第5ユニットエリア外出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	判別F	接合No
148	0542	石器	ナイフ形石器	-	III	U5	外	外	CC	-	(21.4)	(10.5)	(5.0)	(0.82)	250	X II	F-12	-
	0543	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U5	外	外	CC	-	27.5	13.2	7.0	1.75	264	X II	G-12	-
	0544	石器	離状石器	-	III	U5	外	外	SH	-	51.5	24.9	11.5	12.64	18535	X II	G-11	-
	0545	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U5	外	外	SH	-	42.4	39.1	20.3	23.00	9639	X II	G-12	-
	0546	石器	ハンマー	-	III	U5	外	外	PA	-	49.1	44.0	34.0	99.69	16946	X II	G-10	-



第149図 第III文化層第6ユニット第9エリア遺物出土状況図

第6ユニット

第6ユニットは、G-H-11区からG-H-14区にベルト状に分布し、第5ユニットに並行するように東西に展開する。ユニット内は4つのエリアで区分し、ブロックも構成する。

第9エリア(第149号、第150号)

H-11区にあり、主に製品が集められている。要素5点チャート1点の5枚で構成する。
ナイフ形器1式(0547)、三棱尖頭器2式(0548, 0549)がある。
ナイフ形器は縦長刃片を用い、先端部は下落しているが刃先から刃寧に復した刃藏刃である。
三棱尖頭器の0548は薄狭状のや厚い刃片を用い、刃先のほぼ全滅にササヌキによる整形刃片を呈示している。刃先の稜上刃片はや厚い赤色刃片の頂部に集められ、器底の減少部を埋めとしている。0549はエリア内で接合し、整形刃片は刃先からをもたらすが、先端部では稜上刃片も確認できる。刃先の先端部に整形刃片、底部はササヌキ刃片と整形刃片が見られ、刃寧に丸上げ、狭小で長身の形状に丸上げている。

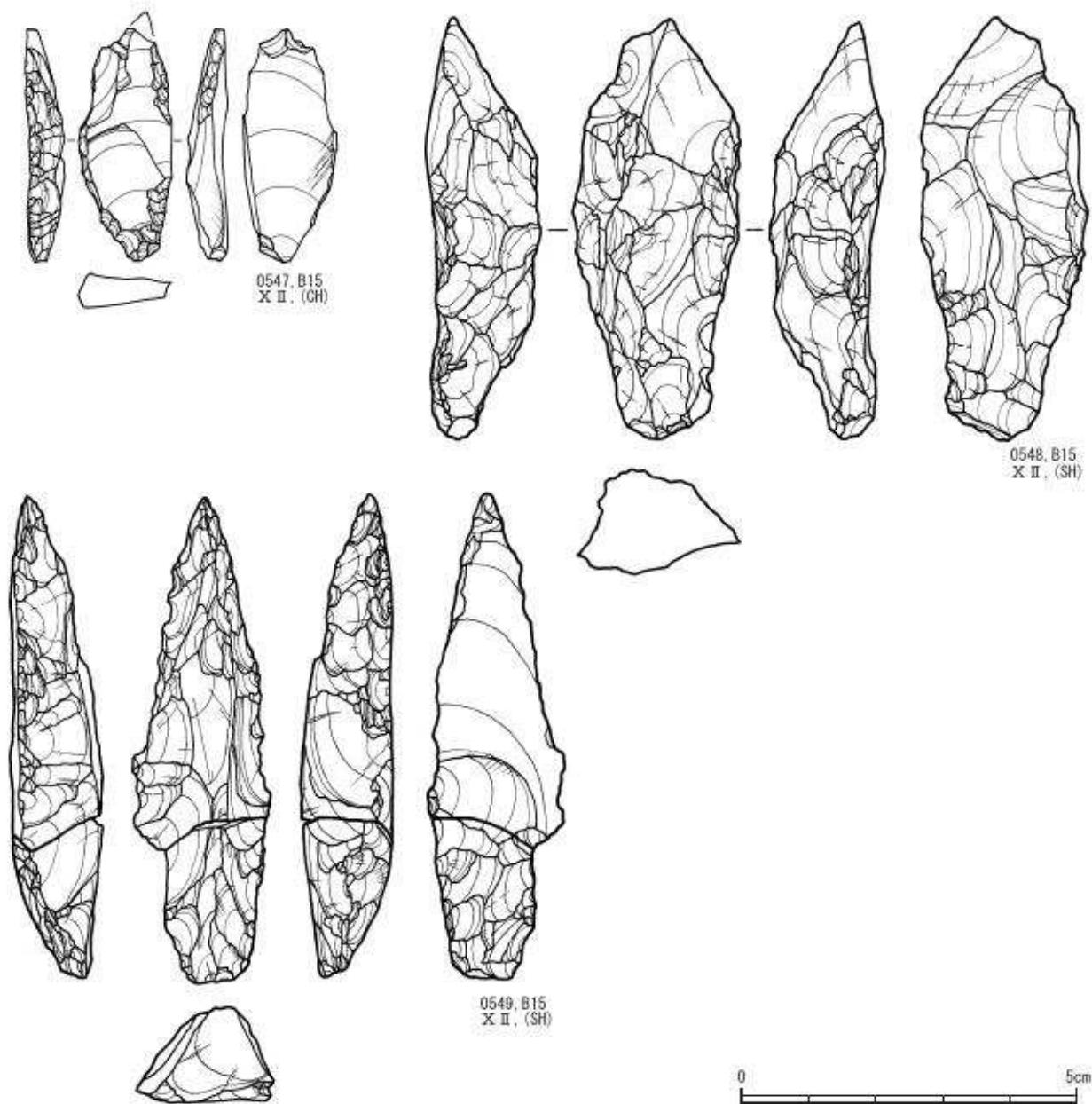
第10エリア(第152号、第151号)

G-12区にあり、要素を主体に乳頭II-A類が埋わる状況がみられる。
器種は縦長刃片(0550, 0551)、ナイフ形器4式(0552~0554, 0556)と骨組繊維のある刃片(0557)と骨(0558)等がある。

縦長刃片は上層の遺物と看えられる。

ナイフ形器の0552は薄片の刃片を複数枚、又金な刃片しがみられる。0553は先端部と判断したが、先端の刃先もある。0554は赤色の結晶を多く括かしている。0556は刃片のとれた縦長刃片を糸に、刃渡し刃は先端部とし縫縫にみられ、刃藏は鉛色の刃片が観察される。さらに刃先部にササヌキ、先端部刃先にも細かい整形刃片を行っている。したがって、刃藏が先端部にあけられることとなる。

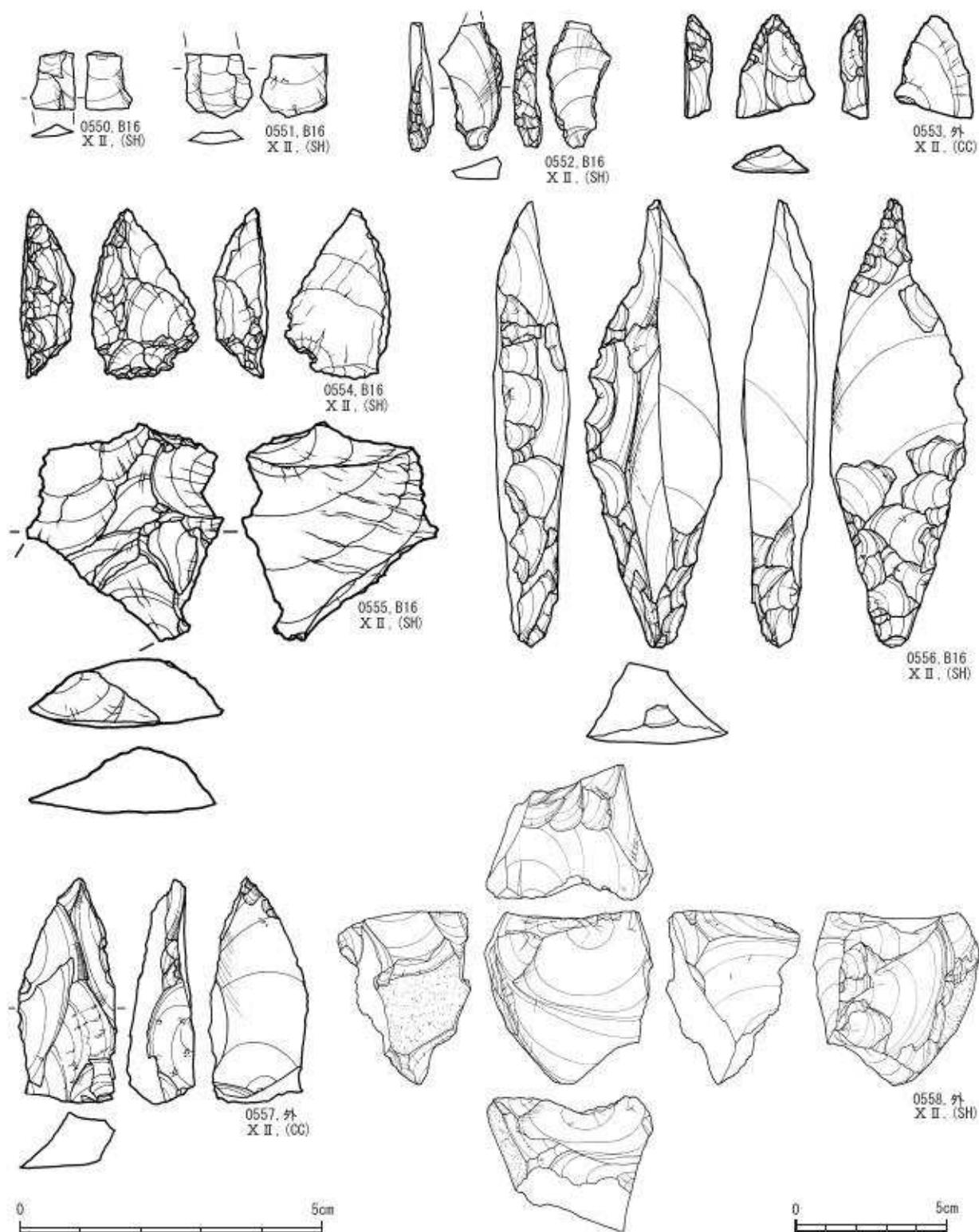
0558の五枚からは横に長い刀形刃片があり目されたと推測される。



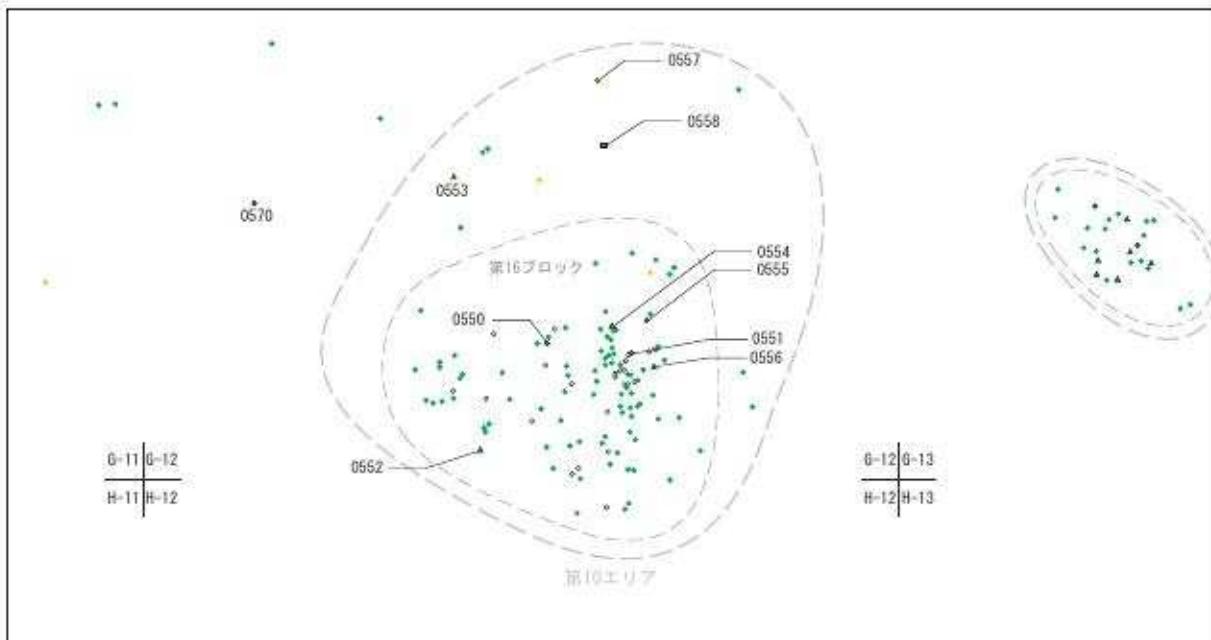
第150図 第Ⅲ文化層第6ユニット第9エリア出土石器実測図

第40表 第Ⅲ文化層第6ユニット第9エリア出土石器観察表

種別 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	ユリフ	プロダク	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	ユリフ	接合 No
150	0547	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U6	A9	B15	OH	-	(34.7)	(14.1)	(6.8)	(2.99)	18532	X II	H-11	-
	0548	石器	三稜尖頭器	-	Ⅲ	U6	A9	B15	SH	-	62.7	25.2	17.2	22.28	18959	X II	H-11	-
	0549	石器	三稜尖頭器	-	Ⅲ	U6	A9	B15	SH	-	72.5	20.8	14.0	17.38	18529	X II	H-11	-



第151図 第III文化層第6ユニット第10エリア出土石器実測図



第152図 第Ⅲ文化層第6ユニット第10エリア遺物出土状況図

第11エリア(第153タ, 第154タ)

G-13区にあり、第17ブロックがささとなる。

打削サムの芯片を複数し、黒瀬Ⅱ-A類が2点含まれる。

縫合2点(0559, 0560)、ナイフ形石器5点(0561~0565)、二本刃のある芯片(0566)の器種で構成する。

2点の縫合に對しては、上層(第IVやV層)との關係が不明と思われる。

ナイフ形石器の0561と0563は模索ぎの芯片を用い、打削サムを芯部としている。0561はツバ付、0562は部分刃、0563と0565は一部破損である。なお、0565はツバ道も見えられる。0564は折断芯片を用い、打削サムに打削加工し、折断サムはそのまま打削に使用した芯形石器と判断した。

0566は薄きに打削サムによる二本刃がみられるが、その意図は読みとれない。前器次の用途の可能性が高いとみられる。

第12エリア(第155タ, 第156タ)

G-14区にあり、第6ユニットの先端に位置する。

第18ブロックは黒瀬Ⅱ-A類とギョクズイを主体にし、ドの芯(黒瀬Ⅱ-B類、黒瀬Ⅰ類)が1点ずつかかる。

ナイフ形石器1点(0567)と(0568)のプランティングチップが見されている。

ナイフ形石器はT字型な芯片を複数し、打削サムに近かい打削加工がみられる。

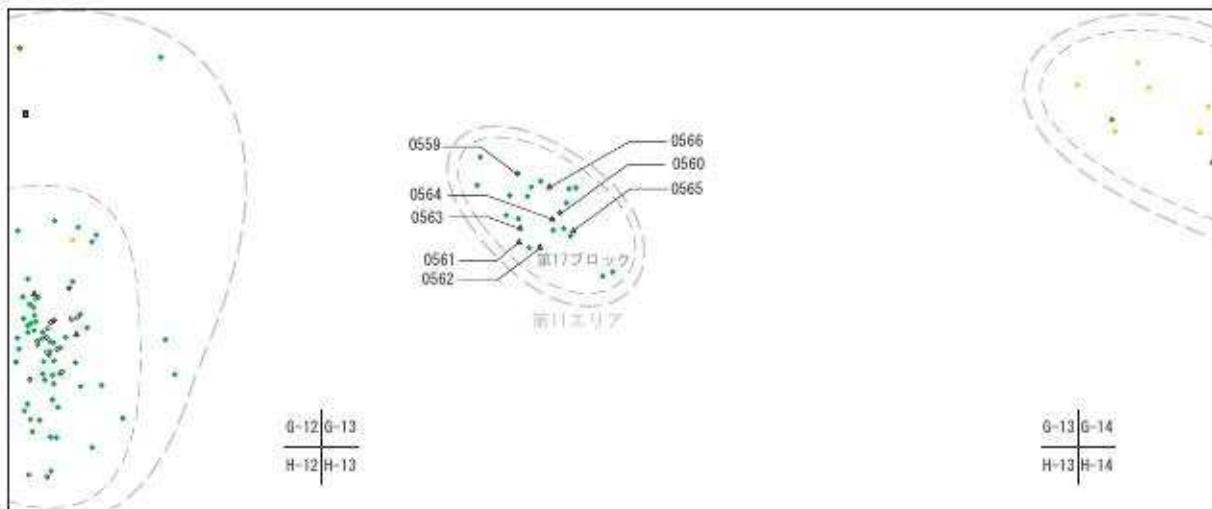
プランティングチップはナイフ形石器ないしは三棱尖頭器の製作と関わるとみられる。

エリアタ(第157タ)

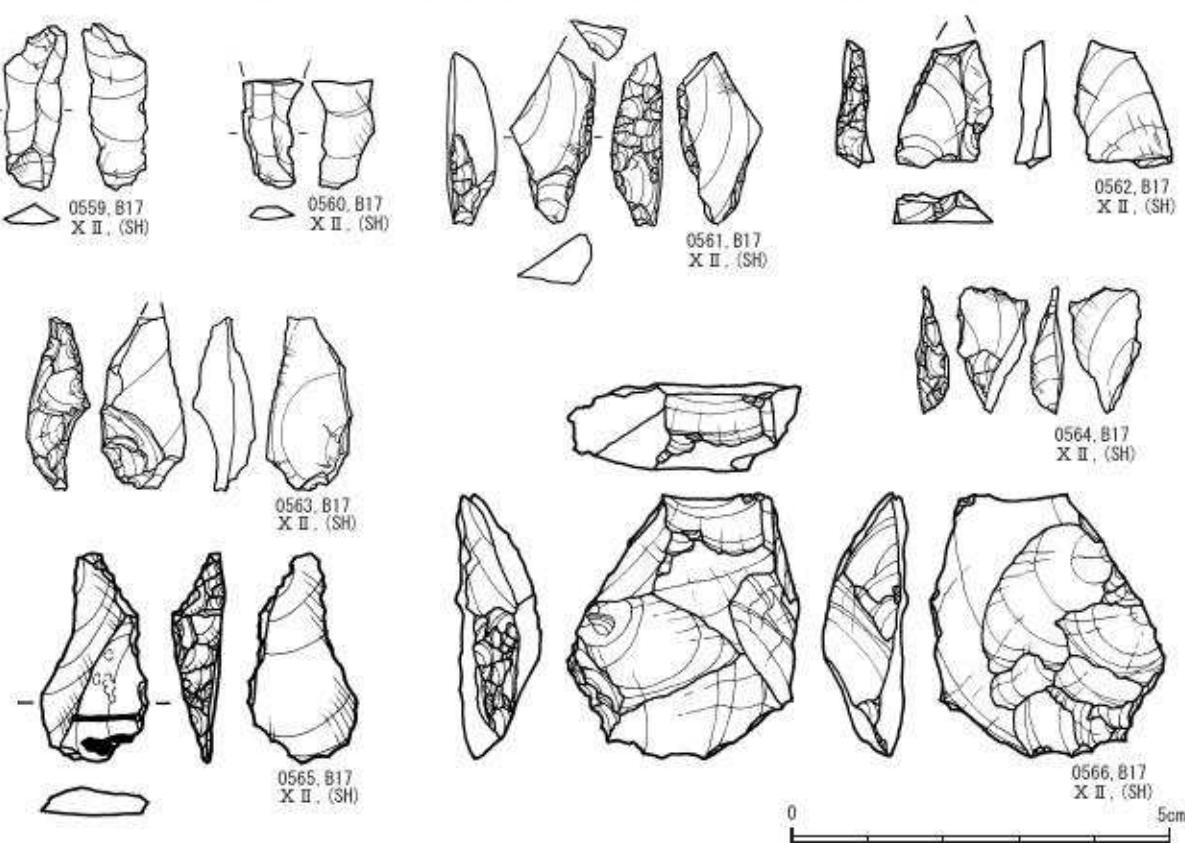
二本刃のある芯片0569と折断芯片0570を示した。2点ともサムに黒瀬Ⅱ-A類を用いている。

第41表 第Ⅲ文化層第6ユニット第10エリア出土石器観察表

括弧 No.	圓 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	U7	U6	A10	B16	CC	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	年代 GIF	接合 No.
151	0550	剥片	細石刃	-	III	U6	A10	B16	SH	-	(9.9)	(7.5)	(1.8)	(0.12)	10259	X II	G-12	-		
	0551	剥片	細石刃	-	III	U6	A10	B16	SH	-	(10.7)	(11.2)	(2.2)	(0.24)	9306	X II	G-12	-		
	0552	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A10	B16	SH	-	(21.1)	(10.7)	(5.0)	(0.78)	9082	X II	G-12	-		
	0553	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A10	外	CC	-	17.2	13.2	5.0	0.79	9106	X II	G-12	-		
	0554	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A10	B16	SH	-	28.4	17.9	9.1	3.60	9175	X II	G-12	-		
	0555	剥片	折断芯片	-	III	U6	A10	B16	SH	-	(36.3)	(32.6)	(12.4)	(10.83)	9173	X II	G-12	-		
	0556	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A10	B16	SH	-	74.3	22.9	12.8	16.51	10254	X II	G-12	-		
	0557	剥片	-	-	III	U6	A10	外	CC	-	37.3	16.6	11.5	5.69	9568	X II	G-12	-		
	0558	石核	-	-	III	U6	A10	外	SH	-	57.4	55.8	44.2	159.71	9190	X II	G-12	65		



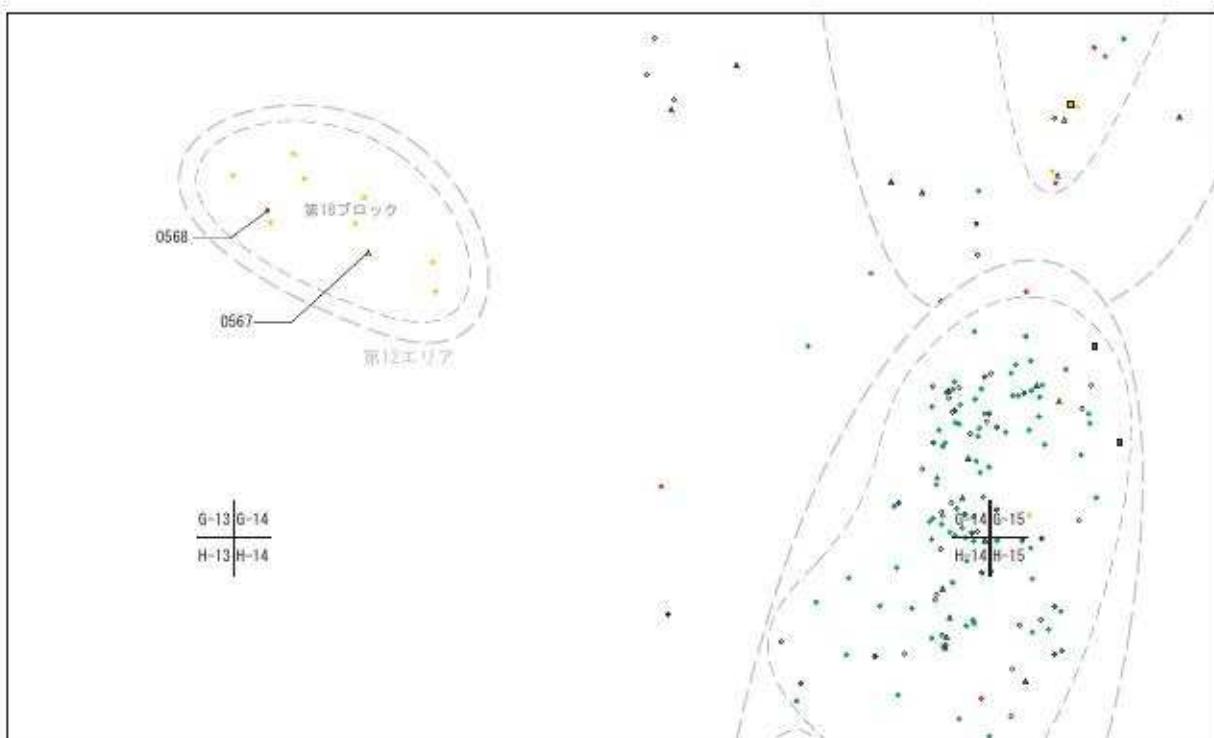
第153図 第III文化層第6ユニット第11エリア遺物出土状況図



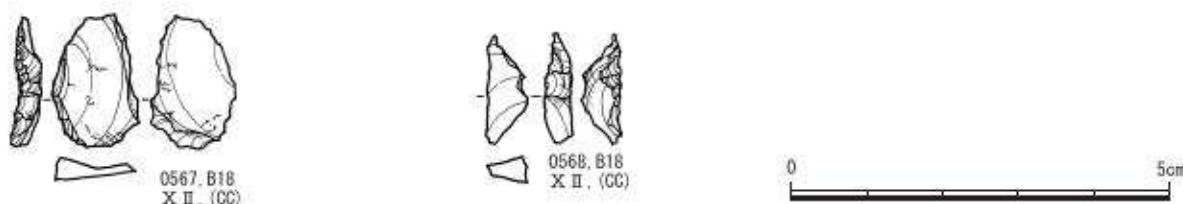
第154図 第III文化層第6ユニット第11エリア出土石器実測図

第42表 第III文化層第6ユニット第11エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリヤ	台ヶ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリフ	接合 No
154	0559	剥片	細石刃	-	III	U6	A11	B17	SH	-	21.8	8.4	3.1	0.43	9269	X II	G-13	-
	0560	剥片	細石刃	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(14.6)	(8.1)	(1.5)	(0.16)	9258	X II	G-13	-
	0561	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(22.8)	(11.4)	(7.0)	(1.31)	9249	X II	G-13	-
	0562	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(16.9)	(13.0)	(5.0)	(0.78)	9251	X II	G-13	-
	0563	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	(22.8)	(11.5)	(8.3)	(1.57)	9248	X II	G-13	-
	0564	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	16.7	9.6	4.2	0.52	9256	X II	G-13	-
	0565	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A11	B17	SH	-	27.6	14.3	7.1	1.15	9261	X II	G-13	-
	0566	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U6	A11	B17	SH	-	35.1	30.9	11.5	11.68	9263	X II	G-13	-



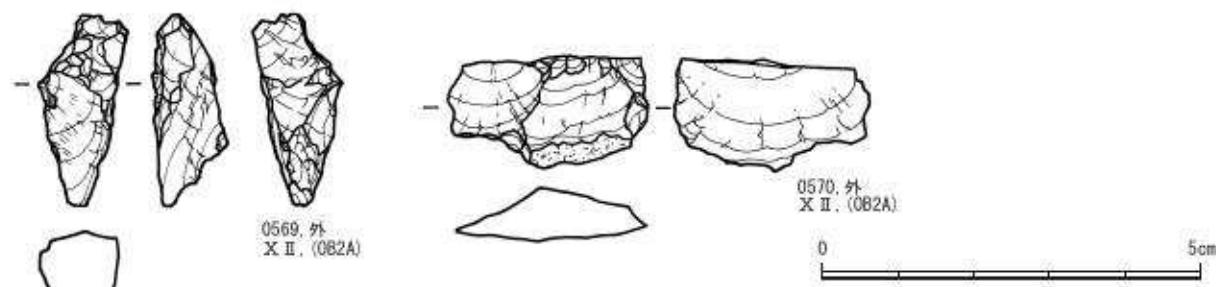
第155図 第III文化層第6ユニット第12エリア遺物出土状況図



第156図 第III文化層第6ユニット第12エリア出土石器実測図

第43表 第III文化層第6ユニット第12エリア出土石器観察表

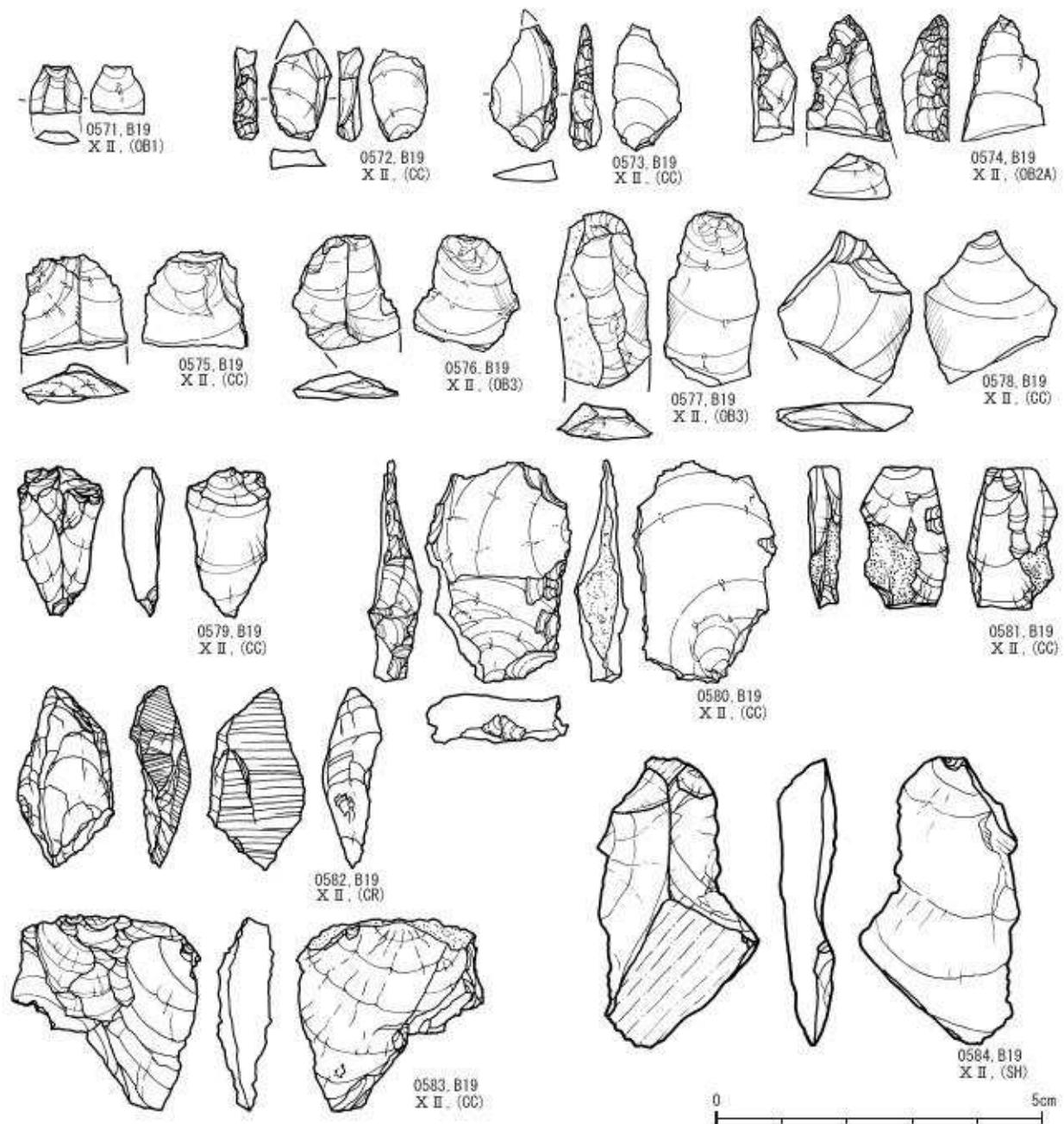
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	L1	L2	石材	石材 L1	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
156	0567	石器	ナイフ形石器	-	III	U6	A12	B18	CC	-	17.7	11.8	4.1	0.53	18311	X II	G-14	-
	0568	チップ	プランティングチップ	-	III	U6	A12	B18	CC	-	14.4	5.7	3.6	0.20	18330	X II	G-14	-



第157図 第III文化層第6ユニットエリア外出土石器実測図

第44表 第III文化層第6ユニットエリア外出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	L1	L2	石材	石材 L1	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	グリッド	接合 No
157	0569	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U6	外	外	OB2	A	25.5	12.0	10.5	2.04	14565	X II	G-14	-
	0570	剥片	折断剥片	-	III	U6	外	外	OB2	A	15.1	26.7	7.5	2.69	9111	X II	G-12	-



第158図 第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア出土石器実測図

第7ユニット

J-13^区, J-14^区にあり、第19ブロックを構成する。

第13エリア(第159^タ, 第158^タ)

第19ブロックはギョクズイ, 黒瀬Ⅱ-A類, 黒瀬Ⅰ類, 黒瀬Ⅱ-C類, 水晶, 重石の石材が使用されている。

鉋^ア 1点(0571), ナイフ形^ア器 3点(0572~0574), 二次打^アのある鉋^ア 2点(0579, 0580)と鉋^ア, チップが確認できる。

鉋^アについて、検討の余地がある。

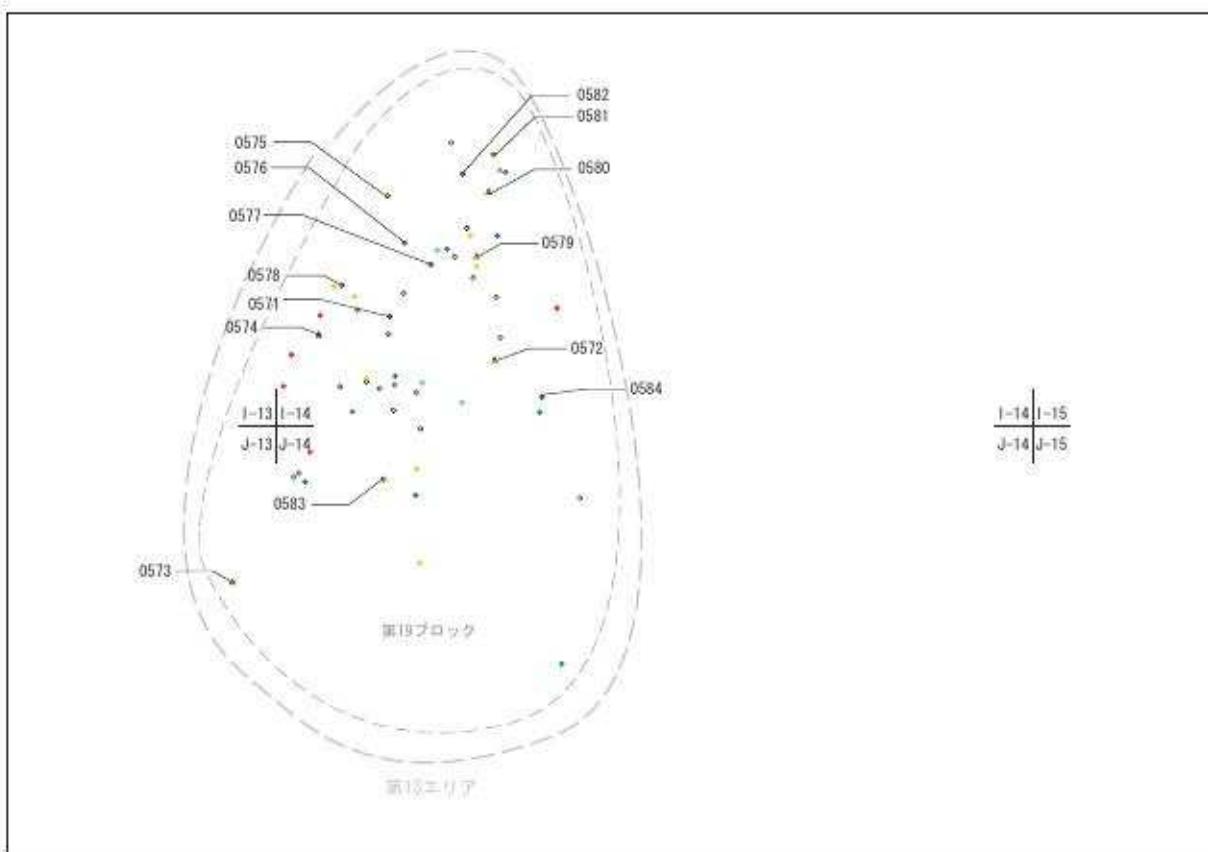
ナイフ形^ア器の0572, 0573は小形に属し、鉋^アからの

なる鉋^アが読みとれる。鉋^アは、一側減力^アである。0574は先端部まで鉋^アがみられるが、鉋^アの利用^アから先端部と判断している。

鉋^アでは、0575, 0577, 0578等の折断^ア法の存在が2つ。

0582は楔形^ア器の取扱片の可能性もある。

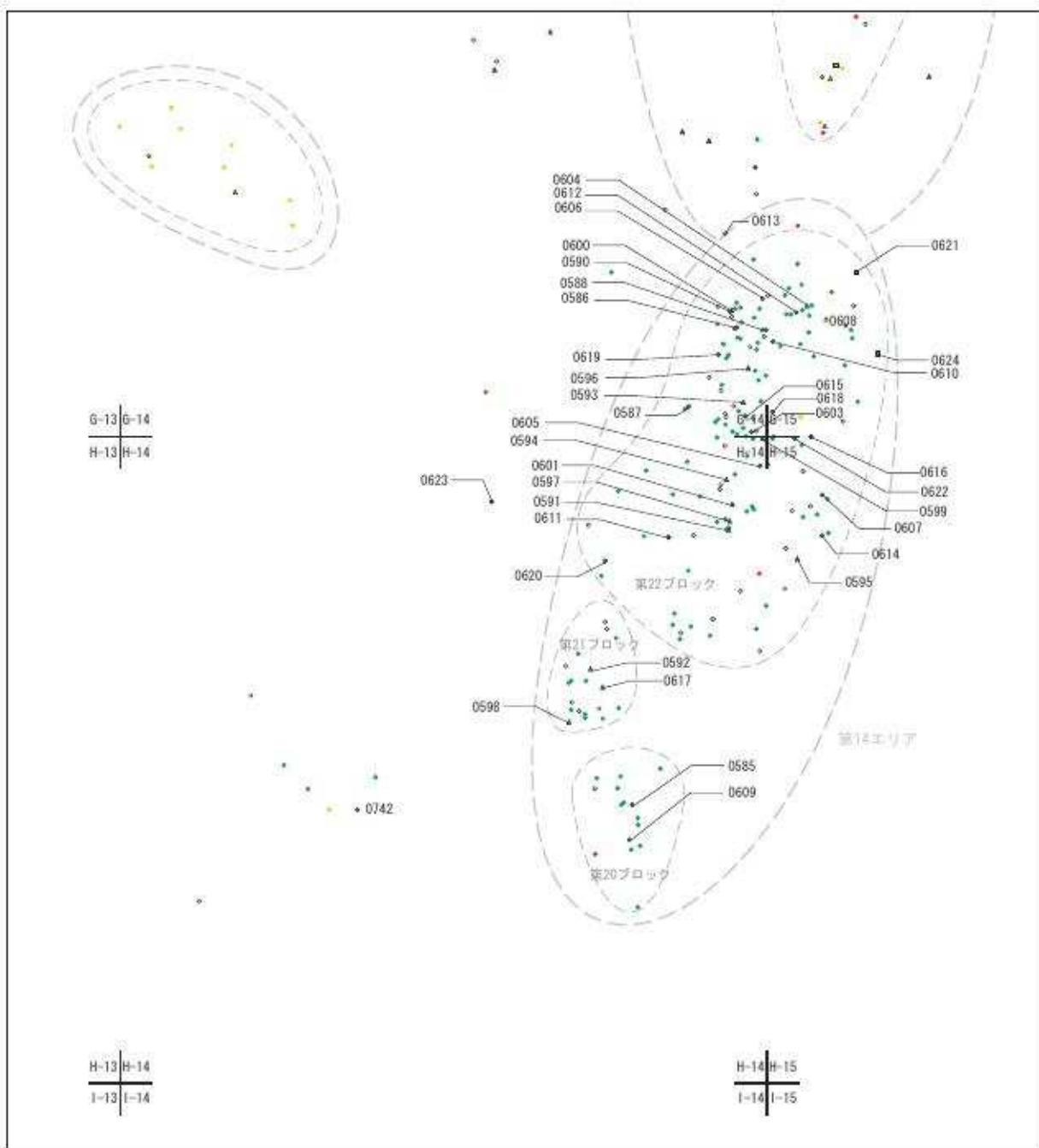
エリア内の遺物からは、ギョクズイを石材にした小型ナイフ形^ア器の存在と、同じ石材の折断^ア片の存在が確認される。



第159図 第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア遺物出土状況図

第45表 第Ⅲ文化層第7ユニット第13エリア出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	エリア	ブロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	判別	接合No
158	0571	剥片	細石刃	-	III	U7	A13	B19	OB1	-	(7.6)	(8.0)	(2.0)	(0.12)	16635	X II	I-14	-
	0572	石器	ナイフ形石器	-	III	U7	A13	B19	CC	-	(14.2)	(9.8)	(4.0)	(0.56)	16612	X II	I-14	-
	0573	石器	ナイフ形石器	-	III	U7	A13	B19	CC	-	(19.4)	(10.5)	(5.0)	(0.72)	16700	X II	J-13	-
	0574	石器	ナイフ形石器	-	III	U7	A13	B19	OB2	A	(19.4)	(13.1)	(7.5)	(1.39)	16642	X II	I-14	-
	0575	剥片	折断剥片	-	III	U7	A13	B19	CC	-	(15.5)	(16.5)	(6.0)	(1.32)	16619	X II	I-14	-
	0576	剥片	折断剥片	-	III	U7	A13	B19	OB3	-	(17.4)	(16.7)	(4.2)	(0.86)	16617	X II	I-14	-
	0577	剥片	折断剥片	-	III	U7	A13	B19	OB3	-	(26.9)	(14.8)	(5.5)	(2.02)	16616	X II	I-14	-
	0578	剥片	折断剥片	-	III	U7	A13	B19	CC	-	(23.4)	(20.6)	(4.4)	(1.69)	16626	X II	I-14	-
	0579	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U7	A13	B19	CC	-	22.8	13.2	6.8	1.34	16605	X II	I-14	-
	0580	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U7	A13	B19	CC	-	33.8	22.5	8.2	4.97	16597	X II	I-14	-
	0581	剥片	-	-	III	U7	A13	B19	CC	-	21.8	13.6	5.2	1.62	16943	X II	I-14	-
	0582	剥片	-	-	III	U7	A13	B19	CR	-	28.0	15.1	9.8	2.79	16595	X II	I-14	-
	0583	剥片	-	-	III	U7	A13	B19	CC	-	29.8	29.0	9.0	5.59	16927	X II	J-14	-
	0584	剥片	-	-	III	U7	A13	B19	SH	-	44.4	25.0	9.2	5.97	16585	X II	I-14	-



第160図 第III文化層第8ユニット第14エリア遺物出土状況図

第8ユニット

F, G, H-14, 15区の東側部分に分布し、第15エリアと第16エリアで構成する。

第14エリア(第160ヶ、第161~164ヶ)

G, H-14, 15区にあり、3つのブロックで構成する。其の部分は調査区域外に相当する。

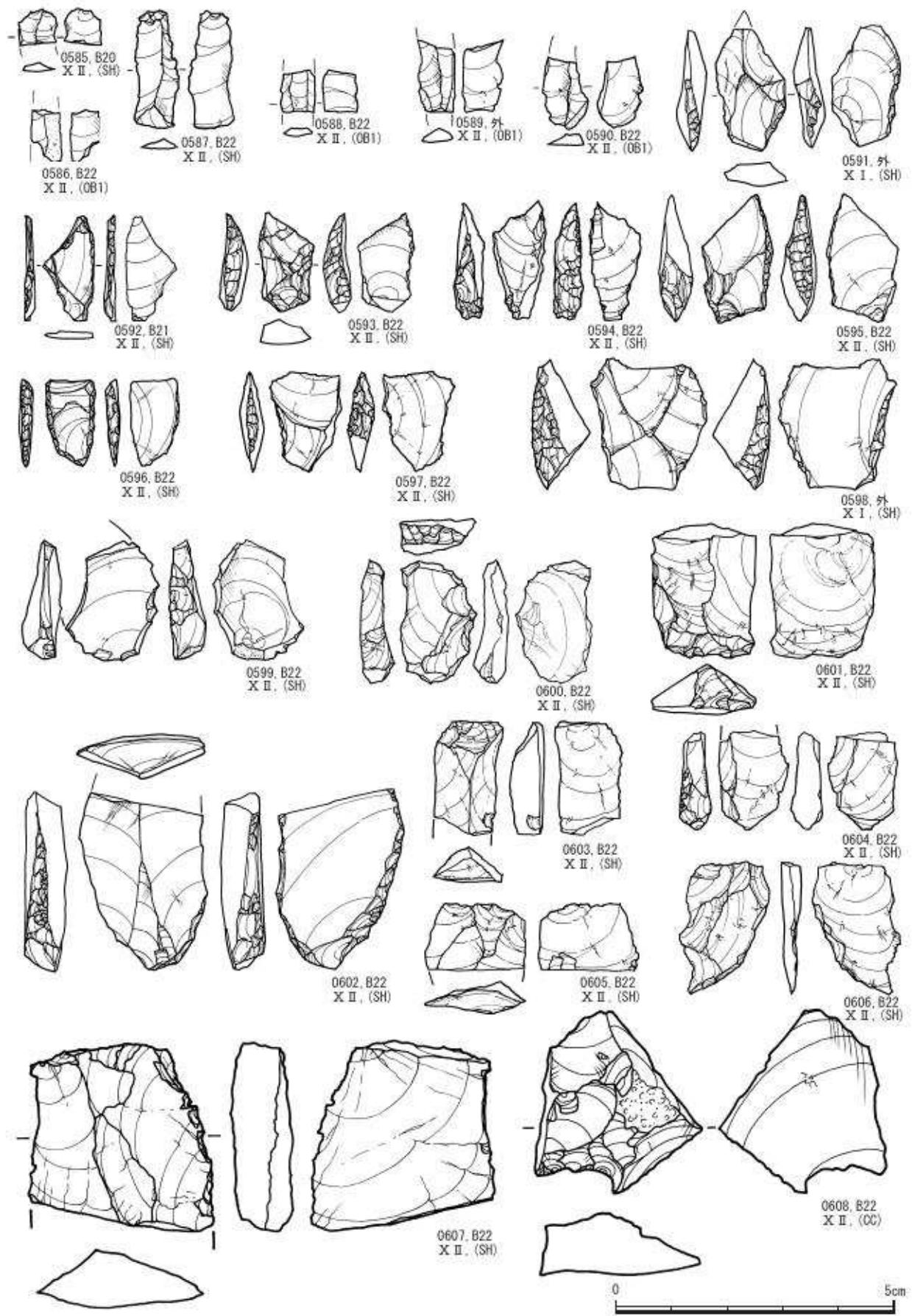
第20、第21、第22ブロックは其の名前でブロックで、第22ブロックでは其のI類、其のII-C類、ギョクズイが少數ずつなることが判明がみられる。

記号 # 6点(0585~0590)、ナイフ形器10点(0591~

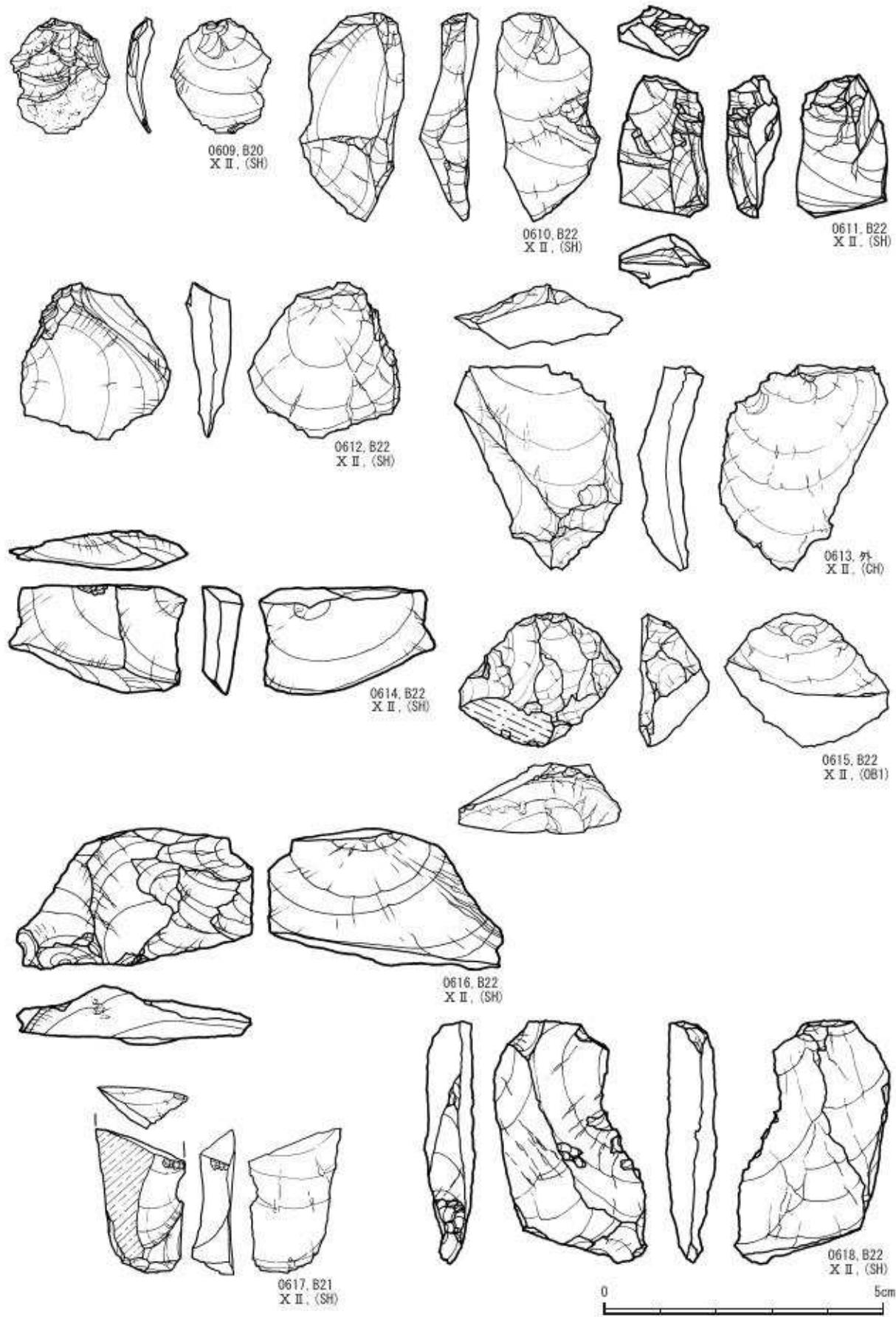
0599・0602)、スクレイバー1点(0608)、二刃刀のある鉄片3点(0600, 0601, 0604)、ハンマーストーン2点(0623, 0622)、石核2点(0624, 0621)、骨泥棒頭根のある鉄片1点(0606)のほか鉄片若干が確認できる。

6点の鉄器については、二刃との関係で以下の全形がある。

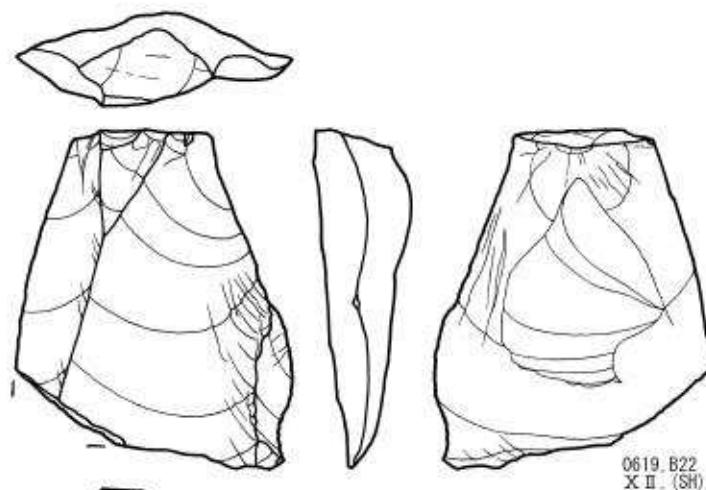
ナイフ形器(0592~0595)は二刃間に刃渡し加工した形、0596, 0597, 0598は二刃間に刃渡しを行いつつを結ぶいわゆるV形器に相当する。0591はふるき辺に刃渡し加工を結ぶ。0602は先端部を下くが、長さの絶対



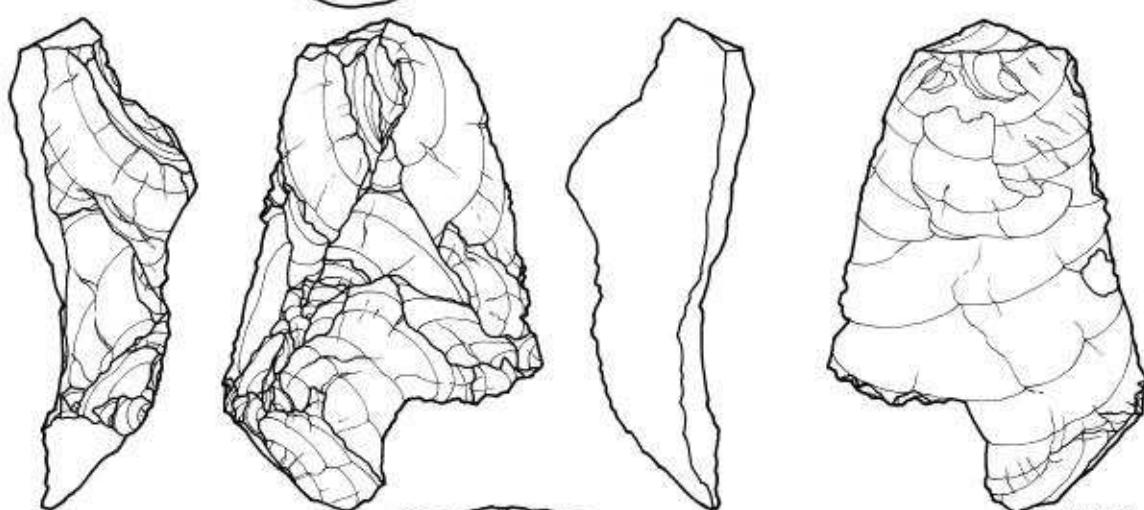
第161図 第III文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(1)



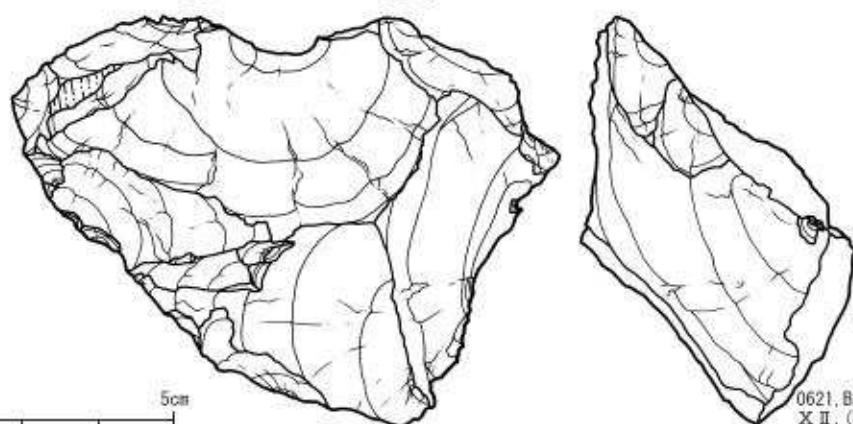
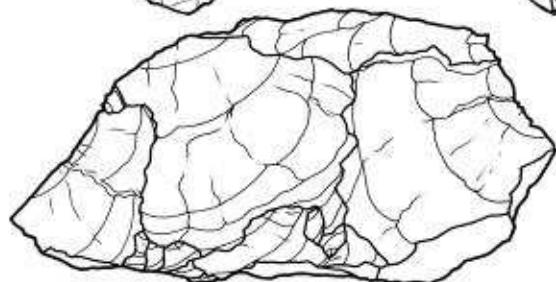
第162図 第III文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(2)



0619, B22
X II, (SH)



0620, B22
X II, (SH)

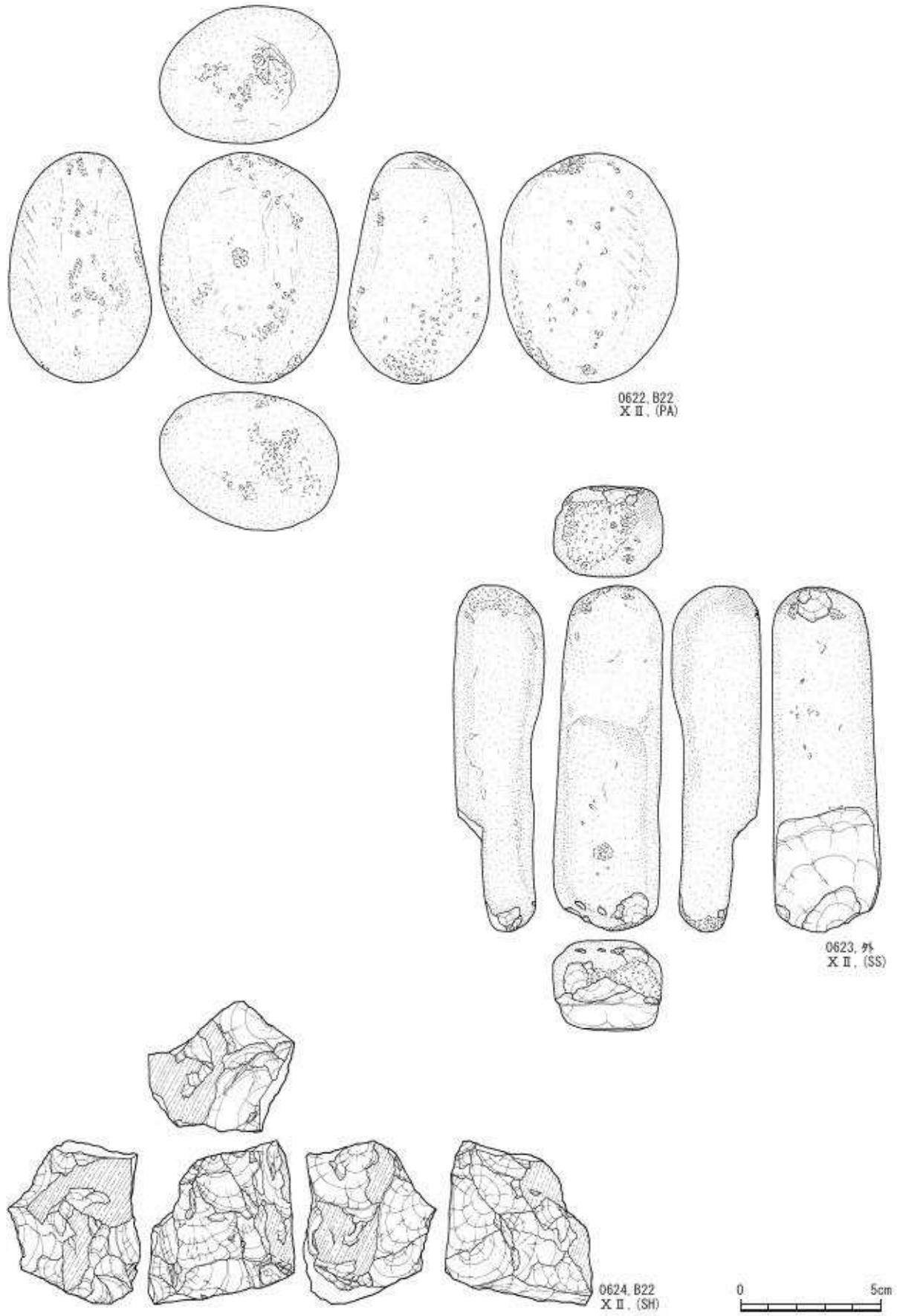


0621, B22
X II, (SH)

0

5cm

第163図 第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(3)



第164図 第III文化層第8ユニット第14エリア出土石器実測図(4)

片を用い、底部からつるぎがみられる。

0602は縦長剥片、0591は横剥ぎの剥片。上の7点は剥片より離れたものとなると底から取り出されたU字型な剥片を示すとしている。

0608は丸いスクレイパー。

二枚刃のある剥片の2点は、剥片の一端に卵状のチップを残す。

ハンマーストーンの0623は上部で端を削りし、取扱痕と離離痕がみられる。0622は上部や端と側面に取扱痕が多数観察できる。

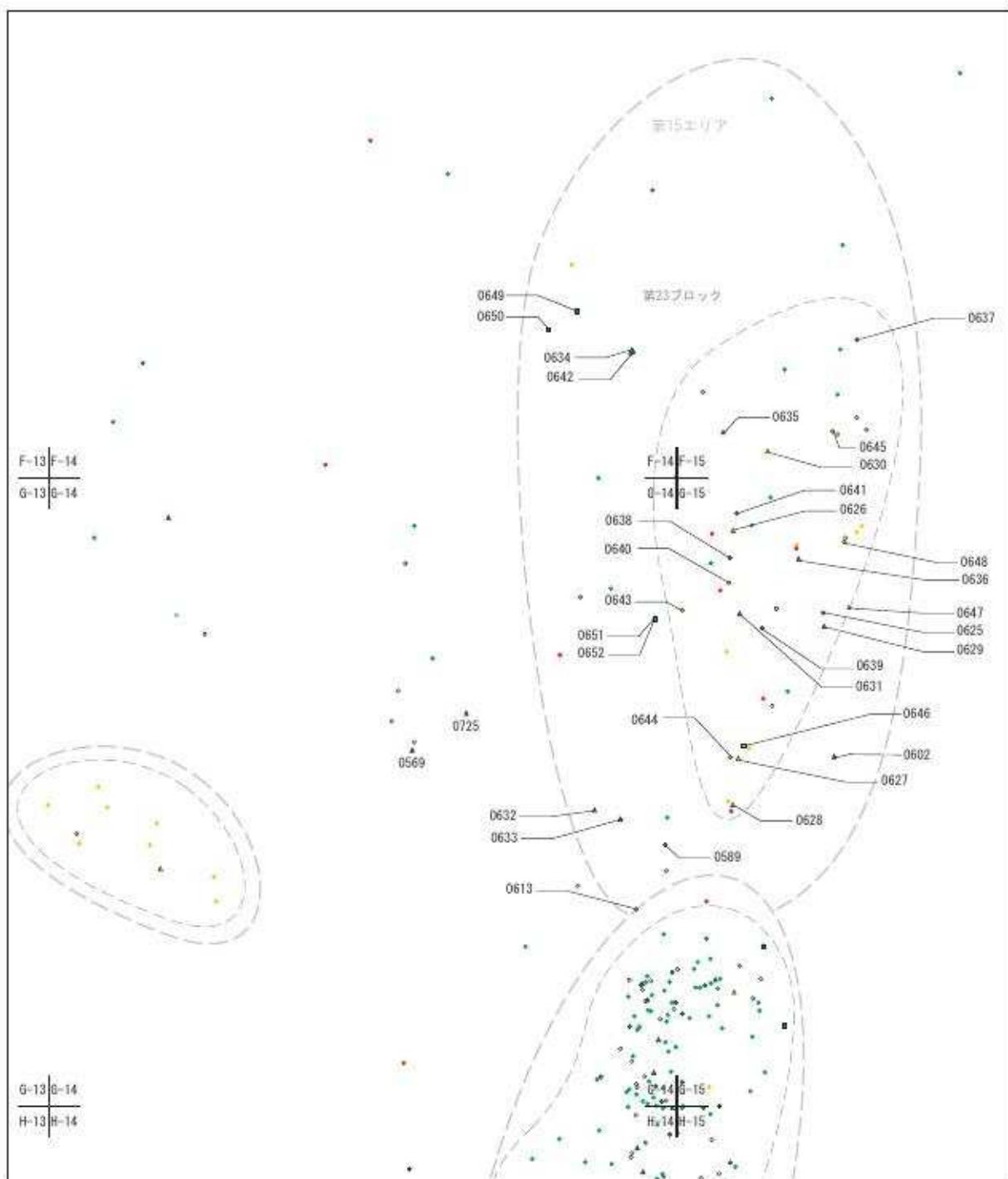
0620, 0621の2枚刃の剥片は、三棱尖頭器の剥片の

可能性を指摘したい。

エリアAのE-II 遺物については、記述では手作業を想したい。ナイフ形石器については、U字形とV字形の石器が安定して存在し、実際にナイフ形石器の小型化の傾向を指摘できる。

第46表 第Ⅲ文化層第8ユニット第14エリア出土石器観察表

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	ユニット	プロック	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	別名	接合No
	0585	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	B20	SH	(6.7)	(7.1)	(2.0)	(0.09)	15868	X II	H-14	-
	0586	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	B22	OB1	(9.6)	(5.8)	(1.9)	(0.11)	14664	X II	G-14	-
	0587	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	B22	SH	21.3	8.3	1.8	0.38	15808	X II	G-14	-
	0588	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	B22	OB1	(7.7)	(6.4)	(1.5)	(0.06)	15907	X II	G-14	-
	0589	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	外	OB1	(13.1)	(7.0)	(2.5)	(0.20)	14678	X II	G-14	-
	0590	剥片	細石刃	-	IV	U8	A14	B22	OB1	(12.9)	(8.3)	(2.0)	(0.18)	14666	X II	G-14	-
	0591	石器	ナイフ形石器	-	IV	U8	A14	外	SH	(22.0)	(12.3)	(5.8)	(1.23)	14658	X I	H-14	-
161	0592	石器	ナイフ形石器	切出形	IV	U8	A14	B21	SH	18.7	9.4	2.2	0.26	15838	X II	H-14	-
	0593	石器	ナイフ形石器	切出形	IV	U8	A14	B22	SH	17.9	10.0	5.0	0.80	15779	X II	G-14	-
	0594	石器	ナイフ形石器	切出形	IV	U8	A14	B22	SH	21.3	9.7	5.3	0.98	16988	X II	H-14	-
	0595	石器	ナイフ形石器	切出形	IV	U8	A14	B22	SH	23.2	13.0	6.7	1.55	15812	X II	H-15	-
	0596	石器	ナイフ形石器	-	IV	U8	A14	B22	SH	(15.5)	(9.0)	(3.0)	(0.38)	15796	X II	G-14	-
	0597	石器	ナイフ形石器	台形石器	IV	U8	A14	B22	SH	18.1	13.1	5.0	0.87	15990	X II	H-14	-
	0598	石器	ナイフ形石器	台形石器	IV	U8	A14	外	SH	23.6	21.0	10.3	3.52	15179	X I	H-14	-
	0599	石器	ナイフ形石器	-	IV	U8	A14	B22	SH	(21.4)	(16.9)	(6.9)	(1.80)	21616	X II	H-14	-
	0600	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	22.1	13.9	6.2	1.68	15918	X II	G-14	-
	0601	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	24.3	18.9	9.0	4.05	16116	X II	H-14	-
	0602	石器	ナイフ形石器	-	IV	U8	A14	B22	SH	(31.9)	(23.2)	(8.0)	(6.03)	14475	X II	G-15	-
	0603	剥片	折断剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	(20.6)	(12.5)	(6.1)	(1.40)	21612	X II	G-14	-
	0604	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	(17.8)	(12.7)	(6.0)	(1.13)	15747	X II	G-15	-
	0605	剥片	折断剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	(12.1)	(18.2)	(6.0)	(1.10)	15987	X II	H-14	-
	0606	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	23.8	16.3	4.0	0.92	15804	X II	G-14	-
	0607	剥片	折断剥片	-	IV	U8	A14	B22	SH	(33.6)	(33.4)	(11.5)	(3.78)	15922	X II	H-15	-
	0608	石器	スクレイパー	抉入石器	IV	U8	A14	B22	CC	32.8	30.3	12.0	10.32	15748	X II	G-15	-
162	0609	チップ	プランティングチップ	-	IV	U8	A14	B20	SH	20.6	18.0	5.1	1.07	15872	X II	H-14	-
	0610	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	37.4	18.9	10.2	4.14	15754	X II	G-15	-
	0611	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	25.6	16.4	10.0	3.12	17017	X II	H-14	-
	0612	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	28.1	26.9	8.2	4.48	15975	X II	G-15	-
	0613	剥片	-	-	IV	U8	A14	外	CH	36.8	30.2	12.0	6.80	15806	X II	G-14	-
	0614	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	19.7	31.9	7.5	3.79	16112	X II	H-15	-
	0615	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	OB1	24.2	29.2	12.5	6.45	15980	X II	G-14	-
	0616	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	25.4	42.5	11.8	8.00	16530	X II	H-15	-
	0617	石器	剥片	-	IV	U8	A14	B21	SH	(25.9)	(16.2)	(7.8)	(2.05)	15836	X II	H-14	110
	0618	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	43.5	27.6	9.2	9.96	16104	X II	G-15	-
	0619	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	45.0	36.7	13.1	15.40	15784	X II	G-14	-
163	0620	剥片	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	64.9	42.4	25.0	38.32	15846	X II	H-14	-
	0621	石核	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	54.4	72.3	36.5	94.98	17013	X II	G-15	-
164	0622	石器	ハンマー	-	IV	U8	A14	B22	PA	82.2	63.8	50.0	366.00	15982	X II	H-15	-
	0623	石器	ハンマー	-	IV	U8	A14	外	SS	122.5	39.3	32.0	228.87	15853	X II	H-14	-
	0624	石核	-	-	IV	U8	A14	B22	SH	58.2	52.3	47.6	132.68	16526	X II	G-15	-



第165図 第III文化層第8ユニット第15エリア遺物出土状況図

第15エリア(第165図、第166～169図)

F-G-14, 15区にあり、リボンとギョクズイに属するI類、
リボンII-A類、リボンIII類が少數かわる。

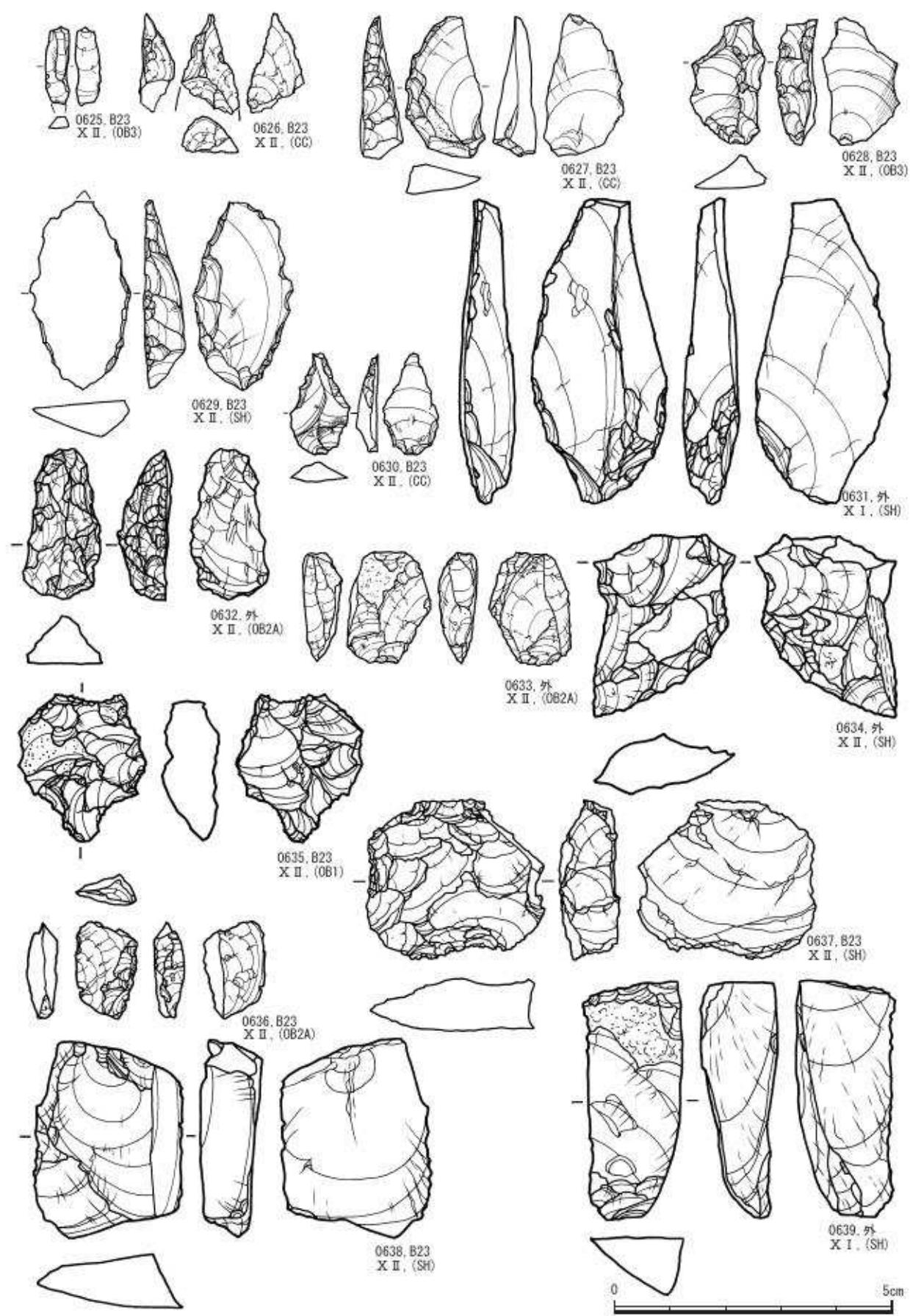
鉈器 1点(0625)、ナイフ形器 4点(0626～
0629, 0631)、三棱尖頭器 1点(0632)、楔形器 2点
(0633, 0635)、スクレイバー 2点(0634, 0637)、石核 5点
(0646, 0649～0651)、石器 1点(0653)、鉄片 等の器種が
確認できる。

鉈器については可成りの余地があるといえる。

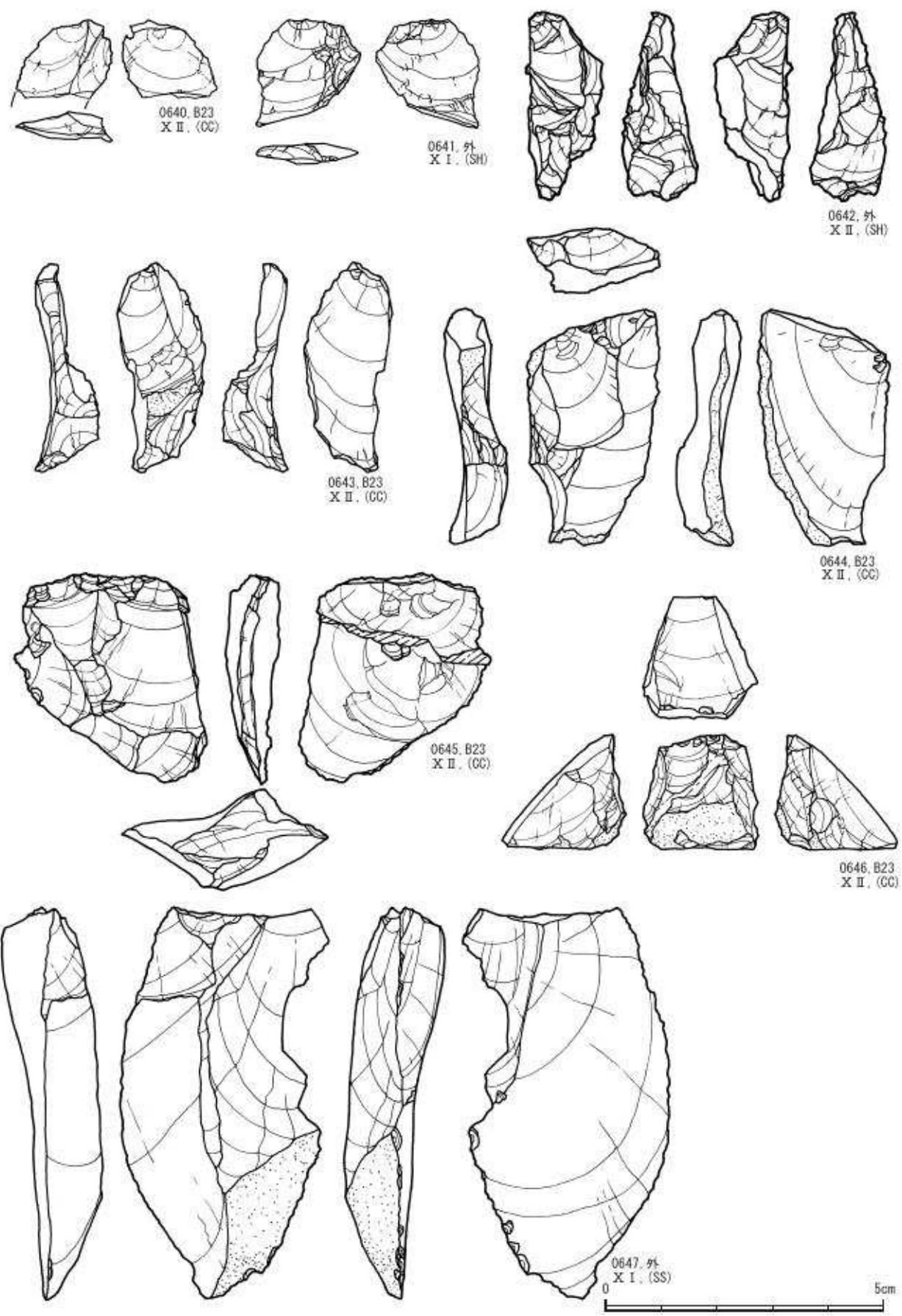
ナイフ形器の0627～0629の3点は、便箋刃で、
0627と0628は下部刃片を削りし、0628は先端部は下落
している。なお、0629は若干の刃部は読みとれない。
先端部を下く0631は、基部をサムナード溝した刃口がみられ
る。

0632の三棱尖頭器は破損した痕跡がなく、製作途上の
小型資料と判断している。

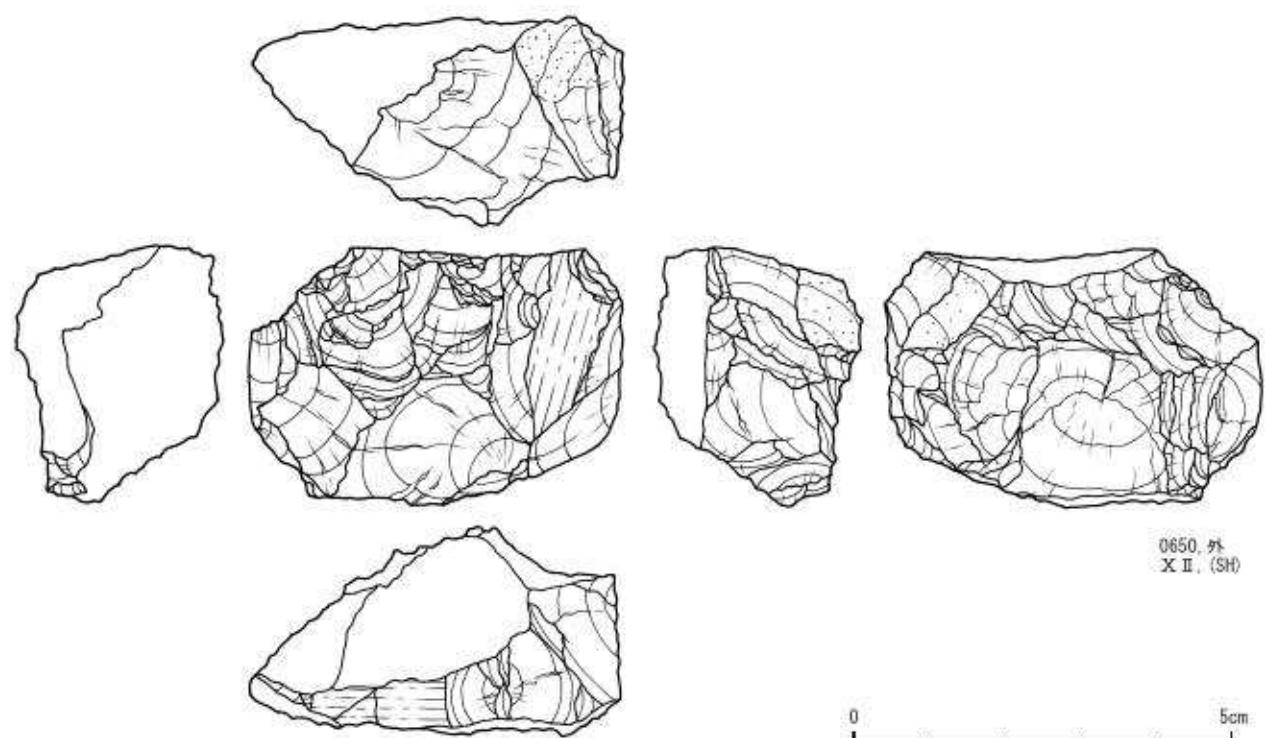
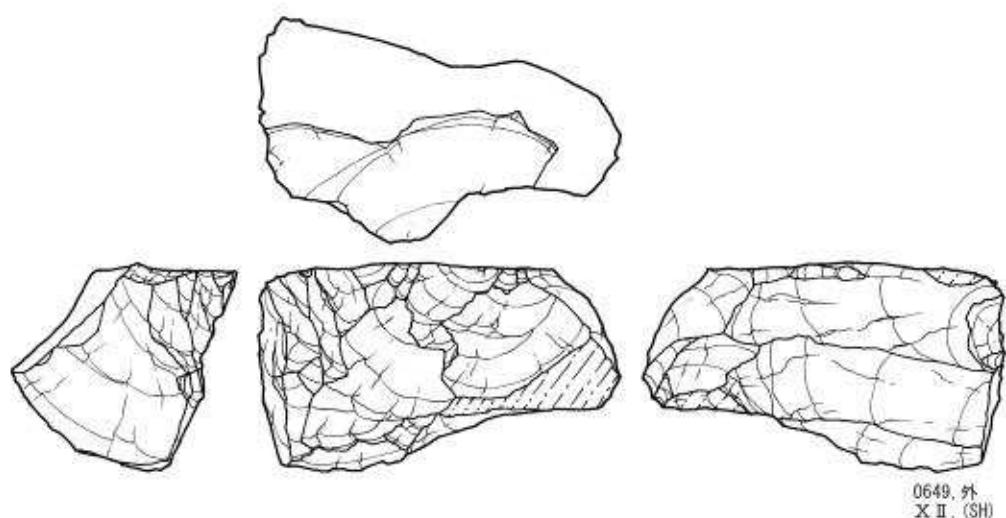
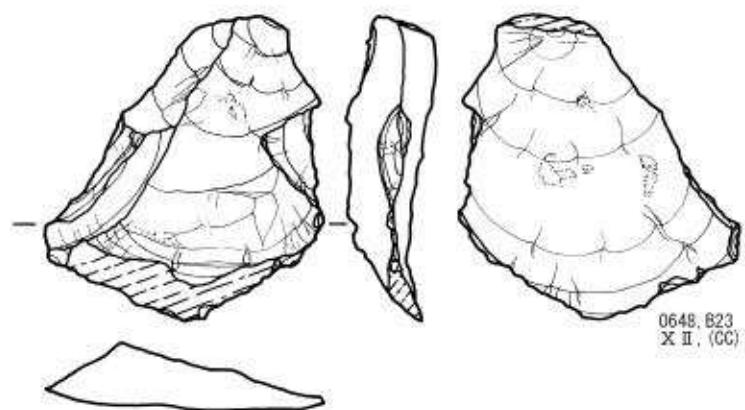
0633と0635は楔形器と判断したもので、特に、0633



第166図 第III文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(1)



第167図 第III文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(2)

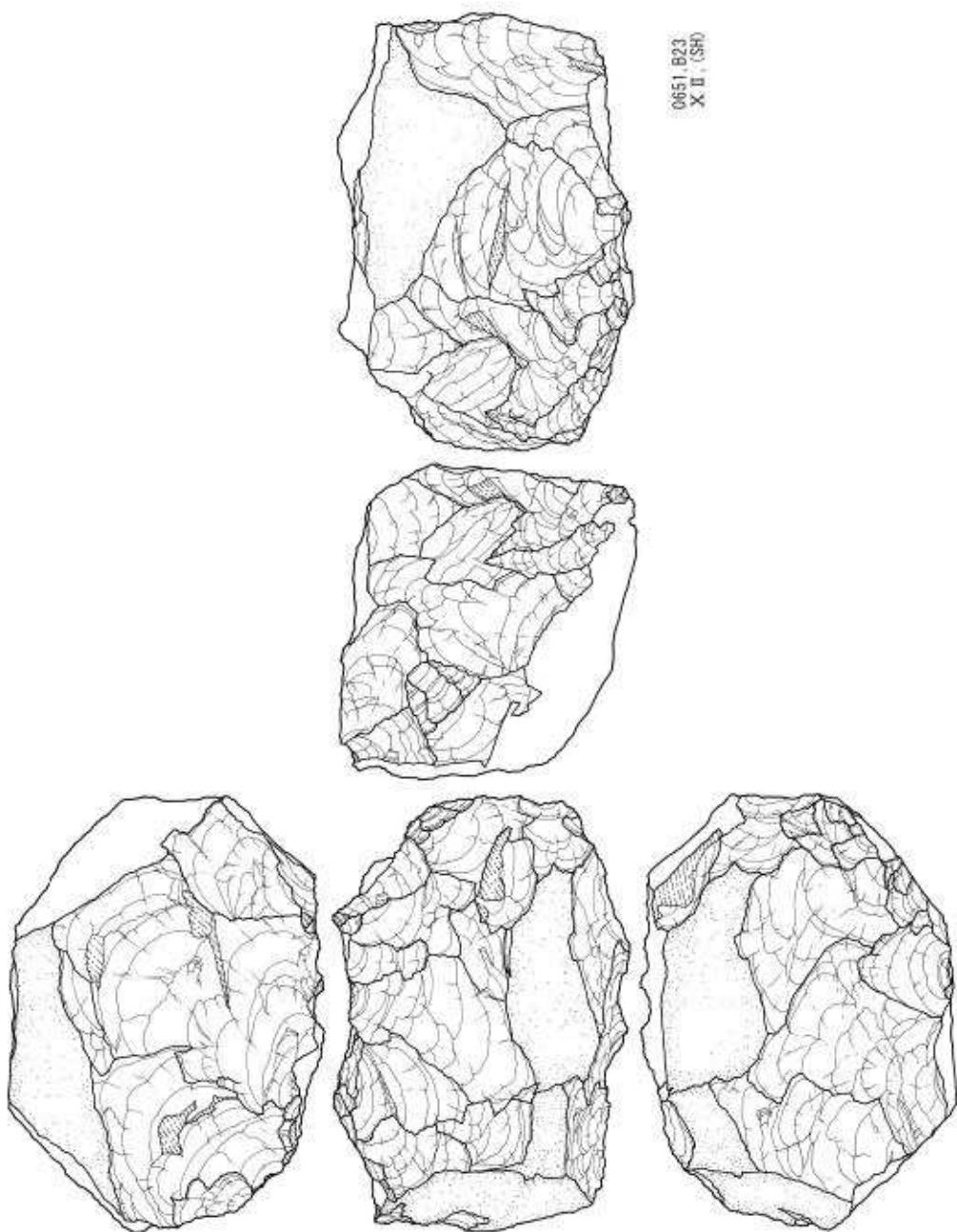


第168図 第III文化層第8ユニット第15エリア出土石器実測図(3)

0 5cm

0 5cm

第169図 第Ⅲ文化層第8ユニット第15エニア出土石器実測図(4)



は上から作られたが印象で、上端には狭い切欠きを堵ち、下端部には複数箇所もみられる。0635も上端に狭い切欠きを施している。

2点のスクレイパー(0634, 0637)は、単純な機能が強調されている。

石核は筒型の多いものため、品質の良片を取り扱っていないとみえる。0651の石核からは、やや細長い下部形跡片があり剥されたとみられる。0651は刃先が後退を成すくぼみ跡石核で、現状で取り扱われた良片は下部形跡片である。

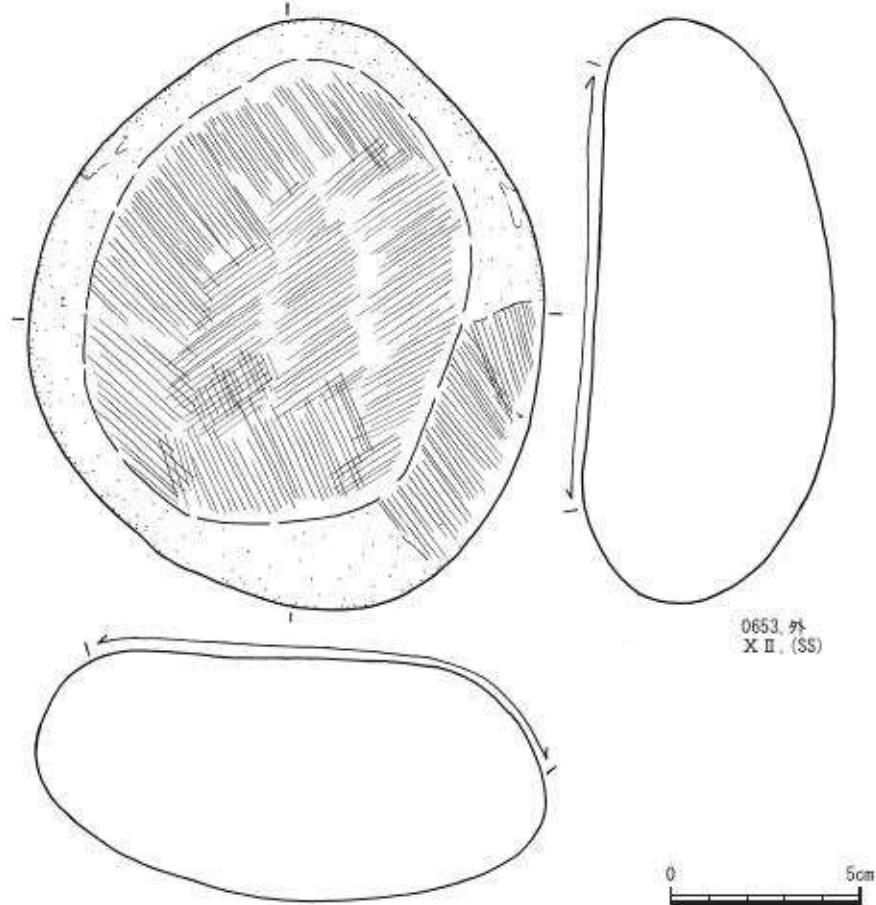
0653の石核は砂岩で、刃部が消耗し浅い凹状に宿っている。

エリア外(第170ヶ)

エリア外から0653を採取している。刃部を用い、この辺の生産地が消耗し若く宿む様子を示している。

第47表 第Ⅲ文化層第8ユニット第15エリア出土石器観察表

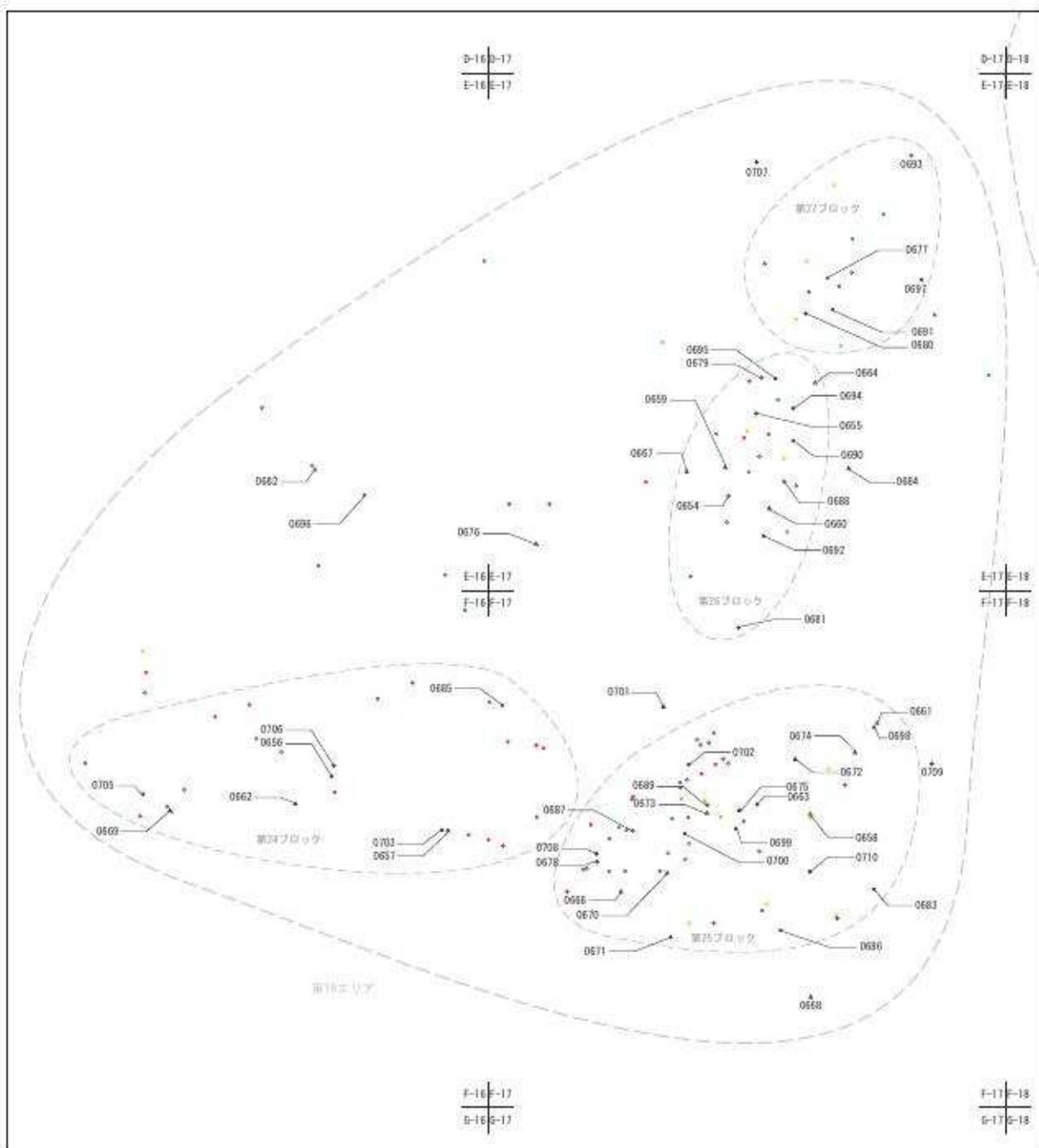
標識 No	圓 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エラフ	コウカ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 層位	ガバメ ガバメ	接合 No	
166	0625	剥片	細石刃	-	III	U8	A15	B23	OB3	-	(14.1)	(4.4)	(2.5)	(0.12)	14501	X II	G-15	-
	0626	石器	ナイフ形石器	-	III	U8	A15	B23	CC	-	(18.0)	(10.6)	(6.7)	(0.59)	14486	X II	G-15	-
	0627	石器	ナイフ形石器	-	III	U8	A15	B23	CC	-	25.5	14.5	8.0	2.22	14470	X II	G-15	-
	0628	石器	ナイフ形石器	-	III	U8	A15	B23	OB3	-	22.7	13.7	7.2	1.75	15904	X II	G-15	-
	0629	石器	ナイフ形石器	-	III	U8	A15	B23	SH	-	33.7	18.8	7.2	3.62	14502	X II	G-15	-
	0630	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U8	A15	B23	CC	-	18.3	11.0	4.0	0.60	14715	X II	F-15	-
	0631	石器	ナイフ形石器	-	III	U8	A15	外	SH	-	54.7	24.7	10.3	10.50	14480	X I	G-15	-
	0632	石器	三棱尖頭器	-	III	U8	A15	外	OB2	A	27.2	14.3	10.0	2.73	14681	X II	G-14	-
	0633	石器	模形石器	-	III	U8	A15	外	OB2	A	20.2	15.2	7.2	1.86	14680	X II	G-14	-
	0634	石器	スクレイパー	削器	III	U8	A15	外	SH	-	32.8	25.8	12.0	10.08	14591	X II	F-14	82
167	0635	石器	模形石器	-	III	U8	A15	B23	OB1	-	26.5	23.3	11.2	4.11	14716	X II	F-15	-
	0636	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U8	A15	B23	OB2	A	17.7	11.4	6.0	0.84	14496	X II	G-15	-
	0637	剥片	スクレイパー	-	III	U8	A15	B23	SH	-	29.0	32.2	11.0	10.53	14704	X II	F-15	83
	0638	剥片	-	-	III	U8	A15	B23	SH	-	35.5	27.1	11.2	10.38	14485	X II	G-15	66
	0639	剥片	-	-	III	U8	A15	外	SH	-	42.7	18.2	14.1	9.85	14499	X I	G-15	66
	0640	剥片	折断剥片	-	III	U8	A15	B23	CC	-	(14.2)	(17.3)	(5.2)	(0.87)	14482	X II	G-15	-
	0641	剥片	-	-	III	U8	A15	外	SH	-	19.3	18.9	3.8	0.96	14487	X I	G-15	-
	0642	剥片	剥片	調整剥片	III	U8	A15	外	SH	-	33.9	14.0	14.0	4.96	14592	X II	F-14	82
168	0643	剥片	-	-	III	U8	A15	B23	CC	-	37.7	16.1	12.0	3.97	14726	X II	G-15	-
	0644	剥片	-	-	III	U8	A15	B23	CC	-	42.5	24.1	10.5	7.95	14469	X II	G-15	-
	0645	剥片	-	-	III	U8	A15	B23	CC	-	37.5	34.8	10.0	10.03	14712	X II	F-15	-
	0646	石核	-	-	III	U8	A15	B23	CC	-	20.8	20.9	22.1	8.30	14471	X II	G-15	-
	0647	剥片	-	-	III	U8	A15	外	SS	-	70.3	38.3	18.1	28.12	14500	X I	G-15	-
	0648	剥片	-	-	III	U8	A15	B23	CC	-	40.4	37.0	12.1	11.37	14723	X II	G-15	-
	0649	石核	-	-	III	U8	A15	外	SH	-	27.7	47.9	30.0	32.13	14587	X II	F-14	-
169	0650	石核	-	-	III	U8	A15	外	SH	-	34.2	49.5	27.8	47.29	14586	X II	F-14	-
169	0651	石核	-	-	III	U8	A15	B23	SH	-	121.0	82.3	88.2	1,332.00	14727	X II	G-14	-



第170図 第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器実測図

第48表 第Ⅲ文化層第8ユニットエリア外出土石器観察表

插図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	ヨリア	ジョウ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	判別 No.	接合 No.
170	0653	石器	石皿	-	III	U8	外	外	SS	-	156.1	136.0	66.4	2,100.00	15393	X II	F-15	-



第171図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア遺物出土状況図

第9ユニット

E, F-16^区からD, E-18^区に分かれて、2つのエリアを構成する。東、又部分は順序空域内に逃げる。

第16エリア(第171巻、第172~178巻)

E-16, 17^々, F-16, 17^々に広く分布するが、散在的であり遺物の量は多くない。製品のみが多いだけでもナイフ形石器の定める比率が高い。

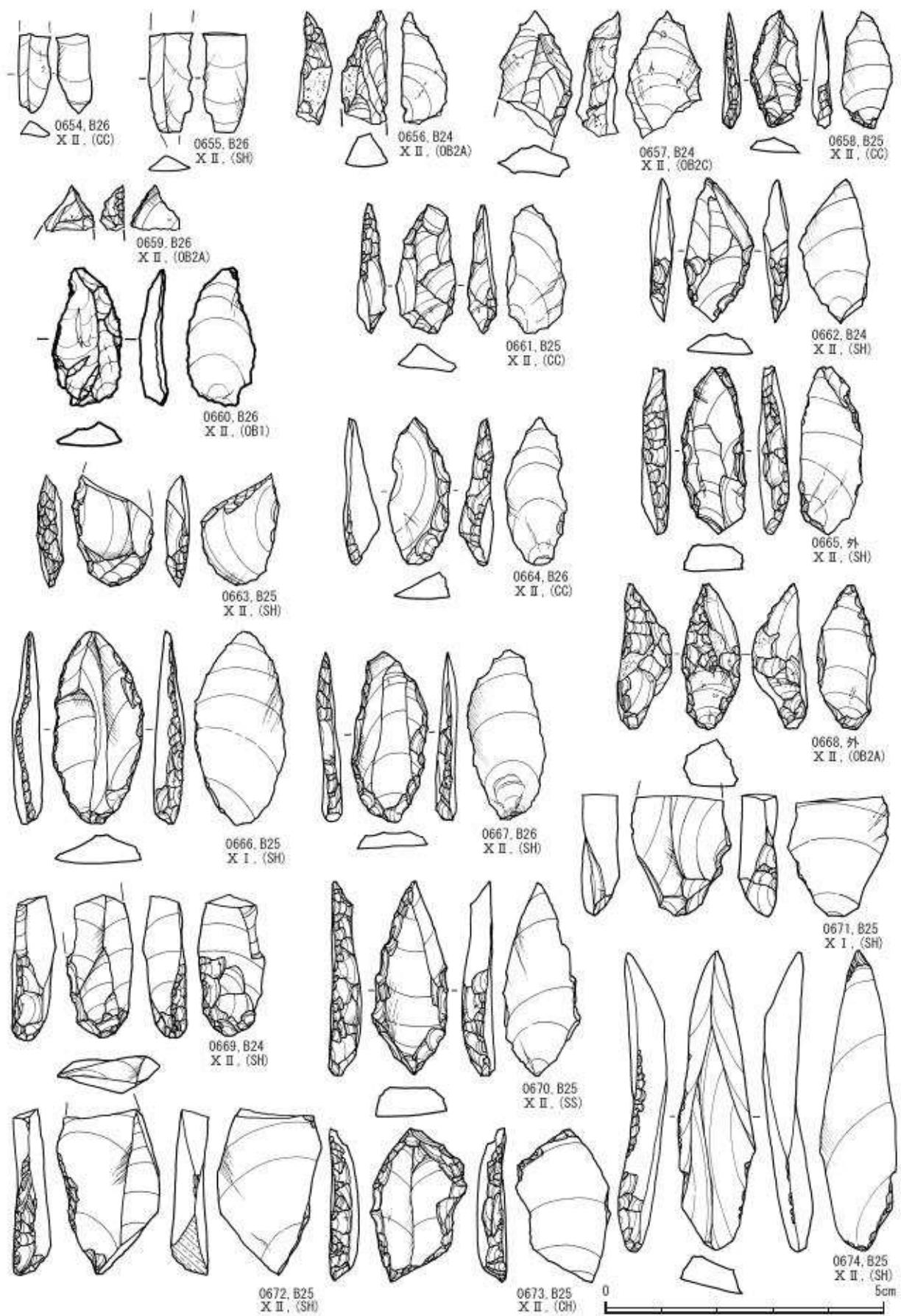
第24ブロックは黒譜¹⁰ II-A類¹¹ にすきが少數含まれる。第25ブロック、第26ブロックは黒譜¹⁰ II-A類¹¹ すき、ギョクズイがほぼ少數使われ、第27ブロックでは

著者、ギョクズイを^きに構成する。

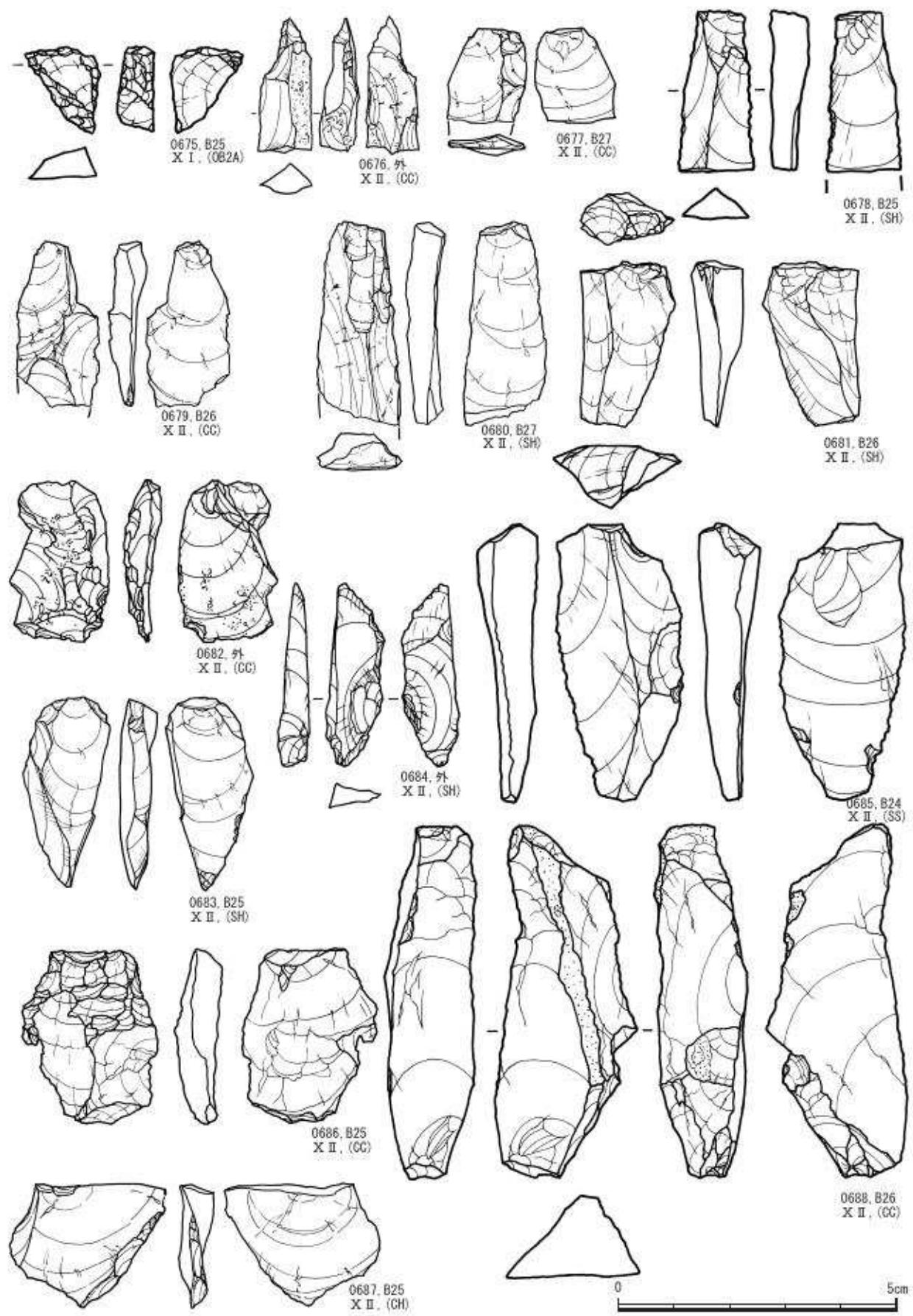
器類は縄文2点(0654, 0655), ナイフ形器20点(0659~0675), 錐状器1点(0676), スクレイバー2点(0701, 0699), 矛3点(0708~0710)と幣1点(0707)等が確認できる。

記もアに關しては、二層との検査が必要とされる。

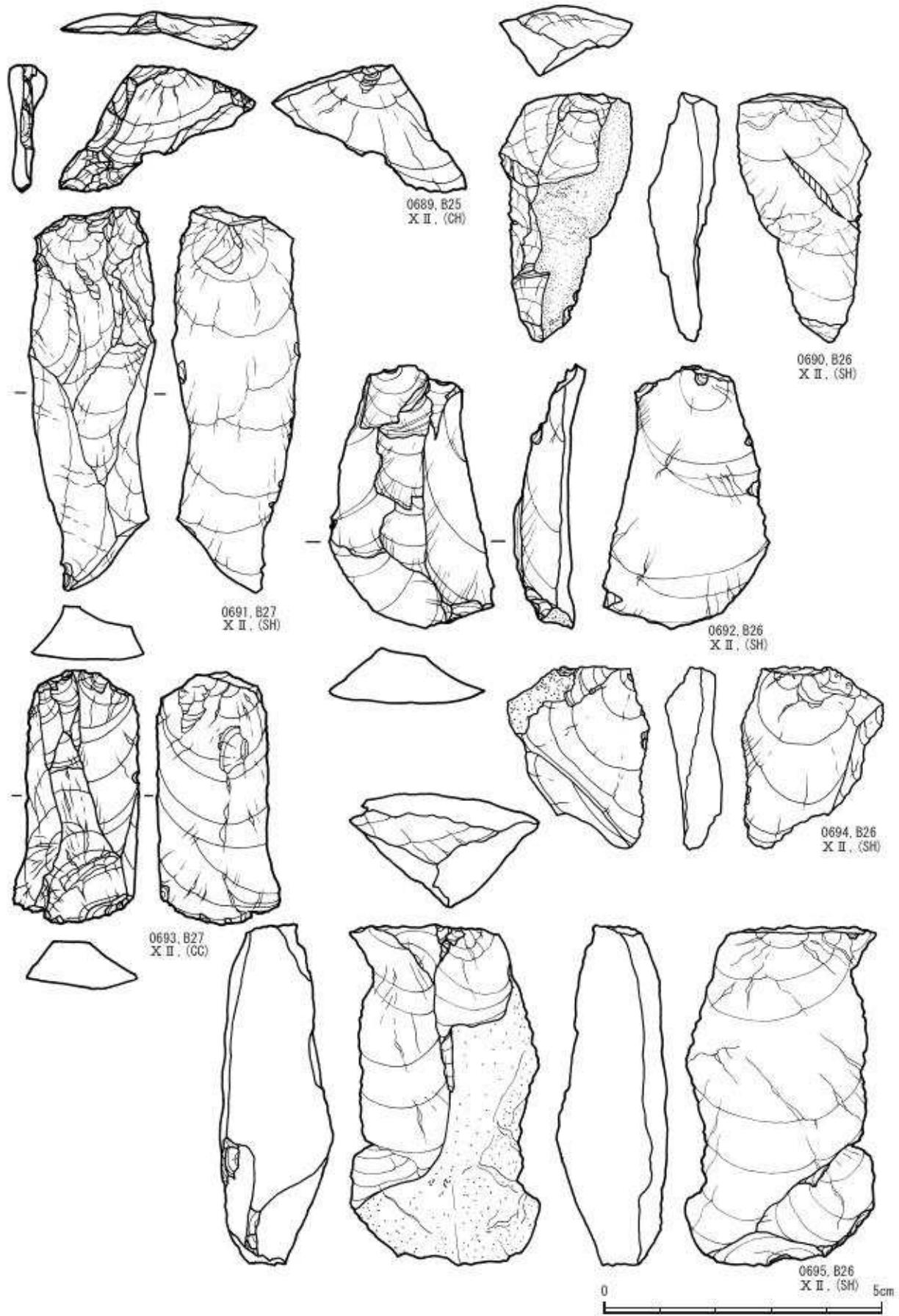
ナイフ形器は小型の縱刺ぎ刺片を複用した0658, 0601, 0661と、縦長刺片を素材とした0666, 0667, 0669～0674と下定形刺片を用いた0656, 0664, 0668、縦長刺片複用の0663がみられる。また、



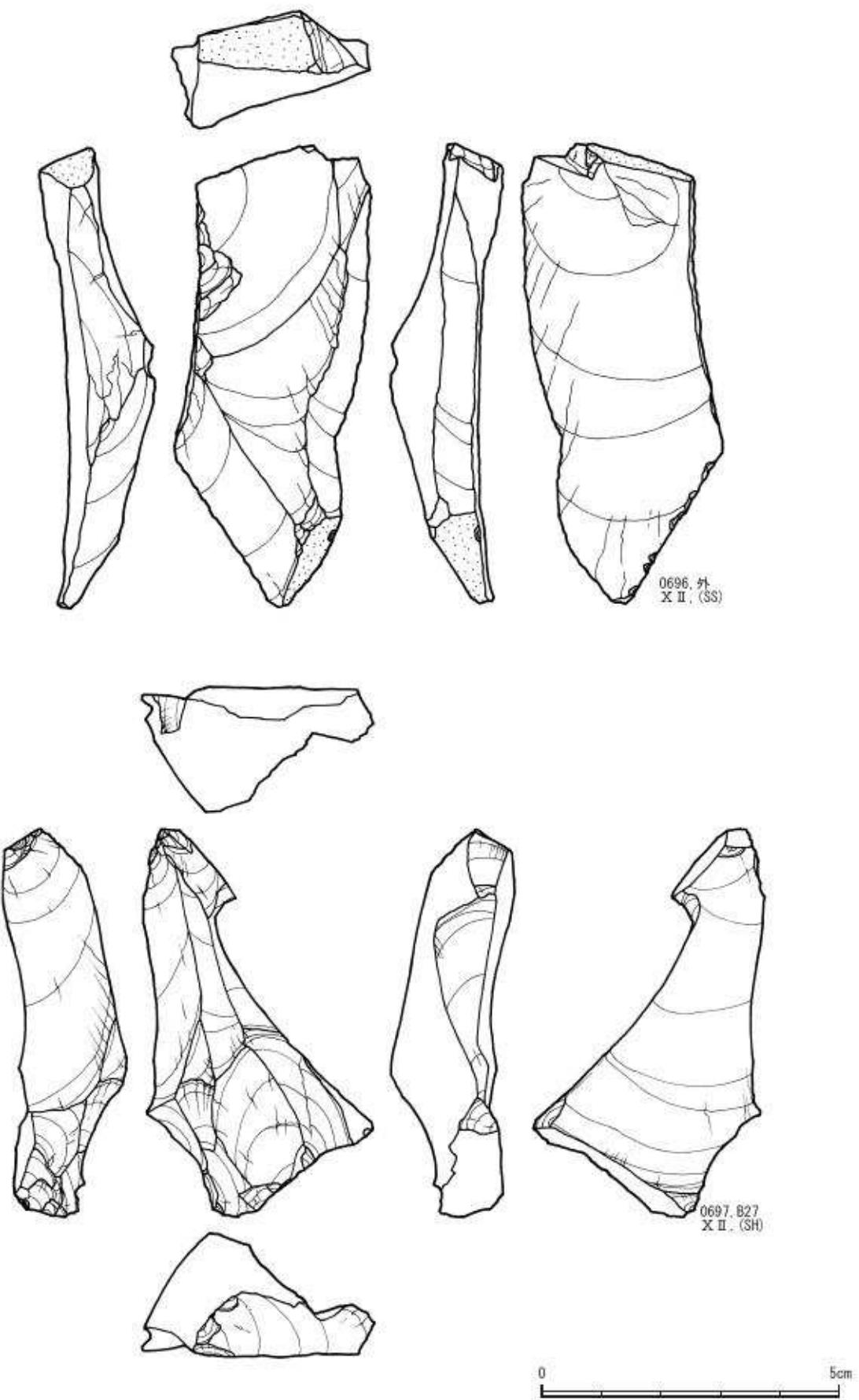
第172図 第III文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(1)



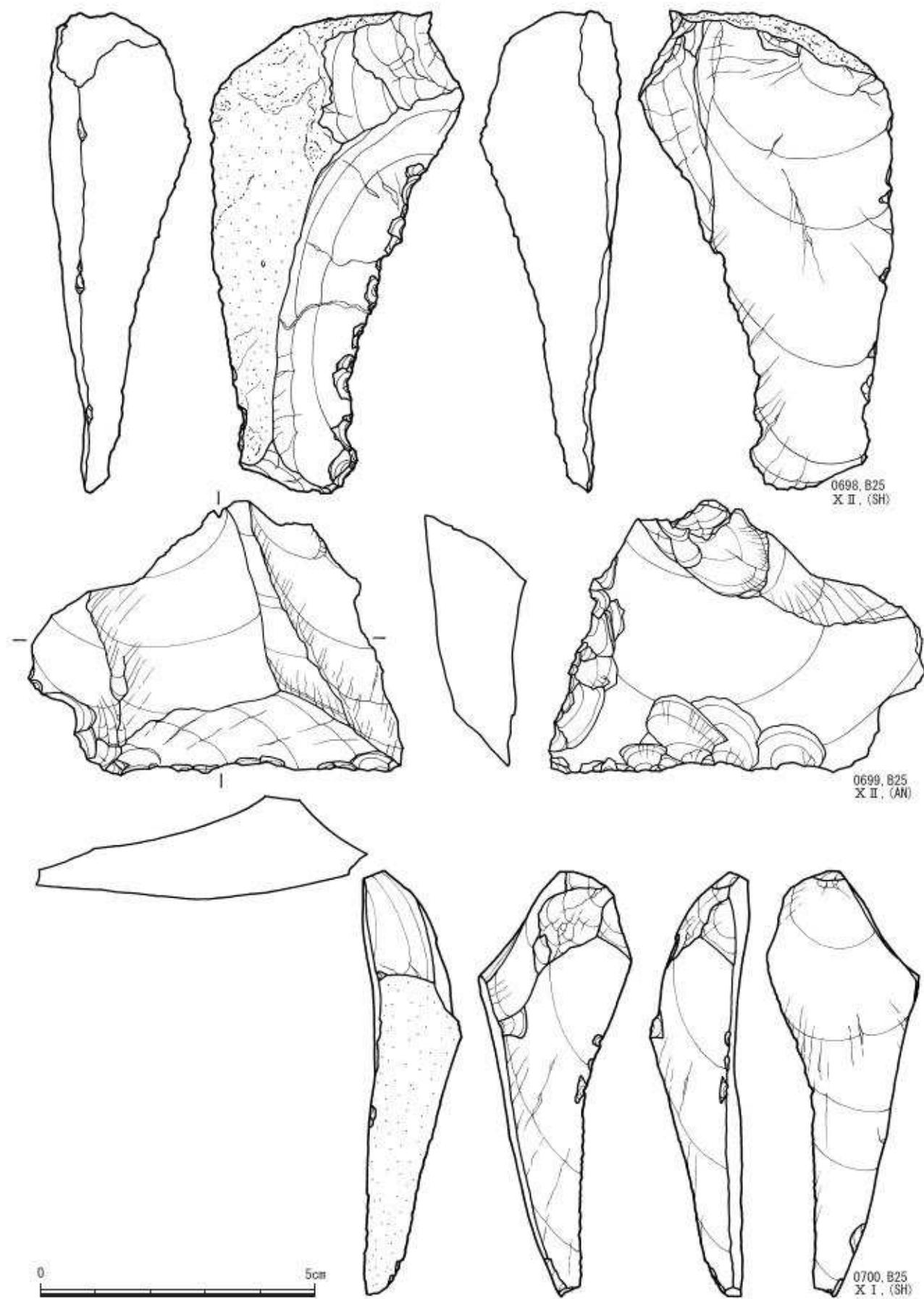
第173図 第III文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(2)



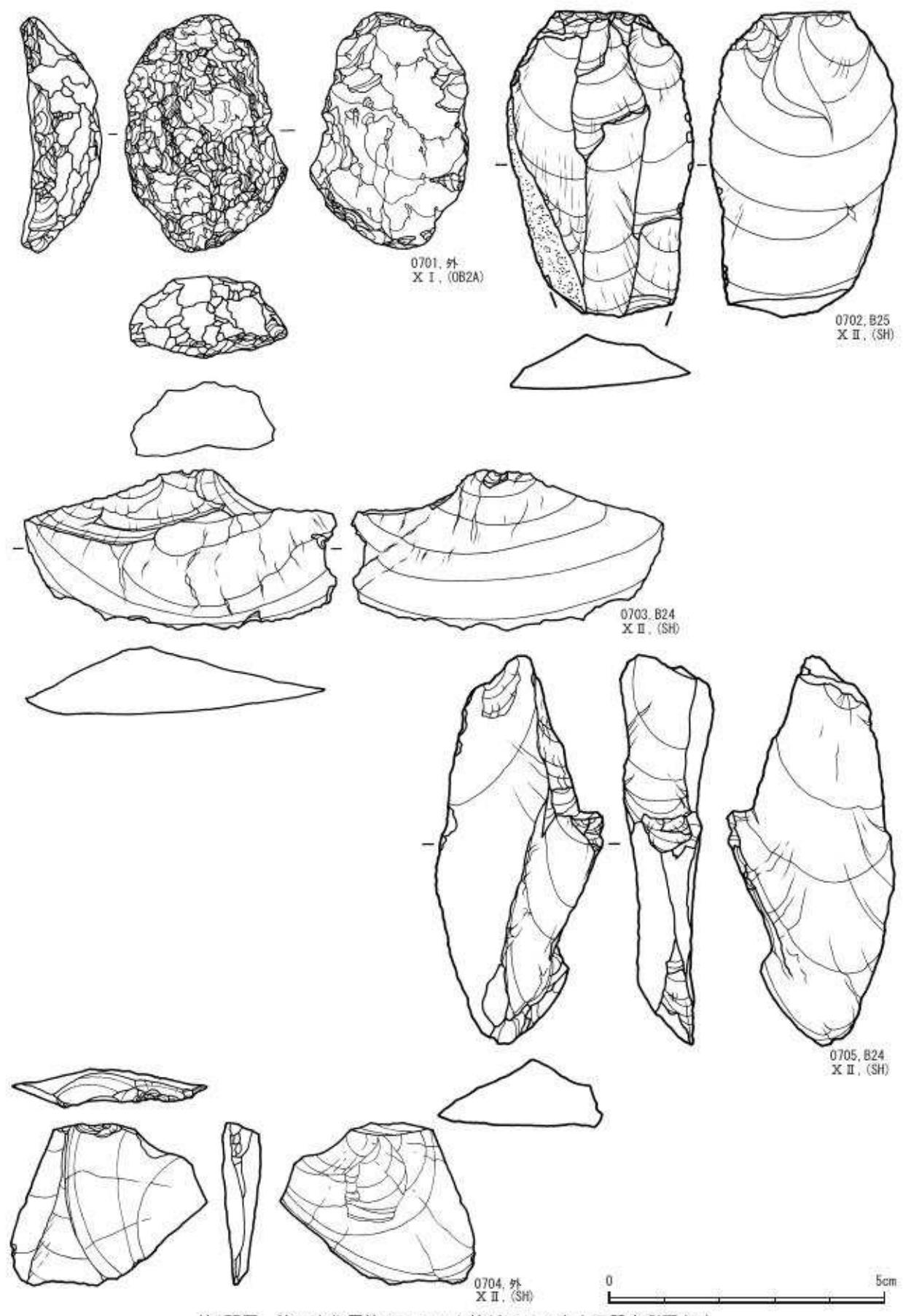
第174図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(3)



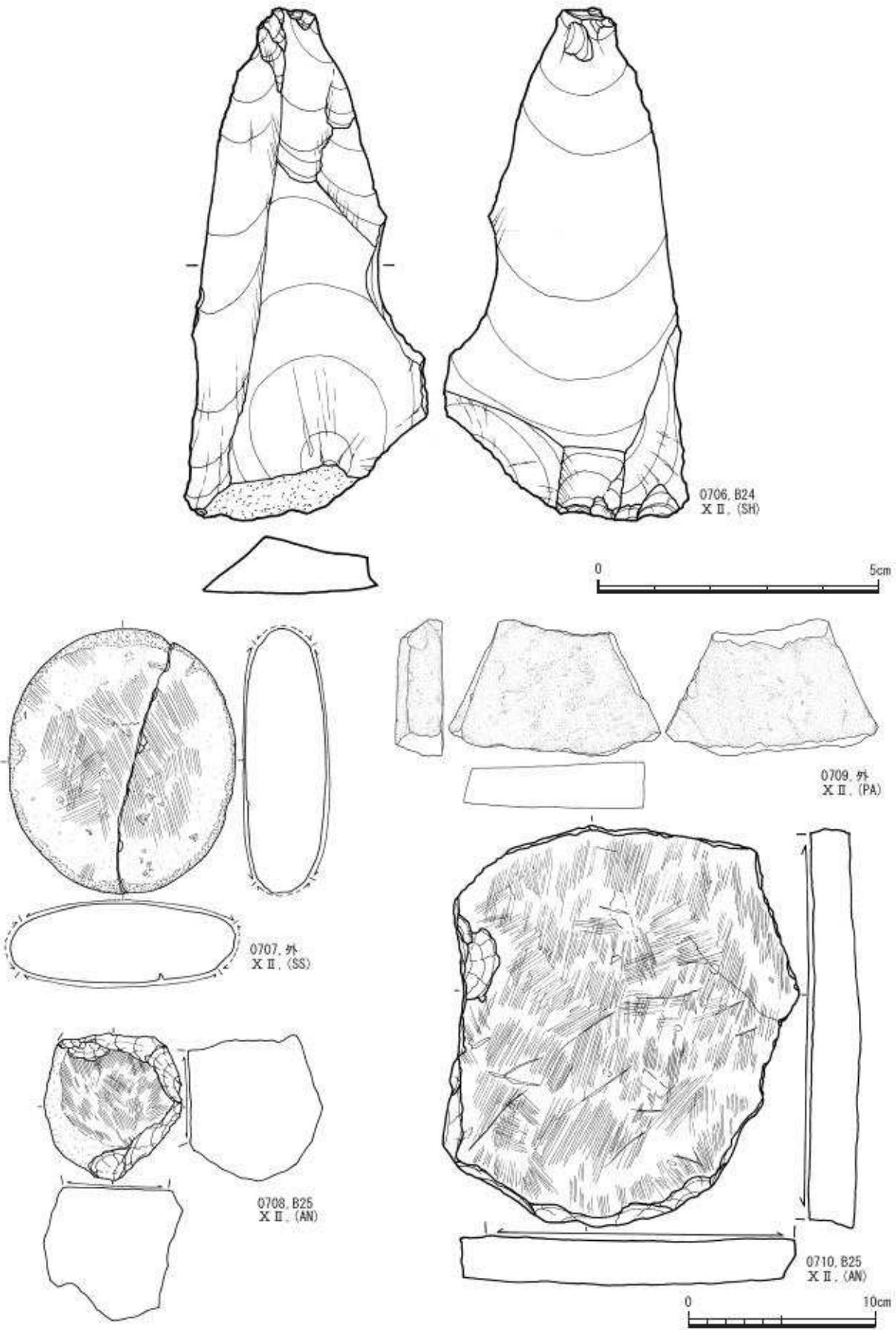
第175図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(4)



第176図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(5)



第177図 第III文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(6)



第178図 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器実測図(7)

赤色鉄片から、鉄片を離れて立移動が頻繁に行われたことが観察される。

復元図により鉄片の形状が、0656, 0660, 0661, 0662は部品か、0669, 0671, 0672, 0674は部品か、0665～0668, 0670は複数か、0664は複数か。ナイフ形石器とみなすことができる。なお、0663は先端部が下落した後、再びした可能性がある。

0699のスクレイバーは単器、0701は複器と判断している。

モリの磨耗が確認される。0710は歯車な文字を用い、その全周に摩擦痕が單純に観察できる。0709も摩耗で、モリが明らかに摩耗する。0708は複数の歯車なモリに摩耗跡が残るもので、モリと判断できる。0266は歯車なモリのモリが激しく摩耗し、その側面には摩擦痕が残され、磨耗と歯車の摩耗跡を複数と見られる。

鉄片類では、安定した大型の縦長鉄片や折断鉄片が見られる。

第16エリアでは、まず、ナイフ形石器が多数存在する特徴がある。石器剥離や採取した鉄片の観察から、大小の縦長鉄片、横長鉄片、下定形鉄片等が見られ多彩な鉄片剥離技術を見ることができる。

第49表 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(1)

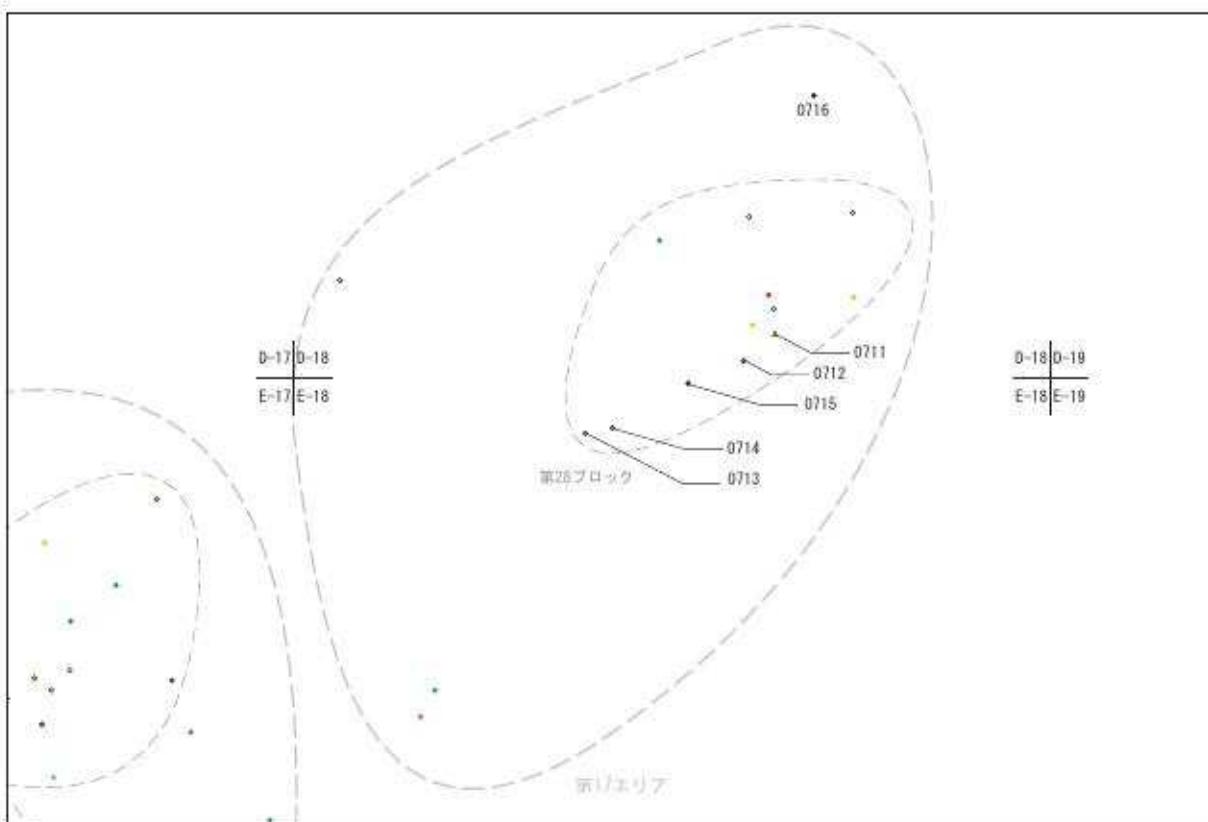
種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリット	ロカ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列記 No	接合 No
172	0654	剥片	細石刃	-	III	U9	A16	B26	CC	-	(14.3)	(6.0)	(2.4)	(0.17)	8874	X II	E-17	-
	0655	剥片	細石刃	-	III	U9	A16	B26	SH	-	(18.1)	(8.0)	(2.6)	(0.37)	8885	X II	E-17	-
	0656	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B24	OB2	A	(20.4)	(8.4)	(6.2)	(0.73)	15266	X II	F-16	-
	0657	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B24	OB2	C	22.7	13.3	7.9	1.43	15433	X II	F-16	-
	0658	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	CC	-	21.0	9.4	3.5	0.58	16406	X II	F-17	-
	0659	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B26	OB2	A	(8.5)	(9.2)	(4.1)	(0.18)	8872	X II	E-17	-
	0660	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B26	OB1	-	25.0	12.8	5.4	1.14	8864	X II	E-17	-
	0661	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	CC	-	(23.2)	(10.9)	(5.1)	(0.96)	16423	X II	F-17	-
	0662	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B24	SH	-	25.9	12.6	4.5	1.02	15270	X II	F-16	-
	0663	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(20.1)	(14.8)	(5.0)	(1.16)	15457	X II	F-17	-
	0664	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B26	CC	-	26.3	11.4	6.8	1.12	8834	X II	E-17	-
	0665	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	外	SH	-	30.1	11.8	5.2	2.18	15394	X II	F-15	-
	0666	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SH	-	34.8	16.3	5.6	3.05	15278	X I	F-17	-
	0667	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B26	SH	-	30.7	13.8	4.8	1.61	8879	X II	E-17	-
	0668	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	外	OB2	A	26.3	10.7	10.0	2.30	16395	X II	F-17	-
	0669	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B24	SH	-	(25.6)	(12.1)	(8.1)	(2.58)	15670	X II	F-16	-
	0670	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SS	-	34.7	13.9	6.1	2.87	15467	X II	F-17	-
	0671	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(21.6)	(18.0)	(7.0)	(2.23)	15518	X I	F-17	-
	0672	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(29.8)	(18.7)	(7.0)	(3.15)	16427	X II	F-17	-
	0673	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	CH	-	27.7	17.5	5.5	2.74	15702	X II	F-17	-
	0674	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	SH	-	53.9	13.9	9.0	4.52	16424	X II	F-17	-
173	0675	石器	ナイフ形石器	-	III	U9	A16	B25	OB2	A	15.6	13.8	7.1	1.01	15197	X I	F-17	-
	0676	石器	錐状石器	-	III	U9	A16	外	CC	-	24.4	10.0	7.0	1.23	15142	X II	E-17	-
	0677	剥片	折断剥片	-	III	U9	A16	B27	CC	-	(17.1)	(14.3)	(4.0)	(0.79)	8822	X II	E-17	-
	0678	剥片	折断剥片	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(29.2)	(13.9)	(7.5)	(1.94)	15478	X II	F-17	-
	0679	剥片	折断剥片	-	III	U9	A16	B26	CC	-	(29.7)	(14.9)	(7.1)	(1.61)	8836	X II	E-17	-
	0680	剥片	折断剥片	-	III	U9	A16	B27	SH	-	(36.8)	(15.0)	(7.2)	(3.07)	8831	X II	E-17	-
	0681	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	29.8	17.2	9.5	3.54	8899	X II	F-17	-
	0682	剥片	-	-	III	U9	A16	外	CC	-	28.8	17.9	7.0	2.45	15717	X II	E-16	-
	0683	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	34.0	15.8	7.0	2.54	16401	X II	F-17	-
	0684	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U9	A16	外	SH	-	32.9	10.8	6.0	1.52	8848	X II	E-17	-

ナイフ形石器の剥離から赤色鉄片を復元すると、鉄片の規格、使用方法は大概以下のように集約できる。小型縦長鉄片は其質量、立移動を妨げる縦長鉄片はギョクズイ、やや大型化する縦長鉄片は其質量を負けする傾向がある。

一方、石核は存在していない。さらに、石器製作に直接関わるブランディングチップやチップは極めて少ない。

これらのことから、ナイフ形石器がエリートで製作された痕跡は極めて薄いと言える。したがって、ナイフ形石器は完成品として培養された可能性が高く、ナイフ形石器は運び込まれた縦長鉄片への二次加工は行われなかつた可能性が高い。

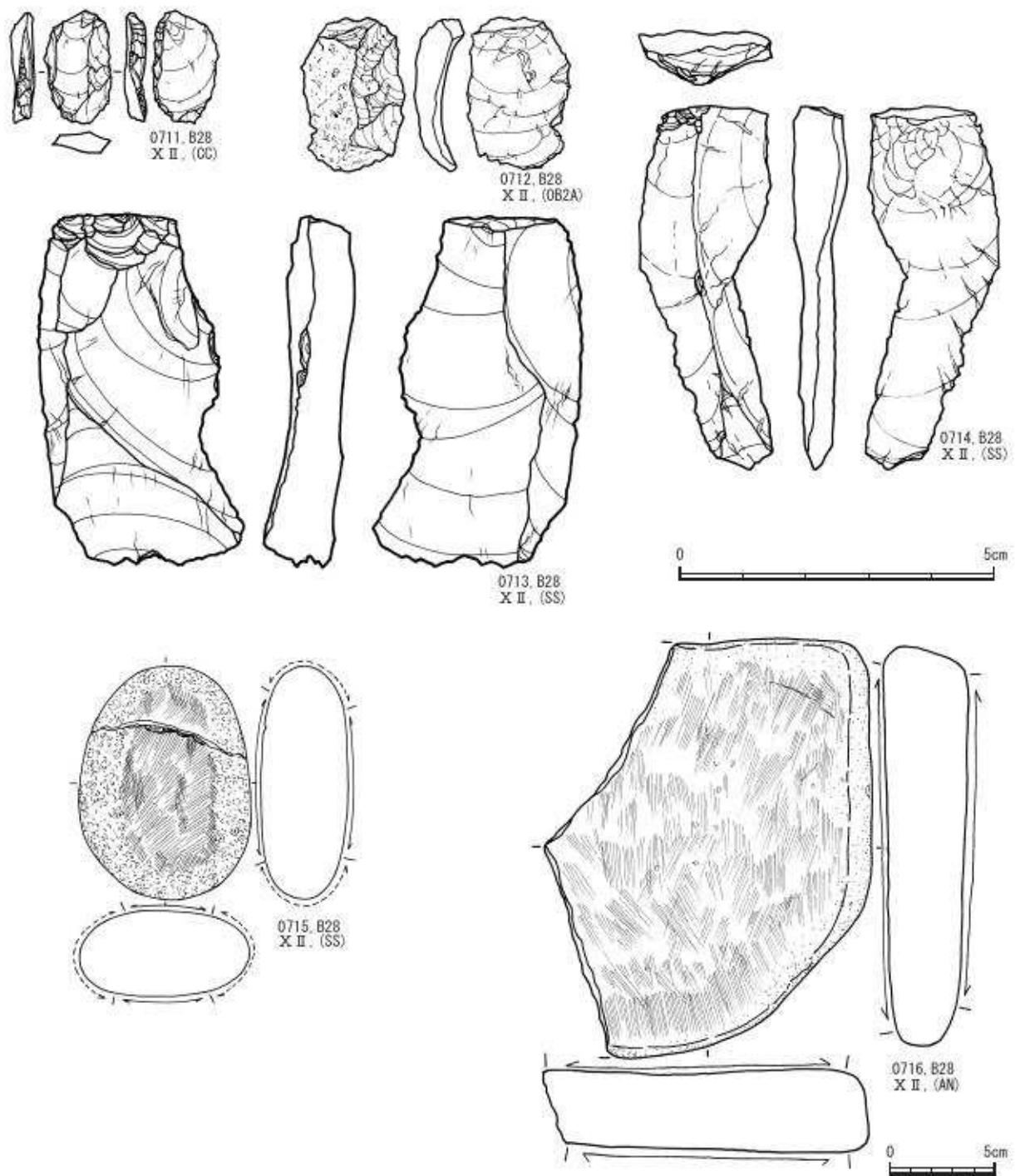
また、モリの存在も多くなるところである。



第179図 第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア遺物出土状況図

第50表 第Ⅲ文化層第9ユニット第16エリア出土石器観察表(2)

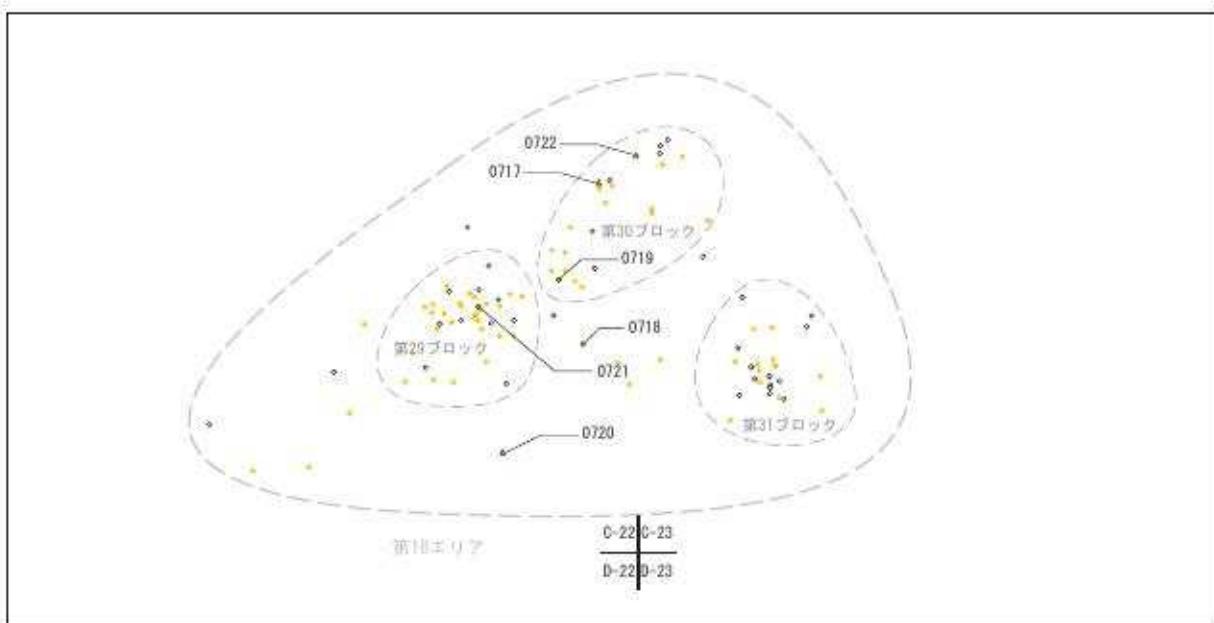
挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エレフ	ジョック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 F	接合 No
173	0685	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SS	-	49.7	23.1	11.2	9.04	15279	X II	F-17	-
	0686	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	CC	-	31.3	24.5	8.8	4.77	15713	X II	F-17	-
	0687	チップ	プランティングチップ	-	III	U9	A16	B25	CH	-	22.2	28.1	6.2	1.77	15471	X II	F-17	-
	0688	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	CC	-	63.2	25.9	17.0	21.32	8858	X II	E-17	-
174	0689	チップ	プランティングチップ	-	III	U9	A16	B25	CH	-	22.9	35.5	7.2	1.80	15455	X II	F-17	-
	0690	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	44.8	24.1	13.0	8.61	8855	X II	E-17	-
	0691	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	SH	-	68.9	23.1	14.0	13.72	8829	X II	E-17	-
	0692	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	47.4	29.9	13.1	12.14	8858	X II	E-17	-
	0693	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	CC	-	45.8	23.0	10.2	11.14	8804	X II	E-17	-
	0694	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U9	A16	B26	SH	-	32.7	25.7	10.9	5.30	8896	X II	E-17	-
	0695	剥片	-	-	III	U9	A16	B26	SH	-	61.5	34.5	21.0	38.47	8835	X II	E-17	-
175	0696	剥片	-	-	III	U9	A16	外	SS	-	77.5	33.3	19.5	30.73	15716	X II	E-16	-
	0697	剥片	-	-	III	U9	A16	B27	SH	-	65.3	38.8	21.0	24.83	8803	X II	E-17	-
176	0698	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	87.8	46.5	26.0	63.59	16422	X II	F-17	-
	0699	石器	スクレイバー	削器	III	U9	A16	B25	AN	-	50.1	68.5	24.2	57.16	15704	X II	F-17	-
	0700	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	77.3	28.1	18.0	21.82	15469	X I	F-17	-
177	0701	石器	スクレイバー	搔器	III	U9	A16	外	OB2	A	43.0	29.6	15.0	16.85	15204	X I	F-17	-
	0702	剥片	-	-	III	U9	A16	B25	SH	-	(55.6)	34.1	(9.6)	(20.25)	15448	X II	F-17	-
	0703	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	29.0	56.6	14.0	18.49	15258	X II	F-16	-
	0704	剥片	-	-	III	U9	A16	外	SH	-	29.4	35.8	7.2	5.25	15392	X II	F-15	-
	0705	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	70.3	30.5	17.0	14.41	15666	X II	F-16	-
178	0706	剥片	-	-	III	U9	A16	B24	SH	-	91.2	43.6	18.4	46.91	15265	X II	F-16	-
	0707	石器	磨石 / 敷石	-	III	U9	A16	外	SS	-	140.9	120.6	41.9	945.00	8811	X II	E-17	-
	0708	石器	石皿	-	III	U9	A16	B25	AN	-	(78.8)	(73.5)	(72.3)	(530.00)	15506	X II	F-17	-
	0709	石器	石皿	-	III	U9	A16	外	PA	-	72.6	113.4	25.1	311.53	16414	X II	F-17	-
	0710	石器	石皿	-	III	U9	A16	B25	AN	-	214.1	189.9	26.2	1,765.00	16403	X II	F-17	-



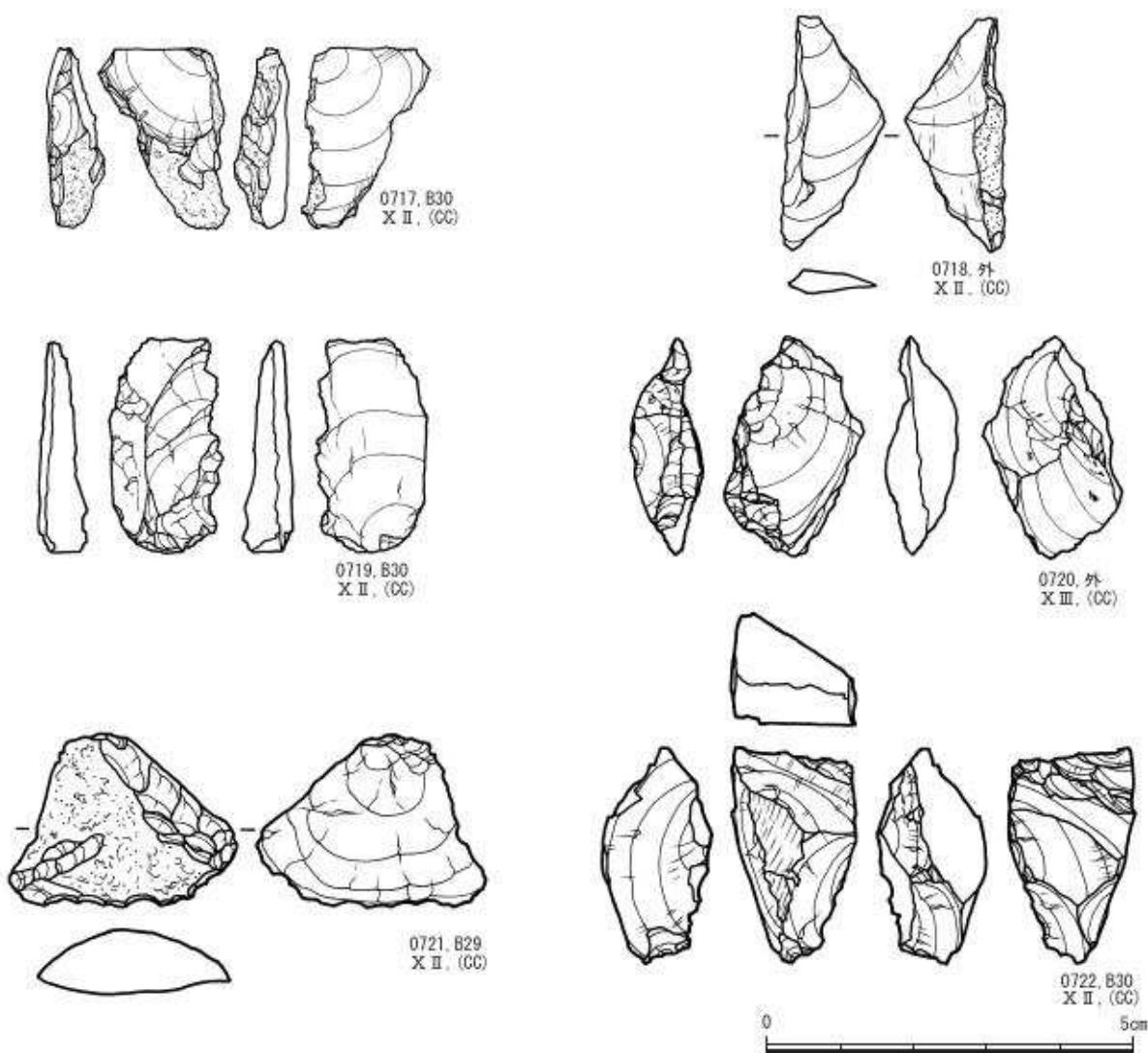
第180図 第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア出土石器実測図

第51表 第Ⅲ文化層第9ユニット第17エリア出土石器観察表

挿図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層 ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No	
180	0711	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	U9	A17	B28	CC	-	18.2	10.8	4.0	0.69	8781	X II	D-18	-
	0712	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	OB2	A	24.7	16.6	8.0	2.31	8783	X II	D-18	-
	0713	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	55.7	32.9	14.0	15.07	8787	X II	E-18	-
	0714	剥片	-	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	57.8	21.4	9.0	5.89	8788	X II	E-18	-
	0715	石器	磨石 / 敲石	-	Ⅲ	U9	A17	B28	SS	-	111.6	82.4	40.9	520.00	8784	X II	E-18	-
	0716	石器	石皿	-	Ⅲ	U9	A17	B28	AN	-	194.8	155.5	41.8	1,982.00	8773	X II	D-18	-



第181図 第III文化層第10ユニット第18エリア遺物出土状況図



第182図 第III文化層第10ユニット第18エリア出土石器実測図

第17エリア(第179ヶ, 第180ヶ)

D, E-18ヶにあり13点が確認され、第28ブロックを構成する。砂岩、ギョクズイ、黒鐵等II-A類、リボンの石片が出土する。

ナイフ形石器1点(0711)、剥片3点と磨石1点(0715), 砕石1点(0716)を出土した。

0711は剥片の刃部を刃溝としたもので、小型ナイフ形石器である。剥片からは縦長剥片端部が読み取れる。

磨石は扇形な刃部の刃部を磨きに磨耗して残されている。リボンは、刃部の刃部が磨耗して残されている。

剥片は2点とも砂岩を使用した、縦長剥片である。

第18エリア(第181ヶ, 第182ヶ)

全体を包める石片はギョクズイである。

ナイフ形石器1点(0717)と剥片が確認できる。

ナイフ形石器は、下定形剥片の刃部を刃溝に刃溝したものを構成する石器である。

刃溝している剥片も下定形剥片に属する。

ユニットガエリア(第183~187ヶ)

ナイフ形石器5点(0723, 0728, 0731, 0733, 0738)、三枚尖頭器2点(0724, 0730)、二冰刀のある剥片8点(0726, 0727, 0732, 0734, 0739, 0746, 0748, 0759)、スクレイバー2点(0743, 0744)、ハンマーストーン1点(0757)、石核2点(0754, 0756)、鉈状石器2点(0725, 0729)と剥片等が出土している。

ナイフ形石器は、0728と0733の刃溝は下定形剥片の一部を刃溝したとしている。0728は系縫とした縦長剥片に刃溝を刃溝を切ったもので、刃部を残すし、刃部を刃部としている。0733は大型剥片の形状を大きく変えることなく刃溝している。0731と0738は刃溝部を下落し、刃部と刃部が残されている。

0724の三枚尖頭器は、最外の規格と判断している。0730は刃端部を下くが、刃部も周辺から削り跡が残される。

0725は鉈状石器の刃端部、0729は刃端部時に、刃部と刃部のかたから判断した。

0743のスクレイバーは4種に鏡面な刃部を有し、骨器と判断できる。

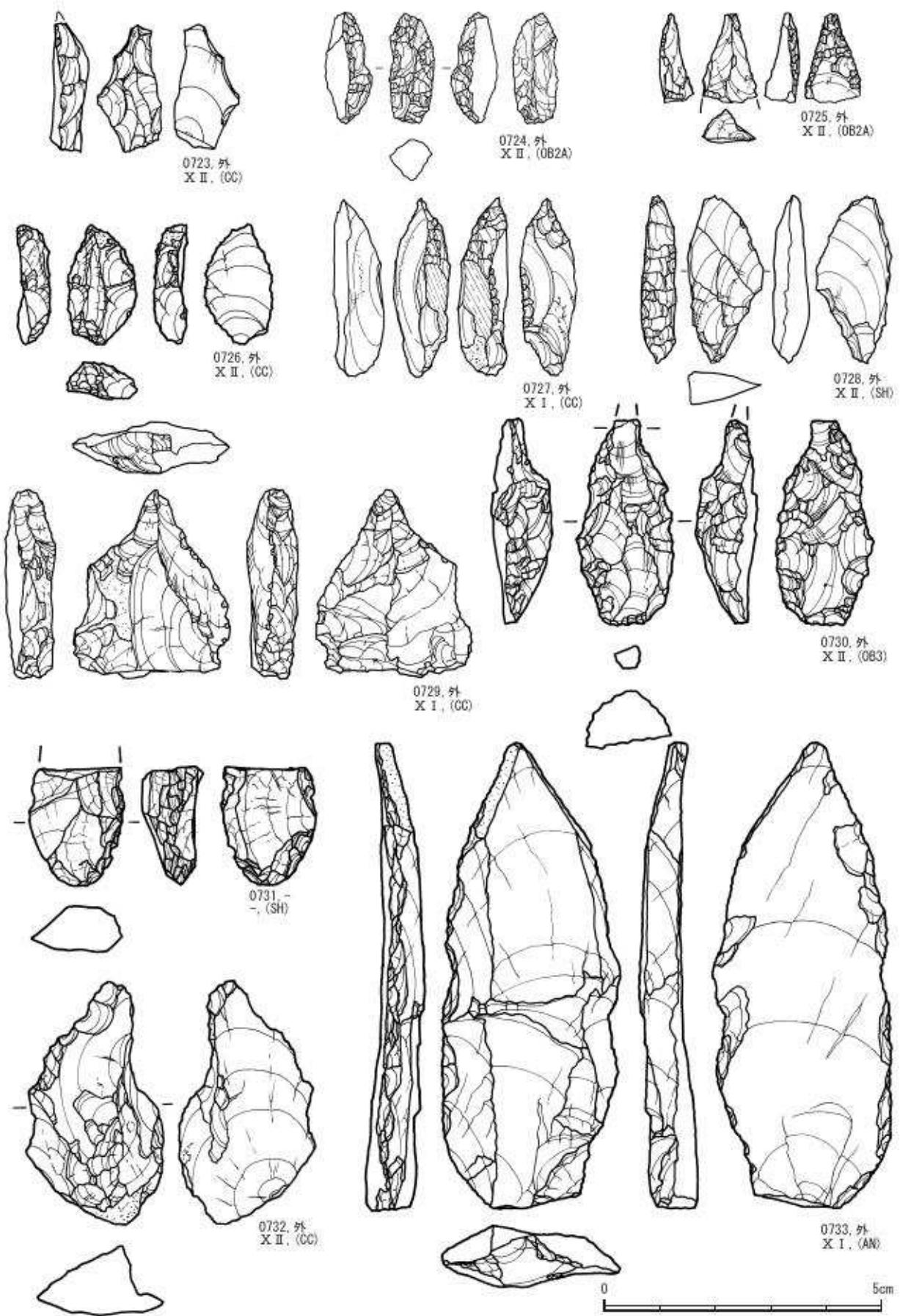
二冰刀のある剥片の0727の刃部と刃部には微細な削り跡がみられ、刃端部を意識している。0732は扇形剥片と刃端部に刃溝を有する。0746と0748は刃部から刃部からの刃部がみられ、三枚尖頭器の製作は鉈状石器の可能性がある。

0754の石核は、刃溝しながら刃部移動を頻繁に行っている。

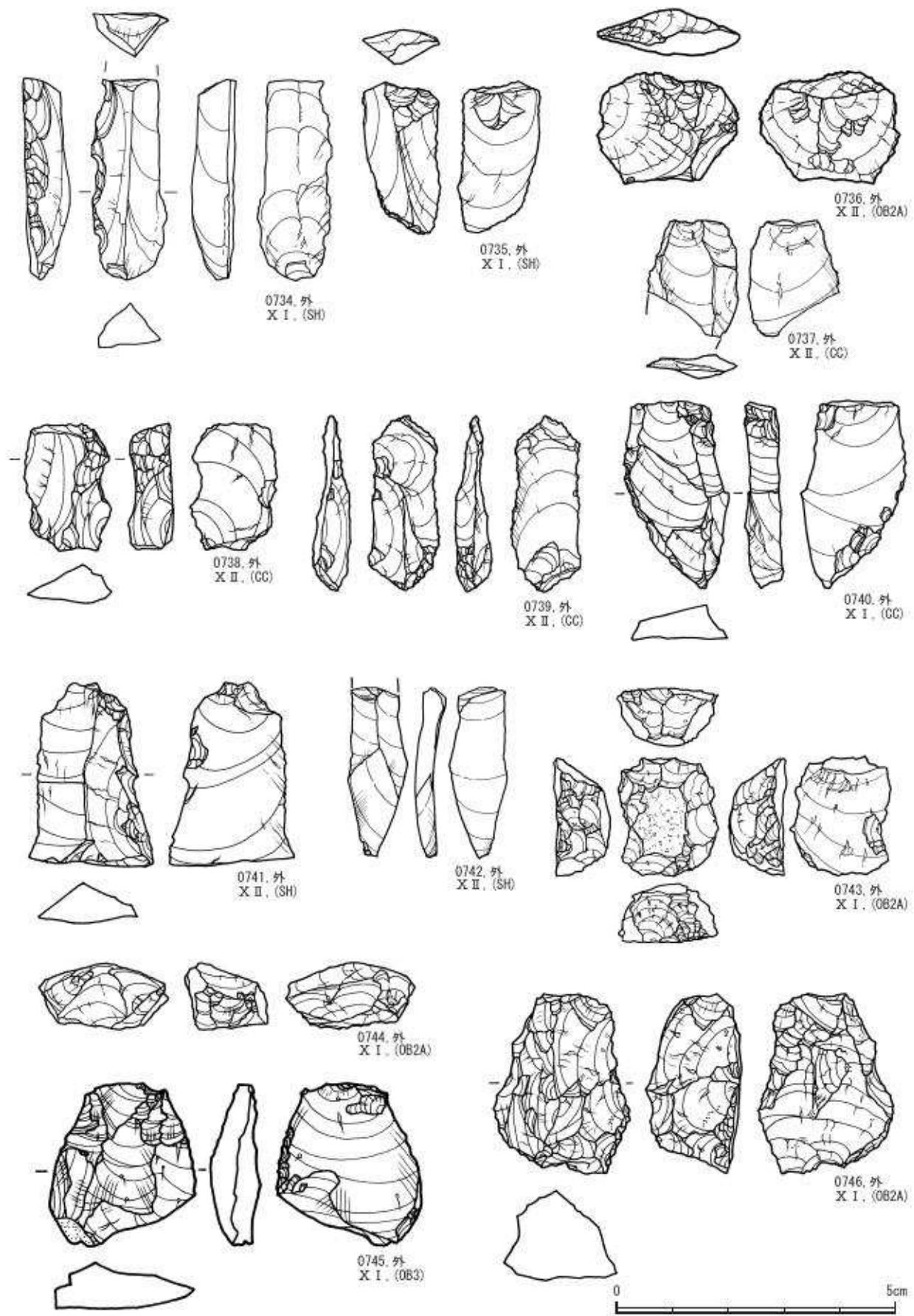
0757のハンマーストーンは墨り込みの良い形状で、上部常にハンマー特有の使用痕がみられる。

第52表 第III文化層第10ユニット第18エリア出土石器観察表

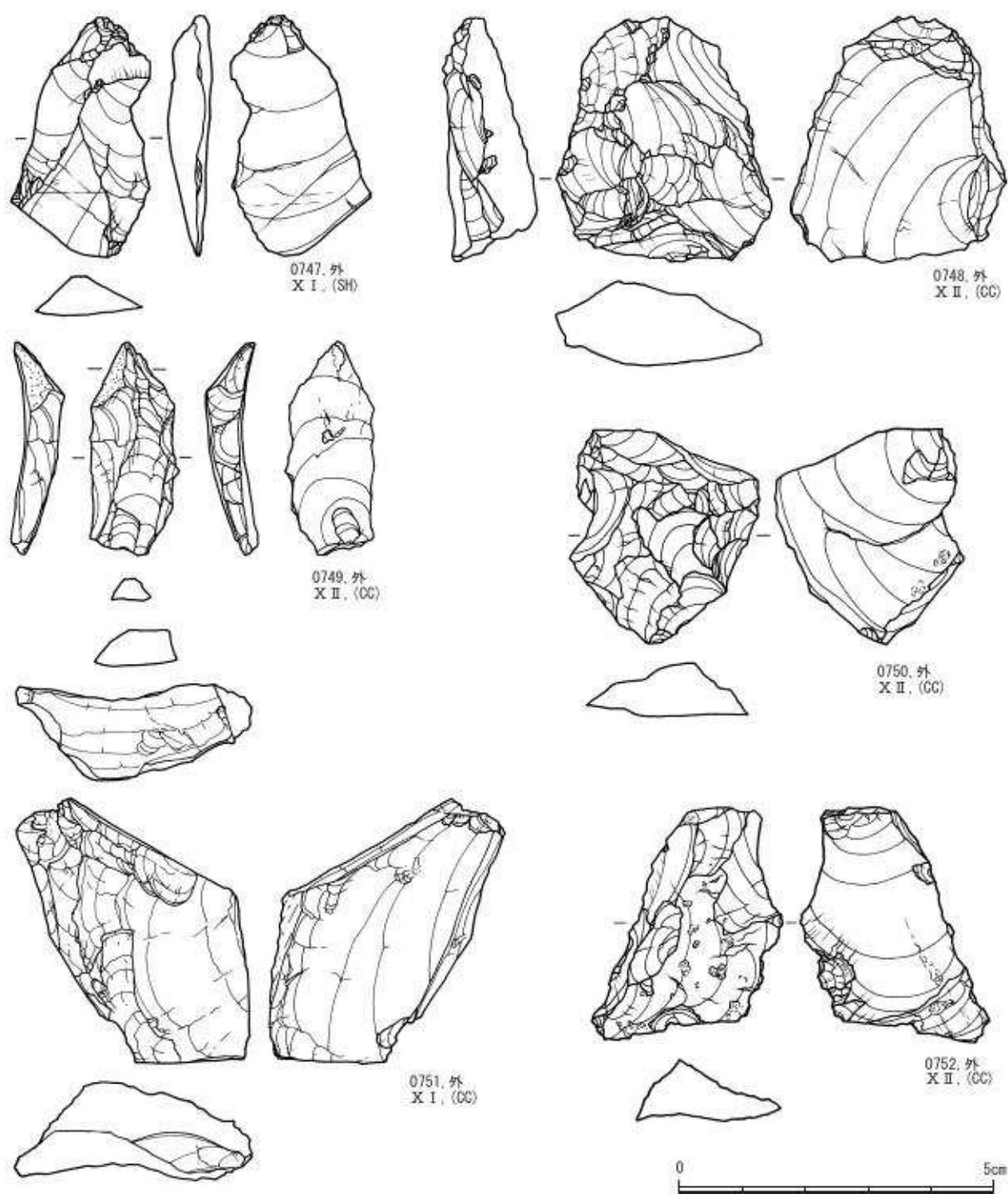
擇図 No	圓 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット I-VII	プロック A-B	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 X-XII	判別 No	接合 No	
182	0717	石器	ナイフ形石器	-	III	U10	A18	B30	CC	-	24.8	17.9	8.0	2.06	8618	X II	C-22	-
	0718	剥片	-	-	III	U10	A18	外	CC	-	31.9	14.4	4.5	1.13	8631	X II	C-22	-
	0719	剥片	-	-	III	U10	A18	B30	CC	-	29.2	15.8	7.0	2.26	8626	X II	C-22	-
	0720	剥片	-	-	III	U10	A18	外	CC	-	29.9	19.3	10.0	3.10	8641	X III	C-22	-
	0721	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	U10	A18	B29	CC	-	24.0	31.3	10.2	5.47	8655	X II	C-22	-
	0722	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	U10	A18	B30	CC	-	29.5	17.4	15.0	6.21	8610	X II	C-22	-



第183図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(1)



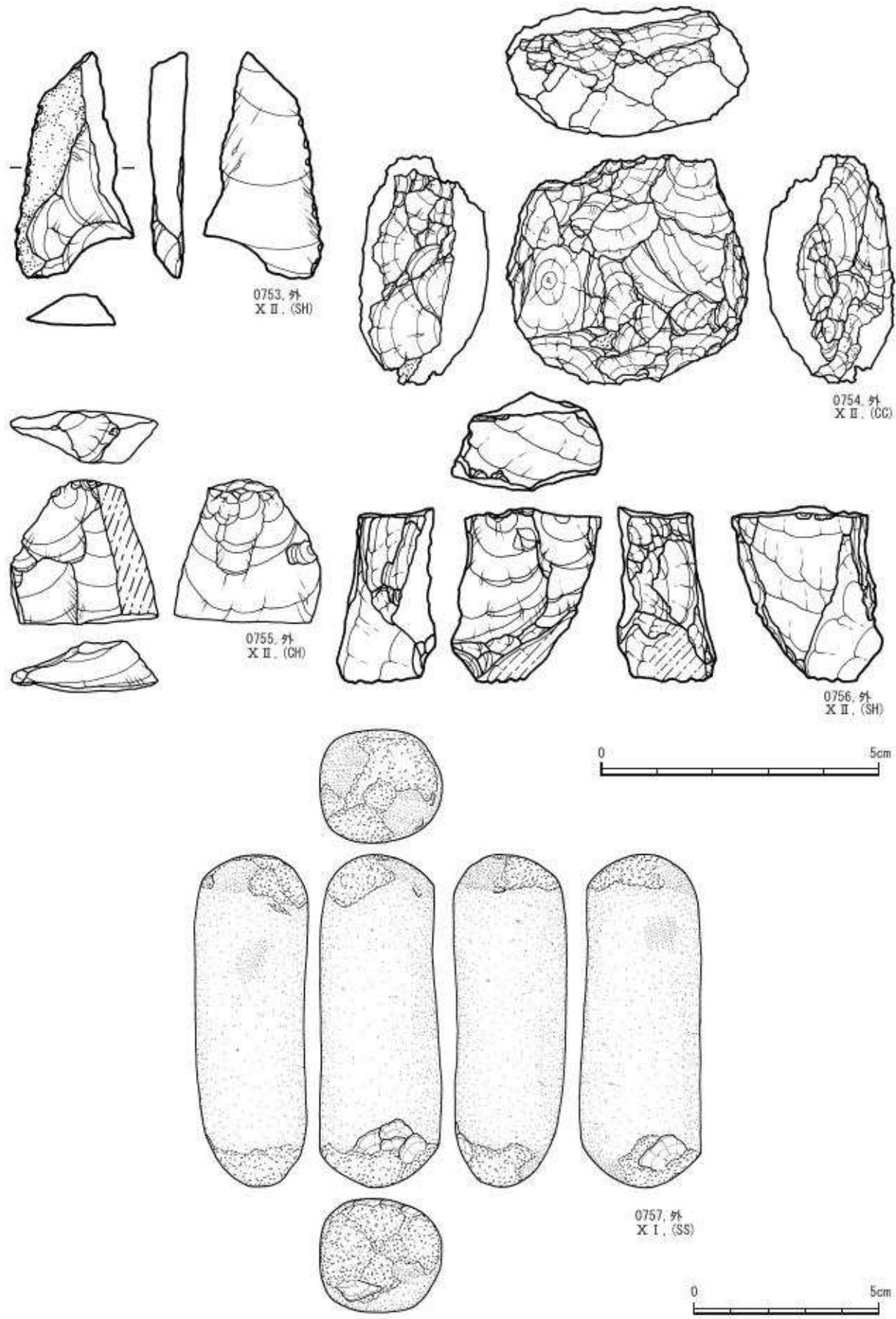
第184図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(2)



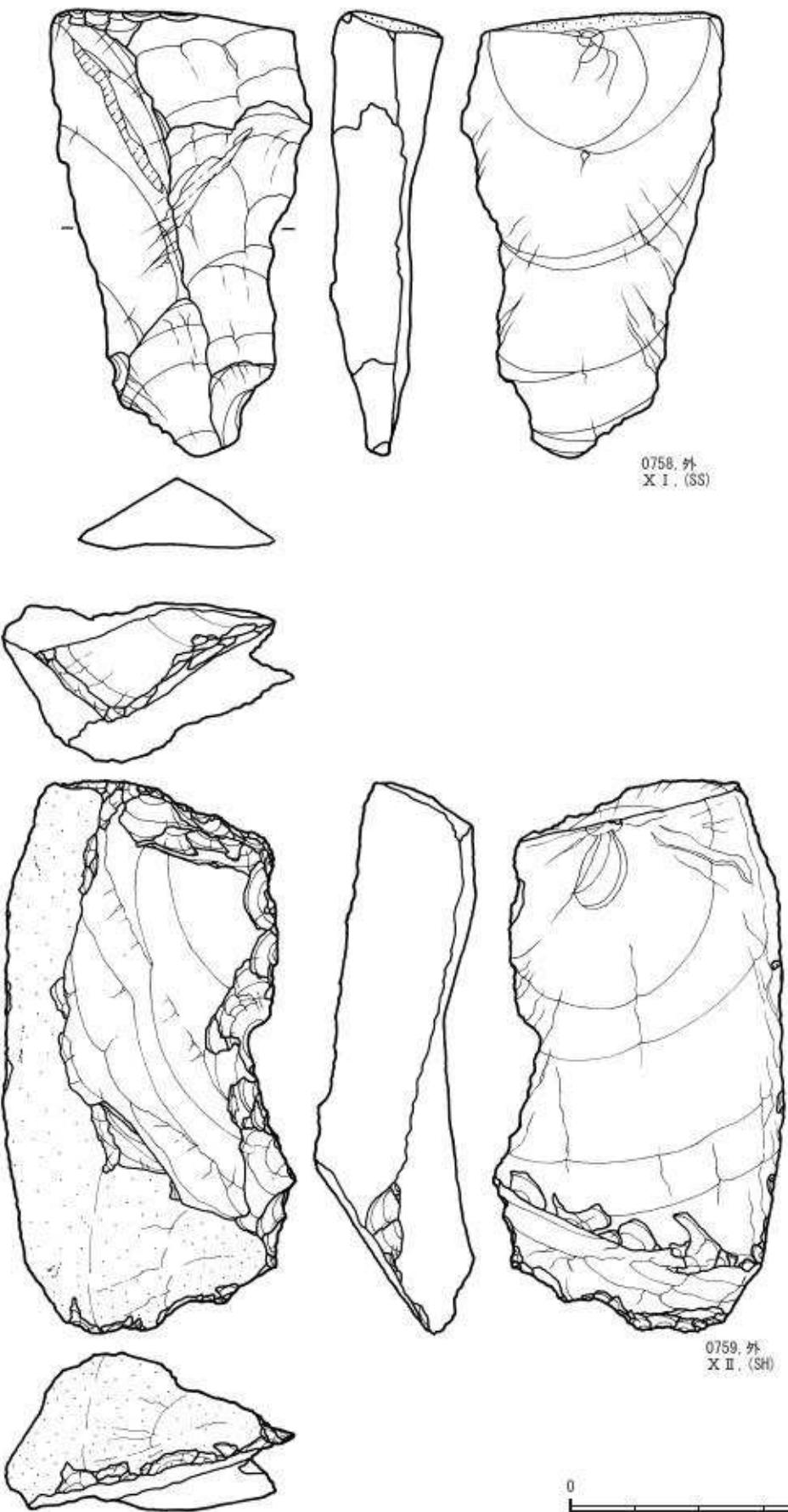
第185図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(3)

第53表 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器観察表(1)

擇図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	Ⅰ	Ⅱ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
183	0723	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	(23.0)	(11.7)	(7.0)	(1.49)	6498	X II	D-8	-
	0724	石器	三棱尖頭器	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	20	8.1	8.5	1.09	13887	X II	G-14	-
	0725	石器	錐状石器	-	Ⅲ	外	外	外	OB2	A	(16.1)	(9.9)	(6.0)	(0.56)	14571	X II	G-14	-
	0726	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	21.7	12.8	6.2	1.28	23314	X II	D-7	-
	0727	石器	二次加工痕のある剥片	-	Ⅲ	外	外	外	CC	-	32.1	10.4	9.0	2.48	23208	X I	C-4	-
	0728	石器	ナイフ形石器	-	Ⅲ	外	外	外	SH	-	30.1	13.9	6.5	2.60	23522	X II	C-6	-



第186図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(4)



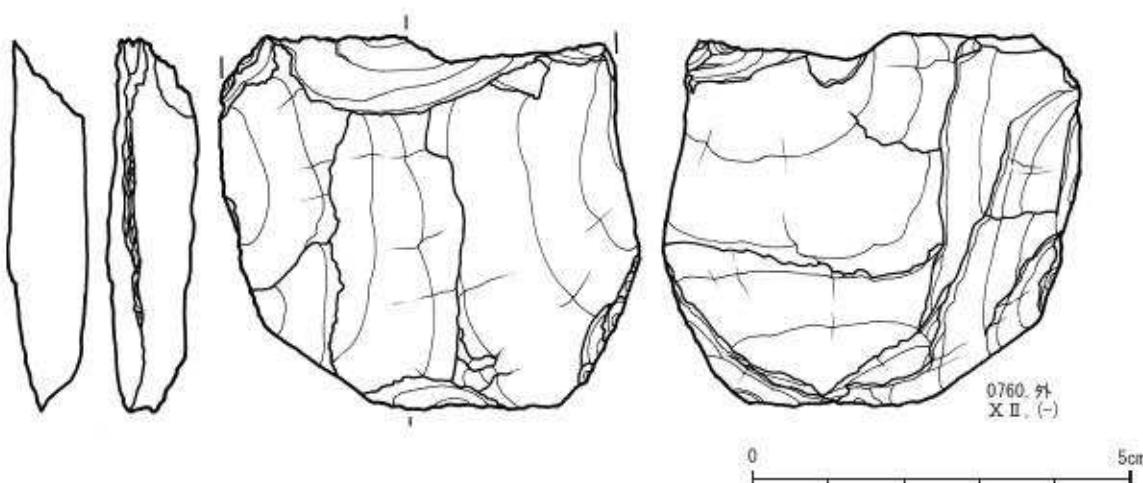
第187図 第Ⅲ文化層ユニット外エリア外出土石器実測図(5)

第54表 第Ⅲ文化層ユニット外出土石器観察表(2)

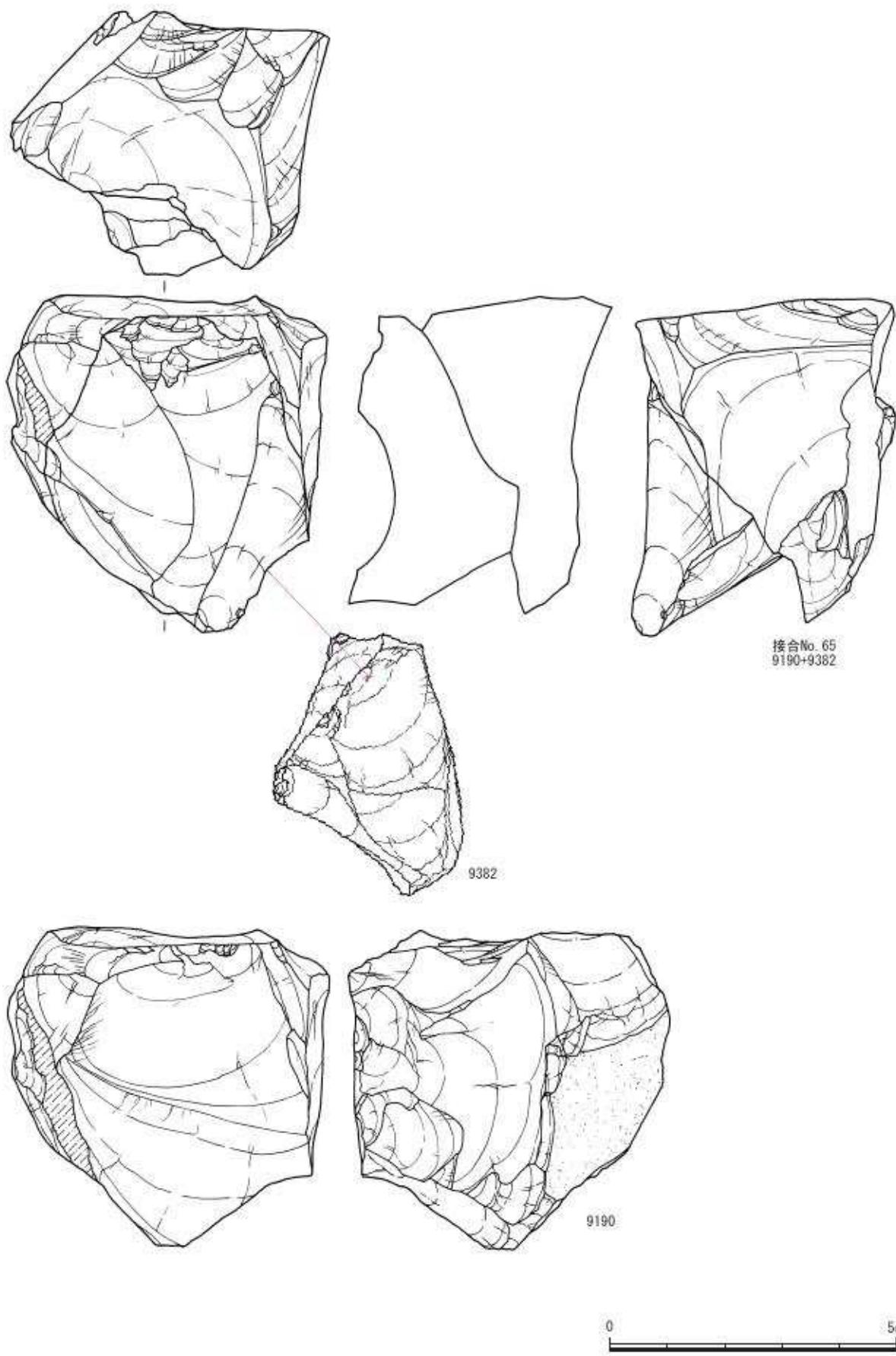
標識 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
183	0729	石器	錐状石器	-	III	外	外	外	CC	-	34.0	28.4	9.0	6.88	6029	X I	A-10	-
	0730	石器	三棱尖頭器	-	III	外	外	外	OB3	-	(37.3)	17.9	(11.0)	(5.67)	15661	X II	F-3	-
	0731	石器	ナイフ形石器	-	III	-	-	-	SH	-	(21.5)	(17.4)	(10.7)	(4.10)	-	-	-	-
	0732	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	外	外	外	CC	-	43.9	25.0	13.8	11.44	6217	X II	B-8	-
	0733	石器	ナイフ形石器	-	III	外	外	外	AN	-	84.1	32.5	11.0	28.32	23613	X I	B-7	-
184	0734	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイバー	III	外	外	外	SH	-	(36.0)	(13.7)	(9.0)	(3.57)	6296	X I	B-8	-
	0735	剥片	-	-	III	外	外	外	SH	-	27.4	14.1	6.5	1.67	23591	X I	B-7	-
	0736	剥片	-	-	III	外	外	外	OB2	A	20.3	25.6	8.5	3.48	23298	X II	E-6	-
	0737	剥片	折断剥片	-	III	外	外	外	CC	-	(21.1)	(16.2)	(4.3)	(0.99)	9493	X II	F-12	-
	0738	石器	ナイフ形石器	-	III	外	外	外	CC	-	22.9	15.8	8.5	2.80	6496	X II	D-8	-
	0739	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	外	外	外	CC	-	31.1	13.0	7.0	1.67	23213	X II	D-4	-
	0740	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	外	外	外	CC	-	33.7	19.0	7.3	4.43	5801	X I	B-12	-
	0741	剥片	折断剥片	-	III	外	外	外	SH	-	33.0	22.5	9.7	6.22	6026	X II	C-11	-
	0742	剥片	-	-	III	外	外	外	SH	-	(30.2)	(10.9)	(5.5)	(1.00)	15860	X II	H-14	-
	0743	石器	スクレイバー	搔器	III	外	外	外	OB2	A	21.4	18.1	10.5	4.03	23524	X I	C-6	-
	0744	石器	スクレイバー	-	III	外	外	外	OB2	A	11.9	23.4	15.0	3.12	23705	X I	B-7	-
185	0745	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	外	外	外	OB3	-	29.4	26.5	9.0	5.61	6127	X I	C-10	-
	0746	石器	二次加工痕のある剥片	三稜尖頭器?	III	外	外	外	OB2	A	32.4	24.6	17.0	10.80	6160	X I	B-9	-
	0747	剥片	-	-	III	外	外	外	SH	-	38.3	22.2	7.0	4.28	6054	X I	B-10	-
	0748	石器	二次加工痕のある剥片	-	III	外	外	外	CC	-	39.0	34.3	15.0	14.97	6030	X II	A-10	-
	0749	剥片	-	-	III	外	外	外	CC	-	33.9	14.4	8.7	2.69	6036	X II	B-14	-
186	0750	剥片	-	-	III	外	外	外	CC	-	34.1	30.4	8.8	7.91	5924	X II	B-9	-
	0751	剥片	-	-	III	外	外	外	CC	-	42.2	37.2	15.5	16.38	6043	X I	B-10	-
	0752	剥片	-	-	III	外	外	外	CC	-	36.9	30.5	10.0	8.83	6430	X II	C-8	-
	0753	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	外	外	外	SH	-	40.7	21.6	7.0	4.00	23286	X II	C-4	-
187	0754	石核	-	-	III	外	外	外	CC	-	41.4	43.5	23.5	42.78	23261	X II	E-6	-
	0755	剥片	折断剥片	-	III	外	外	外	GH	-	26.1	26.7	9.5	6.39	23311	X II	D-7	-
	0756	石核	-	-	III	外	外	外	SH	-	31.5	27.1	18.0	13.94	6001	X II	B-11	-
	0757	石器	ハンマー	-	III	外	外	外	SS	-	89.8	33.4	31.5	153.79	15590	X I	H-2	-
187	0758	剥片	-	-	III	外	外	外	SS	-	69.6	40.8	17.2	33.22	6037	X I	B-10	-
187	0759	石器	二次加工痕のある剥片	スクレイバー	III	外	外	外	SH	-	86.2	45.8	25.5	86.64	23496	X II	C-7	-

第55表 第Ⅲ文化層出土位置不明石器観察表

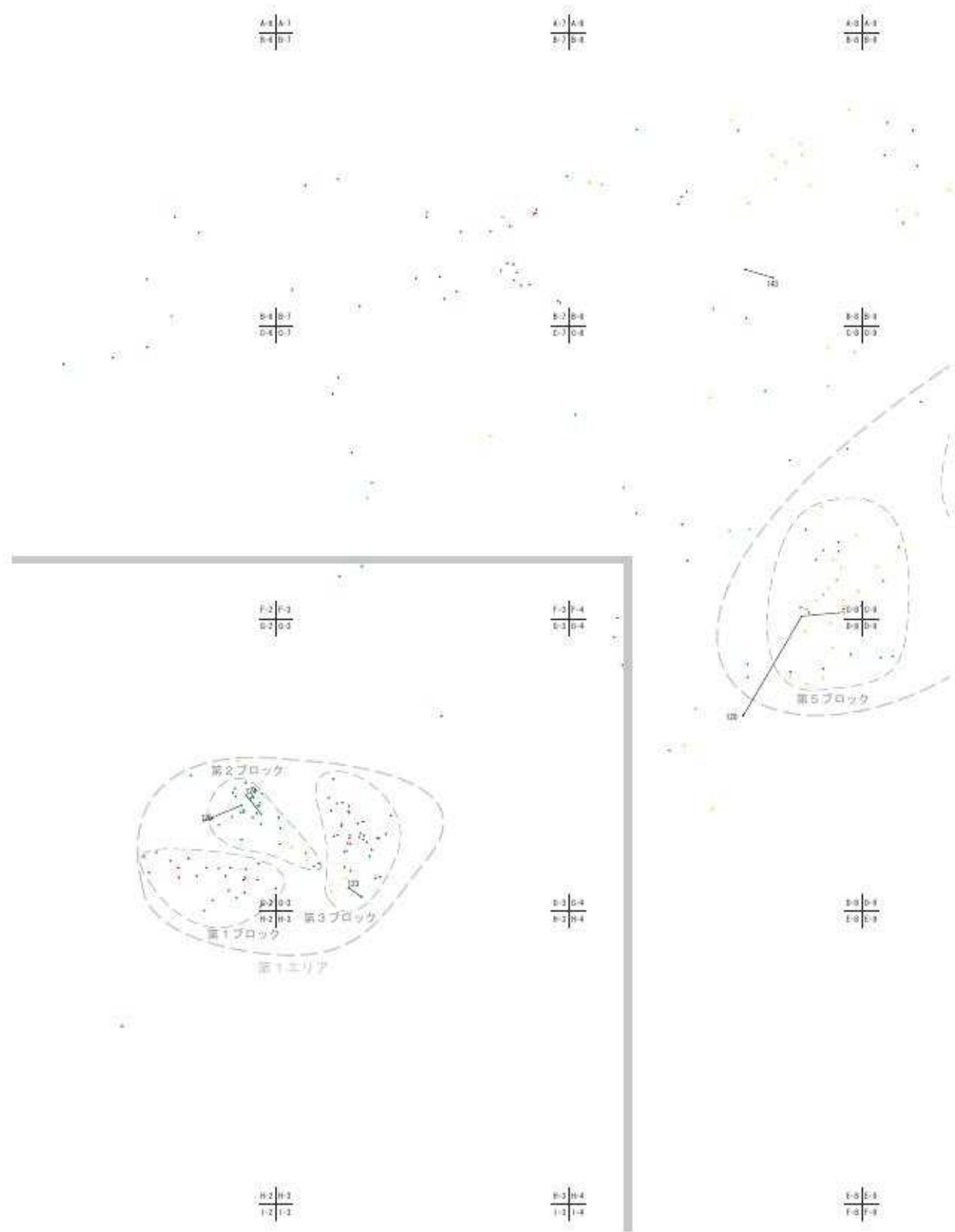
標識 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
-	0760	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	III	外	外	外	-	-	49.8	55.5	12.0	-	17330	X II	F-10	-



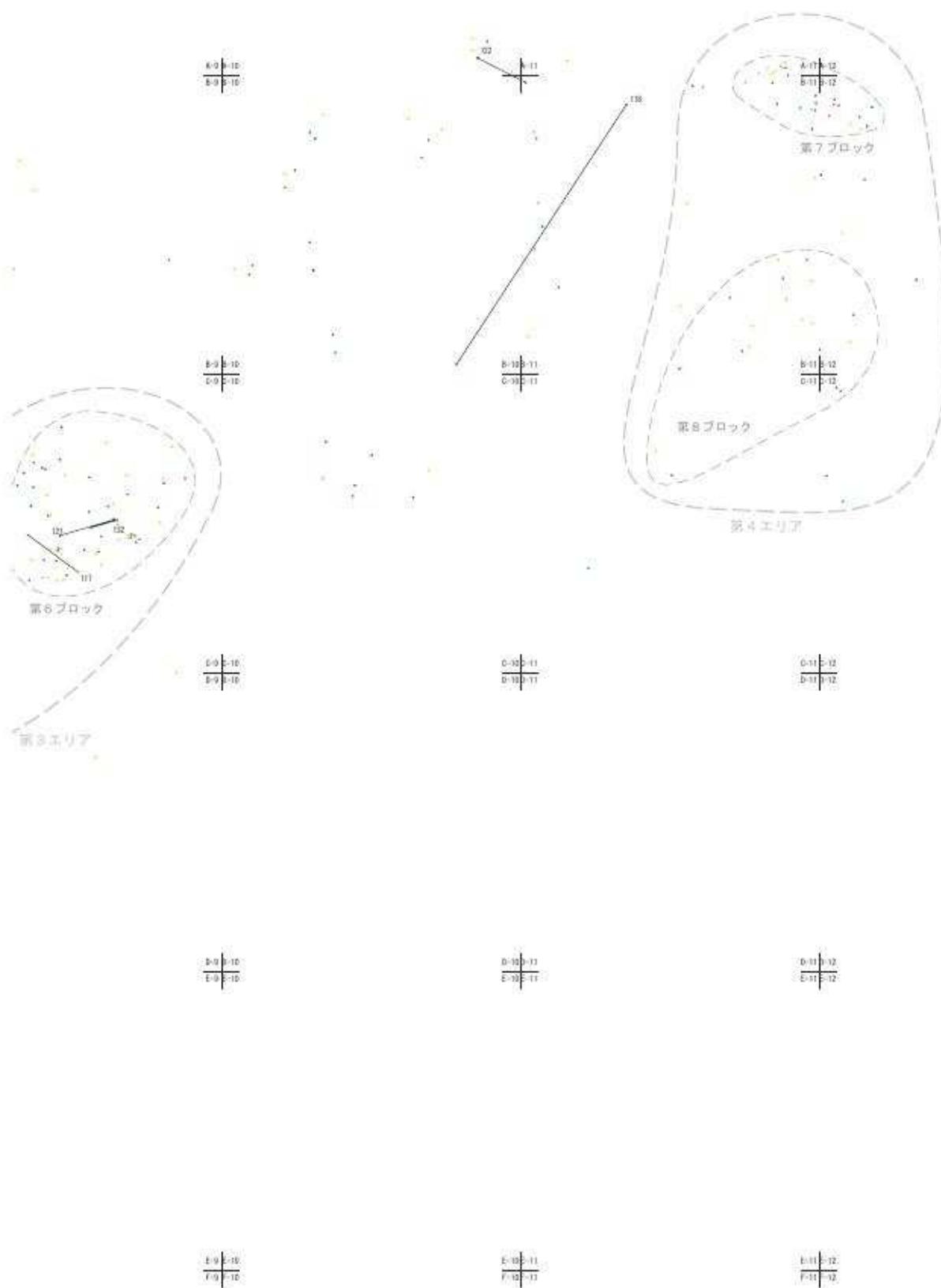
第188図 第Ⅲ文化層出土位置不明石器実測図

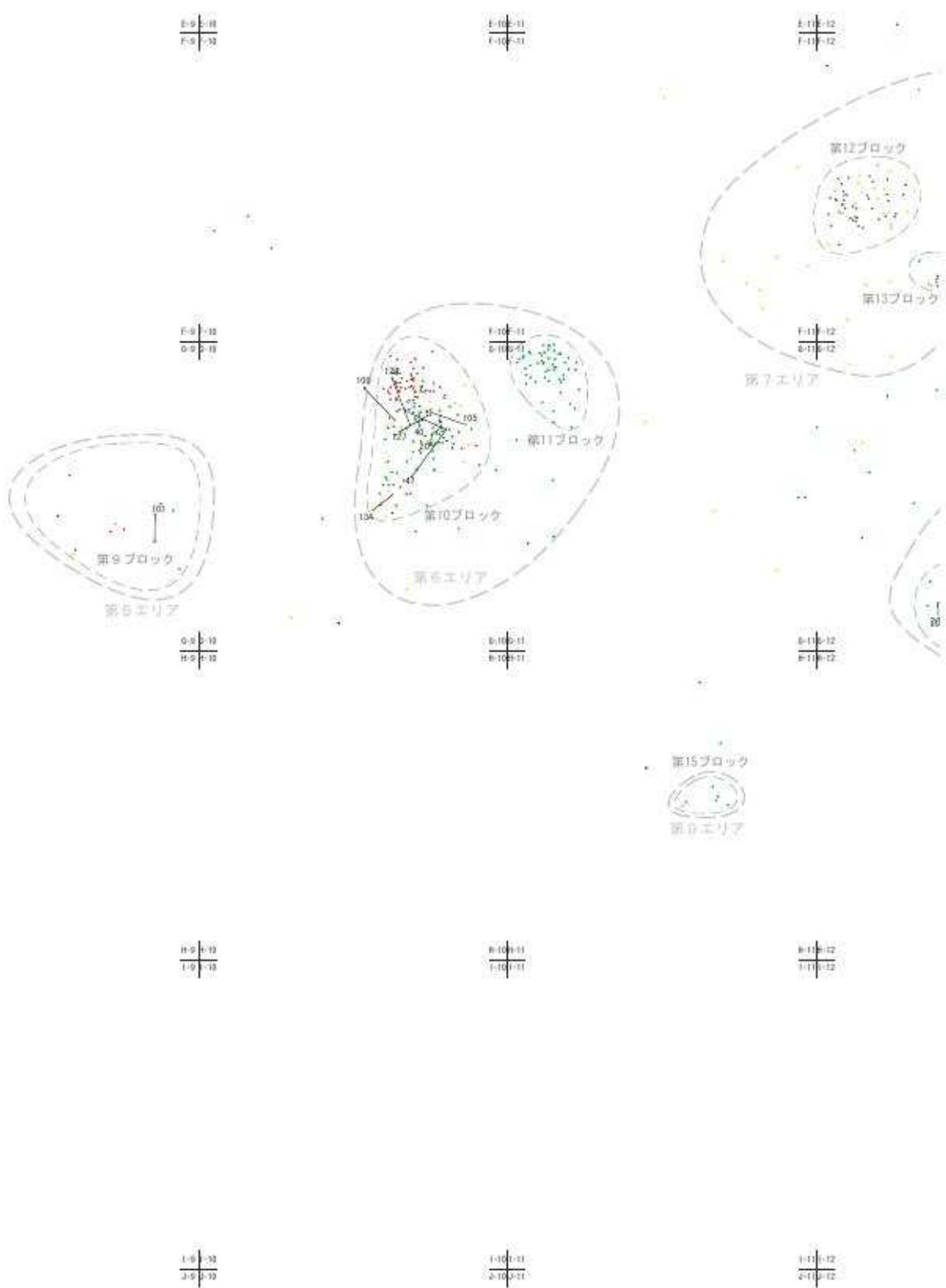


第189図 第Ⅲ文化層接合遺物実測図(1)

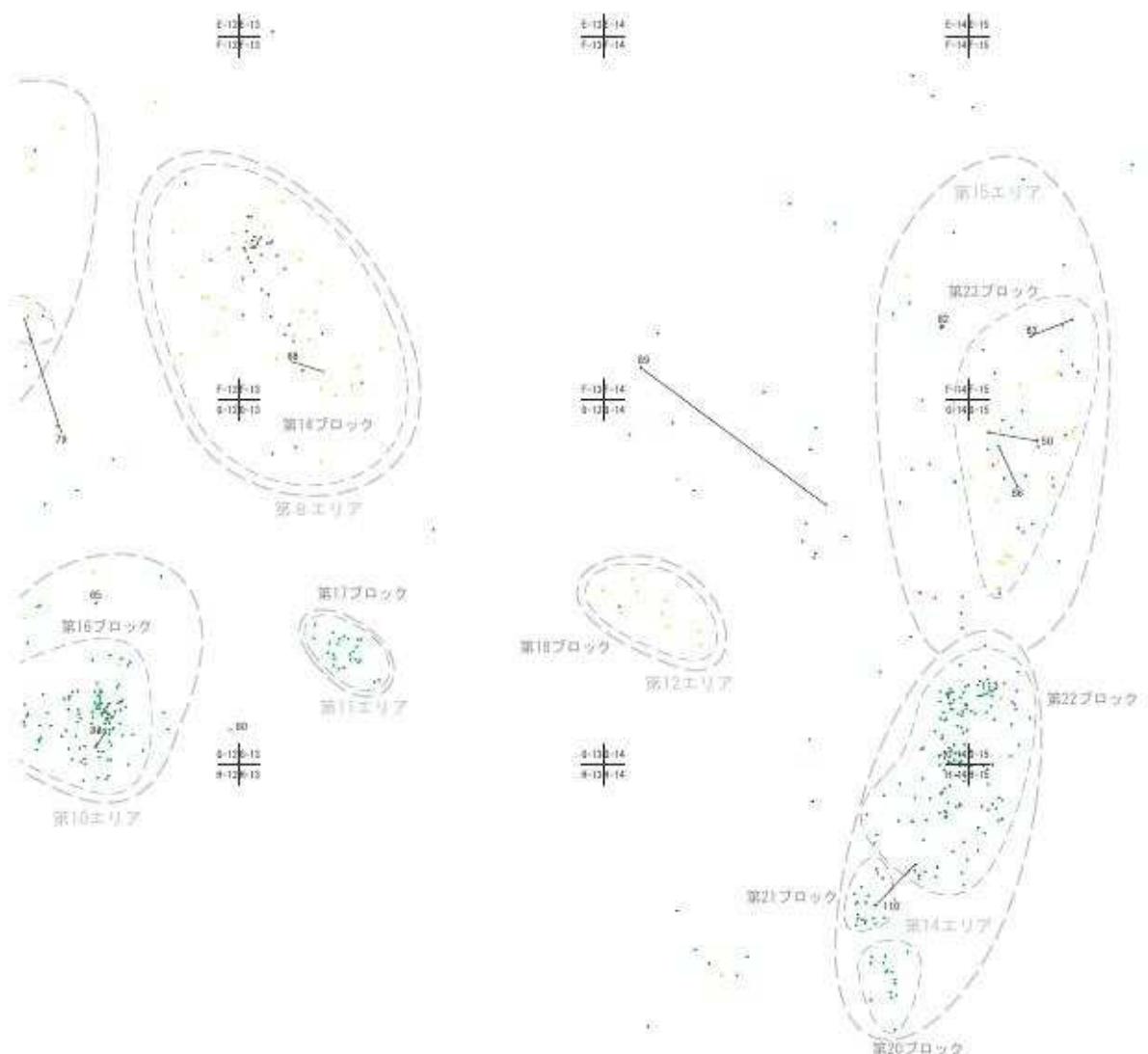


第190図 第III文化層石器接合状況図(1)



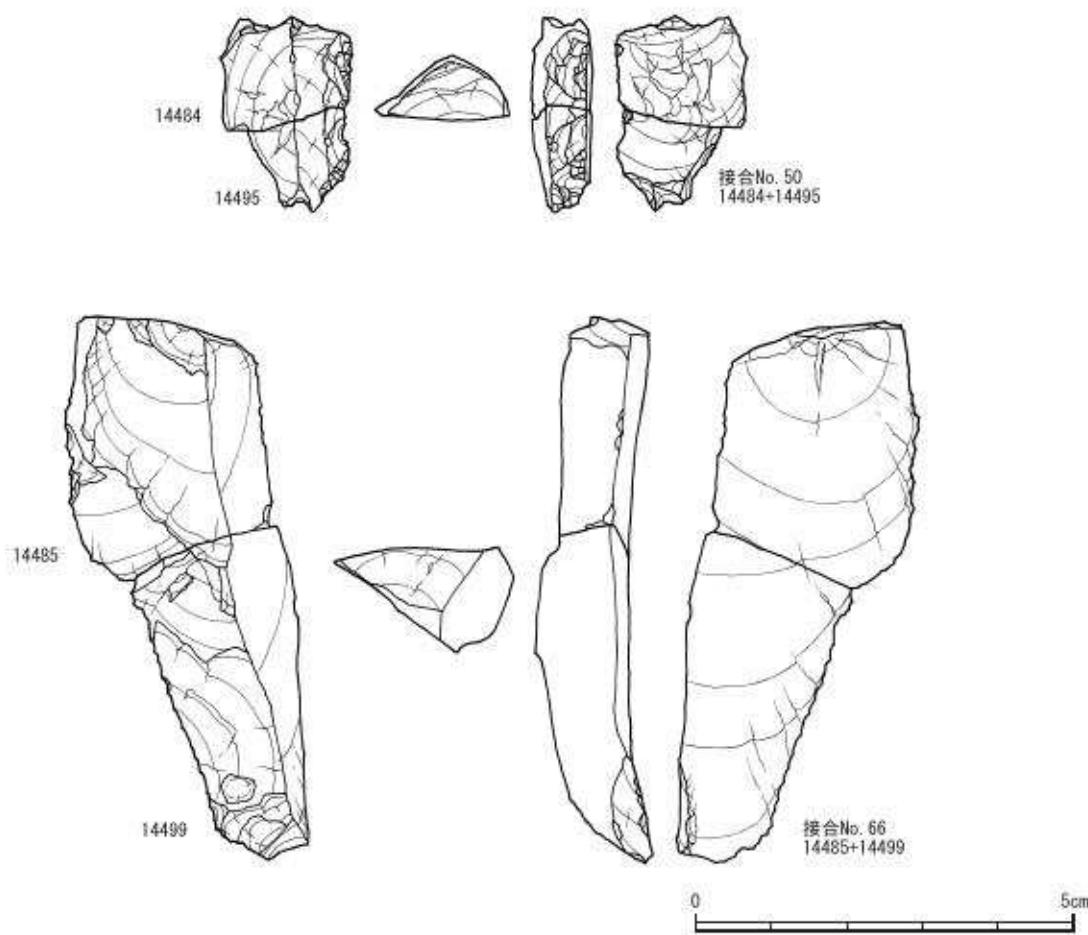


第191図 第III文化層石器接合状況図(2)



E-12-13
 F-12-13
 E-12-14
 F-12-14
 E-14-15
 F-14-15

E-12-13
 F-12-13
 E-12-14
 F-12-14
 E-14-15
 F-14-15



第192図 第III文化層接合遺物実測図(2)

接合資料(第190, 191図)

第III文化層の石器遺物について接合作業を行った。ここでは、このうち生産作業の進行したものを記載した。接合遺物の接合位置については第190, 191図を参照されたい。

接合No. 50

裏面[第10エリアブロック外]

2点の接合で、石核(9190, 第151号0558)と石核9382の場合である。

石核9190のときは、主刃部まで9382は刃片を目的として叩撃された可能性が高いが、鋸戸に叩撃されたことによりヒンジクラフチャーを呈し、刃片がごく薄く剥離される結果となっている。9382がごく薄く剥離されたことにより、主刃部へはをむきに3通りの刃片刃部を行っている。

なお、9190の石核は、刃片転移の痕跡を残している。

接合No. 66

裏面[第15エリア第23ブロック]

2点の接合で、刃片(14485)と刃片(14499)の場合である。

絶長刃片が剥離したもので、折断刃片の可能性が高い。

岩先にパンチ痕とみられる痕跡を確認できる。

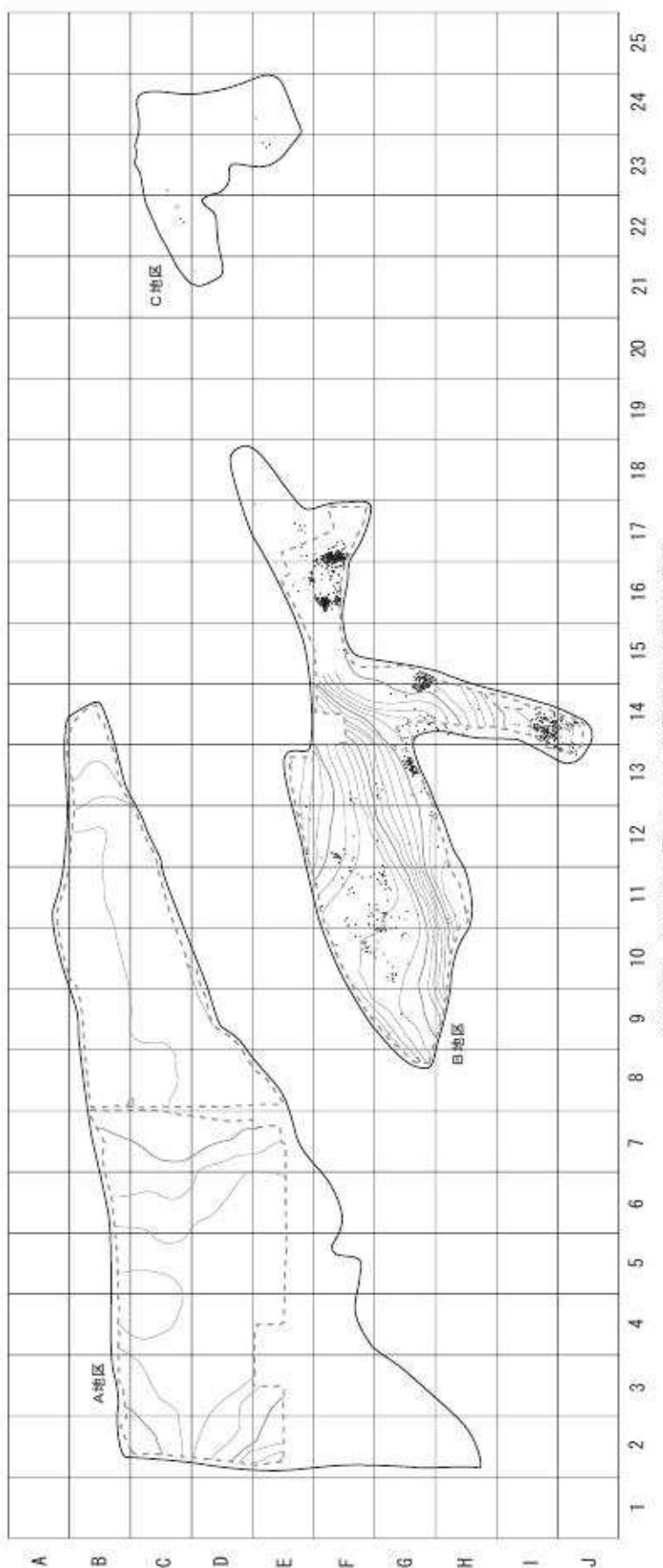
第4章 第IV文化層の調査

1 調査の方法と概要

第IV文化層では発掘車でXⅠ層からEⅣに至る遺構や遺物を手に取り終った。ただし、A地区においてはD-4まで規模な礫柱1基を検出したものの、XⅠ層より後で有意な遺物集団がみられなかつた。そのため、XⅠ層より後で遺物については第IIIや下層において取り扱つた。各々の遺物については、第IIIや下層の報告書の層位を参照されたい。

A、B地区においてはいくつかの遺物集団が認識される。しかし、第IIや下層及び第IIIや下層で積極的に利用されたE, G-9, 10, 11, 12等の階段状の堆积には大きな遺物集団がみられず、より下位の堆积を利用する傾向が強いことが読みとれる。

第IV文化層は検出箇所が比較しており、ユニット構成を判断できないことから、それそれで個々のブロック認定とエリア認定を行つた。



第193図 第IV文化層ユニット配置図及び遺構位置図



第194図 第IV文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(1)

2 退居

第IV文化層ではA面に1基、B面に5基、合計6基の窓跡を検出した。遺構のほとんどは窓下串便となりつた部分に分布する。

26号機群(第195号)

G-15号で検出しした。砂岩を使用し、小型の窓が多い。
一部の窓は板熱による黒変がみられる。

(窓群Ⅰ類)

27号機群(第195号)

H-14号で検出しした。安息岩を使用し、瓦石がわずかに混ざる。サ型と小型の窓が多い。一部の窓は板熱により黒化がみられる。わずかに串便に傾斜して窓がある。

(窓群Ⅲ類)

28号機群(第195号)

I-14号で検出しした。安息岩を使用し、サ型から小型の窓が多い。窓形状は角窓・扇形窓である。

(窓群Ⅲ類)

29号機群(第195号)

D-4号で検出しした。安息岩を使用し、小型の窓が多い。窓は板熱により黒化がみられ、熱取扱した小窓もみられる。周辺にチップが数点みられたがブロック岩は検出されていない。

(窓群Ⅱ類)

30号機群(第197号)

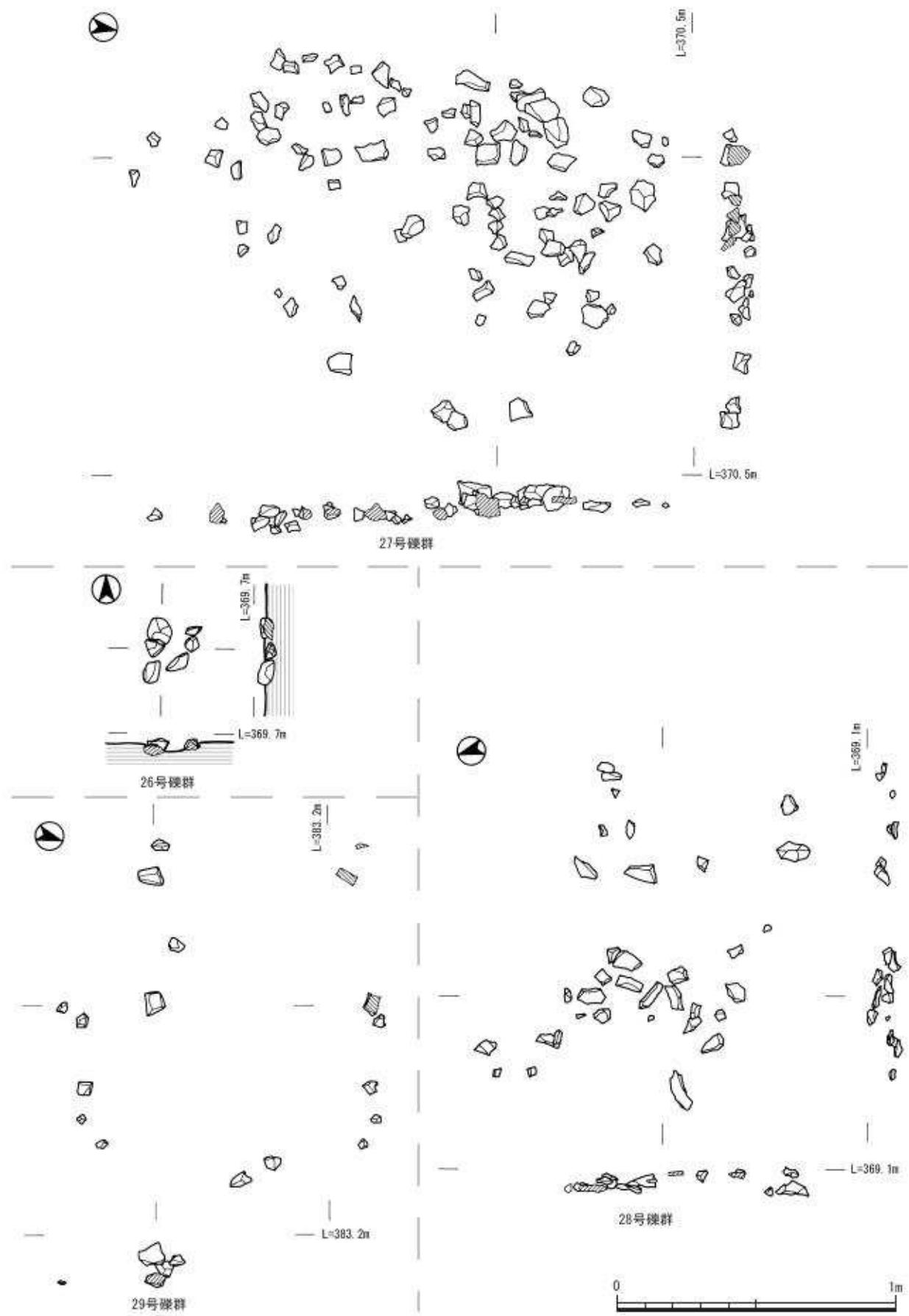
G-11号で検出しした。砂岩を使用し、小型の窓が多い。窓は板熱により黒化がみられ、一部は熱取扱している。やや串便に傾斜しながら窓が残る。

(窓群Ⅲ類)

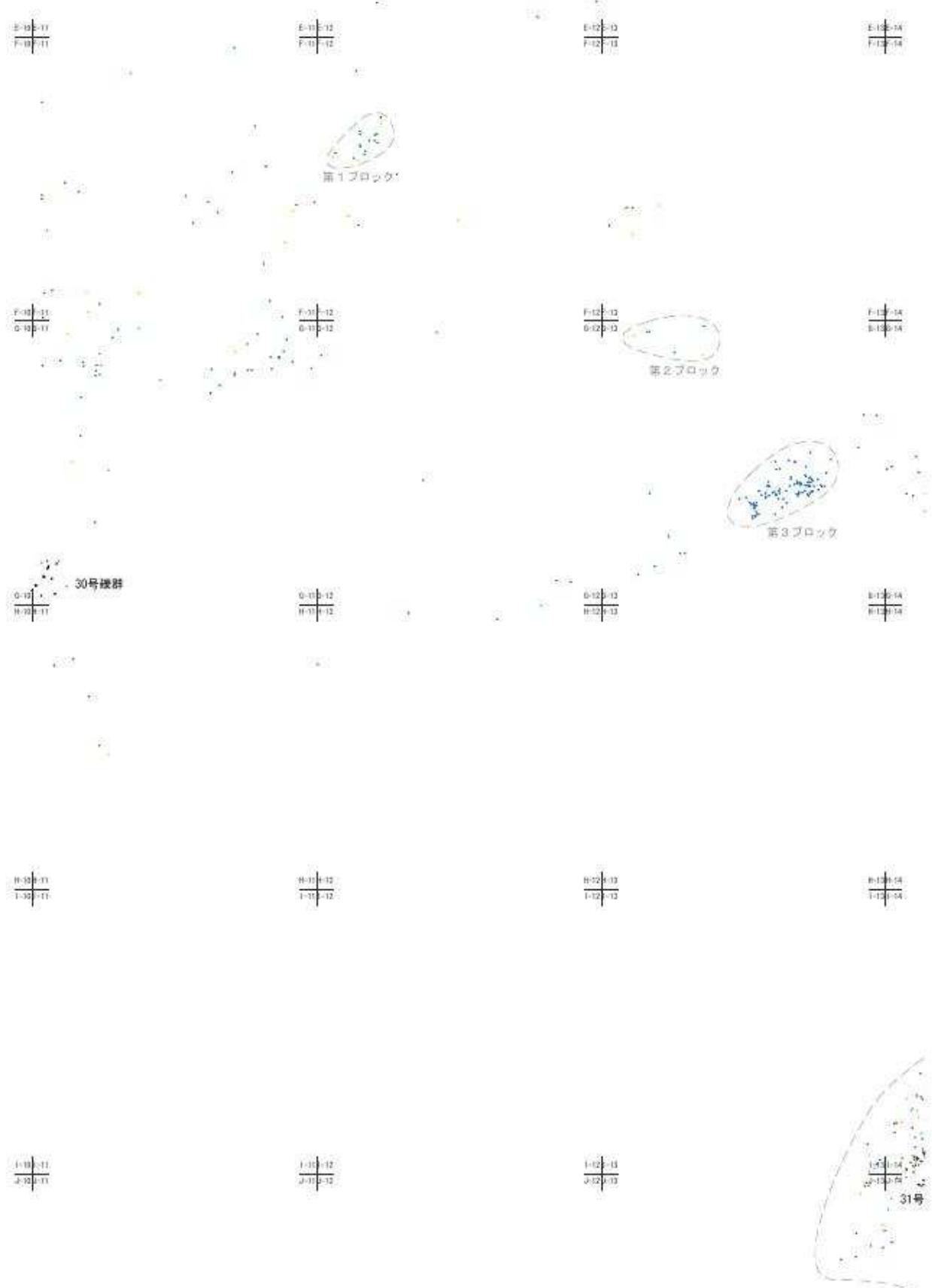
31号機群(第197号)

I-14号で検出しした。色變の安息岩を使用している。大型と小型の窓が多い。板熱の様子はほとんどかがえない。

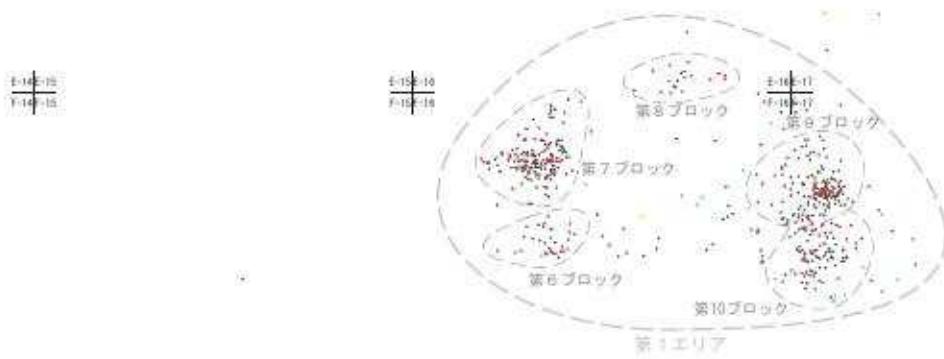
(窓群Ⅲ類)

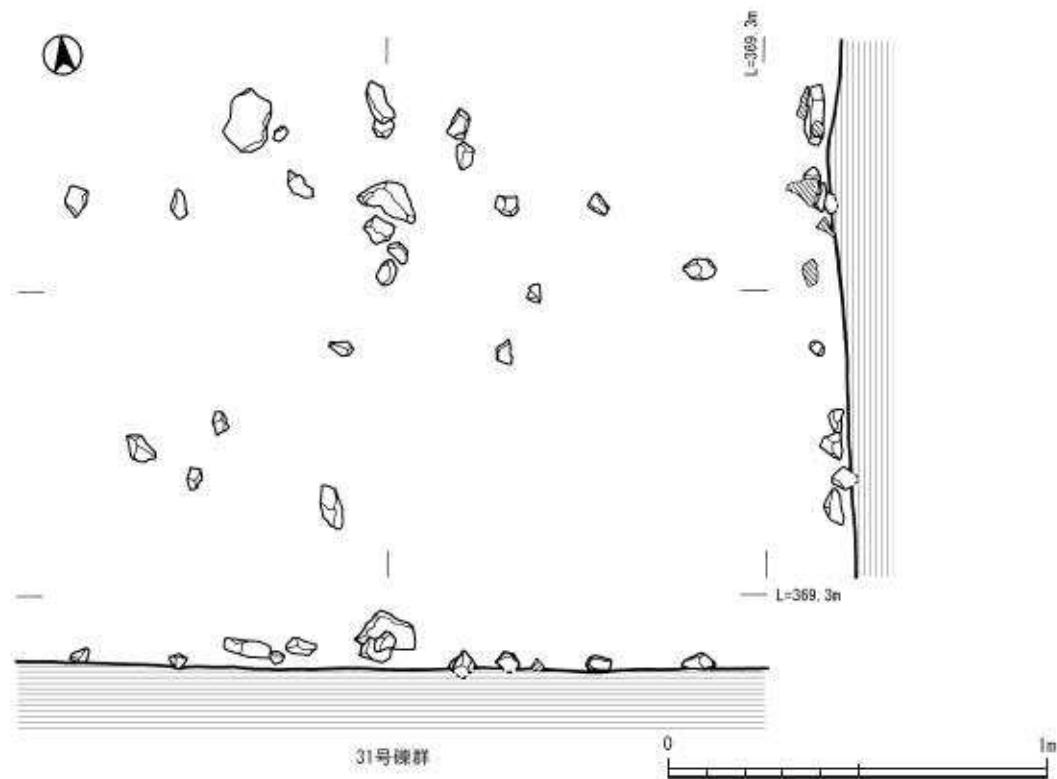
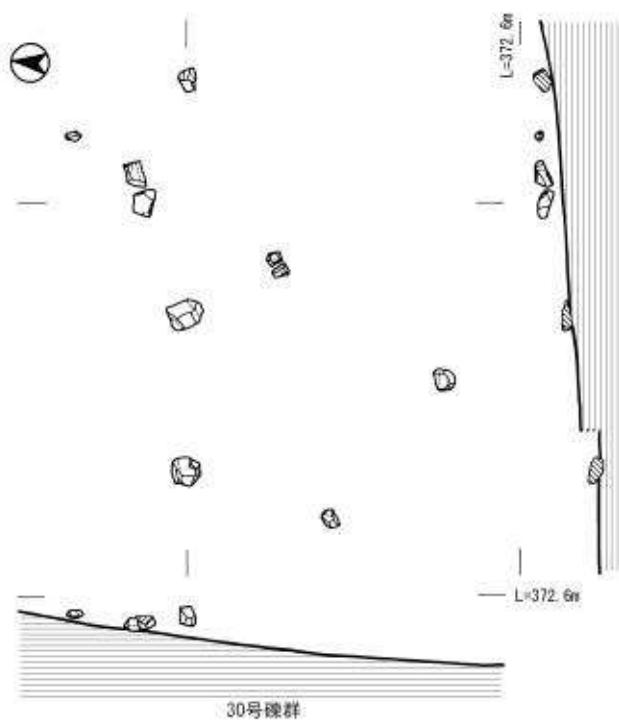


第195図 第IV文化層遺構実測図(1)

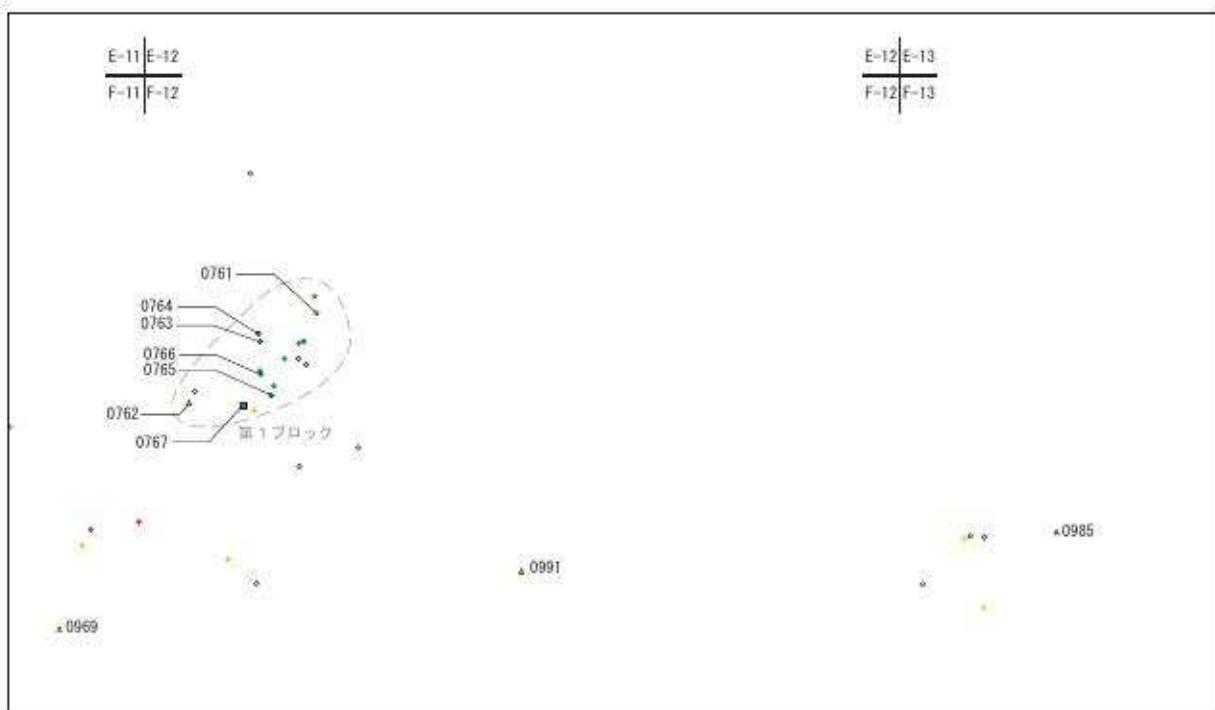


第196図 第IV文化層遺構配置図及び遺物集中区検出状況(2)

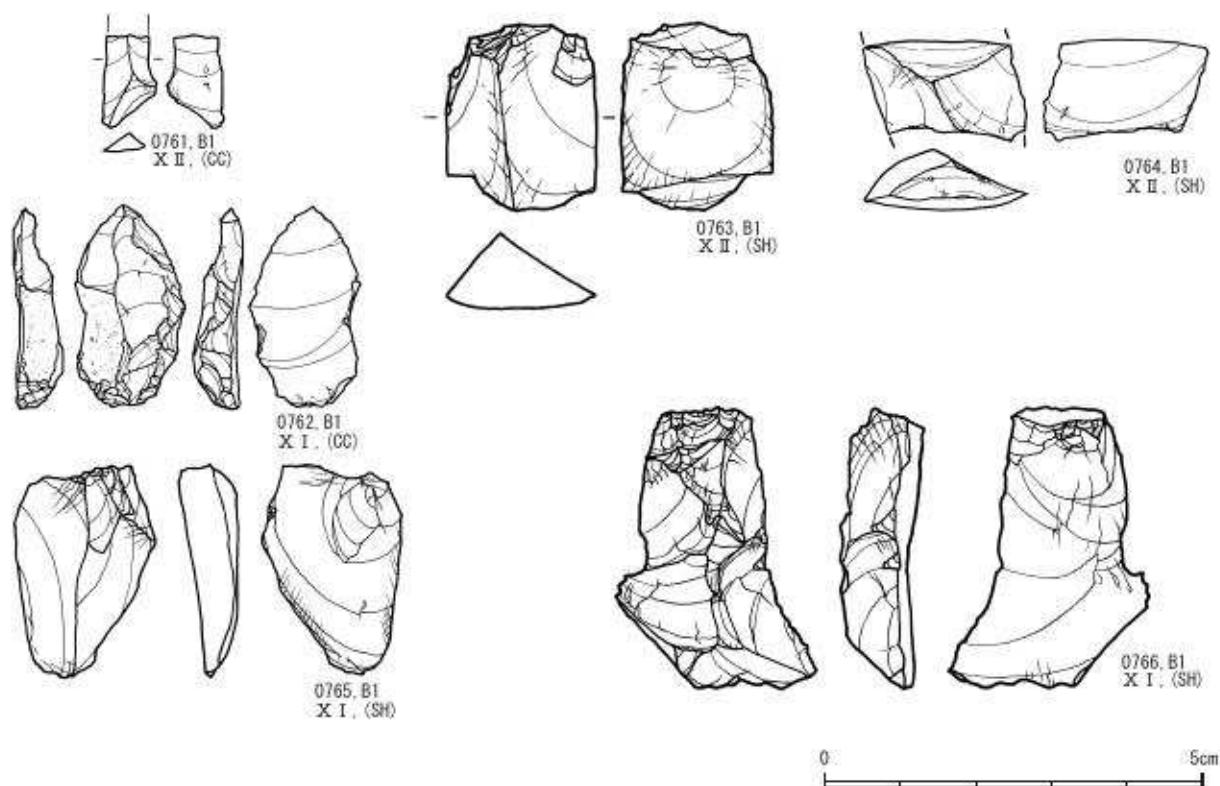




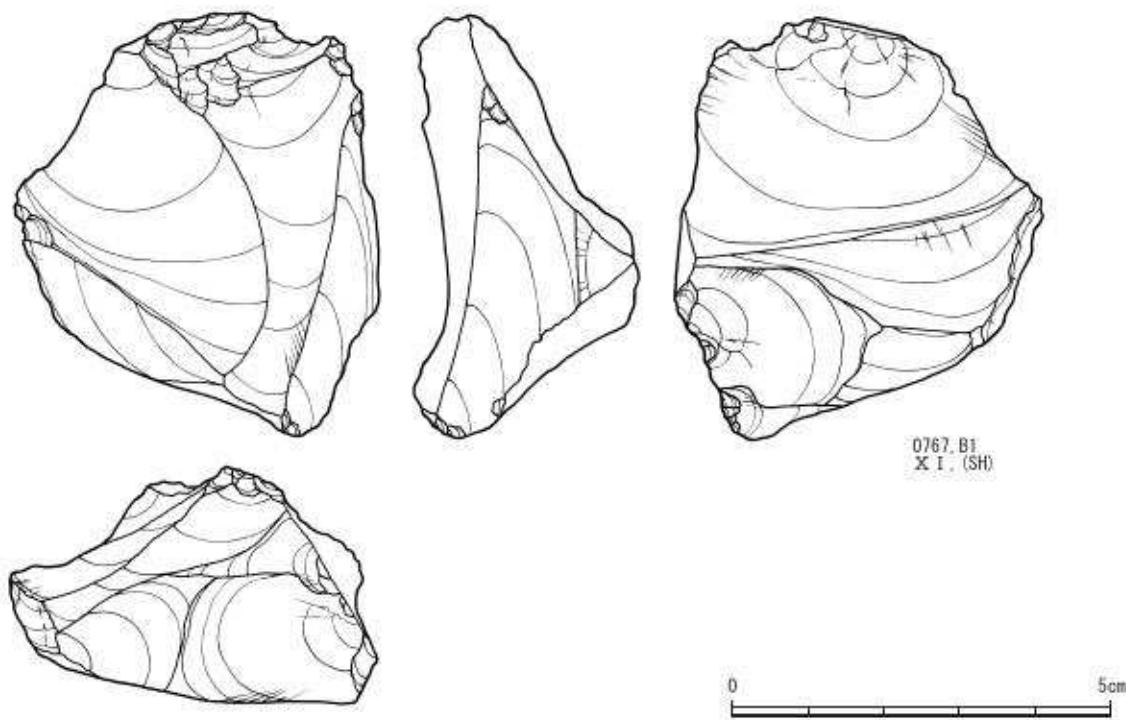
第197図 第IV文化層遺構実測図(2)



第198図 第IV文化層第1ブロック遺物出土状況図



第199図 第IV文化層第1ブロック出土石器実測図(1)



第200図 第IV文化層第1ブロック出土石器実測図(2)

3 遺物

第1ブロック(第198号, 第199, 200号)

F-12区に分布し、主としてギョクズイと石核VI類がそれぞれ3点、1点含まれる。

記号#1点(0761), ナイフ形石器1点(0762), 石核1点(0767)と剥片4点を示した。

記号#はが剥した先端の1点である。

ナイフ形石器はやや厚手の剥片の刃部側を刃部とし、反対側を側面に削りし刃口がみられる。使用刃口は、ギョクズイである。

石核は刃部が移動するもので、丸削の主者を使用している。

剥片の0763, 0764はが剥した後、接着することが判明し、3分割した頭部と中間部である。

第2ブロック(第201号, 第202号)

G-13区にあり、F-13区との境界に位置する。ブロックは、主として4点とギョクズイで構成する。

ナイフ形石器1点(0768), 中央部のある剥片1点(0770)と剥片を確認している。

ギョクズイ使用のナイフ形石器は小型で、側面を削りしている。

中央部のある剥片0770は側面に特徴的な削り跡があり、先端部腹面からの剥離跡がみられる。尖頭状石器としているが、絶望も多い。

第3ブロック(第203号, 第204号)

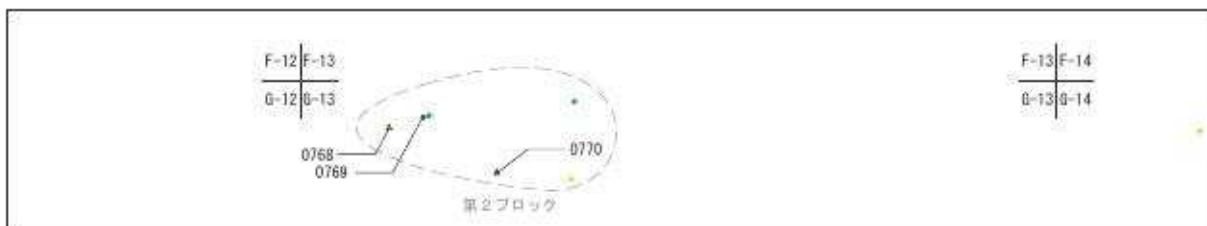
石核I類が頗る構成し、G-13区のほぼ中央部に位置する。

記号#63点(0771~0832, 0835)が集められて採取されている。62点のうち頭部26点、中間部9点、尾部26点で、記号#の大部分が認められる。使用刃口は全て石核I類である。

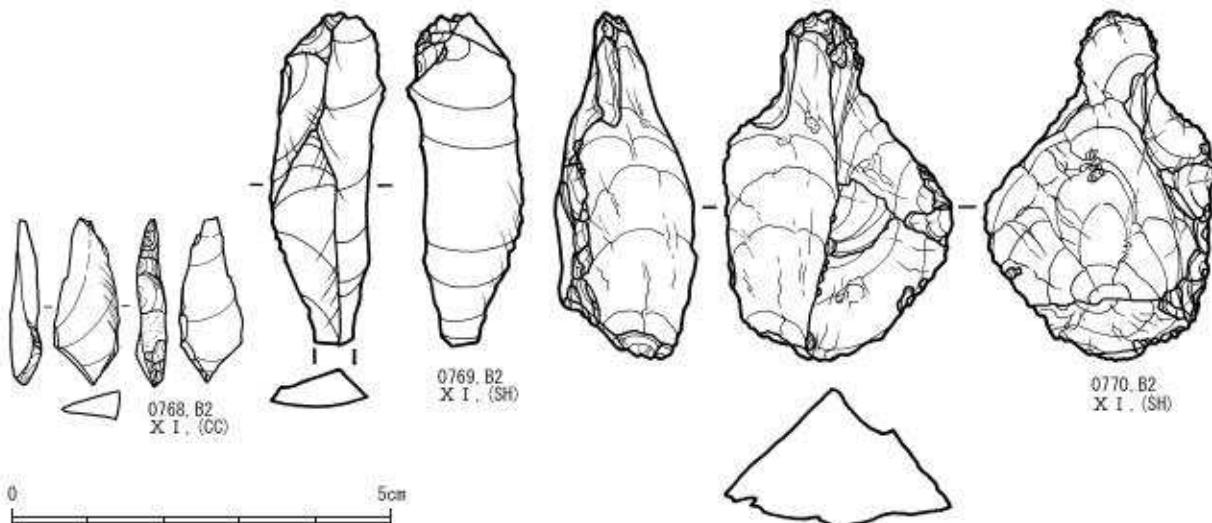
0833, 0834は、剥離剥片とみられる。

第56表 第IV文化層第1ブロック出土石器観察表

標図 No	圆 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エラ	加ナ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
199	0761	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B1	CC	-	(12.4)	(7.3)	(2.0)	(0.13)	9365	X II	F-12	-
	0762	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B1	CC	-	26.7	14.6	7.2	1.97	9389	X I	F-12	-
	0763	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B1	SH	-	24.8	20.1	10.8	4.91	9361	X II	F-12	39
	0764	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B1	SH	-	(13.4)	(21.7)	(8.0)	(2.03)	9362	X II	F-12	39
	0765	剥片	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	28.1	18.6	8.1	2.76	9379	X I	F-12	-
	0766	剥片	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	37.2	26.6	11.6	7.31	9381	X I	F-12	-
200	0767	石核	-	-	IV	外	外	B1	SH	-	56.0	48.3	31.9	31.90	9382	X I	F-12	65



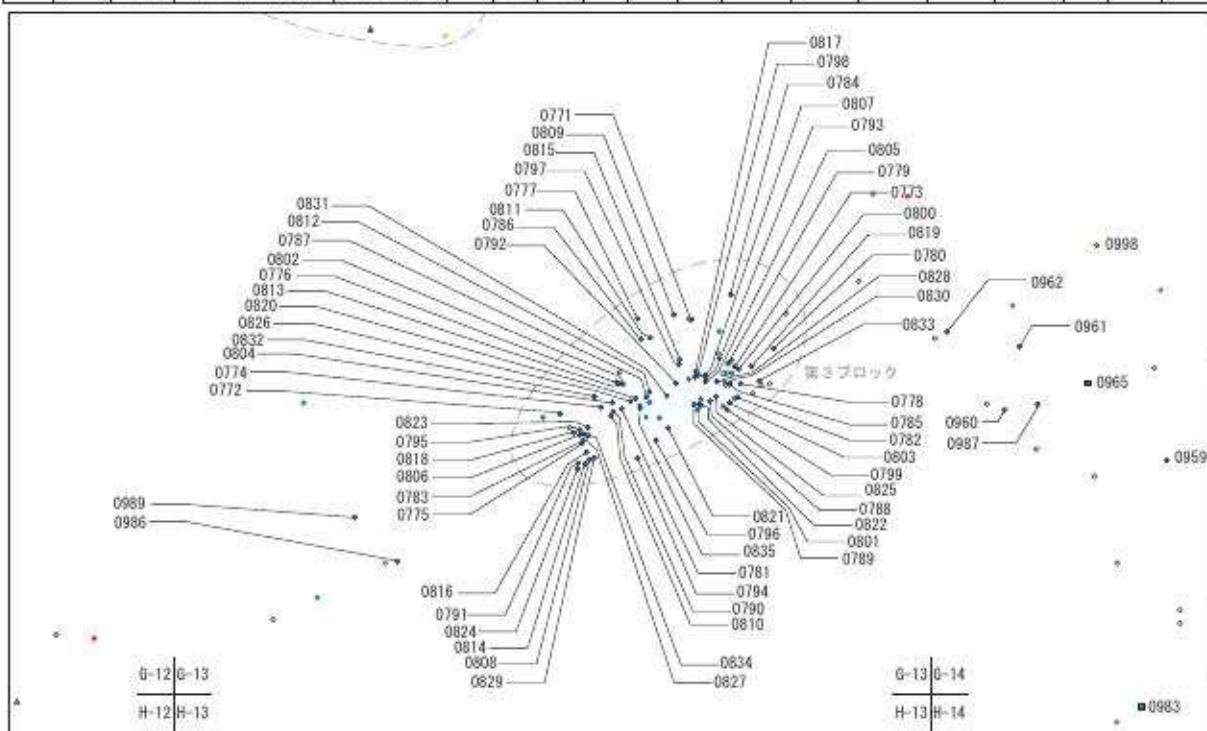
第201図 第IV文化層第2ブロック遺物出土状況図



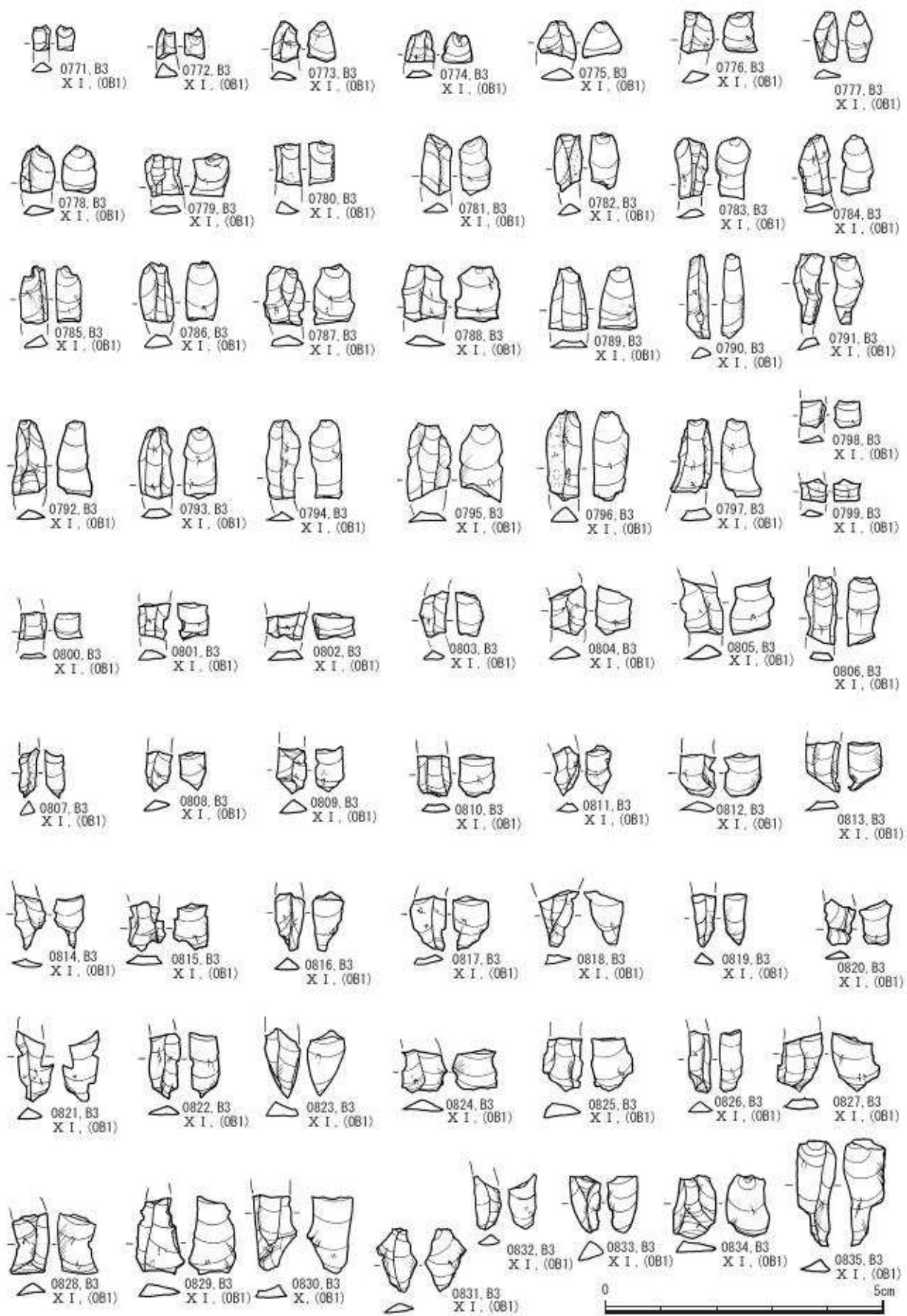
第202図 第IV文化層第2ブロック出土石器実測図

第57表 第IV文化層第2ブロック出土石器観察表

掲図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	1ネット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	リフグ	接合 No
202	0768	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B2	CC	-	21.8	8.6	4.0	0.56	9572	X I	G-13	-
	0769	剥片	-	-	IV	外	外	B2	SH	-	(43.9)	(15.5)	(5.2)	(3.80)	9573	X I	G-13	-
	0770	石器	二次加工痕のある剥片 尖頭状石器?	IV	外	外	B2	SH	-	46.4	30.5	19.3	17.95	9579	X I	G-13	-	



第203図 第IV文化層第3ブロック遺物出土状況図



第204図 第IV文化層第3ブロック出土石器実測図

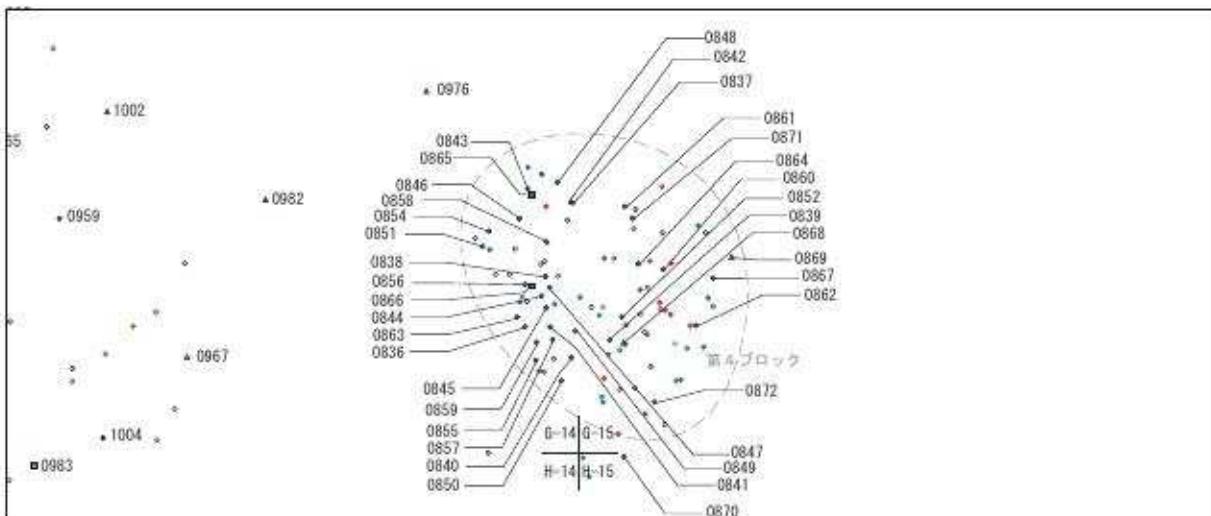
第58表 第IV文化層第3ブロック出土石器観察表(1)

種別 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ニット 117	加熱	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位 引合 No	接合 No	
	0771	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(4.7)	(3.4)	(1.5)	(0.02)	9009	X I G-13	-
	0772	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(5.6)	(3.8)	(2.1)	(0.03)	8982	X I G-13	-
	0773	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.4)	(5.2)	(1.1)	(0.03)	9038	X I G-13	-
	0774	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(5.6)	(5.5)	(1.5)	(0.04)	8983	X I G-13	-
	0775	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.2)	(7.1)	(1.5)	(0.06)	8976	X I G-13	-
	0776	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.6)	(6.2)	(2.2)	(0.06)	8989	X I G-13	-
	0777	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	9.1	4.6	1.2	0.04	9007	X I G-13	-
	0778	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.6)	(6.4)	(1.8)	(0.06)	9045	X I G-13	-
	0779	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.6)	(7.1)	(2.1)	(0.10)	9037	X I G-13	-
	0780	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.6)	(5.1)	(1.0)	(0.05)	9036	X I G-13	-
	0781	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(11.0)	(5.6)	(2.0)	(0.09)	8986	X I G-13	-
	0782	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.3)	(5.3)	(1.8)	(0.07)	9032	X I G-13	-
	0783	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.8)	(6.1)	(1.8)	(0.10)	8977	X I G-13	-
	0784	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(11.1)	(6.1)	(2.1)	(0.11)	9010	X I G-13	-
	0785	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.4)	(5.2)	(3.0)	(0.10)	9065	X I G-13	-
	0786	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.7)	(6.2)	(2.1)	(0.13)	9006	X I G-13	-
	0787	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.7)	(7.5)	(2.1)	(0.16)	8993	X I G-13	-
	0788	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.4)	(8.2)	(1.7)	(0.12)	9067	X I G-13	-
	0789	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(11.4)	(7.1)	(2.0)	(0.17)	9027	X I G-13	-
	0790	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	15.2	4.3	2.0	0.09	9056	X I G-13	-
	0791	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(12.8)	(5.6)	(2.5)	(0.11)	8975	X I G-13	-
	0792	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(13.7)	(6.2)	(1.9)	(0.10)	9016	X I G-13	-
	0793	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(12.8)	(6.4)	(2.0)	(0.14)	9071	X I G-13	-
	0794	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(14.2)	(6.3)	(1.8)	(0.08)	8998	X I G-13	-
	0795	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(14.1)	(8.1)	(1.9)	(0.17)	8980	X I G-13	-
	0796	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(16.1)	(6.4)	(3.0)	(0.24)	8999	X I G-13	-
	0797	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(13.4)	(7.7)	(2.7)	(0.18)	9012	X I G-13	-
	0798	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(5.1)	(4.9)	(0.8)	(0.02)	9020	X I G-13	-
	0799	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(4.2)	(5.0)	(0.9)	(0.01)	9029	X I G-13	-
	0800	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(5.1)	(5.1)	(1.0)	(0.02)	9039	X I G-13	-
	0801	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(6.7)	(5.8)	(1.8)	(0.03)	9026	X I G-13	-
	0802	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(5.0)	(7.3)	(1.8)	(0.05)	9070	X I G-13	-
	0803	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.3)	(5.4)	(2.0)	(0.05)	9030	X I G-13	-
	0804	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.9)	(6.8)	(1.5)	(0.08)	8984	X I G-13	-
	0805	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.1)	(7.7)	(1.8)	(0.11)	9022	X I G-13	-
	0806	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(12.5)	(6.1)	(1.4)	(0.11)	9054	X I G-13	-
	0807	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.9)	(3.8)	(2.1)	(0.05)	9021	X I G-13	-
	0808	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.2)	(4.9)	(2.2)	(0.03)	8972	X I G-13	-
	0809	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.4)	(5.5)	(2.4)	(0.08)	9008	X I G-13	-
	0810	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.5)	(6.2)	(1.2)	(0.08)	8985	X I G-13	-
	0811	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.9)	(5.1)	(1.4)	(0.04)	9005	X I G-13	-
	0812	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.9)	(6.6)	(1.1)	(0.05)	8995	X I G-13	-
	0813	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(9.2)	(6.3)	(1.1)	(0.08)	9058	X I G-13	-
	0814	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.1)	(5.7)	(1.4)	(0.04)	8971	X I G-13	-
	0815	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.8)	(6.7)	(1.2)	(0.08)	9011	X I G-13	-
	0816	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.4)	(5.4)	(2.0)	(0.09)	8974	X I G-13	-
	0817	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(9.8)	(6.6)	2.0	(0.08)	9018	X I G-13	-
	0818	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(10.3)	(7.3)	(2.1)	(0.07)	9072	X I G-13	-
	0819	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(9.7)	(4.4)	(2.1)	(0.05)	9041	X I G-13	-
	0820	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(8.3)	(5.8)	(1.4)	(0.05)	8991	X I G-13	-
	0821	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(12.7)	(6.9)	(2.0)	(0.12)	9002	X I G-13	-
	0822	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(11.9)	(5.8)	(1.3)	(0.07)	9068	X I G-13	-
	0823	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(12.6)	(6.5)	(2.1)	(0.12)	8979	X I G-13	-
	0824	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(7.8)	(8.3)	(1.8)	(0.09)	8970	X I G-13	-
	0825	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(9.6)	(7.3)	(2.2)	(0.16)	9024	X I G-13	-
	0826	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	0B1	-	(11.3)	(4.2)	(1.9)	(0.08)	8990	X I G-13	-

204

第59表 第IV文化層第3ブロック出土石器観察表(2)

標識 No	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット	エリア	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列付 No	接合 No
204	0827	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	(10.6)	(8.4)	(1.5)	(0.14)	8978	X I	G-13	-
	0828	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	(11.0)	(7.1)	(1.9)	(0.13)	9023	X I	G-13	-
	0829	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	(13.8)	(8.8)	(2.0)	(0.20)	8973	X I	G-13	-
	0830	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	(13.7)	(8.2)	(3.1)	(0.24)	9046	X	G-13	-
	0831	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	11.4	7.3	2.1	0.09	9003	X I	G-13	-
	0832	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	(9.8)	(5.1)	(1.3)	(0.05)	8997	X I	G-13	-
	0833	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B3	081	-	10.3	5.6	3.0	0.11	9061	X I	G-13	-
	0834	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B3	081	-	11.6	7.8	2.2	0.20	9055	X I	G-13	-
	0835	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B3	081	-	19.0	7.2	2.0	0.20	8992	X I	G-13	-



第205図 第IV文化層第4ブロック遺物出土状況図

第4ブロック(第205図、第206図)

G-14, 15点の境目に位置し、構成する石材の主材は黒曜石I類で、其の後II-A類、II-B類、II-C類、III類、IV類、V類が1点から6点の範囲で分布する。

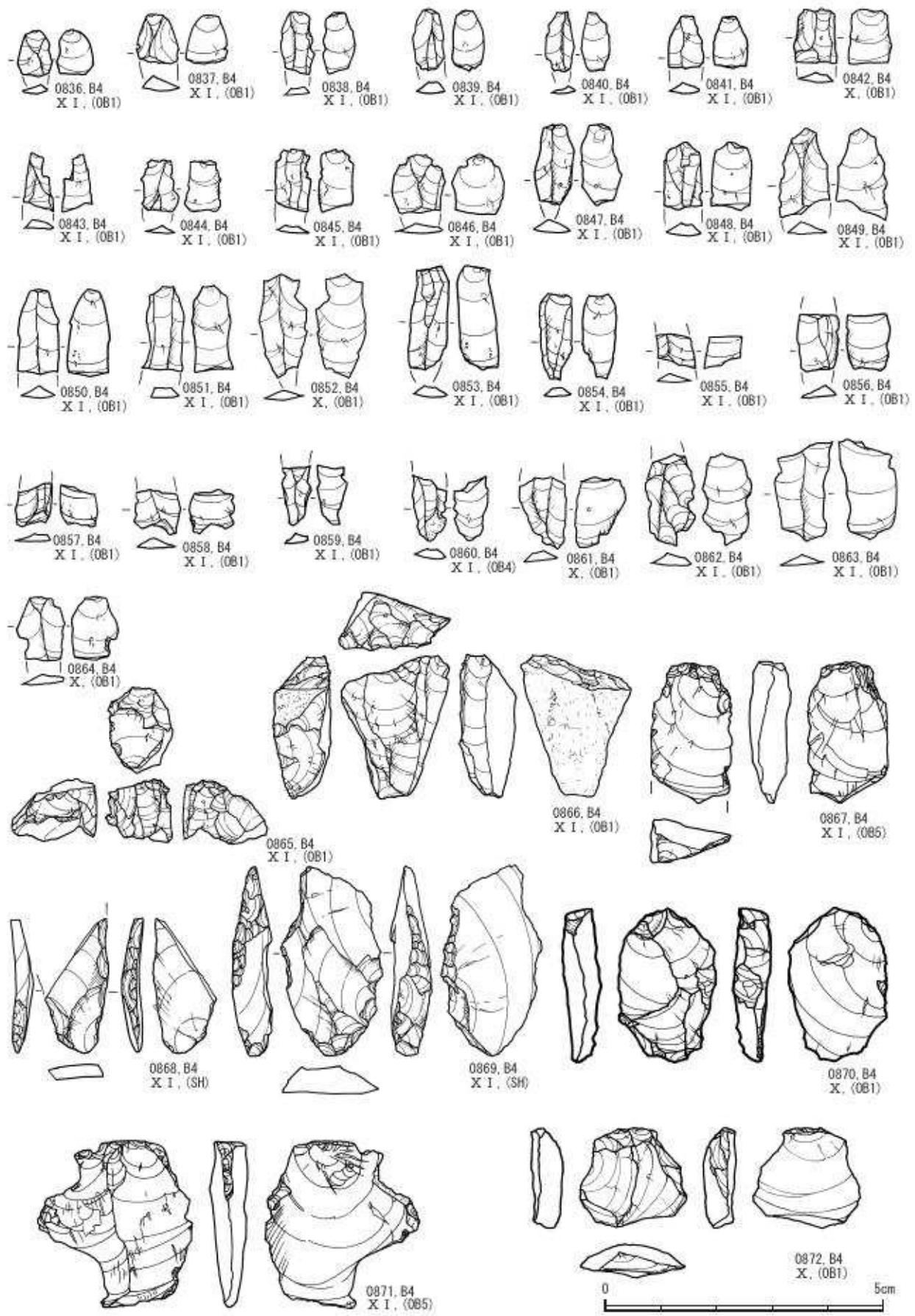
鉈2点(0836～0863)、鉈2点(0865, 0866)、ナイフ形器2点(0868, 0869)、折断剥片(0872)と剥片を検出している。

鉈2点(0860)の1点が黒曜石IV類で、これは全て黒曜石I類を使用している。第3ブロックと同じように、鉈2点の分部が見られるが、採取した中では2点と少ない。

2点の鉈2点も黒曜石I類を使用し、0865の刃部ははじめでいるが、刃部素材と見られる。0866は刃部と裏面に磨耗を残したまま使用し、刃部溝整も認められる。

2点のナイフ形器は刃部を使用し、刃部素材は0868は細長剥片で、0869は横長剥片である。「直し切」は全て削りあわせから行っている。0868は「直し切」、0869は「直し切」の切口形である。使用2点は、刃部の主者である。

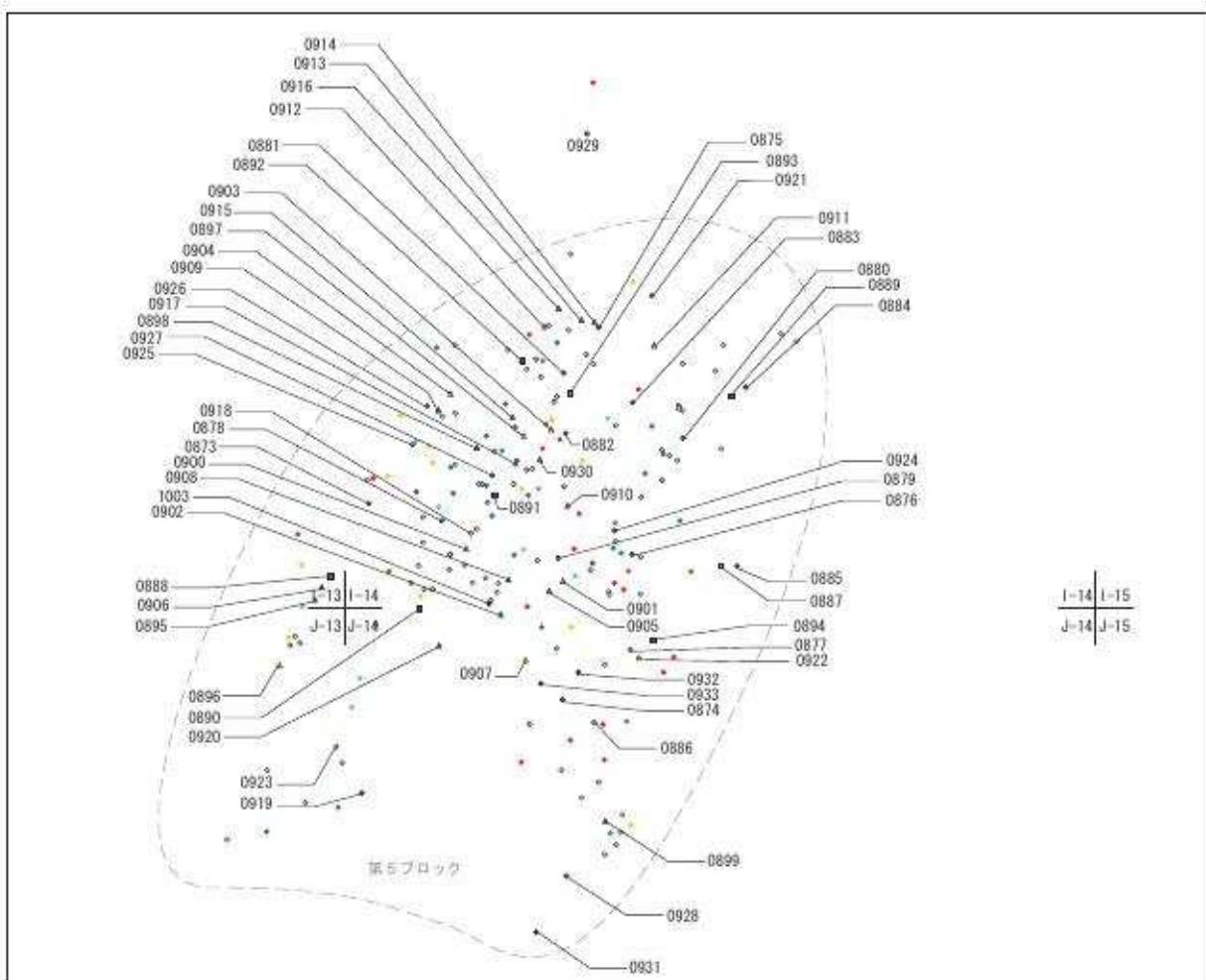
このブロックにおいては、鉈2点および鉈2点とナイフ形器が直角的に重複した状態で検出されている。この鉈2点および鉈2点とナイフ形器が相伴関係を持つのかどうかについては、今後慎重に検討を行う必要がある。



第206図 第IV文化層第4ブロック出土石器実測図

第60表 第IV文化層第4ブロック出土石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	セイツ	イワツ	ロツ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列 F	接合 No
206	0836	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(8.3)	(6.4)	(1.1)	(0.06)	14663	X I	G-14	-
	0837	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.1)	(7.7)	(2.5)	(0.13)	14468	X I	G-14	-
	0838	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.4)	(6.3)	(1.5)	(0.10)	14448	X I	G-14	-
	0839	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.1)	(5.8)	(2.4)	(0.11)	15156	X I	G-15	-
	0840	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.8)	(5.4)	(1.4)	(0.06)	14440	X I	G-14	-
	0841	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.6)	(6.5)	(1.2)	(0.07)	14444	X I	G-14	-
	0842	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.0)	(8.0)	(2.4)	(0.21)	9698	X	G-14	-
	0843	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.7)	(5.6)	(1.8)	(0.07)	14465	X I	G-14	-
	0844	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(9.4)	(6.8)	(1.6)	(0.08)	14668	X I	G-14	-
	0845	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.5)	(6.6)	(1.2)	(0.09)	14446	X I	G-14	-
	0846	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.8)	(9.8)	(1.9)	(0.17)	14461	X I	G-14	-
	0847	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(14.7)	(7.3)	(2.1)	(0.22)	14667	X I	G-14	-
	0848	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(12.1)	(7.1)	(2.6)	(0.21)	14676	X I	G-14	-
	0849	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(16.1)	(9.2)	(2.5)	(0.32)	14441	X I	G-14	-
	0850	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(15.4)	(7.6)	(2.4)	(0.24)	14432	X I	G-14	-
	0851	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(15.3)	(7.7)	(2.0)	(0.25)	14457	X I	G-14	-
	0852	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(18.8)	(8.8)	(2.2)	(0.32)	9690	X	G-15	-
	0853	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(18.8)	(7.5)	(2.8)	(0.31)	14467	X I	G-14	-
	0854	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	15.8	6.0	1.3	0.13	14460	X I	G-14	-
	0855	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(6.2)	(7.2)	(1.7)	(0.06)	14435	X I	G-14	-
	0856	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.4)	(7.7)	(2.4)	(0.16)	14672	X I	G-14	-
	0857	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(7.8)	(6.7)	(1.3)	(0.06)	14443	X I	G-14	-
	0858	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(8.1)	(8.5)	(1.6)	(0.10)	14454	X I	G-14	-
	0859	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(10.9)	(5.5)	(1.6)	(0.08)	14438	X I	G-14	-
	0860	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB4	-	(12.1)	(6.3)	(1.6)	(0.11)	15735	X I	G-15	-
	0861	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(12.9)	(8.6)	(1.8)	(0.21)	9694	X	G-15	-
	0862	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(16.5)	(9.1)	(2.4)	(0.30)	15761	X I	G-15	-
	0863	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	17.8	10.5	2.7	0.35	14445	X I	G-14	-
	0864	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B4	OB1	-	(11.6)	(8.8)	(2.0)	(0.17)	9693	X	G-15	-
	0865	石核	細石核	-	IV	外	外	B4	OB1	-	11.2	11.2	15.0	1.70	14464	X I	G-14	-
	0866	石核	細石核	-	IV	外	外	B4	OB1	-	26.0	19.5	10.2	4.23	14449	X I	G-14	-
	0867	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB5	-	(25.2)	(14.8)	(7.8)	(2.42)	15730	X I	G-15	-
	0868	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B4	SH	-	24.0	11.8	4.0	0.85	15755	X I	G-15	-
	0869	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B4	SH	-	34.0	18.3	7.5	4.13	15729	X I	G-15	-
	0870	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB5	-	27.8	17.8	7.1	2.96	9680	X	H-15	-
	0871	剥片	-	-	IV	外	外	B4	OB5	-	30.0	27.8	6.6	3.90	15740	X I	G-15	-
	0872	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B4	OB1	-	18.0	19.3	5.7	1.95	9683	X	G-15	-



第207図 第IV文化層第5ブロック遺物出土状況図

第5ブロック(第207ヶ, 第208~212ヶ)

I, J-13, 14ヶあたりにあり, I-14ヶに鉢のじがりがみられる。ブロックの主なるものは黒漆器I類で黒漆器II-A類, 黒漆器II-C類, 黑漆器III類, 黑漆器V類, 安器, ギョクズイ, チャート, ハ晶, 長器, 砂器が混在して構成する。

鉢5ヶ14点(0873~0886), 鉢6ヶ8点(0887~0894), ナイフ形器15点(0896~0909), 楔形器9点(0910~0917, 0920), ハンマーストーン3点(0931~0933)等がみられる。

鉢5ヶの使用跡は黒漆器I類が占めて、黒漆器III類が2点かわる。やはり鉢底が認められ、頭部片が多く残されている。

鉢5ヶでは0887が黒漆器III類, 0893がハ晶で他は黒漆器I類を用いている。

0889, 0891には縫を付けて、縫跡をそのまま残している。0887, 0888, 0890, 0893, 0894も縫跡を用い、縫跡の大きさを均一とすることに変わりはないが、大きさの変形に横ちり(横縫跡)からの調整機能が結構的にかわる。

次に、前者は作業の工具観が逆三角形状をなし、後者はやや複雑の△形状をなす。また、前者は中空切欠き、

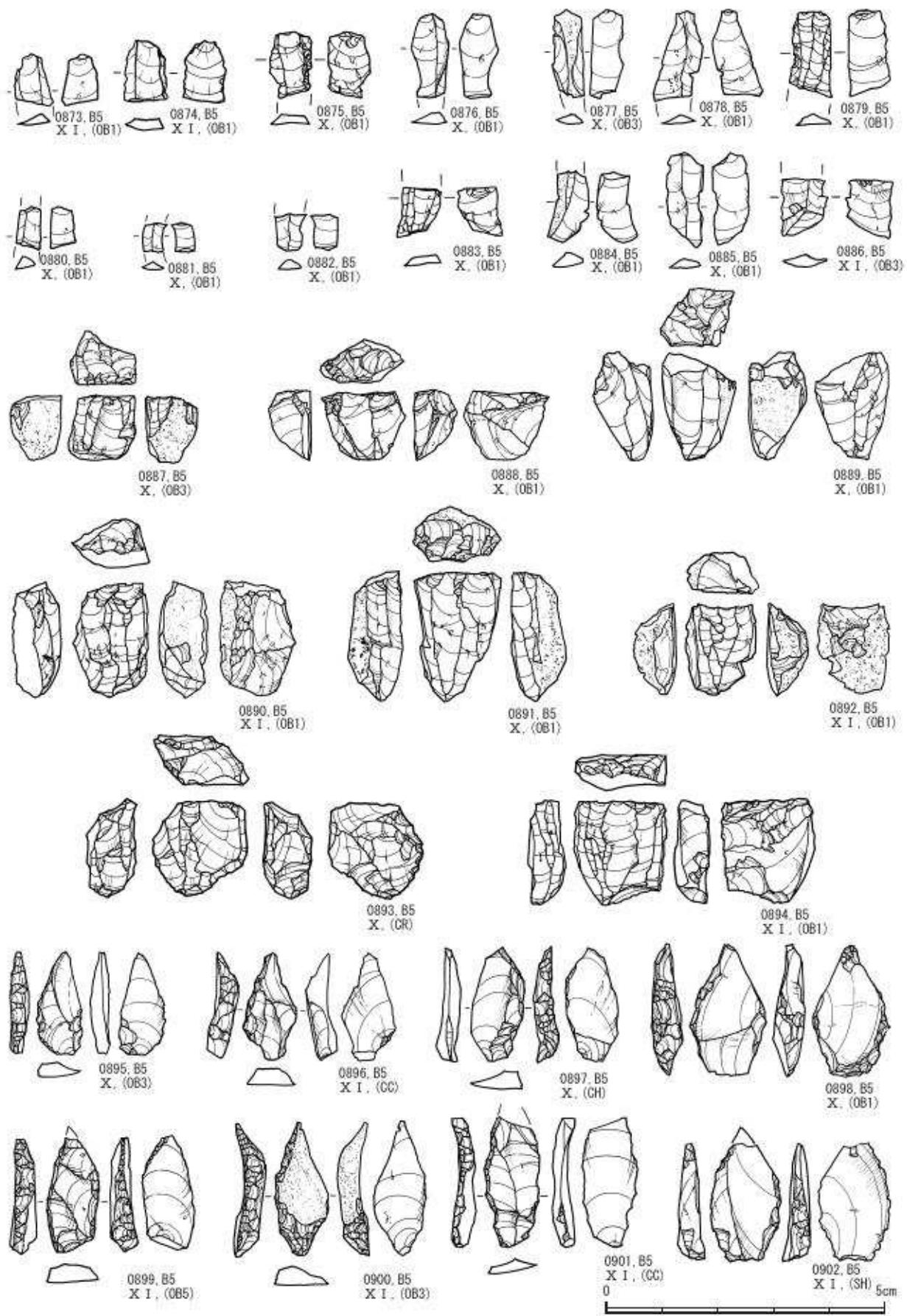
後者は横穿切欠きを成す様もみられる。

小型のナイフ形器が定着している感がある。0896と0897は一本脚丸刀, 0898, 0899は二本脚丸刀, 0895, 0900, 0901, 0902は三脚と一本脚丸刀, 0904, 0905, 0907~0909は三脚丸刀。0903, 0905は部分丸刀ナイフ形器となる。

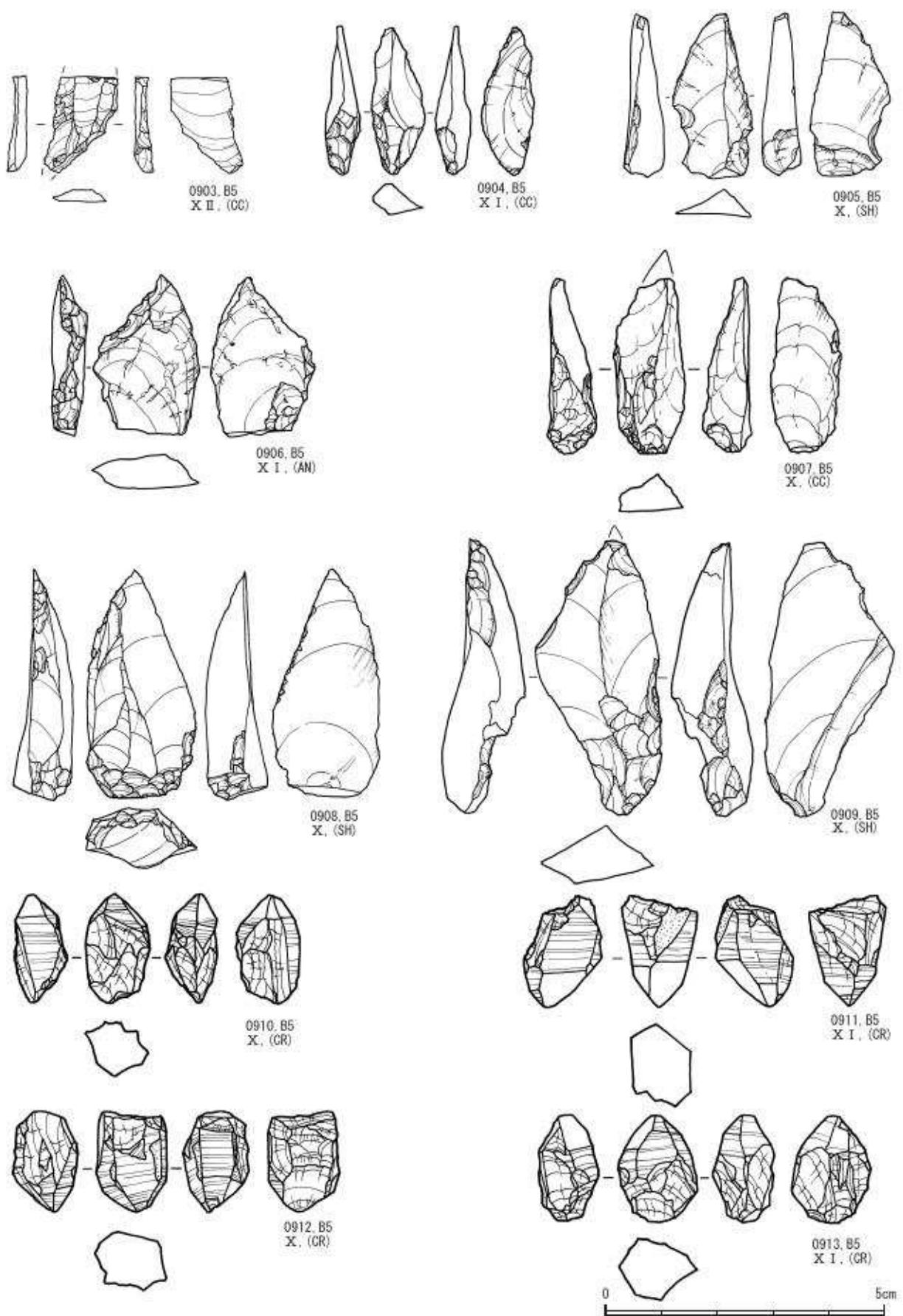
系材となる丸片丸脚も多様であり、0898, 0902, 0904は横穿ぎ丸片, 0987, 0900, 0901, 0903, 0905が小型縦長丸片, 0908, 0909がやや大型の縦長丸片, 0895, 0896, 0899が丸点移動を繰り返す不定形丸片である。三脚丸刀の0905, 0907, 0908, 0909は系材丸片の始終を活かし、系材丸片の形状を大きく変えることなく製品を作り出している。

楔形器とした8点0910~0917はハ晶の始長(結晶)を活かしたと判断し器種認定したもので、その結果、板状器やそれによるダメージ痕跡の観察できるものである。0914, 0915, 0917はその使用により、破壊したものと解している。

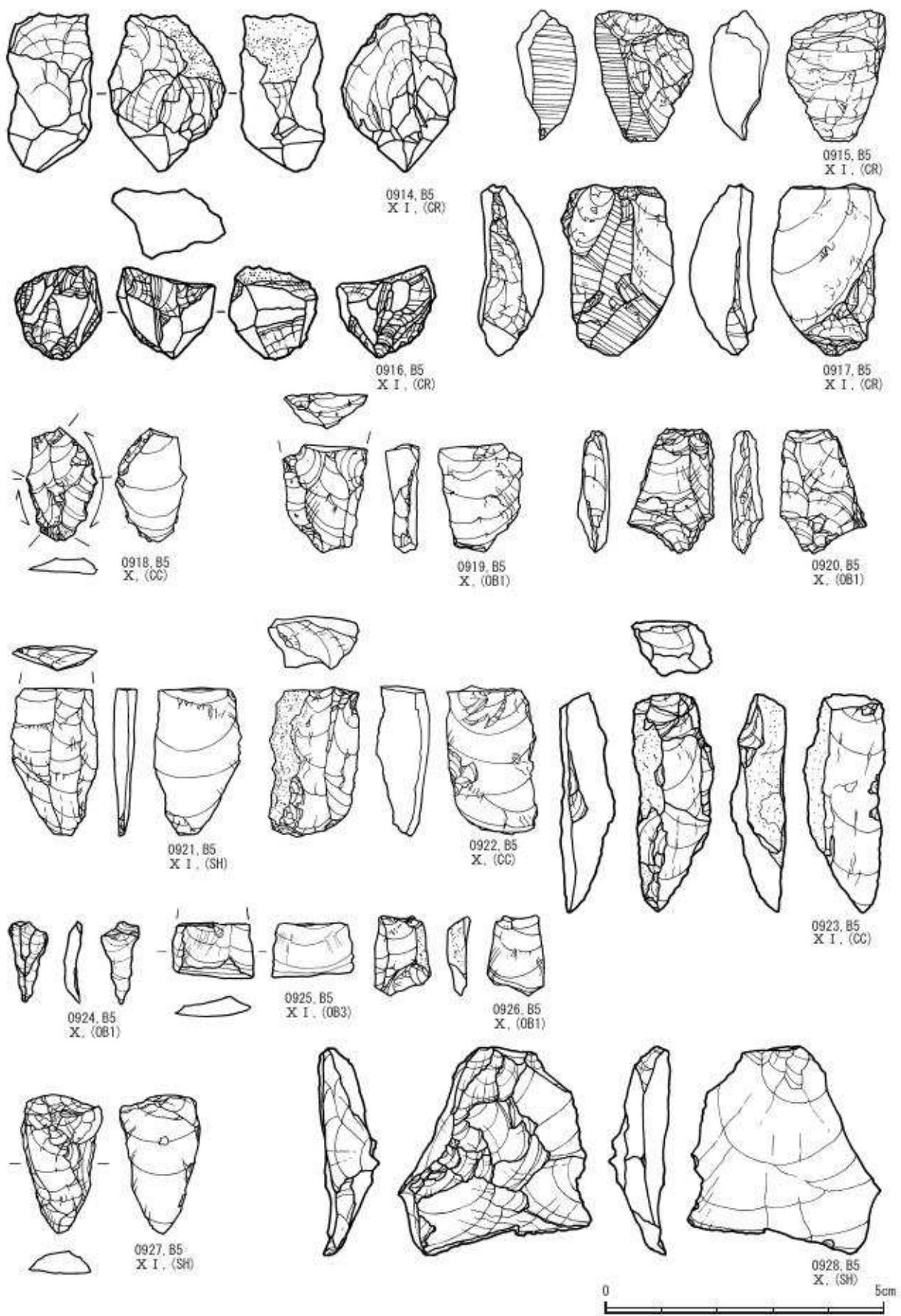
3点のハンマーストーンはT縫を使用し、上部、側縫部を使用部としている。



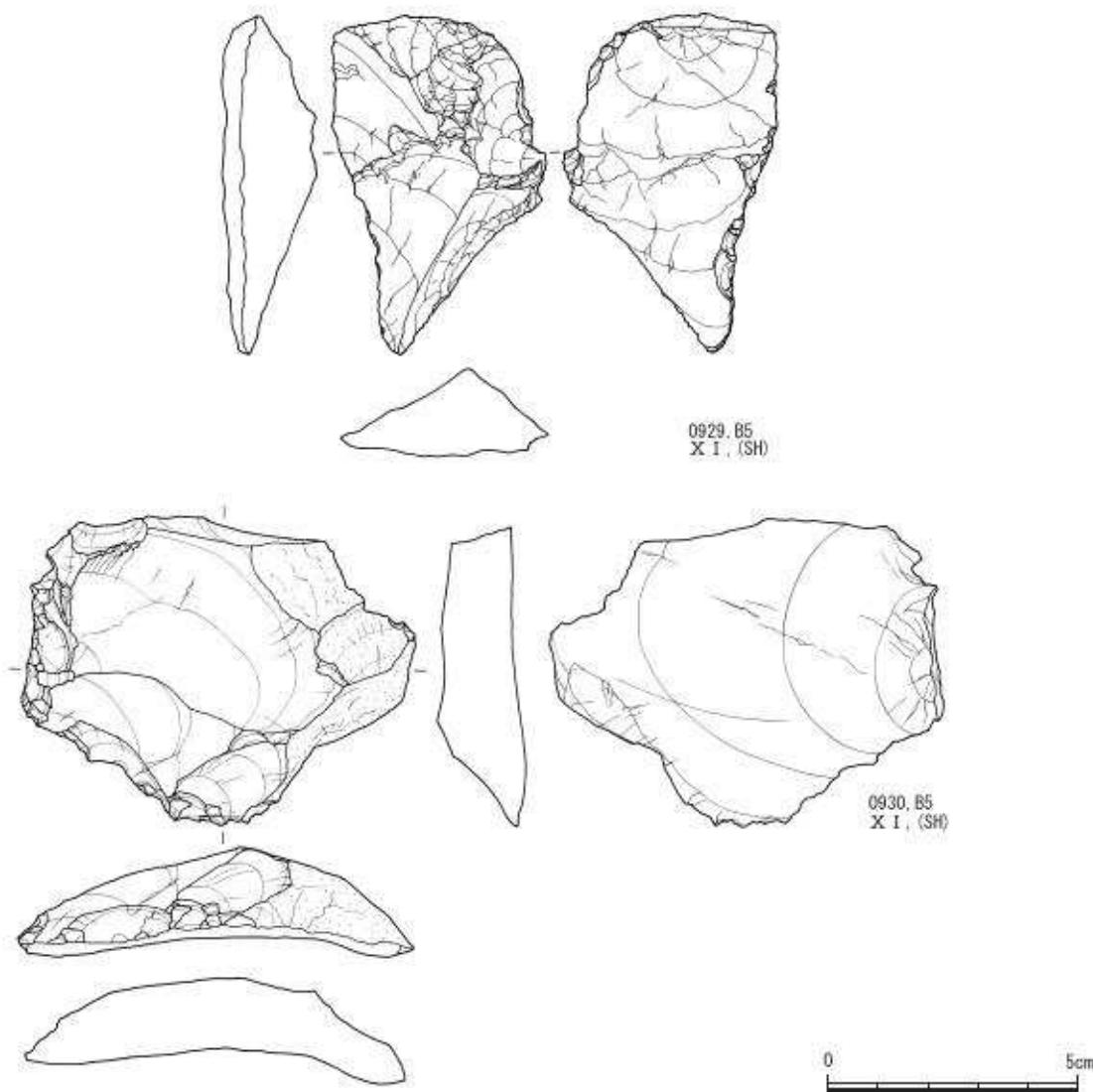
第208図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(1)



第209図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(2)



第210図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(3)

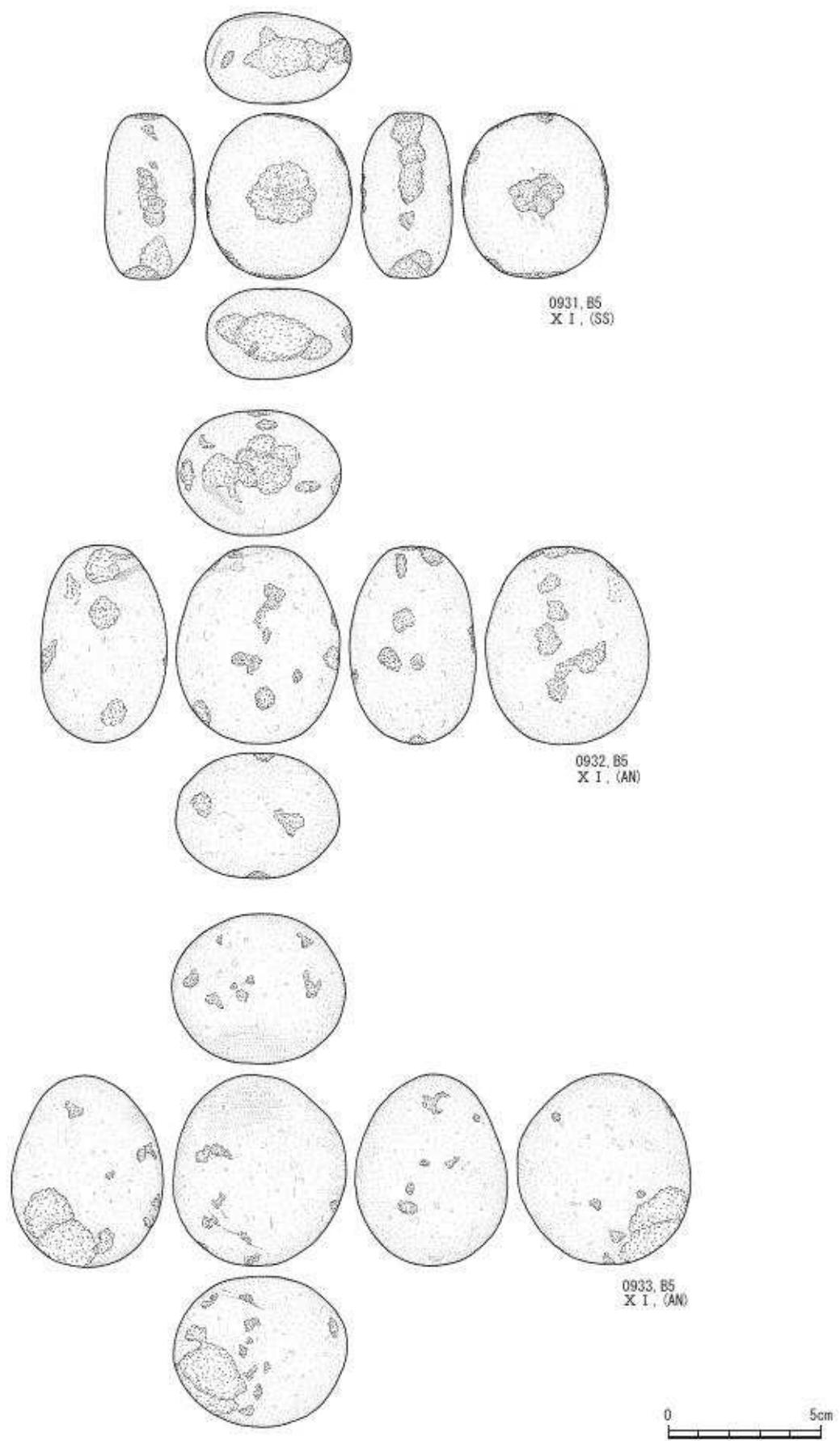


第211図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(4)

主としている刃片類は小振りなものが多く、ナイフ形器の規格と整合する點がある。ナイフ形器の使用目的は多種であるが、やや大型とした0908, 0909は刃差しを用いている。

鋸齿類では、横から裏面整形する特徴がみられ、いわゆる逆錐塔形鋸齿類に属す。

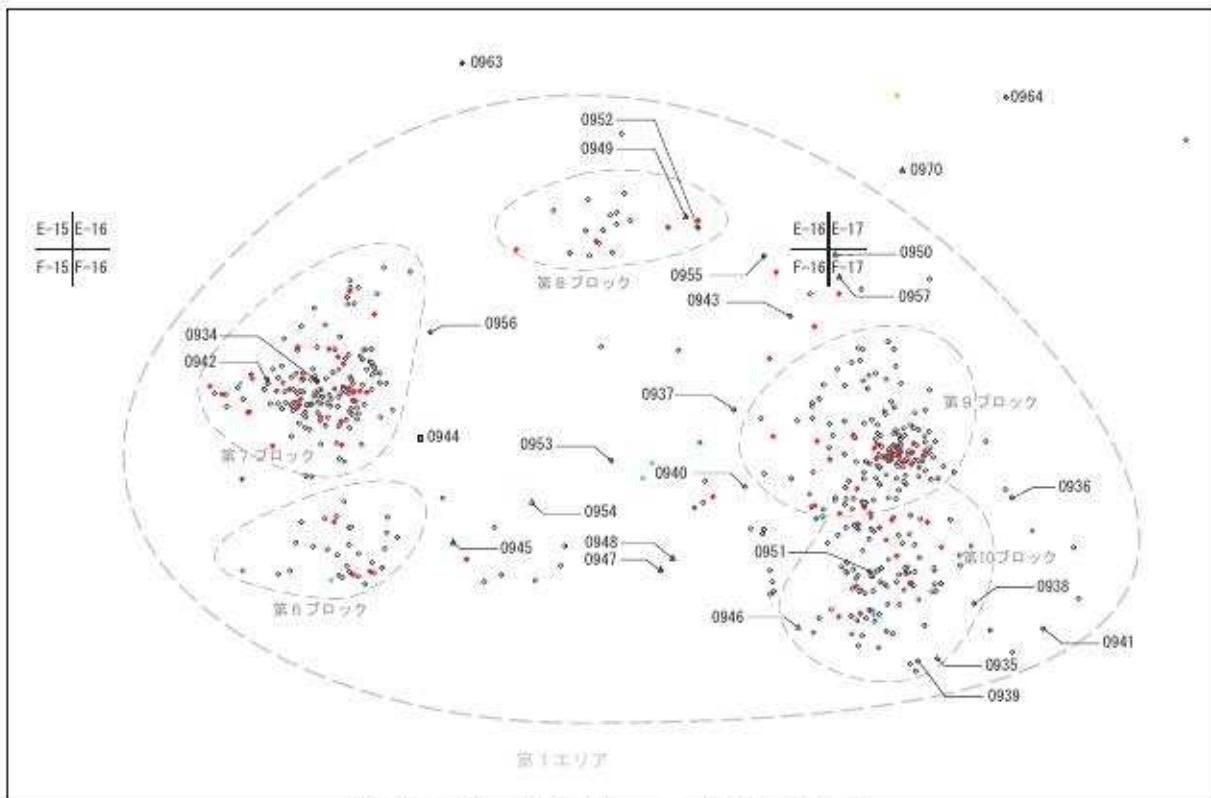
第5ブロックの第1の特徴は、鋸齿器群(鋸齿類)とナイフ形器群が主としていることである。次に、尖晶の楔形器群が集められて居ることである。鋸齿器は逆錐塔形鋸齿類が安定して存在することから、当該認定については、ほぼ確定できそうである。一方、ナイフ形器は小型のうちせを示しているが、ナイフ形器の角部が残っていない現状では、その位置だけに留しては検討にならざるを得ない。また、鋸齿類および鋸齿類とナイフ形器の関係についても、それぞれが吻合的に存在していることから、今後さらに検討が必要であろう。



第212図 第IV文化層第5ブロック出土石器実測図(5)

第61表 第IV文化層第5ブロック出土石器観察表(1)

標識No	図No	分類L1	分類L2	分類L3	文化層	1コト	エリヤ	加ツカ	石材L1	石材L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	遺物No	層位	引手F	接合No
208	0873	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(9.3)	(7.1)	(1.3)	(0.07)	16373	X I	I-14	-
	0874	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	11.1	7.9	2.3	0.17	16246	X I	J-14	-
	0875	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(12.0)	(7.8)	(1.7)	(0.16)	16085	X	I-14	-
	0876	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(15.0)	(6.9)	(2.5)	(0.25)	16026	X	I-14	-
	0877	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(15.8)	(6.0)	(2.8)	(0.19)	16239	X	J-14	-
	0878	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(16.1)	(9.3)	(1.8)	(0.16)	16060	X	I-14	-
	0879	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(15.5)	(7.8)	(2.6)	(0.27)	16228	X	I-14	-
	0880	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(7.9)	(4.7)	(1.7)	(0.05)	16209	X	I-14	-
	0881	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(5.4)	(4.5)	(1.1)	(0.02)	16078	X	I-14	-
	0882	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(6.8)	(5.8)	(1.6)	(0.04)	16303	X	I-14	-
	0883	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(9.0)	(8.2)	(2.1)	(0.16)	16205	X	I-14	-
	0884	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(13.1)	(7.5)	(2.7)	(0.21)	16017	X	I-14	-
	0885	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB1	-	16.9	6.8	1.3	0.16	16021	X	I-14	-
	0886	剥片	細石刃	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(10.4)	(8.5)	(2.3)	(0.15)	16041	X I	J-14	-
	0887	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB3	-	11.8	12.3	9.5	1.56	16022	X	I-14	-
	0888	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	12.3	15.2	8.0	1.51	16268	X	I-13	-
	0889	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	19.3	13.4	10.6	3.21	16018	X	I-14	-
	0890	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	20.5	13.6	8.8	2.56	16271	X I	J-14	-
	0891	石核	細石核	-	IV	外	外	B5	OB1	-	23.3	15.8	10.0	4.12	16286	X	I-14	-
	0892	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	16.4	12.8	8.0	1.45	16594	X I	I-14	-
	0893	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	CR	-	17.3	17.2	9.1	2.01	16307	X	I-14	-
	0894	石核	細石核	位牌塔	IV	外	外	B5	OB1	-	18.8	16.9	7.0	2.50	16238	X I	J-14	-
	0895	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB3	-	18.5	8.4	3.8	0.41	16267	X	I-13	-
	0896	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	19.2	9.5	6.0	0.62	16654	X I	J-13	-
	0897	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CH	-	20.6	9.9	4.4	0.66	16295	X	I-14	-
	0898	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB1	-	23.8	13.9	6.0	1.73	16067	X	I-14	-
	0899	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB5	-	(20.5)	(9.3)	(5.0)	(0.90)	16255	X I	J-14	-
	0900	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	OB3	-	24.0	9.5	6.0	0.80	16364	X I	I-14	-
	0901	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(23.5)	(10.2)	(4.8)	(0.71)	16350	X I	I-14	-
	0902	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	(21.3)	(12.8)	(5.1)	(0.94)	16368	X I	J-14	-
209	0903	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(17.0)	(13.1)	3.3	0.55	16604	X II	I-14	-
	0904	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	27.2	9.5	6.4	1.10	16621	X I	I-14	-
	0905	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	29.5	14.2	7.3	1.90	16032	X	I-14	-
	0906	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	AN	-	28.8	19.2	6.5	3.11	16649	X I	I-13	-
	0907	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	CC	-	(31.4)	(13.0)	(9.0)	(2.88)	16037	X	J-14	-
	0908	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	40.9	20.0	11.0	7.70	16276	X	I-14	-
	0909	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	B5	SH	-	(49.5)	(22.0)	(15.0)	(10.24)	16070	X	I-14	-
	0910	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	19.8	11.9	10.0	1.85	16221	X	I-14	-
	0911	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	20.1	13.8	14.1	3.46	16195	X I	I-14	-
	0912	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	18.3	13.0	12.0	3.24	16081	X	I-14	-
	0913	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	19.2	14.6	11.1	2.79	16591	X I	I-14	-
210	0914	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	28.4	21.2	15.5	8.07	16313	X I	I-14	-
	0915	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	23.6	17.9	11.0	3.39	16383	X I	I-14	-
	0916	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	16.6	18.0	16.0	4.20	16592	X I	I-14	-
	0917	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	CR	-	30.7	20.5	12.0	6.55	16293	X I	I-14	-
	0918	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	CC	-	(20.4)	(12.7)	(4.0)	(0.74)	16280	X	I-14	-
	0919	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	(19.5)	(15.3)	(6.1)	(1.66)	16049	X	J-14	-
	0920	石器	模形石器	-	IV	外	外	B5	OB1	-	22.2	15.6	6.0	1.94	16051	X	J-14	-
	0921	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B5	SH	-	(26.6)	(15.7)	(4.4)	(1.51)	16194	X I	I-14	-
	0922	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	CC	-	26.8	16.4	10.0	4.18	16035	X	J-14	-
	0923	剥片	-	-	IV	外	外	B5	CC	-	39.3	14.9	10.2	5.20	16696	X I	J-13	-
	0924	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	14.6	7.2	3.3	0.15	16225	X	I-14	-
	0925	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	B5	OB3	-	(10.1)	(14.8)	(3.1)	(0.43)	16623	X I	I-14	-
	0926	剥片	調整剥片	-	IV	外	外	B5	OB1	-	14.4	10.3	4.1	0.44	16072	X	I-14	-
	0927	剥片	-	-	IV	外	外	B5	SH	-	25.0	14.5	5.6	1.88	16062	X I	I-14	-
	0928	剥片	-	-	IV	外	外	B5	SH	-	37.3	34.8	11.2	8.94	16260	X	J-14	-



第213図 第IV文化層第1エリア遺物出土状況図

第1エリア(第213号、第214、215号)

E, F-16, 17号に分布し、第6から第10の5つのブロックを構成する。

第6ブロックは、黒曜石II-A類に黒曜石I類を1点含む利刃がみられる。

第7ブロックの利刃構成は、黒曜石II-A類が主体で黒曜石I類が1点含まれる。

第8ブロックと第9ブロックは、黒曜石II-A類の利刃がみられる。

第10ブロックの利刃も黒曜石II-A類主体であるが、黒曜石I類を1点、黒曜石III類を3点含んでいる。

器種構成は、鉈5点(0934~0943)、鉈5枚1点(0944)、ナイフ形器6点(0945~0950)、スクレイバー1点(0957)、二枚刃のある鉈片1点(0954)の鉈形鉈頭底のある鉈片2点(0956, 0951)等である。

鉈5号は刃部が鈍く、頭部片と片部を削りしたもののが2点。復用石片は、0942が黒曜石II-A類で他の9点は黒曜石III類である。

0944の鉈5枚は黒曜石III類を復用し、リメンドで全周が

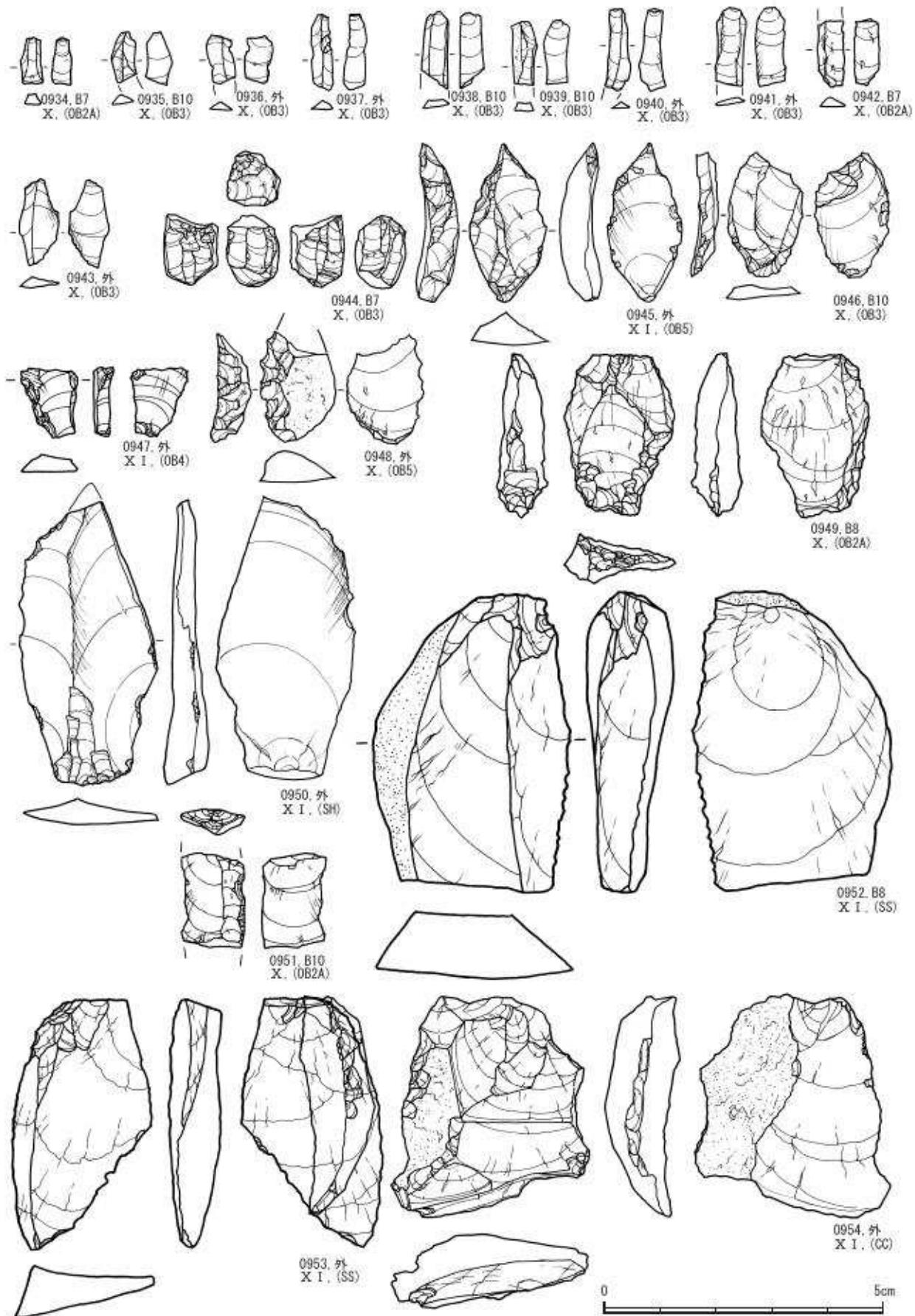
作業中の刃となる。

ナイフ形器の0945は先端部の一部に、0946, 0949, 0950は基部に、0948は一部縫合部に刃がみられる。0949, 0950以外は、小型ナイフ形器とみなせる。0950に復用した縫合部片は複数枚打で、長刃の刃部を用いている。他のナイフ形器も、複数枚打からは基本的に縫合部片を復用していると判断できる。

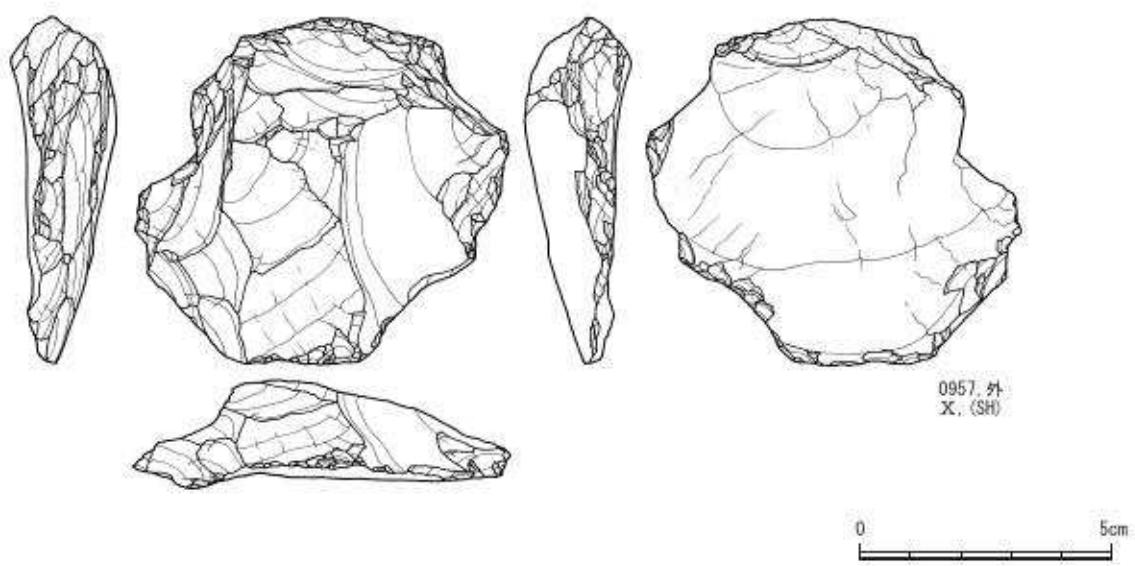
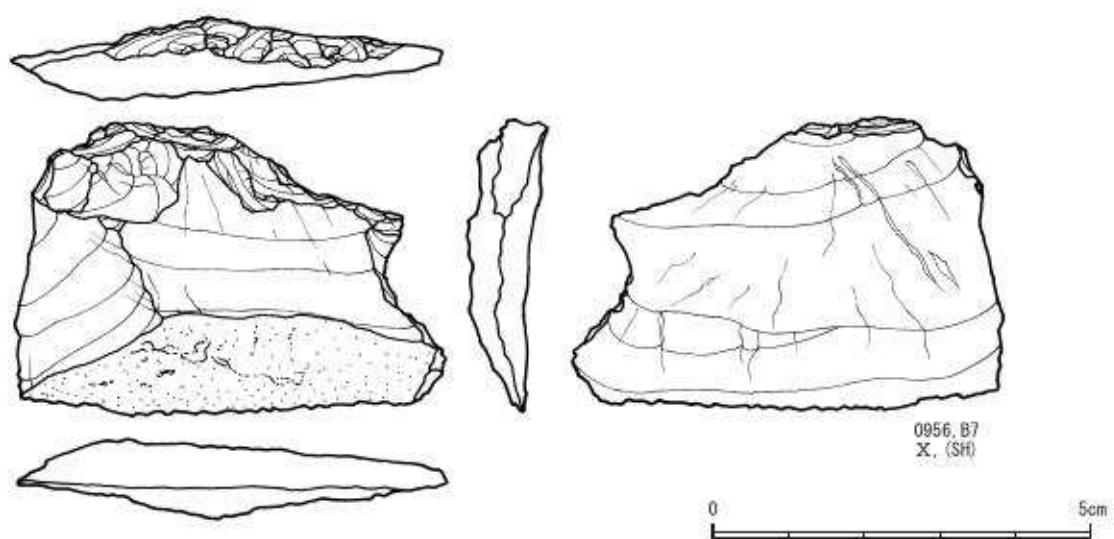
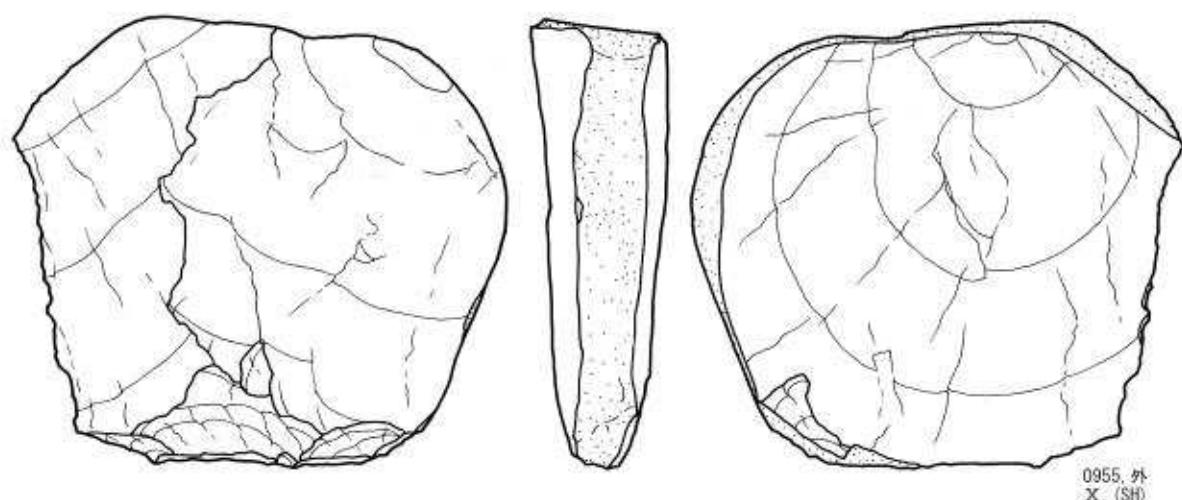
0957のスクレイバーは、刃片のほぼ全周に刃器状の部を残している。

第62表 第IV文化層第5ブロック出土石器観察表(2)

種類 No.	圓 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユコット 1号	ユコット 2号	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	列番 No.	接合 No.
211	0929	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	外	B5	SH	-	67.5	42.9	19.5	38.55	16087	X I	I-14	-
	0930	石器		-	IV	外	外	B5	SH	-	61.7	78.8	22.0	86.42	16389	X I	I-14	-
212	0931	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	SS	-	54.3	48.0	30.0	109.57	16354	X I	J-14	-
	0932	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	AN	-	64.8	53.6	41.6	139.30	16241	X I	J-14	-
	0933	石器	ハンマー	-	IV	外	外	B5	AN	-	62.5	56.6	49.8	218.70	16250	X I	J-14	-



第214図 第IV文化層第1エリア出土石器実測図(1)



第215図 第IV文化層第1エリア出土石器実測図(2)

エリアAブロックA(第216~219号)

縦5マニ点(0958~0963), 縦5横1点(0966), 横横1点(0965), ナイフ形石器12点(0967~0975, 0978, 0979, 1000), 三棱尖頭器6点(0977, 0980~0982, 0984, 1002), 二刃刃のある剥片6点(0976, 0985, 0990~0992, 0999), ハンマーストーン1点(1003), 磨き1点(1004)等を確認している。

縦5マニと縦5横の合計に要しては、縦5マニ0958と0963が見瀬Ⅳ類, 他の4点は見瀬Ⅰ類を使用し, 縦5横と残横が見瀬Ⅰ類であることから、其瀬Ⅰ類が優先するとみられる。

縦5横は歯面に付すると作業を省略片と言える。

ナイフ形石器の0967~0969, 1000は、下定形剥片系の特徴を活かした小型ナイフ形石器である。0970~0972はみ部刃, 0973はみ部刃, 0975は部刃となる。0979は断面三角形の剥片を使用し、基部と一部縫

に毎角度のアラシカニを施している。0970, 0974, 0979の3点は見瀬Ⅱ類を使用し、安定した縦長刃片を確保している。

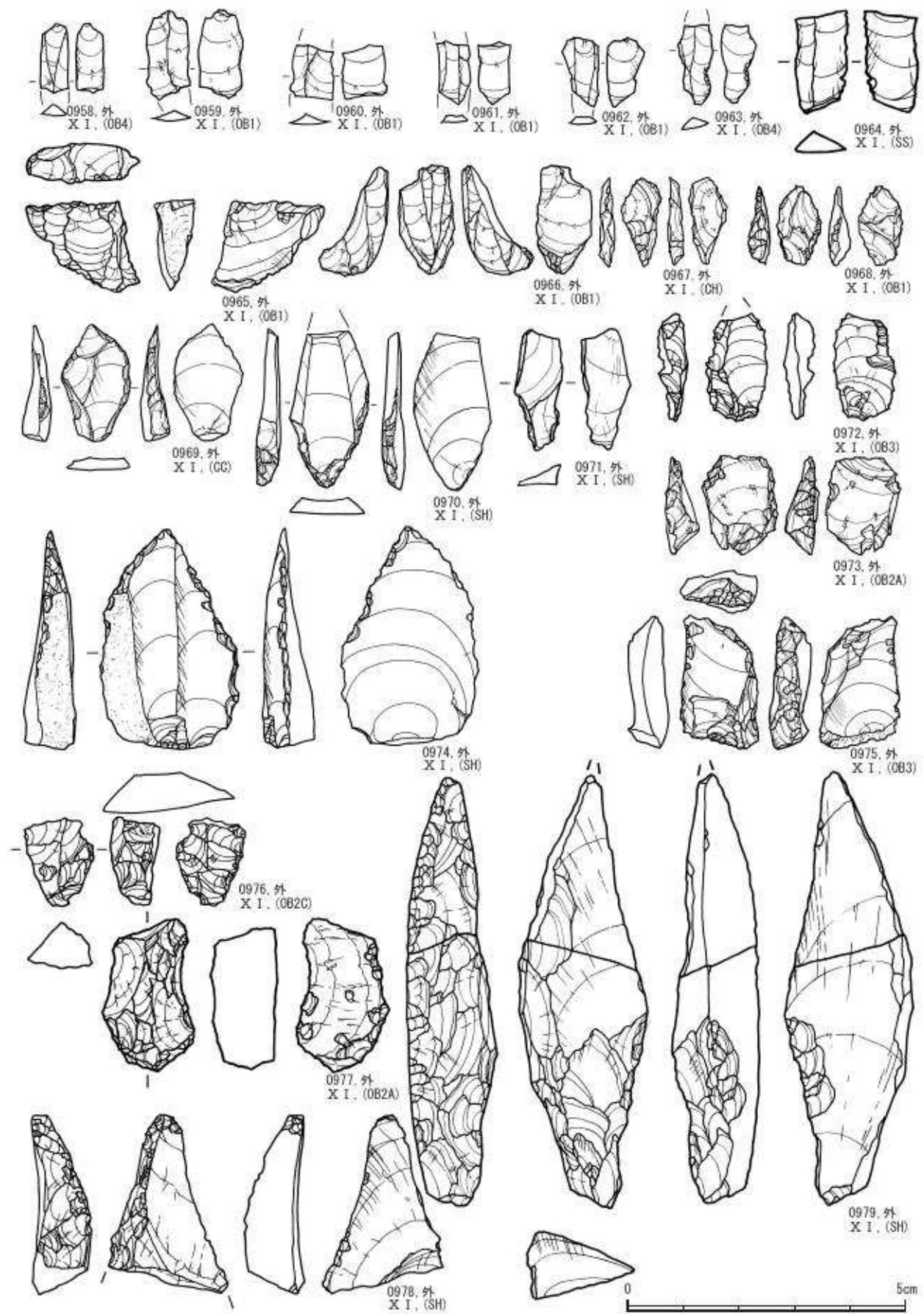
三棱尖頭器0982は端部の一部を欠落するが、身上磨耗もノミに行い完成品に近いとみられる。0981は薄きの刃片を残したままで、その部分の身上磨耗で刃片を減少している。0984はノミの跡は行っているが、ちも均等で、おそらく製作途上とみられる。0980は基部破片品、1002は製作途上とみられる。

磨きとした1004は、刃部の側面部は板打で使用し、刃と裏面には摩耗跡が残される。

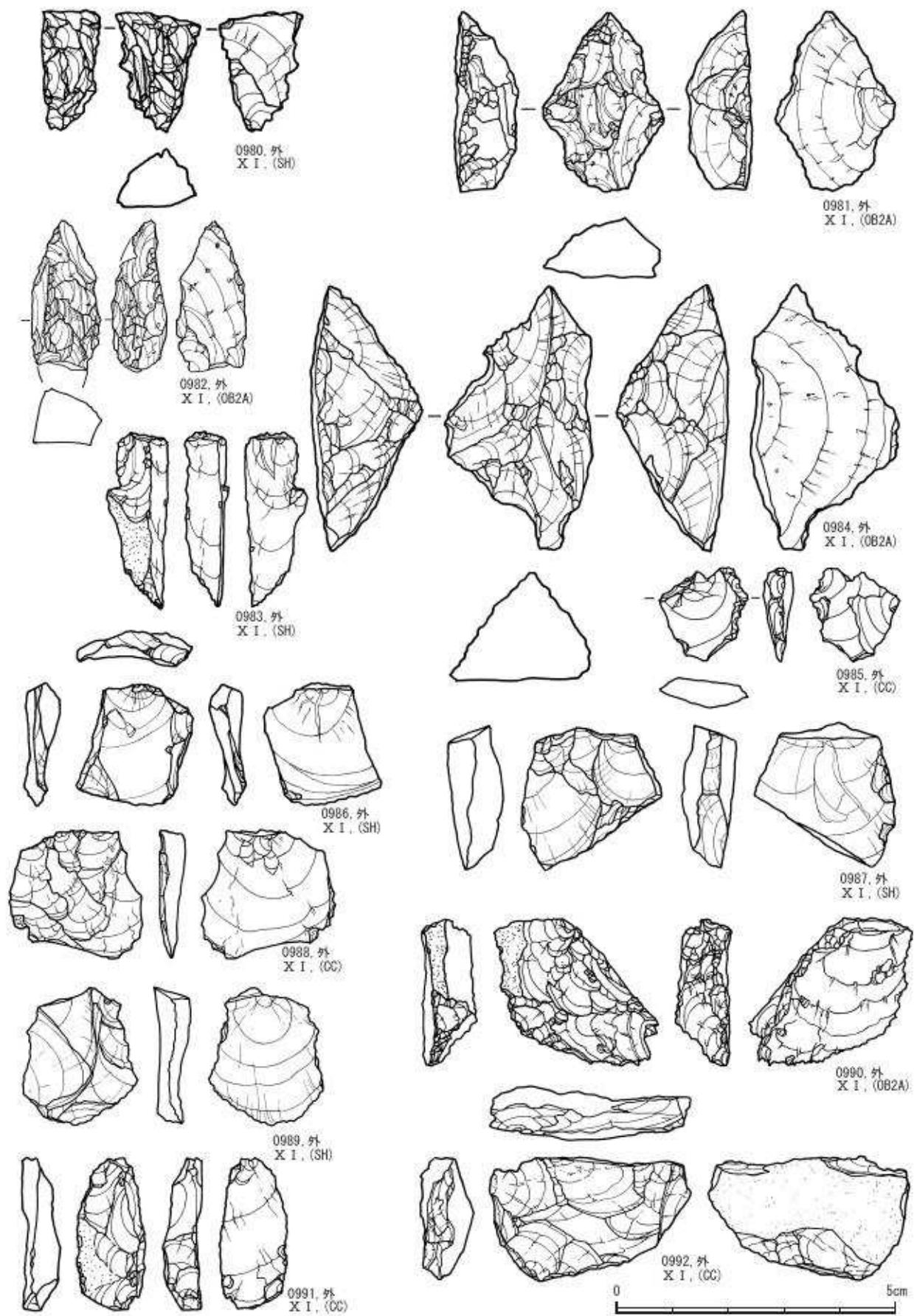
縦5器、下定形剥片の小型ナイフ形石器、縦長刃片のナイフ形石器、大型ナイフ形石器、三棱尖頭器と多彩な器種構成である。エリア外の広い範囲からのもので、それぞれの關係については今後の課題であろう。

第63表 第IV文化層第1エリア出土石器観察表

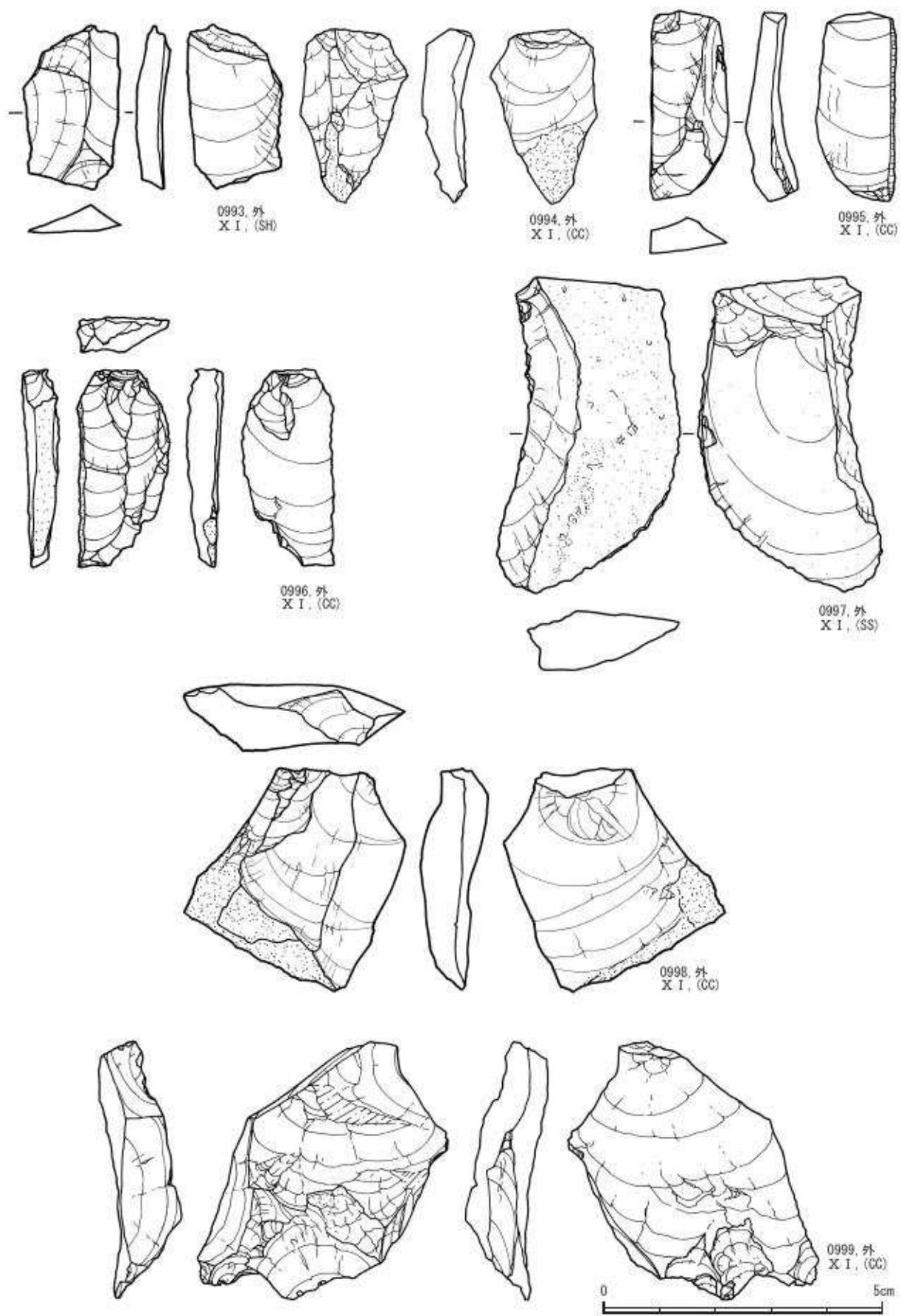
標識 No	圓 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	エット エリヤ	ガッカ	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	ガッカ	接合 No	
214	0934	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B7	082	A	8.5	4.2	1.8	0.05	15324	X	F-16	-
	0935	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	083	-	(9.1)	(4.7)	(1.6)	(0.05)	14835	X	F-17	-
	0936	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	083	-	(8.9)	(5.3)	(1.2)	(0.05)	14744	X	F-17	-
	0937	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	083	-	13.6	4.1	1.7	0.06	14846	X	F-16	-
	0938	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	083	-	(14.0)	(5.0)	(1.6)	(0.09)	14837	X	F-17	-
	0939	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B10	083	-	(11.5)	(4.8)	(1.6)	(0.09)	14834	X	F-17	-
	0940	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	083	-	(14.6)	(4.8)	(1.1)	(0.05)	14842	X	F-16	-
	0941	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	083	-	(14.3)	(5.7)	(1.5)	(0.12)	14739	X	F-17	-
	0942	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	B7	082	A	(12.1)	(5.0)	(1.5)	(0.08)	14927	X	F-16	-
	0943	剥片	細石刃	-	IV	外	A1	外	083	-	15.7	7.2	1.8	0.15	14869	X	F-16	-
	0944	石核	細石核	-	IV	外	A1	B7	083	-	13.0	9.7	10.0	1.74	14859	X	F-16	-
	0945	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	085	-	28.2	13.4	8.0	1.75	15039	X I	F-16	-
	0946	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	B10	083	-	22.3	13.6	5.1	1.07	14839	X	F-16	-
	0947	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	084	-	12.5	10.4	4.0	0.42	15048	X I	F-16	-
	0948	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	085	-	(20.0)	(13.7)	(7.2)	(1.29)	14853	X	F-16	-
	0949	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	B8	082	A	28.9	19.8	9.3	3.45	14877	X	E-16	-
	0950	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	A1	外	SH	-	(51.0)	(24.4)	(8.1)	(7.32)	16390	X I	F-17	-
	0951	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	A1	B10	082	A	(17.0)	(11.4)	(4.2)	(0.77)	14814	X	F-17	-
	0952	剥片	-	-	IV	外	A1	B8	SS	-	53.5	35.6	16.0	30.46	15079	X I	E-16	-
	0953	剥片	-	-	IV	外	A1	外	SS	-	44.9	25.2	10.0	7.96	15044	X I	F-16	-
	0954	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	A1	外	CC	-	39.5	35.6	13.8	12.91	15042	X I	F-16	-
215	0955	剥片	-	-	IV	外	A1	外	SH	-	59.7	64.5	18.4	74.88	15715	X	F-16	-
	0956	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	IV	外	A1	B7	SH	-	38.8	57.0	11.0	18.55	14978	X	F-16	-
	0957	石器	スクレイバー	-	IV	外	A1	外	SH	-	68.6	74.1	21.0	78.82	15714	X	F-17	-



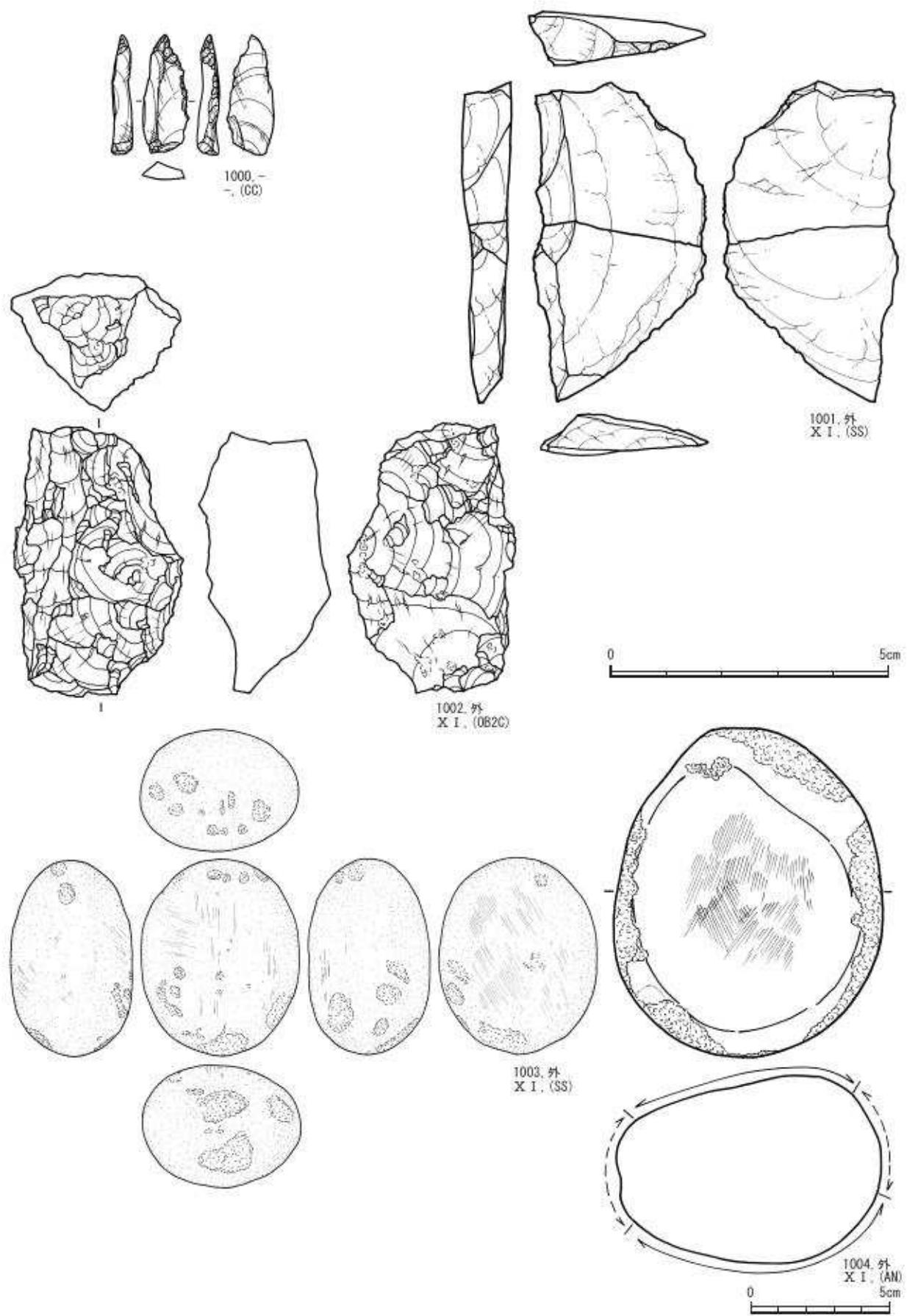
第216図 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(1)



第217図 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(2)



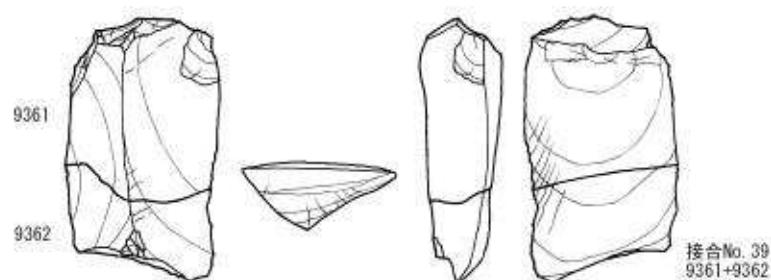
第218図 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(3)



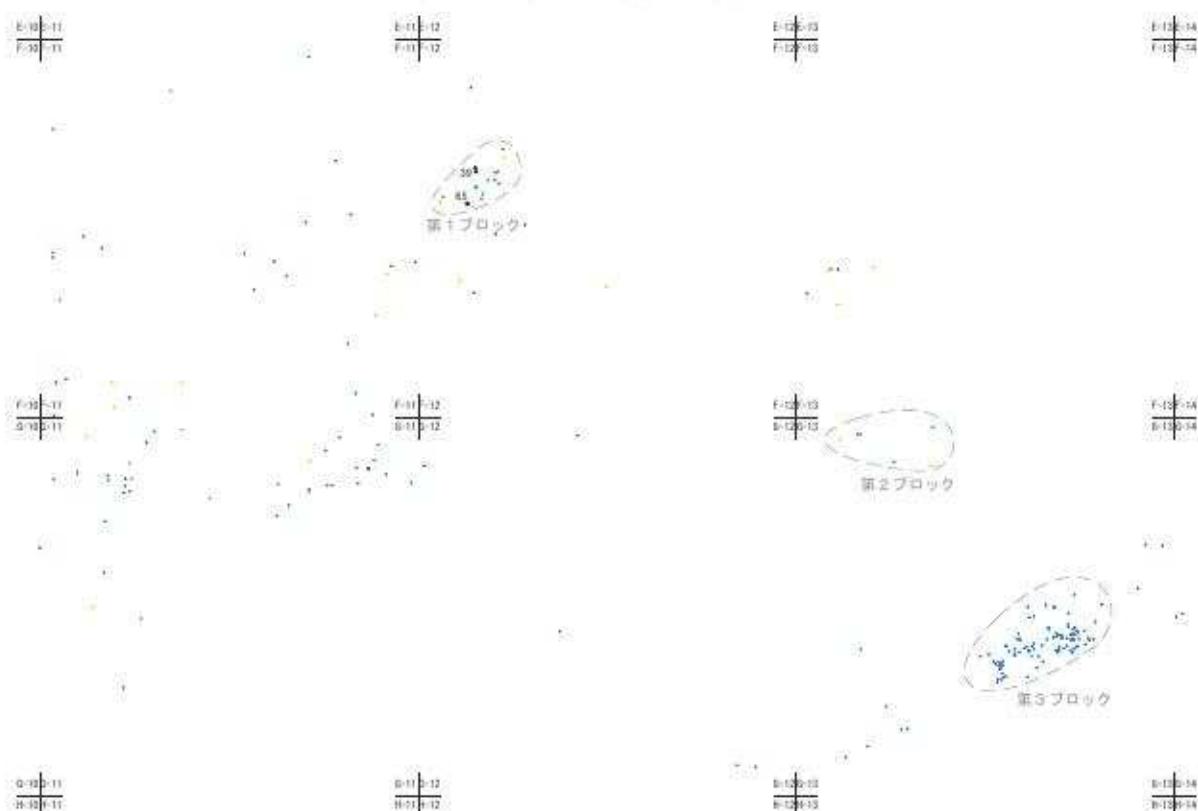
第219図 第IV文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(4)

第64表 第IV文化層エリア外ブロック出土石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ニット	エリヤ	ロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 F	接合 No
216	0958	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB4	-	(12.5)	(5.2)	(1.9)	(0.10)	15485	X I	E-16	-
	0959	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(16.3)	(8.1)	(2.3)	(0.27)	18286	X I	G-14	-
	0960	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(10.1)	(8.1)	(2.0)	(0.16)	17709	X I	G-14	-
	0961	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(11.5)	(6.2)	(1.7)	(0.11)	18318	X I	G-14	-
	0962	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB1	-	(12.4)	(6.7)	(1.5)	(0.10)	18337	X I	G-14	-
	0963	剥片	細石刃	-	IV	外	外	外	OB4	-	(14.4)	(6.5)	(1.8)	(0.10)	15486	X I	E-16	-
	0964	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	18.7	9.7	3.4	0.60	15137	X I	E-17	-
	0965	石核	残核	-	IV	外	外	外	OB1	-	16.5	20.6	7.3	1.85	17713	X I	G-14	-
	0966	石核	細石核	-	IV	外	外	外	OB1	-	19.8	10.2	13.0	1.55	8987	X I	-	-
	0967	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	CH	-	16.0	7.4	3.0	0.21	14550	X I	G-14	-
	0968	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB1	-	14.1	8.2	4.0	0.31	16875	X I	G-9	-
	0969	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	CC	-	21.0	12.8	5.2	0.97	17787	X I	F-11	-
	0970	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(23.0)	(14.2)	(4.2)	(1.59)	15083	X I	E-17	-
	0971	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	21.9	8.7	4.5	0.72	19866	X I	G-10	-
	0972	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB3	-	(19.3)	(11.3)	(6.0)	(0.85)	8952	X I	H-12	-
	0973	石器	ナイフ形石器	台形石器	IV	外	外	外	OB2	A	17.8	13.7	6.2	1.11	19882	X I	G-10	-
	0974	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	39.4	25.1	9.8	8.15	8790	X I	E-17	-
	0975	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	OB3	-	23.9	14.2	7.8	2.17	20125	X I	G-11	-
	0976	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	OB2	C	15.9	12.7	9.1	1.24	14509	X I	G-14	-
	0977	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	27.5	16.8	12.0	4.89	17768	X I	F-11	-
	0978	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(31.9)	(21.6)	(10.3)	(4.06)	16760	X I	F-11	-
	0979	石器	ナイフ形石器	-	IV	外	外	外	SH	-	(77.8)	(23.7)	(16.1)	(20.91)	17803	X I	F-11	-
217	0980	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	SH	-	21.7	15.4	11.0	3.30	18818	X I	H-14	-
	0981	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	32.1	21.9	12.1	5.83	17825	X I	F-11	-
	0982	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	(26.8)	(12.5)	(10.1)	(3.04)	14504	X I	G-14	-
	0983	石核	細石核	-	IV	外	外	外	SH	-	31.7	11.2	8.1	1.87	18250	X I	H-14	-
	0984	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	A	47.4	26.7	20.1	15.40	17811	X I	F-11	-
	0985	石器	二次加工痕のある剥片	台形石器？	IV	外	外	外	CC	-	16.7	16.1	6.0	1.03	9534	X I	F-13	-
	0986	剥片	-	-	IV	外	外	外	SH	-	21.8	21.1	7.0	1.85	8965	X I	G-13	-
	0987	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	SH	-	26.0	25.4	10.0	5.07	17710	X I	G-14	-
	0988	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	22.9	24.0	5.0	2.23	8854	X I	E-17	-
	0989	剥片	-	-	IV	外	外	外	SH	-	24.7	20.8	7.0	2.26	8963	X I	G-13	-
218	0990	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	OB2	A	26.3	29.6	10.2	5.43	19944	X I	F-10	-
	0991	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	27.3	12.6	7.1	2.02	10326	X I	F-12	-
	0992	石核	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	22.4	36.2	10.0	7.36	8851	X I	E-17	-
	0993	剥片	折断剥片	-	IV	外	外	外	SH	-	29.6	17.6	6.2	2.54	8870	X I	E-17	-
	0994	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	31.0	19.4	9.2	3.68	17806	X I	F-11	-
	0995	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	33.8	14.2	10.0	3.51	16894	X I	G-10	-
	0996	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	35.4	16.9	7.0	3.75	20137	X I	G-11	-
	0997	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	56.7	32.9	12.5	19.30	16762	X I	F-11	-
219	0998	剥片	-	-	IV	外	外	外	CC	-	40.2	39.8	12.5	12.89	18370	X I	G-14	-
	0999	石器	二次加工痕のある剥片	-	IV	外	外	外	CC	-	46.2	44.9	15.5	17.05	8853	X I	E-17	-
	1000	石器	ナイフ形石器	-	IV	-	-	-	CC	-	21.6	8.3	4.1	0.61	-括	-	-	-
	1001	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	57.3	31.3	9.2	12.33	8867	X I	E-17	-
	1001	剥片	-	-	IV	外	外	外	SS	-	57.3	31.3	9.2	12.33	8937	X I	E-24	-
	1002	石器	三稜尖頭器	-	IV	外	外	外	OB2	C	48.5	30.6	25.0	33.37	14559	X I	G-14	-
	1003	石器	ハンマー	-	IV	外	外	外	SS	-	70.7	56.9	44.5	235.99	16370	X I	I-14	-
	1004	石器	磨石/敲石	-	IV	外	外	外	AN	-	118.7	97.0	68.0	1,069.00	14543	X I	G-14	-



第220図 第IV文化層接合遺物実測図



第221図 第IV文化層接合状況図

参考資料

接合を確認し, 接合できた点を示した。

参考No. 39 (第220図)

裏者[第1ブロック]

2点の接合で、折断刃片(9361)と(9362)の接合である。

3ヶ所の接合部の直いもので、頭部と脚部の接合で、

尾部はねぬされていない。

第5章 第V文化層の調査

1 調査の方法と概要

今遺跡第X層の上に遺物を、一括して第Vマリ層として取り扱った。第X層は、遺物少く、底面（基礎面）に該当する。

A地区では、遺物が常に有意味な集団は認められなかったため、ブロック等の設定は行っていない。B地区ではブロックを一つ設けし、その中の収容する遺物群については一括して取り扱っている。C地区では、集団の傾向が明瞭に観察されることから、エリア設定を行ない、2つのブロック（第2ブロック、第3ブロック）を認定した。

2 遺物

A地区（第223号～第225号）

A地区は、G-2号からB-11号までにかけて散在しながら分布し、相対的に集団する傾向は地場されない。したがって、X層一括として取り扱い、ユニット、ブロックの設定はしていない。

器種構成は、石斧6点（1005～1010）、鉈1点（1011）、鍛錬器1点（1015）、二本刃のある刄片2点（1017, 1016）、ハンマーストーン1点（1027）、ナイフ形器2点（1012, 1013）、楔形器1点（1014）、石核1点（1026）の外、鉈の刃部がある刄片3点（1020, 1021, 1025）、刄片、プランティングチップからなる。

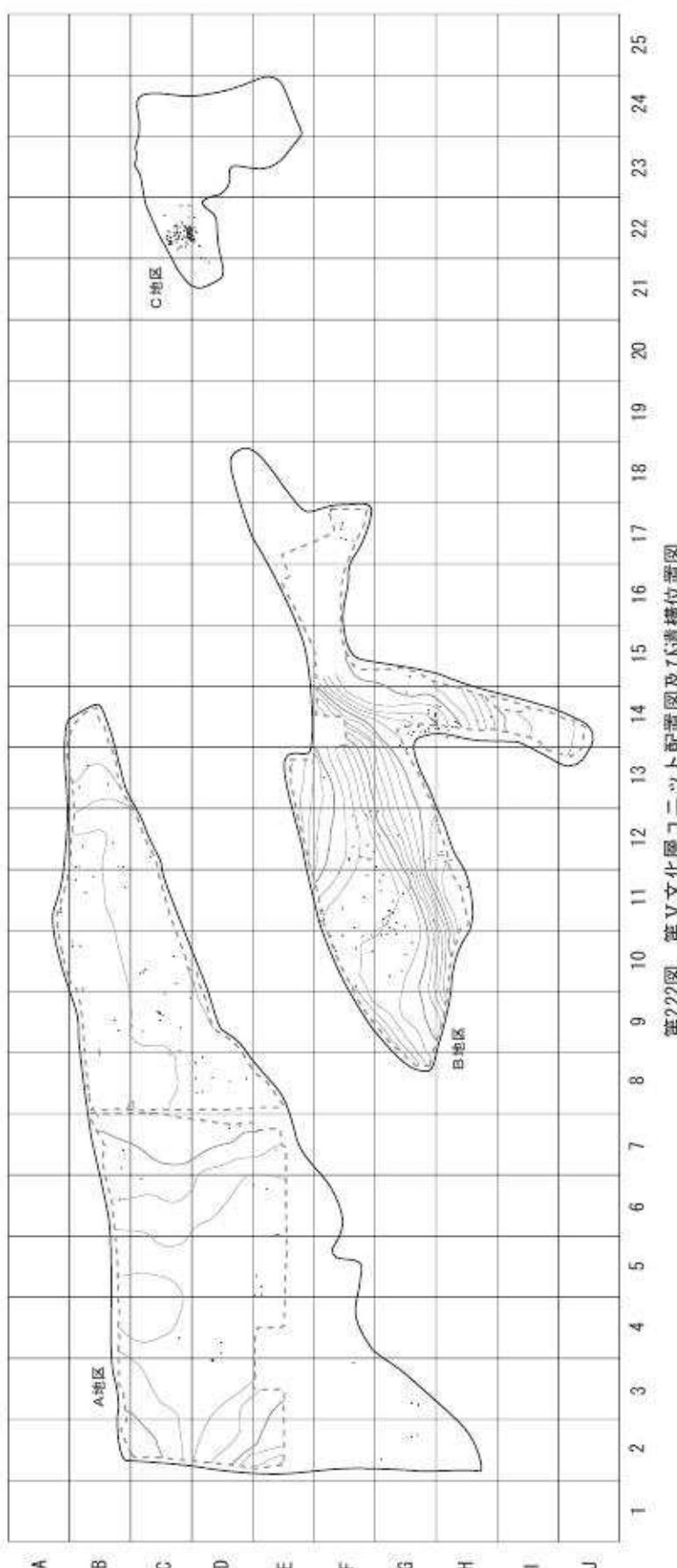
6点の石斧については、これらが原毛量をなすかどうかの試験が残される。ちなみに、各地におけるこれまでの調査データを元に形態比較すると、1005, 1007, 1008は縦や時代早期の時に前半に特徴的な斧形態と近似している。1010には横刃が残り先端部も厚みがあることから、製作途上と見える。

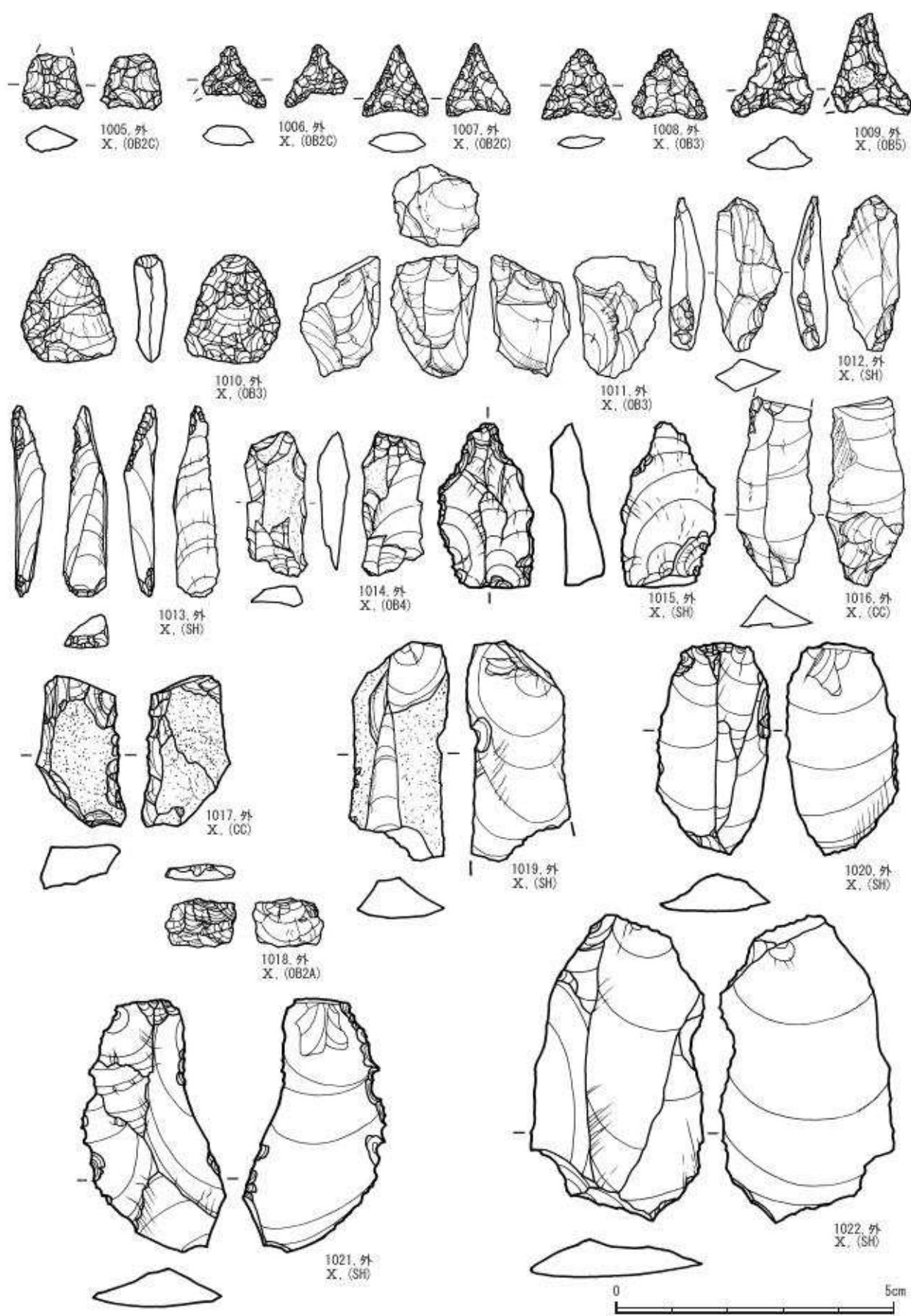
鉈1点の1011はやや厚手の刄片を素材とし、刃部形状調整は主にねじりからを行い、それを素材刄片の始微から検討する。

鍛錬器とした1015は刄片の先端部に磨耗加工が施され、先端部が意識されやすさが実感的に作られることから判断した。

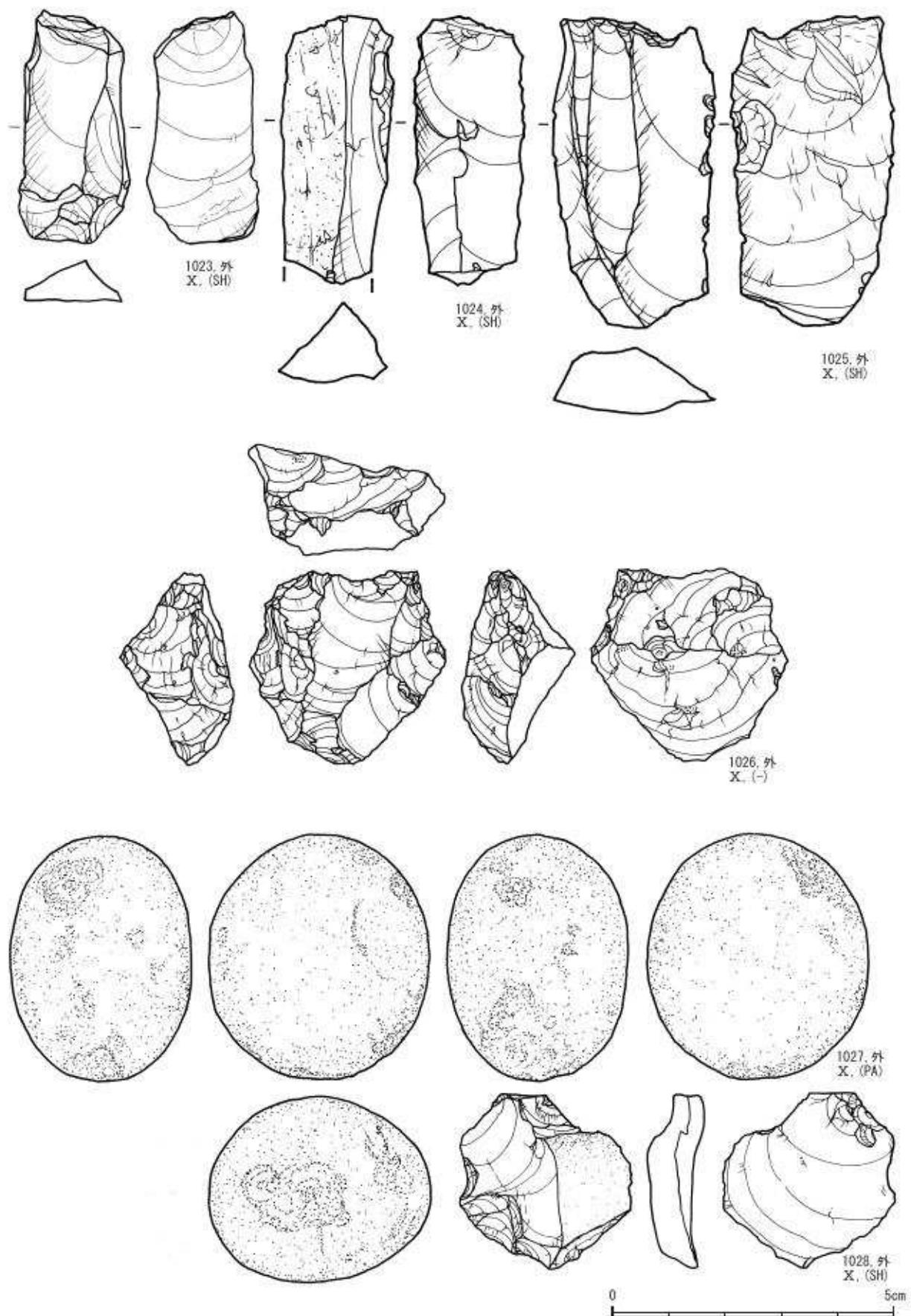
ナイフ形器とした1013は縦身の刄片を用い、刃部と先端部に特徴的な刃部がみられる。1012は小型の下定形刄片の刃部に刃部がみられる。が認められる。

二本刃のある刄片1016は縦長刄片の右側面部と左端部、さらに右端部の腹側に刃部がみられる。1017は右側面に二本刃がある。





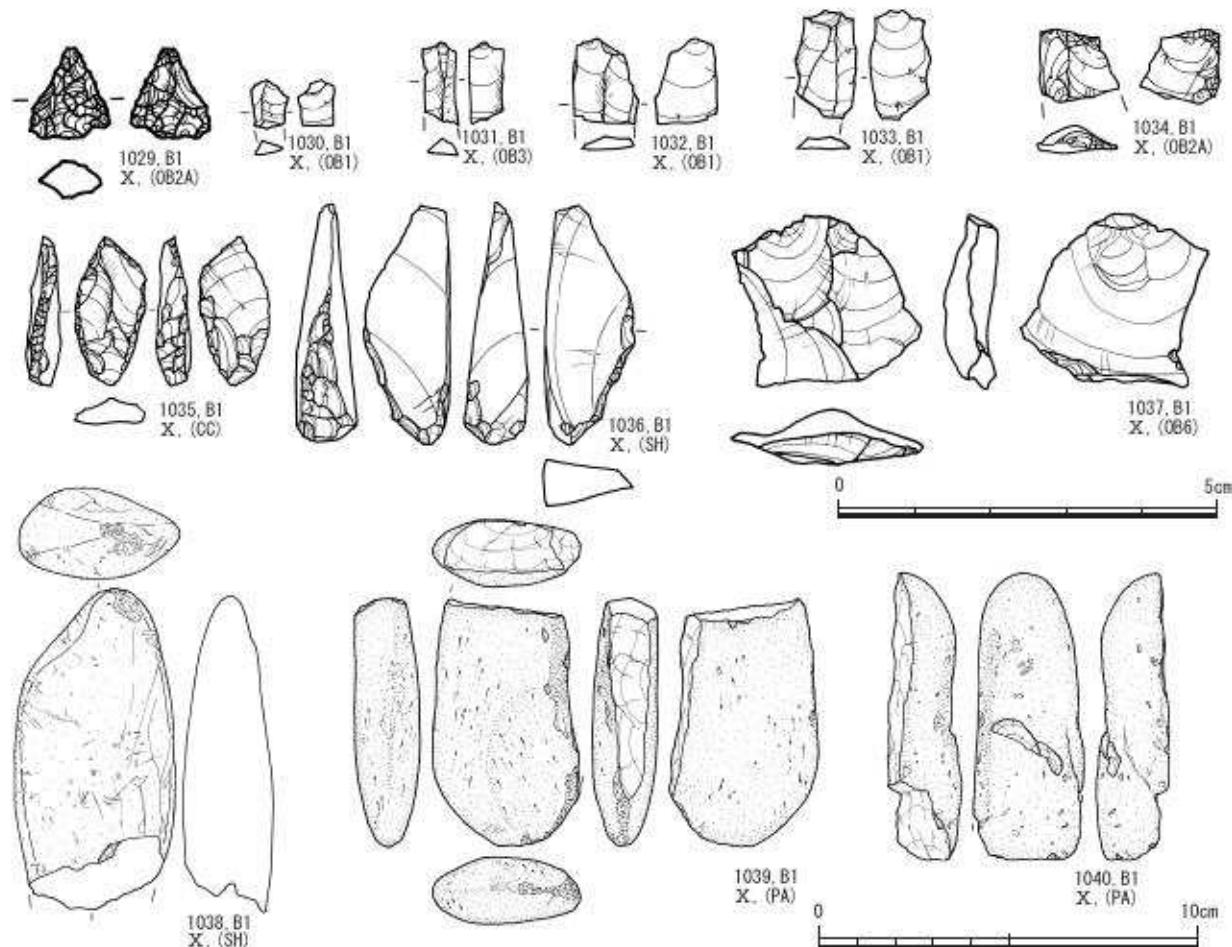
第223図 第V文化層A地区出土石器実測図(1)



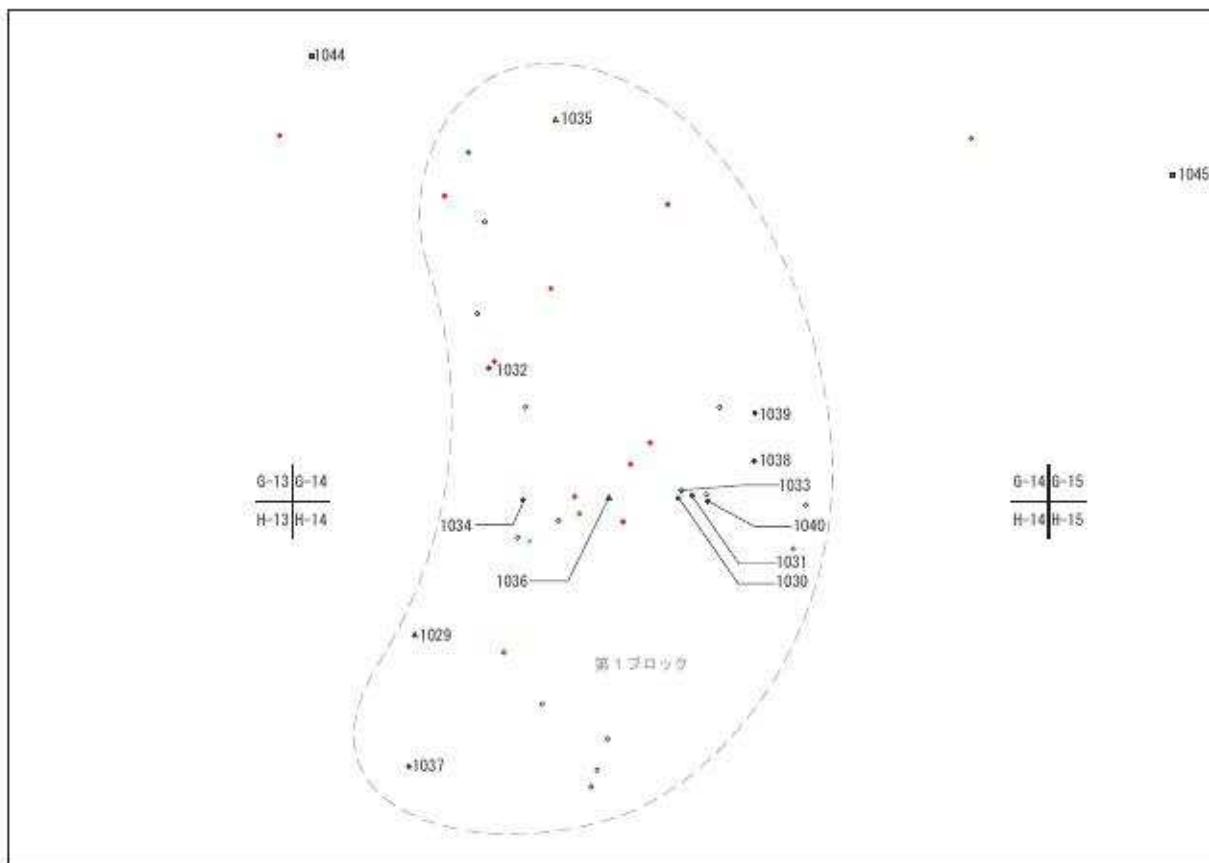
第224図 第V文化層A地区出土石器実測図(2)

第65表 第V文化層A地区出土石器観察表

標図 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ニット	エリヤ	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	引手F	接合 No
223	1005	石器	石器	-	V	外	外	外	OB2	C	(10.1)	(11.2)	(4.5)	(0.42)	23262	X	E-6	-
	1006	石器	石器	-	V	外	外	外	OB2	C	(11.1)	(12.5)	(3.3)	(0.22)	5496	X	B-13	-
	1007	石器	石器	-	V	外	外	外	OB2	C	12.8	12.0	3.4	0.27	5524	X	C-10	-
	1008	石器	石器	-	V	外	外	外	OB3	-	(12.6)	(13.5)	2.2	0.24	23305	X	D-7	-
	1009	石器	石器	-	V	外	外	外	OB5	-	(18.6)	(14.8)	(6.4)	(0.90)	25102	X	C-8	-
	1010	石器	石器	-	V	外	外	外	OB3	-	19.4	17.2	6.0	1.61	23590	X	B-7	-
	1011	石核	細石核	-	V	外	外	外	OB3	-	22.0	15.9	14.5	4.70	5494	X	B-13	-
	1012	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	SH	-	(27.7)	(12.1)	(6.3)	(1.54)	15599	X	G-3	-
	1013	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	外	SH	-	34.3	8.2	6.2	1.30	23532	X	C-6	-
	1014	石器	模形石器	-	V	外	外	外	OB4	-	26.2	11.2	7.1	1.72	5525	X	C-10	-
	1015	石器	錐状石器	-	V	外	外	外	SH	-	29.7	17.4	9.7	3.17	5542	X	C-9	-
	1016	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	外	CC	-	(34.1)	(14.0)	(6.7)	(3.08)	5519	X	B-10	-
	1017	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	外	CC	-	27.4	16.3	7.9	3.50	5506	X	B-11	-
	1018	チップ	プランティングチップ	-	V	外	外	外	OB2	A	8.9	12.8	2.7	0.30	15594	X	F-3	-
	1019	剥片	折断剥片	-	V	外	外	外	SH	-	(39.5)	(18.2)	(9.9)	(5.75)	23753	X	B-7	-
	1020	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	38.2	20.6	7.2	6.03	5694	X	B-8	-
	1021	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	45.5	26.2	7.7	5.88	5540	X	C-9	-
	1022	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	55.2	31.7	8.5	13.84	5518	X	B-10	-
224	1023	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	41.7	21.8	9.5	6.55	15545	X	G-2	125
	1024	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	(47.7)	(20.3)	(14.2)	(13.47)	5695	X	B-8	-
	1025	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	外	SH	-	55.2	29.0	11.8	23.03	5538	X	C-9	-
	1026	石核	-	-	V	外	外	外	-	-	34.3	35	20.5	-	5517	X	B-10	-
	1027	石器	ハンマー	-	V	外	外	外	PA	-	43.5	39.3	32.5	77.02	23165	X	D-3	-
	1028	剥片	-	-	V	外	外	外	SH	-	31.0	30.6	10.5	6.34	15542	X	G-2	-



第225図 第V文化層第1ブロック出土石器実測図



第226図 第V文化層第1ブロック遺物出土状況図

残される。

微細な鉈痕のある刃片の1020は均整のとれた縦長刃片のを側面に、1021は刃面に、1025はも側面に微細な鉈痕が観察できる。刃片1022の刃端部は折断した刃先がある。

1027のハンマーストーンは、各側面部に使用痕が明瞭に残る。

1020～1025の右から左へは、比較的安定したト型の縦長刃片があり剥離されたことが推測できる。

B系

B系とした遺物は、F.G-10点から17点にのぼりA系に分布している。

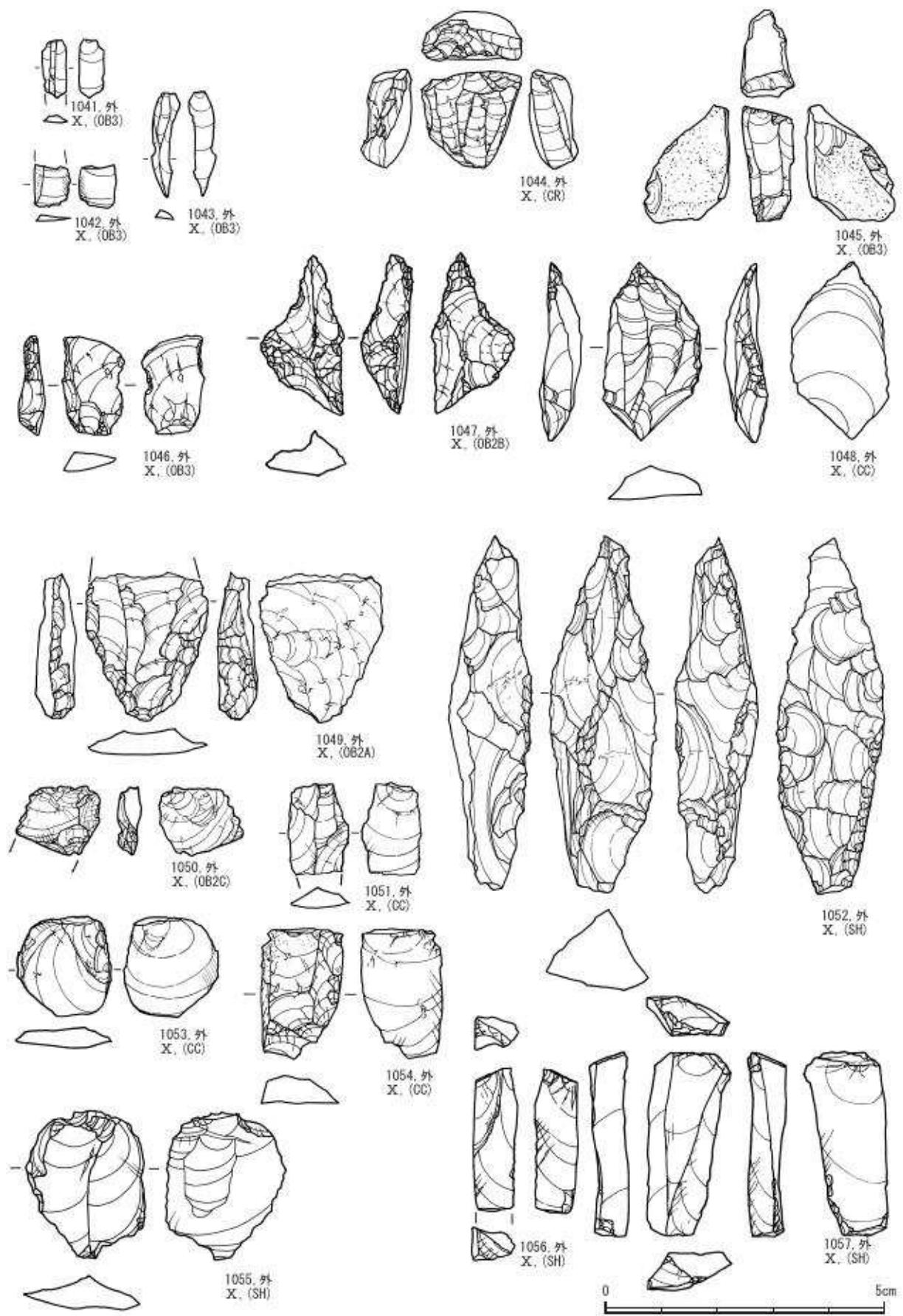
第1ブロック(第226図、第225図)

G.H-14点に追加の集りが認められ、第1ブロックと認定した。このブロックでは、Ⅱ-A類、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類若のものが使用されている。

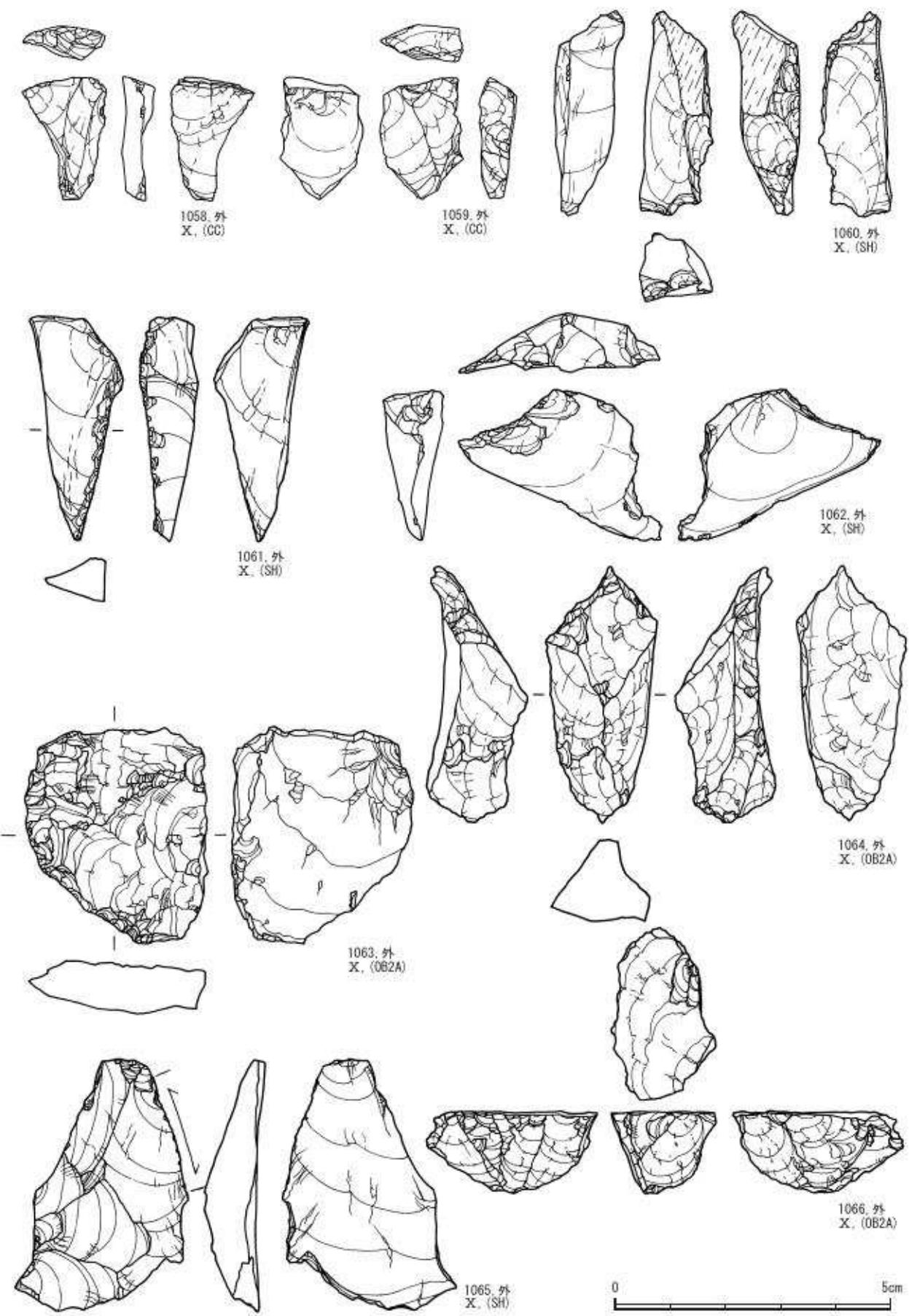
器種構成は、石器1点(1029)、刃物4点(1030～1033)、ナイフ形石器2点(1035, 1036)、ハンマーストーン

第66表 第V文化層第1ブロック出土石器観察表

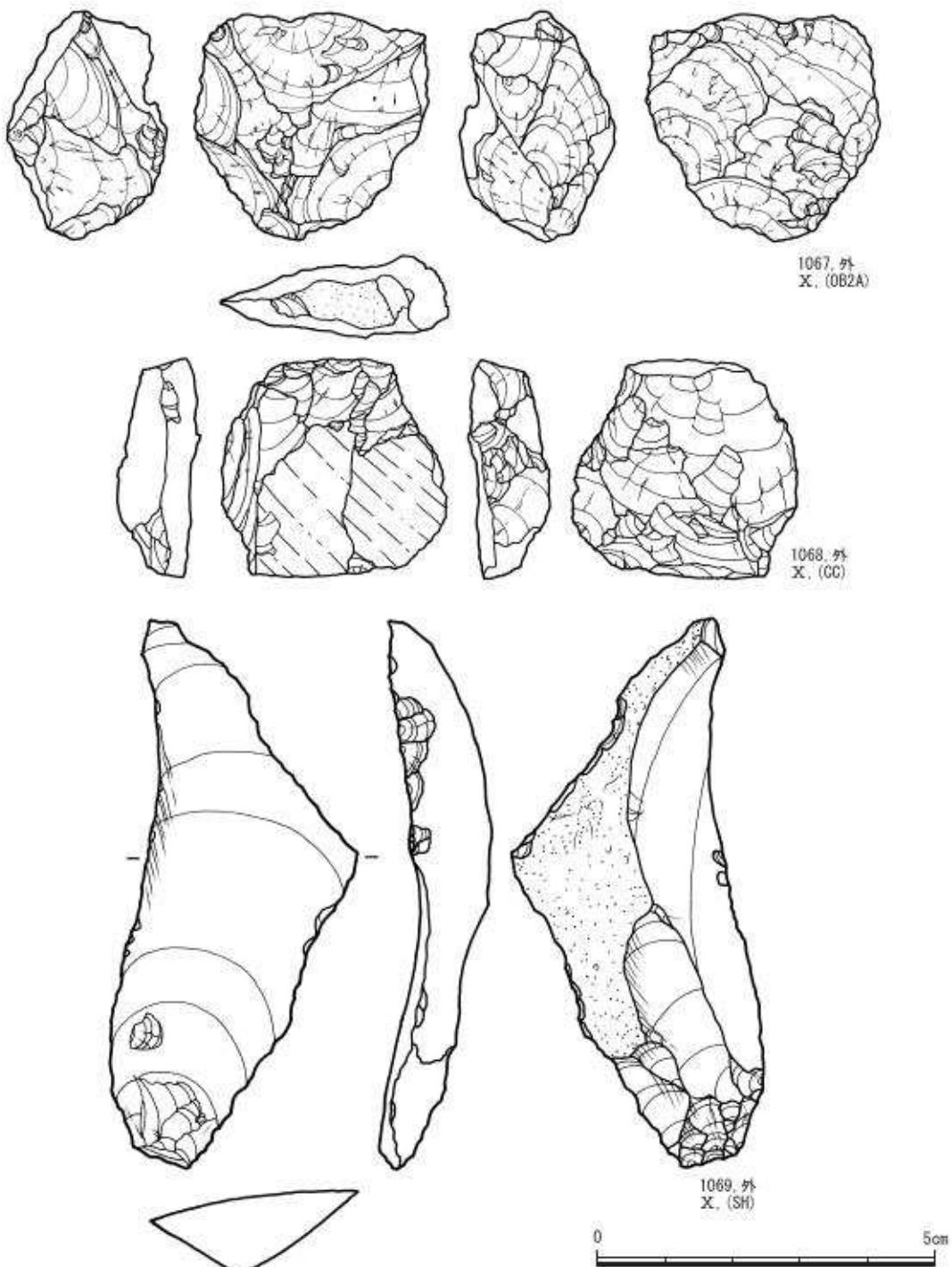
挿図 No.	図 No.	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	117	117	117	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No.	層位	別名	接合 No.
225	1029	石器	石鎚	-	V	外	外	B1	082	A	12.3	10.9	4.4	0.35	17731	X	H-14	-
	1030	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	081	-	(6.6)	(5.1)	(2.1)	(0.06)	15890	X	G-14	-
	1031	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	083	-	(11.2)	(5.1)	(2.7)	(0.10)	15889	X	G-14	-
	1032	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	081	-	(11.5)	(8.7)	(2.0)	(0.18)	17717	X	G-14	-
	1033	剥片	細石刃	-	V	外	外	B1	081	-	(14.4)	8.2	(2.6)	(0.26)	15888	X	G-14	-
	1034	剥片	折断剥片	-	V	外	外	B1	082	A	(9.7)	(10.6)	(3.5)	(0.22)	17725	X	G-14	-
	1035	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	B1	CC	-	19.7	9.6	4.9	0.78	9642	X	G-14	-
	1036	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	B1	SH	-	(31.2)	(12.0)	(8.3)	(2.80)	9653	X	G-14	-
	1037	剥片	折断剥片	-	V	外	外	B1	086	-	22.9	26.2	7.2	2.15	17733	X	H-14	-
	1038	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	SH	-	(84.5)	(42.3)	(23.8)	(98.66)	9649	X	G-14	-
	1039	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	PA	-	65.0	39.3	17.3	58.87	9648	X	G-14	-
	1040	石器	ハンマー	-	V	外	外	B1	PA	-	75.5	29.4	19.1	49.20	15945	X	G-14	-



第227図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(1)



第228図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(2)



第229図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(3)

ン3点(1038~1040)と刃片等である。

1029の3点は縄文時代中期の特徴を備えており、原石等の剥離は厳しい。

4点の縄文3点は分離した頭部片で、後円石片は2点でI領3点、II領1点である。

1035のナイフ形器は薄手で刃部の厚さなる刃片を系帶とし、二側面に刃部の厚さを示している。また、厚手基部には刃部の厚さもみられ、装飾を意識したものであろう。1036は横長刃片を系帶とした、ふくらみの

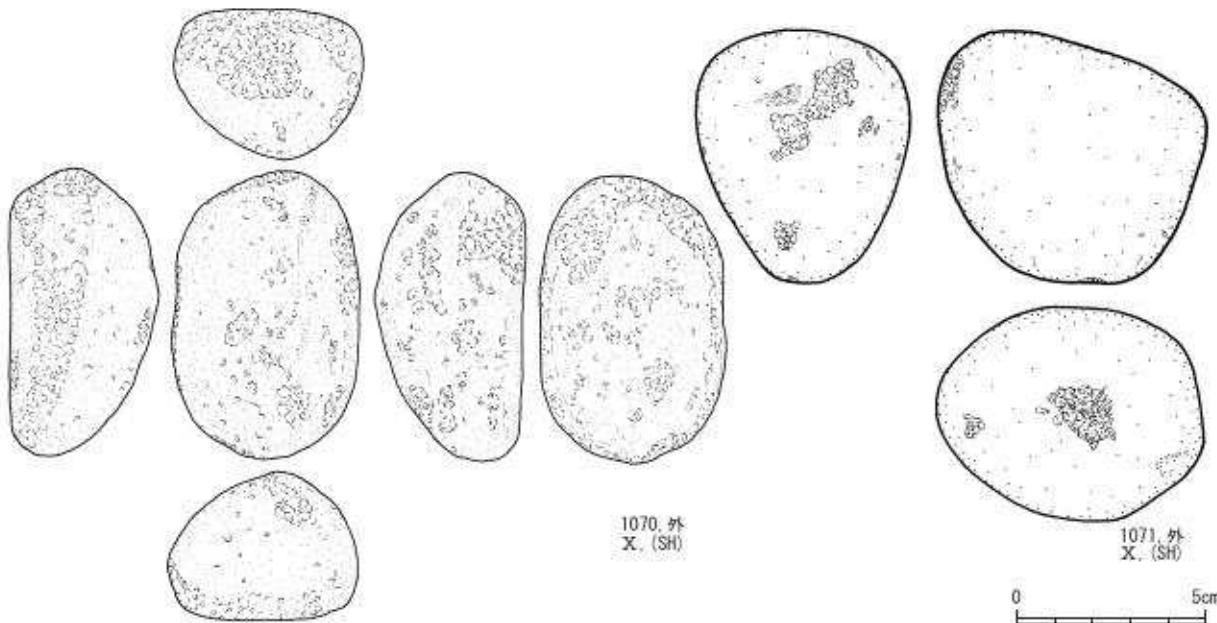
刀である。

下墻した1040のハンマーストーンは側面に、1039は刃部と側面に剥離痕が残る。1038には特徴的な剥離痕が多数残され、ストーンリチタッチャーの可塑性が窺い。

1037は折断刃片の可塑性が窺い。

B地区ブロック3(第227~230)

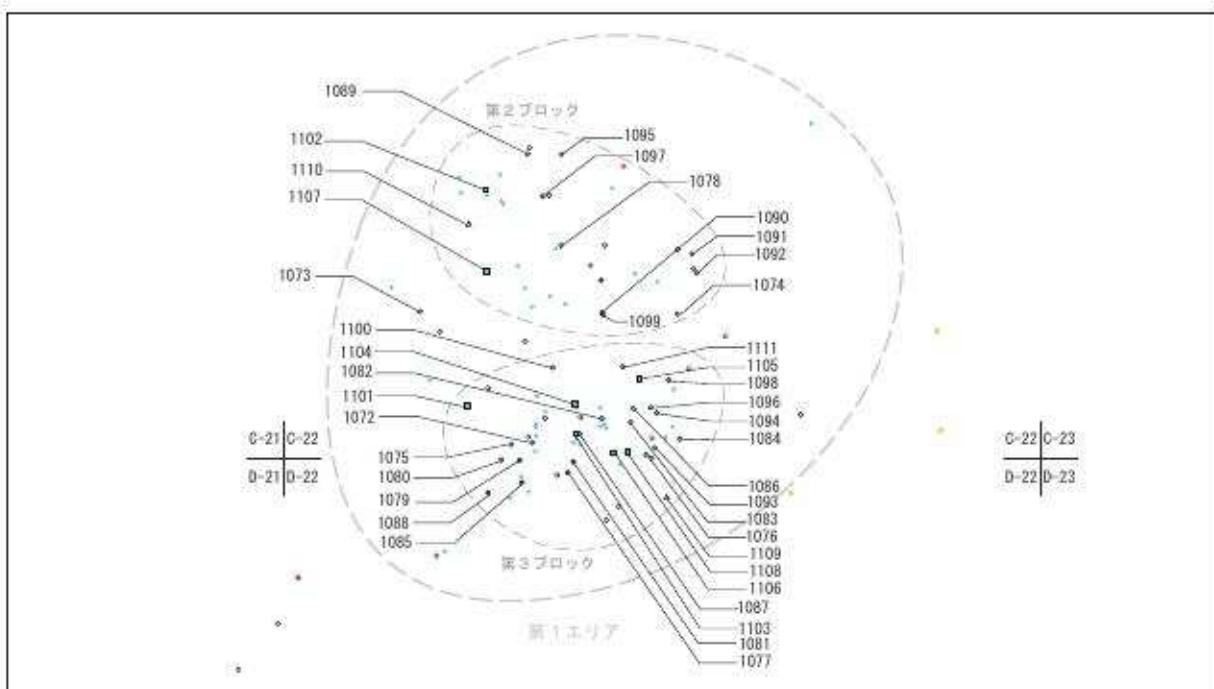
縄文3点(1041, 1042, 1043), 縄文残2点(1044, 0889), ナイフ形器3点(1046, 1048, 1049), 三段式頭



第230図 第V文化層B地区ブロック外出土石器実測図(4)

第67表 第V文化層B地区ブロック外出土石器観察表

擇固 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化 層	ユニット コード	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	列付 No	接合 No
227	1041	剥片	細石刃	-	V	外	外	OB3	-	(10.3)	(4.5)	(1.4)	(0.06)	16788	X	F-10	-
	1042	剥片	細石刃	-	V	外	外	OB3	-	(7.6)	(6.6)	(1.3)	(0.05)	8753	X	H-12	-
	1043	剥片	細石刃	-	V	外	外	OB3	-	18.8	5.2	2.5	0.09	19947	X	F-10	-
	1044	石核	細石核	-	V	外	外	GR	-	17.5	18.0	9.0	3.64	9050	X	G-14	-
	1045	石核	細石核	-	V	外	外	OB3	-	20.8	9.5	15.5	3.47	9697	X	G-15	-
	1046	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	OB3	-	17.8	11.4	5.0	0.69	221	X	F-12	-
	1047	石器	不明	-	V	外	外	OB2	B	28.6	15.1	9.7	1.85	17858	X	G-11	-
	1048	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	CC	-	31.9	17.8	7.8	3.30	8746	X	G-12	-
	1049	石器	ナイフ形石器	-	V	外	外	OB2	A	(26.6)	(21.9)	(7.5)	(3.75)	16408	X	F-17	-
	1050	剥片	折断剥片	-	V	外	外	OB2	C	(12.5)	(15.1)	(4.5)	(0.57)	16724	X	F-10	-
	1051	剥片	折断剥片	-	V	外	外	CC	-	(16.4)	(11.0)	(4.0)	(0.68)	9507	X	F-12	-
	1052	石器	三棱尖頭器	-	V	外	外	SH	-	63.9	19.3	15.0	14.11	22227	X	G-11	-
	1053	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	CC	-	17.6	16.9	5.5	1.17	17791	X	F-11	-
	1054	剥片	-	-	V	外	外	CC	-	23.4	14.8	6.2	2.15	9510	X	F-12	-
	1055	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	26.5	21.5	6.7	2.99	218	X	F-12	-
	1056	剥片	-	-	V	外	外	SH	-	(25.7)	(8.0)	(6.0)	(1.19)	9567	X	G-12	-
	1057	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	32.8	15.2	7.1	3.23	14737	X	F-17	-
228	1058	剥片	-	-	V	外	外	CC	-	22.1	15.3	6.0	1.17	224	X	F-12	-
	1059	剥片	-	-	V	外	外	CC	-	22.1	15.3	7.0	2.08	222	X	F-12	-
	1060	石器	二次加工痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	36.9	13.5	12.6	5.45	8758	X	G-12	-
	1061	石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	40.7	17.2	10.9	4.82	8737	X	F-12	-
	1062	剥片	調整剥片	-	V	外	外	SH	-	27.5	36.9	11.0	6.20	217	X	F-12	-
	1063	石器	スクレイパー	-	V	外	外	OB2	A	39.2	33.2	10.2	13.76	16765	X	F-11	-
229	1064	石器	二次加工痕のある剥片	錐状石器	V	外	外	OB2	A	46.6	20.4	18.5	10.31	19972	X	G-11	-
	1065	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	45.4	31.5	11.0	8.81	16761	X	F-11	-
	1066	石核	-	-	V	外	外	OB2	A	15.2	19.3	31.3	7.00	16722	X	F-11	-
230	1067	石核	-	-	V	外	外	OB2	A	33.7	34.8	24.0	20.74	8743	X	F-12	-
	1068	剥片	-	-	V	外	外	CC	-	32.5	33.5	12.3	13.65	16410	X	F-17	-
	1069	剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	外	外	SH	-	81.3	36.9	17.3	22.25	8727	X	F-13	-
230	1070	石器	ハンマー	-	V	外	外	SH	-	76.0	49.8	39.1	177.18	16400	X	F-17	-
	1071	石器	ハンマー	-	V	外	外	SH	-	67.0	71.5	56.7	347.00	14892	X	E-16	-



第231図 第V文化層C地区第1エリア遺物出土状況図

器1点(1052)、二次加工のある碎片2点(1060, 1064)、鉄鋸刃跡痕のある碎片(1053, 1055, 1057, 1061, 1065, 1069)、ハンマーストーン2点(1070, 1071)と石核2点(1066, 1067)の片断片がみられる。3点の鉄鋸刃は、黒鐵Ⅰ類を用い、金碧手法が認められる。

鉄鋸刃1044は透甲皮の高い形状を有し、裏面の整形刃跡からは観察が難しい。1045の鉄鋸刃は刷毛的な色調を全部して使用し、刃部には裏皮がそのまま残る。作業色は赤茶色の糸綴一珠である。

ナイフ形器の1046と1048は斜面切口、1049は下墻しているが三次加工とみられる。

三棱尖頭器1052は身の高い斜面三角形の碎片を素材とし、整形加工と済整加工が確認できる。また、裏面には刃部に鉄鋸刃跡がみられ、赤茶色跡は刃部に一部残る。済整加工は、刃部と身上に施えられる。

二次加工のある碎片の1060は、碎片の刃部に刃部に刃部に刃部の鉄鋸刃を施す。1064は碎片の先端部に、刃部から刃部の小鉄鋸刃を施す。鉄鋸刃器的用途を想せしている。

1066の石核は主鉄鋸刃を有し、やや傾むの縦長碎片を、1067は丸状に刃部が移動しているもので、傾むの刃部に刃部を削り出したと思われる。

1063のスクレイバーは、碎片の刃部から刃部に刃部の刃部がみられる。

鉄鋸刃跡痕のある碎片の1055は主刃部と刃部に、1057と1065は主刃部に、1069は主刃部に鉄鋸刃を観察できる。

2点のハンマーストーンは刃部を素材とし、刃部や刃部を作用部としている。

C地区第1エリア(第231図、第232図)

C,D-22付近に分布している。

鉄鋸刃28点(1072~1099)、済整碎片1点(1100)、鉄鋸刃8点(1101~1108)と鉄鋸刃跡痕のある碎片3点(1109~1111)を確認できる。

鉄鋸刃の使用率は、其鐵Ⅲ類が22点、其鐵Ⅳ類が6点である。鉄鋸刃の金碧手法の存在が認められるが、頭部が1点欠けている。總じて、規格が小さい感がある。

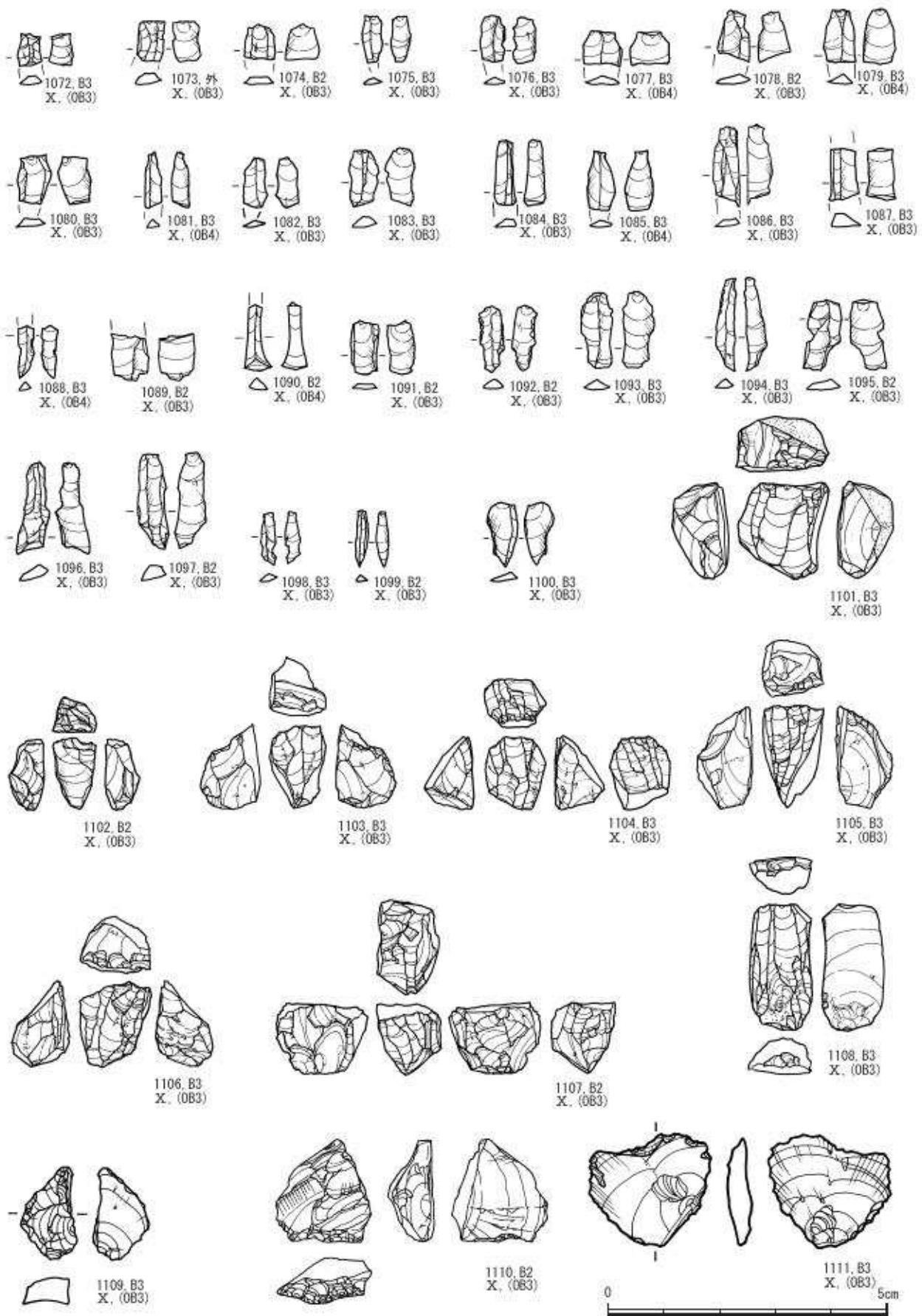
鉄鋸刃の1101には刃部の一部と裏面に裏皮がみられるが、刃部は全て碎片赤茶色と判断できる。1105は赤茶色跡が多く残されるが、刃部の6点では刃部の外側の周辺部からの刃部の刃部が観察される。なお、鉄鋸刃の刃部は全て、其鐵Ⅲ類である。

いずれも刃部に刃部を残しており、刃部に刃部を用いていることがわかる。1108では、刃部がそのまま刃部を形成し、1103, 1106では底面から刃部の刃部が観察でき、整形刃部の刃部もある。1104では刃部の刃部に刃部が施されている。

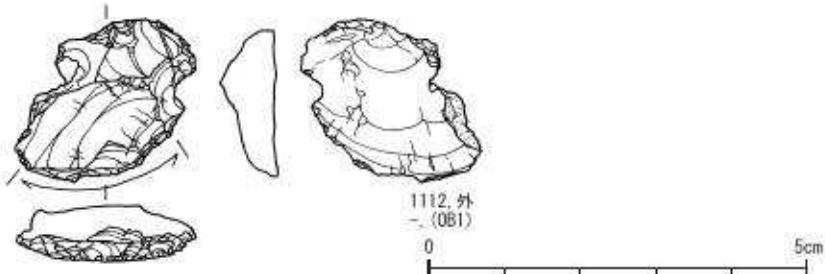
1108は石核で取り扱ったが刃部から刃部による刃部を施すであろう。

二次加工のある碎片の1109は刃部に刃部の刃部がみられる。

追跡の鉄鋸刃から、鉄鋸刃・鉄鋸刃が安定してエリアを形成していると判断できる。したがって、この第1エリアは、鉄鋸刃器の典型的なエリアと言える。



第232図 第V文化層C地区第1エリア出土石器実測図



第233図 第V文化層出土位置不明石器実測図

第68表 第V文化層C地区第1エリア出土石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	エンド	エッジ	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
1072		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(6.0)	(4.5)	(1.2)	(0.02)	8510	X	C-22	-
1073		剥片	細石刃	-	V	-	A1	外	OB3	-	(7.3)	(5.2)	(2.2)	(0.06)	8457	X	C-22	-
1074		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(6.5)	(5.7)	(1.0)	(0.05)	8482	X	C-22	-
1075		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.5)	(3.9)	(1.0)	(0.02)	8511	X	C-22	-
1076		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.4)	(4.6)	(0.9)	(0.03)	8495	X	C-22	-
1077		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(6.7)	(7.1)	(1.8)	(0.06)	8520	X	D-22	-
1078		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(9.3)	(5.8)	(1.0)	(0.03)	8474	X	C-22	-
1079		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(9.7)	(5.9)	(1.4)	(0.07)	8525	X	D-22	-
1080		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.9)	(6.2)	(1.4)	(0.05)	8526	X	D-22	-
1081		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(10.1)	(3.2)	(0.9)	(0.02)	8519	X	D-22	-
1082		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(8.9)	(4.5)	(0.7)	(0.03)	8488	X	C-22	-
1083		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	10.2	(5.5)	1.3	0.05	8491	X	C-22	-
1084		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(11.6)	(4.1)	(1.3)	(0.06)	8540	X	C-22	-
1085		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(10.7)	(5.2)	(0.9)	(0.04)	8523	X	D-22	-
1086		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(14.3)	(4.9)	(1.2)	(0.08)	8490	X	C-22	-
1087		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	(9.4)	(5.6)	(1.7)	(0.08)	8502	X	C-22	-
1088		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB4	-	(9.4)	(3.1)	(1.0)	(0.02)	8546	X	D-22	-
1089		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	(8.5)	6.9	(1.1)	(0.05)	8446	X	C-22	-
1090		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB4	-	(11.8)	5.0	(2.0)	(0.04)	8480	X	C-22	-
1091		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	9.8	5.2	1.0	0.05	8439	X	C-22	-
1092		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.0	4.6	1.1	0.06	8440	X	C-22	-
1093		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	13.4	5.7	1.7	0.07	8493	X	C-22	-
1094		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.6	3.8	1.7	0.06	8486	X	C-22	-
1095		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.7	7.1	1.7	0.08	8445	X	C-22	-
1096		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.5	6.1	3.2	0.11	8487	X	C-22	-
1097		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	17.1	5.8	3.5	0.22	8448	X	C-22	-
1098		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B3	OB3	-	9.4	3.0	1.2	0.01	8543	X	C-22	-
1099		剥片	細石刃	-	V	-	A1	B2	OB3	-	10.1	2.5	0.8	0.01	8481	X	C-22	-
1100		剥片	調整剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	11.5	5.6	1.1	0.05	8465	X	C-22	-
1101		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	17.4	16.3	10.4	3.72	8550	X	C-22	-
1102		石核	細石核	-	V	-	A1	B2	OB3	-	13.0	7.9	7.1	0.80	8453	X	C-22	-
1103		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	15.0	10.2	10.9	1.64	8503	X	C-22	-
1104		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	13.2	11.0	9.1	1.48	8501	X	C-22	-
1105		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	18.5	11.1	10.1	1.99	8488	X	C-22	-
1106		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	15.5	12.9	10.5	1.88	8517	X	C-22	-
1107		石核	細石核	-	V	-	A1	B2	OB3	-	12.9	11.7	17.0	3.23	8471	X	C-22	-
1108		石核	細石核	-	V	-	A1	B3	OB3	-	22.6	11.3	7.8	2.23	8496	X	C-22	-
1109		石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	16.7	10.3	7.3	0.82	8548	X	D-22	-
1110		石器	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B2	OB3	-	18.6	17.1	8.5	2.08	8456	X	C-22	-
1111		剥片	微細剥離痕のある剥片	-	V	-	A1	B3	OB3	-	20.3	22.0	3.9	1.32	8489	X	C-22	-

第69表 第V文化層出土位置不明石器観察表

種類 No	図 No	分類 L1	分類 L2	分類 L3	文化層	エンド	エッジ	ブロック	石材 L1	石材 L2	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物 No	層位	判別 No	接合 No
233	1112	石器	スクレイバー	-	V	外	外	外	OB1	-	21.7	23.8	7.3	2.78	一括	-	-	-

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 60
東九州自動車道建設（末吉 IC～国分 IC間）に伴う発掘調査報告書

城ヶ庄遺跡

発行日　平成15年3月31日
発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4461
鹿児島県霧島市内之郷1175番地1
封筒
○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○

